信頼できる知識源に基づく
日々の学習モジュール

著者：

イブラーヒーム・イブン・ムハンマド・イブン・フマイド
ワ・アブドゥッラフマーン・イブン・アブドゥッラー・アル＝シャリーフ

ダール・アトラス・アル＝ハドラー
出版・配布用

ダール・アトラス・アル＝ハドラアー出版・配給 — ヒジュラ暦 1446 年

イブラーヒーム・イブン・ムハンマド・イブン・フマイド

信頼できる知識源からの毎日のモジュール／イブラーヒーム・イブン・ムハンマド・イブン・フマイド；‘アブドゥル＝ラフマーン・イブン・‘アブドゥッラー・アッ＝シャリーフ著。— リヤド、ヒジュラ暦 1446 年。

623 頁；24cm。—（信頼できる知識源からの毎日のモジュール）

納本番号：1446/5983

ISBN：978-603-8469-15-6

注記：

- • 下部の部分は、目録カードとともに印刷してはならない。
- • キング・ファハド国立図書館は、内表紙の裏に、同一寸法でこの上部の部分を再現することを求めている。
- • ISBN は、裏表紙の左下にも再度表示されなければならない。
- • 印刷完了後直ちに、本作品の冊子二部を、コンパクトディスク（CD）に保存された電子版とともに、キング・ファハド国立図書館へ納本しなければならない。

序文

アッラーの御名において。慈悲あまねく、慈悲深き御方

最も尊き預言者であり、使徒たちの長である我らの預言者ムハンマドに祝福と平安あれ。またその御家族とすべての教友たちにも祝福と平安あれ。

続けて言えば、イスラームの知識の重要性それを学ぶこと、教えること、求めること、そして広めることは隠されていない。啓示された諸テキストは、その徳と影響、またあらゆる手段と方法を通じて人々に伝播し周知させることの功徳を、繰り返し強調してきた。なぜなら、それは魂を清め、信仰を正し、礼拝行為を是正し、健全な価値観を心に植え付け、行動における正しい礼節を育むという、深遠な影響をもたらすからである。

知識を伝える最も効果的な手段の一つは、モスクや家庭、その他の集会において、有益な書物を公の場で朗読することである。

アッラーの御恩寵によって、私たちはこの目的にかなう一冊の書を編纂する導きに与えられた。内容は簡潔であり、主題は多岐にわたり、曜日ごとに配列され、五十二週にわたって構成されている。アッラーの恩恵と成功によって、本書は次の題名のもとに世に出た。

“毎日の学習モジュール”

本書は、独りで学ぶムスリムのために、モスクにおけるイマームのために、家庭での家族のために、そして集まりにおける仲間たちのために、容易に利用できる知識の教材として編まれたものである。

本書における各課の構成は次のとおりである：

- **日曜日：タフスィール（Tafsīr）モジュール**
- **月曜日：ハディース（Ḥadīth）モジュール**
- **火曜日：アキーダ（アキーダ）モジュール**
- **水曜日：フィクフ（Fiqh）モジュール**
- **木曜日：スィーラ（Sīrah）モジュール**
- **土曜日：サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール**

金曜日については、科目を割り当てず、金曜礼拝のフトバ（khuṭbah）のみとした。

本書の利益を最大限にし、その学びを強化するため、毎週の終わりには、すべてのモジュールを対象とした質問と解答が設けられている。これにより、読者は自らの知識を復習し、家族や仲間と競い合うことができる。 実際に、学者たちは、学問における健全な競争と相互討論が、知識を習得し強化する最も効果的な方法の一つであると述べている。

さらに、本書をより利用しやすくし、その内容の伝達手段を多様化するため、すべてのレッスンは音声として録音された。これらは合計 312 本の短い音声コンテンツとなり、YouTube、Telegram、SoundCloud などのプラットフォームに公開された 。また、各週の冒頭には、これらの音声レッスンへアクセスするための電子バーコードが付されている。

至高にして最も寛大なるアッラーに願い求める。本書の働きが、ただその高貴なる御顔のために誠実なものとされ、これを通じて益が与えられることを。まことに、かれはすべてを聞き、祈りに応答される御方である。

お問い合わせ・ご提案はこちらまで：
WhatsApp: 5041692

1週目

音声版にアクセスするには：
al-Mawārid al-ʿIlmiyyah の（Daily Modules）チャンネルより

YouTube

Telegram

@MAWAEDYAWMIAH

SoundCloud

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝ファーティハ章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ (1)

الْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ (2) الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ (3) مَالِكِ يَوْمِ الدِّينِ (4) إِيَّاكَ نَعْبُدُ وَإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ (5) اهْدِنَا الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيمَ (6) صِرَاطَ الَّذِينَ أَنْعَمْتَ عَلَيْهِمْ غَيْرِ الْمَغْضُوبِ عَلَيْهِمْ وَلَا الضَّالِّينَ (7)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。万有の主、アッラーにこそ、すべての称賛が属する。慈悲あまねく、慈悲深き御方。審判の日の主宰者。われらは、あなたのみを礼拝し、あなたのみに助けを求める。われらを正しい道へ導きたまえ。あなたが恩寵を授けられた者たちの道へ。怒りを被った者たちの道でもなく、迷い去った者たちの道でもなく。

❖ この章の徳：

アブー・サイード・アル＝ムアッラー（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。アッラーの使徒（アッラーの御満悦あれ）は言われた：あなたがたがモスクを去る前に、私はクルアーンで最も偉大なスーラを必ず教えます。そして彼は私の手を取った。去ろうとしたとき、私は彼に言った：あなたがたにクルアーンで最も偉大なスーラを必ず教えますとはおっしゃいませんでしたか？彼は答えた：アル＝ハムドゥ・リッラー・ラッビ＝ル＝アーラミーン—これは七度繰り返される章であり、私に与えられた偉大なクルアーンです。

❖ スーラのテーマ：

崇高なるアッラーへの誠実な奉仕の確立。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
بسم الله	Bismi-llāh	私はアッラーの御名によって助けを求めつつ、 朗読を始めます。
الرحمن	al-Raḥmān	その慈悲がすべての創造物を包む唯一の方。
الرحيم	al-Raḥīm	信者たちに慈悲を示す唯一の方。
رَبِّ الْعَالَمِينَ	Rabb al-ʿālamīn	その祝福によってすべての創造物を養い、支える唯一の方。
إِيَّاكَ نَسْتَعِين	Iyyāka nastaʿīn	私たちはあなたのみに助けを求め、益をもたらし害を退けてくださるお方として、あなたに依り頼みます。
الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيم	al-Ṣirāṭ al-Mustaqīm	アッラーとその天国へ導く、明確で正しい道。

アラビア語の用語	音写	意味
غَيْرِ الْمَغْضُوبِ عَلَيْهِمْ	ghayr al-maghḍūbi ʿalayhim	真理を知りながらもそれを捨てた者たち、ユダヤ人やそのような者たちのような人々。
الضَّالِّينَ	al-ḍāllīn	無知と誤った導きによって真理から逸れた者たち、例えばキリスト教徒やそのような者たち。

[1] アル＝ブハーリー（4474）によって伝えられた。

❖ 全体的な意味：

アル＝ファーティハ（Al-Fātiḥah）は、七節から成るマッカ啓示のスーラである。本章は、至高なるアッラーへの称賛と讃美をもって始まり、続いてその荘厳なる属性のいくつかが言及される。すなわち、アッラーは万物の主であり、あらゆるものを包み込む絶対的な慈悲を有する慈悲あまねき御方であり、御望みの者に慈悲を与える慈悲深き御方であり、また、人々がその善行と悪行について裁かれる日の報いの日の主宰者である。

この章はさらに、信仰者によるタウヒード（tawḥīd：唯一信仰）の宣言を明確にする。すなわち、彼らはアッラーのみを礼拝し、助けを求めるのもただアッラーのみに限り、御導きを願い、迷妄の道から守られることを求めるのである。

❖ このスーラから得られる益:

1. スーラをバスマラ（basmalah）によって始めることは、すべての言動をアッラーの御名によって始め、御助力と成功を求めるべきであるという、ムスリムへの想起である。
2. 高貴なるクルアーンが教える嘆願（ドゥアー’）の作法の一つは、まずアッラーを讃美し称賛し、その後に自らの願いを述べることである。
3. アッラーに感謝することは義務である：
   – 舌によって、すなわち讃美をもって感謝すること、
   – 身体によって、すなわち服従と実践をもって感謝すること、
   – 心によって、すなわちその御恩寵を認めること。
4. ムスリムは、礼拝と助力の要請をただアッラーのみに捧げなければならない。なぜなら、その御方こそがそれに値する唯一の主であり、他にそれをに値する資格を有する者はいないからである。
5. ムスリムにとって、真理への導き、それに基づく助け、諸々の試練からの守護、そしてそれらの原因からの安全を主に願い求めることは、不可欠である。

❖ 月曜日：ハディースモジュール — イスラームの柱の徳

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。ある遊牧民が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに来て言った。私がそれを行えば楽園に入ることのできる行為を教えてください。預言者は言われた。アッラーを礼拝し、何ものも同位に配してはならない。礼拝（ṣalāh）を行い、義務のザカー（zakāh）を支払い、ラマダーン（Ramaḍān）に断食を行いなさい。その男は言った。我が魂が御手の中にある御方にかけて、私はこれに何も付け加えません。その男が去った後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。楽園の民の中の一人を見ることを望む者は、この者を見るがよい。[1]

❖ 解説：

このハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、アッラーの義務を果たし、禁じられた事柄を避ける者は、イスラームとイーマーン（īmān）の特質を備えた者と見なされることを教えている。その者は成功する正しき者の一人となり、楽園に値し、火獄からの守護を得るに至る。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が最初に言及された最も重要な事柄は、タウヒード（tawḥīd：礼拝におけるアッラーの唯一性の確立）である。なぜなら、それは行為が受け入れられるための第一条件であり、すべての礼拝行為の正当性の基礎だからである。これによって人はイスラームに入信し、これを欠けば不信仰の状態に留まる。その後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、イスラームの残りの柱(主要な礼拝行為)を挙げられた。

❖ このハディースから得られる益：

1. 知識ある人々のもとに立ち返り、彼らに質問することの徳。
2. タウヒード(礼拝においてアッラーを唯一とすること)が、アッラーへの 呼びかけ（ダアワ）において最初に始めるべき事柄であること。
3. イスラームの五つの柱の重要性。これらは、ムスリムが主に近づくための基礎的礼拝行為であり、それなくして宗教は完成しない。
4. イスラームの五つの柱を果たす者は、楽園を得るに値する。

[1] アル＝ブハーリー（1397）およびムスリム（6）によって伝承された。

❖ 火曜日：アキーダ モジュール — 人間の信仰における逸脱の発生

アッラーは、人間の魂をイスラームという本来の自然な性質（フィトラ fiṭrah）の上に創造された。すなわち、人はタウヒード（tawḥīd）によってアッラーを認め、アッラーを愛し、アッラーを礼拝し、何ものも同位に配さない状態である。至高なるアッラーは仰せられた。それゆえ、あなたの顔を、真理へと傾いた宗教に向けよ。それは、アッラーが人々をその上に創造されたアッラーのフィトラである。アッラーの創造に変更はない。[1]

また、彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。（生まれてくるすべての新生児はフィトラの上に生まれる。その後、両親が彼をユダヤ教徒、あるいはキリスト教徒、あるいはゾロアスター教徒にするのである。）[2]アーダムの子孫の起源はタウヒードであり、彼らの宗教は、アーダム（アッラーの平安あれ）の時代以来、またその後の多くの世代にわたる彼の子孫に至るまで、イスラームであった。シルク（shirk：多神崇拝）は、後になって彼らの間に入り込んだ、新しく異質な出来事であった。至高なるアッラーは仰せられた。人類は、ただ一つの共同体に過ぎなかったが、その後、互いに異なるようになった。[3]信条における最初の相違と逸脱は、ヌーフ（Nūḥ）の民の間に起こった。イブン・‘アッバース（アッラーの御満悦あれ）は言った。（アーダムとヌーフの間には十の世代があり、そのすべてがイスラームの上にあった。）[4]それゆえ、ヌーフ（アッラーの平安あれ）は最初の使徒となった。至高なるアッラーは仰せられた。まことに、われはヌーフに啓示したように、あなたとあなた以前の預言者たちに啓示した。[5]また、仰せられた。人類は一つの共同体であったが、アッラーは吉報を伝え、警告を与える者として、預言者たちを遣わされた。[6]

このように、預言者たちが遣わされた理由は、正しい宗教と正直な本性からの逸脱が生じたためである。そして、ヌーフの民における逸脱の原因は、正しき者たちを過度に崇拝したことであった。彼らの中の正しき人々が亡くなると、悪魔はその民に、彼らがかつて座っていた場所に記念物を建て、それらを彼らの名で呼ぶようにそそのかした。そこで彼らはそうしたが、その当初、それらは礼拝の対象ではなかった。やがて、その人々が亡くなり、知識が忘れ去られると、それらは礼拝されるようになったのである。[7]

---

[1] ［アル＝ルーム章：30］
[2] アル＝ブハーリー（1358）、ムスリム（2658）によって伝承された。
[3] ［ユーヌス章：19］
[4] アル＝ハーキム（3654）によって伝承された。
[5] ［アン＝ニサー章：163］
[6] ［アル＝バカラ章：213］
[7] アル＝ブハーリー（4920）によって伝承された。

同様に、アラブの民の間にも逸脱が生じた。彼らは当初、イブラーヒーム（Ibrāhīm）（アッラーの平安あれ）の宗教の上にあったが、‘アムル・イブン・ルハイイ・アル＝フザー‘イーが現れ、イブラーヒームの宗教を改変し、偶像をアラブの地にもたらした。その結果、それらはアッラーの他に礼拝され、シルクが広まった。やがて、アッラーは使徒ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）を遣わされ、彼は人々をタウヒードへと招き、イブラーヒームの宗教へ立ち返るよう呼びかけた。こうして、タウヒードの信条は、その純粋で清澄な形において復活し、このウンマの初期の優れた世代、そして彼らの足跡に従った者たちは、その上に留まり続けたのである。

その後、次第に無知がムスリム大衆の間に忍び寄り、後代の世代においてシルクが広まったそれは、かつてヌーフの民の間で最初に起こったのと同じ形であった。すなわち、正しき者や聖者を過度に崇敬し、彼らへの愛を主張し、その墓の上にドームを建て、アッラーの他に礼拝される偶像として彼らを据えたのである。これは、祈願（ドゥアー’）、援助の要請、犠牲の屠殺、誓願といった行為を通して行われた。
彼らはこのシルクを（正しき者を通じての近接（タワッスル））と名づけたが、至高なるアッラーが仰せられた次の御言葉にあるように、これは先の多神崇拝者たちが唱えていた主張と同一であることを忘れてしまったのである。
私たちが彼らを礼拝するのは、彼らがアッラーにおいて私たちをより近い地位へと近づけてくれるために他ならない。[1]

[1] ［アッ＝ズマル章：3］

水曜日：Fiqh モジュール — Ṭahārah（浄化）

イスラームの宗教は、偉大なる宗教である。それは完全な立法体系を備え、最良の作法と最も高貴な品性を包含し、人類にとって有益であり、彼らを正すあらゆる事柄を包摂している。人々が宗教生活や現世生活において必要とする事柄で、明確に示されていないものは何一つない。その中に、浄化（Ṭahārah）に関する諸規定が含まれている。
浄化は礼拝（ṣalāh）の鍵であり、その条件の中でも最も強調されるものである。このため、礼拝の議論に先立って論じられるのである。

これは、礼拝の偉大さを示すしるしに他ならない。なぜなら、礼拝に入るためには二つの浄化が不可欠だからである。すなわち、タウヒード（tawḥīd）と誠実なアッラーへの礼拝による精神的浄化、そして大小の不浄からの身体的浄化である。こうして、人は最良の状態で、万物の主に対する畏敬と尊崇をもって、主との親密な対話に入るのである。
このようにして、身体は清く、心は清く、衣服は清く、場所も清くなる。この観点から、浄化は信仰の半分であるとされる。使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
（浄化は信仰の半分であり、アル＝ハムドゥ・リッラー（al-ḥamdu lillāh）は天秤を満たす。）[1]

❖ Ṭahārah の定義：

Ṭahārah（浄化）とは、儀礼的不浄（ḥadath）を除去すること、ならびに物理的不浄（najāsa）を除去することである。儀礼的不浄の除去とは、それが小不浄である場合はウドゥー’（wuḍū’：小浄）によって、また大不浄である場合はグスル（ghusl：全身浄）によって除去することを指す。水が使用できない場合には、いずれの場合においてもタヤンムム（tayammum）が行われる。物理的不浄の除去とは、身体、衣服、ならびに礼拝の場所から、それを清めることである。

❖ 浄化は何によって達成されるのか：

ウドゥー’およびグスルにおいて定められた方法は、水を用いることである。酢、ガソリン、果汁などの、水以外のいかなる液体によっても浄化は有効とはならない。これは、至高なる御方の御言葉による。もし水を見いだせないならば、清浄な土でタヤンムムを行え。[2]もし水以外の液体によっても浄化が有効であったならば、土に移行するのではなく、それを用いるよう命じられていたはずである。しかし、命令は土を用いることであった。

[1] ムスリム（223）によって伝承された。
[2] ［アル＝マーイダ章：6］

木曜日：Sīrah モジュール — 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御名と御誕生

❖ 御名と血統：

彼の御名と血統は次のとおりである。ムハンマド、イブン・‘アブドゥッラー、イブン・‘アブドゥル＝ムッタリブ、イブン・ハーシム、イブン・‘アブド・マナーフ、イブン・クサイイ、イブン・キラーブ、イブン・ムッラ、イブン・カ‘ブ、イブン・ルアッイ、イブン・ガーリブ、イブン・フィフル、イブン・マーリク、イブン・アン＝ナドル、イブン・キナーナ、イブン・フザイマ、イブン・ムドリカ、イブン・イリヤース、イブン・ムダル、イブン・ニザール、イブン・マ‘ド、イブン・‘アドナーンイスマーイール、イブン・イブラーヒーム（両者の上に平安がありますように）の子孫であり、また、我らの預言者の上に、最良の祝福と平安がありますように。 彼（アッラーの祝福と平安あれ）は、クライシュ族の中で最も高貴な家系であるバヌー・ハーシム家に属していた。それゆえ、彼は地上において最も高貴な血統を有し、部族と民において最も名誉ある者であり、家系において最も清らかで最も徳高い者である。彼は言われた。
（まことに、アッラーはイスマーイールの子孫の中からキナーナを選ばれ、キナーナの中からクライシュを選ばれ、クライシュの中からバヌー・ハーシムを選ばれ、そしてバヌー・ハーシムの中から私を選ばれたのである。）[1]

❖ 御母君：

彼の御母君は、アーミナ・ビント・ワフブ・イブン・‘アブド・マナーフである。彼の父‘アブドゥッラーは、二十四歳のときに彼女と結婚した。その後、交易のためにマッカからシャーム地方へ向かい、帰路においてマディーナで逝去した。

❖ 御誕生：

彼は、父‘アブドゥッラーの逝去から数か月後、象の年にあたる西暦 571 年、ラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日に、マッカにおいて誕生した。祖父である‘アブドゥル＝ムッタリブは、彼に（ムハンマド）という名を与えた。
ハディースにおいて、彼女が彼を出産した際、彼女から光が現れ、シャームの宮殿を照らし出したのを見たことが確証されている。[2]

[1] ムスリム（2276）によって伝承された。
[2] アフマド（16700）によって伝承された。

土曜日：Ṣaḥābah モジュール — アブー・バクル・アッ＝Ṣiddīq（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、‘アブドゥッラー・イブン・アビー・クハーファ・アッ＝タイミー・アル＝クライシーである。彼の血統は、我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の血統と、第六代祖である（ムッラ・イブン・カ‘ブ）において一致する。
彼は、象の年から二年六か月後に、マッカにおいて誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、色白で、体は細身、脚はほっそりとしており、目は奥深かった。人々の中でも最も禁欲的で、最も敬虔な者の一人であり、寛大かつ高貴で、自己の財産すべてをアッラーの道のために費やした。
アブー・バクル・アッ＝Ṣiddīq（アッラーの御満悦あれ）は、イスラームにおけるその生涯の初めを、至高なるアッラーへのダアワ（da‘wah）から始めた。彼は自らの民や親族をイスラームへと招き、その手によって多くの者がイスラームに入信した。その中には、ズバイル・イブン・アル＝‘アウワーム、‘ウスマーン・イブン・‘アッファーン、Ṭalḥah・イブン・‘ウバイドッラー、サ‘ド・イブン・アビー・ワッカース、そして‘アブドゥル＝ラフマーン・イブン・‘アウフが含まれる。
また彼は、弱者や困窮者を支援することでも知られていた。彼は、ビラール・イブン・ラバーḥ、‘アーミル・イブン・フハイラ、ウンム・‘ウバイス、ズィーラ、その他の者たちを解放した。
彼は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に、すべての戦いに参加し、多くの特別な徳と資質を備えていた。すなわち、彼は預言者の補佐役であり、最も近しい相談相手であり、ヒジュラにおける同行者であった。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、最期の病の際、彼を礼拝の導師として任命された。

彼は、名誉としていくつかの称号を与えられた。その中には次のものがある。

– **アッ＝Ṣiddīq**：これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に対する彼の深く揺るぎない信仰ゆえである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ウフド山において、アブー・バクル、ʿウマル・イブン・アル＝カッターブ、ʿウスマーン・イブン・ʿアッファーンと共におられた際、この称号を彼に与えられた。そのとき山が揺れ動き、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。（留まれ、ウフドよ。あなたの上には、一人の預言者、ひとりの Ṣiddīq、そして二人の殉教者がいるのだから。）[1]夜の旅（アル＝イスラー）の出来事が起こり、多くの人々がそれを否定したとき、ある者たちはアブー・バクルのもとへ行き、彼の反応を聞こうとした。彼は言った。
（もし彼がそう言ったのなら、それは真実である。私はそれ以上に重大な事柄についても彼を信じている。すなわち、天からの知らせについて彼を信じているのだ。）[2]

– また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を**アル＝ʿアティーク**とも呼び、こう言われた。
（あなたは、火獄から解放されたアッラーの者である。）[3]

– 彼は同伴者（アッ＝Ṣāḥib）とも呼ばれた。至高なるアッラーは仰せられた。
彼がその同伴者に、悲しむな。まことに、アッラーは我らと共におられると言ったとき。[4]

– また彼は、最も敬虔な者（アル＝アタカー）とも呼ばれた。至高なるアッラーは仰せられた。しかし、最も敬虔な者は、それから救われるであろう。[5]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の逝去後、彼（アッラーの御満悦あれ）は、バヌー・サーʿイダのサキーファにおいて忠誠の誓約（バイʿア）を受け、ムスリムたちのカリフとして二年三か月にわたり在任した。彼は、そのカリフ職を背教戦争（リッダ戦争）から開始し、アラビア半島の各地へ十一の部隊を派遣した。その後、シャームおよびイラクの地を征服するために軍勢を派遣した。 また、彼の治世において、クルアーンは一冊のムスハフ（muṣḥaf）として編纂された。

❖ 御逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、病を患った後、ヒジュラ暦 13 年、ジュマーダー・アル＝アーヒラ月 22 日の火曜の夜に逝去した。彼は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の隣、ʿアイシャの部屋に埋葬された。生前において彼の同伴者であったのと同様に、死においても彼と結ばれたのである。アッラーがこのウンマへの彼の奉仕に対して報いてくださり、彼に満足されますように。

[1] アル＝ブハーリー（3675）によって伝承された。
[2] アル＝バイハキーダラーイル・アン＝ヌブッワ第 2 巻 361 頁。
[3] アッ＝ティルミズィー（3679）によって伝承された。
[4] ［アッ＝タウバ章：40］
[5] ［アル＝ライル章：17］

知識テスト — 第 1 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	問： アッラーの怒りを被った者たちとは誰か。	[a] 真理を知りながらそれを放棄した者たち（ユダヤ人およびそれに類する者） [b] 無知ゆえに真理を放棄した者たち（キリスト教徒など） [c] 無神論者	a
ハディース	至高なるアッラーへのダアワにおいて、最初に始めるべき事柄は何か。	[a] 良き品性 [b] 礼拝におけるアッラーのタウヒード [c] 礼拝（ṣalāh）	b
アキーダ モジュール	信条における最初の逸脱は、誰の民の間に起こったか。	[a] ルート [b] ヌーフ [c] フード	b
Fiqh モジュール	儀礼的不浄（ḥadath）の状態は、どのように区分されるか。	[a] 本来的と派生的 [b] 偶発的と古来の [c] 大不浄と小不浄	c
Sīrah モジュール	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が属していた、クライシュ族の中で最も高貴な家系はどれか。	[a] バヌー・アル＝ʿアッバース [b] バヌー・ハーシム [c] バヌー・ウマイヤ	b
Ṣaḥābah モジュール	次のうち、アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）の称号の一つはどれか。	[a] アル＝カリーム（寛大な者） [b] アッ＝サフィール（使節） [c] アル＝ʿアティーク（解放された者）	c

2週目

音声版へのアクセス方法：

アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤ（al-Mawārid al-ʿIlmiyyah）の（デイリー・モジュール（Daily Modules））チャンネルより。

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール（Tafsīr）モジュール ―アル＝イフラース章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لَمْ يَلِدْ وَلَمْ يُولَدْ (3) وَلَمْ يَكُنْ لَهُ كُفُوًا (2)قُلْ هُوَ اللَّهُ أَحَدٌ (1) اللَّهُ الصَّمَدُ
أَحَدٌ (4)

慈悲あまねく御方、慈悲深き御方であるアッラーの御名において。言え、かれはアッラー、唯一なる御方である。アッラーは自存自足の主宰者である。かれは生まず、生まれもしない。また、かれに比べ得るいかなるものも存在しない。

❖ このスーラの徳：

アブー・アッ＝ダルダー’（アッラーの御満悦あれ）によると、彼は次のように伝えている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。あなた方の中に、一夜のうちにクルアーンの三分の一を唱誦することができない者がいるだろうか。人々は言った。どうしてクルアーンの三分の一を唱誦できるでしょうか。使徒は仰せになった。言え：かれはアッラー、唯一なる御方であるは、クルアーンの三分の一に相当するのである。[1]また、‘アブドゥッラー・ブン・ハビーブ（アッラーの御満悦あれ）によると、彼は次のように伝えている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。言え：かれはアッラー、唯一なる御方であると、二つの守護のスーラを、朝と夕にそれぞれ三回唱えなさい。そうすれば、それらはあらゆることからあなたを十分に守ってくれる。[2]

❖ 啓示の理由：

このスーラの啓示の理由について、次のように伝えられている。多神教徒たちが預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に向かって、あなたの主について、我々に説明せよと言った。そこで、アッラーはこのスーラを啓示されたのである。[3]

❖ このスーラの主題：

神性と完全性におけるアッラーの唯一性、ならびに、子や親、またいかなる同等者をも有しないという崇高さ。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
الصَّمَدُ	al-Ṣamad	力と富において完全なる主、あらゆる必要の成就のために帰依される御方
كُفُوًا	kufuwan	等しいもの、類似するもの、比肩し得るもの

[1] Muslim（811）による伝承
[2] al-Tirmidhī（3575）による伝承
[3] al-Tirmidhī（3364）による伝承

❖ 全体的な意味：

アル＝イフラースは、大いなる徳を有するマッカ啓示のスーラである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、かつてその主の属性について問われた際、このスーラが啓示された。本章は、アッラーが唯一なる御方であり、その本質・属性・御業において比類なき存在であることを宣言するよう命じている。かれはその属性において完全であり、森羅万象がかれに帰される唯一の御方である。被造物から独立自存し、すべての被造物はかれを必要としている。かれには同等者も同輩もなく、親も子も存在しない。ゆえに、神性はただかれのみに帰し、礼拝は正当にただかれのみに向けられるのである。

❖ このスーラから得られる益:

1. アッラーの御名と属性を通して、アッラーを知ること。
2. 唯一性や自存自足性といった、完全なる属性を確証すること。
3. 子や同位者、同等者を有するといった、不完全な属性をアッラーから否定すること。
4. 天と地に存在するすべてのものが、全面的にアッラーを必要としており、あらゆる事柄においてかれに求め、かれに立ち帰るべきであることを自覚すること。

月曜日：ハディース・モジュール — 信仰の義務と堅忍の徳

スフヤーン・ブン・'アブディッラー・アッ＝サカフィー（アッラーの御満悦あれ）の伝承による。彼は言った。（私は言った。アッラーの使徒よ、あなたの後、誰にも尋ねる必要のないイスラームについての言葉を、私にお教えください。）すると使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。（私はアッラーを信じると言い、その後、堅く立ち続けなさい。）[1]

❖ 解説：

スフヤーン（アッラーの御満悦あれ）は、善をもたらし成功へと導く、包括的な助言を求めて預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に問いかけた。そこで使徒は、次の二つの事柄をもって彼を導いた。

- 第一：アッラーを信じること。これは、信仰の根本と諸柱に関して信じるべきすべてを含み、また、心の働き、アッラーへの服従、そして正しい行いによる従順を伴うものである。
- 第二：この信仰の上に、死に至るまで堅固に、かつ一貫して立ち続けることである。

この二つは、成功と救済の基礎である。至高なるアッラーが仰せになったとおりである。まことに、（我らの主はアッラーである）と言い、そして堅忍した者たちには、恐れはなく、また彼らは悲しむこともない。
これらの者こそ楽園の住人であり、彼らはそこに永遠に留まる。それは、彼らが行っていたことへの報いである。[2]

❖ このハディースから得られる益:

1. このハディースは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の簡潔かつ包括的な言葉の一つである。私はアッラーを信じると言い、その後、堅く立ち続けなさいという言葉には、信条と法の両面における宗教の全体が含まれている。
2. 信仰の実体を知ることの必要性を示している。スンナ派とジャマーアの立場によれば、信仰とは、心による信認、舌による言明、そして身体による実践である。それは服従によって増し、罪によって減少する。
3. 宗教の上における忍耐と一貫性の徳、そしてその報いが楽園であることを示している。

[1] ムスリム（38）による伝承
[2] アル＝アフカーフ章 13–14 節

火曜日：アキーダ・モジュール — 人生に対する近視眼的な見方

人生に対する近視眼的な見方とは、人の思考が現世の享楽のみに限定され、その追求に努力が費やされている状態を指す。このような者は、来世に重きを置かず、それに関心を示さず、そのために行動することもない。至高なるアッラーは、視野が現世の享楽に閉じ込められている者たちを厳しく警告しておられる。仰せになった。
まことに、われらとの会見を望まず、現世の生活に満足し、それに安住し、また、われらの印に対して無頓着な者たち
これらの者の住まいは、彼らが行っていたことのために、業火である。[1] また仰せになった。
現世の生活とその装いを望む者には、われらはその行いに対する報いをそこで十分に与えるであろう。彼らはそこで減じられることはない。
しかし、これらの者は、来世においては業火以外に何もなく、そこで行っていたことは無に帰し、彼らがしていたことは空虚なものとなる。[2]さらに仰せになった。
それはアッラーの約束である。アッラーはその約束を違えられない。しかし、人々の多くは知らない。
彼らは現世の生活の表面的なことだけを知っており、来世については無知である。[3]たとえ彼らが現世の分野やその利益において専門性を有していたとしても、真の意味では無知であり、知識ある者と呼ばれるに値しない。なぜなら、彼らの知識は現世の表層を超えることがないからである。彼らの人生観は家畜と変わらず、むしろそれ以上に迷っている。アッラーは仰せになった。
それとも、彼らの多くが聞き、あるいは理解していると思うのか。彼らは家畜のようなものに過ぎない。いや、それ以上に道を踏み外している。[4]

それは、彼らが自らの力と時間を、彼らのために残ることもなく、また彼ら自身も永続しないもののために費やしているからである。彼らは、避けられぬ終わりと、待ち受ける帰還のための備えをしていなかった。アッラーは仰せになった。
あなたがたは、われらがあなたがたを無意味に創造し、われらのもとへ帰されないとでも思ったのか。[5]

正しい人生観：
正しい人生観とは、人が財産、力、子ども、そして時間を、永続する善行を得るための手段として捉えることである。この現世は来世への通過点であり、橋であり、善へと競い合うための場であり、楽園への糧を得る源である。それは来世のための耕作地なのである。

---
[1] ユーヌス章 7–8 節
[2] フード章 15–16 節
[3] アル＝ルーム章 6–7 節
[4] アル＝フルカーン章 44 節
[5] アル＝ムウミヌーン章 115 節

楽園の住人が得る永遠の生における最上の幸福は、現世において彼らが捧げた行い礼拝、断食、そして施しによって得られたものである。至高なるアッラーは、楽園の民に対して仰せになられる。
過ぎ去った日々にあなたがたが差し出していたもののために、満ち足りて食べ、飲め。[1]
この現世においてこそ、来世を求める僕の誠実さが試され、それに向けた努力が吟味される。アッラーは仰せになった。
まことに、われらは地上にあるものを、それを飾る装いとした。それは、彼らのうち誰が最も善い行いをするかを試すためである。[2]

[1] アル＝ハーッカ章 24 節
[2] アル＝カフ章 7 節

水曜日：フィクフ・モジュール — 水に関する規定

❖ 水の種類：

地表に存在するすべての水は、二つの種類に分けられる。

• タフール（水浄）：
それ自体が清浄であり、他のものをも清める水である。これは、アッラーが創造された本来の状態を保っている水であり、雨のように天から降るもの、溶けた雪や雹、また川・泉・井戸・海など、地上を流れる水がこれに含まれる。

至高なるアッラーは仰せになった。われらは天から清浄な水を降らせた。[1]また、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、海について次のように仰せになった。
その水は清浄であり、その死骸（海の生き物）は合法である。[2]

• ナジス（不浄）：
不浄なものが混入することにより、その色・味・匂いのいずれかが変化した水である。この種の水は、儀礼的不浄を除くためにも、汚れを取り除くためにも用いることは許されない。なぜなら、それは清めるどころか、身体を汚し害を及ぼすものとなるからである。以上から、水に関する本来の規定は、それが清浄かつ清めるものとして創造されたということであり、不浄なものによって明確に変化しない限り、不浄であると判断されないことが理解される。

❖ 不浄なものが落ちたが変化しなかった水の規定：

もし不浄なものが水に落ちたとしても、匂い・味・色という三つの性質のいずれにも変化が生じなければ、その水は不浄とは見なされない。なぜなら、それは創造された本来の状態を保っているからである。その証拠は、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の次の御言葉である。水は清浄であり、何ものもそれを不浄にはしない。[3]また、次の御言葉もある。
水が二クッラに達したならば、不浄を帯びることはない。[4]

---

[1] アル＝フルカーン章 48 節
[2] アブー・ダーウード（83）、アッ＝ティルミズィーによる伝承（69）
[3] アフマド（3/15）、アブー・ダーウード（61）による伝承
[4] アフマド（2/27）、アブー・ダーウード（63）による伝承

❖ 清浄なものが混入した水の規定：

木の葉、石鹸、蓮の葉、またはそれに類する清浄なものが水に落ちたり混ざったりしても、水そのものを支配したり、別の液体の名称に変えてしまわない限り、たとえわずかな変化が生じたとしても、その水に害はない。この場合、その水は依然として清浄かつ清めるものであり、水という名称のもとに含まれる。

確かな伝承によれば、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、遺体を洗う際に蓮の葉と樟脳を用いるよう命じられた。[1]

[1] アル＝ブハーリー（1253）、ムスリム（939）による伝承

木曜日：スィーラ・モジュール ― 養育と成長（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 授乳について：

クライシュ族の名門家庭には、子どもを砂漠に送り、乳母に養育させる慣習があった。それは、言葉の雄弁さと言語の純正さを身につけさせ、また病気や疫病から守るためであった。そこで、預言者の母アーミナ（アッラーの祝福と平安あれ）も、同様のことを望んだ。彼女は、バヌー・サアド族から来る乳母たちの到来を待ち、その中の一人に我が子を託そうとした。その中に、ハリーマ・アッ＝サアディーヤという女性があり、彼女がその子を引き取った。すると、彼は彼女とその家族にとって祝福の源となった。彼は四歳になるまで彼女のもとに留まった。この期間中に、ジブリール（彼の上に平安あれ）が彼の胸を開き、その心臓を取り出し、シャイターンの分け前を取り除いて清めたのである。[1]

❖ 母の死：

彼はバヌー・サアドの地からマッカに戻り、母アーミナのもとへ帰った。その二年後、母は母方の親族を訪ねるため、彼を連れてマディーナへ向かった。しかし、帰途においてアル＝アブワー’と呼ばれる地で病に倒れ、そこで帰らぬ人となった。その時、預言者は六歳であり、すでに父を失っていたため、父母の双方を失った孤児となったのである。

❖ 祖父の庇護：

母の死後、祖父アブドゥル＝ムッタリブが彼を引き取って養育した。祖父は彼に深い愛情と慈しみを注ぎ、特別な配慮と優しさをもって接した。しかし、この温もりは長くは続かなかった。というのも、預言者の両親が亡くなってから二年後、祖父アブドゥル＝ムッタリブも世を去ったからである。

❖ 叔父の庇護：

アブドゥル＝ムッタリブは、自身の息子アブー・ターリブが備えている高潔な人格をよく知っており、また自らの最期が近いことを感じ取っていたため、孫の世話を彼に託した。アブー・ターリブは、生活に余裕がなく、多くの子を抱えていながらも、この責務を最良の形で果たした。彼は甥を深く愛し、食事や飲み物においても、自分の子どもたちより優先させていた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らにとって祝福の源であった。実際、アブー・ターリブの子どもたちは、彼抜きで食事をすると人数が多いため満腹にならなかった。しかし、アッラーの使徒が一緒に食べると、皆が満ち足りたのである。そこでアブー・ターリブは言った。
まことに、あなたは祝福された者である。[2]

---

[1] ムスリム（162）による伝承
[2] アル＝バイハキー預言の証拠第 2 巻 20 頁

土曜日：サハーバ・モジュール ― ʿウマル・ブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 名前と誕生：

彼は、ʿウマル・ブン・アル＝ハッターブ・ブン・ヌファイル・ブン・ʿアブドゥル＝ウッザー・ブン・リヤーフであり、クンヤ（敬称）はアブー・ハフスである。彼の系譜は、第九代の祖先であるカアブ・ブン・ルアイ・ブン・ガーリブにおいて、我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）と合致する。
彼は、象の年から十三年後に、マッカにおいて誕生した。

❖ その生涯と徳：

ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）は、体格に恵まれ、勇敢さと断固たる性格で知られていた。怒ると顔が赤くなるほどであった。
彼は、真理と虚偽を峻別する者という意味で、アル＝ファールークと呼ばれた。それは、アッラーが彼を通して真理と虚偽を明確に分けられたからである。アッラーは、御使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の次の嘆願に応えて、彼を通してイスラームを力づけられた。アッラーよ、あなたに最も愛されている二人のʿウマルのいずれかによって、イスラームを強めてください。[1]

彼は二十六歳でイスラームを受け入れ、その改宗はムスリムたちにとって大きな力となった。イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）は次のように語っている。ʿウマルのイスラームへの入信は勝利であり、彼のヒジュラは勝利であり、彼の指導は慈悲であった。アッラーにかけて言うが、ʿウマルがイスラームに入るまで、我々はカアバのもとで公然と礼拝することができなかった。彼は彼らと戦い、ついに我々が礼拝できるようにしたのである。[2]

ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に、すべての戦いに参加した。アブー・バクル・アッ＝スィッディーク（アッラーの御満悦あれ）の死後、彼は第二代の正統カリフとなった。彼の治世において、彼は公正であり、弱者や貧者に対して慈悲深く、困窮者に対して非常に惜しみなく施した。彼は謙虚と清貧の生活を送り、その厳しさと乏しさに、教友たちが同情を覚えるほどであった。彼は、ムスリムのために初めてバイトゥル＝マール（国庫）を設立した人物である。また、ディーワーン（登録制度）、常備軍、そしてヒジュラ暦といった行政制度を整えた。彼の統治下において、ダマスカス、エルサレム、大シリアの諸地域、イラク、エジプト、リビアなど、多くの地が征服された。

---
[1] アッ＝ティルミズィー（3681）による伝承
[2] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ第3巻79頁

❖ その殉教：

彼は、ヒジュラ暦 23 年、ズー・ル＝ヒッジャ月 26 日、水曜日に殉教した（アッラーの御満悦あれ）。それは、ハッジから戻った後のことであった。ムスリムたちを率いてファジュルの礼拝を導いていた際、ゾロアスター教徒のアブー・ルウルウアによって、毒を塗られた両刃の短剣で六度刺されたのである。彼は、傷口から血を流しながら自宅へ運ばれた。

死期が近づいたことを悟ると、彼は息子‘アブドゥッラーに言った。
‘アイシャのもとへ行き、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）とアブー・バクルの傍らに、私を埋葬することを許してくださるか、尋ねなさい。[1]

彼女はそれを許可し、その三日後、‘ウマルは帰真した。葬礼の礼拝はスハイブ（アッラーの御満悦あれ）が導き、彼は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）とその教友の傍らに埋葬された。

[1] アル＝ブハーリー（1392）による伝承

週次知識テスト — 第 2 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	（アル＝サマド）の意味は何か。	[a] 力と富において完全であり、あらゆる必要が向けられる御方。 [b] その慈しみにおいて微妙で隠れた御方。 [c] 最も大きなことから最も小さなことまでを知る御方。	A
ハディース	現世と来世における成功と救済の基礎とは何か。	[a] 財産と社会的地位。 [b] 真剣な努力と奮闘。 [c] アッラーを信じ、死に至るまで堅忍すること。	C
アキーダ	人生に対する近視眼的な見方とは何か。	[a] 現世の働きと来世への備えを両立させること。 [b] 思考が現世の享楽に限定され、行動がその獲得に集中していること。 [c] 自分個人の事柄を最優先すること。	B
フィクフ	不浄なものが水に落ちたが、その三つの性質に変化が生じなかった場合、どうなるか。	[a] 不浄となる。 [b] 不浄とはならない。 [c] 必要時にのみ使用される。	B
スィーラ	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の幼少期を世話したのは誰か。	[a] 叔父アル＝アッバース。 [b] 叔父ハムザ。 [c] 叔父アブー・ターリブ。	C
サハーバ	ʻウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）は何歳でイスラームを受け入れたか。	[a] 20 歳 [b] 24 歳 [c] 26 歳	c

3週目

音声版へのアクセス方法：

アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの **Daily Modules** チャンネルよりご利用ください。

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール・モジュール ―アル＝ファラク章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ الْفَلَقِ (1) مِنْ شَرِّ مَا خَلَقَ (2) وَمِنْ شَرِّ غَاسِقٍ إِذَا وَقَبَ (3) وَمِنْ شَرِّ النَّفَّاثَاتِ فِي الْعُقَدِ (4) وَمِنْ شَرِّ حَاسِدٍ إِذَا حَسَدَ (5)

慈悲深く慈悲あまねくアッラーの御名において 言え，梨明の主にご加護を乞い願う。かれが創られるものの悪（災難）から、深まる夜の闇の悪（危害）から、結び目に息を吹きかける（妖術使いの）女たちの悪から、また，嫉妬する者の嫉妬の悪（災厄）から。

❖ このスーラの徳：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せられた。私には、これまでに類を見ない節々が啓示された。それは、言え、私は破暁の主に庇護を求めると、言え、私は人々の主に庇護を求めるである。[1]

❖ このスーラの主題：

あらゆる種類の悪から、アッラーに庇護を求めることへの勧め。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	音写	意味
أَعُوذُ	Aʿūdhu	庇護と守護を求める
الْفَلَقِ	al-Falaq	破暁（夜明け）
غَاسِقٍ	Ghāsiq	深い夜／激しい闇
إِذَا وَقَبَ	Idhā Waqab	その闇が広がり、深まる時
النَّفَّاثَاتِ فِي الْعُقَدِ	al-Naffāthāti fī al-ʿUqad	呪術のために、唾を用いず結び目に吹きかける女呪術師たち
حَاسِدٍ	Ḥāsid	他人から恩恵が取り去られることを望む嫉妬者

❖ 全体的な意味：

アル＝ファラク章はマッカで啓示されたスーラであり、アル＝ムアッウィザターン（守護を求める二章）の一つである。このスーラは、あらゆる害悪や災厄から、誠実にアッラーに庇護を求めるよう信者を導く。

本章は、次の四種類の悪から庇護を求めることを教えている。

1. 害を及ぼし得る、すべての被造物の悪。
2. 野獣、盗賊、悪魔など、闇の中で降りかかり広がる悪。
3. 呪術の一環として結び目に吹きかける、魔女たちの悪。
4. 嫉妬し、他者に害を望む者の悪。

これら四つは、人が恐れるすべての害悪の源を包含している。

❖ このスーラから得られる益：

1. 庇護はただアッラーのみに求める義務があること。守護する力を有するのは、ただかれのみである。
2. 魔術、嫉妬、そしてあらゆる害悪から身を守るための最良の手段への導き。すなわち、定められた嘆願と神の想起による守護である。
3. 魔術の禁止、ならびにそれを行う者、またはそれを信じる者に対する不信仰の宣告。
4. 嫉妬は、絶え間ない嘆願と庇護によって防がれなければならない。それは最も有害な病の一つであり、人間とジンの双方の間に生じる敵意の根源である。

月曜日：ハディース・モジュール — 舌と手を慎む義務

‘アブドゥッラー・ビン・‘アムル（アッラーが二人にご満悦あれ）からの伝承によると、アッラーの使徒（アッラーの祝福と豊かな平安あれ）はこう言われた。

ムスリムとは、その舌と手からムスリムたちが安全である者であり、ムハージル（マディーナへの移住者）とは、アッラーが禁じられたものを捨て去る者である。[1]

❖ 解説：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、真のイスラームとは、他のムスリムに対して自分自身に望むことを望むことであると明確にされた。この愛は、他者に害を与えないよう守ることによって現れる。すなわち、舌による害（侮辱、中傷、陰口）や、手による害（暴行や盗み）から守ることである。

さらに、真のムハージルとは、単に地理的に移動する者ではなく、罪を完全に放棄する者であると強調された。不従順から正義へと向かうこの内面的な移行は、すべての信仰者に義務づけられており、アッラーへの服従の誠実さと完全性を示す印である。

❖ このハディースから得られる益：

1. 他のムスリムに害を与えないよう、舌と手を慎む義務。
2. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が舌と手を特に挙げられたのは、それらが害を及ぼす頻度が高いためである。
3. 舌が先に言及されたのは、その害がより一般的で、行いやすく、生者にも死者にも及ぶためである。
4. すべてのムスリムは、禁じられた行いを捨て去るために自己と闘う義務がある。
5. 最良のムスリムとは、アッラーの権利とムスリム同胞の権利の双方を果たす者である。

[1] アル＝ブハーリー（10）、ムスリム（40）による伝承

火曜日：アキーダ（信仰）モジュール — イスラームの際立った特質

イスラームとは、アッラーがその使徒ムハンマド ﷺ を通して啓示された宗教である。アッラーはそれを完成させ、その恩寵を全うし、しもべたちのための宗教としてイスラームを選ばれた。至高なるアッラーは言われた。
今日、われはあなたがたのためにあなたがたの宗教を完成させ、あなたがたへの恩寵を全うし、イスラームをあなたがたの宗教として承認した。

イスラームは、全人類に従うことを命じられた普遍的な宗教である。至高なるアッラーは、その使徒 ﷺ にこう言われた。
言え。人々よ、わたしはあなたがたすべてに遣わされたアッラーの使徒である。天と地の支配はかれのものである。かれのほかに神はなく、かれは生を与え、死を与える。ゆえに、アッラーと、その使徒である文字を知らぬ預言者を信じなさい。かれはアッラーとその御言葉を信じている。かれに従いなさい。そうすれば導かれるであろう。

預言者 ﷺ は言われた。
ムハンマドの魂をその御手に握られているお方に誓って言う。ユダヤ教徒であれキリスト教徒であれ、この共同体の中でわたしのことを聞きながら、わたしが遣わされたものを信じずに死ぬ者は、必ず火獄の住人となる。

イスラームこそ、アッラーの御前で唯一受け入れられる宗教である。至高なるアッラーは言われた。
まことに、アッラーの御前における宗教はイスラームである。
また、かれは言われた。
イスラーム以外の宗教を求める者は、決してそれを受け入れられず、来世において失敗者の一人となる。

---

[1] ズマル章 3 節
[2] アアラーフ章 158 節
[3] ムスリムによる伝承（384）
[4] アーリ・イムラーン章 19 節
[5] アーリ・イムラーン章 85 節

イスラーム：とは、アッラーによって保存と援助が保証されている真実の宗教である。かれは仰せになった。
かれこそは、導きと真実の宗教を携えて使徒を遣わし、それをあらゆる宗教の上に顕現させる御方である。たとえ多神崇拝者たちがそれを嫌おうとも。[1]
イスラームは、その信仰と立法において、あらゆる善と利益を包含する完全な宗教である。それはアッラーの唯一性を命じ、シルク（多神崇拝）を禁じる。真実を語ることを命じ、嘘を禁じる。正義を命じ、不義を禁じる。信義を守ることを命じ、裏切りを禁じる。誠実を命じ、反逆を禁じる。両親への孝行を命じ、不孝を禁じる。親族関係を保つことを命じ、それを断つことを禁じる。隣人への善い扱いを命じ、彼らに害を与えることを禁じる。
アッラーは仰せになった。
本当にアッラーは正義、善行、そして近親への施しを命じ、不道徳、悪事、そして不正を禁じられる。かれは、あなたがたが思い起こすようにと、あなたがたを諭される。[2]

[1] ［アッ＝タウバ章：33節］
[2] ［アン＝ナフル章：90節］

水曜日：フィクフ・モジュール — 用便の作法

私たちの宗教は、清浄・慎み・礼儀の宗教である。人が用を足す際のために、特定の作法が定められており、これはアッラーによって尊厳を与えられた人間を、動物と区別するものである。これらの作法の中には次のようなものがある。

❖ トイレに入る際のスンナ（推奨行為）：

1. 左足から入り、次の言葉を唱えることはスンナである。ビスミッラー。アッラーフンマ インニー・アウーズ ビカ ミナル＝フブスィ ワル＝ハバーイス。野外で用を足す場合は、腰を下ろす前にこの祈りを唱える。預言者（彼にアッラーの祝福と平安あれ）は、次のように唱えていた。アッラーフンマ インニー・アウーズ ビカ ミナル＝フブスィ ワル＝ハバーイス。[1]また、彼はこう言われた。
2. 人の子らが便所に入る際、ジンとその陰部との間の覆いは、ビスミッラーと言うことである。[2]

3. 右足から出て、ゴフラーナカと唱えることはスンナである。ハディースには次のようにある。預言者（彼にアッラーの祝福と平安あれ）は、用便所から出るたびにグフラーナカと言われていた。[3]一般原則として、右側は尊い行為に用いられ、左側は害を取り除く行為に用いられる。

4. 野外（砂漠や荒野）にいる場合、遠くへ行き、壁や木などの陰に隠れて身を隠すことはスンナである。伝承には次のようにある。預言者（彼にアッラーの祝福と平安あれ）は、用を足そうとする時、人に見られないほど遠くへ行かれた。[4]

---

[1] アル＝ブハーリー（142）、ムスリム（375）による伝承
[2] アッ＝ティルミズィー（606）による伝承
[3] アル＝ブハーリー（148）、ムスリム（266）による伝承
[4] アブー・ダーウード（2）による伝承

❖ イスティンジャーおよびイスティジュマール（排泄後の清浄）：

排泄後の清浄（イスティンジャーおよびイスティジュマール）は、ムスリムにとって義務であり、この点において怠慢であることは禁じられている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
尿から身を清めなさい。墓の懲罰の多くは、それが原因である。[1]
• **イスティンジャー**：水を用いて排泄物の痕跡を取り除くこと。
• **イスティジュマール**：水以外のもの、たとえば石、紙、またはそれに類する物を用いて排泄物の痕跡を取り除くこと。
水が利用できる場合であっても、石やそれに相当する物のみを用いることは許されている。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
あなたがたの誰かが用を足したなら、三つの石で清めなさい。それで十分である。[2]
しかし、水を用いることの方がより優れており、両方を併用することが最も完全である。

❖ イスティジュマールに関する規定：

1. 少なくとも三回拭かなければならない。三回で清浄にならない場合は、清浄になるまで続ける。
2. 拭き終わりは、三回・五回などの奇数で終えることがスンナである。
3. 糞、骨、食物、またアッラーの御名が記された紙など、神聖視され尊重されるものを用いることは禁じられている。

サルマーン（アッラーの御満悦あれ）は言った。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、右手で清めること、三つ未満の石で清めること、また糞や骨で清めることを禁じられた。[3]
ここでいう**ラジー**ʿ（糞）とは、乾燥した動物の排泄物を指す。

---
[1] アッ＝ダーラクトニー（1/128）による伝承
[2] アフマド（6/108）、アッ＝ダーラクトニー（144）による伝承
[3] ムスリム（262）による伝承

木曜日：スィーラ— 預言者の青年期（アッラーの祝福と平安あれ）

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、青年期において叔父アブー・ターリブの負担を軽減するため、羊飼いとして働いた。十二歳になると、叔父は彼をシリア地方（大シリア）への商業の旅に連れて行った。これは、彼を残した場合に世話をする者がいなかったためであり、思いやりからの行動であった。この旅の中で、彼は人々との接し方や商取引の方法について経験を積んだ。また、叔父はこの旅の最中に、彼に関するいくつかの徴（しるし）を目の当たりにし、それによって彼への配慮と関心はいっそう強まった。すなわち、雲が彼に日陰を与えたこと、木が傾いて彼を覆ったこと、修道士が彼についての吉報を告げ、ユダヤ人からの危害を恐れてマッカへ戻るようアブー・ターリブに警告したことなどである。[1]

十五歳になると、彼はフィジャールの戦いを目撃し、その一部の日において、叔父たちと共にマッカを守るため参加した。

その後、二十歳の時に、彼はヒルフ・アル＝フドゥール（Ḥilf al-Fuḍūl）を目撃した。これは、クライシュの指導者たちが、マッカにおけるすべての被抑圧者を支援し、その権利を回復することに同意した盟約である。彼は後にこう語っている。

私は、アブドゥッラー・イブン・ジュドゥアーンの家で結ばれた盟約に立ち会った。もしイスラームにおいてそれを守るよう招かれたなら、私は必ずそれを受け入れるであろう。彼らは、権利をその所有者に返し、いかなる圧制者も被抑圧者に勝ることがないようにすることに同意した。[2]

アッラーは、最善の養育をもって御自分の預言者を育て、最も完全な品性をもって彼を形づくられた。彼は同世代の中で最も端正な容姿を持ち、最も清らかな礼節を備え、最も知性に優れ、言葉において最も誠実で、最も信頼に値する人物であった。そのため、アル＝アミーン（信頼される者）)という称号を得たのである。

また、アッラーは彼をあらゆる不道徳から守られた。彼は偶像を崇拝することなく、酒を飲むこともなく、名誉や尊厳を損なういかなる行為も行わなかった。

---

[1] アッ＝ティルミズィー（3620）による伝承

[2] アル＝バイハキー（6366）、イブン・ヒシャーム（1/133）による記述

土曜日：サハーバ(教友) — ウスマーン・イブン・アッファーン（アッラーの御満悦あれ）

❖ 名前と誕生：

彼はウスマーン・イブン・アッファーン・イブン・アビー・アル＝アース・イブン・ウマイヤである。その系譜は、第三の祖であるアブド・マナーフにおいて、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）と合流する。
彼は象の年の六年後、ターイフに生まれた。

❖ その生涯と美徳：

ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）は、背が高すぎず低すぎず、色黒で、肌は柔らかく、豊かな髭と多くの髪を持つ端正な容姿の人物であった。彼は人々の中でも最も慎み深く、羞恥心に富んでいた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
(天使たちさえも恥じらう人物に対して、私が慎みを示さないでいられようか。)[1]
彼は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の二人の娘ルカイヤ、そしてその後ウンム・クルスームと結婚したことから、(ズー・アン＝ヌーライン（双光の持ち主）)という称号を与えられた。
彼（アッラーの御満悦あれ）は、最も敬虔な教友の一人であり、ハディースを多く伝承し、クルアーンを頻繁に誦読していた。彼は言っていた。
(もし我々の心が清らかであったなら、アッラーの御言葉に飽きることは決してないであろう。)[2]
ウスマーンは裕福な商人であり、アッラーの道のために惜しみなく財を費やした。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がマディーナに到着した時、飲用に適した水はほとんどなかった。そこで彼は言われた。
(誰がルーマ井戸を買い取り、その水をムスリムたちと共有するであろうか。その者には楽園において、それ以上のものが与えられるであろう。)[3]
ウスマーンはそれをユダヤ人から二万ディルハムで購入し、富裕者にも貧者にも等しく利用できるようにした。また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がモスクを建設し、手狭になった際、彼は言われた。
(誰が某家族の中庭を買い取り、それをモスクに加えるであろうか。その者には楽園において、それ以上のものが与えられるであろう。)[4]
ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）は、自らの財で二万五千ディルハムを支払い、それを購入した。

_

[1] アフマド（26466）による伝承
[2] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ第 7 巻・214 頁
[3] アッ＝ティルミズィー（3703）による伝承
[4] アッ＝ティルミズィー（3703）による伝承

タブーク遠征の際、彼は困難の軍（ジャイシュ・アル＝ウスラ）に装備させ、一千頭のラクダと百頭の馬を提供し、綱や紐に至るまで何一つ不足がないほど完全に支援した。
その後、彼は一万ディーナールの金貨を持参し、それをアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の膝の上に置いた。すると預言者は言われた。
この日以降、ウスマーンが行ういかなることも、彼を害することはない。[1]
ウスマーン・イブン・アッファーン（アッラーの御満悦あれ）は、ウマル（アッラーの御満悦あれ）の後を継いでカリフの位に就き、正統カリフの第三代となった。彼の統治期には、多くの偉大な功績が成し遂げられた。
• 彼はクルアーンを一つの統一されたムスハフに編纂し、そこから四部を写して主要なイスラーム都市に配布し、その他の写本をすべて焼却するよう命じた。
• 彼はマッカのハラム・モスクおよびマディーナの預言者のモスクを石造で拡張・再建した。
• 彼はウマルの時代に始まったイスラームの征服を継続し、アレクサンドリア、北アフリカ、キプロスが征服され、イスラーム国家は東西の両方向へと拡大した。

❖ 彼の殉教：

ヒジュラ暦 35 年ズー・アル＝ヒッジャ月 18 日の金曜日、ユダヤ人の人物アブドゥッラー・イブン・サバアの扇動による内乱の影響を受けた反乱者たちが、彼の家を襲撃した。彼を守ろうとしたクライシュの高貴な若者四人が負傷した。
ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）は、自らの最期が近いことを悟り、二十人の奴隷を解放し、こう語った。
昨夜、私は夢の中でアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）、そしてアブー・バクルとウマルを見た。彼らは私に言った。耐え忍びなさい。明日、あなたは我々と共に断食を解くであろう。
彼はその後ムスハフを開き、それを誦読している最中に殉教した。[2]
彼はアル＝バキーに埋葬され、享年八十二歳であった。

---

[1] アッ＝ティルミズィー（3701）による伝承
[2] スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー第 1 巻 204 頁

週次知識テスト — 第 3 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	魔術や妬みから身を守る方法は何か。	[a] 体力を強化すること[b] 人との交わりを避けること[c] 定められた嘆願と合法的な想起	c
ハディース	真の移住者（ムハージル）とは誰か。	[a] アッラーが禁じたものを捨てる者[b] 生計を求めて国を離れる者[c] マッカまたはマディーナに定住する者	a
アキーダ	イスラームの宗教の特性の一つはどれか。	[a] アラブ人のみに課された宗教[b] 全人類に課された宗教[c] 最も近い天使のみに課された宗教	b
フィクフ	清浄に用いることが禁じられているものはどれか。	[a] レンガ[b] 石[c] 食物	c
スィーラ	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が二十歳の時に目撃した出来事は何か。	[a] ヒルフ・アル＝フドゥールの盟約[b] フィジャールの戦い[c] カアバ神殿の再建	b
サハーバ	ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）が在位中に行った事柄の一つはどれか。	[a] 行政記録の整備[b] クルアーンを一つのムスハフに編纂[c] ウサーマ軍の派遣	b

4週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール・モジュール ―アン＝ナース章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ النَّاسِ (1) مَلِكِ النَّاسِ (2) إِلَهِ النَّاسِ (3) مِنْ شَرِّ الْوَسْوَاسِ الْخَنَّاسِ (4) الَّذِي يُوَسْوِسُ فِي صُدُورِ النَّاسِ (5) مِنَ الْجِنَّةِ وَالنَّاسِ (6)

慈悲あまねく御方、慈悲深き御方であるアッラーの御名において。言え，ご加護を乞い願う，人間の主，人間の王，人間の神に。こっそりと忍び込み，囁く者の悪から。それが人間の胸に囁きかける，ジン（幽精）であろうと，人間であろうと。

❖ このスーラの主題:

シャイターンとそのささやきの悪から、アッラーに御庇護を求めることへの勧め。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
أَعُوذُ	A'ūdhu	庇護と保護を求めること
بِرَبِّ النَّاسِ	bi-Rabbi al-Nās	人間の主、創造者、そしてその事柄を統御する御方
إِلَهِ النَّاسِ	Ilāhi al-Nās	人間が真に礼拝すべき唯一の御方
الْوَسْوَاسِ	al-Waswās	心に疑念や虚偽を植え付ける悪魔
الْخَنَّاسِ	al-Khannās	アッラーが想起されると退き、姿を消す者
مِنَ الْجِنَّةِ وَالنَّاسِ	mina al-jinnati wa al-nās	ささやき手はジンからの場合も人間からの場合もあること

❖ 全体的な意味：

アル＝ナースは、マッカ啓示のスーラであり、二つの守護の章の一つである。本章において、アッラーはそのしもべたちに対し、人間の主であり創造者である御方に、心の内にひそやかに、聞き取れぬ声でささやく悪魔の悪から御庇護を求めるよう命じておられる。
彼は疑念や恐れ、否定的な思考を投げかけ、悪を魅力的に、善を忌まわしく見せる。特に、人がアッラーの想起に無頓着な時にそうするのである。
ささやく悪魔はジンの中にいる場合もあれば、虚偽を美化し、悪へと誘い、疑念や堕落した思想を広める人間の中にいる場合もある。

❖ このスーラから得られる益：

1. アッラーこそが真の主であり、自存自足で、被造物すべてを統べ、完全な力と最終的な命令権を有する御方であること。
2. 有害なささやきや悪しき思考に対する治療は、アッラーを常に想起し、シャイターンからの御庇護を求めることにある。
3. 人が恐れるすべてのものからの御庇護は、ただアッラーのみに求めるべきであること。
4. 悪しき友は危険であり、人に害を及ぼし、他者を迷いへと導くものであること

月曜日：ハディース・モジュール — 偽信の諸特性について

‘アブドゥッラー・ブン・‘アムル（アッラーの御満悦あれ）の伝承による。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。四つの特性があり、それらがすべて一人の人に備わっているなら、その者は完全な偽信者である。また、それらのうちの一つを有する者は、それを捨て去るまで、偽信の一特性を内に持ち続ける。すなわち、語るときには嘘をつき、契約を結べば破り、約束すれば裏切り、論争すれば度を越す。これは合意された伝承である。[1]

❖ 解説：

ニファーク（偽信）とは、外面ではあるものを示しつつ、内面ではその反対を隠し持つことである。これは二種類に分けられる。

• **信条における偽信：** 不信仰を内に隠しつつ、外面ではイスラームを示すことである。このような者は不信仰者であり、永遠に業火に留まる。

• **行為における偽信：** 心には信仰が残っているにもかかわらず、諸テキストにおいて偽信者の特性として挙げられている行為を行うことである。これは大罪の一つに数えられるが、宗教から排除されるものではない。

このハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、行為における偽信のいくつかの特性に対して警告しておられる。それらは四つであり、すべてを備える者は完全な偽信者であり、そのうちの一つを有する者は、それを放棄するまで偽信の特性を有し続ける。

1. **人々の間で裏切り者として知られるようになること責任、財産、秘密、契約などにおいて信頼されない。**
2. 嘘をつくことで知られるようになること言葉において虚偽が常態化する。
3. 契約や約束を裏切ること約束や合意を結ぶたびに、それを果たさない。
4. 論争において不正を行うこと勝つために、真理を意図的に捨て、虚偽を真理として示し、真理を虚偽として示す。

❖ このハディースから得られる益：

1. 行為における偽信には多くの特性があり、本ハディースに挙げられているものは、特に一般的で害の大きいものである。
2. 信託の裏切りは非難される仕事、財産、責任、秘密、その他いかなる事柄においても同様である。
3. 言葉における虚偽は危険であり、偽信のしるしである。

[1] アル＝ブハーリー（2459）、ムスリム（58）による伝承

4. 約束や契約を破ることは禁止されている。これには、アッラーに対する約束と、人々に対する約束の双方が含まれる。
5. 不正な論争は禁じられている。
6. 偽信および偽信者に対して警戒しなければならない。
7. 人は、善と悪、信仰と偽信の特性を同時に併せ持つことがあり得る。

火曜日：アキーダ・モジュール — アキーダの学問の地位

アキーダ（信条）の学問は、あらゆる学問の中で最も高貴であり、最も偉大なものである。その卓越した地位は、いくつかの重要な理由に基づいている。

1. 知識の高貴さは、その対象の高貴さに結び付いている。アキーダの対象とは、アッラー御自身その御名、属性、御業、かれに対して義務づけられること、そしてかれが超越しておられることである。これは、人が知り得る事柄の中で最も偉大であり、追求すべき最重要の目的である。
2. 知識の地位は、人々がそれを必要とする度合いによって定まる。アキーダほど切実に必要とされる学問は存在しない。しもべが自らの主について、より正しく、より完全に理解するほど、畏敬の念は増し、その命令と法に対する服従は深まり、来世への備えもより整えられる。
3. アキーダ（信仰箇条）は、安らぎある人生へと至る最大の手段である。この信条は、信仰者をその創造主と結び付け、心の平安、思考の明晰さ、そして心の静けさを授ける。そのような者は、創造者、養育者、立法者、そして唯一の礼拝対象としての主に満足する。アッラーは仰せになった。
信仰し、その信仰に不正を混ぜない者たち彼らには安全があり、彼らこそ正しく導かれている者たちである。[1]
4. 知識の真の価値は、その利益と、それを欠いた場合の害によって明らかになる。純正で正しいアキーダは、来世における救済の基礎であり、すべての善行が受け入れられるための条件である。一方、多神崇拝は行いを無に帰し、永遠の業火へと導く。アッラーは仰せになった。
まことにアッラーは、かれに対して多神を結び付けることをお赦しにならない。しかし、それ以下のことについては、御望みの者をお赦しになられる。アッラーに他を結び付ける者は、確かに大きく迷い去ったのである。[2]
5. 正しい信仰は、人を被造物への依存や、そのために働くことから解放する。これこそが、真の尊厳と高い地位の本質である。すなわち、アッラーのみに仕え、かれ以外には何ものも望まず、かれ以外の誰も恐れないことである。これこそが、完全なる成功なのである。

[1] アル＝アンアーム章 82 節
[2] アン＝ニサー章 116 節

水曜日：フィクフ・モジュール — 用便の際における禁止事項と忌避される行為

❖ 用便時に禁止されている事項の規定：

1. 屋外（砂漠などの開けた場所）で用を足す際、キブラに向かって、あるいは背を向けて用を足すことは禁じられている。
   使徒ムハンマド（アッラーの祝福と平安が彼にありますように）は仰せになった。あなたがたが用を足すとき、キブラに向かってはならず、また背を向けてもならない。むしろ東か西を向きなさい。[1]ただし、建物や囲いの中にいる場合は差し支えない。イブン・ウマル（アッラーが彼ら両人にご満悦あれ）は次のように述べている。この禁止は開けた場所に限られる。もし自分とキブラの間に隔てるものがあるなら、害はない。[2] それでもなお、屋内であっても避けることが望ましい。

2. トイレの中でクルアーンを朗誦すること、またはムスハフ（紙のクルアーン）を持ち込むことは禁じられている。これは、クルアーンが最も高貴な言葉であり、そのような場所で朗誦したり持ち込んだりすることが、不敬にあたるためである。
3. 排尿中に右手で自分の陰部を持つこと、また右手で清浄（イスティンジャー）を行うことは禁じられている。預言者（アッラーの祝福と平安が彼にありますように）は仰せになった。
   あなたがたの誰かが排尿するとき、右手で自分の陰部を持ってはならず、また右手で自分を清めてはならない。[3]
4. 溜まった水に放尿することは禁じられている。湖、池、プールなどの流れのない水を指し、これを汚染し腐敗させるためである。ハディースには次のようにある。彼は、停滞した水に放尿することを禁じられた。[4]
5. 人々の通り道、日陰の場所、公共施設、実のなる木の下、またそれに類する場所で用を足すことは禁じられている。使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。二つの呪いを招く行為に注意しなさい。
   人々が尋ねた。アッラーの使徒よ、その二つの呪いを招く行為とは何ですか。彼は仰せになった。人々の通り道や、彼らの日陰の場所で用を足す者である。）[5]

---

[1] アル＝ブハーリー（144）、ムスリム（264）
[2] アブー・ダーウード（14）、アッ＝ティルミズィー（14）
[3] アル＝ブハーリー（154）、ムスリム（267）
[4] アル＝ブハーリー（239）、ムスリム（281）
[5] ムスリム（269）

❖ 用便の際に忌避される行為（マクルーフ）：

1. 屋外で用を足す際、地面に近づく前に陰部を露わにすることは忌避される。ハディースにおいて次のように伝えられている。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、用を足そうとされるとき、地面に近づくまで衣を上げられなかった。[1]
2. 用便中に話すことは忌避される。ある人が、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が排尿しておられる最中に通りかかり、サラームの挨拶をしたが、預言者はそれに応答されなかった。[2]
3. 地面の割れ目や穴（巣穴など）に向かって放尿することは忌避される。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、巣穴に放尿することを禁じられた。[3]
4. **必要がない限り、アッラーの御名が記された物を携えてトイレに入ることは忌避される。**ハディースには次のようにある。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、トイレに入られるとき、指輪を外された。[4]

正当な必要には、外に置いておくと盗まれたり忘れたりする恐れがある紙幣などを持って入る場合が含まれる。

[1] アブー・ダーウード（11）によって伝えられた。
[2] ムスリム（370）によって伝えられた。
[3] アブー・ダーウード（29）およびナサーイー（34）によって伝えられた。
[4] アブー・ダーウード（19）およびティルミズィー（1746）によって伝えられた。

木曜日：スィーラ・モジュール — 御結婚について（アッラーの祝福と平安あれ）

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、その民の間で誠実さと信頼性によって広く知られるようになったとき、高貴な家柄と富を備えた女性であったハディージャ・ビント・フワイリド（アッラーの御満悦あれ）は、彼女の財産を用いてシャームの地で商取引を行う機会を彼に申し出た。彼はこれを受け入れ、ハディージャの僕であるマイサラを伴い、マッカからシャームへと商隊と共に旅立った。

彼は利益を上げ、彼女の商いを大いに繁盛させた。商隊が帰還すると、マイサラは、ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の資質や高潔な人格について、自らが目にしたことを主人である彼女に伝えた。これに心を打たれた彼女は、彼との結婚への意向を示した。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女と結婚した。その時、彼女は四十歳、彼は二十五歳であった。彼女は彼の最初の妻であり、また最も愛された妻であった。

彼女は彼と共に、高貴で幸福な生活を送った。彼女は彼を支え、慰め続けた。彼は、彼女が亡くなるまで、他の女性と結婚することはなかった。彼女の死は、結婚から二十五年後に起こった。

ハディージャ（アッラーの御満悦あれ）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の子どもたちのうち、一人を除くすべてを産んだ。その子どもたちは次のとおりである。
- アル＝カーシム（彼がアブー・アル＝カーシムとクンヤ（敬称）で呼ばれるようになった由来）
- ʻアブドゥッラー（この二人は幼少期に亡くなった）
- ルカイヤ
- ザイナブ
- ウンム・クルスーム
- ファーティマ

これらはすべてハディージャ（アッラーの御満悦あれ）から生まれた子どもであり、イブラーヒームのみは、母がマーリヤ・アル＝キブティーヤであった。

土曜日：サハーバ・モジュール ― ʻアリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）

❖ **彼の名前と誕生：**彼はアブー・アル＝ハサン、ʻアリー・イブン・アビー・ターリブ・イブン・ʻアブドゥル＝ムッタリブ・アル＝ハーシミー・アル＝クライシーである。彼はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の従兄弟であり、またその婿でもあった。彼は、預言の開始より十年前にマッカで生まれた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が使命を授かった時、ʻアリーはまだ少年であり、青年の中で最初にイスラームを受け入れた者であった。

❖ **彼の生涯と美徳：**ʻアリー（アッラーの御満悦あれ）は容姿端麗で、大きく黒い目をしていた。彼は勇敢な騎士であり、その勇気と英雄的行動で知られていた。また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に、すべての戦いに参加した。

彼の最も顕著な美徳の中には、次のものがある。

• ヒジュラ（聖遷）の夜、彼は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の身代わりとしてその寝床に横たわり、多神教徒たちに、預言者がまだ去っていないと思わせた。
• 彼は啓示の書記の一人であり、クルアーンの記録を任されていた。
• 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が逝去された際、その御遺体を清めたのはʻアリー（アッラーの御満悦あれ）であった。彼はその御姿を見て次のように言った。私の父と母をあなたのために捧げます。あなたは生においても清く、死においても清いお方でした。[1]

彼は、クルアーン学において最も知識豊かなサハーバの一人であった。彼は次のように語ったと伝えられている。
アッラーの書について、私に問いなさい。夜に啓示されたのか昼に啓示されたのか、平地でなのか山でなのか、私が知らない節は一つもない。[2]タービウィー（後継者世代）のマスルーク・イブン・アル＝アジュダʻは次のように言った。知識は三人のもとに集まった。マディーナの学者、シャームの学者、そしてイラクの学者である。マディーナの学者はʻアリー・イブン・アビー・ターリブ、クーファの学者はʻアブドゥッラー・イブン・マスʻウード、そしてシャームの学者はアブー・アッ＝ダルダーであった。[3]

[1] イブン・マージャ（1207）
[2] ターリーフ・ディマシュク（42/398）
[3] ターリーフ・ディマシュク（42/410）

‘ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）の殉教の後、‘アリー（アッラーの御満悦あれ）は指導者の地位を担い、第４代の正統カリフとなった。
彼のカリフ在位中、彼は市場において公正を命じ、商人たちがイスラームの規定を遵守するよう徹底した。

‘アリー（アッラーの御満悦あれ）は、謙虚さ、禁欲、そして来世への専心で知られていた。ある時、アル＝アシュタル・アン＝ナハイーが彼のもとを訪れ、夜の礼拝に立っている彼を見た。彼は言った。
信者の長よ！ あなたは昼は断食し、夜は起きて礼拝し、その間もご自身を酷使されています。
‘アリー（アッラーの御満悦あれ）は答えた。
来世への旅は長い。その道は夜を歩むことで進まねばならないのだ。[1]

❖ 彼の死：

‘アリー（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦４０年、ラマダーン月２１日の夜に逝去した。クーファのマスジドで、信者たちを率いて夜明けの礼拝を導いていた最中、イブン・ムルジャムによって毒を塗られた剣で頭部を打たれたことが原因であった。彼はその襲撃の後、三日間生き延び、６３歳でこの世を去った。彼のカリフ在位期間は５年間であった。

[1] Majmūʿ Rasāʾil ibn Rajab (4/421)

週例知識クイズ — 第 4 週

モジュール	質問	選択肢	正答
タフスィール	アル＝ハンナース（Al-Khannās）の意味は何か。	[a] アッラーの想起の際に退き隠れる者[b] 不注意の時に心へ疑念や虚偽を投げかける者[c] 礼拝者の礼拝を混乱させる者	a
ハディース	行為的偽善の規定は何か。	[a] 大罪の一つである[b] 大シルクである[c] 小シルクである	a
アキーダ	‘アキーダが諸学問の中で最も高貴で偉大である理由は何か。	[a] 礼拝行為に関係しているから[b] 至高なるアッラーに関係しているから[c] 問題の深遠さによるから	b
フィクフ	排泄中に話すことの規定は何か。	[a] 忌避される行為である[b] 許容される[c] 禁止である	a
スィーラ	ハディージャは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の子のうち、誰を出産していないか。	[a] ファーティマ・アッ＝ザフラー[b] アル＝カーシム[c] イブラーヒーム	c
サハーバ	‘アリー（アッラーの御満悦あれ）が知られていた点は何か。	[a] 勇敢さと英雄性[b] 頻繁な旅[c] 隠遁	a

5週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール・モジュール ―アル＝カーフィルーン章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ يَا أَيُّهَا الْكَافِرُونَ (1) لَا أَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ (2) وَلَا أَنْتُمْ عَابِدُونَ مَا أَعْبُدُ (3) وَلَا أَنَا عَابِدٌ مَا عَبَدْتُمْ (4) وَلَا أَنْتُمْ عَابِدُونَ مَا أَعْبُدُ (5) لَكُمْ دِينُكُمْ وَلِيَ دِينِ (6)

慈悲あまねく御方、慈悲深き御方であるアッラーの御名において。言え。不信仰の者たちよ。私は、あなたがたが礼拝しているものを礼拝しない。また、あなたがたも、私が礼拝している御方を礼拝しない。私は、あなたがたが礼拝してきたものを、今後も決して礼拝しない。また、あなたがたも、私が礼拝している御方を礼拝することはない。あなたがたにはあなたがたの宗教があり、私には私の宗教がある。

❖ 啓示の理由：

このスーラは、多神崇拝者の一部が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に対し、彼が一年間彼らの神々を礼拝し、その代わりに彼らが一年間彼の神を礼拝するという提案を持ちかけ、彼らの考えでは相互の対立を終わらせるための妥協を図ったことに応じて啓示されたものである。[1]

❖ このスーラの徳：

‘アブドゥッラー・ブン・‘ウマル（アッラーが両名を御喜びになられますように）から次のように伝えられている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。言え：不信仰の者たちよは、クルアーンの四分の一に相当する。[2] また、‘アブドゥッラー・ブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）は次のように述べている。私は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が、マグリブの後の二ラカアと、ファジュルの前の二ラカアにおいて、言え：不信仰の者たちよと言え：かれはアッラー、唯一なる御方であるを唱誦されるのを、何度聞いたか数え切れない。[3]

❖ このスーラの主題：

不信仰およびその信奉者からの断絶。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語句	転写	意味
لَا أَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ	Lā aʿbudu mā taʿbudūn	私は、あなたがたが礼拝しているものに礼拝しない。
وَلَا أَنَا عَابِدٌ مَا عَبَدتُّمْ	Wa-lā anā ʿābidun mā ʿabadtum	私は、将来においても、あなたがたが礼拝してきたものを決して礼拝しない。
لَكُمْ دِينُكُمْ	Lakum dīnukum	あなたがたには、あなたがたの宗教がある — 多神崇拝と不信仰。
وَلِيَ دِينِ	Wa liya dīn	私には、私の宗教がある — 誠実さと唯一信仰。

[1] タフスィール・アッ＝タバリー（24/703）
[2] アッ＝ティルミズィーによる伝承（2893）
[3] アッ＝ティルミズィーによる伝承（431）

❖ 全体的な意味：

アル＝カーフィルーンは、誠実さと純粋な唯一信仰へと招くマッカ啓示のスーラである。本章は、あらゆる形態の多神崇拝と迷妄からの断絶を明確に宣言している。アッラーは、御使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対し、不信仰の者たちが抱いていた、彼が真理を放棄して彼らの虚偽の宗教に加わるであろうという期待を、断固として拒絶するよう命じられた。預言者は、ただアッラーのみを礼拝することにおいて堅忍し続ける一方で、彼らは虚偽の神々の礼拝に固執し続ける。彼らには、祖先から受け継いだ彼らの宗教があり、彼には、アッラーが彼のために是認された彼自身の宗教があるのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 神性におけるアッラーの唯一性と、ただかれのみを礼拝する義務を確証し、偶像礼拝を否定すること。

2. 信仰の民と多神崇拝の民との明確な区別、ならびに、彼らの道と信条からの断絶。

3. 礼拝においてアッラーのみを特別視せず、また宗教としてイスラームを是認しない者は、不信仰者と見なされること。

月曜日：Ḥadīth（ハディース）モジュール — アッラーへのタクワー（敬虔さ）を守ることへの勧め

アブー・ザルル・アル＝ギファーリー（アッラーの御満悦あれ）からの伝承によると、彼は次のように述べた。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。あなたがどこにいようとも、アッラーを畏れなさい。そして悪行の後には善行を行いなさい。それはそれ（悪行）を消し去る。また、人々に対しては良き品性をもって接しなさい。[1]

❖ 解説：

これは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が、信仰者が守るべき（アッラーの権利）と（被造物の権利）を簡潔に要約された、偉大なハディースである。

・アッラーの権利：
しもべが、義務を果たし禁じられたことを避けることによって、アッラーを正しく畏れることである。人間の本性は過ちに陥りやすいため、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、施し、誠実な悔悟、赦しを求めること、アッラーへ立ち返ることといった善行によって、罪を消し去るよう教えられた。これにより悪行は消滅し、心は清められる。

・人々の権利：
良き品性をもって人々に接することである。すなわち、優しい言葉、朗らかな表情、忍耐、寛容、害を加えないこと、そして他人の過ちを赦すことである。

❖ このハディースから得られる益：

1. タクワー（アッラーへの敬虔さ）を守る義務。これは、先人にも後世の人々にも与えられたアッラーの勧告であり、また預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がウンマに与えた助言である。
2. タクワーの真の意味とは、アッラーの罰から自分を守る障壁を設けることであり、それは義務を行い、禁じられたことを避けることによって達成される。
3. 罪の後に善行を行うことは、その罪が消し去られる原因となる。
4. 人々に対して良き品性を示すことへの奨励。アッラーは次のように仰せになった。人々には善い言葉を語りなさい。[2]

---

[1] イマーム・アフマド（21441）およびアッ＝ティルミズィー（1988）による伝承
[2] アル＝バカラ章（2:83）

火曜日：アキーダ・モジュール — 正しいアキーダの実り

正しいアキーダの実り：
アキーダの実りとは、それを堅く守ることによって生じる高貴な成果である。それらは多岐にわたり、次のようなものが含まれる。

1. 意図と礼拝における純正さ。健全な信仰と主に対する正しい認識を有する者は、アッラーを崇め、常にかれを意識し、行いをただかれのために清める。
2. アッラーの最も美しい御名と崇高なる属性に基づく、完全な愛と畏敬。
3. 事柄における強い決意と真剣さ。信仰者は、アッラーの報いを望んで善行の機会を逃さず、また、その懲罰を恐れて罪を避ける。
4. 服従の容易さと欲望への抵抗。信仰の根本には、アッラーが常に見ておられること、復活があること、そして行いが報いまたは罰を受けることを知るという認識が含まれるからである。
5. タウヒードは、罪の赦しと過失の償いへと導く。ハディース・クドゥスィーにおいて、次のように伝えられている。
   アーダムの子よ。たとえあなたが地を満たすほどの罪を携えてわれのもとに来たとしても、われに何ものも配することなくわれと会うならば、われは同じほどの赦しをもってあなたに臨むであろう。[1]
6. タウヒードは、楽園に入るため、そして業火から免れるための最大の要因である。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   アッラーのほかに礼拝されるべき神はなく、ただ唯一であり、かれに同位者はないこと、ムハンマドがそのしもべであり使徒であること、また、‘イーサーがアッラーのしもべであり使徒であり、マルヤムに授けられたかれの御言葉であり、かれからの霊であること、そして楽園が真実であり、業火が真実であることを証言する者を、アッラーはその行いのいかんに関わらず楽園に入らせられる。[2]
7. 正しいアキーダは、この現世と来世において、恩恵が増し、害が取り除かれる最大の理由である。アッラーは仰せになった。
   もし町々の人々が信仰し、アッラーを畏れていたならば、われらは天と地からの諸々の祝福を彼らのために開いたであろう。[3]
8. 正しい信仰は、苦悩を軽減し、災厄を和らげる。それは心を安らがせ、魂を静め、信仰者が満足、忍耐、そしてアッラーの叡智と慈しみへの信頼をもって試練に向き合うことを可能にする。また、この現世の本質とその終わりについての正しい理解を与える。

[1] アッ＝ティルミズィー（3540）による伝承
[2] アル＝ブハーリー（3252）、ムスリム（28）による伝承
[3] アル＝アアラーフ章 96 節

水曜日：フィクフ・モジュール — フィトラの諸スンナ（人間本来の性向）

フィトラの諸スンナとは、清潔さ、浄化、美しい身だしなみを含むがゆえに、われらの純正なる宗教がもたらした高貴な特性の一つである。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
（五つはフィトラからのものである。陰毛を剃ること、割礼、口髭を整えること、脇毛を抜くこと、そして爪を切ることである。）[1] これらが（フィトラ）と呼ばれるのは、それを実践する者が、アッラーが人々を創造された本来の性向の上にあり、また、人々のために選ばれた最良で最も完全な姿にあるとされるからである。これはまた、アッラーがその預言者たちのために選ばれた古来のスンナであり、諸々の啓示された法が一致して認めてきた伝統でもある。

その詳細は次のとおりである。

1. 陰毛を剃ること：これは、陰部周辺の毛を除去することを指す。これは、剃刀のような刃物を用いることから（イスティフダード）と呼ばれる。その除去は清潔さと美化をもたらす。また、剃刀に限らず、製品化された除毛剤などを用いて除去することも許されている。
2. 割礼：男子に対しては義務であり、女子に対しては推奨されるスンナである。割礼の最も良い時期は幼少期であり、治癒が早く、完全な状態で成長するためである。その英知には次の点が含まれる。
   - それは預言者イブラーヒーム（彼の上に平安あれ）のスンナであり、純正一神信仰者たちの伝統であること。
   - 清浄を保ち、不浄が溜まることを防ぐこと。
   - 性的欲求を調整し、過度にも不足にも偏らないようにすること。
3. 口髭を整え、短く剃ること：真正な伝承は、口髭を整え、髭を伸ばすことを勧めている。これは清潔さを伴い、男性らしさを示し、不信仰者の慣習と区別し、男女を区別するためである。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。口髭を整え、髭を伸ばし、ゾロアスター教徒と異なりなさい。[2]また、仰せになった。多神教徒と異なりなさい。髭を伸ばし、口髭を整えなさい。[3]ここでいう整える短く剃るとは、非常に短く切ることを意味する。
4. 爪を切ること：爪を切ることは、それを美しく整え、下に溜まった汚れを除去し、獣に似ることを防ぐ。
5. 脇毛を除去すること：清潔さを保ち、悪臭を除くために、脇毛を抜くことが推奨される。抜くことが難しい場合は、剃る、あるいは他のいかなる方法によって除去してもよい。

---

[1] アル＝ブハーリー（5889）およびムスリム（257）による伝承。
[2] ムスリム（260）による伝承。
[3] アル＝ブハーリー（5892）およびムスリム（258）による伝承。

これら五つに加えて、さらに次の五つが加えられる。
・シワーク（歯木）を用いること、
・鼻と口をすすぐこと、
・排泄後のイスティンジャー（洗浄）、
・関節部を洗うこと。これは、汚れがたまりやすい指の関節や折れ目の部分を指す。

アッラーの使徒（彼にアッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
フィトラには十のことがある。口髭を整えること、髭を伸ばすこと、シワークを用いること、鼻を水ですすぐこと、爪を切ること、関節部を洗うこと、腋毛を抜くこと、陰毛を剃ること、そして水を用いてイスティンジャーを行うことである。[1]

[1] ムスリム（261）による伝承。

木曜日：スィーラ（預言者伝）モジュール — 黒い石（アル＝ハジャル・アル＝アスワド）の出来事

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）が三十五歳に達した頃すなわち、啓示を授かる五年前クライシュ族はカアバ神殿の再建に着手しました。これは当時マッカを襲った洪水によって損傷を受けたためです。彼らは作業を部族ごとに分担し、それぞれがカアバの一辺を担当し、谷から採取した石で建設しました。

建物が完成すると、黒い石を元の位置に据えるという名誉を誰が得るかを巡って争いが起こりました。各部族がこの栄誉を自分たちのものにしようとし、緊張は高まり、ついには戦争寸前にまで至りました。

そのとき、アブー・ウマイヤ ・ブン・アル＝ムギーラ・アル＝マフズーミーが介入し、カアバの門から最初に入ってくる者を仲裁者としようと提案しました。人々はこれに同意し、待つことにしました。

最初に入ってきたのは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）でした。彼らは彼を見るや否や、この方こそ誠実なる者（アル＝アミーン）だ！この方を裁定者として受け入れよう！と叫びました。

人々が事情を説明すると、彼（アッラーの祝福と平安あれ）は布を持って来るよう求め、その中央に黒い石を置きました。そして各部族の代表に布の端をそれぞれ持たせ、全員で持ち上げて壁の所定の位置まで運ばせました。そうしてから、彼自身の手で黒い石を元の位置に据えました。[1]

この方法によって、彼は差し迫っていた争いを解決し、その深い叡智と、健全で卓越した判断力を明らかにしたのです。

[1] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ第 2 巻 300 頁。

土曜日：サハーバ・モジュール ― ʿアブドゥル＝ラフマーン・ブン・ʿアウフ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 氏名と誕生：

彼は、ʿアブドゥル＝ラフマーン・ブン・ʿアウフ・ブン・ʿアブド・ʿアウフ・ブン・ʿアブド・ブン・アル＝ハーリス・ブン・ズフラ・ブン・キラーブである。彼の系譜は、（キラーブ・ブン・ムッラ）において、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の系譜と合致する。彼は、象の年からおよそ十年後にマッカにおいて生まれた。イスラーム以前の名は（ʿアブド・ʿアムル）であったが、イスラームに入信した後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）によって（ʿアブドゥル＝ラフマーン）と名付けられた。[1] また、彼は（アブー・ムハンマド）というクンヤ（敬称）でも知られていた。

❖ その生涯と徳：

ʿアブドゥル＝ラフマーン・ブン・ʿアウフ（アッラーの御満悦あれ）は、最も早くイスラームを受け入れた者たちの一人であり、最初の八人のうちに数えられる。また、楽園を約束された十人の一人であり、二度の移住のいずれにおいても初期のムハージルーンの一人であった。彼は貞潔で寛大であり、アッラーの道において多くを施した。謙虚で禁欲的であり、その謙遜さと質素さのため、召使いたちの中を歩いていても見分けがつかないほどであった。また彼は、交易に精通した優れた商人でもあった。彼の商業に関する有名な逸話の一つとして、彼がマディーナに到着した際、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、彼とアンサールのサアド・ブン・アル＝ラビーʿとの間に兄弟関係を結ばれたことが挙げられる。サアドは自らの財産を分け与えることを申し出たが、ʿアブドゥル＝ラフマーンはそれを辞退し、市場を教えてほしいと言った。そこで彼は商いを始め、売買を行い、ほどなくして多くの財を得た。[2]ʿアブドゥル＝ラフマーン（アッラーの御満悦あれ）は、バドルの戦い、リドワーンの誓約、その他すべての戦いに参加した。また、タブーク遠征の際には、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が彼の後ろで礼拝を行われたこともある。[3]ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）の殉教後、協議評議会において指導者の地位に就くことを辞退した。さらに、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の逝去後は、信徒の母たちに対して特に誠実に仕え、継続的に財と配慮をもって彼女たちを支えた。死が近づいた際、彼は存命していたバドルの戦いの参加者一人ひとりおよそ百名に四百ディーナールを遺贈し、また信徒の母たちそれぞれにも多額の財を残した。[4]

❖ その死：

彼は、ヒジュラ暦三十二年に七十五歳で逝去した。葬礼の礼拝はʿウスマーン・ブン・ʿアッファーン（アッラーの御満悦あれ）が導き、アル＝バキーʿに埋葬された。

---

[1] アッ＝タバラーニーによる伝承（253）。
[2] サヒーフ・アル＝ブハーリーによる伝承（5072）。
[3] サヒーフ・アル＝ブハーリーによる伝承（4421）、およびサヒーフ・ムスリムによる伝承（274）。
[4] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ第 10 巻 255 頁。

第 5 週 知識テスト

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	アル＝カーフィルーン章の徳の一つは何か。	[a] クルアーンの三分の一に相当する。[b] クルアーンの四分の一に相当する。[c] クルアーンの二分の一に相当する。	b
ハディース	タクワー（敬虔）の真の意味とは何か。	[a] アッラーの命令を実行し、禁じられたことを避けることによって、アッラーの懲罰との間に防壁を設けること。[b] 現世とその享楽を放棄すること。[c] 発言を減らし、頻繁に沈黙を守ること。	a
アキーダ	アッラーが人を楽園に入らせる最大の要因は何か。	[a] タウヒード（唯一信仰）。[b] 礼拝。[c] 施し。	a
フィクフ	次のうち、フィトラのスンナに含まれるものはどれか。	[a] 香をつけること。[b] ヘンナ。[c] 割礼。	c
スィーラ	黒い石の出来事の際、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は何歳であったか。	[a] 三十歳。[b] 三十五歳。[c] 四十歳。	b
サハーバ	‘アブドゥル＝ラフマーン・ブン・‘アウフ（アッラーの御満悦あれ）の徳の一つはどれか。	[a] 一万人の軍隊を装備したこと。[b] クルアーンを一冊のムスハフに編纂したこと。[c] 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が彼の後ろで礼拝を行われたこと。	c

6週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール・モジュール ―アン＝ナスル章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا جَاءَ نَصْرُ اللَّهِ وَالْفَتْحُ (1) وَرَأَيْتَ النَّاسَ يَدْخُلُونَ فِي دِينِ اللَّهِ أَفْوَاجًا (2) فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ وَاسْتَغْفِرْهُ إِنَّهُ كَانَ تَوَّابًا(3)

慈悲あまねく御方、慈悲深き御方であるアッラーの御名において。
アッラーの援助と勝利が到来し、人々が群れをなしてアッラーの宗教に入るのをあなたが目にする時、あなたの主を讃美しつつ称え、その御赦しを求めなさい。まことに、かれは悔悟を幾度も受け入れられる御方である。

❖ このスーラの主題：

神的な勝利と使命の完成が近づいたことを、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に告げ知らせる吉報。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
الْفَتْحُ	al-fatḥ	勝利・征服。ヒジュラ暦八年におけるマッカ征服を指す。
أَفْوَاجًا	afwājan	群れを成して、大勢で。次々と人々がイスラームに入ること。
فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ	fassabbiḥ bi-ḥamdi rabbik	感謝をもって主を讃美し、称えること。
تَوَّابًا	tawwābā	しもべたちの悔悟を繰り返し受け入れられる御方。

❖ 全体的な意味：

アン＝ナスル章は、マディーナ啓示のスーラである。本章において、アッラーはその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に二つの事柄をお与えになった。
一つは吉報であり、それは神的援助、マッカの征服、そして多くの人々が群れを成してイスラームに入ることである。
もう一つは命令であり、それは感謝をもってアッラーを讃美し、称え、その御赦しを求めることである。
なぜなら、この決定的な勝利は、地上における預言者の使命の終わりが近づいたことを示すものであったからである。

❖このスーラから得られる益：このスーラから得られる益：

1. アッラーがその預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に与えられた約束が成就したこと。
2. アッラーの恩恵が現れた時、それに対して感謝を示すことの義務性：
   – 舌によって、すなわち讃美をもって感謝すること、
   – 身体によって、すなわち服従し、背反を避けること、
   – 心によって、すなわち、その恩恵が報酬として当然与えられたものではなく、ただアッラーからの御恵みであると認めること。
3. 謙虚さを保ち、あらゆる徳と成功をアッラーに帰することの義務。
4. アッラーの念想を継続することへの奨励すなわち、讃美し、称え、その唯一性を宣言すること。
5. 絶えず悔悟し、アッラーの御赦しを求めることの強調。
6. スンナにおいて確立されているように、ルクーウおよびスジュードの際に、(スブハーナカ・アッラーフンマ・ワ・ビ・ハムディカ、アッラーフンマ・イグフィル・リー)と唱えることの推奨。[1]

[1] アル＝ブハーリー（4968）およびムスリム（484）による伝承。

月曜日：ハディース・モジュール — 正しい導きへ呼びかけることの徳と、迷妄へ呼びかけることの危険性

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）によると、彼は次のように伝えている。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
正しい導きへと人々を呼びかける者は、彼に従った者たちの報奨と同等の報奨を得る。その際、彼らの報奨が少しも減じられることはない。また、迷妄へと人々を呼びかける者は、彼に従った者たちの罪と同等の罪の重荷を負う。その際、彼らの罪が少しも減じられることはない。[1]

❖ 解説：

このハディースは、他者を正しい導きと善行へ招くことを奨励し、迷妄、宗教的逸脱、堕落へと呼びかけることに対して強く警告している。
正しい導きへ招き、人々に真理を明らかにする者の報奨は、彼に従った者たちと同じ報奨を得ることであり、その際、彼らの報奨が減少することはない。
一方、迷妄や罪へと呼びかける者の懲罰は、彼に従った者たちと同じ罪の重荷を負うことであり、その際、彼らの罪が軽減されることもない。

❖ このハディースから得られる益：

1. アッラーへの呼びかけと善を広めることの徳。
2. 迷妄と悪へ呼びかけることの極めて大きな危険性。
3. 善行を率先して行い、他者がそれに倣うことを期待することへの奨励と、悪を先導することへの警告それが模範となることへの戒め。
4. 迷妄へ呼びかける者たち、すなわち悪しき仲間やその他の者に対して警戒する義務。

---

[1] ムスリム（2674）による伝承。

火曜日：アキーダ・モジュール — 証言ラー・イラーハ・イッラッラー

❖ ラー・イラーハ・イッラッラーという証言の地位：

この証言は、タウヒード（唯一信仰）の宣言であり、誠実の基盤であり、敬虔の言葉であり、最も堅固な拠り所である。それはイスラームの第一の柱であり、不信仰と信仰とを分ける基準であり、審判の日において天秤の上で最も重い言葉である。 まことに、それは楽園への鍵であり、そのためにアッラーは使徒たちを遣わし、啓典を啓示され、またそれのために審判の日が起こり、人々は不幸なる者と幸福なる者とに分けられる。ゆえに、すべての信仰者にとって、この言葉を重んじ、その真価を正しく理解し、大切にすることは義務である。

❖ ラー・イラーハ・イッラッラーの意味：

この証言は、口で唱えるべき言葉を有すると同時に、理解し、実践されるべき意味をも有しており、理解や実行を伴わない単なる発語だけでは十分ではない。

・アシュハド（私は証言する）の意味：
私は、確信をもって認め、承認し、断言する。

・イラーハ（神）の意味：
礼拝され、崇敬される存在。愛と帰依をもって心が向けられる御方。

したがって、ラー・イラーハ・イッラ＝ッラーフの意味とは次のとおりである。
真に礼拝されるに値する神は、アッラー以外に存在しない。アッラーは仰せになった。それは、アッラーこそが真理であり、人々がかれ以外に祈り求めるものは虚偽であるからである。[1]

❖ ラー・イラーハ・イッラッラーの二つの柱：

この偉大なる言葉は、二つの根本的な柱の上に成り立っている。

1. **否定**（ラー・イラーハ）という言葉によって、すべての偽りの神性を否定すること。
2. **肯定**（イッラッラー）という言葉によって、真の神性をただアッラーのみに肯定すること。

この二つの柱に対する証拠は、次のアッラーの御言葉である。イブラーヒームが、その父と民に言った時のことを想起せよ。私は、あなた方が礼拝するものとは無縁である。ただし、私を創造された御方は別である。まことに、かれは私を導かれる。そして、かれはそれを、彼の子孫の間に永続する言葉とされた。彼らが立ち返るためである。[2]

[1]巡礼章：62
[2]金飾章：26–28

土曜日：サハーバ・モジュール ―タルハ・ブン・ʿウバイドゥッラー（アッラーの御満悦あれ）

❖ 氏名と誕生：

彼は、タルハ・ブン・ʿウバイドゥッラー・ブン・ʿウスマーン・ブン・ʿアムル・ブン・カʿブ・ブン・サʿド・ブン・タイム・ブン・ムッラである。

彼の系譜は、ムッラ・ブン・カʿブにおいて、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の系譜と合致する。

彼は、預言が始まる十五年前にマッカで生まれた。

❖ その生涯と徳：

タルハ（アッラーの御満悦あれ）は、イスラームへの初期の先駆者の一人であり、最初の八人のうちに数えられ、また楽園を約束された十人の一人であった。さらに、ʿウマル・ブン・アル＝ハッターブが自らの後継者を選定するために指名した、協議評議会（シューラー）の六名の一人でもあった。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼の生前に殉教の吉報を与え、次のように仰せになった。
地上を歩く殉教者を見たい者は、タルハ・ブン・ʿウバイドゥッラーを見なさい。[1]彼は寛大で気前が良く、アッラーの道において度々施しを行った。バヌー・タイムの中で困窮する者を決して放置せず、彼らの家族を養い、未亡人を支え、召使いたちを扶養し、負債に苦しむ者たちの借金を返済した。[2]
ある時、彼は一片の土地を七十万ディルハムで売却した。金が彼のもとに運ばれて来た時、彼は言った。この財が一夜でも自分の家に留まり、アッラーから何が下されるかを知らずにいる者は、アッラーについて欺かれているのである。
そして彼は、夜通し召使いに命じてマディーナの街路でそれを分配させ、朝までに一ディルハムも残らなかった。[3] また彼（アッラーの御満悦あれ）は、勇敢で剛健であった。ウフドの戦いにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を守り抜き、その結果、彼の手は麻痺し、それは彼の死に至るまで回復しなかった。[4]
さらに戦闘中、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が上に乗られるために自ら背を差し出したところ、預言者は仰せになった。
タルハは、その務めを果たした。[5]

---

[1] アッ＝ティルミズィーによる伝承（3739）。
[2] アッ＝タバカート・アル＝クブラー第 3 巻 166 頁。
[3] ターリィーフ・アッ＝タバリー第 4 巻 405 頁。
[4] アル＝ブハーリーによる伝承（3724）。
[5] アッ＝ティルミズィーによる伝承（3738）。

ある時、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、次の御言葉を朗誦された。

信仰者の中には、アッラーに対して誓ったことに真実であった者たちがいる。彼らの中には、その誓いを果たした者もいれば、なお待っている者もいる。しかし彼らは決して（その決意を）変えることがなかった。[1]

そして預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、タルハを指し示して仰せになった。彼はその者たちの一人である。[2]

❖ その死去：

タルハ（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 36 年ラジャブ月に、64 歳で逝去した。彼はバスラに埋葬された。.

[1]［アル＝アフザーブ章：23］
[2]ヒリヤト・アル＝アウリヤー’（Ḥilyat al-Awliyā’）（270）。

週次知識テスト — 第 6 週

モジュール	設問	選択肢	正解
タフスィール	アン＝ナスル章において言及されている吉報とは何か。	[a] コンスタンティノープルの征服[b] マッカの征服[c] エジプトの征服	**b**
ハディース	正しい導きへと人々を招き、それを明確に示した者への報いは何か。	[a] 清算なしでの楽園への入場[b] ダッジャールの試練からの保護[c] 彼らと同等の報いが与えられること	**c**
アキーダ	ラー・イラーハ・イッラッラーという言葉の意味は何か。	[a] アッラー以外に存在するものはない[b] 真に礼拝されるべきものはアッラー以外にない[c] 礼拝されている存在の中で、アッラー以外に神は存在しない	**b**
フィクフ	スィワークの使用に関する規定は何か。	[a] 個別義務[b] 集団義務[c] 確証されたスンナ	**c**
スィーラ	ヒラー洞窟はどこに位置しているか。	[a] ウフド山[b] ヌール山[c] サファー山	**b**
サハーバ	タルハ（アッラーの御満悦あれ）の勇敢さに関する逸話の一つはどれか。	[a] 二本の剣で戦った[b] ウフドの戦いで預言者を守り、その手が麻痺するまで戦った[c] コンスタンティノープル征服を指揮した	**b**

7週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール（Tafsīr）モジュール —アル＝マサド章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

تَبَّتْ يَدَا أَبِي لَهَبٍ وَتَبَّ (1) مَا أَغْنَى عَنْهُ مَالُهُ وَمَا كَسَبَ (2) سَيَصْلَى نَارًا ذَاتَ لَهَبٍ (3) وَامْرَأَتُهُ حَمَّالَةَ الْحَطَبِ (4) فِي جِيدِهَا حَبْلٌ مِنْ مَسَدٍ (5)

アッラーの御名において。慈悲あまねく、慈悲深き御方 アブー・ラハブの両手は滅びよ。彼自身も滅びよ。彼の財産も、彼が稼いだものも、彼の益とはならない。彼は燃え盛る炎の中で焼かれるであろう。また、薪を運ぶ彼の妻も。その首には、撚り合わせた棕櫚の繊維の縄がある。

❖ このスーラの主題：

アブー・ラハブとその妻の破滅と滅亡が宣告されていること。

❖ 啓示の理由：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が人々を招集し、確かに私は、厳しい懲罰の前にあなたがたへ警告する者であると告げたとき、彼の叔父であるアブー・ラハブが立ち上がり、お前は滅びよ！これのために我々を集めたのかと言った。そこでアッラーは、これらの節を啓示されたのである。[1]

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
تبت	Tabbat	滅びた、破滅した、完全に失われた
وتب	Wa tabb	彼は真に損失と破滅を被った
حمالة الحطب	Ḥammālata al-ḥaṭab	棘のある薪を運び、預言者の通り道に投げ置いていた女
جيدها	Jīdihā	彼女の首
من مسد	Min masad	撚り合わせた粗い棕櫚の繊維の縄。彼女を火中へ投げ入れるために用いられる

[1] アル＝ブハーリー（4973）、ムスリム（208）。

❖ 全体的な意味：

アル＝マサド（Al-Masad）は、クルアーンのムファッサル章群に属するマッカ啓示のスーラの一つであり、タッバト章としても知られている。このスーラは、アッラーとその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の最大の敵の一人であった人物すなわち、預言者の叔父アブー・ラハブ（ʿAbd al-ʿUzzā ibn ʿAbd al-Muṭṭalib）に名指しで言及する点において、特異な特徴を有している。
彼は預言者に激しく敵対し、陰謀を巡らせ、他者を扇動してムスリムたちに危害を加えた。その敵意は彼一人に留まらず、彼の妻ウンム・ジャミール（Umm Jamīl：ʿArwā bint Ḥarb）もまた、あらゆる手段をもって預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を害することに加担していた。
その結果として、アッラーは両者に対して厳しい懲罰を宣告し、とりわけ彼の妻に対しては、特有の刑罰を明示されたのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 信仰者およびアッラーの正しき僕たちを害することの禁止。
2. 財産、子ども、地位、血統は、もしアッラーへの不信仰が伴うならば、何の益ともならないこと。
3. 預言者の使命の真実性を示す証明であることこのスーラは、アブー・ラハブとその妻が火獄に入ることを断言したが、その後さらに十年間生きたにもかかわらず、二人のいずれもイスラームを受け入れることはなく、表面的にさえ改宗することはなかったのである。

月曜日：ハディースモジュール — 宗教における理解を得ることの徳

ムアーウィヤ（Muʿāwiyah）（アッラーの御満悦あれ）の伝承によれば、
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、次のように仰せられた。
アッラーがある者に善を望まれるとき、その者に宗教についての理解をお与えになる。
（合意伝承）[1]

❖ 解説：

宗教における理解（フィクフ／fiqh）とは、アッラーの宗教における諸法規と規定についての知識を意味する。それは、諸預言者たちの遺産であり、彼らが遺したものは知識以外にはなかったという点において、最も高貴で、最も優れた知識である。
このハディースは、宗教知識を求めることが、アッラーがその人に善を望んでおられる明確な徴であることを示している。アッラーは、そのような者に対して、御自身を知ること、啓示された宗教を理解すること、そして来世における御満悦と成功への道を知ることを容易にされるのである。
また、このハディースは暗示的に、イスラームの知識を求めることから背を向け、それに関心を示さない者は、アッラーが善を望んでおられない者であることも示している。なぜなら、その者は善と幸福に到達するための手段を奪われているからである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 宗教についての理解を深めることへの奨励と、その徳および高い地位の明示。
2. 宗教知識を求めることの徳は、アキーダ、フィクフ、ハディースその他、宗教のいかなる分野を学ぶことにも及ぶ。
3. 宗教知識を求める徳は、アッラーによって容易にされた現代的手段オンライン・ネットワーク、電子機器、信頼できるウェブサイト、有益なプラットフォームなどを用いる場合にも適用される。
4. 宗教についての理解を怠ることへの警告であり、それはアッラーがその者に善を望んでおられない徴である。

[1] アル＝ブハーリー（3116）、ムスリム（1037）。

火曜日：アキーダモジュール — ラー・イラーハ・イッラッラーとの証言の条件

ラー・イラーハ・イッラッラー（Lā ilāha illa-Allah／アッラー以外に神はいない）という証言には、シャリーア的根拠によって確立された七つの条件がある。この言葉が主の御前において益となるために、すべてのムスリムはそれらを果たすよう努める義務がある。

その条件とは以下のとおりである：

1. 知識（ʿIlm）：その意味を理解し、否定と肯定が何を意味するのかを知り、それに基づいて行動し、生活の中で実践することである。アッラーは仰せになった。知れ。アッラー以外に礼拝されるべき神はないことを.[1]また仰せになった。知識をもって真理を証言する者たちを除いて。[2]
2. 確信（Yaqīn）：それを口にする者が疑念を一切抱かず、その意味を心の中で完全に確信することである。確信の反対は疑いと躊躇であり、疑念を伴って発せられた証言は無効である。アッラーは仰せになった。真の信仰者とは、アッラーとその使徒を信じ、その後いささかも疑わない者たちである。[3]また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   私は証言する。アッラー以外に礼拝されるべき神はなく、私がアッラーの使徒であることを。これら二つを疑いなく携えてアッラーにまみえる者は、必ず楽園に入る。[4]
3. 受容（Qabūl）：その証言が求めるすべてを拒否や傲慢さなく受け入れ、それに満足することである。多神崇拝者について、アッラーは仰せになった。彼らにラー・イラーハ・イッラッラーと言われたとき、彼らは高慢であった。[5]
4. 服従（Inqiyād）：その証言が求める事柄に対して、身を委ね、従順に従うことである。あなたがたの主のもとへ悔悟して立ち返り、かれに服従せよ。[6]
5. 誠実（Ṣidq）：心と舌が一致した状態で、真実にそれを口にすることであり、内面と外面が調和していること。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   心から真実にアッラー以外に礼拝されるべき神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒であると言う者に対して、アッラーは火獄を禁じられる。[7] もし舌ではそれを言いながら、心が拒絶しているならば、その者は偽信者であり、この証言は彼に何の益ももたらさない。人々の中には、私たちはアッラーと来世を信じると言う者がいるが、彼らは信仰者ではない。彼らはアッラーと信仰者たちを欺こうとするが、実のところ自らを欺いているに過ぎず、それに気づいていない。[8]

---

[1]［ムハンマド章：19］[2]［アッ＝ズフルフ章：86］[3]［アル＝フジュラート章：15］[4]ムスリム（27）[5]［アッ＝サーファート章：35］[6]［アッ＝ズマル章：54］[7]アル＝ブハーリー（128）、ムスリム（32）[8]［アル＝バカラ章：8–9］

1. **誠実（イフラース／Ikhlāṣ）：**
   それを唱えるにあたり、誇示や現世的な利益のためではなく、ただアッラーの御顔（御満悦）を求めて、純粋にアッラーのために発することである。
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、こう仰せになった。
   確かにアッラーは、ラー・イラーハ・イッラッラーと言い、それによってアッラーの御顔を求める者に対し、火獄を禁じられた。[1]
2. **愛（マハッバ／Maḥabbah）：**
   この言葉を愛し、その意味するところを愛し、そしてそれに基づいて行動する者たちを愛することであり、その愛を他のあらゆる愛よりも上位に置くことである。
   かれは仰せになった。
   しかし、信仰する者たちは、アッラーへの愛において最も強い。[2]

[1] アル＝ブハーリー（425）、ムスリム（657）によって伝承された。
[2] ［アル＝バカラ章：165］

水曜日：フィクフモジュール — ウドゥー（小浄）

❖ ウドゥーの徳：

1. 自らを清める者に対するアッラーの愛：
   アッラーは仰せになった。
   まことに、アッラーは度々悔悟する者たちを愛し、また自らを清める者たちを愛される。[1]
2. 復活の日における、ウドゥーの部位の光輝と明るさ：
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   わがウンマは、復活の日に、ウドゥーの痕跡によって、顔と手足が光り輝いた状態で呼び出される。ゆえに、あなたがたの中で、その光輝を増すことができる者は、そうさせなさい。[2]
3. 罪の消滅と位階の昇進：
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   あなたがたに、罪を消し去り、位階を高めるものを告げようか。
   彼らは言った。（はい、アッラーの使徒よ。）
   かれは仰せになった。
   困難の中にあってもウドゥーを完全に行うこと、マスジドへ向かって多くの歩みを重ねること、そして礼拝の後に次の礼拝を待つことそれこそがリバータ（恒常的な備え）である。[3]
4. 楽園における、ウドゥーで洗われた部位への装身具：
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   信仰者の装飾は、ウドゥーが及ぶところにまで達する。[4]

❖ ウドゥーの規定：

ウドゥーは、状況により推奨（マンドゥーブ）となる場合と、義務（ワージブ）となる場合がある。
ムスリムが一日を通して清浄な状態を保つことは推奨されており、これが最も完全で徳の高い状態である。
このため、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、こう仰せになった。
常にウドゥーを保ち続ける者は、信仰者以外にはいない。[5]

---
[1] ［アル＝バカラ章：222］
[2] アル＝ブハーリー（136）、ムスリム（246）
[3] ムスリム（251）
[4] ムスリム（250）
[5] アフマド（22414）

❖ ただし、以下の状況においては、その推奨が特に強調される：

1. アッラーを想起する時、またクルアーンを読誦する時：
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。私は、清浄な状態にある時以外に、アッラーを口にすることを好まなかった。[1]
2. 就寝前：預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。床に就くときには、礼拝のために行うのと同じようにウドゥーを行いなさい。[2]
3. ジャナーバ（大きな不浄）の状態にある者が、飲食・就寝、あるいは再び夫婦関係に戻ることを望む場合：
   アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は語った。
   アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がジャナーバの状態にあり、食事や睡眠を望まれたときには、礼拝のためのウドゥーと同じようにウドゥーを行われた。[3]
   また、かれは仰せになった。
   あなたがたのうちの誰かが妻に近づき、再び戻りたいと望むならば、ウドゥーを行いなさい。[4]
4. グスル（大浄）を行う前：
   これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の慣行であったため、推奨されている。[5]

❖ ウドゥーが義務となる行為：

1. 礼拝（サラート）：預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。あなたがたのうち、不浄の状態となった者がウドゥーを行うまで、アッラーはその礼拝を受け入れられない。[6]
2. タワーフ（カアバの巡回）：次のように伝えられている。彼はウドゥーを行い、その後、カアバの周りをタワーフした。[7]
3. 遮りなくムスハフ（クルアーン写本）に触れること：
   次の御言葉に基づく。
   清められた者以外は、それに触れてはならない。[8]
   また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。清浄な状態にある者以外は、クルアーンに触れてはならない。[9]

---

[1] イブン・ヒッバーン（806）
[2] アル＝ブハーリー（247）
[3] ムスリム（305）
[4] ムスリム（308）
[5] ムスリム（316）
[6] ムスリム（223）
[7] アル＝ブハーリー（1614）、ムスリム（1235）
[8] ［アル＝ワーキア章：79］
[9] マーリク（1/199）、アッ＝ダーラクートニー（1/121）

木曜日：スィーラモジュール — 啓示の始まり

私たちの預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が四十歳に近づかれた頃、預言者性の兆しが現れ始めた。その最初の兆しは、眠りの中で見る真実の夢であった。かれは、暁の光のように明白に実現しない夢を見ることがなかった。
この時期、かれは人々の迷妄と不注意から距離を置き、ヒラー山の洞窟において礼拝に専念し続けていた。その一方で、至高なるアッラーは、重大な使命のために彼を準備されていたのである。

ラマダーン月二十一日の月曜日、彼が洞窟にいたその時、真理が突如として彼のもとに訪れた。ジブリール（彼に平安あれ）が彼のもとに来て、強く抱き締め、疲れ果てるまで包み込んだ。やがて彼を解放し、読めと言った。
彼は答えた。私は読むことができません。
ジブリールはこれを二度繰り返し、そのたびに預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は同じ答えをされた。
その後、ジブリールは言った。
創造されたあなたの主の御名によって読め。かれは、人間を凝血から創造された。読め。あなたの主は最も寛大であられる。かれは筆によって教え、人間に、知らなかったことを教えられた。[1]

これが、アッラーから彼に下された最初の啓示であった。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は震えながら帰宅し、心は激しく動揺していた。彼は妻ハディージャ（アッラーの御満悦あれ）のもとに入り、私を覆ってくれ、私を覆ってくれと言った。彼らは恐れが収まるまで、彼を包んだ。その後、彼は起こった出来事をハディージャに語り、私は自分の身が恐ろしいと言った。彼女は答えた。決してそんなことはありません。喜びなさい。アッラーに誓って、アッラーがあなたを辱めることなど決してありません。あなたは親族関係を保ち、真実を語り、他人の重荷を担い、困窮者を助け、客をもてなし、あらゆる善行を支援しているのですから。その後、彼女は彼を連れて、啓典の民の経典に通じた高齢の学者である従兄ワラカ・イブン・ナウファルのもとへ行った。
ハディージャは言った。従兄よ、あなたの甥の言葉を聞いてください。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、起こったことを彼に伝えた。ワラカは言った。これは、ムーサーに遣わされたナームース（すなわち天使ジブリール）である。ああ、私が若く、あなたの民があなたを追放する時まで生きていられたならば。預言者は尋ねた。（彼らは私を追放するのですか。）
ワラカは答えた。そうだ。あなたがもたらしたものを携えて来た者で、敵対されなかった者はいない。もしその日まで私が生きていたなら、必ずあなたを力強く援助しよう。
しかしその後間もなく、ワラカは亡くなった。[2]

---
[1] ［アル＝アラク章：1–5］
[2] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4953）、サヒーフ・ムスリム（160）

土曜日：サハーバモジュール — ズバイル・イブン・アル＝アッワーム

❖ その名と誕生：

彼は、ズバイル・イブン・アル＝アッワーム・イブン・フワイリド・イブン・アサド・イブン・‘アブド・アル＝‘ウッザー・イブン・クサイイ・イブン・キラーブ・イブン・ムッラ・イブン・カアブである。彼は、クサイイ・イブン・キラーブにおいて、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と血統を共有している。彼は預言の開始より十七年前に生まれ、父アル＝アッワームがフィジャールの戦いで殺害されたため、マッカで孤児として育てられた。

❖ その生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は色白で背が高く、頬には薄い髭をたたえていた。彼は最初期にイスラームを受け入れた者の一人であり、また最初にアビシニアへ移住した者の一人でもあった。彼は楽園の吉報を与えられた十人の一人であり、若くしてイスラームを受け入れた。彼の叔父は、彼を敷物で包み、煙で燻しながら、お前の宗教を捨てろと言ったが、ズバイルは答えた。私は決して不信に戻らない。[1]彼は最初の移住でアビシニアへ渡ったが、長くは留まらなかった。その後マディーナへ移住し、そこで息子アブドゥッラー・イブン・ズバイルが生まれた。彼は、マディーナにおいてムスリムに最初に生まれた子どもであった。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼を称賛して仰せになった。すべての預言者には側近（ḥawārī）がいるが、私の側近はズバイルである。[2]彼は預言者のハワーリーであり、母方の従兄（叔母サフィーヤの子）であり、また、ザート・ニターカインとして知られるアスマー’・ビント・アビー・バクルの夫であった。彼はイスラームにおいて最初に剣を抜いた人物でもある。すべての戦いに参加し、バドルの戦いでは右翼の指揮官を務め、マッカ征服の際にはムハージルーンの三本の旗のうちの一つを担った。また、エジプト征服の際、‘ウマル・イブン・アル＝ハッターブによって、‘アムル・イブン・アル＝‘アースの援軍として派遣された者たちの一人でもあった。彼はさらに、‘ウマルが自身の後継カリフを選出するために指名した、六人のシュ―ラー（諮問評議会）の一員であった。彼は敬虔さと信心深さで知られていた。彼の賢明な言葉の一つに、次のものがある。人知れず行える正義の行いを自らのために確保できる者は、そうすべきである。[3]

❖ その死：

彼はヒジュラ暦 36 年ラジャブ月にバスラにて、64 歳で亡くなり、同地に埋葬された。

---

[1] アッ＝タバラーニー（239）
[2] アル＝ブハーリー（3719）、ムスリム（2415）
[3] アズ＝ズフドイマーム・アフマド（119）

週次知識テスト — 第 7 週

モジュール	設問	選択肢	正解
タフスィール	アル＝マサドの意味は何か。	[a] 柔らかい絹[b] 粗い繊維[c] 鉄の鎖	**b**
ハディース	アッラーがその僕に善を望んでおられることのしるしの一つは、何を授けられることであるか。	[a] 多くの財産[b] 高い地位[c] 宗教における理解	**c**
アキーダ	ラー・イラーハ・イッラッラーという証言における誠実（イフラース／ikhlāṣ）の意味は何か。	[a] 死の直前の最後の言葉であること[b] それを唱えることで、ただアッラーの御顔を求めること[c] すべての礼拝の後に唱えること	**b**
フィクフ	ウドゥーの徳の一つはどれか。	[a] 罪の消滅[b] 糧の増加[c] 正しい子孫	**a**
スィーラ	預言者ムハンマド・ブン・‘アブディッラーは、何歳で預言者・使徒として遣わされたか。	[a] 30 歳[b] 40 歳[c] 50 歳	**b**
サハーバ	ズバイル・ブン・アル＝‘アッワーム（アッラーの御満悦あれ）は、何として知られていたか。	[a] アッラーの使徒の雄弁家[b] このウンマの信頼される者[c] 預言者の弟子（ハワーリー／ḥawārī）	**c**

8週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ―クライシュ章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لِإِيلَافِ قُرَيْشٍ (1) إِيلَافِهِمْ رِحْلَةَ الشِّتَاءِ وَالصَّيْفِ (2) فَلْيَعْبُدُوا رَبَّ هَذَا الْبَيْتِ (3) الَّذِي أَطْعَمَهُمْ مِنْ جُوعٍ وَآمَنَهُمْ مِنْ خَوْفٍ (4)

アッラーの御名において。慈悲あまねく、慈悲深き御方

クライシュの人々の慣習的な安定のために。すなわち、冬と夏の隊商の旅における彼らの慣習的な安定のために。それゆえ、彼らはこの館（カアバ）の主を礼拝すべきである。かれこそは、飢えから彼らを養い、恐怖から彼らに安全を与えられた御方である。

❖ このスーラの主題：

クライシュ族に授けられたアッラーの恩恵と、それに対して彼らが負う義務を明らかにすること。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
الإيلاف	al-īlāf	慣れ親しむこと、習慣化された安定
رِحْلَةَ الشِّتَاءِ	riḥlat al-shitā’	冬の交易の旅（イエメン方面）
وَالصَّيْفِ	al-ṣayf	夏の交易の旅（シャーム〈大シリア〉方面）

❖ 全体的な意味：

スーラ・クライシュはマッカ啓示のスーラであり、アル＝イーラーフ章（Al-Īlāf）としても知られている。本章は、アッラーがクライシュ族に授けた計り知れない恩恵と、それらの恩恵が彼らに何を求めているのかを思い起こさせるために啓示された。
耕作に適さない不毛の地に住みながらも、アッラーは、ハラムへの近接によって彼らに安全を与え、また、夏にはシャームへ、冬にはイエメンへ向かう成功した交易の旅を通して、豊かな糧を与えられた。これら二つの安全で実り多い旅は、彼らの日常において慣例となった。
もしこの二つの恩恵すなわち安全と糧がなければ、彼らは諸部族の中での地位も、自らの土地での安定も得ることはできなかったのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 常にアッラーの恩恵を想起し、それらをただアッラーのみに帰し、忘恩に陥ることを警戒しなければならないこと。
2. 季節の交替は、人間・動物・作物に多様な益をもたらす、アッラーの恩恵の一つであること。
3. カアバが、アッラーの御前および人々の間において有する地位・神聖さ・重要性。
4. 安全というものが、感謝を求める最大の恩恵の一つであること。
5. 人が安全と糧の双方を授けられたとき、なおさらアッラーへの礼拝と服従に身を捧げる義務が重くなること。

月曜日：ハディースモジュール — 有益な預言者の勧告

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）からの伝承によれば、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
わが親友は、私に三つのことを勧めた。毎月三日間の断食、ドゥハーの礼拝を二ラカア行うこと、そして眠る前にウィトル礼拝を行うことである。（両典拠）[1]

❖ 解説：

このハディースは、特に強調されている任意の礼拝断食と礼拝に関する、三つの預言者的助言を含んでいる。
• 第一の助言：毎月三日間の断食。これは報いにおいて一か月の断食に等しい。善行は十倍に報われるため、この実践を継続すれば、一年中断食したのと同じ報いを得ることになる。望ましい日は太陰暦の 13 日・14 日・15 日であるが、他の日でも差し支えない。
• 第二の助言：ドゥハー礼拝。最小は二ラカアであり、その時刻は太陽が槍一本分ほど昇ってから、ズフル直前までである。最も優れた時刻は、暑さが強まる終盤である。この礼拝は多くの施しや想起の代わりとなり、健全な四肢と関節の恩恵に対する感謝の表明でもある。
• 第三の助言：ウィトル礼拝。これは、預言者が在宅時・旅先のいずれにおいても継続された、確証されたスンナである。最小は一ラカアであり、三・五・七・九・十一ラカアまで増やすことができる。その時刻はイシャー後から夜明けまでである。眠りや失念によって逃した場合は、昼に偶数ラカアで埋め合わせることが推奨される。

❖ このハディースから得られる益：

1. 信仰者は、家族や仲間に対して有益な助言を継続的に与えるべきであること。
2. 預言者がウンマの一人に語られた言葉は、ウンマ全体への一般的な教えであること。
3. 礼拝の中には、数や労力が少なくとも、非常に大きな報いをもたらすものがあること。
4. 夜に起きる見込みのない者には、眠る前にウィトルを行うことが推奨され、夜に礼拝する習慣のある者には、遅らせることが望ましいこと。

[1] アル＝ブハーリー（1981）、ムスリム（721）。

火曜日：アキーダモジュール — ムハンマドがアッラーの使徒であるとの証言

❖ ムハンマドはアッラーの使徒であるという証言の地位：

ムハンマドはアッラーの使徒であるという証言は、シャハーダ（信仰告白）の第二の柱である。この証言は一部のみでは成立せず、二つは必ず一つとして確認されなければならない。すなわち、
私は、アッラー以外に真に礼拝されるべき神は存在しないことを証言し、またムハンマドがアッラーの使徒であることを証言する。
という形である。
私たちの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の預言者性を信じることは、必須の義務であり、これなしにイスラームは成立しない。
このため、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がムアーズ・イブン・ジャバルをイエメンへ派遣し、人々をイスラームへ招く際、次のように命じられた。
あなたは啓典の民のもとへ向かう。ゆえに、彼らを最初に招くべきことは、アッラー以外に礼拝される権利を持つ者はなく、そしてムハンマドがアッラーの使徒であるという証言である。[1]

❖ ムハンマドはアッラーの使徒であるという証言の意味：

この証言とは、ムハンマド・イブン・アブディッラーが真にアッラーの使徒であることを、確信をもって認めることである。すなわち、アッラーが彼を特別に啓示と預言者職のために選び、ジンと人間を含むすべての被造物に遣わし、真理と真の宗教へと招かれたことを信じることである。
彼は諸預言者の封印（最後の預言者）であり、彼の後に預言者は存在しない（アッラーの祝福と平安あれ）。
至高なるアッラーは仰せになった。
言え。人々よ、確かに私は、あなたがたすべてに遣わされたアッラーの使徒である。[2]
また仰せになった。
預言者よ、われはあなたを、証人として、吉報をもたらす者として、警告者として、また御許しによってアッラーへと招く者、そして光を放つ灯として遣わした。[3]
さらに仰せになった。
ムハンマドは、あなたがたのいかなる男の父でもない。だが、彼はアッラーの使徒であり、諸預言者の封印である。[4]

❖ ムハンマドはアッラーの使徒であるという証言の要件：

この証言には、次の四つの本質的事項が求められる。これらが欠けるならば、証言は成立しない。

1. 彼が命じたことに従うこと。
2. 彼が伝えたことを真実として信じること。
3. 彼が禁じ、警告したことを避けること。
4. 彼が制定した方法によってのみ、アッラーを礼拝すること。.

[1] アル＝ブハーリー（1425）、ムスリム（19）。
[2] ［アル＝アアラーフ章：158］
[3] ［アル＝アフザーブ章：45–46］
[4] ［アル＝アフザーブ章：40］

水曜日：フィクフモジュール — ウドゥーの義務行為

ウドゥーの義務行為とは、それが欠けるとウドゥーが有効とならない本質的要素のことである。これらは全部で六つあり、アッラーはウドゥーの節において言及されている。
信仰する者たちよ。礼拝に立つときは、あなたがたの顔と、肘までの腕を洗い、頭を撫で、そして踝までの足を洗いなさい。[1]

❖ これらの義務行為の詳細は次のとおりである：

1. 口と鼻をすすぐことを含め、顔全体を洗うこと。口と鼻は顔の一部であり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ウドゥーの際に必ず口と鼻をすすいでいた。[2]
   顔の範囲は、縦は額の上端から顎の下端まで、横は耳から耳までである。
   髭も顔の一部である。皮膚が見える薄い髭の場合は、外側と内側の両方を洗うことが義務である。皮膚を覆うほど濃い髭の場合は、外側を洗うことが義務であり、内側を指で梳くことは推奨される。
2. 指先から肘まで、両手を洗うこと。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、水が肘にまで届くようにしていたためである。[3]
3. 耳を含め、頭全体を一度撫でること。
   • 頭の一部だけを撫でたり、耳を除外したりすることは有効ではない。なぜなら、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、
   耳は頭の一部である。
   と仰せになったからである。[4]
   • 頭の撫で方はどの方法でも有効であるが、最も良い方法は、濡れた両手を頭の前方に置き、うなじまで移動させ、その後、元の位置へ戻すことである。
   • その後、人差し指を耳の中に入れ、親指で外側を撫でる。
   • 女性も男性と同様に行い、編んだ髪や頭部から垂れ下がる髪の上を撫でることはしない。
4. 踝まで足を洗うこと。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、踝を越えるまで足を洗っていた。[5]
5. 順序を守って行うこと。すなわち、顔、腕、頭、足の順である。これは、アッラーがこの順序で言及され、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）もこの順でウドゥーを行ったためである。[6]

---

[1] ［アル＝マーイダ章：6］
[2] ムスリム（235）。
[3] アッ＝ダーラクートニー（1/83）。
[4] アッ＝ティルミズィー（37）。
[5] ムスリム（246）。
[6] ムスリム（235）。

6. 連続させること（ムワーラ—／**muwālāh**）：
   各部位は、前の部位を洗い終えた直後に、間を置かず続けて洗われなければならないことを意味する。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ウドゥーを途切れることのない連続した順序で行われた。[1]

❖ ウドゥーにおいて、これら特定の部位が定められた叡智：

1. それらは身体の中で最も露出している部位であり、汚れや不浄が付着しやすい部分であるためである。
2. それらは罪を犯す際に最も頻繁に用いられる身体の部位であるためである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、こう仰せになった。
   誰であれウドゥーを行い、それを完全に整えるならば、その者の罪は身体から去り、指の爪の下からでさえも取り除かれる。[2]

[1] ムスリム（235）。
[2] ムスリム（245）。

木曜日：スィーラモジュール — 秘密の宣教

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がヒラー洞窟で経験された出来事、そしてジブリール（彼の上に平安あれ）の突然の来訪の後、啓示は、アッラーの御意志のままに、しばらくの期間中断された。その間、預言者は何も目にすることがなかった。
その後、再び啓示が下されたが、今度は使命を伝達し、その責任を担うことを命じるものであった。アッラーは仰せになった。
衣をまとって伏している者よ、起きて警告せよ。あなたの主を崇め、衣を清め、不浄を避けよ。[1]

これらの節において、アッラーは、シルク（多神崇拝）に対して人々に警告を与え、タウヒード（アッラーの唯一性）へと招くことを命じられた。
そこで預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、強い決意をもってダアワ（宣教）に立ち上がり、完全な献身をもって使命に着手された。彼はまず、宣教を秘密裏に開始し、アッラーがその心をイスラームへと開かれた者たちが応答した。
家庭内で最初に信仰したのは、彼の妻ハディージャ（アッラーの御満悦あれ）であった。また、最初期にイスラームを受け入れた者の中には、当時十歳で、飢饉の折に預言者の庇護のもとで暮らしていたアリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）も含まれる。さらに、彼の解放奴隷であるザイド・イブン・ハーリサ（アッラーの御満悦あれ）もイスラームを受け入れた。
預言者の家族以外では、アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）が最初にイスラームを受け入れた人物であった。彼は信仰を受け入れた直後から、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を支援し、使命の拡大に尽力した。その努力を通じて、次の人々がイスラームを受け入れた。
ウスマーン・イブン・アッファーン、タルハ・イブン・ウバイドッラー、サアド・イブン・アビー・ワッカース、アブドゥルラフマーン・イブン・アウフ、ズバイル・イブン・アル＝アウワーム、アブー・ウバイダ・アーミル・イブン・アル＝ジャッラーフ（アッラーの御満悦があらんことを）。
また、この時期の初期ムスリムには、次の人々も含まれていた。
- ʿアンマール・イブン・ヤースィル
- ビラール・イブン・ラバーフ
- ジャアファル・イブン・アビー・ターリブ
- アル＝アルカム・イブン・アビー・アル＝アルカム — 彼の家で、ムスリムたちは秘密裏に集っていた（アッラーの御満悦があらんことを）。

宣教は秘密のままであったが、信仰者の数は日を追うごとに着実に増え、三年後、アッラーはその使徒に、宗教を公然と宣べ伝え、ダアワを公にするよう命じられた。

[1] ［アル＝ムダッサッスィル章：1–5］

土曜日：サハーバ モジュール ― サアド・イブン・アビー・ワッカース（アッラーの御満悦あれ）

❖ その名と誕生：

彼は、サアド・イブン・アビー・ワッカース・アル＝クライシー・アズ＝ズフリーである。彼の父は、アブー・ワッカース（マ―リク・イブン・ワヒーブ・イブン・アブド・マナーフ・イブン・ズフラ・イブン・キラーブ）である。彼は、預言者職が始まる十四年前にマッカで誕生した。

❖ その生涯と徳：

彼は若くしてイスラームを受け入れた。ある者は彼が三番目に、また別の者は七番目に改宗したと言っている。彼は楽園の吉報を与えられた十人の一人であり、イスラームへの最初期の先駆者の一人であった。 彼は、すべての戦いにおいて預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に参加した。また、ヒジュラ後一年目、クライシュの隊商に対して派遣された最初の軍事遠征において、アッラーの道のために最初に矢を放った人物である。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を称賛して、これは私の叔父である。誰か、自分の叔父を私に示してみよ。[1]
と仰せになった。これは、サアドが、預言者の母と同じ部族であるバヌー・ズフラに属していたためである。ウフドの日、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に対し、射よ。あなたのために、私の父母が犠牲とならんことを。[2]
と仰せになった。また彼のために、おおアッラーよ、彼の狙いを正確なものとし、彼の嘆願を受け入れ給え。[3]とドゥアーをされた。その結果、彼は最も優れた射手の一人となり、視力においても極めて鋭敏な者となった。ウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）は、彼をペルシアと戦う軍の司令官に任命した。彼はアル＝カーディスィーヤの戦いでムスリムを勝利に導き、イラクにおいてキスラー（ササン朝の都）の諸都市を開いた。
彼は、ウマルの命によって西暦 17 年（ヒジュラ暦）にクーファの町を建設した後、同じくウマルによってその総督に任命された。また、ウマルの死後に次のカリフを選出するために指名された、六人から成るシューラー評議会の一員でもあった。
彼は禁欲、敬虔さ、そして世俗的な争いから距離を置くことで知られていた。息子への賢明な言葉の中には、次のようなものがある。わが子よ、礼拝を行おうとするなら、ウドゥーを完全に整えなさい。そして、それが最後の礼拝であるかのように礼拝しなさい。貪欲に注意しなさい。それは現前する貧困だからである。満足せよ。満足こそが真の富である。言葉や行為において、弁解を必要とするようなことを避けなさい。そうすれば、その後は好きなように行ってよい。[4]

---

[1] アッ＝ティルミズィー（3752）。
[2] アル＝ブハーリー（2905）、ムスリム（2411）。
[3] アル＝ハーキム（3/500）。
[4] イマーム・アフマドアッ＝ズフド（149）。

❖ その死：

彼はヒジュラ暦 55 年、アル＝アキークで死去し、マディーナに埋葬された。彼は、ムハージルーンの中で最後に世を去った人物であった。

週次知識テスト — 第 8 週

モジュール	設問	選択肢	正解
タフスィール	クライシュ族の冬の隊商の旅はどこへ向かっていたか。	[a] イエメンへ[b] シャーム（シリア地方）へ[c] アビシニアへ	**a**
ハディース	ドゥハー礼拝の時間はいつから始まるか。	[a] ファジュル礼拝の後[b] 日の出の後[c] 太陽が地平線から槍一本分ほど高く昇ったとき	**c**
アキーダ	ムハンマドはアッラーの使徒であるという証言の意味は何か。	[a] 彼の生涯や出来事の詳細を知ること[b] 彼が啓示と使命をもって選ばれた、真のアッラーの使徒であると断定すること[c] 教友たちを敬い、尊重すること	**b**
フィクフ	ウドゥー（における義務行為はいくつあるか。	[a] 四つ[b] 五つ[c] 一つ	**b**
スィーラ	秘密の宣教（ダアワ）は何年間続いたか。	[a] 三年間[b] 四年間[c] 五年間	**a**
サハーバ	サアド・イブン・アビー・ワッカース（アッラーの御満悦あれ）は、何によって際立っていたか。	[a] アッラーの道において最初に矢を放った人物であること[b] イスラーム最初の殉教者であること[c] アンサールの中で最初にイスラームを受け入れたこと	

9週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ―アル＝マーウーン章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَرَأَيْتَ الَّذِي يُكَذِّبُ بِالدِّينِ (1) فَذَلِكَ الَّذِي يَدُعُّ الْيَتِيمَ (2) وَلَا يَحُضُّ عَلَى طَعَامِ الْمِسْكِينِ (3) فَوَيْلٌ لِلْمُصَلِّينَ (4) الَّذِينَ هُمْ عَنْ صَلَاتِهِمْ سَاهُونَ (5) الَّذِينَ هُمْ يُرَاءُونَ (6) وَيَمْنَعُونَ الْمَاعُونَ(7)

アッラーの御名において。慈悲あまねく、慈悲深き御方

報いを否認する者を、あなたは見たか。それこそが、孤児を乱暴に追い払う者であり、貧者に食を施すことを勧めない者である。それゆえ、礼拝する者たちに災いあれ。彼らは自らの礼拝に無頓着であり、人々に見せびらかすために行い、ささやかな助けさえ差し控える者たちである。

❖ このスーラの主題：

宗教（報い）を否認する者たちの特徴を明らかにし、彼らの姿を描写し、その行いを非難するとともに、彼らに似た者たちへ警告すること。

❖ 啓示の理由：

このスーラの冒頭部分は、アル＝アース・イブン・ワーイル・アッ＝サフミー（al-ʿĀṣ ibn Wāʾil al-Sahmī）について啓示された。
報いを否認する者を、あなたは見たか。孤児を乱暴に追い払い、貧者に食を施すことを勧めない者である。
そして後半部分は、偽善者であったアブドゥッラー・イブン・ウバイイ・イブン・サルール（ʿAbdullāh ibn Ubayy ibn Salūl）について、
それゆえ、礼拝する者たちに災いあれ……
から終わりまでが啓示されたのである。[1]

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
يُكَذِّبُ بِالدِّينِ	yukadhdhibu bi-d-dīn	審判の日の報いを否認すること
يَدُعُّ الْيَتِيمَ	yaduʿʿu al-yatīm	孤児を乱暴に押し退け、その権利を否定すること
وَلَا يَحُضُّ	wa-lā yaḥuḍḍu	勧めず、他者を励まさないこと
فَوَيْلٌ	fa-wayl	厳しい懲罰、災厄
سَاهُونَ	sāhūn	礼拝に無頓着で怠慢な者、遅らせたり放棄する者
يُرَاءُونَ	yurāʾūn	人々に見せるために行為をすること（誇示）
وَيَمْنَعُونَ الْمَاعُونَ	wa-yamnaʿūna al-māʿūn	鍋・斧・桶など、日常的に無償で貸される小さな助けさえ差し控えること

[1] イブン・サッラーマ著アッ＝ナースィフ・ワル＝マンスーフ（p.205）。

❖ 全体的な意味：

アル＝マーウーンは、審判の日と来世を否認する者たちの性質を強く非難するスーラである。最初に挙げられる特徴は、孤児を乱暴に扱い、その権利を顧みることなく不正を行うことである。
次に、貧者に食を施すことを自ら行わず、また他者にも勧めない点が挙げられる。
さらにアッラーは、礼拝を行っていながら、その礼拝に無頓着で、遅らせたり軽視したりする者たちに対して警告される。彼らは、アッラーのためではなく、人々に見せるためだけに行為をする偽善者であり、鍋や斧、桶といった基本的な家庭用品でさえ、他者への助けを拒むのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 審判の日を信じることは、アッラーの権利と被造物の権利の双方を果たすことを必然的に伴う。
2. 孤児を敬い、貧しい者に施し、その必要に心を配ることの徳。
3. 礼拝を守る義務性と、それを遅らせることへの厳しい警告。
4. 礼拝における誠実さ（イフラース）の必要性と、誇示や称賛を求めることへの警告。
5. 他者を助けることへの奨励物を貸すことや、自らの持ち物による援助を含む。

月曜日：ハディースモジュール — ムスリムを害することへの警告

アブー・スィルマ（Abū Ṣirmah）（アッラーの御満悦あれ）によると、
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
ムスリムに害を加える者に対して、アッラーは害を加えられる。ムスリムに困難を与える者に対して、アッラーは困難を与えられる。[1]

❖ 解説：

このハディースは、二つの重要な意味を伝えている。

1. ムスリムに害を加えたり、困難をもたらしたりすることは、厳しく禁じられている。それが身体的、精神的、経済的なものであれ、また家族や子どもに及ぶものであれ同様である。そのような行為を行う者は、アッラーご自身によって対処される。
   他者を害する例としては、商取引における詐欺や欺瞞、欠陥を隠す不正、共同事業者や隣人への不当な扱い、夫が妻を抑圧すること正当な理由なく宙ぶらりんの状態に置いたり、補償なしには離婚を認めなかったり、複数の妻の間で不公平な扱いをすることなどが含まれる。
2. 報いは行為に応じて与えられるという原則であり、善にも悪にも当てはまる。アッラーを喜ばせる行為をする者を、アッラーは愛される。しかし、アッラーを怒らせる行為をする者に対して、アッラーは御不満を示される。ムスリムに容易さを示す者には、アッラーは現世と来世の双方において容易さを与えられるが、ムスリムに害や重荷を与える者には、同様の報いが返されるのである。

❖ このハディースから得られる益：

1. アッラーの完全な正義と慈悲の現れとして、ムスリム同士が互いに害し合うことを禁じ、慈悲と兄弟愛を命じられたこと。
2. 善にも悪にも、行為に応じた報いを定められたという、アッラーの称賛されるべき英知。
3. いくつかの罪は、この現世においても速やかな懲罰を招くこと。
4. ムスリムは主のもとで尊厳と神聖さを有しており、その侵害はアッラーによって容認されないこと。

---

[1] アッ＝ティルミズィー（1940）、イブン・マージャ（2342）。

火曜日：アキーダモジュール — 使徒を愛することの義務（ムハンマド — アッラーの祝福と平安あれ）

僕に課せられた愛のうち、最も偉大で義務的なものは、至高なるアッラーへの愛である。それは、あらゆる愛の中で最も高位の愛である。アッラーは仰せになった。しかし、信仰する者たちは、アッラーへの愛において最も強い。[1] **それは、かれこそが万物の主であり、すべての被造物の創造主であり、顕在的・潜在的を問わず、すべての恩恵を僕たちに授ける御方だからである。**これに続くのが、使徒ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）への愛である。なぜなら、彼こそがアッラーへと人々を招き、かれを知らしめ、かれのシャリーアを伝達し、その諸規定を明確にした御方だからである。信仰者が現世と来世において得るあらゆる善は、この使徒を通じて与えられたものである。彼に従い、そのスンナに固く従うことなくして、誰一人として楽園に入ることはできない。 彼の位階は、アッラー自らが高められたものである。彼はアッラーの僕であり、その使徒であり、全被造物の中から選ばれた御方であり、諸使徒の中で最も完全で、被造物の中で最も優れ、そして最後の預言者である。彼は被造物の中で最も敬虔で、最も畏神の念に富む者である。アッラーは彼をジンと人間の双方に遣わし、彼への服従を義務とし、すべての者に彼に従うことを命じられた。さらに、かれは彼の胸を広げ、その名声を高め、彼の命令に背く者たちに屈辱と恥辱を定められた。彼はまた、復活の日において称賛される位階（アル＝マカーム・アル＝マフムード）に立つ者である。アッラーは仰せになった。あなたの主は、あなたを称賛される位階へとお立てになるであろう。[2]これは執り成しの位階であり、その日においてアッラーは彼に人類のための執り成しを許し、その恐怖と苦難を取り除かれるのである。また、アッラーは自ら、そして御使いたちに彼へのサラートを送らせ、信仰者たちにもそれを命じられた。確かに、アッラーとその天使たちは預言者に祝福を送っている。信仰する者たちよ、彼に祝福を送り、平安の挨拶を捧げなさい。[3] 預言者を愛することは義務であり、信仰の一部である。彼（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。三つのことを備えた者は、信仰の甘美さを味わうであろう。すなわち、アッラーとその使徒が、他のすべてのものよりも彼にとって愛しいこと。人を愛するのは、ただアッラーのためであること。そして、アッラーが彼を不信仰から救われた後、それに戻ることを、火獄に投げ込まれることを憎むのと同じように憎むことである。[4] この愛は、アッラー以外のすべての被造物への愛よりも上位に置かれなければならない。彼（アッラーの祝福と平安あれ）はまた仰せになった。あなたがたのうち誰一人として、私がその子や父、そして全人類よりも愛しい存在となるまでは、真に信仰したことにはならない。[5]

---

[1]［アル＝バカラ章：165］ [2]［アル＝イスラー章：79］ [3]［アル＝アフザーブ章：56］ [4]アル＝ブハーリー（16）、ムスリム（43）。 [5]アル＝ブハーリー（15）、ムスリム（44）。

水曜日：フィクフモジュール — ウドゥーのスンナ

ウドゥーのスンナとは、小浄の際に行うことが推奨されている行為である。これらを実践した者には報いがあるが、行わなかったとしても罪はない。以下の事項がそれに含まれる。

1. ウドゥーの初めにバスマラ（ビスミッラー）を唱えること：
   これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、そのように命じられたことによる。[1]
2. スィワーク（歯磨き）を用いること：
   これは、彼（アッラーの祝福と平安あれ）の次の御言葉に基づく。
   もし私のウンマに過重な負担をかけることにならなければ、私は彼らに、ウドゥーのたびにスィワークを用いるよう命じていただろう。[2]
3. ウドゥーの始めに両手を三回洗うこと：
   これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のウドゥーの実践方法として伝えられている。[3]
4. （断食中でない者が）口と鼻のすすぎを十分に行うこと：
   これは、彼（アッラーの祝福と平安あれ）の次の御言葉に基づく。
   断食していないときは、鼻のすすぎを十分に行いなさい。[4]
5. 洗う際に各部位を擦ること：
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ウドゥーを行う際に前腕を擦っていたためである。[5]
6. 濃い髭に水を通し、内側まで届くように梳くこと：
   次の伝承に基づく。
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、顎の下から水を通し、髭を梳いていた。[6]
   なお、髭が薄く皮膚を覆っていない場合は、内側まで洗い梳くことが義務となる。
7. 左よりも右の部位から始めること：
   手や足などにおいてである。次のように伝えられている。
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、清め、履物を履くこと、髪を整えること、そしてすべての事柄において、右側から始めることを好まれていた。[7]
8. 各部位を三回洗うこと（ただし一回でも義務は果たされる）：
   次のように伝えられている。
   （彼は、ウドゥーを一回、二回、三回で行った。）[8]
9. ウドゥー完了後に定められたズィクルを唱えること：
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、次のように仰せになった。
   あなたがたのうち、ウドゥーを行い、それを完全にした後、
   アシュハドゥ・アン・ラー・イラーハ・イッラッラー、ワフダフー・ラー・シャリーカ・ラフ、ワ・アシュハドゥ・アンナ・ムハンマダン・‘アブドゥフー・ワ・ラスールフ

（私は、アッラー以外に真に礼拝されるべき神はなく、ただ唯一で相棒なき御方であることを証言し、またムハンマドがその僕であり使徒であることを証言する）

と言う者には、楽園の八つの門が開かれ、望む門から入ることが許される。）[9]

また、ティルミズィーによる別の伝承では、次のドゥアーが伝えられている。

（アッラーフンマ・ジャアルニー・ミナッ＝タウワービーン、ワ・ジャアルニー・ミナル＝ムタタッヒリ―ン。）

（アッラーよ、私をたびたび悔悟する者たちの一人とし、また自らを清める者たちの一人としてください。）[10]

❖ ウドゥー後のこのズィクルの意義：

外面的な清めであるウドゥーを終えた後には、タウヒード（アッラーの唯一性＝）と悔悟による内面的な清めを続けることがふさわしい。

この二つの清めが結び合わさることで、しもべはアッラーの御前に立ち、親密に語りかける準備が整うのである。

[1] アフマド（2/418）、アブー・ダーウード（101）。
[2] アル＝ブハーリー（懸垂伝承〔ムアッラク〕、1934）。
[3] ムスリム（235）。
[4] アブー・ダーウード（142）、ナサーイー（87）。
[5] イブン・ヒッバーン（1082）、アル＝バイハキー（1/196）。
[6] アブー・ダーウード（145）。
[7] アル＝ブハーリー（426）、ムスリム（268）。
[8] アル＝ブハーリー（157）、ムスリム（226）。
[9] ムスリム（234）。
[10] アッ＝ティルミズィー（55）。

木曜日：スィーラモジュール — 公の呼びかけ

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、最初の三年間、密かに人々を招いてイスラームを伝えていた。この間、偶像崇拝者たちの害から身を守るためである。その後、アッラーからの命令により、真理を公然と宣言し、メッセージを伝えるよう啓示が下った。
あなたに命じられたことを公に宣言し、偶像崇拝者から離れなさい。[1]
さらに、アッラーは特に親族に警告するよう命じられた。
そしてあなたの最も近しい親族に警告しなさい。[2]
そこで、彼（アッラーの祝福と平安あれ）はバヌー・ハーシム族およびバヌー・アル＝ムッタリブ族の仲間たちのもとに向かった。サファ山に登り、呼びかけを始めると、人々は彼のもとに集まった。
彼は言った。
もし私が、谷から騎兵隊が攻めてくると告げたら、信じますか？
人々は答えた。
あなたから嘘を聞いたことは一度もありません。
彼は言った。
それなら、私は確かに厳しい懲罰の前にあなたがたへの警告者です。
この時、アブー・ラハブは言った。
滅びよ！これのために私たちを集めたのか？[3]
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、忍耐と報酬の希望をもって、人々を呼び続けた。いかなる障害も彼を妨げず、批判者も止めることはできなかった。彼は真理を告げることを決して躊躇せず、昼も夜も、私的にも公的にも、人々に呼びかけた。老若男女、肌の色の如何を問わず、すべての人に招きを伝えた。
偶像崇拝者たちは、彼の公の布教と増え続けるムスリムの数に怒りを覚えた。彼らは、彼が偶像を無益で害を及ぼさないものとして批判したことに激怒した。そして、敵意を露わにし、公然と侮辱し、彼の弟子たちに対して虐待、拷問、社会的排斥を強化した。
しかし、アッラーは使徒を、彼の叔父アブー・ターリブを通して守られた。アブー・ターリブは人々の間で尊敬され従われていたため、偶像崇拝者たちは、彼の深い愛と揺るぎない支持により、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に危害を加えることができなかった。

---

[1] ［アル＝ヒジュル章：94］
[2] ［アル＝シュアラー章：214］
[3] アル＝ブハーリー（4973）、ムスリム（208）

土曜日：サハーバモジュール — サʿイド・イブン・ザイド（Saʿīd ibn Zayd）（アッラーの御満悦あれ）

❖ ❖ 名前と出生：

彼の名前は、サʿイド・イブン・ザイド・イブン・ʿアムル・イブン・ヌファイル・イブン・ʿアブドゥル＝ʿウッザ・イブン・リヤーフである。
預言者の使命より 13 年前に生まれた。父ザイド・イブン・ʿアムルはハニーフ（唯一神信仰者）で、真理を求めてシャームの地を巡礼し、イブラーヒーム（平安あれ）の宗教を探し求めた。彼は偶像のために生贄を捧げず、腐肉や血も食さなかった。しかし、預言者の使命が始まる前に亡くなり、イスラームを見ることはなかった。[1]

❖ 生涯と美徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は初期のムスリムであり、最初に移住した者の一人であった。また、天国を約束された十人のうちの一人である。
彼はバドルの戦いに直接参加しなかったが、その戦利品と報いを受けた。その後のすべての戦いは目撃している。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）への深い忠誠を持っていた。サʿイド・イブン・ジュベイルは言った。
アブー・バクル、ʿウマル、ʿウスマーン、ʿアリー、タルハ、ズバイル、サʿド、ʿアブドゥル＝ラフマーン・イブン・ʿアウフ、サʿイド・イブン・ザイドの位置は、戦いでは使徒の前に、礼拝ではその後ろにあった。[2]

ʿウマル・イブン・アル＝ハッターブはサʿイド・イブン・ザイドの妹ʿアーティカと結婚し、サʿイドはʿウマルの妹ファーティマと結婚した。夫妻は共にマディーナへ移住したが、アビシニアへの移住は行わなかった。サʿイドはクライシュの高貴な身分であり、社会的に弱い者たちが受けたような拷問には遭わなかったためである。

サʿイド・イブン・ザイド（アッラーの御満悦あれ）は、敬虔さ、慎み深さ、祈りへの応答で知られていた。伝えられる逸話として、ある女性がマディーナの総督マルワーン・イブン・アル＝ハカムに訴え、サʿイドが不当に彼女の土地を奪ったと主張した。
マルワーンはサʿイドを呼び寄せた。
彼は答えた。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が言われたことを聞いた私が、彼女を不当に扱うと思いますか？不当に土地を奪った者は、審判の日に七層の大地を通してその土地を首輪として身に着けると仰せられました。
そして彼は祈った。
アッラーよ、もし彼女が嘘を言っているなら、盲目にし、彼女をその土地で死なせてください。
彼女は盲目となるまで死なず、壁を手で触れながら言った。

サʿイド・イブン・ザイドの祈りが私に災いをもたらした。
その後、彼女は土地を歩いている際に穴に落ち、亡くなった。[3]

❖ 死去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は 51 年ヒジュラにアル＝ʿアキーキで亡くなり、70 代であった。遺体はマディーナに運ばれ、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の仲間たちと共に埋葬された。
洗浄と死装束はサʿド・イブン・アビー・ワッカースが行い、葬儀祈祷はアル＝ムギーラ・イブン・シュアバが導き、ʿアブドゥッラー・イブン・ʿウマルとサʿド・イブン・アビー・ワッカースが墓に降りた。マディーナの人々は彼の死を深く悲しんだ。

---

[1] スィヤル・アフラーム・アル＝ヌバラー(1/126)
[2] ウスド・アル＝ガーバ(2/237)
[3] ムスリム（1610）

週次知識テスト — 第 9 週

モジュール	設問	選択肢	正解
タフスィール	そして彼らはマウーンを与えることを拒む。という節の意味は何か。	[a] 受けるべき者にザカートを与えないこと[b] 貸しても害のないもの（器具など）を貸さないこと[c] 相続財産を消費すること	**b**
ハディース	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の(ムスリムを害する者には、アッラーが害を与える)という言葉が示すことは何か。	[a] イーマーン（信仰）は増減する[b] 報いは行為の性質と同じである[c] 成功者とは注意深い者である	**b**
アキーダ	なぜ我々は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を愛するのか。	[a] 彼はアラブの名門部族出身であったから[b] 彼は孤児であったから[c] 彼はアッラーへ招き、御言葉を伝え、御法を明確に示した方であるから	**c**
フィクフ	次のうち、ウドゥー'のスンナに含まれるのはどれか。	[a] 継続（ムワーラー）[b] スィワーク（歯木）の使用[c] 頭全体を拭くこと	**b**
スィーラ	滅べ！これのために我々を集めたのかと言ったのは誰か。	[a] アブー・ジャフル[b] アブー・ラハブ[c] アブー・スフヤーン	**b**
サハーバ	サイード・イブン・ザイドが結婚したのは誰か。	[a] ファーティマ・ビント・カイス[b] ファーティマ・ビント・アサド[c] ファーティマ・ビント・アル＝カッターブ	**c**

10 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ―アル＝カウサル章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِنَّا أَعْطَيْنَاكَ الْكَوْثَرَ (1) فَصَلِّ لِرَبِّكَ وَانْحَرْ (2) إِنَّ شَانِئَكَ هُوَ الْأَبْتَرُ (3)

アッラーの御名において。慈悲あまねく、慈悲深き御方 確かにわれらは、あなたにアル＝カウサルを授けた。それゆえ、あなたの主のために礼拝し、犠牲を捧げよ。確かに、あなたを憎む者こそが、断たれた者である。

❖ このスーラの主題：

アッラーがその使徒に豊かな善を授けられたこと、そして敵の中傷から彼を擁護されたこと。

❖ 啓示の理由：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の子であるアル＝カーシムが亡くなった際、アル＝アース・イブン・ワーイルをはじめとする多神教徒たちは、ムハンマドは断たれた者だと言った。すなわち、彼には子孫がいないという意味である。そこでアッラーは、このスーラを啓示され、彼らへの反駁とするとともに、預言者を慰め、またアル＝カウサルに関する彼とそのウンマへの吉報とされたのである。[1]

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
الكوثر	al-Kawthar	豊かな善。その中には楽園の川が含まれる
وانحر	wanḥar	アッラーのために誠実に犠牲を捧げよ
شانئك	shāni'uka	あなたを憎む者、敵
الأبتر	al-abtar	すべての善と永続的な名声から断たれた者

❖ 全体的な意味：

アル＝カウサル（Al-Kawthar）はマッカ啓示のスーラであり、クルアーンの中で最も短い章である。本章は、アッラーがその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に授けられた計り知れない恩恵を想起させることから始まる。その恩恵は現世と来世の双方に及び、その一つが（アル＝カウサル）と呼ばれる楽園の川である。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は次のように語られた。アル＝カウサルは楽園にある川であり、その岸は黄金で、その底は真珠とルビーから成る。その土はムスクよりも香しく、その水は蜂蜜より

も甘く、雪よりも白い。[2] その後、アッラーは使徒に対し、純粋に主のために礼拝を守り、最良の財から犠牲を捧げることによって感謝を示すよう命じられる。このスーラは最後に、預言者を嘲笑し中傷する敵こそが、善・名誉・記憶から真に断たれた者であると断言し、彼を安心させて締めくくられる。

❖ このスーラから得られる益：

1. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、その主のもとで高い位階を有し、現世と来世の双方において守られ、尊ばれていること。
2. 預言者、または彼がもたらしたものを憎む者は、不信仰者であること。
3. アッラーの恩恵に感謝することは、その継続と増加をもたらすこと。
4. イード＝アル＝アドハー（犠牲祭）、供犠動物、ʿアキーカなどを通じて犠牲を捧げることへの奨励。
5. 定期的な礼拝と犠牲の奉献は、感謝を示す最も偉大な礼拝行為の一つであること。

[1] アル＝ワーヒディーアスバーブ・アン＝ヌズール（466）。
[2] アッ＝ティルミズィー（3361）による伝承。

月曜日：ハディースモジュール — 強い信仰者の徳

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）による伝承。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せられた。強い信仰者は、弱い信仰者よりもアッラーのもとで優れ、より愛されている。ただし、いずれにも善はある。あなたに益することに熱心であれ。アッラーに助けを求め、無力になるな。もし何かがあなたに降りかかったなら、もしあの時こうしていればと言ってはならない。むしろ、これはアッラーの定めであり、御望みのことをなされると言いなさい。実にもし～ならという言葉は、シャイターンの働きへの扉を開くのである。[1]

❖ 解説：

このハディースにおいて、預言者は信仰者たちが善の度合い、信仰の強さ、そしてアッラーに愛される程度において異なることを教えられた。彼らは段階を有しており、アッラーは仰せになった。彼らはアッラーの御前において段階を有する[2]。信仰・決意・行動において強い信仰者は、その益が他者にも及ぶため、弱い信仰者よりも優れている。一方、弱い信仰者の益は、多くの場合、自身に限定される。
またこのハディースは、信仰者に対する重要な助言を含んでいる。すなわち、宗教的・現世的の双方において益する事柄に努力し、アッラーに依拠し、怠惰や絶望に屈してはならないということである。最善を尽くした後、望まぬ結果が生じたとしても、アッラーの定めに満足し、もし～だったらという後悔の言葉を避けなければならない。それは心の苦悩、シャイターンの囁き、悲嘆、そして信仰と満足の弱体化を招くからである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 信仰には段階があり、その強化と完成を求めることは義務である。
2. 有益な行為を追求する際の強さと活力は称賛される。
3. 信仰の弱い者を軽視してはならず、すべての信仰者に善が存在すること。
4. ムスリムは、知識の追求や善行といった宗教的に有益なことに励むべきである。
5. 同時に、合法的な糧の獲得など、現世的な益も追求すべきである。
6. あらゆる事柄において、アッラーに依拠し、その助けを求めることは義務である。
7. ムスリムは、手段を講じつつも、それらや自分自身ではなく、アッラーに依存しなければならない。
8. 天命を信じ、アッラーの御意志を受け入れることは不可欠であり、それは心の安寧をもたらす。

---
[1] ムスリム（2664）。
[2] ［アーリ・イムラーン章：163］

火曜日：アキーダモジュール — 使徒への服従の義務

使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を愛し、敬うことの最も偉大な表れの一つは、そのスンナを尊重し、それに従って行動することである。スンナは、その地位・尊重の義務・実践の面において、クルアーンに次ぐ位置を占める。それはアッラーからの啓示であり、アッラーは仰せになった。
彼は私欲によって語るのではない。それは啓示された啓示にほかならない[1]。このため、アッラーはクルアーンの四十以上の箇所で、使徒への服従とその模範に従うことを命じられた。その中には次の御言葉がある。
信仰する者たちよ、アッラーに従い、使徒に従え[2]、
使徒に従う者は、確かにアッラーに従ったのである[3]、
使徒に従え。そうすれば慈悲を受けるであろう[4]。
また、アッラーは使徒がそのウンマにとって最良の模範であることを次のように示された。
アッラーの使徒には、アッラーと最後の日を望み、アッラーを多く想起する者にとって、まことに優れた模範がある[5]。
イブン・カスィール（アッラーの慈悲あれ）は言った。
この高貴な節は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の言葉・行為・状態に従うことに関する、偉大な基礎である。[6]
さらにアッラーは、使徒への服従を、御愛と赦しを得る条件とされた。
言え。もしあなたがたが真にアッラーを愛するなら、私に従え。そうすればアッラーはあなたがたを愛し、罪を赦される。アッラーは寛容にして慈悲深い[7]。使徒に背くことは、迷妄であると宣告されている。
もし彼らがあなたに応じないなら、彼らは自らの欲望に従っていることを知れ。アッラーからの導きなしに自らの欲望に従う者以上に迷った者がいようか。実にアッラーは、不正の民を導かれない[8]。
また、使徒への不服従は、試練と痛ましい懲罰の原因ともなる。アッラーは仰せになった。使徒の命令に背く者たちは、試練に見舞われるか、あるいは痛ましい懲罰を受けることを警戒せよ[9]。
すなわち、不信仰・偽善・異端といった心の試練が彼らを襲うか、現世または来世において痛ましい懲罰が下るのである。

---

[1]［アン＝ナジュム章：3–4］[2]［アン＝ニサー章：59］[3]［アン＝ニサー章：80］[4]［アン＝ヌール章：56］[5]［アル＝アフザーブ章：21］[6]タフスィール・イブン・カスィール（6/350）[7]［アーリ・イムラーン章：31］[8]［アル＝カサス章：50］[9]［アン＝ヌール章：63］

使徒への服従とは、その命令を遂行し、禁止を避けることに限られない。それにはまた、礼拝行為を行う際における**その実践の仕方**に従い、彼が行ったとおりにそれを遂行することも含まれる。
彼（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せられた。
私が礼拝するのを見たとおりに礼拝しなさい。[1]
また、
あなたがたの儀礼（ハッジの諸作法）を、私から学び取りなさい。[2]
とも仰せられた。
さらに彼は次のようにも述べられた。
我々の事柄（宗教）に即していない行為を行った者の行為は、退けられる。[3]

[1] アル＝ブハーリー（631）、ムスリム（674）。
[2] ムスリム（1297）。
[3] アル＝ブハーリー（2697）、ムスリム（1718）。

水曜日：フィクフ・モジュール — ウドゥーにおける一般的な誤り

人々のウドゥー（小浄）には、注意して避けるべき広く見られる誤りや不備が数多く存在する。主なものは以下のとおりである。

1. **意図（ニーヤ）を声に出して述べること。**
   これは誤りである。求められる意図は心の中のものであり、口に出すことは定められていない。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が意図を口にされたという真正な伝承は一切ない。これは行き過ぎと不必要な自己負担である。
2. **四肢を十分に洗わず、水が全体に行き渡らないこと。**
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、足に爪ほどの乾いた部分を残していた男を見て、
   戻って、あなたのウドゥーを完全にしなさい。[1]
   と仰せられた。
   また、足をきちんと洗わなかった者たちについて、
   かかとに災いあれ。火獄からの（災い）である！[2]
   とも仰せられた。
3. **水の無駄遣い・過度な使用。**
   これは禁じられており、ウドゥーの完成には含まれない。真の完成とは、水を四肢に行き渡らせ、全体を覆うことであって、過剰に注ぐことではない。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、**一ムッド**でウドゥーを行い、**一サーア**で大浄（グスル）を行っていたと伝えられている。[3]
4. **水が皮膚に届くのを妨げるものを除去しないこと。**
   蝋、練り粉、塗料、また現代では女性がよく用いるマニキュアなどがこれに含まれる。
5. **腕を洗う際に手を含めて洗わず、最初の手洗いだけで済ませてしまうこと。**
   正しい方法は、**指先から肘まで**を腕の洗浄として洗うことである。最初の手洗いはスンナであり、腕と共に洗う手洗いは義務である。
6. **イスティンシャーク（鼻うがい）で水を鼻に入れず、外側だけを洗うこと。**
7. **四肢を三回以上洗うこと。**
   これはスンナに反する。
8. **頭全体を撫でず、髪型が崩れるのを恐れて前部だけを撫でること。**
9. **イスティンジャー（排泄後の洗浄）をウドゥーの一部だと考えること。**
   毎回の礼拝前にイスティンジャーから始める人がいるが、これは誤りである。イスティンジャーは排泄行為に結びつくものであり、ウドゥーそのものとは無関係で、必要がない限り繰り返すべきではない。
10. **指輪や腕時計を動かさず、その下に水が届かないこと。**
11. **水が利用可能であるにもかかわらず、それを用いない怠慢。**
    農場や外出先などで、水を車で近くのモスクや店から取って来られるのに、タヤンムムを選ぶことなどがこれに当たる。
12. **水も清浄な土もない場合に、礼拝そのものを放棄すること。**
    この場合でも、人は自分の状況に応じて礼拝しなければならない。たとえウド

ゥーやタヤンムムなしであっても、アッラーは魂にその能力を超える負担を課されないからである。

[1] ムスリム（243）。
[2] アル＝ブハーリー（165）、ムスリム（242）。
[3] アル＝ブハーリー（201）、ムスリム（325）。

木曜日：スィーラモジュール — クライシュ族によるムスリムへの拷問

クライシュ族の不信仰者たちは、ムスリムの数が日ごとに増加していくのを目の当たりにすると、各部族がそれぞれ、イスラームに改宗した者を捕らえ、宗教を放棄させるために拷問と迫害を加えた。特に、多神崇拝者たちの首領たちは、弱い信仰者たちを標的とした。‘アブドゥッラー ブンマス‘ウード（アッラーの御満悦あれ）は次のように述べている。最初に公然とイスラームを表明した者は七人であった。すなわち、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）、アブー・バクル、‘アンマールとその母スンマイヤ、スハイブ、ビラール、そしてアル＝ミクダードである。アッラーの使徒については、アッラーがその叔父アブー・ターリブを通して彼を守られた。アブー・バクルについては、アッラーが彼の部族を通して彼を守られた。しかし、その他の者たちは多神崇拝者たちに捕らえられ、鉄の鎧を着せられ、灼熱の太陽の下で焼かれた。[1] 最も激しい拷問を受けた者の中には、‘アンマール ブン ヤースィルとその両親（アッラーの御満悦あれ）がいた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らが拷問されている傍らを通るたびに、次のように言われた。耐え忍びなさい、ヤースィルの家族よ。あなたがたの約束の場所は楽園である。[2]ある日、アブー・ジャフルは、拷問を受けていた‘アンマールの母スンマイヤ（アッラーの御満悦あれ）のもとを通りかかり、彼女の恥部を槍で突いて殺害した。彼女はイスラームにおける最初の殉教者であった。[3] 拷問を受けた者の中には、ブン アル＝アラット（アッラーの御満悦あれ）もいた。多神崇拝者たちは彼の背中の衣を剥ぎ、燃え盛る炭火の上に寝かせ、背中の脂が炎を消すほどにまで激しく拷問した。[4] 同様に、ビラール ブン ラバーフ（アッラーの御満悦あれ）も、灼熱の太陽の下で拷問され、そのたびにアハド、アハド（唯一なる御方）と繰り返し唱えていた。[5] アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）は、ウマイヤ ブン ハラフから彼を買い取り、解放した。また、拷問を受けていた他のムスリムたちも買い取って解放し、アッラーは彼を通して彼らを奴隷状態と迫害から救われた。アブー・バクル自身もまた、害から免れたわけではなかった。ある日、彼は聖モスクにおいて激しく殴打され、家へ運ばれ、人々は彼が死ぬであろうと思った。[6]不信仰者たちはまた、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に対しても、さまざまな害を加えた。ある時、彼がサジダ（叩頭）している最中に、屠られたラクダの内臓と血をその背中に投げつけた。

[1] アフマド（3823）、イブン・マージャ（150） [2] アッ＝タバラーニー（1508）、アル＝ハーキム（5666） [3] *Sīyar A'lām al-Nubalā'*（1/176） [4] *Ḥilyat al-Awliyā'*（472） [5] イブン・マージャ（150） [6] *Al-Bidāyah wa al-Nihāyah*（3/30） [7] アル＝ブハーリー（3854）、ムスリム（1794）

‘ウクバ ブン アビー・ム‘アイトは、カアバの近くで礼拝していた預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に近づき、衣をその首に巻き付けて絞め上げた。するとアブー・バクルが駆け寄り、‘ウクバの肩をつかんで預言者から引き離し、こう言った。

私の主はアッラーであると言ったというだけで、人を殺すのか。[1] [2]

それにもかかわらず、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は忍耐を保ち、布教を続け、山のように揺るぎなく立ち続けた。害にも動じず、誘惑にも心を動かされることはなかった。

[1] ［ガーフィル章：28］

[2] アル＝ブハーリー（3856）

土曜日：サハーバモジュール — アブー・ʿウバイダ ブン アル＝ジャッラーフ（アッラーの御満悦あれ）

❖ その名と誕生：

彼は、アブー・ʿウバイダ・ʿアーミル ブン ʿアブドゥッラー ブン アル＝ジャッラーフである。ヒジュラの四十年前に生まれた。

❖ その生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、細身の体格で、髭はまばら、背が高く、禁欲的かつ敬虔な人物であった。また、優れた品性、忍耐深さ、謙虚さ、そしてクルアーンとスンナに関する幅広い知識によって知られていた。彼は最も早い時期にイスラームを受け入れた者の一人であり、楽園を約束された十人の一人でもあった。第二回目のヒジュラにおいてアビシニアへ移住し、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に、すべての主要な戦いに立ち会った。ウフドの戦いの日、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の頬に突き刺さっていた兜の金属の輪二つを、彼は自らの歯で引き抜き、その結果、前歯二本が抜け落ちた。それでもなお、彼は前歯を失った後でさえ、人々の中で最も端正な者の一人と見なされた。[1]預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼に次の称号を与えられた。このウンマの信託者。この称号の理由は次の通りである。ある時、イエメンの人々が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとを訪れ、私たちに、スンナとイスラームを教える者を派遣してください。

と願い出た。すると預言者は、アブー・ʿウバイダの手を取り、こう言われた。まことに、すべての民には信託者がいる。そして、このウンマの信託者は、アブー・ʿウバイダ ブン アル＝ジャッラーフである。[2]アブー・バクル・アッ＝スィッディークのカリフ統治期において、彼は大シリア（アッ＝シャーム）征服のために任命された四人の司令官の一人であった。ʿウマル ブン アル＝ハッターブのカリフ統治期には、アブー・ʿウバイダが諸軍の総指揮を担い、ダマスカスおよびアッ＝シャームの多くの都市や町の征服に成功した。ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）は、次のように語っていた。この家が、アブー・ʿウバイダ ブン アル＝ジャッラーフのような男たちで満たされていたならば。[3]

❖ その死：

ヒジュラ暦 18 年、アブー・ʿウバイダ（アッラーの御満悦あれ）は、ʿアムワースの疫病に罹患した人々の一人となり、ヨルダンのガイル地方において帰天した。

---

[1] *Siyar Aʿlām al-Nubalā'*（1/8）
[2] アル＝ブハーリー（3744）、ムスリム（241）
[3] *Siyar Aʿlām al-Nubalā'*（1/14）

知識を確認しよう — 第 10 週

モジュール	質問	選択肢	正答
タフスィール	shāniʾaka（シャーニアカ）という御言葉の意味は何か。	[a] あなたの愛する者 [b] あなたの村 [c] あなたの憎む者	c
ハディース	強い信仰者が弱い信仰者より優れている理由は何か。	[a] その益が他者にも及ぶから [b] その益が自分自身に限られるから [c] 敵に対して獰猛だから	a
アキーダ	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を愛する最も偉大な形の一つはどれか。	[a] その誕生日を祝うこと [b] そのスンナを尊び、実践すること [c] そのクンヤ（敬称）（通称）を用いること	b
フィクフ	ウドゥーʾにおける一般的な誤りの一つはどれか。	[a] イスティンジャーʾがウドゥーʾの一部であると思い込むこと [b] 口と鼻を一掬いの水で濯ぐこと [c] 各部位を一度だけ洗うこと	a
スィーラ	公然とイスラームを表明した最初期の人物の一人は誰か。	[a] アブー・スフヤーン ブンハルブ [b] ʿアンマール ブンヤースィル [c] サアド ブン アビー・ワッカース	b
サハーバ	この家が、アブー・ʿウバイダ ブンアル＝ジャッラーフのような男たちで満たされていたならばと言ったのは誰か。	[a] アッラーの使徒 [b] アブー・バクル・アッ＝スィッディーク [c] ʿウマル ibn アル＝ハッターブ	c

11 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ―アル＝アスル章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْعَصْرِ (1) إِنَّ الْإِنْسَانَ لَفِي خُسْرٍ (2) إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَتَوَاصَوْا بِالْحَقِّ وَتَوَاصَوْا بِالصَّبْرِ (3)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において 時にかけて誓う。まことに、人間は確かに損失の中にある。ただし、信仰し、正しい行いをなし、互いに真理を勧め合い、互いに忍耐を勧め合う者たちは別である。

❖ このスーラの主題：

損失から救済されるための諸要因。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
الْعَصْرِ	al-ʿaṣr	時間の全体、すべての時
الْإِنسَانَ	al-insān	すべての人間
خُسْرٍ	khusr	損失、破滅
وَتَوَاصَوْا	wa tawāṣaw	互いに忠告し、励まし合うこと
الْحَقِّ	al-ḥaqq	信仰・言葉・行為におけるあらゆる真理と善
الصَّبْرِ	aṣ-ṣabr	服従における忍耐、罪を避ける忍耐、試練に耐える忍耐

❖ 全体的な意味：

アル＝アスル（Al-ʿAṣr）は、マッカ啓示のスーラであり、アッラーは時間そのものにかけて誓いを立てることによって、すべての人間が疑いようのない損失と破滅の状態にあるという重大な現実を明らかにされる。ただし、四つの特質を兼ね備える者たちは例外である。すなわち、信仰、正しい行い、真理を互いに勧め合うこと、そして忍耐を互いに勧め合うことである。
これら四条件こそが、真の救済への道を示すものであり、それを備える者のみが損失から免れ、永遠の幸福の住処である楽園に入ることによって成功を収めるのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 時間の価値は計り知れない。それはすべての行為が行われる場であり、アッラーがそれにかけて誓われたという事実は、その偉大さを示している。アッラーは、重大な意義を有するものにのみ誓われる。
2. 損失から救済される道は、四つの根本要素にある。すなわち、信仰、正しい行い、真理における相互の勧告、そして忍耐における相互の勧告である。
3. 最初の二つ（信仰と正しい行い）は個人を完成させ、後の二つ（真理と忍耐の勧告）は他者の完成を助ける。これら四つすべてを実践する者こそが、完全な成功を達成し、損失から救われる者である。

月曜日：ハディースモジュール — 五つの義務礼拝の徳と罪の償い

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）によって伝えられたところによれば、彼は次のように述べている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が仰せになった。
（五つの義務礼拝、ある金曜礼拝（ジュムア）から次の金曜礼拝まで、またあるラマダーンから次のラマダーンまでの間は、その間に犯された諸々の罪に対する償いとなる。ただし、大罪を避けている限りにおいてである。）[1]

❖ 解説：

このハディースは、三つの礼拝行為五つの義務礼拝、金曜礼拝、そしてラマダーンの断食に対して、アッラーがいかに広大な恩寵と慈悲をお与えになっているかを明らかにしている。これらを継続的かつ正しく守ることは、それらの間に犯された小罪が赦される原因となることを示している。ただし、その条件として、大罪を犯すことを慎む必要がある。

❖ このハディースから得られる益：

1. 五つの義務礼拝、金曜礼拝（ジュムア）、そしてラマダーンの断食が有する偉大な徳。
2. 罪は大罪と小罪の二種類に区分されること。
3. 大罪はきわめて重大であり、特別な悔悟（タウバ）を必要とすること。
4. 大罪とは、シャリーアにおいて現世での刑罰が定められているもの、あるいは来世での懲罰が警告されているもの、またはアッラーの御怒りや呪いが言及されている罪である。
5. 大罪の例としては、アッラーに並ぶものを立てること（シルク）、姦通および不倫、飲酒、陰口や中傷、孤児の財産を不当に消費すること、不当に人命を奪うこと、虚偽の手段によって財産を得ることなどが挙げられる。

[1] ムスリム伝承（233）。

火曜日：アキーダモジュール — 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に対する誇張と過度な称賛の禁止

誇張（グルーウ *ghulūw*）とは、宗教において定められた限度を越えることである。アッラーは仰せになった。
あなたがたの宗教において誇張してはならない[1]
すなわち、定められた範囲を超え、それに付け加えてはならない、という意味である。

過度な称賛（イトラー *iṭrā'*）とは、虚偽または誇張された言葉によって人を過分に称えることである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、しもべ性と預言者性という地位を超えて彼を引き上げるような、すなわち神的属性を付与するかのような誇張や過度な称賛を、人々に対して明確に禁じられた。彼は仰せになった。
キリスト教徒がマルヤムの子を過度に称賛したように、私を過度に称賛してはならない。私はただのしもべにすぎない。ゆえに、アッラーのしもべであり、その使徒である者と言いなさい。[2]

あるとき、教友の一部が彼に向かってあなたは私たちの主（サイイドゥナー）ですと言ったところ、彼は次のように答えられた。
主は、祝福されし至高なるアッラーである。

さらに彼らがあなたは私たちの中で最も優れ、徳において最も偉大なお方ですと言うと、彼は仰せになった。あなたがたがこれまで言ってきた言葉、あるいはその一部を言いなさい。だが、シャイターンに惑わされてはならない。[3] また別の機会に、人々がアッラーの使徒よ、私たちの最良の者、最良の者の子よ、私たちの主、そして主の子よと言うと、彼は答えられた。人々よ、あなたがたの通常の言葉を言いなさい。シャイターンに惑わされてはならない。私はムハンマド、アッラーのしもべであり、その使徒である。至高なるアッラーが私にお与えになった地位以上に、私を引き上げられることを私は好まない。[4] 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、あなたは私たちの主であるあなたは私たちの中で最良であるあなたは最も徳高いあなたは最も偉大であるといった表現を好まれなかった実際には、彼こそが被造物の中で最も高貴で、最良で、最も尊い存在であるにもかかわらずであるそれでもなお彼がこのような称賛を禁じたのは、追随者たちが誇張（グルーウ）や過度な称賛（イトラーウ）に陥ることを防ぎ、純粋な一神信仰（タウヒード）を守り、シルク（アッラーに並ぶものを立てること）へと至る道を遮断するためであり、その代わりに彼は、いかなる誇張や信仰上の危険も伴わない二つの称号、アッラーのしもべであり、その使徒である者によって自らを表現するよう導かれたのである。

[1] ［アン＝ニサー章：171］
[2] アル＝ブハーリー伝承（3445）
[3] アブー・ダーウード伝承（4806）
[4] アン＝ナサーイー伝承（10077）

水曜日：フィクフ（Fiqh）モジュール — ウドゥーを無効にする事柄

ウドゥー（小浄）を無効にする事柄とは、それを破棄する原因となるものを指す。これらは全部で五つある。

1. 尿、便、放屁など、量の多少にかかわらず、前後の私部から何かが出ること。
   アッラーは仰せになった。
   ある者が用を足した後に来た場合…[1]
   また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   それは、便、尿、そして睡眠によるのである。[2]
2. 睡眠、失神、精神錯乱などによる意識喪失。これは、本人の自覚なしに不浄が生じる可能性が高いためである。
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   それは、便、尿、そして睡眠によるのである。[3]
   ウドゥーを無効にする睡眠とは、周囲の状況に対する認識を失うほどの深い睡眠である。一方、周囲を感知できる浅い睡眠は、ウドゥーを破らない。教友たち（アッラーの御満悦あれ）は、うたた寝に襲われた後でも、そのまま立ち上がって礼拝し、ウドゥーをやり直すことはなかった。[4]
3. 障壁なしに私部に触れること。
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   自分の私部に触れた者は、ウドゥーを行いなさい。[5]
   また、彼は仰せになった。
   自分の私部に触れた者は、ウドゥーを行いなさい。[6]
4. ラクダの肉を食べること。これは、次の真正な伝承による。
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に対し、羊肉を食べた後、ウドゥーをすべきでしょうかと尋ねられたところ、彼は仰せになった。
   （望むなら行ってもよいし、望まないなら行わなくてもよい。）
   次に、ラクダの肉を食べた後はどうでしょうかと尋ねられると、彼は仰せになった。
   はい、ラクダの肉を食べた後はウドゥーを行いなさい。[7]
5. イスラームからの背教。これは、ウドゥーを含むすべての行為を無効にする。
   アッラーは仰せになった。
   信仰を否定した者の行いは、無に帰する。[8]

---

[1]［アン＝ニサー章：43］ [2]アン＝ナサーイー伝承（159） [3]アン＝ナサーイー伝承（159） [4]ムスリム伝承（376） [5]アブー・ダーウード伝承（181）、アン＝ナサーイー伝承（163） [6]イブン・マージャ伝承（481） [7]ムスリム伝承（360） [8]［アル＝マーイダ章：5］

❖ 浄め（清浄）に関する疑念の規定

ある者が自分は確かにウドゥー（wuḍūʾ）を行ったと確信している一方で、その後にそれを無効にする事柄が起こったかどうかについて疑念を抱いた場合、その法的判断は**清浄の状態にとどまる**というものである。
これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の次のハディースに基づく。
あなたがたのうちの一人が腹部に何かを感じ、それが外に出たかどうか分からない場合、音を聞くか、臭いを感じるまでは、マスジドを出てはならない。[1]
このハディースは、重要な法原則を確立している。すなわち、**確実なものは疑念によって取り消されない**という原則である。
したがって、ある者が自分のウドゥーを確信しており、それが破られたかどうかに疑いを抱いた場合、彼はウドゥーの状態にあるとみなされる。だが、これが逆の場合すなわち、自分がウドゥーを破ったことは確実であるが、その後にそれを更新したかどうかが不確かである場合その判断は**不浄の状態**であり、改めてウドゥーを行わなければならない。

[1] アル＝ブハーリー（176）およびムスリム（362）による伝承

木曜日：スィーラモジュール — 第一次アビシニア移住

多神崇拝者たちによる迫害が、信仰した者たちに対して激しさと多様性の両面において増大し、とりわけ奴隷や弱き者たちに向けて苛烈になったとき、信仰者の中には灼熱の太陽の下に投げ出される者もいれば、胸の上に巨大な石を載せられ、痛みのあまり身動きすらできなくなる者もいた。このような拷問は数多く存在した。
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク（アッラーの御満悦あれ）は、拷問されている者を見かけるたびにその者を買い取り、解放していた。彼はビラール、その母ハマーマ、アーミル・ブン・フハイラ、ウンム・ウバイス、ズィーラ、アン＝ナフディーヤ、そして彼女の娘を解放した。
彼の父アブー・クハーファが彼に言ったとき、わが子よ、私はお前が弱き者たちばかりを解放しているのを見る。もしどうしてもそうするのなら、お前を守り、支えとなってくれる強い男たちを解放してはどうかと。すると彼は答えた。父よ、私はただ、私が求めているもののために行っているのです。[1]
その後、アッラーは次の御言葉を啓示された。
そして、最も敬虔な者はそれから遠ざけられる。彼は自らを清めるためにその財を施す者である。[2]
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が、仲間たちが受けている害と拷問、そして人数と力の少なさゆえにそれを退けることができない状況をご覧になったとき、彼は彼らにアビシニアへの移住を勧め、アッラーが彼らの苦難からの救済を与えられることを望まれた。
そこで、十人の男性と五人の女性が、宗教を守るために、遠く未知の地への亡命を選び、多くの困難と危険に耐えながら移住した。
信仰とともに最初に移住した者は、ウスマーン・ブン・アッファーンであり、彼の妻であるルカイヤアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の娘と共にであった。彼らのアビシニアへの出立は、預言開始五年目のラジャブ月に行われた。彼らは、マッカの人々がイスラームを受け入れたという噂を聞いて、三か月後にマッカへ戻った。
しかし、マッカに近づいたとき、その知らせが虚偽であることを知った。実際には、多神崇拝者たちによる迫害は、使命とそれを信じた者たちに対して、さらに激しさを増していたのである。そのため、ある者たちは密かにマッカへ入り、ある者たちは誰かの庇護のもとで戻り、残りの者たちは再びアビシニアへ戻ることを選んだ。

[1] アル＝ワーヒディーアスバーブ・アン＝ヌズール(456)。
[2] ［夜章（アル＝ライル）：17–18］

土曜日：サハーバモジュール — ハディージャ・ビント・フワイリド（アッラーの御満悦あれ）

❖ 彼女の名前と誕生：

彼女は、ハディージャ・ビント・フワイリド・ブン・アサド、クライシュ族の女性である。彼女の系譜は、第四代の祖であるクサイイ・ブン・キラーブにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の系譜と合致する。
彼女は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の誕生の十五年前に、マッカにおいて生まれた。

❖ 彼女の生涯と徳：

ハディージャ（アッラーの御満悦あれ）は、クライシュ族の高貴な女性であり、その中でも最も名誉と尊敬を集める家系の出身であった。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼女を楽園の最良の女性の一人と見なしておられた。[1]彼女は裕福な女商人であり、知性、洞察力、直観、そして先見の明に恵まれていた。そのため、彼女はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を夫として選び、そして彼にとって真に最良の妻であった。
彼女は彼の最初の妻であり、また彼を信じた最初の女性であった。彼女は預言の使命の最初期から彼の傍らに立ち、彼を支え続けた。クライシュ族からの迫害から彼を擁護し、自らの身と財産をもって彼を慰め、援助した。バヌー・ハーシムに対するボイコットが課されたとき、ハディージャは、強さと保護で知られる自らの部族バヌー・アサドを離れ、夫とその一族に加わり、彼らと共に飢え、弱さ、そして困難に耐えるという高貴な決断を下した。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼女との間に子どもを授かった。すなわち、アル＝カーシムとアブドゥッラーであり、いずれも幼少期に亡くなった。また、ルカイヤ、ザイナブ、ウンム・クルスーム、そしてファーティマも彼女から生まれた。ある日、ジブリールが預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに来て、次のように告げた。
アッラーの使徒よ、こちらはあなたのもとへ食物の入った器を持って来ているハディージャである。彼女があなたのもとに到着したなら、彼女に、彼女の主から、そして私からの平安の挨拶を伝えなさい。また、騒音も疲労もない、空洞の真珠で造られた楽園の家の吉報を彼女に伝えなさい。[2]

---

[1] アル＝ブハーリー（3815）およびムスリム（2430）による伝承。
[2] アル＝ブハーリー（3820）およびムスリム（2432）による伝承。

❖ 彼女の逝去：

ハディージャ・ビント・フワイリドは、ヒジュラの三年前、ラマダーン月に逝去した。彼女の年齢は六十五歳であった。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼女をアル＝フジューンに埋葬された。
彼女の死は、預言者の叔父アブー・ターリブの死から三か月後のことであり、この二人の支えを相次いで失ったことは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に深い悲しみをもたらした。

第 11 週 週間知識テスト

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	Ḥushur（フシュル）という御言葉の意味は何か。	[a] 死[b] 破滅と壊滅[c] 財の欠如	b
ハディース	大罪（カバーイル）とは何か。	[a] アッラーが禁じたすべてのもの[b] シルク（多神崇拝）以外のすべて[c] 法的刑罰を伴うもの、来世での脅しがあるもの、あるいは呪いや怒りと結び付けられているもの	c
アキーダ	なぜ預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、あなたは私たちの主、最良で最も徳が高く、最も偉大なお方ですといった称賛を好まれなかったのか。	[a] 教友たちを敬うため[b] 謙虚さから自らの地位を控えめにされたため[c] タウヒードを守り、シルクへの道を遮断するため	c
フィクフ	どのような睡眠がウドゥーを無効にするか。	[a] 短時間の居眠りを含む、すべての睡眠[b] 意識が失われるほどの深い睡眠[c] 目を閉じるすべての睡眠	b
スィーラ	教友たちがアビシニアへ移住したのは、預言開始何年目であったか。	[a] 第三年[b] 第五年[c] 第七年	b
サハーバ–	ハディージャ（アッラーの御満悦あれ）の系譜は、どの部族に遡るか。	[a] バヌー・マフズーム[b] バヌー・ハーシム[c] バヌー・アサド	c

12 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ―アル＝フマザ章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَيْلٌ لِكُلِّ هُمَزَةٍ لُمَزَةٍ (1) الَّذِي جَمَعَ مَالًا وَعَدَّدَهُ (2) يَحْسَبُ أَنَّ مَالَهُ أَخْلَدَهُ (3) كَلَّا لَيُنْبَذَنَّ فِي الْحُطَمَةِ (4) وَمَا أَدْرَاكَ مَا الْحُطَمَةُ (5) نَارُ اللَّهِ الْمُوقَدَةُ (6) الَّتِي تَطَّلِعُ عَلَى الْأَفْئِدَةِ (7) إِنَّهَا عَلَيْهِمْ مُؤْصَدَةٌ (8) فِي عَمَدٍ مُمَدَّدَةٍ (9)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名においてすべての中傷者、陰口を叩く者に災いあれ。財を集め、それを数え上げる者に。彼はその財が自分を永遠に生かすと思っている。決してそうではない。彼は必ず粉砕する火（アル＝フタマ）に投げ込まれる。その粉砕する火が何であるか、あなたに何が分からせるであろうか。それは、燃え上がるアッラーの火であり、心臓にまで達する。まことに、それは彼らの上に固く閉ざされ、引き伸ばされた柱の中に（閉じ込められる）。

❖ スーラの主題：

財への驕りによって信仰者を嘲笑することへの警告。

❖ 難解語句の解説:

アラビア語	転写	意味
وَيْلٌ	Wayl	脅威、破滅、そして激しい懲罰
هُمَزَةٍ	Humazah	行動や身振りによって人を見下す者
لُمَزَةٍ	Lumazah	言葉によって人を中傷する者
كَلَّا	Kallā	断じて違う、そのようではない
لَيُنبَذَنَّ	Layanbadhanna	必ず投げ込まれるであろう
الحُطَمَة	al-Ḥuṭamah	投げ込まれたものをすべて粉砕する火
تَطّلِعُ عَلَى الأَفْئِدَةِ	Tataṭṭali‘u ‘ala al-af’idah	身体を貫き、心臓にまで達する
مُؤْصَدَةٌ	Mu’ṣadah	固く閉ざされ、封じられている
فِي عَمَدٍ مُمَدَّدَةٍ	Fī ‘amadin mumaddadah	伸ばされた柱によって扉が閉ざされ、逃れることができない

❖ 全体的な意味:

このスーラにおいて、祝福され至高なる主は、財を集めそれを数え上げることのみに心を奪われ、その財が自分を永遠に生かすと思い込んでいる、すべての中傷者・非難者に対して、激しい懲罰をもって警告される。現実には、彼はすべてを粉砕する、燃え盛る火に投げ込まれるのである。この火は身体を焼き尽くし、心臓にまで達し、その扉は彼らの上に固く閉ざされる。

❖ このスーラから得られる益：

1. 他者を嘲笑し侮辱することの禁止。これは人々の間に敵意と憎しみを生じさせる。
2. 財によって欺かれてはならないこと。この世に永遠の命はなく、死と清算から逃れる道は存在しない。
3. 吝嗇（けち）と、財を蓄え数えることに没頭する態度への警告。
4. これらの非難される性質を有する者に対する、燃え盛り、固く閉ざされた火の厳しい警告。

月曜日：ハディースモジュール — 死後もその報奨が続く行い

❖ ハディース：

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）による伝承。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。

人が死ぬと、その行いはすべて断たれる。ただし三つを除く。継続する施し、有益な知識、あるいは彼のために祈る誠実な子である。[1]

❖ 解説：

アッラーはこの現世を行動の場とされ、人々が来世のための糧を備える場所とされた。これを怠る者は、幸福をもたらすものを準備しないままこの世を去るとき、必ず後悔するであろう。なぜなら、死とともに行動の機会は終わり、悔悟の門は閉ざされるからである。

死後、いかなる報奨も人に届かない。ただし、次の三つのいずれかを残した場合を除く。これは、ムスリムが死後もなお報奨を受け続けるようにされた、アッラーの御恩寵によるものである。

1. 継続する施し時とともにその益が続く施しである。ムスリムが残したワクフ（waqf：寄進財産）、不動産、物品、家畜、モスクの建設、井戸を掘ることなどが含まれる。
2. 有益な知識死後も人々がその恩恵を受けるイスラームの知識。誰かに教えること、書物を出版すること、人々が用いるためにムスハフ（クルアーン写本）を寄贈すること、またアッラーの御望みの限り保存される現代的手段を通じて知識を広めることなどが含まれる。
3. 彼のために祈る正しい子実子であれ孫であれ、男女を問わず含まれる。親は、その子孫の正しさと嘆願によって益を受ける。このハディースが(子)を特定しているのは、親のために祈り続ける者として最も一般的だからである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 継続する施しの徳と、その報奨が墓中の死者にまで届き続けること。
2. 知識を教え、あらゆる手段でそれを広めることの徳。
3. 施し、嘆願、有益な知識はいずれも死者に届き、益をもたらすこと。
4. 正しい子孫を授かる希望における結婚の徳。
5. 子どもを正義の上に育てることに勤勉である必要性。そうしてこそ、その敬虔さと嘆願から益を受けることができる。

[1] ムスリム伝承（1631）

火曜日：アキーダモジュール — 宗教的知識の根拠

スンナ派は、自らの宗教を受け取り、主の御意図を理解するための、明確に定められた根拠（知識の源）を有している。
その根拠は、次の三つである。

1. 至高なるアッラーの書（クルアーン）。
2. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の真正なスンナ（Sunnah）。
3. 正しき先達（サラフ・サーリフ／al-salaf al-ṣāliḥ）の一致見解（イジュマー‘／ijmā‘）。

これら三つは、宗教を受け取るための根本的な拠り所であり、イスラーム立法の基盤であり、イスラームという宗教そのものの土台である。アキーダ（信条）、礼拝行為、道徳、礼節を確立するための、決定的な証拠である。
これこそが、スンナ派の際立った特徴である。彼らは、欲望、個人的意見、夢、あるいはそれに類する信頼性のない手段から信条を採ることはなく、堅固な基礎と確立された証拠のみに依拠するのである。

❖ これらのシャリーアの根拠を確証する証拠：

あなたがたがいかなる事柄について意見を異にしたとしても、その裁定はアッラーに委ねよ。それこそが、私の主アッラーである。私は彼に依り頼み、彼にこそ悔悟して立ち返る。[1]

信仰する者たちよ、アッラーに従え。使徒に従え。そして、あなたがたの中の権威ある者たちにも従え。もし何事かについて争うなら、アッラーと使徒にそれを委ねよ。もしあなたがたがアッラーと終末の日を信じるならば。それが最善であり、結果においても最も良い。[2]

❖ サラフの見解一致（イジュマー‘）の権威を示す証拠：

導きが明らかになった後に使徒に背き、信仰者たちの道以外のものに従う者には、彼が向かったものへと向かわせ、地獄で焼くであろう。何と悪しき帰り先であることか。[3]

ここで言うサラフとは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のハディースに示された、最初の三世代の人々を指す。

最も優れた人々は、私の世代、次にそれに続く者たち、次にそれに続く者たちである。[4]

アフル・アッ＝スンナは、正しき先達を敬い、宗教とその諸テキストを理解・解釈するにあたって、彼らの言葉と理解に立ち返る。とりわけ教友（サハーバ／Ṣaḥābah — アッラーの御満悦あれ）は、人々の中で最も優れ、預言の純粋な源泉に最も近く、アッラーとその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の御意図を最もよく知る者たちであるからである。
これは、異端の蔓延、知識の衰退、理解の腐敗、そしてスンナの放棄が広がった後の時代において、特に重要である。

---

[1] ［アッ＝シューラー章：10］
[2] ［アン＝ニサー章：59］
[3] ［アン＝ニサー章：115］
[4] アル＝ブハーリー伝承（6429）

❖ **宗教的知識の根拠を知ることによって得られる実り**：

1. シャリーアの諸テキストに対する畏敬と、完全な服従。
2. 異なる拠り所から生じる矛盾や混乱からの安全。
3. 諸テキストの正しい理解と、アッラーおよびその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の御意図への到達。
4. 欲望やシャイターンに従うことによって生じる、信条上および実践上の逸脱からの救済。

水曜日：フィクフモジュール — 靴下の上からの拭き（マスフ）

❖ 靴下の上から拭くことの フクム（規定）：

イスラームは、容易さと寛容さの宗教である。それは、あらゆる状況において益をもたらし、困難を取り除く規定を備えている。その一つが、靴下の上から拭くことを認める特例である。
至高なるアッラーは、革製、羊毛、布製など、いかなる種類の靴下であっても、また旅中であれ在住中であれ、その上から拭くことを立法された。これは、アッラーからの許容であり、僕たちへの慈悲と軽減である。
イマーム・アフマド（アッラーの慈悲あれ）は言った。
靴下の上から拭くことの許容について、私の心に何の疑念もない。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）から、この件について四十のハディースが伝えられている。[1]

その中には、ムギーラ・イブン・シュウバ（アッラーの御満悦あれ）による伝承がある。彼は言った。
私は旅の途中で預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共にいた。私は彼の靴下を脱がせようとしたが、彼は言われた。
そのままにしておきなさい。私は清浄な状態でそれを履いたのだ。
そして、その上から拭かれた。[2]

❖ 靴下の上から拭くための条件：

1. 清浄（ウドゥー後）な状態で履いていること。
2. 足全体を覆っていること。足の一部が露出していたり、足首より下に位置する履物である場合、その拭きは無効となる。
3. 着用が許されているものであること。盗品の履物や、男性にとって禁じられた絹製の履物の上から拭くことは許されない。なぜなら、不服従の行為を通じて特例は認められないからである。
4. 清浄であること。死獣の皮や犬の皮など、不浄な履物の上からの拭きは有効ではない。
5. 定められた期間内で行うこと。‘アリー（アッラーの御満悦あれ）は言った。
   アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、旅人には三日三夜、在住者には一日一夜と定められた。[3]

❖ 拭き方とその方法：

義務とされているのは、靴下の上部のみを拭くことであり、裏や踵を拭くことは立法されていない。‘アリー（アッラーの御満悦あれ）は言った。
もし宗教が意見によって定められるものであったなら、靴下の裏の方が上よりも拭かれるにふさわしかったであろう。しかし私は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が靴下の上部を拭かれるのを見た。[4]

右足は右手で、左足は左手で、それぞれ一度ずつ、指を広げながら拭く。

❖ 問題：靴下を二重に履いている場合：
清浄な状態で二枚の靴下を重ねて履いた場合、外側の靴下の上から拭くことは許される。なぜなら、それも清浄な状態で履かれたからである。
しかし、下の靴下を履いた後にウドゥーが無効となり、その後で上の靴下を履いた場合、または最初に下の靴下の上から拭き始めた場合には、上の靴下の上から拭くことはできない。

❖ 拭きが無効となる事柄：

次の場合、靴下の上からの拭きは無効となり、靴下を脱がなければならない。

1. グスルを要する大きな不浄状態が生じた場合。
2. 靴下、あるいはその一方が脱がれた場合、または足の大部分が露出した場合。
3. 定められた拭きの期間が終了した場合。

---

[1] アル＝ムグニー（1/360）
[2] アル＝ブハーリー伝承（206）、ムスリム伝承（274）
[3] ムスリム伝承（85）
[4] アブー・ダーウード伝承（162）

木曜日：スィーラモジュール — ハムザとウマルのイスラーム受容（アッラーの御満悦あれ）

ある日、(このウンマのファラオ)と呼ばれたアブー・ジャフルは、サファー山において、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の前を通りかかった。彼は使徒を口汚く罵り、侮辱したが、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）はそれに応じられなかった。すると彼は石を投げ、使徒の頭部に命中させ、出血させた。

狩猟から戻ったハムザ・イブン・アブドゥル＝ムッタリブがこの出来事を知ると、誰にも止められることなく、ただちにアブー・ジャフルのもとへ向かった。そして彼に言った。
私が彼の宗教の上にあるというのに、私の甥を侮辱するのか？！
そう言って弓で彼を打ち、頭部に深い傷を負わせた。[1]

ハムザが最初にイスラームを受け入れた動機は、部族的な義憤によるものであった。しかし、その後アッラーは彼の胸を真理へと開き、彼はイスラームのために身を捧げる者となった。彼によってムスリムたちは力を得、多神崇拝者たちは、それまで行っていた迫害の一部を控えるようになった。

ハムザのイスラーム受容から三日後、ウマルは剣を携え、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を殺す意図で出立した。途中で一人の男に出会い、こう問われた。
ウマルよ、どこへ向かうのか。
彼は答えた。ムハンマドを殺しに行く。
するとその男は言った。それよりも驚くべきことを知らせようか。お前の妹とその夫、サイード・イブン・ザイドは、すでにイスラームを受け入れ、お前の宗教を離れたのだ。

ウマルは進路を変え、怒りに燃えて妹の家へ向かった。その時、彼らのもとにはハッバーブ・イブン・アル＝アラットがいて、ター・ハー章が書かれた巻物を朗読していた。ウマルは朗誦の低い声を耳にし、激しく戸を叩いた。中に入るとサイードに言った。
お前たちは自分たちの信仰を捨てたのではないのか？
サイードは答えた。もし真理が、あなたの宗教以外にあるとしたらどうだ？
するとウマルは彼に襲いかかり、打ち据えた。妹が止めに入ったため、彼女を平手で打ち、その顔を出血させた。

やがてウマルの心は和らぎ、彼は言った。
その書を私に渡せ。
彼らは、彼が沐浴するまで拒んだため、彼は身を清め、その後に巻物を読んだ。

ハッバーブは、ウマルがクルアーンを読んでいるのを聞くと、彼に言った。
吉報である、ウマルよ。私は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の次の嘆願が、あなたのためであることを願っている。

アッラーよ、あなたに最も愛される二人のウマルアブー・ジャフルか、ウマル・イブン・アル＝ハッターブのいずれかによって、イスラームを力づけ給え。[2]

その後ウマルはダール・アル＝アルカムへ向かい、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の前に入り、イスラームを宣言した。家にいた人々はタクビールを唱え、その声は、モスクにいる者たちにも聞こえたと言われている。その時、ウマルは二十六歳であった。

[1] *Hilyat al-Awliyāʾ*（2/673）
[2] アッ＝ティルミズィー伝承（3681）

ウマルのイスラームは、ムスリムたちにとって勝利であり、名誉の源であった。イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）は次のように述べている。
ウマルのイスラーム受容は征服であり、彼の移住（ヒジュラ）は勝利であり、彼の統治は慈悲であった。アッラーに誓って言うが、私たちは、ウマルがイスラームを受け入れるまで、カアバの周囲で公然と礼拝することができなかった。彼は彼らと戦い、私たちが安心して礼拝できるようになるまで、彼らを退けたのである。[1]

[1] *Al-Bidāyah wa al-Nihāyah*（3/79）

土曜日：サハーバモジュール — サウダ・ビント・ザムア（アッラーの御満悦あれ）

❖ 氏名と出生：
彼女は、信徒の母（ウンム=アル＝ムウミニーン）サウダ・ビント・ザムア・イブン・カイス・イブン・アブドゥ・シャムス・アル＝クライシー・アル＝アーミリーヤである。彼女のクンヤ（敬称）（通称名）はウンム・アル＝アスワドであった。
彼女はマッカにおいて生まれた。

❖ 生涯と徳行：
サウダ（アッラーの御満悦あれ）は、優れた品性、高貴な礼節、そして大いなる威厳を備えた人物であった。彼女は、ハディージャ（アッラーの御満悦あれ）の逝去後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が最初に娶られた女性である。預言者は彼女とともにマディーナへ移住し、その後およそ三年間、アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）と結婚されるまで、彼女は唯一の妻であった。

彼女はアビシニア（アビシニア）への移住を果たした者の一人であり、また、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）とともにハイバルの戦い、ならびに辞別の巡礼（Ḥajj al-Wadāʿ）に立ち会った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が逝去された後、彼女は自宅に留まり、亡くなるまで再びハッジを行うことはなかった。彼女は次のように語っていた。
私はすでにハッジとウムラを行いました。ですから、全能にして至高なるアッラーが私に命じられたとおり、自宅に留まります。[1]

彼女は寛大で慈善を好み、施しを与えることを愛した。ウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）でさえ、彼女に金銭を送っていたが、彼女はそれを貧者たちに分配していた。[2]
また、彼女の徳として十分であるのは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の妻の中で、アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）が、その振る舞いと態度において見習いたいと願った唯一の人物であったことである。[3]

彼女の特筆すべき行いの一つに、高齢となった後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）への思いやりから、自身に割り当てられていた日（預言者と過ごす順番）を、アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）に自発的に譲ったことが挙げられる。[4]

❖ **死去：**

サウダ・ビント・ザムア（アッラーの御満悦あれ）は、ウマル（アッラーの御満悦あれ）のカリフ在任の末期に、マディーナにおいて逝去した。彼女は亡くなる前、自身の家をアーイシャ（アッラーの御満悦あれ）に遺贈した。

[1] *Al-Ṭabaqāt al-Kubrā*（イブン・サアド著）8/55
[2] *Al-Bidāyah wa al-Nihāyah*（2/265）
[3] ムスリム伝承（1463）
[4] アル＝ブハーリー伝承（5212）、ムスリム伝承（1463）

週間知識テスト — 第 12 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	（アル＝ルマザ（al-lumazah））の意味は何か。	[a] 言葉によって人々を見下し侮辱する者[b] 行動によって人々を見下す者[c] 欺瞞によって人々に策謀を巡らす者	a
ハディース	人が死後も利益を受けるものはどれか。	[a] 多額の遺産[b] 高い地位[c] 有益な知識	c
アキーダ	スンナ派における、知識を受け取る源泉の一つはどれか。	[a] 正しい夢や幻視[b] サラフ（初期世代）の合意（イジュマー‘）[c] 理性	b
フィクフ	靴下の上から拭くこと（マスフ）の条件の一つはどれか。	[a] 礼拝の時間が入っていること[b] 着用しているものが清浄であること[c] その礼拝が義務礼拝であること	b
スィーラ	ウマル・イブン・アル＝ハッターブが、ハムザの後にイスラームを受け入れたのはどれくらい後か。	[a] 一か月後[b] 一週間後[c] 三日後	c
サハーバ	サウダ（アッラーの御満悦あれ）の徳の一つはどれか。	[a] 信徒の母たちの中で最も博識であったこと[b] 預言者が唯一、処女として娶られなかった妻であったこと[c] 約三年間、預言者の唯一の妻であったこと	c

13 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — フィール章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَلَمْ تَرَ كَيْفَ فَعَلَ رَبُّكَ بِأَصْحَابِ الْفِيلِ (1) أَلَمْ يَجْعَلْ كَيْدَهُمْ فِي تَضْلِيلٍ (2) وَأَرْسَلَ عَلَيْهِمْ طَيْرًا أَبَابِيلَ (3) تَرْمِيهِمْ بِحِجَارَةٍ مِنْ سِجِّيلٍ (4) فَجَعَلَهُمْ كَعَصْفٍ مَأْكُولٍ(5)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において あなたは、あなたの主が象の仲間たちをどのように扱われたかを見なかったのか。かれは、彼らの企てを迷妄に帰させられたではないか。また、群れをなす鳥たちを彼らに遣わし、焼き固められた粘土の石を彼らに投げつけさせ、彼らを食い荒らされた藁屑のようになされた。

❖ 本章の主題:

アッラーの絶対的な御力を示し、カアバに対して策謀を巡らせた者たちを滅ぼされたことの証明。

❖ 難解語句の解説:

アラビア語	転写	意味
أَلَمْ تَرَ	*alam tara*	あなたは知らなかったのか
أَصْحَابِ الْفِيلِ	*aṣḥāb al-fīl*	カアバを破壊しようとした、アビシニア人アブラハとその軍勢
كَيْدَهُمْ	*kaydahum*	カアバを破壊するための彼らの策謀と企て
تَضْلِيلٍ	*taḍlīl*	挫折、無効化、喪失
أبابيل	*abābīl*	連続して来る群れ
سِجِّيلٍ	*sijjīl*	焼き固められた粘土
كَعَصْفٍ مَأْكُولٍ	*ka-ʿaṣfin ma’kūl*	動物に食い荒らされ、その後捨てられた作物の乾いた茎のようなもの

❖ 全体的な意味:

フィール章は、アッラーが御自身の聖なる御家を守護される絶対的な御力を宣言する、マッカ啓示のスーラである。象の仲間たちとは、当時イエメンを支配していたキリスト教徒の一団であり、その指導者はアシュラムの子アブラハであった。彼はサンアーに壮大な教会を建立し、アラブ人に対して、カアバではなくそこへ巡礼するよう呼びかけ

た。これは、自らの土地を称揚し、交易と威信をマッカからイエメンへ移そうとする意図によるものであった。

教会が完成すると、クライシュ族の一人の男がそこへ赴き、その壁に汚物を塗りつけて逃走した。この報せを聞いたアブラハは激怒し、象を伴うアビシニア人の軍勢を率いてマッカへ進軍し、カアバを破壊しようとした。

彼らがマッカに近づいたとき、アッラーは海の方角から、群れをなす黒い鳥たちを彼らに遣わされた。それぞれの鳥は三つの石両脚に二つ、クチバシに一つを携えており、それらの石によって彼らは完全に滅ぼされた。こうして彼らの企ては阻止され、何の成果も得られなかったのである。
この出来事は、アッラーが御家を守護された明白な徴であり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の誕生の五十日前に起こった。ゆえにこれは、彼の誕生と使命に先立つ重要な前兆の一つとされている。

❖ 本章から得られる益:

1. アッラーは御自身のカアバを守護され、それに対して策謀を巡らす者たちを滅ぼされる。
2. この章は、クライシュ族に対し、御家に近接していたことによって与えられた安全と名誉という、アッラーの恩恵を想起させる。
3. 正当性を欠いたあらゆる企てや計画は、最終的にその企てた者自身に跳ね返る。

月曜日：ハディースモジュール — 赦しと謙遜を勧める教え

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）からの伝承によれば、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
施しは財を減らすことはない。また、人が赦すならば、アッラーはその者の名誉を高められる。さらに、アッラーのために自らを低くする者を、アッラーが高められないことはない。[1]

❖ 解説：

このハディースには、最も偉大な礼拝行為のうち、三つの徳が含まれている。

1. **施し（サダカ／Ṣadaqah）**
   施しは財を減少させるものではなく、むしろ祝福、増大、保護、そして害からの守りという形でそれを増やすものである。
2. **赦し**
   自分に不当な仕打ちをした者の過ちを赦すことは、屈辱を招くのではなく、真の名誉である。赦しに知られ、欠点を見逃し、非難を控える者は、人々の心の中で尊敬を得て、威厳を増し、現世と来世の双方において高められる。
3. **謙遜**
   真の謙遜とは、ある人々が思うような卑下や屈辱ではない。むしろ、アッラーの前でへりくだり、人々に対して柔和に接し、寛容に振る舞う者を、アッラーはその位階において高められる。そのような人は、この世において人々の間で高い地位と愛情を得、来世においては楽園の高き位階を授かる。

このハディースは、イフサーン（iḥsān：卓越・善行）の諸門を一つにまとめている。すなわち、人々の必要を満たすための施し、不当な仕打ちに対する赦し、そしてすべての人に対する謙遜と良き礼節である。これらの徳を体現する者は、現世においてアッラーから名誉を授けられ、さらに来世には計り知れない報奨が備えられている。

❖ このハディースから得られる益：

1. 施しの徳と、それが信仰者の心と財に及ぼす良き影響。
2. 赦し、過ちを見逃すこと、そして最善をもって応じることの徳それは名誉と尊厳を得る原因となる。
3. 謙遜の徳それは現世において人々の間で高められ、来世においては大いなる報奨をもたらす。
4. これらの徳が約束された者とは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉(アッラーのために自らを低くする者)に示されているように、見せびらかしなく、純粋にアッラーのために行う者である。
5. 名誉と高き位階はアッラーの御手の中にあり、御望みの者にそれをお授けになる。

[1] ムスリム伝承（2588）

火曜日：アキーダ モジュール — イスラーム信仰の根本原理

イスラーム信仰の根本原理とは、至高なるアッラーが御自身の啓典の中で言及され、またその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がスンナの中で示された、信仰の柱（信条）およびその原則である。

それらは次の六つである。
すなわち、アッラーへの信仰、その天使たち、その啓典、その使徒たち、来世（最後の日）への信仰、そして善悪を含む天命（カダル：定命）への信仰である。

❖ これら六つの柱が宗教の基盤である理由：

1. 人の信仰は、これらすべてを信じない限り、正当なものとはならない。
2. 信仰に関するすべての事柄とその詳細は、この六つの柱から派生しているからである。

❖ 根拠：
信仰の柱に関する多くの根拠は、クルアーンとスンナの中に見いだされる。その中には次のものが含まれる。

• 至高なるアッラーは仰せになった。
あなたがたが顔を東や西に向けることが義ではない。義とは、アッラー、最後の日、天使たち、啓典、そして預言者たちを信じる者のことである。[1]

• また、かれの御言葉。
まことに、われはすべてのものを定めによって創造した。[2]

• さらに、かれの御言葉。
かれは万物を創造し、それを厳密な定めによって定められた。[3]

ウマル（アッラーの御満悦あれ）から伝えられたハディースにおいて、彼は次のように述べている：

ある日、私たちがアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共に座っていると、純白の衣をまとい、漆黒の髪をした一人の男が現れた。彼には旅の痕跡が見られず、また私たちの誰一人として彼を知らなかった。彼は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の前に座り、膝をその膝に寄せ、両手を自分の腿の上に置いた。そして言った。
ムハンマドよ、私にイスラームについて教えてください。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
イスラームとは、アッラーのほかに礼拝に値する神はなく、ムハンマドがアッラーの使徒であると証言すること、礼拝（サラート）を確立すること、ザカートを施すこと、ラマダーンを断食すること、そして可能であれば御家（カアバ）へのハッジを行うことで

ある。
彼は言った。あなたは真実を語られました。
私たちは、彼が質問しながら、その答えを正しいと認めたことに驚いた。

彼はさらに言った。
信仰（イーマーン）について教えてください。
使徒は仰せになった。
それは、アッラー、その天使たち、その啓典、その使徒たち、最後の日を信じ、また善悪を含む天命を信じることである。
彼は言った。あなたは真実を語られました。

彼は言った。
イフサーンについて教えてください。
使徒は仰せになった。
それは、あたかもあなたがアッラーを見ているかのようにアッラーを礼拝することである。たとえあなたがかれを見ていなくとも、まことにかれはあなたを見ておられる。

彼は言った。
時（終末）について教えてください。
使徒は仰せになった。
問われている者は、問う者以上にそれを知ってはいない。

[1] ［アル＝バカラ章：177］
[2] ［アル＝カマル章：49］
[3] ［アル＝フルカーン章：2］

彼は言った。
それでは、その徴について教えてください。
使徒は仰せになった。
それは、女奴隷が自分の女主人を産むこと、また、裸足で、衣も乏しく、貧しい羊飼いたちが、高い建物を建てることを競い合うのを見ることである。

その後、彼は立ち去り、私はしばらくその場に留まっていた。すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
ウマルよ、質問していた者が誰であったか分かるか。
私は答えた。アッラーとその使徒が最もよく御存知です。
すると仰せになった。
彼はジブリールである。彼は、あなたがたに宗教を教えるために来たのだ。[1]

[1] ムスリム伝承（8）

水曜日：フィクフモジュール — グスル（全身沐浴）

❖ グスルが義務となる場合：

1. 精液が放出されたとき。これは、至高なるアッラーの御言葉、
もしあなたがたが不浄（ジャナーバ）の状態にあるならば、身を清めなさい。[1]
および、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉、
水が放出されたなら、グスルを行いなさい。[2]
による。
2. 射精の有無にかかわらず、性交が行われたとき。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉、
彼が彼女の四肢の間に座し、彼女と交わったなら、グスルは義務となる。[3]
による。
3. 不信仰者がイスラームを受け入れたとき。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、イスラームを受け入れた際に、カイス・イブン・アースィムにグスルを命じられたためである。[4]
4. 女性が月経、または産後の出血から清浄になったとき。これは、アッラーの御言葉、
彼女たちが清浄になったならば[5]
および、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、ファーティマ・ビント・アビー・フバイシュに対して言われた御言葉、
月経が始まったなら礼拝を控え、終わったならグスルを行い、それから礼拝しなさい。[6]
による。
5. 死亡したとき。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉、
彼を水とスィドル（蓮の葉）で洗いなさい。[7]
による。

❖ 推奨される（スンナ）グスル：

1. 金曜礼拝（ジュムア）のためのグスル。これは最も強調された推奨グスルであり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉、
あなたがたの誰かが金曜礼拝に来るときは、グスルを行いなさい。[8]
による。
2. 二度の性交の間に行うグスル。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉、
それは、より清浄で、より清く、より良い。[9]
による。
3. 二つのイードのためのグスル。これは、教友たち（アッラーの御満悦あれ）の実践による。[10]

4. ウムラまたはハッジのためにイフラーム（iḥrām）に入る際のグスル。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、イフラームの際にグスルを行われたためである。[11]
5. 失神から回復した者のためのグスル。これは、病中において預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が行われたためである。[12]
6. 死者を洗浄した者のためのグスル。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉、
死者を洗った者は、グスルを行うべきである。[1]
による。

❖ ジャナーバの状態などにある者に禁じられること：

1. 通過する場合を除き、モスクに留まることは許されない。これは、アッラーの御言葉、
また、ジャナーバの状態にあるときは、通過する場合を除いて（近づくな）。[2]
による。ただし、ウドゥー（小浄）を行った場合には、教友たちからの伝承に基づき、モスクに留まることが許される。[3]
2. クルアーンを朗誦することは許されない。これは、アリー（アッラーの御満悦あれ）からのハディースに基づく。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、ジャナーバの状態にあるとき以外、クルアーンの朗誦を妨げられることはなかった。[4]

[1] ［アル＝マーイダ章：6］
[2] ブハーリー伝承（269）、ムスリム伝承（303）
[3] ブハーリー伝承（287）
[4] アブー・ダーウード伝承（355）、アン＝ナサーイー（1/109）
[5] ［アル＝バカラ章：222］
[6] ブハーリー伝承（320）、ムスリム伝承（333）
[7] ブハーリー伝承（1266）、ムスリム伝承（1206）
[8] ブハーリー伝承（877）
[9] アブー・ダーウード伝承（216）
[10] マーリク伝承（428）
[11] ティルミズィー伝承（830）
[12] ブハーリー伝承（687）、ムスリム伝承（418）
[13] イブン・マージャ伝承（1463）
[14] ［アン＝ニサー章：43］
[15] サイード・イブン・マンスール伝承（1557）
[16] アフマド伝承（1014）

木曜日：スィーラモジュール — バヌー・ハーシムおよびバヌー・アル＝ムッタリブに対するクライシュのボイコット

ハムザとウマル（アッラーの御満悦あれ）がイスラームを受け入れると、イスラームは複数の部族の間に広まり始めた。バヌー・ハーシムは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を多神崇拝者たちに引き渡すことも、また彼を守護することをやめることも拒否した。これによりクライシュは激怒し、預言使命開始から七年目、ムハッラム月の初めに、バヌー・ハーシムおよびバヌー・アル＝ムッタリブをボイコットすることで全会一致した。

彼らは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を引き渡して殺害するまで、彼らと取引をせず、婚姻関係を結ばず、会話もせず、共に座ることもしないと誓約した。この合意の内容は文書に書き記され、カアバの内側に掲げられた。その文書を書いたのは、マンスール・イブン・イクリマ・イブン・アーミルであった。これに対し、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に対して祈りを捧げ、その結果、彼の手は麻痺した。

バヌー・ハーシムとバヌー・アル＝ムッタリブは、アブー・ラハブを除き（彼はクライシュ側についた）、アブー・ターリブと共にアブー・ターリブの谷へと退いた。彼らは三年もの間、その谷に留まり、密かに運ばれるもの以外、何も届かない状態であった。困窮は極みに達し、飢えた子どもたちの泣き声が谷の中から聞こえるほどであった。彼らは木の葉や動物の皮まで食べるに至った。

彼らが谷を出られるのは、神聖月の間だけであり、その時にマッカへ来る隊商から食料を買おうとしたが、マッカの人々は価格をつり上げ、彼らが何も買えないようにした。その後、預言使命開始から十年目に、クライシュの中の一部の者たちが同情心を抱き、その文書を破棄しようと動いた。その中には、ヒシャーム・イブン・アムル・イブン・ラビーアやムトイム・イブン・アディーが含まれていた。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アッラーがその文書に白蟻を送り込み、そこに書かれていた内容のすべてを食い尽くさせ、ただし偉大にして崇高なるアッラーの御名だけを残されたことを、自らの一族に告げられた。アブー・ターリブはクライシュのもとへ赴き、文書についてアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が語られた内容を伝え、次のように言った。もし彼が語ったことが虚偽であるなら、我々は彼をあなたがたに引き渡そう。しかし、もし彼が真実を語っているなら、あなたがたは我々に対するこのボイコットと不正を終わらせねばならない。 彼らが文書を開いてみると、まさに彼の語った通りであった。[1]
こうして文書は破棄され、長きにわたる包囲と苛烈なボイコットの後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共にいた人々は谷から出ることができたのである。

---

[1] *Al-Bidāyah wa al-Nihāyah*（3/97）

土曜日：サハーバモジュール — アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 彼女の名と誕生：

彼女は、信徒の母（ウンム＝アル＝ムウミニーン）であるアーイシャ・ビント・アビー・バクル・アッ＝スィッディーク（アッラーの御満悦あれ）である。彼女のクンヤ（敬称）は、姉アスマーの子であるアブドゥッラーにちなんで、ウンム・アブドゥッラーであった。
彼女（アッラーの御満悦あれ）は、預言使命開始から四年目に生まれた。

❖ 彼女の生涯と徳：

彼女は真実なる者の娘、真実なる者であり、七天の上からその潔白が宣言された人物である。アッラーは御自分の啓典において彼女を清め、彼女に関する節を、審判の日まで朗誦されるものとして啓示された。

彼女は教友たちの中でも最も知識豊かな者の一人であり、最も博識で、ハディースの伝承数が多く、また判断力に優れた人物であった。年長の教友たちでさえ、宗教上の事柄が不明瞭なときには、彼女の見解を求めた。アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー（アッラーの御満悦あれ）は次のように述べている。
私たち、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の教友たちが、理解に苦しむ問題に直面したときは、必ずアーイシャに尋ねた。そして、いつも彼女がその知識を有していることを見いだした。[1]
また、アズ＝ズフリーは次のように述べている。
もしアーイシャの知識を、信徒の母たち全員、そして他のすべての女性の知識と集めて比較したならば、アーイシャの知識がそれらを凌駕するであろう。[2]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼女と結婚する以前に、すでに彼女についての吉報を与えられていた。アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）からの伝承によれば、彼女は次のように語っている。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
私は三夜続けて夢の中であなたを見た。天使が絹の布に包んであなたを私のもとへ連れて来て、こう言った。“これはあなたの妻である。”私がそれを開くと、そこにはあなたがいた。そこで私は言った。“もしこれがアッラーからのものであるなら、かれは必ずそれを成就される。”[3]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ヒジュラの少し前、マッカにおいて、彼女が六歳のときに結婚された。彼女は両親と共に移住し、マディーナにおいて、ヒジュラ二年目、バドルの戦いの後、シャウワール月に、九歳のときに婚姻が完結した。預言者は、彼女以外に処女と結婚することはなかった。

彼は彼女を深く愛していた。‘アムル・イブン・アル＝アース（アッラーの御満悦あれ）からの伝承によれば、彼は次のように語っている：
私は尋ねた。
アッラーの使徒よ、人々の中で最もあなたに愛されているのは誰ですか。
彼は仰せになった。
アーイシャである。
私は言った。
男性の中では？
彼は仰せになった。
彼女の父である。[4]

---

[1] アッ＝ティルミズィー（3883）
[2] マーリク（6/124、アル＝アアザミー版）
[3] ブハーリー（3895）、ムスリム（2438）
[4] ブハーリー（3662）

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
アーイシャが他の女性たちに勝ることは、サリード（肉入りのパン料理）が他のすべての食物に勝るのと同じである。[1]

彼女の徳の中には、ジブリール（彼に平安あれ）が、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を通して、彼女にサラームを伝えたことも含まれる。[2]
また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、病の際、必ず彼女の家で看病を受けるようにされた。

アッラーは彼女を特別に栄誉ある者とされ、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の最期の時は、彼女の部屋で迎えられ、その御頭は彼女の胸と首の間に置かれていた。彼女（アッラーの御満悦あれ）は次のように語っている。
アッラーが私に授けてくださった恩恵の一つは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が、私の家で、私の日に、そして私の胸と首の間で亡くなられたことである。[3]

❖ 彼女の死去：
彼女（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦57年、ラマダーン月十七日の夜、ウィトル礼拝の後、六十六歳でマディーナにおいて逝去した。彼女は夜に埋葬されることを望み、その夜にバキーウ墓地に埋葬された。彼女の葬礼礼拝は、アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）が導師を務めた。

[1] ブハーリー（3769）、ムスリム（2431）
[2] ブハーリー（3768）
[3] ブハーリー（4449）

週間知識テスト — 第 13 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アバービール（Abābīl）の意味は何か。	[a] 連続して飛来する群れ[b] 広く分散した群れ[c] 恐怖を与える大群	a
ハディース	アッラーのしもべたちに対して謙虚になる者への報奨は何か。	[a] 生計の拡大[b] 輝く顔[c] アッラーが位階を高められること	c
アキーダ	次のうち、イスラーム信条（ウスール・アル＝アキーダ）の根本に含まれるものはどれか。	[a] 舌を慎むこと[b] 定命（カダル）への信仰[c] 他者に害を与えないこと	b
フィクフ	次のうち、グスル（大浄）が義務となる事例はどれか。	[a] 失神[b] 不信仰者がイスラームに入信すること[c] 罪を犯すこと	b
スィーラ	ボイコット文書（サヒーファト・アル＝ムカータア）を作成した人物は誰か。	[a] マンスール・ブン・イクリマ・ブン・アーミル[b] イクリマ・ブン・アビー・ジャフル[c] アブー・ラハブ・ブン・ʿアブド・アル＝ʿウッザー	a
サハーバ	次のうち、アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）の特別な特質に含まれるものはどれか。	[a] 使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が、彼女以外に処女と結婚しなかったこと[b] ハディージャの後で最初に結婚した妻であること[c] 信者の母たちの中で最後に逝去したこと	a

14 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ―アル＝カーリ'ア章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْقَارِعَةُ (1) مَا الْقَارِعَةُ (2) وَمَا أَدْرَاكَ مَا الْقَارِعَةُ (3) يَوْمَ يَكُونُ النَّاسُ كَالْفَرَاشِ الْمَبْثُوثِ (4) وَتَكُونُ الْجِبَالُ كَالْعِهْنِ الْمَنْفُوشِ (5) فَأَمَّا مَنْ ثَقُلَتْ مَوَازِينُهُ (6) فَهُوَ فِي عِيشَةٍ رَاضِيَةٍ (7) وَأَمَّا مَنْ خَفَّتْ مَوَازِينُهُ (8) فَأُمُّهُ هَاوِيَةٌ (9) وَمَا أَدْرَاكَ مَا هِيَهْ (10) نَارٌ حَامِيَةٌ (11)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。打ち砕く大災厄。打ち砕く大災厄とは何であるのか。また、打ち砕く大災厄が何であるかを、あなたに何が知らせようか。それは、人々が散り散りに飛び交う蛾のようになる日であり、山々がほぐされた羊毛のようになる日である。その時、善行の秤が重い者は、満ち足りた生活の中にある。しかし、秤の軽い者は、その母（帰る所）は深い穴である。そして、それが何であるかを、あなたに何が知らせようか。それは、激しく燃え盛る火である。

❖ このスーラの主題：

復活の日の恐怖と、その日に行為が量られる人々の状態を想起させ、心を強く打つこと。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
القارعة	al-Qāriʿah	復活の日。恐怖によって人々の心を打ち砕くことから、この名で呼ばれる。
كَالْفَرَاشِ الْمَبْثُوثِ	kal-farāshi al-mabthūth	散り散りに広がる蛾（群がり、互いにぶつかり合うような状態）。
كَالْعِهْنِ الْمَنفُوشِ	kal-ʿihni al-manfūsh	引き裂かれ、ほぐされた羊毛のようなもの。やがて粉塵のように散っていく。
ثَقُلَتْ مَوَازِينُهُ	thaqūlat mawāzīnuhu	善行の秤が悪行を上回り、重くなること。
فَأُمُّهُ هَاوِيَةٌ	fa-ummuhu hāwiyah	その住処・避難所が、頭から投げ込まれる火獄であること。

❖ 全体的な意味：

アル＝カーリʿア章は、十一節から成るマッカ啓示のスーラであり、復活、清算、そして行為が量られる時の人々の状態を描写している。至高なるアッラーは、復活の日が到来するとき、その甚大な恐怖と戦慄によって人々の心が打ち砕かれることを告げられる。その結果、人類はその数の多さと混乱の中で、群がり互いにぶつかり合う蛾のようになる。
また、堅固さ、高さ、巨大さを誇る山々でさえ、風に舞う引き裂かれた羊毛のようになるのである。
その後、至高なるアッラーは、人々が二つの集団に分けられることを知らせられる。善行の秤が重い者は、火獄から救われ、永遠の至福の住処である楽園において満ち足りた生活を送る。一方、善行が軽く、悪行が重い者の住処は火獄であり、破滅の家であって、そこへ頭から投げ込まれるのである。われわれは、それからアッラーの御加護を求める。

❖ このスーラから得られる益：

1. 復活の日の厳しさと恐怖を思い起こさせる。
2. 正義の者の結末を明確にし、それを目指す努力を促すとともに、不信仰者の結末に対する警告を与える。

3. スンナ派の信条に基づき、復活の日において善悪の行為が量られる(秤)の実在を確認する。
4. 来世の火獄は、現世の火の七十倍もの激しさを有する。

月曜日：ハディースモジュール — 不義（不正）への警告

ʿアブドゥッラー・イブン・ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）の伝承によれば、彼は次のように述べた：
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
不義（ズルム）は、復活の日において闇となる。[1]

❖ 解説：

このハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、不義を避けるよう我々に命じ、それに陥ることを強く警告しておられる。それは、人間に対してであれ動物に対してであれ、友に対してであれ敵に対してであれ、ムスリムに対してであれ非ムスリムに対してであれ、すべてに及ぶ。
続いて、この警告の理由が示される。すなわち、不義を行った者は復活の日において闇の中に置かれ、導きを見出すことができない一方、信仰者たちはその前方と右側に光を与えられるのである。
不義への警告は、その反対である正義への呼びかけである。シャリーアは正義を命じ、不義を禁じて来た。最も偉大で根本的な正義とは、アッラーの唯一性を確認し、すべての礼拝をただアッラーのみに捧げることである。これに対し、最も重大な不義とは、アッラーに同位者を配することである。
次に重要なのは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対する正義であり、それは彼を信じ、彼を愛し、すべての被造物への愛に勝ってその愛を優先することである。
さらに正義には、両親を敬うこと、親族関係を保つこと、商取引における誠実さ、労働者に正当な権利を与えること、そして夫婦が互いの権利を果たすことが含まれる。これらのいずれかを怠る者は、不義者である。
あらゆる形態の不義は、復活の日において闇となる。その罰は不義の度合いに応じて下され、被圧迫者は不義者の善行から補償を受ける。もしその善行が尽きれば、被圧迫者の罪が取り上げられ、不義者に負わされるのである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 不義に対する警告と、その結末の危険性の強調。

2. 諸テキストは、不義が三種類に分けられることを示している。
   ◦第一：アッラーが決して赦されない不義であり、それはアッラーに同位者を配することである。至高なる御方は仰せになる。
   まことに、アッラーは御自身に同位者が配されることをお赦しになられない。[2]
   ◦第二：アッラーが一切見過ごされない不義であり、それは人々が互いに行う不義である。
   ◦第三：アッラーの御意志に委ねられる不義であり、御望みであれば罰せられ、御望みであれば赦されるものである。これは、シルク（多神崇拝）に至らない、僕とその主との間の諸罪である。

[1] アル＝ブハーリー伝承（2447）、ムスリム伝承（2579）。
[2] ［アン＝ニサー章：48］

火曜日：アキーダモジュール — 六信の第一：アッラーを信じること

アッラーを信じる信仰は、次の四つの事柄によって成り立つ。

1. 御存在を信じること。
2. 御主性（ルブービーヤ）を信じること。
3. 礼拝を受ける権利（ウルーヒーヤ／神性）を信じること。
4. 御名と属性を信じること。

❖ 第一の事柄至高なるアッラーの御存在を信じることは、四種類の証拠によって確立される：

本性（フィトラ／fiṭrah）、理性、啓示、そして感覚的認識である。

1. 本性（フィトラ）による証拠：
   至高なるアッラーは仰せになる。
   アッラーが人々を創造された、その本性（フィトラ）に従え。[1]
   また、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
   生まれてくるすべての新生児は、フィトラの上に生まれる。[2]
2. 理性による証拠：
   至高なるアッラーは仰せになる。
   それとも、彼らは何ものにもよらずに創造されたのか。あるいは、自らが創造者なのか。[3]
   ジュバイル・イブン・ムト'イムは、これらの節を聞いたとき、私の心は今にも舞い上がりそうになり、その時こそが、信仰が初めて私の心に落ち着いた瞬間であったと述べている。[4]
3. 啓示による証拠：
   すべての天啓の書は、その主の御存在を明確に肯定している。それらに含まれる、公正で被造物の福利を包含する諸規定、そして人々が実際に成就するのを目の当たりにしてきた真実の報告これらすべては、全知なる主からのものであることの証拠である。
4. 感覚的認識による証拠：
   これは二つの側面から成る。
   • 第一：嘆願（ドゥアー'）への応答と、苦難にある者たちへの救済である。これは、預言者であれ使徒であれ、また正しき者たちであれ同様であり、祝福され崇高なる彼らの主の御存在を示す決定的な

証拠である。真摯にアッラーに呼び求める者が応答される事実は、今日に至るまで継続して目撃されている。

• 第二：預言者たちに授けられ、人々が目撃し、連綿と伝承してきた諸々の徴（しるし）と奇跡である。例えば、預言者ヌーフ、サーリフ、ムーサー、ʿイーサー（彼らの上に平安あれ）に与えられた徴、そして我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）に与えられた、月の分裂、彼の手の中で小石が讃美したこと、指の間から水が湧き出たことなどがそれである。

[1]［アル＝ルーム章：30］
[2] アル＝ブハーリー伝承（1358）、ムスリム伝承（2658）
[3]［アッ＝トゥール章：35］
[4] アル＝ブハーリー伝承（4573）

水曜日：フィクフ モジュール — グスルの方法と添え木へのマスフ（拭き）

❖ グスルの方法：

大きな不浄（ジャナーバ／janābah）からのグスルには、二つの形がある。

• 最小限（義務的）な方法義務事項のみを含む。
その内容：心において意図（ニーヤ）を立て、その後、口と鼻をすすぐことを含め、全身に水が行き渡るようにする。

• 推奨される方法義務事項と推奨事項の双方を含む。
その内容：心において意図を立て、次に両手を洗い、続いて陰部を洗って不浄を取り除き、それから礼拝のためのウドゥーを行う。その後、両手に水を取り、指で髪の根元をかき分けて水が頭皮に届くようにし、次に頭の上から三回、水を注ぐ。さらに、残りの身体全体に水を注ぐ。これは、‘アーイシャおよびマイムーナ（アッラーの御満悦あれ）のハディースに基づく。[1]

❖ 両方の方法に共通する義務事項：

グスルを行う者は、髪の根元や身体の隠れた部分例えば脇の下、足の指の間、膝の裏などにまで確実に水が届くようにしなければならない。腕時計や指輪を着けている場合は、その下に水が届くよう、動かす必要がある。

❖ 添え木およびそれに類するものへのマスフ（拭き）：

添え木とは、骨折を固定し、癒合させるために用いられるものであり、ギプスなどの類がこれに含まれる。また、傷口の上に貼られる粘着性の包帯や布の包帯も同様である。

❖ ウドゥーおよびグスルにおける、それへのマスフの規定：

法学者たちは全会一致で、添え木およびそれに類するものへのマスフが、ウドゥーとグスルの双方において合法であることに同意している。ただし、次の二つの条件がある。

1. それを外す必要があり、外せば害が及ぶ状態であること。
2. 骨折や傷の必要な範囲のみを覆っていること。もし必要範囲を超えている場合、その余分な部分は取り除かなければならない。

❖ 添え木およびそれに類するものへのマスフに関する諸規定：

1. 添え木の全体を拭かなければならない。
2. マスフの期間に定められた期限はなく、それが外されるまで、あるいはその下の傷が癒えるまで、拭き続ける。

[1] アル＝ブハーリー伝承（248–249）、ムスリム伝承（316–317）

木曜日：スィーラモジュール — 第二次アビシニア移住

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、多神崇拝者たちの強情さと、ムスリムに対する迫害が激しさを増しているのをご覧になり、教友たちに第二次アビシニア移住を行うよう勧められた。
この時、八十三人の男性と十七人の女性が、ナジャーシー（ネグス）によって統治されていたキリスト教国アビシニアへと移住した。彼は彼らに庇護を与え、敬意をもって迎え入れ、安全を保障した。

クライシュ族はこのことを知ると、‘アブドゥッラー・イブン・アビー・ラビー‘アと、‘アムル・イブン・アル＝‘アースを追手として派遣し、贈り物や献上品を携えさせてナジャーシーのもとへ向かわせ、ムスリムたちを引き渡すよう求めた。しかし、ナジャーシーはこれを拒否した。
そこで彼らは、ムスリムたちを中傷し、彼らは‘イーサーについて重大な言葉を口にしている。彼らは、彼がしもべであると言っているのだと告げた。

ナジャーシーは、ムスリムたちを宮廷に召喚し、その指導者であったジャ‘ファル・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）と対面した。彼は彼らに宗教について尋ね、ジャ‘ファルが答えた。
ジャ‘ファルは、イスラーム以前の彼らの状態、イスラームによってどのように変えられたか、そしてイスラームがもたらした、アッラーのみを礼拝し偶像崇拝を放棄すること、高貴な道徳を命じる教えについて説明した。
続いて、彼はマリヤム章の冒頭部分を朗誦し、そこに含まれる、マスィーフ（メシア）‘イーサー・イブン・マルヤム（彼の上に平安あれ）の誕生の物語を語った。

ジャ‘ファルが朗誦を終えると、ナジャーシーは地面から一本の小枝を拾い上げ、こう言った。
あなたが語ったことと、福音書にあることとの違いは、この小枝ほどもない。
そして言った。
行きなさい。あなたがたは、わたしの国で安全である。誰であれ、あなたがたを侮辱する者には、罰が科される。
さらに、‘アムルと‘アブドゥッラーに向かって言った。

アッラーに誓って言う。たとえ黄金の山を差し出されたとしても、彼らをあなたがたに引き渡すことはない。

その後、ナジャーシーは彼らの贈り物を返すよう命じ、彼らは最悪の失敗と屈辱の中で帰還した。一方、ムスリムたちは、アビシニアにおいて安全と尊敬の中に留まったのである。[1]

[1] アル＝ビダーヤ・ワン＝ニハーヤ（3/69）

土曜日：サハーバモジュール — ハフサ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と誕生：

彼女は、信徒の母（ウンム・アル＝ムウミニーン）ハフサ・ビント・ʿウマル・イブン・アル＝ハッターブ・イブン・ヌファイルであり、その系譜は、カʿブ・イブン・ルアイイにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の系譜と合流する。

彼女は、預言者の使命が始まる五年前に、マッカで誕生した。

❖ 生涯と徳行：

彼女（アッラーの御満悦あれ）は、初期にイスラームに入信し、マディーナへ移住し、バドルの戦いに参加したサハービーである、フナイス・イブン・フダー ファ・アッ＝サフミーと結婚していた。彼はその後に逝去したため、[1] 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ヒジュラ暦三年、彼女が二十歳のときに彼女と結婚され、彼女は第四番目の妻となった。

彼女は、断食と礼拝に熱心で、敬虔かつ聡明、思慮深い人物であった。雄弁さと流暢な話しぶりで知られ、自身の演説や詩を有していた。また、当時としては数少ない、書記を学んだ女性の一人であり、アル＝シファー’・ビント・ʿアブドゥッラーから書くことを教えられた。[2]

彼女にとって十分な名誉であるのは、アブー・バクルが編纂を命じた、最初の完全なクルアーン書写本の保管者であったことである。アブー・バクルの没後、それはʿウマルのもとに置かれ、彼の死後、ハフサに託された。[3] 彼女は、それを保管し続け、後にʿウスマーン・イブン・ʿアッファーンが、標準写本を作成するためにそれを求めるまで守り抜いた。

❖ 死去：

ハフサ（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦四十一年シャʿバーン月、マディーナにおいて、ムʿアーウィヤ・イブン・アビー・スフヤーン（アッラーの御満悦あれ）のカリフ位の初期に逝去した。当時マディーナ総督であったマルワーン・イブン・アル＝ハカムが彼女の葬礼礼拝を導き、彼女はアル＝バキーʿに埋葬された。

[1] アル＝ビダーヤ・ワン＝ニハーヤ（8/30）
[2] アブー・ダーウード伝承（3887）
[3] アル＝ブハーリー伝承（4679）

理解度チェック — 第 14 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アル＝‘イフン・アル＝マンフーシュの意味は何か。	[a] 熱い粘土[b] 焼けた革[c] 引き裂かれた羊毛	**c**
ハディース	アッラーが何一つ見逃さず、すべて取り立てられる不義の種類とはどれか。	[a] 利子を食むこと[b] 自分自身への不義[c] 人々が互いに行う不義	**c**
アキーダ	アッラーの御存在に関する、理性による証拠はどれか。	[a] 被造物には創造者が必ず存在すること[b] 天啓の諸書[c] 嘆願への応答と苦難者の救済	**a**
フィクフ	大きな不浄からのグスルにおいて必要なことはどれか。	[a] 事前に必ずウドゥーを行うこと[b] 全身に水が行き渡るようにすること[c] 三回繰り返すこと	**b**
スィーラ	アビシニア王の前で、ムスリムたちの指導者かつ代弁者であったのは誰か。	[a] ‘アブドゥッラー・イブン・‘アッバース[b] ジャ‘ファル・イブン・アビー・ターリブ[c] ‘ウマル・イブン・アル＝ハッターブ	**b**
サハーバ	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、ハフサ（アッラーの御満悦あれ）と結婚されたのは何年か。	[a] ヒジュラ暦 3 年[b] ヒジュラ暦 5 年[c] ヒジュラ暦 7 年	**b**

15 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ―アッ＝タカースル章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَلْهَاكُمُ التَّكَاثُرُ (1) حَتَّى زُرْتُمُ الْمَقَابِرَ (2) كَلَّا سَوْفَ تَعْلَمُونَ (3) ثُمَّ كَلَّا سَوْفَ تَعْلَمُونَ (4) كَلَّا لَوْ تَعْلَمُونَ عِلْمَ الْيَقِينِ (5) لَتَرَوُنَّ الْجَحِيمَ (6) ثُمَّ لَتَرَوُنَّهَا عَيْنَ الْيَقِينِ (7) ثُمَّ لَتُسْأَلُنَّ يَوْمَئِذٍ عَنِ النَّعِيمِ (8)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。互いに張り合って蓄積を競うことが、あなたがたを（真理から）気をそらせた。墓を訪れる時まで。断じて否、あなたがたはやがて知るであろう。再び、断じて否、あなたがたはやがて知るであろう。断じて、もし確かな知識（ʿIlm al-Yaqīn）をもって知っていたならば、あなたがたは必ず業火を見るであろう。さらに、あなたがたは必ずそれを確信の眼（ʿAyn al-Yaqīn）をもって見であろう。その日、あなたがたは数々の恩恵について必ず問い質される。

❖ スーラの主題：

現世の競争と誇示に没頭する者たちに対し、墓と来世における清算を想起させる警告。

❖ 難解語句の解説：

アラビア語	転写	意味
أَلْهَاكُمُ	alhākum	至高なるアッラーへの服従から、あなたがたを気をそらせたこと。
التَّكَاثُرُ	at-takāthur	財産・子ども・現世の所有物をめぐる競争と誇示。
عِلْمَ الْيَقِينِ	ʿilma al-yaqīn	心に確立された揺るぎない確信の知識。
عَيْنَ الْيَقِينِ	ʿayna al-yaqīn	疑いなき確証として、自らの目で業火を見ること。

アラビア語	転写	意味
النَّعِيمِ	an-naʿīm	健康、安全、家族、食物など、あらゆる種類の恩恵。

❖ 全体的意味：

この章において、至高なるアッラーは、誇示と競争として財を集め増やすことに心を奪われ、自らが創造された目的すなわち、アッラーとその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の服従を忘れ去った者たちを叱責される。彼らはこの不注意のまま死を迎え、墓へと移されるのである。

アッラーは断じて否との御言葉によって警告される。すなわち、それはあるべき姿ではなく、現世の利得に没頭し、来世への備えを怠った結果を、あなたがたは必ず知るであろう、という意味である。もし彼らが、墓と復活の日に自分たちを待ち受けるものについて、確かな知識を有していたならば、財や子どもをめぐる競争にこれほど没頭することはなかったであろう。むしろ、善行へと急いだに違いない。

さらにアッラーは、審判の日にすべての人々が自らの目で業火を見ることを告げられる。不信仰者はそれに入れられ、信仰者はそこから救われる。その日、人々は現世で享受したあらゆる恩恵健康、余暇、安全、食物、飲み物について問い質される。これらの恩恵に感謝し、アッラーへの服従に用いた者は救われ、不信恩と不服従に用いた者は懲罰に直面する。

❖ この章から得られる教訓：

1. 財の蓄積や子どもの誇示によって、アッラーへの礼拝から逸れる者への厳しい警告。
2. 墓は単なる移行と訪問の場であり、人はやがてそこから来世へと移される。
3. 至高なるアッラーへの感謝は、
   ・心によって恩恵を認め、真の授与者がアッラーであると信じること、
   ・舌によって恩恵をアッラーに帰し、称賛をもって語ること、
   ・身体によってアッラーが義務づけられたことを行い、禁じられた

ことを避けること、
によって表される。

月曜日：ハディースモジュール — アッラーの恩恵に対する感謝

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）の伝承によれば、彼は次のように述べた。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
自分より下の者たちに目を向けなさい。自分より上の者たちに目を向けてはならない。そうすることは、アッラーがあなたがたに与えられた恩恵を軽んじないために、よりふさわしいからである。[1]

❖ 解説：

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、至高なるアッラーへの感謝を勧めておられる。それは、御恩恵を認め、それについて語り、それをアッラーへの服従の中で用い、感謝を表す助けとなる諸手段を取ることによって実現される。
預言者は、効果的で有益な治療法として、一つの視点を示された。すなわち、人は知性、財産、そしてさまざまな恩恵の点において、常に自分より下にある者たちを見るべきである、ということである。この見方は、主を讃美し感謝する心を育み、自分より多くを持つ者に目を向けることで生じかねない、アッラーの恩恵を軽んじる心から人を守る。
この助言を実践する者は、まことに主に感謝した者であり、心の平安を得て、快く満ち足りた生活を享受するのである。
この意味は、至高なるアッラーの御言葉によっても明確に示されている。
われらが彼らの一部の者に享受させた、現世の生活の華美に、あなたの両眼を向けてはならない。それは、われらが彼らを試すためのものである。あなたの主の糧こそ、より善く、より永続するものである。[2]

❖ このハディースから得られる益：

1. 満足と心の充足へと導く、最善の手段を採るようムスリムを導く教え。
2. 現世的な事柄においては、自分より下の者を顧みることが、感謝と満足を育むために推奨される一方、礼拝行為においては、より上の者を見て、さらなる努力を目指すべきであるという指針。

3. 現世の過度な追求を控え、それに心を奪われ過ぎないことの徳。
4. 嫉妬、憎悪など、多くの心の病から自らを守るための方法を、このハディースは提示している。

[1] アル＝ブハーリー伝承（6490）、ムスリム伝承（2963）
[2] ［ター・ハー章：131］

火曜日：アキーダモジュール — アッラーの主宰性（ルブービーヤ）への信仰

アッラーの主宰性（ルブービーヤ）への信仰とは、かれが万物の主であり、同位者も補助者も一切持たれない御方であると信じることである。主（ラッブ）とは、三つの属性を有する御方である。すなわち、創造、所有、統御（支配）である。これらすべては、至高なるアッラーのみに帰属する。アッラー以外に創造者はなく、かれ以外に所有者はなく、かれ以外に万物を統御する者はいない。

❖ これに対する証拠：

至高なるアッラーは仰せになる。
まことに、創造も命令も、かれのものである。[1]

また仰せになる。
それこそが、あなたがたの主アッラーである。主権はかれに属する。かれ以外にあなたがたが祈り求めるものは、ナツメヤシの種の薄皮ほどのものすら所有しない。[2]

また仰せになる。
まことに、天と地の創造、夜と昼の交替、人々に益するものを積んで海を航行する船々、アッラーが天から下される雨によって、死んでいた大地に命を与え、そこにあらゆる動く生き物を散らされたこと、また風を操り、天と地の間に制御された雲これらには、理性を用いる民へのしるしがある。[3]

また仰せになる。
アッラーこそが、あなたがたを創造し、次いで糧を与え、次いで死をもたらし、さらに命を与えられる御方である。あなたがたが配する(同位者)の中に、そのいずれかを行う者がいるであろうか。かれに栄光あれ。かれは、彼らが配するもののはるか上におられる。[4]

また仰せになる。
かれのしるしの一つは、あなたがたを塵から創造されたことであり、やがてあなたがたが人間として地上に広がることである。また、かれのしるしの一つは、あなたがたが安らぎを見出すために、あなたがた自身の中から配偶者を創られ、その間に愛情と慈悲を置かれたことである。まことに、

そこには思索する民へのしるしがある。また、かれのしるしの一つは、天と地の創造、そしてあなたがたの言語と肌の色の多様性である。まことに、そこには知識ある者へのしるしがある。また、かれのしるしの一つは、夜と昼におけるあなたがたの眠り、そしてかれの恩恵を求めることである。まことに、そこには耳を傾ける民へのしるしがある。また、かれのしるしの一つは、恐れと希望を伴う稲妻をあなたがたに示し、天から雨を下して、それによって死んでいた大地に命を与えられることである。まことに、そこには理性を用いる民へのしるしがある。[5]

---

[1] ［アッ＝アʿラーフ章：54］
[2] ［ファーティル章：13］
[3] ［アル＝バカラ章：164］
[4] ［アル＝ルーム章：40］
[5] ［アル＝ルーム章：20–24］

被造物のすべては、アッラーの主宰性（ルブービーヤ）における唯一性を認め、創造、糧の供給、生と死の付与といった被造物の一切の事柄を、ただアッラーのみが統御しておられることを承認している。彼らは、これらの行為のいずれについても、アッラー以外のものに帰することはしない。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の時代における多神崇拝者たちでさえ、礼拝においてはアッラーに同位者を配していたにもかかわらず、その主宰性についてはアッラーを認めていた。至高なるアッラーは仰せになる。
もしあなたが彼らに、天と地を創造したのは誰かと問えば、彼らは必ず偉力ならびなく、全知なる御方がそれらを創造されたと言うであろう。[1]

被造物の中で、真にその主張を信じることなく、ただ傲慢さゆえにアッラーの主宰性を否定した者は、ファラオが神性を主張した例を除いて知られていない。これは確信によるものではなく、傲慢さと強情さから出たものであった。至高なるアッラーは、ムーサー（彼に平安あれ）がファラオに語った言葉として仰せになる。
彼は言った。あなたはすでに知っている。これら（しるし）を明証として下されたのは、天と地の主以外にはない。そして私は、ファラオよ、あなたが必ず滅ぼされる者であると思う。[2]

また、至高なる御方は仰せになる。
彼らはそれらを拒否したが、内心ではそれが真理であると確信していた。これは不正と傲慢さによるものであった。[3]

---
[1] ［ズフルフ章：9］
[2] ［イスラー章：102］
[3] ［ナムル章：14］

水曜日：フィクフモジュール — タヤンムム

タヤンムムとは、水が存在しない場合、あるいは水はあっても使用することができない状況において必要とされる浄化方法である。アッラーは、僕たちへの配慮と寛容として、水に代わるものとしてタヤンムムを立法された。これは、このシャリーアの美しさの一つであり、また、慈悲と容易さとして、アッラーが以前の諸共同体に勝ってムハンマドのウンマ（共同体）に特別に授けられた卓越した特徴の一つである。

❖ タヤンムムの法的 ：
学者たちは、タヤンムムの正当性について全会一致しており、それが小浄・大浄のいずれにおいても、水による浄化の代替となることに合意している。

証拠：
至高なるアッラーは仰せになる。
もしあなたがたが病人であるか、旅の途中にあるか、あるいは用を足して戻って来た者がいるか、または女と接触して水を見いだせないなら、清浄な土でタヤンムムを行い、それで顔と両手を拭いなさい。アッラーは、あなたがたに困難を課すことを望まれない。むしろ、あなたがたを清め、御恩寵を全うされることを望まれる。あなたがたが感謝するためである。[1]

また、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
大地は、わたしのためにマスジド（礼拝の場）と浄化の手段とされた。[2]

❖ タヤンムムの行い方：
まず意図（ニーヤ）を立て、次にビスミッラー（Bismillāh）と言い、両手で地面を一度打つ。その後、余分な土埃を吹き落とし、顔と両手を拭う。拭き方は、左手で右手の甲を、右手で左手の甲を拭う。[3]

❖ タヤンムムが有効かつ十分とされる状況：

1. 水が見つからない場合至高なる御方の御言葉にあるとおりである。
   …そして水を見いだせないなら、清浄な土でタヤンムムを行いなさい。[4]
   また、次のハディースにおいても述べられている。
   清浄な土は、たとえ十年間水を見いだせなくとも、ムスリムにとって浄化の手段である。しかし、水を見つけたなら、それを肌に触れさせなさ

い。[5]

同様に、飲用や調理のために必要なわずかな水しか持たない場合、その水を浄化に用いれば、自身や同行者が渇きに苦しむ恐れがあるときも、タヤンムムが適用される。

[1]［マーイダ章：6］
[2]アル＝ブハーリー伝承（335）
[3]アル＝ブハーリー伝承（347）、ムスリム伝承（368）
[4]［マーイダ章：6］
[5]アッ＝ティルミズィー伝承（124）

2. 水を使用できない場合病気のため、あるいは水を使用すれば害が及ぶことを恐れるほどの厳しい寒さのためであり、かつ水を温める手段を持たない場合である。これは、至高なる御方の御言葉に基づく。
   …もしあなたがたが病人であるなら。[1]
   また、‘アムル・イブン・アル＝‘アースのハディースにおいて、彼がザート・アッ＝サラースィル遠征に派遣された際、次のように述べている。
   私は、非常に寒い夜に夢精となり、もし沐浴（グスル）を行えば命を落とすのではないかと恐れた。そこで私はタヤンムムを行い、仲間たちを率いてファジュル礼拝を執り行った。[2]
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼の行為を是認された。

❖ タヤンムムを無効にする事柄：
タヤンムムを無効にするものは、次のとおりである。

1. ウドゥーを無効にするすべての事柄。タヤンムムはウドゥーの代替であるため、ウドゥーを破るものは、同様にタヤンムムも無効にする。
2. 水を見つけた場合、または水を使用できる能力を回復した場合。これは、次の御言葉に基づく。
   水を見つけたなら、それを肌に触れさせなさい。[3]

---

[1] ［マーイダ章：6］
[2] アフマド伝承（4/203）、アブー・ダーウード伝承（334）
[3] アッ＝ティルミズィー伝承（124）

木曜日：スィーラモジュール — 悲嘆の年

預言者の使命開始から十年目、渓谷（シィ‘ブ）から出て六か月後、アブー・ターリブは重い病に倒れた。彼は、多神崇拝者たちの陰謀と害から、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を守る、堅固な砦のような存在であった。

アブー・ターリブの死期が近づいたとき、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を見舞われた。その場には、アブー・ジャフルと‘アブドゥッラー・イブン・アビー・ウマイヤも同席していた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は仰せになった。
叔父よ、ラー・イラーハ・イッラッラーと言いなさい。その言葉によって、私はアッラーの御前であなたのために弁明しよう。
しかし、アブー・ジャフルと‘アブドゥッラー・イブン・アビー・ウマイヤは言った。
アブー・ターリブよ、あなたは‘アブドゥル＝ムッタリブの宗教から離れるのか。
彼らはそのように言い続け、ついにアブー・ターリブは、
私は‘アブドゥル＝ムッタリブの宗教の上にある
と言って、そのまま亡くなった。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は深く悲しまれ、次のように仰せになった。
私が禁じられない限り、必ずあなたのために赦しを求めよう。[1]
すると、アッラーは次の御言葉を啓示された。
預言者と信仰する者たちが、多神崇拝者のために赦しを求めることは許されない。たとえ近親者であっても、彼らが火獄の仲間であることが明らかになった後ではなおさらである。[2]
また、次の御言葉も啓示された。
まことに、あなたは自ら愛する者を導くことはできない。しかし、アッラーが御望みの者を導かれる。[3]

アブー・ターリブの死から三か月後、ハディージャ（アッラーの御満悦あれ）もまた世を去った。このようにして、災厄は次々とアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の上に降りかかり、悲嘆が重なった。彼女は最良の妻であり、最良の支援者であった。彼女は彼の子どもたちの母で

あり、困難の中で彼を支え、力づけ、彼女の財とその身をもって彼を慰めたのである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼女について次のように仰せになった。
人々が私を信じなかったとき、彼女は私を信じてくれた。人々が私を嘘つき呼ばわりしたとき、彼女は私の真実性を認めてくれた。人々が私から遠ざかったとき、彼女は自らの財を分かち合ってくれた。そしてアッラーは、他のどの妻からでもなく、彼女から私に子どもを授けられた。[4]

---

[1] アル＝ブハーリー伝承（4772）、ムスリム伝承（24）
[2] ［タウバ章：113］
[3] ［カサス章：56］
[4] アル＝ブハーリー伝承（3821）、ムスリム伝承（2437）

土曜日：サハーバモジュール — ザイナブ・ビント・フザイマ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 姓名と誕生：

彼女は、信仰者の母であるザイナブ・ビント・フザイマ・イブン・アル＝ハーリス・イブン・ʿアブドゥッラー・イブン・ʿアムルであり、マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス（アッラーの御満悦あれ）の母方の姉妹である。

彼女は、預言者性が始まる十三年前にマッカで誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼女（アッラーの御満悦あれ）は、貞節で清廉、系譜と家柄において高貴な人物であった。寛大さ、親切さ、貧者のために施すこと、彼らを顧みること、そして深い慈悲心によって知られており、その豊かな施しゆえに、イスラーム以前の時代からウンム・アル＝マサーキーン（貧者の母）と呼ばれていた。[1]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と結婚した後、彼女はさらに善行と義行に励むようになった。彼女のもとにディーナールやディルハムが入ることがあっても、それを貧者の食物や衣服のために費やさずにいることはなかった。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ヒジュラ後三年目のラマダーンの月、彼女の夫であったʿアブドゥッラー・イブン・ジャハシュがウフドの戦いの日に殉教した後、彼女と結婚された。[2] こうして彼女は、信仰者の母たちの五人目となった。

❖ 逝去：

彼女（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ後四年目、三十歳で、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）との結婚から二、三か月後に亡くなった。[3]

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼女のために葬礼の礼拝を行い、アル＝バキー‘に埋葬された。彼女は、アル＝バキー‘に埋葬された最初の信仰者の母であり、また、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の存命中に亡くなった二人目の信仰者の母であった。

---

[1]スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー(3/476)

[2]アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ(4/90)

[3]スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー(3/476)

知識テスト — 第 15 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アルハークム（أَلْهَاكُم）の意味は何か。	[a] アッラーへの服従からあなたがたを逸らした[b] 行動することを遅らせた[c] 高慢にした	a
ハディース	人々が自分に与えられたアッラーの恩恵を軽んじる原因の一つはどれか。	[a] 長すぎる希望（空望）[b] 自分より上の者を見ること[c] 高慢な者と同席すること	b
アキーダ	主（アル＝ラッブ）が有する三つの属性とは何か。	[a] 聴覚・視覚・発話[b] 創造・所有・統御[c] 高位に在ること・御喜び・慈悲	b
フィクフ	タヤンムムを無効にするものの一つはどれか。	[a] 礼拝を終えること[b] 長時間水が見つからないこと[c] 水を使用できる能力があること	c
スィーラ	死が近づいた際、アブー・ターリブを不信仰のまま固執させた者の一人は誰か。	[a] アブー・ジャハル[b] アブー・ラハブ[c] アブー・スフヤーン	a
サハーバ	ザイナブ・ビント・フザイマ（アッラーの御満悦あれ）は、イスラーム以前に何と呼ばれていたか。	[a] ウンム・アッ＝タイイビーン（善良なる者たちの母）[b] ウンム・アル＝バニーン（息子たちの母）[c] ウンム・アル＝マサーキーン（貧者の母）	c

16 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アッ＝ザルザラ章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا زُلْزِلَتِ الْأَرْضُ زِلْزَالَهَا (1) وَأَخْرَجَتِ الْأَرْضُ أَثْقَالَهَا (2) وَقَالَ الْإِنْسَانُ مَا لَهَا (3) يَوْمَئِذٍ تُحَدِّثُ أَخْبَارَهَا (4) بِأَنَّ رَبَّكَ أَوْحَى لَهَا (5) يَوْمَئِذٍ يَصْدُرُ النَّاسُ أَشْتَاتًا لِيُرَوْا أَعْمَالَهُمْ (6) فَمَنْ يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا يَرَهُ (7) وَمَنْ يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ شَرًّا يَرَهُ (8)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。
大地がその最終の震動によって激しく揺り動かされ、* 大地がその内にあるものを吐き出し、* 人間がそれはどうしたのかと言うとき。* その日、大地はその消息を語る。* あなたの主がそれに啓示されたためである。* その日、人々は分け隔てられた状態で出て行き、自らの行いを示される。* それゆえ、原子一つ分の重さほどの善を行った者はそれを見る。* また、原子一つ分の重さほどの悪を行った者もそれを見るのである。

❖ スーラのテーマ：

復活の日の恐怖と、その精密な清算についての想起。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
زلزلت	zulzilat	終末の時の到来において、大地が激しく揺り動かされること
زلزالها	zilzālahā	その激烈な震動（大地固有の揺れ）
ما لها	mā lahā	何が起こったのか、なぜそのような激しい動きが生じたのか
يومئذٍ تحدث أخبارها	yawma’idhin tuḥaddithu akhbārahā	その日に大地が、人々の行った善と悪について語り、証言すること
مثقال ذرة	mithqāl dharrah	極めて微小な重さ；最小の蟻一匹分の重さ（完全な微量の比喩）

❖ 全体的な意味：

これは、復活の日の恐怖と、その清算の精密さを想起させるために下された、マディーナ啓示のスーラである。至高なるアッラーは、その日に大地が激しく揺れ動き、その表面にあるすべてのもの山々、建造物などが崩れ落ち、その内部にある死者や宝がすべて吐き出されることを知らせている。これを目にする者は皆、困惑し、それぞれがこれは

どうしたのかと問いかけるのである。
その後、祝福され崇高なる主は、しもべたちの間を裁き、彼らが行ったすべてのことについて清算される。まことに、主は大地に語ることを命じ、その上で行われた善と悪について証言させられる。アッラーが彼らの間を裁かれた後、人々は裁きの場から、分け隔てられた状態で去り、それぞれが自らの報いを見ることになる。その行いのうち、たとえ蟻一匹分の重さほどであっても、何一つ失われることはないのである。

❖ このスーラから得られる益:

1. 復活と報いへの信仰の確証、ならびに復活の日の恐怖の激烈さの描写。
2. たとえ小さなことであっても、善行を継続することへの奨励。それは必ず復活の日に提示されるからである。
3. たとえ小さなことであっても、悪を行うことへの警告。それは必ず復活の日に提示されるからである。
4. 大地は、人がその上で行った善と悪について証言するであろう。

月曜日：ハディース モジュール — アッラーがしもべたちの中で御覧になられるもの

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
まことに、アッラーはあなたがたの身体や外見を御覧になられるのではない。むしろ、あなたがたの心と行いを御覧になられるのである。[1]

❖ 解説：

このハディースには、否定されている事柄と、肯定されている事柄がある。否定されている事柄とは、アッラーが被造物の身体や外見を御覧になり、それに基づいて報いを与えられるということである。肯定されている事柄とは、心の中にある誠実さと信仰を御覧になられること、そして行いが正しいか否かという点において、その行為そのものを御覧になられることである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 人々の優劣は、身体の強弱や外見の美しさ、形によって決まるのではなく、心に宿る信仰、真実性、誠実さ、そしてタクワー（taqwā）によって決まるのである。
2. ムスリムにとって、心の状態に注意を払い、それを正し、意図を清め、あらゆる非難されるべき性質からそれを浄化することは義務である。なぜなら、肢体の行いを正すものこそが心だからである。
3. 行いが受け入れられるためには、二つの条件に依存する。
   ・心における内的条件、それはアッラーのための意図の誠実さである。
   ・行為における外的条件、それは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の導きに合致していることである。

[1] ムスリム（2564）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール ― アッラーのウルーヒーヤ（神性）の信仰

タウヒード・アル＝ウルーヒーヤ（Tawḥīd al-Ulūhiyyah）とは、あらゆる種類の礼拝において、至高なるアッラーのみを唯一とすることである。
アル＝イラーフ（al-Ilāh）という語は、アル＝マウルーフ（al-Maʾlūh）、すなわち、愛と畏敬をもって礼拝される御方を意味する。
そのウルーヒーヤへの信仰とは、同位者や共同者を持たず、礼拝に値する真の神はただ御方のみであると信じることである。
アッラーは、啓示に基づく証拠（シャリーア的証拠）と理性的証拠の双方によって、そのウルーヒーヤを確証し、他のすべてのものの神性を無効とされた。

❖ **啓示に基づく証拠から：**

• 至高なるアッラーは仰せられた。あなたがたの神は唯一の神である。慈悲あまねく、慈悲深き御方である御方のほかに神はない。[1]
• また仰せられた。アッラーは仰せられた。二つの神を取ってはならない。まことに、神は唯一である。それゆえ、われのみを畏れよ。[2]
• また、すべての使徒（彼らの上に平安がありますように）が、その民に対して述べた言葉は次のとおりであったと、アッラーは知らせられた。アッラーを礼拝せよ。あなたがたには、御方以外に神はない。[3]
• また、至高なるアッラーは、御方以外に礼拝されているすべての神が虚偽の神性であることを明らかにされた。それは、アッラーこそが真理であり、彼らが御方以外に呼び求めるものは虚偽であり、また、アッラーこそが至高にして偉大であるからである。[4]

❖ **理性的証拠から：**

1. これらの、いわゆる神々のいずれ一つとして、神性の属性を何一つ有していない。彼らは創造された存在であり、創造することはなく、益をもたらすことも害を退けることもできず、生と死、そして復活を司ることもできない。至高なるアッラーは仰せられた。それでも彼らは、御方のほかに、何ものも創造せず、かえって創造される神々を取り、彼ら自身に対しても害も益も有せず、死も生も復活も支配しない。[5]
   また仰せられた。彼らは、何ものも創造せず、かえって創造される者たちを御方に配するのか。しかも彼らは、彼らを助けることもできず、自分自身を助けることすらできない。[6]
   もしこれが彼らの実態であるならば、彼らを礼拝することは、最も愚かであり、最も無効な虚偽に他ならない。
2. これらの多神崇拝者たちが、アッラーの主宰性（ルブービーヤ）と、御方が彼らを創造されたことを認めている以上、必然的にそのウルーヒーヤをも認めなけれ

ばならない。創造し、存在へと至らせ、糧を授ける御方こそが、感謝と礼拝、そして献身に値する御方なのである。

[1] ［アル＝バカラ章：163］
[2] ［アン＝ナフル章：51］
[3] ［アル＝アʿラーフ章：59］
[4] ［アル＝ハッジ章：62］
[5] ［アル＝フルカーン章：3］
[6] ［アル＝アʿラーフ章：191–192］

至高なるアッラーは仰せられた。人々よ、あなたがたの主を礼拝せよ。御方は、あなたがたとあなたがた以前の者たちを創造された御方である。そうすれば、あなたがたは敬虔となるであろう。御方は、あなたがたのために大地を敷物とし、天を天蓋とされ、天から雨を降らせ、それによってあなたがたのための糧として諸々の果実を生じさせられた。それゆえ、あなたがたは知りながら、アッラーに同位のものを設けてはならない。[1]

[1] ［アル＝バカラ章：21–22］

水曜日：フィクフモジュール — 五つの義務礼拝

❖ その地位：

礼拝はイスラームの柱であり、二つのシャハーダ（信仰告白）に次いで最も重要な柱である。至高なるアッラーは、他の礼拝行為とは異なり、七天の上から、昇天（ミʿラージュ）の夜に、御使徒ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）にこれを義務として課された。
礼拝は、身体を伴う礼拝行為の中で最も卓越したものである。なぜなら、その中には多様な礼拝の形が包含されているからである。すなわち、アッラーの想起、御啓典の朗誦、御前に立つこと、ルクーʿ（お辞儀）、サジュダ（額づき）、嘆願、タスビーハ（讃美）、そしてタクビール（偉大化）である。

❖ その徳：

多くのクルアーンの御言葉とハディースが、礼拝の徳を言及し、その励行を促している。その中には次のものがある。
• 至高なるアッラーは仰せられた。
諸々の礼拝、とりわけ中の礼拝を厳守し、敬虔をもってアッラーの前に立て。だが、もし恐怖の中にあるなら、徒歩であれ騎乗してであれ〔礼拝せよ〕。[1]
• アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
五つの義務礼拝、そして一つのジュムʿアから次のジュムʿアまで、またラマダーンから次のラマダーンまでは、その間の（小）罪の贖いである。ただし大罪が避けられている限りにおいて。[2]
• また彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
もし、あなたがたの誰かの家の戸口に川があり、彼が一日に五回その中で沐浴するとしたら、彼に汚れが残るだろうか。彼らは言った。彼の汚れは何も残りません。彼は言われた。
それが五つの義務礼拝の譬えであり、アッラーはそれによって罪を消し去られるのである。[3]
• 彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
事柄の頭はイスラームであり、その柱は礼拝であり、その頂点はアッラーの道におけるジハードである。[4]

❖ 怠慢または放棄に対する厳しい警告：
• 至高なるアッラーは仰せられた。
だが、彼らの後に、礼拝を怠り、欲望に従った後継者たちが現れた。彼らはやがて災厄に遭うであろう。[5]
• また仰せられた。
何があなたがたを火獄へ入らせたのか。彼らは言うであろう。私たちは礼拝する者ではなかった。[6]

• アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
われらと彼らとの間の契約は礼拝である。それを放棄した者は不信に陥ったのである。[7]

[1] ［アル＝バカラ章：238–239］
[2] ムスリム（233）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（528）およびムスリム（667）によって伝承された。
[4] アッ＝ティルミズィー（2616）によって伝承された。
[5] ［マルヤム章：59］
[6] ［アル＝ムダッスィル章：42–43］
[7] ムスリム（134）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール ― 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のアル＝ターイフへの旅

叔父アブー・ターリブの逝去、そして妻ハディージャ（アッラーの御満悦あれ）の逝去の後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）には、次々と試練と災難が降りかかった。多神崇拝者たちは彼に対する敵意を一層あらわにし、その害は激しさを増し、マッカは彼にとって耐え難い場所となり、ついにはその民に希望を見いだせなくなった。
そこで彼は、サキーフ族の中に自らを支持してくれる者を見いだすことを望み、アル＝ターイフへ赴くことを決意した。これは、啓示開始から十年目、シャウワール月のことであった。彼には、解放奴隷であるザイド・イブン・ハーリサが同行していた。

彼がアル＝ターイフに到着し、人々をイスラームへと招いたところ、彼らは急いでこれを拒絶し、否定した。さらに彼らは民衆を扇動し、彼らは石を投げつけ、彼の両足は血を流し、頭部も傷ついた。解放奴隷ザイドは、身をもって彼を守り続け、やがて二人は、ラビー‘アの子らであるシャイバと‘ウトバの園に身を寄せた。[1]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、深い悲嘆のうちにアル＝ターイフから引き返し、両手を天に挙げ、心の底からの嘆願をもって、アッラーへの完全な依存と必要を表明された。
アッラーよ、私はあなたに訴えます。私の弱さ、力の乏しさ、人々の前での卑小さを。ああ、最も慈悲深き御方よ。あなたは抑圧された者たちの主であり、あなたこそが私の主です。あなたは、誰に私を委ねられるのですか。私を虐げる遠き者にですか。それとも、あなたが権能を与えられた敵にですか。もしあなたが私にお怒りでないなら、私は意に介しません。しかし、あなたの御赦しこそが、私にとってはより広大です。私は、闇を照らし、この世と来世の諸事を正される、あなたの御顔の光によって、あなたの御怒りが私に下ること、またあなたの御憤りが私に及ぶことから、あなたに御保護を求めます。あなたが満足されるまで、すべての称賛はあなたに属します。力も威力も、あなたによらずしてはありません。[2]

帰路の途中、彼が顔を上げると、雲が彼を覆っているのが見えた。その中にはジブリールがいて、こう言った。
まことに、アッラーは、あなたに対するあなたの民の言葉と、その応答をお聞きになられました。そこで、あなたが彼らについて望むままに命じるため、山々の天使をあなたのもとに遣わされました。
山々の天使は言った。
ムハンマドよ、もし望むなら、私は二つの山の間に彼らを押し潰しましょう。
しかし、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
いや、むしろ私は、アッラーが彼らの子孫の中から、アッラーのみを礼拝し、何ものも同位に配さない者たちを生み出してくださることを望む。[3]

,

[1]アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ第3巻135頁。
[2] アッ＝Ṭabarānī（14/139）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（3231）およびムスリム（1795）によって伝承された。

土曜日：サハーバモジュール — ウンム・サラマ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼女は、ウンム・サラマ・ヒンド・ビント・アビー・ウマイヤ・アル＝マフズーミーヤである。彼女は、その子に由来するクンヤ（敬称）ウンム・サラマによって広く知られていた。彼女は、預言使命開始の十七年前、マッカにおいて誕生した。

❖ 生涯と徳：

ウンム・サラマ（アッラーの御満悦あれ）は、血統において最も高貴で、容姿においても最も美しい女性たちの一人であり、忍耐と自己犠牲によって知られていた。彼女は、イスラームを最も早い時期に受け入れた者たちの一人であり、最初期のヒジュラ（移住）者の一人でもあった。
彼女は、夫アブー・サラマ彼は授乳関係による預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の兄弟であったと共に早期にイスラームを受け入れ、二度にわたるアビシニア（ハバシャ）への移住の双方において、彼と共に移住した。マッカに帰還した後、二人は多神崇拝者たちから多くの害を受けた。

その後、彼女は彼と共にマディーナへ移住したが、ヒジュラ暦第四年に、夫は逝去した。アブー・バクルとʻウマルが彼女に求婚した後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が彼女に求婚されたが、彼女は先の二人の求婚を辞退した後、預言者の求婚を受け入れ、彼と結婚した。

彼女（アッラーの御満悦あれ）は、次のように語っている。
私は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がこう言われるのを聞いた。
いかなるムスリムも災難に遭い、アッラーが命じられた言葉、すなわちまことに、私たちはアッラーに属し、また彼のもとへ帰る。アッラーよ、この災難において私に報いをお与えください。そして、それに代わるより良きものを私にお授けくださいと言うならば、アッラーは必ずそれより良きものを彼に与えられる。
それゆえ、アブー・サラマが亡くなったとき、私は言った。
ムスリムの中で、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ最初に移住した家族であるアブー・サラマよりも優れた者が、いったい誰であろうか。

その後、私はその言葉を口にし、アッラーは、その代わりとして、私にアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）をお与えになったのである。[1]

彼女は、知識とフィクフに秀で、確かな判断力と深い叡智によって名高かった。アル＝フダイビーヤの日、同行者たちの誰一人として、犠牲を屠り髪を剃ろうとしなかった際、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女に相談された。彼女は言った。
アッラーの預言者よ、それをお望みですか。それなら、外へ出て、誰にも一言も語らず、あなたの駱駝を屠り、理髪人を呼んで髪を剃らせなさい。
そこで彼は外へ出て、誰にも語らず、駱駝を屠り、理髪人を呼んで髪を剃らせた。これを見た人々は立ち上がり、犠牲を屠り合い、互いに髪を剃り始め、あまりの混雑に、互いを傷つけそうになるほどであった。[2]

[1] ムスリム（918）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（2731）によって伝承された。

彼女は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）から多くのハディースを伝承した。また彼女は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに、ディヒヤ・アル＝カルビーの姿をとってジブリール（アッラーの平安あれ）が訪れた際、その場に同席し、彼を見るという栄誉を授かった。[1]

❖ 御逝去：

彼女（アッラーの御満悦あれ）は、信徒の母たち（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）の中で最後に逝去した方であり、ヒジュラ暦 61 年の年末、九十歳でこの世を去った。彼女は、アル＝バキー‘墓地に埋葬された。

[1] アル＝ブハーリー（3634）によって伝承された。

知識テスト — 第 16 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	tuhaddithu akhbārahā の意味は何か。	[a] その腹の中にあるものを吐き出すこと。[b] その上で起こった善悪の出来事を告げ知らせること。[c] その住民を新たにすること。	**b**
ハディース	行為が受け入れられるための条件の一つはどれか。	[a] 奮闘すること。[b] 多さと多様性。[c] アッラーのための意図の誠実さ。	**c**
アキーダ	タウヒード・アル＝ウルーヒーヤとは何か。	[a] あらゆる礼拝をアッラーのみに捧げること。[b] アッラーの行為においてのみ唯一とすること。[c] 御名と属性においてのみ唯一とすること。	**a**
フィクフ	アッラーが預言者に礼拝を義務とされたのはいつか。	[a] ヒジュラの夜。[b] 昇天（ミʿラージュ）の夜。[c] マッカ征服の後。	**b**
スィーラ	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がアル＝ターイフの人々を招くために出向いたのは何年か。	[a] ヒジュラ暦 10 年。[b] ヒジュラ暦 8 年。[c] ヒジュラ暦 5 年。	**a**
サハーバ	ウンム・サラマ（アッラーの御満悦あれ）の確かな判断力を示す立場はどれか。	[a] バドルの戦いでの立場。[b] 夜の旅と昇天の出来事における立場。[c] フダイビーヤの日の立場。	**c**

17 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝アーディヤート章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْعَادِيَاتِ ضَبْحًا (1) فَالْمُورِيَاتِ قَدْحًا (2) فَالْمُغِيرَاتِ صُبْحًا (3) فَأَثَرْنَ بِهِ نَقْعًا (4) فَوَسَطْنَ بِهِ جَمْعًا (5) إِنَّ الْإِنْسَانَ لِرَبِّهِ لَكَنُودٌ (6) وَإِنَّهُ عَلَى ذَلِكَ لَشَهِيدٌ (7) وَإِنَّهُ لِحُبِّ الْخَيْرِ لَشَدِيدٌ (8) أَفَلَا يَعْلَمُ إِذَا بُعْثِرَ مَا فِي الْقُبُورِ (9) وَحُصِّلَ مَا فِي الصُّدُورِ (10) إِنَّ رَبَّهُمْ بِهِمْ يَوْمَئِذٍ لَخَبِيرٌ (11)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。
荒々しく駆ける馬たちにかけて、* 荒い息を吐きながら、* 蹄で打って火花を散らすものたちにかけて、* 暁に突撃するものたちにかけて、* それによって塵雲を巻き上げ、* それによって集団の中心へ突入する。* まことに、人間はその主に対して忘恩である。* そして、まことに、彼自身がそのことの証人である。* そして、まことに、財への愛において彼は激しい。* だが彼は、墓の中にあるものが掘り起こされ、* 胸の中にあるものが明らかにされるときのことを知らないのか。* まことに、その日、彼らの主は、彼らについてすべてを熟知しておられる。

❖ スーラのテーマ：

忘恩と強欲に対する人類への警告、ならびに来世の想起。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
العاديات	al-ʿādiyāt	戦闘において疾走する馬たち
ضبحا	ḍabḥan	激しく走る際、胸から発せられる荒い呼吸音
فالموريات قدحا	fa-al-mūriyāt qadḥan	蹄で打ち、火花を散らすものたち
فالمغيرات صبحا	fa-al-mughīrāt ṣubḥan	朝に敵を急襲するものたち
نقعا	naqʿan	塵、砂煙
فوسطن به جمعا	fawa-saṭna bihi jamʿan	敵の隊列の中央へ突入すること
لكنود	kanūd	強い忘恩者、恵みを否定する者
وحصل ما في الصدور	wa-ḥuṣṣila mā fī al-ṣudūr	胸中にある信仰・不信・意図が掘り出され、完全に明らかにされること

❖ 全体的な意味：

これらの高貴な節々には、他のいかなる被造物にも比肩し得ない特質速度、火花の発生、塵を巻き上げる力、そして急襲を備えた馬たちによる、偉大な神的誓いが含まれている。彼らは全速力で走るとき、荒く息を吐き、夜に石に蹄を打ちつけて火を散らし、塵雲を巻き上げ、朝に敵へ突撃して、その隊列の奥深くへ突入する。
この誓いは、一つの重大な真理を確証するために来ている。それは、人間がその主に対して忘恩であり、その御恩寵を否認するということである。すなわち、彼は自らの権利を要求する一方で、義務を怠る。災厄を数え上げるが、恩恵を忘れるのである。では、墓が覆り返され、その中にあるものが取り出され、人々が裁きのためにアッラーの御前に立ち、心の内に隠された思念と信条が明るみに出されるとき、彼の状態はいかなるものとなるであろうか。その日、すべては、全知なるアッラーから隠されることはない。

❖ このスーラから得られる益:

1. 復活と報いへの信仰の確証。
2. 人間は、信仰し正しい行いを行わない限り、その主に対して忘恩である。
3. 人間の本性は、創造主に対してであれ被造物に対してであれ、権利を否認する傾向を有する。ただし、アッラーが導かれる者たちは例外である。
4. 復活の日には、秘密が暴かれる。
5. 財への愛着と執着は、来世への無関心を招く原因の一つである。

月曜日：ハディースモジュール — 両親を喜ばせる義務と、彼らの不満に対する警告

‘アブドゥッラー・イブン・‘アムル（アッラーの御満悦あれ）からの伝承による。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
アッラーの御喜びは両親の喜びの中にあり、アッラーの御不満は両親の不満の中にある。[1]

❖ 解説：

このハディースは、両親に孝行することの徳と義務性を示す証拠であり、それがアッラーの御喜びを得る原因であることを明らかにしている。また、両親に逆らうことへの警告を含み、それが禁じられていること、そしてそれがアッラーの御不満につながることを明確にしている。彼らを喜ばせる者はアッラーを喜ばせ、彼らを怒らせる者はアッラーを怒らせるのである。
アッラーとその使徒が命じられた孝行（al-birr）とは、言葉によるもの、実践によるものを含むあらゆる善行である。すなわち、彼らに対して優しく接すること、謙虚さの翼を低く垂れること、良く扱うこと、そして彼らの必要を満たすことである。至高なるアッラーは仰せられた。両親に親切にせよ。[2] ただし、これは罪にあたらない事柄に限られる。なぜなら、創造主への不服従において、いかなる被造物への服従も存在しないからである。しかしながら、親切と善良な待遇を受ける彼らの権利は依然として存続する。

❖ このハディースから得られる益：

1. 世話、配慮、謙虚さをもって両親に孝行する義務と、それがアッラーの御喜びを得ることにつながるということ。
2. 両親への不服従の禁止と、それがアッラーの御不満につながるということ。
3. 報いは行為に応じて与えられるということ両親を喜ばせる者にはアッラーが喜ばれ、その逆もまた真である。
4. 至高なるアッラーに、喜びと不満という属性が確証されること。

---

[1] アッ＝ティルミズィー（1899）によって伝承された。
[2] ［アン＝ニサー章：36］。

火曜日：アキーだモジュール — アッラーの御名と属性への信仰

アッラーの御名と属性への信仰とは、アッラーが御自身について確証されたもの、またはその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がアッラーについて確証された御名と属性を確証し、また、アッラーが御自身から否定されたもの、あるいはその使徒がアッラーから否定されたものを否定することである。しかも、それは、その在り方を問うこと（タクイーフ takyīf）なく、被造物に似せること（タシュビーフ tashbīh）なく、歪曲（タフリーフ taḥrīf）や否認（タアティール taʿṭīl）を伴わない形で行われる。 至高なるアッラーは仰せられた。最も美しい御名はアッラーに属する。ゆえに、それらによってアッラーに祈れ。また、御名に関して逸脱する者たちを放っておけ。彼らは、自らが行ってきたことに対して報いを受けるであろう。[1] また、仰せられた。彼に比べられるものは何一つなく、かれは全聴にして全視であられる。[2]

アッラーの御名と属性は、タウキーフィーヤ（tawqīfiyyah：啓示テキストに限定されるもの）である。クルアーン、または真正なスンナからの文証なしに、アッラーについてそれらのいずれかを確証することは許されない。なぜなら、アッラーこそが御自身と、御自身にふさわしいものについて最もよく知っておられ、その使徒は、被造物の中で最もアッラーを知る者であり、かつ、アッラーからのものを伝えるために遣わされた者だからである。

❖ 多くの啓示文証が、アッラーの御名と属性について言及している。我々は、それらを確証し、受け入れなければならない。その中には次のものがある。

• アッラー。彼のほかに神はない。永遠に生き給う御方、万物を維持し支える御方。微睡も睡眠も彼を襲うことはない。[3]

• かれはアッラーである。彼のほかに神はない。主権者、至聖なる御方、平安を授ける御方、安全を与える御方、監督者、全能者、圧倒者、至高者であられる。彼らが同位に配するものから、アッラーは高く超越しておられる。[4]

• 慈悲あまねき御方は玉座の上に昇られた。[5]

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

我らの主、祝福され高くあられる御方は、夜の最後の三分の一が残るとき、毎夜、最下の天に降りられ、こう仰せられる。誰がわれに祈るのか。われはそれに応えよう。誰がわれに求めるのか。われはそれを与えよう。誰がわれの赦しを求めるのか。われは彼を赦そう。[6] イマーム・マーリク（アッラーの御慈悲あれ）が、アッラーが玉座の上に昇られること（イスティワー）の在り方について問われたとき、彼は言った。昇ること自体は知られているが、その在り方は知られていない。それを信じることは義務であり、それについて問うことはビドア（異端）である。[7]

これは、アッラーの属性の在り方を問うことが、新たに作られた異端に属することを意味する。これは、すべての属性に関するスンナ派の立場である。

[1]［アル＝アʿラーフ章：180］[2]［アッ＝シューラー章：11］[3]［アル＝バカラ章：255］[4]［アル＝ハシュル章：23］[5]［ター・ハー章：5］[6]アル＝ブハーリー（1145）およびムスリム（758）によって伝承された。[7]アル＝ラーリカーイー（2/398）によって報告された。

❖ タウヒードのこの側面において、二つの逸脱した集団が道を踏み外した：

1. 否定派（ムアッティラ）—彼らは、アッラーを被造物に似せることになると主張して、御名と属性、またはその一部を否定した。この主張は完全に虚偽である。
2. 擬人化派（ムシャッビハ）—彼らは、これが諸文献から理解されることであると主張して、アッラーの属性を被造物のそれに似せた。

両集団はいずれも迷い、クルアーンとスンナから離反し、アッラーの御名と属性を理解するにあたって正しき先人たちの道に反した。イブン・ラジャブ（アッラーの御慈悲あれ）は言った。正しき先人たちは、これらの文言を—加減なく—そのまま伝えることについて全会一致していた。そして理性が完全には把握できない事柄については、それを知る御方に委ねたのである。.[1]

[1] Fatḥ al-Bārī (2/334).

水曜日：フィクフ モジュール — 礼拝の時刻

義務の礼拝には、イスラーム法において定められた固定の時刻があり、すべてのムスリムはこれを知り、重視しなければならない。至高なるアッラーは仰せられた。
まことに、礼拝は、定められた時刻における義務として、信仰者たちに課せられている。[1]
また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、アッラーに最も愛される行為は何ですかと問われたとき、彼は言われた。
定められた時刻における礼拝である。[2]

❖ **その時刻は以下のとおりである：**

1. ファジュルの時刻：
真の暁（真暁）の出現から始まる。もし周囲に灯りのない開けた砂漠において、北から南へと地平線全体に広がる白い光が見えたならば、それが暁の到来である。ファジュルの時刻は日の出まで続く。
その時刻の初めに行うことが最も優れている。至高なるアッラーが仰せられたとおりである。
善行へと競い合え。[3]

2. ズフルの時刻：
太陽が天頂を過ぎた時から、物体の影がその長さと等しくなるまでである。天頂とは、太陽が天空の中央から西へと移動し始める時点を指す。
これは、地面に棒を立てることで判断できる。影が短くなり続けている間は天頂前であり、影の短縮が止まり、増え始めたとき、太陽は天頂を過ぎ、ズフルの時刻が始まったのである。
また、時刻によっても天頂を判断できる。日の出から日の入りまでの時間を二等分すればよい。例えば、日の出が 6 時、日の入りが 18 時であれば、天頂は 12 時である。
ズフルは、その時刻の初めに礼拝するのが最善である。ただし、激しい暑さのときには、‘アスルの直前まで遅らせることが推奨される。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
暑さが激しいときには、涼しくなるまで礼拝を遅らせなさい。まことに、激しい暑さは地獄の熱からのものである。[4]

3. ‘アスルの時刻：
ズフルの時刻の終了から、日没前に太陽が黄色くなるまでである。必要のある場合に

は、日没までがその時刻とされる。
その時刻の初めに行うことが推奨される。

4. マグリブの時刻：
日没から始まり、空から赤み（黄昏）が消えるまで続く。時計上の長さは季節によって異なり、およそ 1 時間 15 分から 1 時間 33 分の範囲である。
速やかに行うことが推奨される。

---

[1] ［アン＝ニサー章：103］
[2] アル＝ブハーリー（527）およびムスリム（85）によって伝承された。
[3] ［アル＝バカラ章：148］
[4] アル＝ブハーリー（533）およびムスリム（615）によって伝承された。

5. ʿイシャーの時刻：
空から赤み（黄昏）が消え去ったときに始まり、真夜中まで続く。
時計によって真夜中を判断する方法は、日没から真の暁（真暁）までの時間を二等分することである。例えば、日没が 17 時、暁が 5 時であれば、真夜中は 23 時となる。
必要のある場合には、ʿイシャーは真の暁まで行うことが許される。

困難が伴わない場合には、真夜中近くまで遅らせることが推奨される。その理由は次のとおりである。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ʿイシャーを遅らせることを好まれていた。[1]

しかし、それを遅らせることによって会衆に困難が生じる場合には、早めに行うことが推奨される。これは、困難を取り除き、全員が集団礼拝を行えるようにするためである。集団礼拝は義務である一方、ʿイシャーを遅らせることは推奨に過ぎない。したがって、義務は推奨のために放棄されることはない。

[1] アル＝ブハーリー（522）およびムスリム（643）によって伝承された。

木曜日：スィーラ モジュール — アル＝イスラー’とアル＝ミ‘ラージ

悲嘆の年（‘Ām al-Ḥuzn）の苦難と、ターイフにおける拒絶の後、至高なるアッラーは、慰めと高揚として、御使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に夜の旅と昇天という大いなる栄誉をお与えになった。至高なる御方は仰せられた。
夜のうちに、その僕を、われがその周囲を祝福したマスジド・アル＝ハラームからマスジド・アル＝アクサーへと旅させ、われの諸々のしるしを示された御方に、称えあれ。まことに、かれは全聴にして全視であられる。[1]

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、夜のうちに、ジブリール（アッラーの平安あれ）に伴われ、ブラークに乗って、マスジド・アル＝ハラームからバイト・アル＝マクディスへと導かれた。彼はマスジド・アル＝アクサーにおいて降り立ち、諸預言者を率いて礼拝を導かれた。
その後、彼はバイト・アル＝マクディスから最下天へと昇らされた。そこにおいて、ジブリール（アッラーの平安あれ）が入場の許可を求め、それは許された。彼は第一天においてアーダム、第二天においてヤフヤーと‘イーサー、第三天においてユースフ、第四天においてイドリース、第五天においてハールーン、第六天においてムーサー、第七天においてイブラーヒーム（アッラーの平安あれ）を見られた。彼らは皆、彼を歓迎し、その預言者性を確証した。
さらに彼は、シドラト・アル＝ムンタハーへと高められ、そこで主の最も偉大なしるしの一部を目撃された。[2] その場において、彼はアッラーが創造されたままの姿のジブリールを見、楽園の民と火獄の民の情景を目の当たりにし、また、五回の義務礼拝が定められた実践においては五回、報奨においては五十回である。[3]
朝になると、彼はクライシュにこの出来事を告げられた。彼らはバイト・アル＝マクディスの描写を求めたため、アッラーはそれを彼の前に示され、彼は正確にそれを描写した。また、隊商とその到着時刻についても告げられたが、それは彼らの否認を増す結果となった。[4]

信仰者たちにとって、この旅は、即時の受容と不可視の事柄への信仰を試す試練であった。アブー・バクルは、ためらうことなくこれを確証したことにより、アッ＝スィッディークという称号を授けられた。[5] そして、至高なるアッラーは仰せられた。
われがあなたに示した幻視を、人々への試練として以外のものとしなかった。[6]

---

[1] ［アル＝イスラー’章：1］
[2] ムスリム（162）
[3] アル＝ブハーリー（3207）、ムスリム（164）
[4] アル＝ビダーイヤ・ワ・アン＝ニハーヤ第3巻139頁
[5] ダラーイル・アン＝ヌブッワ（アル＝バイハキー）第2巻361頁
[6] ［アル＝イスラー’章：60］

土曜日：サハーバ モジュール — ザイナブ・ビント・ジャフシュ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼女は、ザイナブ・ビント・ジャフシュ・イブン・リ'アーブ・イブン・フザイマであり、信徒の母（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）の一人である。彼女は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の父方の叔母の娘であった。彼女は、預言使命の開始より 17 年前に、マッカにおいて誕生した。

❖ 生涯と徳：

ザイナブ（アッラーの御満悦あれ）は、美しく、貞節で、断食と礼拝に熱心であり、慈善に富み、寛大な人物であった。彼女は皮なめしやビーズ細工などの手仕事を自ら行い、それを売って得たものを、貧者や困窮者のために施した。[1]
かつて、'ウマル・イブン・アル＝ハッターブが彼女に給付金を送ったとき、彼女は言った。アッラーが'ウマルをお赦しくださいますように。そして彼女は、それを親族や孤児たちに分配し始めた。[2]

'アイシャ（アッラーの御満悦あれ）は、彼女について次のように語っている。
私は、彼女以上に善良で、慈善に富み、親族関係を大切にし、至高にして偉大なるアッラーに近づくあらゆる事柄において、自己を惜しまず捧げる女性を見たことがない。[3]

彼女は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が次のように言われた際に意図された人物である。
私に最も早く追随するのは、最も"手の長い"者である。[4]

至高なるアッラーは、彼女を御使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のために選び、御自ら彼女を彼に娶らせられた。至高なる御方の御言葉にあるとおりである。
ザイドが彼女についての必要を終えたとき、われは彼女をあなたに娶らせた。[5]

彼女は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の他の妻たちに対して、次のように誇って言っていた。
あなたがたは家族によって結婚させられたが、私は七天の上からアッラーによって結婚させられたのです。[6]
また、ヒジャーブの諸節は、彼女に関連して啓示された。[7]

彼女は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）から、いくつかのハディースを伝承した。また、中傷事件（イフク）の際には、'アイシャ（アッラーの御満悦あれ）を最も強く支持し、慰めた者たちの一人であった。[8]

❖ 御逝去：

ザイナブ・ビント・ジャフシュ（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 20 年にマディーナにおいて逝去した。彼女は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の妻たちの中で、最初に彼の後を追った人物である。‘ウマル・イブン・アル＝ハッターブが彼女のために埋葬礼拝を導き、彼女はアル＝バキー‘墓地に埋葬された。

---

[1] アル＝ハーキム 4/26
[2] アッ＝タバカート・アル＝クブラー（イブン・サ‘ド）8/109
[3] アル＝ブハーリー（2581）、ムスリム（2441）
[4] ムスリム（2453）
[5] ［アル＝アフザーブ章：37］
[6] アル＝ブハーリー（7420）
[7] アル＝ブハーリー（7421）
[8] アル＝ブハーリー（4141）、ムスリム（2770）

知識テスト — 第 17 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アル＝アーディヤートとは何を意味するか。	[a] 戦う騎兵たち[b] 慈悲の天使たち[c] 戦場で駆ける馬たち	c
ハディース	両親への孝行が有効であるための条件とは何か。	[a] 自由な時間に行うこと[b] 夜ではなく昼に行うこと[c] 不服従に当たらないこと	c
アキーダ	至高なるアッラーの御名と属性とは、いかなる性質をもつか。	[a] 個人的推論に基づき、追加・増加が可能である[b] タウキーフィーヤ（tawqīfiyyah：啓示に限定され、文証なくして何も確定されない）である[c] 生きる時代によって異なる	b
フィクフ	‘アスル礼拝の終わりの時刻はいつか。	[a] 太陽が天頂を過ぎたとき[b] 空から赤みと黄昏が消えたとき[c] 日没前に太陽が黄色くなるとき	c
スィーラ	アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が、夜の旅においてマスジド・アル＝ハラームからバイト・アル＝マクディスへと乗られたものは何か。	[a] アル＝ブラーク [b] アル＝カスワー’ [c] アル＝ジャド‘アー’	a
サハーバ	ザイナブ（アッラーの御満悦あれ）が、他の女性たちに対して誇っていたことは何か。	[a] 七天の上から彼女の無実が明らかにされたこと[b] 七天の上からアッラーのサラームが彼女に送られたこと[c] 七天の上からアッラーによって結婚させられたこと	c

18 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝カドル章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِنَّا أَنْزَلْنَاهُ فِي لَيْلَةِ الْقَدْرِ (1) وَمَا أَدْرَاكَ مَا لَيْلَةُ الْقَدْرِ (2) لَيْلَةُ الْقَدْرِ خَيْرٌ مِنْ أَلْفِ شَهْرٍ (3) تَنَزَّلُ الْمَلَائِكَةُ وَالرُّوحُ فِيهَا بِإِذْنِ رَبِّهِمْ مِنْ كُلِّ أَمْرٍ (4) سَلَامٌ هِيَ حَتَّى مَطْلَعِ الْفَجْرِ (5)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。
まことに、われはそれを定命の夜に下した。＊そして、定命の夜が何であるかを、あなたに理解させるものは何であろうか。＊定命の夜は、千か月よりも優れている。＊天使たちと霊（ルーフ）は、その主の御許しのもと、あらゆる事柄を携えて、その夜に降りて来る。＊暁の出現に至るまで、それは平安である。

❖ このスーラのテーマ：

定命の夜（ライラトゥ・ル＝カドル）の徳と卓越性を明らかにすること。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
إِنَّا أَنزَلْنَاهُ	innā anzalnāhu	すなわち、われはその啓示を開始した。
لَيْلَةُ الْقَدْرِ	laylat al-qadr	名誉と偉大さ、ならびに諸事の定めが記される夜。
وَالرُّوحُ فِيهَا	wa-al-rūḥu fīhā	ジブリール（アッラーの平安あれ）。
مِّن كُلِّ أَمْرٍ	min kulli amr	その年においてアッラーによって定められた、あらゆる事柄と共に。
سَلَامٌ هِيَ	salāmun hiya	安全と平安。

❖ 全体的な意味：

本章はマッカ啓示のスーラであり、至高なるアッラーが、年中のすべての夜々に優越する、偉大で高貴な一夜の徳を告げ知らせている。それが定命の夜である。この夜において、アッラーは御望みのままに、世界の出来事、糧、寿命など、年の終わりまでに関わ

るあらゆる定めを決定される。
またこの夜は、アッラーがその最も偉大なる書、すなわち高貴なるクルアーンの啓示を開始するために選ばれた夜である。この夜における礼拝の報奨は、千か月に及ぶ礼拝をも上回る。さらにこの夜、天使たちその中にはジブリールも含まれるは、アッラーの御許しのもと、あらゆる定めと命令を携えて降臨するのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 啓示の真実性、ならびにクルアーンが至高なるアッラーから下されたものであることの確証。
2. 神定（カダーとカダル）への信仰の確立。
3. クルアーンは、ラマダーンの月における定命の夜に、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対して啓示が開始されたこと。
4. 定命の夜の卓越した徳、ならびにその徳を得るためにそれを求めることの勧奨。
5. 定命の夜における礼拝の徳は、千か月に及ぶ礼拝を凌駕することであり、これを活かす者は、その生涯の報奨を幾重にも増し加えるのである。

月曜日：ハディースモジュール — 心が和合するための資質

アナス・イブン・マーリク（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
三つの事柄がある。それらによって、ムスリムの心は欺かれることがない。すなわち、アッラーのために行為を誠実に行うこと、ムスリムの指導者たちに対して忠告を与えること、そしてムスリム共同体に固く従うことである。まことに、彼らの祈願は、彼らの背後にいる者たちをも包み込むのである。[1]

❖ 解説：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のムスリムの心は欺かれないという表現は、それが裏切りや悪意によって堕落したり汚されたりしないことを意味する。ここでの趣旨は、これら三つの特性が心を和解させ、裏切りや悪からそれを浄化することである。すなわち、信者はこれら三事において裏切りを行わず、真理から遠ざけるような悪意を抱かないということである。

裏切りと悪意を心から取り除くこれらの特性の内容は次のとおりである：

1. **アッラーのための行為における誠意**— すなわち、ムスリムはその行為によってただアッラーの御顔と御悦びのみを意図し、世俗的な目的を求めないことである。
2. **ムスリムの指導者に対する誠実な忠言** — 誠意とは助言される者のための善を心から願うことである。支配者や指導者に対する誠実な助言とは、正しいことにおいて彼らに従い、彼らのために祈り、また正当な理由なく反逆を許容しないことである。
3. **ムスリム共同体への結束** — これは正しい信仰と善行において共同体と一致することを意味する。例えば、ジュムア（金曜礼拝）や集団礼拝への参加など、団結を示す行為に従うことである。

実に、彼らの祈願は後に続く者たちをも包み込むという言葉の意味は、ムスリムたちの祈りが互いを取り巻き、悪魔の策略や誤った導きの道から守る保護となるということである。また、共同体から離れてしまった者は、彼らの包括的な守護と祈願の祝福を享受できないことを思い起こさせる。

❖ このハディースから得られる益：

1. 行為が受容されるための二つの条件の一つである、**アッラーのための誠意**が義務であること（もう一つは預言者に従うことである）。
2. 支配者や指導者に対して、正しいことにおいて服従し、無用な反逆を行わない義務。
3. 正しい信仰と善行においてムスリム共同体に帰属し、団結する義務。
4. これら三つの特性を堅く守る者は、その心が和解し、裏切りや悪から浄化されるということ。

[1] イブン・マージャ（230, 3056）；アフマド（16784）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 天使に対する信仰

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。
讃えあれ、天と地の創造主アッラーよ、すなわち天使たちを翼を持つ使者として造られた方、二枚、三枚、四枚。[1]

天使たちは目に見えぬ存在の領域に属し、光から創造された。アッラーは彼らに全的な隷属、御命令への服従、そしてそれを実行する力を与えられた。彼らの数は人の数え得る限りを超えて多く、数を知るのはただアッラーのみである。ミʿラージ（天昇）の物語において、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は天においてアル＝バイト・アル＝マームールを見せられ、そこでは七万の天使が毎日礼拝を行い、去ると二度とそこへ戻らないとされている。[2]

❖ 天使への信仰が含む四つの事柄：

1. 存在を信じること。
2. 名前についての信仰。 すなわち、我々が名前を知る者（例えばジブリールやミーカーイール）の名を信じ、その他の天使については総称として信じることである。
3. 属性についての信仰。 たとえばジブリール（アッラーの平安あれ）の描写 — 使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を本来の姿で視たことを伝え、その際ジブリールは地平を満たす六百の翼を有していたとされる。[3]
4. 行為と任務についての信仰。 一般的な務めとしては、昼も夜もアッラーを讃え崇拝することである。特定の任務を与えられた天使もいる：ジブリールは預言者たちへの啓示を託され、ミーカーイールは雨と植生を司り、イスラーフィールは終末に角を吹く任を帯び、死の天使（マレク・アル＝マウト）は魂を把持し、マーリクは火獄の守護者である。

❖ 天使への信仰の果実（効用）：

1. アッラーの偉大さと力への知識。 創造物の偉大さは創造主の偉大さを示す。
2. 人類への配慮に対する感謝。 アッラーが人々を守り、その事柄を管理する存在を任命されたことへの感謝。
3. 天使たちへの愛。 彼らがアッラーを崇拝し、被造物に対して行う慈悲深い振る舞いに報いる愛情。

---
[1] ［ファーティル章：1］
[2] アル＝ブハーリー（3674）；ムスリム（409）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（3232）；ムスリム（174）によって伝承された。

水曜日：フィクフモジュール — 礼拝へ向かう際の作法

ムスリムは、この偉大な礼拝行為への備えとして、またその重要性を重んじるがゆえに、礼拝に先立って定められた作法を知ることを強く求められている。

これらの作法の中には、次のものが含まれる：

1. **礼拝へ早めに向かうこと。**
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   もし人々が、早く行くことの中にある（報奨）を知っていたなら、必ずそれを求めて競い合ったであろう。[1]
2. **モスクへ徒歩で向かうこと。**
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   自宅で身を清め、その後、アッラーの家の一つへ向かい、アッラーの義務の一つを果たす者は、その一歩ごとに一つの罪が消され、もう一歩ごとに一段階引き上げられる。[2]
3. **落ち着きと威厳をもって向かうこと。**
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   慌てて来てはならない。落ち着いて来なさい。間に合った分は礼拝し、逃した分は補いなさい。まことに、あなた方の一人は、礼拝へ向かっている間も礼拝の状態にあるのだから。[3]
4. **右足からモスクに入り、次の言葉を唱えること：**
   偉大なるアッラーに、またその高貴なる御顔と永遠なる御権能によって、呪われたシャイターンからの御加護を求めます。[4]
   さらに、
   アッラーよ、わたしのためにあなたの慈悲の門を開いてください。
   退出する際には左足から出て、次のように言う：
   アッラーよ、あなたの御恩寵からわたしにお与えください。[5]
5. **モスクに入ったなら、最前列に並ぶよう努め、その後、モスクへの挨拶の二ラカアを礼拝すること。**
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   もし人々が、アザーンと最前列にある（徳）を知っていたなら、くじ引き以外にそれを得る方法がないとしても、必ずくじ引きを行ったであろう。[6]
6. **アッラーの想起（ズィクル）、クルアーンの朗誦、自発的礼拝に励み、指を組むなどの無益な行為を避けること。**
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   あなた方の一人がウドゥー’を行い、その後モスクへ向かう意図で出発したなら、指を組んではならない。なぜなら、彼は礼拝の状態にあるのだから。[7]

[1] アル＝ブハーリー（652）；ムスリム（437）
[2] ムスリム（666）
[3] アル＝ブハーリー（908）；ムスリム（602）
[4] アブー・ダーウード（466）
[5] ムスリム（713）
[6] アル＝ブハーリー（652）；ムスリム（437）
[7] アブー・ダーウード（562）

7. 世俗的な会話や無益な発言を避けること。
   なぜなら、礼拝を待つこと自体が礼拝だからである。使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   しもべは、礼拝を待っている間、礼拝の中にある。すると天使たちは言う。アッラーよ、彼をお赦しください。アッラーよ、彼に慈悲をお与えください。[1]
8. 礼拝が開始される際、列を整え、隙間を埋めることを徹底すること。
   使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   列を整えなさい。列を整えることは、礼拝を完成させることの一部である。[2]
   また、こうも言われた。
   あなた方は必ず列を整えるであろう。さもなくば、アッラーはあなた方の顔に不和を生じさせられる。[3]
   列を整えるとは、肩と足首を一直線に揃えることを意味する。
9. フシュー（khushūʿ：謙虚さ・敬虔な集中）を得るための手段を備えること。
   それは礼拝の最大の目的である。至高なるアッラーは、次の御言葉において、謙虚な者たちを称賛された。
   まことに、信仰者たちは成功した。彼らは、その礼拝において謙虚である。[4]
   これは、アッラーの偉大さを深く意識し、御前での服従を示し、朗誦されるもの、あるいは耳にするものを熟考しつつ、心を伴って礼拝に臨むことによって達成される。

[1] ムスリム（649）
[2] アル＝ブハーリー（723）；ムスリム（433）
[3] アル＝ブハーリー（717）；ムスリム（436）
[4] ［アル＝ムウミヌーン章：1–2］

木曜日：スィーラモジュール — 第一次アカバの誓約

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、毎年ハッジの季節になると、マッカに到来する諸部族に対して自らの招き（ダアワ）を提示するために出向いていた。多神教徒たちが彼を妨害し、制限していたにもかかわらずである。彼は次のように言っていた。
わたしを自分の民のもとへ連れて行ってくれる者はいないだろうか。クライシュが、わたしが主の御言葉を伝えることを妨げているのだ。[1]

このとき、彼の背後には叔父のアブー・ラハブがおり、人々に向かってこう言っていた。
彼の話を聞くな。彼は嘘つきだ！[2]

アッラーは、マディーナのアウス族とハズラジュ族が、当時ユダヤ人たちからその時代に一人の預言者が遣わされるという話を聞くよう取り計らわれていた。ユダヤ人たちは、彼らと争う際、その預言者を引き合いに出して脅し、
われわれは彼と共に、アード族やイラム族のような滅ぼし方でお前たちを殺すであろう！
と言っていたのである。アンサール（マディーナの援助者たち）は、他のアラブ人と同様にカアバへのハッジを行っていたが、ユダヤ人たちはそうではなかった。

アンサールの人々が、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が人々をアッラーへと招いているのを目にし、また彼の上に真実の印が現れているのを見たとき、彼らは言った。
人々よ、アッラーに誓って言うが、これはユダヤ人たちが約束していたあの預言者だ。彼らより先に、彼に辿り着こうではないか！[3]

その後、アンサールの中から六人の男たちが、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとにやって来た。彼らは全員ハズラジュ族出身であり、
アブー・ウマーマ・アスアド・イブン・ズラーラ、
‘アウフ・イブン・アル＝ハーリス、
ラーフィ‘・イブン・マーリク、
クトバ・イブン・‘アーミル、
‘ウクバ・イブン・‘アーミル、
ジャービル・イブン・‘アブディッラー
であった。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らに自らの招きを提示した。すると彼らは善へと急ぎ、イスラームを受け入れ、彼の招きを自分たちの民へ伝えることを誓約した。これは、預言開始から第十一年のことであった。彼らはマディーナへ帰り、人々をイスラームへと招き始めた。[4]

その翌年、彼らの中から十二人の男たちが彼のもとにやって来た。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、ミナーのアカバにおいて彼らと会い、次のように言われた。

あなた方は、アッラーに何ものも配しないこと、盗みを行わないこと、姦淫を犯さないこと、自分の子どもを殺さないこと、あなた方の手と足の間で捏造した中傷を持ち出さないこと、そして正しいことにおいてわたしに背かないことを、わたしに誓いなさい。あなた方のうち、これを果たす者の報奨はアッラーのもとにある。[5]

そこで彼らは、そのことについて彼に誓約した。こうして、預言開始から第十二年に、**第一次アカバの誓約**が成立したのである。

---

[1] アブー・ダーウード（4734）；アッ＝ティルミズィー（2925）
[2] アッ＝タバラーニー（4582）
[3] アル＝ビダーヤ・ワ＝アン＝ニハーヤ 4/371
[4] アル＝ビダーヤ・ワ＝アン＝ニハーヤ 4/372
[5] アル＝ブハーリー（18）

ハッジの季節が終わると、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、ムスʻアブ・イブン・ウマイルおよびイブン・ウム・マクトゥームを彼らと共に派遣し、クルアーンを教え、宗教に関する事柄について理解を深めさせるようにされた。[1] こうしてイスラームはマディーナにおいて広がり顕現し、多くの人々がイスラームを受け入れ、イスラームが入っていない家がほとんどなくなるほどになった。

[1] アル＝ブハーリー（3952）によって伝承された。

土曜日：サハーバモジュール — ジュワイリヤ・ビント・アル＝ハーリス（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼女はウンム・アル＝ムʾミニーン（信者たちの母）ジュワイリヤ・ビント・アル＝ハーリス・イブン・アビー・ディラールであり、バヌー・ムスタリクの族長の娘であった。彼女の本名はもとバーラ（Barrah）であったが、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が彼女をジュワイリヤと名付けられた。[1]
彼女はヒジュラの約十五年前に生まれたとされる。

❖ 生涯と徳：

ジュワイリヤ（アッラーの御満悦あれ）は、最も美しく、かつ敬虔な女性の一人であり、常にアッラーを讃え称えることを怠らず、所持するものが少ないにもかかわらず慈善に富んでいた。
彼女は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）から多くのハディースを伝え、その伝承者にはイブン・ʿアッバース、ジャービル、イブン・ʿウマルらが含まれている。
彼女はまた、預言者との結婚の物語に見られるように、彼女の一族にとって非常に恵まれた女性でもあった。彼女はバヌー・ムスタリムの捕虜の一人であり、自らの身代金のために預言者のもとへ助けを求めに来た。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女を買い取り、解放し、そして娶られた。これを契機に、ムスリムたちは彼女を敬ってバヌー・ムスタリムの捕虜たちを解放し、彼らはアッラーの使徒の義理の家族であると言ったと伝えられる。[2]

❖ 御逝去：

ジュワイリヤ・ビント・アル＝ハーリス（アッラーの御満悦あれ）はマディーナにて薨去し、アル＝バキーʿに埋葬された。逝去はヒジュラ暦 56 年ラビーア・アル＝アウワル月、ムアーウィヤ・イブン・アビー・スフヤーンのカリフ期のことであった。

---

[1] ムスリム（2140）によって伝承された。
[2] アブー・ダーウード（3931）によって伝承された。

知識テスト — 第 18 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	スーラト・アル＝カドルにおけるアル＝ルーフの意図される意味はどれか。	[a] ジブリール [b] ムハンマド [c] 死の天使	a
ハディース	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の言葉三つのことがあり、ムスリムの心はそれに対して憎しみを抱かないにおけるアル＝イグラールの意味は何か。	[a] 行き過ぎ（誇張）[b] 窃盗[c] 裏切りと悪意	c
アキーダ	ラッパ（角笛）を吹く任務を与えられている天使は誰か。	[a] ジブリール[b] ミーカーイール [c] イスラーフィール	c
フィクフ	モスクを出る際に唱えることがスンナとされているのはどれか。	[a] *Allāhumma iftaḥ lī abwāba raḥmatika*（アッラーよ、あなたの慈悲の門を私に開いてください）[b] *Allāhumma innī as'aluka min faḍlika*（アッラーよ、あなたの御恵みを私は願います）[c] *Ghufrānak*（あなたの御赦しを）	b
スィーラ	第一次アカバの誓約が行われたのは、預言者職の何年目か。	[a] 第 6 年[b] 第 9 年 [c] 第 11 年	c
サハーバ	ジュワイリヤ・ビント・アル＝ハーリス（アッラーの御満悦あれ）の系譜はどの部族に遡るか。	[a] バヌー・ムスタリ [b] バヌー・ナディール（ [c] バヌー・クライザ	a

19 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝バッヤイナ章（前半）

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لَمْ يَكُنِ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ وَالْمُشْرِكِينَ مُنْفَكِّينَ حَتَّى تَأْتِيَهُمُ الْبَيِّنَةُ (1) رَسُولٌ مِنَ اللَّهِ يَتْلُو صُحُفًا مُطَهَّرَةً (2) فِيهَا كُتُبٌ قَيِّمَةٌ (3) وَمَا تَفَرَّقَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ إِلَّا مِنْ بَعْدِ مَا جَاءَتْهُمُ الْبَيِّنَةُ (4) وَمَا أُمِرُوا إِلَّا لِيَعْبُدُوا اللَّهَ مُخْلِصِينَ لَهُ الدِّينَ حُنَفَاءَ وَيُقِيمُوا الصَّلَاةَ وَيُؤْتُوا الزَّكَاةَ وَذَلِكَ دِينُ الْقَيِّمَةِ (5)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。
啓典の民のうち、不信仰にとどまっていた者たち、また多神崇拝者たちは、明証が彼らのもとに来るまではやめようとはしなかった。使徒が一人が来て、清められた巻（**ṣuḥufan muṭahharah**）を朗読する。そこには正しい教え（**kutubun qayyimah**）が記されている。＊また、啓典を与えられた者たちも、明証が来るまでは分裂しなかった。＊そして彼らに命じられたのは、アッラーのみを崇め、信仰を純粋にしてあらゆる偽りの宗教から離れ、礼拝を立て、ザカー（**zakāh**）を施すことだけである。それこそが正しい宗教である。

❖ この節のテーマ：

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）のメッセージの完全性と明瞭性を明らかにすること。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
مُنفَكِّين	munfakīn	不信から離れることを拒む者たち（不信を手放さない者たち）。
الْبَيِّنَةُ	al-bayyina	約束された明白な印・明証すなわちムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）。
صُحُفًا مُطَهَّرَةً	ṣuḥufan muṭahharah	偽りから清められ、悪魔から守られた聖なる巻。
فِيهَا كُتُبٌ قَيِّمَةٌ	fīhā kutubun qayyimah	真理に基づく記述と正当な教え（正しい命令）。
تَفَرَّق	tafarraqa	ひとつにまとまっていたのが分裂したこと（分派化した）。
مُخْلِصِينَ	mukhliṣīn	アッラーの御悦びを求めて純心から行う者（誠実なもの）。
حُنَفَاء	ḥunafā’	あらゆる偽りの宗教から離れてアッラーへ向かう者（純正な一神帰依者）。

アラビア語の用語	音写	意味
دِينُ الْقَيِّمَةِ	dīn al-qayyimah	正しくまっすぐな宗教、真正の信仰。

❖ 全体的な意味：

至高なるアッラーは、啓典の民（ユダヤ人・キリスト教徒）や偶像崇拝者たちが、本当に信仰を捨て去ることは、明らかな証拠すなわちアッラーの使徒ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）という明証が彼らのもとに現れるまで起こらないことを示される。使徒は清められた巻（偽りの混入や悪魔の干渉から保護された聖典）を朗読し、その中には正しい教えと公正な命令が書かれている。明証が到来したにもかかわらず、彼らは一つにまとまるどころか分派化した。ある者は信じ、ある者は不信を続けた。かつては彼の到来を待ち望み一致していた者たちでさえ、啓示の到来後に分裂してしまったのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. イスラーム以外の諸宗教には偏りや誤りが混在しており、人類を完全に導くことはできないことの認識。
2. 以前の啓典もその核心では共通していたすなわち、アッラーのみへ純粋に仕え、シルク（多神崇拝）を避けることの教えである。
3. 先の預言者たちが、ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の到来を予告し、人々に彼に従うよう命じていたことの確認。
4. 真の幸福をもたらす正しい宗教は、アッラーのみを礼拝し、礼拝を立て、ザカーを行うことであること。
5. 礼拝とザカーが、イスラームにおいて特別な地位と重要性を有していることの強調。

月曜日：ハディースモジュール — 月曜と木曜の断食の徳

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った：使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
行為は月曜と木曜に呈示される。私は、自分の行為が断食しているときに呈示されるのを好む。[1]

❖ 解説：

断食は、しもべが主に近づくための最も偉大な礼拝行為の一つである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はこれを勧め、しばしば志願断食（任意の断食）を行われた。いくつかの日は特別な徳と奨励が与えられており、その中でも月曜日と木曜日は際立っている。これら二日には、アーダムの子らの行為（善行・悪行、従順・不従順を問わず）が週次の呈示として至高なるアッラーのもとに持ち出されるとされる。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、自らの行為が断食している状態で呈示されることを望まれた。というのは、断食を伴う義務的・自発的な善行は、至高なるアッラーの御前において位階と誠実さが高められるからである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 断食行為の卓越性と、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がそれを頻繁に行ったことの確認。
2. 月曜・木曜の断食の徳と、それを実践することへの勧奨。
3. 信者たちの行為が月曜と木曜に週次で呈示されるという教えの確認。
4. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、あらゆる罪が許されている完全な隷属の状態にあっても、善行に先んじて励まれたことこれは、主に対する彼の完全な服従、アッラーの権利への深い自覚、恩恵に対する感謝、そしてウンマ（共同体）への導きに基づくものである。

[1] アッ＝ティルミズィー（747）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 天啓の諸啓典への信仰

ここでいう諸啓典とは、至高なるアッラーが被造物への慈悲と導きとして、その使徒たちに啓示された諸聖典を指す。人々がそれらを通じて現世と来世の幸福に到達するためである。これらの重要性と、それらを授けられたアッラーの恩寵は、多くの節で言及されている。

・至高なるアッラーは仰せられる：アッラーかれのほかに神はない。永生にして万有を維持される御方。かれは真理をもってあなたにこの啓典を下され、以前のものを確認された。また、以前に人々への導きとして、トーラーと福音を下され、さらに判別（アル＝フルカーン）を下された。まことに、アッラーの印を信じない者たちには厳しい懲罰がある。アッラーは偉力ならびなく、報復の主である。[1]

・また、至高なるかれは仰せられる：すべての称賛は、しもべに啓典を下され、その中にいかなる歪みも置かれなかったアッラーに属する。まっすぐなものとして、かれのもとからの厳しい懲罰を警告し、正しい行いをする信仰者たちに、良き報奨があることを吉報として告げるためである。[2]

・さらに、至高なるかれは仰せられる：祝福あれ、かれのしもべに判別（アル＝フルカーン）を下された御方に。かれが諸世界への警告者となるためである。[3]

❖ 諸啓典への信仰に含まれる四つの事柄：

1. **それらが真にアッラーから啓示されたものであると信じること。すなわち、それらはアッラーの実際の御言葉であり、天使を媒介として、かれが望まれた使徒に啓示されたものである。**
2. **名が知られているものクルアーン、トーラー、福音（インジール）、ザブールについてはその名を信じ、名が知られていないものについては総体として信じること。**
3. **その中で真正なものの真実性を肯定すること。たとえば、クルアーンに含まれる報告や、以前の啓典において改変されていない真正な報告である。**
4. **私たちに啓示された啓典高貴なるクルアーンの規定に従って行動し、それに満足して服従すること。なぜなら、それは以前のすべての啓典を廃止（ナスフ）するからである。至高なるアッラーは仰せられる：**
   われは真理をもってあなたに啓典を下した。それは、それ以前の啓典を確認し、またそれらの上に立つ判別者である。[4]
   イブン・ʿアッバースは、それらの上に立つ判別者とは、それらに対する裁定者である、と述べた。

[1] ［Āl ʿImrān：1–4］ [2] ［Al-Kahf：1–3］ [3] ［Al-Furqān：1］ [4] ［Al-Māʾidah：48］ [5] タフスィール・イブン・カスィール 16/3

❖ **諸啓典への信仰がもたらす実り**：

1. アッラーがそのしもべたちを深く顧みておられることの認識。すなわち、彼らを導くために啓典を下されたという御配慮を知ることである。
2. アッラーの立法における叡智の理解。至高なるアッラーが、各民の状況に適した法と道を定められたこと至高なるかれの御言葉のとおりである：
   われらは、あなたがた各々にシャリーアと道（方法）を定めた。[1]
3. 被造物を尊ばれ、御言葉と法を彼らに啓示されたことに対する、アッラーへの感謝。
4. アッラーの啓典に朗誦と実践によって堅くすがること。そこには導きと光があり、両界（現世と来世）の幸福はそれによって達成される。

[1] ［Al-Mā'idah：48］

水曜日：フィクフモジュール — 礼拝の柱

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。
礼拝は言葉と所作から成る偉大なる礼拝行為であり、これらの言葉と所作は三つの類別に分かれる。すなわち、**柱（アルカーン）**、**義務的行為（ワージブ）**、および自発的行為（ナーフィル）である。

❖ 柱（アルカーン）：

柱とは礼拝を構成する不可欠な部分のことであり、故意であれ忘却であれ、いかなる理由によっても省略してはならない。柱を故意に省略した者の礼拝は無効となる。もし同一のラカア内で忘れていたことに気づいたならば、当該箇所に戻り以後の動作を完了しなければならない。すでに次のラカʻに入っていた場合は、柱を欠いたそのラカʻは無効となり、その次に続くラカアがその代わりを果たす。いずれの場合も忘却の土伏せ（スジュード＝アッサフウ）を行う必要がある。

❖ 義務的行為（ワージブ）：

これを故意に省略すると礼拝は無効となるが、忘却により省かれた場合は礼拝は無効にならず、忘却の土伏せで補われる。

以上より、柱は義務的行為よりもさらに強調されていることが明らかである。すなわち、柱が欠けていては礼拝は成立しないが、義務的行為は忘却の土伏せで補うことができる。

❖ 自発的行為（ナーフィル）：

自発的行為を省略しても礼拝は無効にならないが、それを行うことによって礼拝の完成度と報奨が増す。

❖ 礼拝の柱（十四項）：

以下は礼拝が成立するための不可欠な十四の要件である。

1. **立位（可能な者は立って礼拝すること）。** 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：立って礼拝せよ。もし立てないならば坐れ。[1]
2. **開始のタクビール（アッラーフ・アクバルと宣言すること）。** 預言者は言われた：礼拝のために立ったならばタクビールを言いなさい。[2]

3. **アル＝ファーティハ（開扉章）の朗誦。** 預言者は言われた：開扉を朗誦しない者には礼拝はない。[3]
4. **ルクー（お辞儀）を行うこと。** 預言者は言われた：楽にお辞儀できるまでルクーしなさい。[4]
5. **ルクー‘からの起立（直立）を行うこと。** 預言者は言われた：立ち上がって直立するまで立ちなさい。[5]
6. **スジュード（七か所での土伏せ）を行うこと。** 預言者は言われた：私は七箇所で土伏せするよう命じられている：額（彼は鼻のあたりを指した）、両手、両膝、両足のつま先。[6]

---

[1] アル＝ブハーリー（1117）。
[2] アル＝ブハーリー（6251）；ムスリム（397）。
[3] アル＝ブハーリー（756）；ムスリム（394）。
[4] アル＝ブハーリー（6251）；ムスリム（397）。
[5] アル＝ブハーリー（6251）；ムスリム（397）。
[6] アル＝ブハーリー（809）；ムスリム（490）。

7. **土伏せ（スジュード）から起き上がること。**
8. **二回の土伏せの間に座ること。**
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   それから、きちんと座るまで起き上がりなさい。[1]
9. **すべての柱において静穏（落ち着き）を保つこと。**
   正しく礼拝しなかった者に対して、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   戻って礼拝し直しなさい。あなたは礼拝していない。[2]
10. **最後のタシャッフド。**
    これは彼（預言者）の命令によるものである。[3]
11. **最後のタシャッフドのために座ること。**
12. **最後のタシャッフドにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に祝福（サラーワート）を送ること。**
    最も優れた形はイブラーヒーム式の文言であるが、他の文言でも差し支えない。
13. **柱を正しい順序で行うこと。**
14. **タスリーム（礼拝の終了の挨拶）。**
    預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
    その締めくくりはタスリームである。[4]

---

[1] アル＝ブハーリー（6251）、ムスリム（397）
[2] アル＝ブハーリー（6251）、ムスリム（397）
[3] アン＝ナサーイー（2/240）
[4] アブー・ダーウード（61）、アッ＝ティルミズィー（3）

木曜日：スィーラモジュール — 第二次アカバの誓約

イスラームがマディーナにおいて広まり、その姿を明確に現すようになると、預言者の使命開始から十三年目の巡礼（ハッジ）の季節に、アンサールの大集団がマッカへとやって来た。彼らの指導者は、アル＝バラーウ・イブン・マアールール（アッラーの御満悦あれ）であった。

彼らはマッカにおいて、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と密かに連絡を取り合い、タシュリークの日々の中頃、夜陰に紛れて、アカバにおいて会合を持つことを取り決めた。

夜の三分の一が過ぎた頃、アンサールの七十三人の男性と二人の女性が、静かに抜け出してアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ向かった。彼は、当時なお自らの民の宗教の上にあったものの、この誓約を強固なものとすることを望んでいた叔父アル＝‘アッバースを伴って現れた。

最初に語ったのはアル＝‘アッバースであった。彼は言った。
もし、あなたがたが彼をこの地へ招いた以上、彼に対して忠実であり続け、彼に敵対する者すべてから彼を守る覚悟があるのなら、この責任を引き受けなさい。しかし、もし彼があなたがたのもとに来た後で、裏切り、見捨てることになるのではと考えるなら、今ここで彼を去らせなさい。それは、あなたがたにとっても彼にとっても、より良いことである。[1]

彼らは言った。
アッラーの使徒よ、どのようなことについて、あなたは私たちの誓約を受けられるのですか。

彼（アッラーの祝福と平安あれ）は答えられた。
活力のあるときにも、疲労のときにも、聞き従うこと。安楽の中でも困難の中でも施すこと。善を命じ、悪を禁じること。そして、あなたがたの地ヤスリブに私が来たとき、あなたがた自身、妻子を守るのと同じように、私を守ることその報いは、あなたがたにとって楽園である。[2]

すると、アスアド・イブン・ズラ―ラが言った。
ヤスリブの人々よ、待ちなさい。我々は、彼がまことにアッラーの使徒であることを知った上で、ここまで旅して来たのだ。彼を迎え入れるということは、すべてのアラブとの断絶を意味し、最も優れた者たちが殺され、剣が我々に向けられることを意味する。もしそれに耐え忍ぶ覚悟があるなら、彼を迎え入れよ。その報いはアッラーのもとにある。しかし、もし自分たちを恐れるなら、今ここで彼を去らせよ。それはアッラーの御前において、より弁明しやすいであろう。

彼らは答えた。
アッラーにかけて、我々はこの誓約を決して放棄せず、またそれから解放されることを求めることもない。

こうして彼らは前に進み出て、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対し、一人ひとり忠誠の誓約（バイア）を立てた。これが、**大アカバの誓約**として知られるものである。[3]

その夜、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らの中から十二名の代表者（ナキーブ）を選ばれた。

ハズラジュ族からは、
アスアド・イブン・ズラ―ラ、サアド・イブン・アル＝ラビー‘、‘アブドゥッラー・イブン・ラワーハ、ラーフィ‘・イブン・マーリク、アル＝バラーウ・イブン・マアールール、‘アブドゥッラー・イブン・‘アムル・イブン・ハラーム（その息子ジャービルはこの夜にイスラームを受け入れた）、サアド・イブン・‘ウバーダ、アル＝ムンディル・イブン・‘アムル、‘ウバーダ・イブン・アッ＝Ṣーミト以上九名である。

アウス族からは、
ウサイド・イブン・フダイル、サアド・イブン・ハイズマ、リファー‘ア・イブン・‘アブド・アル＝ムンディルの三名であった。

この誓約が完了すると、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ムスリムたちにマディーナへの移住（ヒジュラ）を許可され、人々は次々と移住を開始したのである。

---

[1] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ第 3 巻 160 頁
[2] アフマド（14456）
[3] イブン・ヒッバーン（7012）

土曜日：サハーバモジュール ― マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼女は、マイムーナ・ビント・アル＝ハーリスであり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の妻の一人である。彼女は、アル＝‘アッバースの妻であるウンム・アル＝ファドルの姉妹であり、また、ハーリド・イブン・アル＝ワリードおよび‘アブドゥッラー・イブン・‘アッバースの母方の叔母にあたる。

アル＝‘アッバース（アッラーの御満悦あれ）は、彼女の後見人（ワリー）であり、彼は彼女の前夫アブー・ルフム・イブン・‘アブド・アル＝‘ウッザーの死後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と彼女を結婚させた。預言者が彼女と結婚されたのは、ヒジュラ暦第七年、補償の小巡礼（‘ウムラト・アル＝カダー’）からの帰還後、マッカ近郊のサリフにおいてであった。彼女は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が結婚された最後の女性である。

❖ 生涯と徳：

彼女（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ以前にマッカにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に忠誠の誓約（バイ‘ア）を立てた者たちの一人であった。彼女は、その深い敬虔さ、正義感、そして至高なるアッラーへの畏敬の念によって知られるようになった。

彼女の甥であるヤズィード・イブン・アル＝アサムは言った。
まことに、彼女は我々の中でも最もアッラーを畏れる者の一人であり、また、親族関係を最も誠実に保つ者であった。[1]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼女の真実の信仰と、その心におけるイーマーンの堅固さを証言し、次のように言われた。
姉妹たちは信仰者である。すなわち、マイムーナ、ウンム・アル＝ファドル、そしてアスマーである。[2]

彼女（アッラーの御満悦あれ）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）から七十六のハディースを伝承し、多くのサハーバ（教友）たちが彼女から伝承した。

❖ 御逝去：

彼女（アッラーの御満悦あれ）は、ヤズィード・イブン・ムアーウィヤのカリフ期にあたる、ヒジュラ暦第六十一年、八十歳で逝去した。彼女は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が彼女と結婚された地であるサリフにおいて逝去し、同地に埋葬された。

[1] アル＝ハーキム（第 4 巻 34 頁）
[2] アン＝ナサーイー（8387）

知識確認テスト — 第 19 週

模块	问题	选项	正确答案
タフスィール	アッラーの御言葉における Ḥunafāʾ（フナファー）の意味は何か。	[a] 宗教において堅固である者たち[b] 主に完全に服従する者たち[c] あらゆる宗教から離れ、イスラームの宗教へと傾く者たち	[c]
ハディース	月曜日の特別な特性の一つは何か。	[a] 行為が（アッラーのもとに）提示される日である[b] 天使たちが降下する日である[c] 終末の時が確立される日である	[a]
アキーダ	諸啓典の意図される意味とは何か。	[a] 高貴なるクルアーンのみ[b] アッラーが使徒たちに啓示されたすべての啓典[c] トーラー、福音書、クルアーンのみ	[b]
フィクフ	故意であれ、忘却によれ、無知によれ、いかなる場合でも免除されない行為は何と呼ばれるか。	[a] スンナ [b] ワージブ（義務）[c] アルカーン（柱・不可欠要素）	[c]
スィーラ	第二次アカバの誓約におけるアンサールの指導者は誰であったか。	[a] アル＝バラー ウ・イブン・マアールール[b] サアド・イブン・ムアーズ[c] ムスアブ・イブン・ʿウマイル	[a]
サハーバ	マイムーナ（アッラーの御満悦あれ）を、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に嫁がせた人物は誰か。	[a] ハーリド・イブン・アル＝ワリード[b] アスアド・イブン・ズラ―ラ[c] アル＝ʿアッバース・イブン・ʿアブド・アル＝ムッタリブ	[c]

20 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝バイイナ章(後半)

إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ وَالْمُشْرِكِينَ فِي نَارِ جَهَنَّمَ خَالِدِينَ فِيهَا أُولَئِكَ هُمْ شَرُّ الْبَرِيَّةِ (6) إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ أُولَئِكَ هُمْ خَيْرُ الْبَرِيَّةِ (7) جَزَاؤُهُمْ عِنْدَ رَبِّهِمْ جَنَّاتُ عَدْنٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا رَضِيَ اللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا عَنْهُ ذَلِكَ لِمَنْ خَشِيَ رَبَّهُ (8)

まことに、啓典の民の中の不信仰者たち、ならびに多神崇拝者たちは、地獄の火の中にあり、その中に永遠に留まる。彼らこそ、被造物の中で最も悪しき者たちである。
まことに、信仰し、正しい行いをなした者たち彼らこそ、被造物の中で最も優れた者たちである。
彼らの主のもとにおける報いは、川々がその下を流れる永遠の楽園であり、彼らはそこに永遠に留まる。アッラーは彼らに満足され、彼らもまたアッラーに満足する。これは、自らの主を畏れる者のためのものである。

❖ 節の主題：

ムハンマドの使命（アッラーの祝福と平安あれ）を信じる者たちへの報奨と、それを拒否する者たちへの報い。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
الْبَرِيَّة	al-bariyyah	被造物。アッラーによって創造され、御監察のもとに置かれているがゆえにこの名で呼ばれる。
عَدْنٍ	ʿadn	定住と安定の地。
رَضِيَ اللهُ عَنْهُمْ	raḍiya Allāhu ʿanhum	彼らの信仰と服従ゆえに、アッラーが彼らに満足されること。
وَرَضُوا عَنْهُ	wa raḍū ʿanhu	アッラーが与えられた報奨と楽園ゆえに、彼らがアッラーに満足すること。

❖ 全体的な意味：

これらの節において、至高なるアッラーは、啓典の民の中の不信仰者たち、ならびに多神崇拝者たちが、地獄の火の中に置かれ、そこに永遠に留まることを定められた。これは、彼らがアッラーを信じず、またその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を否定した

ためである。彼らは真理を知りながら、それから背き去ったがゆえに、被造物の中で最も悪しき者たちとされた。

一方、アッラーとその使徒を信じ、正しい行いを実践した者たちは、最も優れた報いと最も美しい特質を与えられる。すなわち、至福の楽園における永遠の住処、終わることのない生命、そして被造物の中で最も優れた者であるという地位である。アッラーは、彼らの信仰と主への畏れゆえに彼らに満足され、彼らもまた、アッラーが授けられた永遠の恩寵に満足するのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 信仰を持ち、宗教の上に堅固に留まる者への報奨が明確にされていることすなわち、アッラーの御満悦と楽園における永遠の住処。
2. 不信仰に陥り、宗教から背き去る者への報いが明確にされていることすなわち、アッラーの御怒りと地獄における永遠の住処。
3. 信仰者はアッラーの被造物の中で最も優れた者であり、不信仰者は最も劣悪な者であるということ。
4. 至高なるアッラーを畏れることの徳それは、しもべに対するアッラーの御満悦をもたらす原因である。

月曜日：ハディースモジュール — ウィトル礼拝の徳

‘アリー（アッラーの御満悦あれ）からの伝承による。彼は言った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
クルアーンの民よ、ウィトル礼拝を行いなさい。まことに、アッラーは唯一であり、奇数を愛される御方である。[1]

❖ 解説：

ウィトル礼拝は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、旅のときも在宅のときも、健康なときも病のときも、決して放棄されなかった強調されたスンナ（スンナ・ムアッカダ）である。

それは、アル＝ウィトルが至高なるアッラーの御名の一つであるからである。すなわち、アッラーは、その御本質（御存在）、属性、御御業において唯一であり、一方、被造物は対を成し、組として創造されている。至高なる御方は、御自身の御名と属性に相応するものを愛される。すなわち、アッラーは全知であり、知識を愛され、慈悲深く、慈悲を愛され、美しく、美を愛され、そして唯一であり、奇数を愛されるのである。

このため、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ウィトル礼拝を行うことをそのウンマに強く勧められ、とりわけ**クルアーンの民**それを暗誦し、朗誦する者たちを特に名指しされた。これは、彼らがより高い名誉と地位を有し、人々の模範となる存在であるからである。彼らは、礼拝へと駆り立てられるべき知識を有しており、そのため、この命令は彼らに対してより強調されているのである。ただし、それがすべてのムスリムに求められるものであることに変わりはない。

ムスリムは、夜のいずれの時間においてもウィトル礼拝を行うことができる。すなわち、夜の初め、中ほど、あるいは終わりである。眠りに負けてしまうことを恐れる者は、たとえ一ラカアであっても、就寝前にウィトルを行うべきである。一方、夜の後半に目覚めることを期待する者にとっては、その時刻に行うウィトルの方がより優れている。なぜなら、その時、栄光あれなる主は、その御威厳に相応しい仕方で（天に）降臨され、しもべたちの祈願に応答されるからである。

❖ このハディースから得られる益：

1. ウィトル礼拝は、軽視されるべきではなく、放棄されてはならない強調されたスンナであること。
2. 至高なるアッラーに対して、愛するという属性が確証されること。
3. ウィトル礼拝は、任意礼拝の中で最も強調され、最も優れた礼拝であること。

4. しもべたちに対するアッラーの慈悲と容易さの一つとして、ウィトル礼拝が、その回数や方法において柔軟に定められていること。

[1] アブー・ダーウード（1416）によって伝承された。

火曜日：信仰モジュール — 使徒（預言者）への信仰

使徒への信仰とは、アッラー（至高にして偉大なる御方）が、すべての民族に対して使徒を遣わし、彼らに対し、何ものも並び立てることなくアッラーのみを崇拝するよう呼びかけた、ということを確固たる確信をもって信じることである。
至高なるアッラーは仰せられる：
われは、すべての民族に一人の使徒を遣わし、（彼は言った）アッラーを崇拝し、ターグート（偽りの神々）を避けよと。[1]
また仰せられる：
警告者が彼らのもとを過ぎ去らなかった民族は、一つもなかった。[2]
使徒たちは被造物の中で最も優れた存在であり、その選ばれし精鋭である。アッラーは彼らを選び、御自分の啓示と宗教を伝える使命を託された。
至高なる御方は仰せられる：
アッラーは、天使の中からも、人々の中からも、使徒を選ばれる。本当にアッラーは全聴にして全視であられる。[3]
使徒の最初はヌーフ（ノア）である。アッラーは仰せられる：
本当にわれは、あなた（ムハンマド）に啓示した。これはヌーフ、そして彼の後の預言者たちに啓示したのと同様である。[4]
そして最後の使徒はムハンマド（アッラーの祝福と平安が彼に豊かにあれ）である。アッラーは仰せられる：
ムハンマドは、あなたがたの誰一人の父でもない。しかし彼はアッラーの使徒であり、預言者たちの封印である。[5]
使徒たちは人間であり、アッラーによって創造された被造物である。彼らは主性（ルブービーヤ）や神性（ウルーヒーヤ）に属するいかなる属性も有していない。
アッラーは、御使いムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）について仰せられる：
言え、私は自分自身のために、アッラーが望まれる以外の利益も害も持たない。もし私が不可視（ガイブ）を知っていたなら、多くの富を得ていただろうし、災いも私に及ばなかったであろう。私は、信じる民に対する警告者であり、吉報の伝達者に過ぎない。[6]

❖ 使徒への信仰に含まれる四つの事柄：

1. **彼らが、真実にアッラー至高によって遣わされた使徒であると信じ、確証すること。**
2. **名を知っている使徒についてはその名を信じ、名を知らない使徒については総体的に信じること。**
3. **彼らから真正に伝えられた言葉や知らせを信じること。**
4. **私たちに遣わされた使徒 — ムハンマド（アッラーの祝福と平安が彼にあれ）— のシャリーアに従って行動すること。**
   至高なる御方は仰せられる：

いや、あなたの主にかけて。彼らは、あなた（ムハンマド ﷺ）を、彼らの間で争いが起こった事柄について裁定者とし、その裁定に対して心の中に何の不満も感じることなく、完全に服従しない限り、真に信じた者とはならない。[7]

[1]［ナフル章：36］
[2]［ファーティル章：24］
[3]［ハッジ章：75］
[4]［ニサー章：163］
[5]［アフザーブ章：40］
[6]［アアラーフ章：188］
[7]［ニサー章：65］

❖ 使徒への信仰の実り（成果）：

1. アッラー（至高にして偉大なる御方）が、その僕たちに対して示される慈悲と配慮を知ることである。なぜなら、アッラーは彼らに使徒を遣わし、彼らを御自身のまっすぐな道へ導き、どのようにアッラーが崇拝されるべきかを明確にされたからである。人間の理性だけでは、それを完全に把握することはできない。
2. この偉大なる恩恵に対して、至高なるアッラーに感謝を捧げることである。
3. 使徒たち（彼らすべてに平安あれ）を愛し、敬い、彼らにふさわしい形で称賛することである。

水曜日：フィクフモジュール — 礼拝の義務行為とスンナ

❖ 礼拝の義務行為：

礼拝の義務行為は八つである：

1. 開幕のタクビールを除く、すべてのタクビール。
2. サミアッラーフ リマン ハミダ（アッラーは、彼を讃える者の言葉を聞かれる）と言うことイマームおよび単独で礼拝する者に限る。[1]
3. ラッバナー ワ ラカル ハムド（われらの主よ、あなたにこそ称賛が属する）と言うこと。[2]
4. ルクー（お辞儀）の姿勢でスブハーナ ラッビヤル アズィーム（栄光あれ、我が主、至大なる御方）と言うこと一回は義務、三回までは推奨。[3]
5. スジュード（sujūd：叩頭）の姿勢でスブハーナ ラッビヤル アーラー（栄光あれ、我が主、至高なる御方）と言うこと一回は義務、三回までは推奨。[4]
6. 二回のスジュードの間でラッビ イグフィルリー（我が主よ、私をお赦しください）と言うこと一回は義務、三回までは推奨[5]；また、赦しを求める言葉はどのような表現でも足りる。
7. 最初のタシャッフド（tashahhud）のために座ること。[6]
8. 最初のタシャッフドを唱えること。すなわち：
   アッタヒーヤート リッラーヒ、ワッサラート ワッタイイバート,、アッサームアライカ アイユハッナビーユ ワ ラハマトゥッラーヒ ワ バラカート、アッサームアライナー ワアラー イバーディッラーヒッサーリヒーン、 アシハド アン ラーイラーハ イッラッラー, ワ アシハド アンナ ムハンマダン アブドフー ワ ラスール。[7]

❖ 礼拝のスンナ：

スンナは二種類である：言葉によるスンナと、行動によるスンナ。

第一種類 — 言葉によるスンナ：
これらは多く、その中には次が含まれる：
• 開式の嘆願（Duʿāʾ al-Istiftāḥ）。
• 守護を求めること（Taʿawwudh）。
• Bismillāh を言うこと。
• アーミーn を言うこと。

• 最初の２ラカアにおいて、アル＝ファーティハの後にクルアーンを朗誦すること。
• 第一ラカアの朗誦を、第二より長くすること。
• 声に出す礼拝では声に出して朗誦し、無音の礼拝では静かに朗誦すること。
• ミルアッサマー ワミルア ルアルド ワ ミルア マー シイタ ミン シャイイン バアド（天を満たし、地を満たし、さらにあなたが望まれるものを満たしてください）と言うこと。

[1] Al-Bukhārī (796)
[2] Al-Bukhārī (796)
[3] Muslim (772)
[4] Muslim (772)
[5] Al-Nasāʾī (1144)
[6] Al-Bukhārī: (6230), Muslim (402)
[7] Al-Bukhārī: (6230), Muslim (402)

• 最後のタシャッフドの後、サラームの前に守護を求めること。すなわち：
アッラーフッマ インニー アウーズビカミン アザービ ジャハンナム、 ワ ミンアザービルカルブ、 ワミンフィトナティ アルマーヒヤ ワルママート ,ワミンフィトナティアルマスィーハ アルダッジャール。
• その後、望むことを何でも嘆願すること。

第二種類 — 行動によるスンナ：
これらには次が含まれる：
• 開幕のタクビール、ルクーへ移るとき、ルクーから起き上がるときに手を挙げること。
• 立位で右手を左手の上に置き、それらを胸の上に置くこと。
• スジュードの位置を見ること。
• ルクーで両手を膝の上に置くこと。
• ルクーで背を水平に保つこと。
• 頭を背と一直線にし、下げすぎず上げすぎないこと。
• スジュードで腹を腿から離し、腿を脹脛から離すこと。
• 最後のタシャッフドではタワッルク（tawarruk）で座ること。
• その他の座り方ではイフティラーシュ（iftirāsh）で座ること。

木曜日：スィーラ モジュール — 預言的移住（ヒジュラ）の準備

第二のアカバ誓約の後、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、ムスリムたちにマディーナへの移住を許可された。人々はそれに急いだ個人的利益や財産に関して多くの犠牲を要したにもかかわらずである。最初に旅立ったのはアブー・サラマとその妻ウンム・サラマ（アッラーの御満悦あれ）であった。その後、人々は次々と集団で出発し、やがてマッカには、多神教徒に力ずくで拘束された者たち以外、誰も残らなくなった。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、主から出発の許可が下るのを待ちながら、アブー・バクルとアリーアッラーの御満悦あれ）と共に残られた彼らは使徒の命により留まっていたのである。

移住し、自らの財産を犠牲にした者の中に、スハイブ・アッ＝ルーミー（アッラーの御満悦あれ）がいた。彼が移住しようとしたとき、クライシュの不信仰者たちは彼に言った：
お前は貧しい者として我らのもとに来た。だが我らの間で財を成し、得るものを得た。今になって自分自身と財産の両方を携えて去ろうというのか？アッラーにかけて、それは決して許されない！
彼は答えた：
もし私があなた方に財産を渡すなら、私を行かせるか？
彼らは言った：
そうだ。
彼は言った：
私はあなた方を証人とする。私はあなた方に私の財産を与えた。
この知らせがアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に届くと、彼は言われた：まことに、その取引は利益をもたらした！まことに、その取引は利益をもたらした！まことに、その取引は利益をもたらした！[1]

アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）が移住の許可を求めたとき、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に言われた：
急ぐな。もしかするとアッラーが、あなたに同伴者を授けられるかもしれない。
そこでアブー・バクルは二頭の乗り物を準備し、自宅に置いて飼育しながら、アッラーが使徒に移住を許可されるのを待った。[2]

多神教徒たちは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の同伴者たちが去り、家族や子どもたちまでも連れて移住していくのを見ると、警戒し不安に駆られた。ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）は、地位と影響力において最高の指導者であり、彼の同伴者たちは犠牲と決意において比類なき者たちであった。また、マディーナのアウスとハズラジュは強大であり、さらにマディーナは戦略的要地であったマッカに近く、交易隊がそこを通過していたからである。

部族の首長たちはダール・アン＝ナドワに集まった。この会合には、ナジュドから来た老人の姿をしたイブリースが主席していた。ある者たちは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を追放することを提案し、また別の者たちは投獄することを提案したが、これら二つでは合意に至らなかった。最終的に彼らは、各部族から一人ずつが同時に剣で打ちかかり彼を殺すという案に合意した。そうすれば、血は諸部族に分散され、バヌー・ʿアブド・マナーフが全員に戦いを仕掛けることはできず、血の賠償金を受け入れざるを得なくなるからである。

[1] Al-Bidāyah wa-al-Nihāyah (4/439)
[2] ［Al-Anfāl: 30］

彼らは計画の成功を確信していたしかしアッラーは、その御事において圧倒的である。ジブリールはアッラーからの啓示をもって降り、クライシュの陰謀を彼に知らせ、またアッラーが彼に移住の許可を与えられたことを告げた。[1] 至高なるアッラーは仰せられる：

そして（想起せよ、ムハンマドよ）不信仰者たちが、お前を拘束するか、殺すか、追放するかを企てたときのことを。彼らは策を巡らすが、アッラーも策を巡らされる。アッラーは最良の策士である。[2]

[1] Al-Bidāyah wa-al-Nihāyah (4/439)
[2] ［Al-Anfāl: 30］

土曜日：サハーバ モジュール — サフィーヤ・ビント・フヤイイ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼女は、ウンム・アル=ムウミニーンサフィーヤ・ビント・フヤイイ イブン アハターブであり、バヌー・アン＝ナディールの出身である。彼女の血統は、ハールーン・イブン・ʿイムラーンに遡る。

❖ 生涯と徳：

サフィーヤ（アッラーの御満悦あれ）は、礼拝、知性、敬虔、禁欲、正義、慈善において、最も卓越した女性たちの一人であった。また、彼女は高貴な血統の持ち主であり、名誉と美しさを兼ね備えていた。
彼女は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）からいくつかのハディースを伝え、彼女から伝承した者の中には、ʿアブドゥッラー・イブン・ʿウマル、アナス・イブン・マーリク、ʿアリー・イブン・アル＝フサインがいる。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ヒジュラ後７年、カイバルの年に、彼女が十七歳であったときに彼女と結婚された。彼女はカイバルの日の捕虜の一人であり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女に、解放されて自分の民のもとへ戻るか、あるいはイスラームを受け入れて彼と結婚するかの選択を与えられた。彼女はアッラーとその使徒を選び、イスラームに入信し、彼と結婚した。[1]
彼女はこの結婚を予告する夢を見ていた。ハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女に、目の近くの痕について尋ねられた。彼女は答えた：
私は夢の中で、月が私の膝の上に落ちるのを見ました。私はそれを夫に話すと、彼は私を殴り、ヤスリブの王を望むのか？！と言ったのです。[2]
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女を称賛し、その血統を尊ばれた。あるとき彼は、彼女が泣いているところに入られ、何があなたを泣かせるのかと尋ねられた。彼女は言った：
私はユダヤ人の娘だと言われました。
すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
まことに、あなたは預言者の娘であり、あなたの叔父は預言者であり、あなたは預言者に嫁いだのだ。[3]
すなわち、彼女の父はハールーン（アッラーの平安あれ）、叔父はムーサー（アッラーの平安あれ）、夫はムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）である、という意味である。
また、彼の彼女への慈しみの一つとして、彼は彼女がラクダに乗るのを助けようとされ、一度、自らの腿を踏み台として差し出された。すると彼女は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）への敬意から、腿の上に足ではなく膝を置いて乗った。

---

[1] Al-Bidāyah wa al-Nihāyah (4/216).[2] Al-Ṭabarānī (177).[3] Al-Tirmidhī (3894).

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が逝去された病のとき、妻たちは彼の周りに集まっていた。サフィーヤ は言った：
アッラーにかけて、アッラーの預言者よ、あなたが苦しんでおられるものが、私の身に降りかかればよいのにと思います。
すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
アッラーにかけて、彼女は真実を語っている。[1]

❖ 御逝去：

サフィーヤ（アッラーの御満悦あれ）は、ムʿアーウィヤ（アッラーの御満悦あれ）のカリフ在位中、ヒジュラ暦 50 年に逝去した。彼女はアル＝バキーʿに埋葬された。

[1] Al-Ḥākim (4/29).

知識テスト — 第 20 週

モジュール	問い	選択肢	正解
タフスィール	問：アッラーの御言葉ʿAdn の楽園（Gardens of ʿAdn）の意味は何か。	[a] 至福と永遠の住処である楽園の中。[b] アル＝フィルダウス・アル＝アʿラー（al-Firdaws al-Aʿlā）の中。[c] 楽園の市場の中。	a
ハディース	問：ウィトル礼拝の規定は何か。	[a] 個人義務（farḍ ʿayn）。[b] 集団義務（farḍ kifāyah）。[c] 強調されたスンナ（sunnah mu’akkadah）。	c
アキーダ	問：使徒の最初の者は誰か。	[a] イドリース。[b] ヌーフ（ノア）。[c] イブラーヒーム	b
フィクフ	問：次のうち、礼拝（ṣalāh）の義務事項の一つはどれか。	[a] われらの主よ、あなたにこそすべての称賛が属すると言うこと。[b] アル＝ファーティハを朗誦すること。[c] ルクーʿから起き上がること。	a
スィーラ	問：マディーナ（Madīnah）へ最初に移住した者は誰か。	[a] アブー・バクル・アッ＝スィッディーク。[b] ʿアリー・イブン・アビー・ターリブ。[c] アブー・サラマ	c
サハーバ	問：預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、サフィーヤ・ビント・フヤイイ と何年に結婚されたか。	[a] ヒジュラ暦 7 年。[b] ヒジュラ暦 8 年。[c] ヒジュラ暦 9 年。	a

21 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール モジュール — アッ＝ティーン章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
وَالتِّينِ وَالزَّيْتُونِ (1) وَطُورِ سِينِينَ (2) وَهَذَا الْبَلَدِ الْأَمِينِ (3) لَقَدْ خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ فِي أَحْسَنِ تَقْوِيمٍ (4) ثُمَّ رَدَدْنَاهُ أَسْفَلَ سَافِلِينَ (5) إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَلَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍ (6) فَمَا يُكَذِّبُكَ بَعْدُ بِالدِّينِ (7) أَلَيْسَ اللَّهُ بِأَحْكَمِ الْحَاكِمِينَ (8)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。いちじくとオリーブにかけて。また、シナイ山にかけて。また、この安全なる都にかけて。まことに、われらは人間を最も美しい形に創造した。その後、われらは彼を最も低きものへと戻した。ただし、信仰し正しい行いをなす者たちは別である。彼らには途切れることのない報奨がある。それにもかかわらず、何があなたに報いを否定させるのか。アッラーは最も公正な裁定者ではないのか。

❖ スーラのテーマ：

人間をまっすぐな形に創造されたこと、そして最終の啓示を完成されたことにおける、アッラーの人類への恩恵。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
وَطُورِ سِينِينَ	wa-ṭūr Sīnīn	シナイ山。アッラーがムーサー（アッラーの平安あれ）に語りかけられた山。
وَهَذَا الْبَلَدِ الْأَمِينِ	wa-hādhā al-balad al-amīn	マッカ。
فِي أَحْسَنِ تَقْوِيمٍ	fī aḥsani taqwīm	最も美しい形に。
أَسْفَلَ سَافِلِينَ	asfala sāfilīn	火獄。
غَيْرُ مَمْنُونٍ	ghayru mamnūn	途切れることのない、決して断たれない。
أَلَيْسَ اللَّهُ بِأَحْكَمِ الْحَاكِمِينَ	alaysa-llāhu bi-aḥkami-l-ḥākimīn	アッラーは最も公正な裁定者ではないのか。すなわち、命令・禁止・報奨・懲罰なしにしもべを放置されることはあり得ないという意味。

❖ 全体的な意味：

このマッカ啓示のスーラは誓いによって始まる。至高なるアッラーは、いちじくとオリーブにかけて誓われる。それらは多くの利益を有し、またシャームの地において、ʿイーサー（アッラ

一の平安あれ）の預言がなされた地であるからである。次に、ムーサー（アッラーの平安あれ）の預言の地であるシナイ山にかけて誓われる。そして続いて、安全なる都マッカにかけて誓われる。それは、われらの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の預言の地である。疑いなく、これら三つの地は神聖であり、堅固な決意を持つ五人の使徒の中から、最も偉大な三人がそこから遣わされた。

誓いの主題は、人間に対するアッラーの驚くべき創造である。すなわち、人間を完全で、均整が取れ、直立し、外面的にも内面的にも欠けることなく造られたことである。しかし、これほどの大きな恩恵にもかかわらず、多くの人々は恩恵の授与者への感謝から背を向け、遊戯と軽薄に忙殺され、低俗な事柄と卑しい性質に満足する。こうした者たちは、その反抗のゆえに、火獄の最も低きものへと戻される。

一方、アッラーが信仰と正しい行いによって栄誉を授けられた者たちは、最も高い位と、決して尽きることのない永遠の報奨を得る。

❖ このスーラから得られる益：

1. いちじくとオリーブという二つの高貴な樹木の地位と、その大きな利益。
2. マッカの尊厳と神聖さ、そしてそれが安全で尊ばれる地であること。
3. シャームの徳と、それが祝福された地であること。
4. 人間を最も美しい形と最もまっすぐな構造で創造されたことにおける、アッラーの恩恵。
5. 栄光あれ、アッラーはその定めと立法において最も公正な裁定者であること。

月曜日：ハディースモジュール — 絶交と敵意への警告

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
楽園の門は月曜日と木曜日に開かれる。そしてアッラーに何ものも同位に配さないすべてのしもべは赦される。ただし、彼とその兄弟との間に敵意がある者は除かれる。そのとき言われる：この二人を和解するまで延期せよ。この二人を和解するまで延期せよ。この二人を和解するまで延期せよ。[1]

❖ 解説：

楽園の民の最も顕著な特質の一つは、心の清らかさであり、悪意、憎しみ、怨恨、嫉妬から解放されていることである。至高なるアッラーは、それらの性質を彼らの胸から取り除き、彼らが楽園において互いに愛し合う兄弟となるようにされる。

このハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、この特質が現世における信仰者にも求められていることを明らかにしている。月曜日と木曜日には、豊かな慈悲が降り注ぎ、赦しと寛容が増し加えられるゆえに、楽園の門が開かれる。アッラーに何ものも同位に配さないすべてのしもべの罪は赦されるしかし、自らのムスリムの兄弟に対して敵意を抱く者は除かれる。それが憎しみであれ、絶交であれ、争いであれである。天使たちは命じられる：この二人を延期せよ。彼らが和解し、敵意が取り除かれるまで赦しを延期せよ。

❖ このハディースから得られる益：

1. 月曜日と木曜日の徳。
2. ムスリム同士における敵意と絶交の禁止。
3. 和解へ急ぐことの義務、そして争いを三日以上続けないこと。
4. 絶交はサラームによって終わる。もし一方が挨拶を始めれば、絶交は解除される。
5. 赦しは、相手がどうであれ、自らの心から敵意を取り除くことにかかっている。
6. アッラーは、しもべたちの心が分裂することではなく、一致し、互いに愛し合うことを望まれている。

[1] Muslim (2565).

火曜日：アキーダ モジュール — 終末の日への信仰

終末の日（al-Yawm al-Ākhir）とは、復活の日のことである。それはその後にいかなる日も存在しないゆえに最後の日と呼ばれる。楽園の民は永遠にその住まいに定住し、火獄の民もまた永遠にその住まいに定住する。これは神的英知に基づくものである。すなわち、至高なるアッラーはこの創造物に最終の帰還の日を定め、そこで彼らを清算し、自らが立法された事柄について問いただし、それに応じて報奨を与えられるのである。至高なるアッラーは仰せられる：
あなたがたは、われらがあなたがたを無意味に創造し、そしてわれらのもとへ戻されないとでも思ったのか。[1]

❖ 終末の日への信仰は、四つの事柄を含む：

1. 墓において起こることへの信仰二人の天使による質問、ならびに墓の懲罰と墓の至福。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）から確証ある伝承がある。彼は言われた：
   もしあなたがたが死者を埋葬するのをやめてしまうことがなければ、私はアッラーに祈願し、私が聞いている墓の懲罰をあなたがたにも聞かせていただくよう願ったであろう。
   それから彼は顔を向けて言われた：
   火獄からアッラーに守護を求めなさい。
   彼らは言った：私たちは火獄からアッラーに守護を求めます。
   彼は言われた：墓の懲罰からアッラーに守護を求めなさい。
   彼らは言った：私たちは墓の懲罰からアッラーに守護を求めます。[2]
2. 復活への信仰死者が墓から蘇らされること。至高なるアッラーは仰せられる：
   その後、あなたがたは必ず死ぬ。そして復活の日に、あなたがたは必ず蘇らされる。[3]
   また預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   人々は復活の日に、裸足で、裸で、割礼を受けていない状態で集められる。[4]
3. 清算と行為への報いへの信仰。至高なるアッラーは仰せられる：
   われらは復活の日のために公正の秤を設ける。いかなる魂も少しも不当に扱われない。たとえからし種一粒の重さであっても、われらはそれをもたらす。清算者としてわれらは十分である。[5]
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   アッラーは信仰者を近づけ、覆い隠し、こう言われる。あなたはあの罪を覚えているか。あの罪を覚えているか。彼は答える。はい、我が主よ。ついに彼が自らの罪を認め、自分は滅びたと思うとき、アッラーは言われる。われはそれらを現世においてあなたのために隠した。そして今日、それらをあなたに赦す。
   そして彼には善行の記録が与えられる。
   しかし、不信仰者と偽信者については、証人たちが言う：

これらこそ、その主に対して虚偽を語った者たちである。疑いなく、アッラーの呪いは不正を行う者たちの上にある。[6] [7]

4. 楽園と火獄への信仰それらが被造物にとって永遠の住処であること。至高なるアッラーは仰せられる：
まことに、正しき者たちは至福の中にあり、不義の者たちは火獄の中にある。彼らは報いの日にそこに焼かれる。[8]

[1] ［アル＝ムؤミヌーン章：115］
[2] ムスリム（7142）
[3] ［アル＝ムؤミヌーン章：15–16］
[4] アル＝ブハーリー（6527）、ムスリム（2859）
[5] ［アル＝アンビヤー章：47］
[6] ［フード章：18］
[7] アル＝ブハーリー（2442）
[8] ［アル＝インフィタール章：13–15］

❖ **終末の日への信仰の実り**：

1. その日の報奨を望みつつ服従行為に励み、その懲罰を恐れて罪を避けること。
2. 儚い現世で失ったものについて、永遠の来世における永続する至福と報奨への希望によって、信仰者が慰められること。

水曜日：フィクフ モジュール — 礼拝における嫌われる行為

礼拝を無効にはしないが、その完成と報奨を損なう行為がある。それゆえ、それらは嫌悪（マクルーフ）として禁じられている：

1. 排泄を我慢している状態、あるいは欲している食事が目前にある状態で礼拝すること。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の言葉による：
   食事が出されているときには礼拝はなく、また二つの不浄を我慢しているときにも礼拝はない。[1]
2. 必要もなく礼拝中に顔をそむけること。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   それはシャイターンが人の礼拝から奪い取る奪取である。[2]
   ここでの奪取とは、盗み取ることを意味する。
3. 礼拝中に目を閉じること。それは拝火教徒が火を崇拝するときの行為に似ているからである。
4. 必要もなく口を覆うこと。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、口を覆うことを禁じられた。[3]
5. 指を組み合わせること。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はそれを禁じられた。[4]
6. 衣服をまくり上げること、または垂れている髪を束ねること。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   私は七つの部位で叩頭するよう命じられ、また髪や衣服をまとめないよう命じられた。[5]
   ここでのまとめるとは、それらを束ねて保持することを意味する。
7. 叩頭において両前腕を地面に広げてつけること。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   叩頭では均衡を保ち、犬のように前腕を広げてはならない。[6]
8. アル＝イカアー（犬のように座る座り方）。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、犬のように座ることを禁じられた。[7]
   ・第一の形：足の甲を地につけ、踵の上に座ること。
   ・第二の形：腿と脛を立て、臀部の上に座ること。
   いずれも嫌われる行為である。

---

[1] ムスリム（560）
[2] アル＝ブハーリー（751）
[3] アブー・ダーウード（643）、アッ＝ティルミズィー（379）
[4] アル＝ハーキム（1/206）
[5] アル＝ブハーリー（815）、ムスリム（490）
[6] アル＝ブハーリー（822）
[7] アフマド（8091）

木曜日：スィーラ モジュール — ヒジュラ（移住）

至高なるアッラーがその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に移住の許可を与えられたとき、彼は真昼にアブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）の家を訪れた。入室の許可を求め、アブー・バクルはそれを許した。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
あなたのもとにいる者たちを外へ出しなさい。
アブー・バクルは答えた：彼らはあなたの家族だけです。わが父があなたのために犠牲となりますように、アッラーの使徒よ。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
私は出発の許可を与えられた。
アブー・バクルは言った：ご同行を？
預言者は言われた：そうだ。

その後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は夜の到来を待つため自宅へ戻られた。[1] そして、‘アリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）に、自らの寝床に横たわり、緑色のハドラミーの外衣を身にまとうよう命じられた。そして、彼らからいかなる害も及ばないと保証された。

夜が更けると、多神教徒たちは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を暗殺するために集まった。彼らは彼の家の戸口に立ち、彼が出てきた瞬間に襲いかかる準備をしていた。深夜、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は家を出て、彼らの間を通り抜けられたが、アッラーは彼らの視力を奪われた。彼は一握りの土を取り、彼らの頭上に振りかけながら、次の御言葉を朗誦された：
われらは彼らの前に障壁を置き、また彼らの後ろにも障壁を置き、彼らを覆ったので、彼らは見ることができない。[3]

それから彼はアブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）の家に到達し、二人は共に出発した。彼らは、信頼でき熟練した案内人である‘アブドゥッラー・イブン・ウライキトを雇った。彼はなお自らの民の宗教の上にあったが、誠実であった。二人は彼に二頭の乗用ラクダを託し、三日後にサウルの洞窟で落ち合うことを約した。[4]

彼らはマッカの南、聖モスクから約四キロメートル離れた山頂にあるサウルの洞窟へ向かい、そこに滞在した。

クライシュが預言者の脱出を知ると、激怒した。彼らは、二人を捕らえた者に百頭のラクダの報酬を約束した。騎馬隊は急いで追跡し、足跡を追う者たちも動員された。谷、平地、山々を探し回り、ついには洞窟の入口にまで到達したしかしアッラーは彼らをそれから目くらましされた。

アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）は言った：
アッラーの使徒よ、もし彼らの一人が足元を見下ろせば、私たちを見てしまうでしょ

う。
すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は有名な言葉をもって答えられた：
二人についてどう思うか。アッラーがその第三者であるときに。[5]

こうしてマッカの不信仰者たちは、屈辱と敗北の衣を引きずりながら引き返した。彼らは彼を捕らえることに失敗したのである。

[1] アル＝ビダーヤ・ワ＝アン＝ニハーヤ（4/444）
[2] アル＝ビダーヤ・ワ＝アン＝ニハーヤ（4/441）
[3] ［ヤー・スィーン章：9］
[4] アル＝ブハーリー（2263）
[5] アル＝ブハーリー（3653）、ムスリム（2381）

洞窟に滞在している間、‘アブドゥッラー・イブン・アビー・バクルはマッカで語られていることを聞き取り、二人に知らせを運んでいた。また、アスマー’・ビント・アビー・バクルは食料と飲み物を運んでいた。さらに、アブー・バクルの解放奴隷である‘アーミル・イブン・フハイラは羊を連れて通り、彼らの足跡を消していた。[1]
三夜の後、イブン・ウライキトは二頭のラクダを連れて来た。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）とアブー・バクルはそれに乗り、アブー・バクルは‘アーミル・イブン・フハイラを後ろに乗せた。イブン・ウライキトは案内人として先導した。アブー・バクルは預言者を案じてしばしば後ろを振り返ったが、預言者は一度も振り返られなかった。
彼らがムドリジュ族の地を通過したとき、その族長であるスラーカ・イブン・マーリクが二人を見つけた。彼は馬に乗って追跡し、預言者の朗誦が聞こえるほど近づいた。アブー・バクルは言った：
アッラーの使徒よ、スラーカ・イブン・マーリクが私たちに追いつきました。
すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に対して祈願され、その馬の前脚が地面に沈んだ。スラーカは叫んだ：
私に起こったことは、あなたの祈りによるものです。アッラーに祈って私を解放してください。私は人々をあなた方から遠ざけましょう。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼のために祈られ、馬は解放された。スラーカは書面での保証を求め、アブー・バクルは革片にそれを書いた。スラーカは引き返し、人々に言った：
あなた方は前方のことから守られている。[2]
旅の途中、彼らはウンム・マアバドの天幕のそばを通り、正午にそこで休息した。彼女は、その年が旱魃の年であったにもかかわらず、彼女の羊から奇跡的に乳が出るのを目にし、そこに預言のしるしを見た。この出来事は、それを聞いたすべての者を驚かせた。[3]

[1] アル＝ブハーリー（5807）
[2] アル＝ブハーリー（3906）
[3] アル＝ビダーヤ・ワ＝アン＝ニハーヤ（4/476）

土曜日：サハーバ モジュール — ウンム・ハビーバ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 彼女の御名と御誕生：

彼女はウンム・ハビーバとして知られ、本名はラムラ・ビント・アビー・スフヤーン・サフル・イブン・ハルブ・イブン・ウマイヤである。

彼女はヒジュラの三十年前に誕生した。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の妻たちの中で、彼と血統において最も近い者であり、持参金が最も多く、また最も遠方に住んでいた状態で結婚した者でもあった。

❖ 彼女の生涯と徳：

彼女は初期のムスリム女性の一人であった。夫である‘ウバイドゥッラー・イブン・ジャフシュと共に早期にイスラームを受け入れ、二人でアビシニアへ移住した。その後、夫は棄教してキリスト教に入ったが、彼女は自らの宗教に堅くとどまり続けた。すると至高なるアッラーは、彼女に最も優れた人類をもって報いられたのである。[1]

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アビシニアの王アン＝ナジャーシーに彼女への求婚を送られた。アン＝ナジャーシーは侍女をウンム・ハビーバのもとへ遣わし、預言者の求婚を伝えさせた。吉報を伝えられたとき、彼女は喜びのあまり、自分が持っていた銀の腕輪と指輪を彼女に贈った。また彼女は、夢の中で誰かが自分を信仰者の母と呼ぶのを見ており、その夢は彼女が実際に信仰者の母の一人となったときに実現した。[2]

アン＝ナジャーシー自らが、ムスリムの一団の前でその中にはジャ‘ファル・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）もいたウンム・ハビーバと預言者（アッラーの祝福と平安あれ）との婚姻を執り行った。そして彼は、預言者に代わって四百ディーナールの持参金を彼女に与えた。[2] その後、彼女はカイバル征服の後にマディーナへ来て、アッラーの使徒と共に暮らした。

彼女の父アブー・スフヤーンは、休戦の延長を求めて預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとを訪れた。彼が預言者の寝具に座ろうとしたとき、彼女はそれをたたんで彼から遠ざけた。彼は言った：
娘よ、この寝具を私よりも好むのか、それとも私をこれよりも好むのか。
彼女は答えた：
これはアッラーの使徒の寝具であり、あなたは多神教徒です。[3]

彼女はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）からいくつかのハディースを伝え、また多くの者が彼女から伝承した。その中には彼女の兄弟ム‘アーウィヤおよび‘ア

ンバサ、ならびにアナス・イブン・マーリク、ザイナブ・ビント・アビー・サラマが含まれる。

[1]スィヤル・アʻラーム・アン＝ヌバラーʼ第2巻219頁
[2]スィヤル・アʻラーム・アン＝ヌバラーʼ第1巻442頁
[3]スィヤル・アʻラーム・アン＝ヌバラーʼ第2巻223頁

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の逝去後、彼女は死ぬまで礼拝に専念した。アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った。

ウンム・ハビーバは臨終の際に私を呼び、私たちの間には共同の妻たちの間に起こるようなことがありました。アッラーが私とあなたをそれについてお赦しくださいますように、と言いました。

私は答えた。アッラーがあなたをそれについてお赦しくださり、それを見過ごしてくださいますように。

すると彼女は言った。あなたは私を喜ばせました。アッラーがあなたを喜ばせてくださいますように。

その後、彼女はウンム・サラマにも同じことを伝えた。[1]

❖ 御逝去：

彼女はヒジュラ暦 44 年、ムʿアーウィヤ（アッラーの御満悦あれ）のカリフ在位中に逝去し、マディーナに埋葬された。

[1] アル＝ハーキム（4/24）

知識テスト — 第 21 週

モジュール	問い	選択肢	正解
タフスィール	アル＝バラド・アル＝アミーンとは何を指すか。	[a] シナイ山[b] マッカ[c] エルサレム	b
ハディース	楽園の門が開かれるのはどの二日か。	[a] 木曜日と金曜日 [b] 月曜日と木曜日 [c] 土曜日と日曜日	b
アキーダ	終末の日への信仰に含まれるものはどれか。	[a] 二人の天使による質問への信仰[b] 天使の描写への信仰[c] 預言者たちの奇跡への信仰	a
フィクフ	次のうち礼拝において嫌われるものはどれか。	[a] アル＝ファーティハの朗誦を省くこと[b] サラーム前の祈願[c] イカアーの座り方	c
スィーラ	ヒジュラの際、預言者とその同伴者を追跡した者は誰か。	[a] ʻイクリマ・イブン・アビー・ジャハル[b] スラーカ・イブン・マーリク[c] アブー・スフヤーン・イブン・ハルブ	b
サハーバ	ウンム・ハビーバの本名は何か。	[a] ファーティマ・ビント・アサド[b] タマードゥル・ビント・ʻアムル[c] ラムラ・ビント・アビー・スフヤーン	c

22 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール モジュール ―アル＝‘アラク章（前半）

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ (1) خَلَقَ الْإِنْسَانَ مِنْ عَلَقٍ (2) اقْرَأْ وَرَبُّكَ الْأَكْرَمُ (3) الَّذِي عَلَّمَ بِالْقَلَمِ (4) عَلَّمَ الْإِنْسَانَ مَا لَمْ يَعْلَمْ (5) كَلَّا إِنَّ الْإِنْسَانَ لَيَطْغَى (6) أَنْ رَآهُ اسْتَغْنَى (7) إِنَّ إِلَى رَبِّكَ الرُّجْعَى (8) أَرَأَيْتَ الَّذِي يَنْهَى (9) عَبْدًا إِذَا صَلَّى (10)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。
創造されたあなたの主の御名によって読め。 彼は人間を凝血から創造された。*読め。あなたの主は最も寛大であられる。*彼は筆によって教えられた。*人間に、彼が知らなかったことを教えられた。いや、まことに人間は必ず越権する。彼が自分を足りていると見なすときに。まことに、あなたの主こそが帰還の先である。

❖ スーラのテーマ：

啓示による導きと、傲慢と無知による迷妄の間にある人間の状態。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
عَلَق	‘alaq	凝血。
كَلَّا	kallā	いや／断じてそうではない。
لَيَطْغَى	layaṭghā	傲慢と不服従によって限度を越えること。
أَنْ رَآهُ اسْتَغْنَى	an ra’āhu istaghnā	財産・子ども・権力などによって自分を足りていると見なすとき。

❖ 全体的な意味：

アル＝‘アラクはマッカ啓示のスーラであり、イクラー章とも呼ばれる。また、これはクルアーンの最初の啓示である。至高なるアッラーは、このスーラを、啓示という賜物によって高貴なる使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に授けられた恩恵の言及から始め、最後には叩頭し、アッラーに近づくよう命じることによって締めくくられる。

このスーラは、アッラーが使徒に読めと命じることから始まり、その朗誦を主の御名によって開始するよう指示する。続いて、アッラーの大いなる恩恵の一つが想起される。すなわち、アッラーは筆による書記を通して人間に教え、以前には知らなかった知識を授けられたのである。

その後、アッラーは人類の中に見られる現実深く根づいた性質を述べられる。すなわち、人間は無知と不正のゆえに、財産や子孫や権力によって自分が足りていると思い、他者を必要としないと感じるとき、越権し、悪行を行い、権利を否定し、弱者を侮り、人々を嘲笑する。そして、最終の行き先と帰還は主のもとであることを忘れてしまうのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 朗誦をアッラーの御名の ズィクル（想起）から始めることの正当性。ゆえにクルアーンの章は、アル＝タウバ章を除き、バスマラ（basmalah）で始まる。
2. 言葉、行い、飲食、そしてあらゆる事柄において、アッラーの御名を唱えることの祝福。
3. 凝血から人間を創造し、その後段階を経て形づくり、糧を与え、数え切れない恩恵で養われたという、人間へのアッラーの恩恵。
4. 筆による書記の賜物は、人類への最も大きな恩恵の一つである。知識と情報を保存し、宗教と現世の事柄を支えるからである。
5. 財産が傲慢を生み、真理から背を向けさせるときの危険性。

月曜日：ハディースモジュール — アッラーへの悔悟（tawbah）の義務

アル＝アガッル・イブン・ヤサール・アル＝ムザニー（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。人々よ。アッラーに悔悟し、かれの赦しを求めなさい。まことに私は一日に百回、アッラーに悔悟する。[1]

❖ 解説：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、すべての人々に向けて一般的な呼びかけを行い、アッラーへの悔悟と赦しを求めることを命じられた。さらに彼は、自らが一日に百回、アッラーに悔悟し赦しを求めていることをこのウンマに知らせたしかも、至高なるアッラーはすでに彼の過去と未来の罪を赦しておられたのである。

これは、彼の主への奉仕がいかに完全であるか、想起（ズィクル）との結びつきがいかに絶えないか、そしてアッラーの偉大な力をいかに深く自覚していたかを示している。また、人間はどれほど努力しても、アッラーの恩恵に対して完全に感謝し尽くすことはできないという事実も示している。

もしこれが預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の状態であるならば、我々はなおさら、悔悟によってアッラーに立ち返り、赦しを求め、主へ戻る必要がある。悔悟と赦しを頻繁に行う者は、その罪が消され、心が清められ、ガファラ（ghaflah：不注意・怠慢）の雲が取り除かれる。

❖ このハディースから得られる益：

1. アッラーへの悔悟が義務であること。命令は義務を示すからである。
2. この命令の対象は例外なくすべての人々であること。
3. 預言者の礼拝と主の前での謙遜を熟考することは、彼に倣い、正しい行いを増やす動機となること。

[1] ムスリム（2702）

火曜日：アキーダモジュール — 定め（カダル）への信仰

神的定め（al-Qadar）への信仰は、アッラーの啓典とその使徒のスンナにおける多くの文本によって確証されている。すなわち、すべての事柄はアッラーの定めによって起こり、それはその英知に従っていること、そしてアッラーはあらゆる事柄を知っておられ、それらを永遠において定められ、それらはまさにその定められたとおりに起こるのである。これを示す証拠として次がある：

・至高なるアッラーは仰せられる：
まことに、われらはすべてのものを定められた計量によって創造した。[1]

・また仰せられる：
アッラーの命令は、定められた決定である。[2]

・ジブリールのハディースにおいて（アッラーの御満悦あれ）：
…そして、定め（al-Qadar）の善も悪も信じること。[3]

❖ 定めへの信仰は四つの事柄を含む：

1. 知（ʿilm）：アッラーがすべてのものを、詳細においても総体においても、永遠に、そして常に知っておられることを信じる。
2. 記録（kitābah）：アッラーがすべての定めを守られた碑板（al-Lawḥ al-Maḥfūẓ）に記されたことを信じる。
   至高なるアッラーは仰せられる：
   あなたは知らないのか。アッラーは天と地にあるものを知っておられる。まことにそれは書録の中にある。まことにそれはアッラーにとって容易である。[4]
   またアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   アッラーは、天と地を創造される五万年前に、被造物の定めを記された。[5]
3. 意志（mashīʾah）：アッラーの 包括的な意志を信じ、起こるすべてのことがかれの意志によって起こることを信じる。至高なるアッラーは仰せられる：
   あなたの主は、望むものを創造し、選ばれる。[6]
4. 創造（khalq）：アッラーがすべての被造物を創造し、無から存在へと現出させられたことを信じる。至高なるアッラーは仰せられる：
   アッラーはすべてのものを創造された。[7]
   また仰せられる：
   かれはあらゆるものを創造し、それを精密に定められた。[8]

---

[1]［アル＝カマル章：49］[2]［アル＝アフザーブ章：38］[3]ムスリム（8）[4]［アル＝ハッジ章：70］[5]ムスリム（6690）[6]［アル＝カサス章：68］[7]［アル＝ズマル章：62］[8]［アル＝フルカーン章：2］

❖ **定め（al-Qadar）への信仰の実り：**

1. 行いにおいてアッラーに依り頼むこと。原因だけに依存しない。なぜなら、すべてはアッラーの定めによって起こるからである。
2. 望むものを得たときに自惚れてはならないこと。その達成はアッラーの容易化によるからである。
3. 心の安寧と落ち着き。すなわち、信仰者は失ったものを嘆き過ぎず、得たものに過度に喜び誇らない。至高なるアッラーは仰せられる：
   地上においても、あなたがた自身においても、いかなる災厄も、それを現出させる前に書録の中にある。まことにそれはアッラーにとって容易である。それは、あなたがたが失ったものを嘆かず、かれが与えたものに対して驕り喜ばないためである。アッラーは、思い上がり誇る者を好まれない。[1]

また預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
信仰者の事柄は驚くべきである。まことに、彼の事柄はすべて善である。これは信仰者以外にはない。彼に良いことが起これば感謝し、それは彼にとって善である。彼に害が降りかかれば忍耐し、それは彼にとって善である。[2]

[1] ［アル＝ハディース章：22–23］
[2] ムスリム（7425）

水曜日：フィクフ モジュール — 礼拝におけるよくある誤り

礼拝において、人々の間に見られる違反やよくある誤りがいくつもある。それらは注意され、避けられなければならない。その中には次のものがある：

1. 視線を空に向けることこれは礼拝中に禁じられている。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   人々は礼拝中に目を空へ上げるのをやめなければならない。さもなくば視力を奪われるであろう。[1]
2. タクビールを本来の位置より早めたり遅らせたりすることその位置は姿勢の移動中である。定められた方法は、二つの柱の間を移動している最中にタクビールを行うことである。たとえばルクーでは、ルクー‘へ下りながらタクビールを言うのであり、下りる前でも下りた後でもない。
3. 礼拝中に落ち着きなく動き回ること、過度に動くこと鼻・ひげ・衣服をいじること、必要もないのに過剰に咳払いをするなどの無用な音を立てることも含まれる。これらは無益な行為と見なされる。過度であれば礼拝を無効にする。フダイファ（アッラーの御満悦あれ）が、ルクー‘とスジュードを十分に行わない男を見て、その男に言ったことが伝えられている：
   あなたは礼拝していない。もしこのまま死ねば、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が示された道とは別の道の上で死ぬことになる。[2]
4. 太ももの一部を露出すること短いズボンなどによる。これは礼拝を無効にする。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   あなたの太ももを覆いなさい。太ももは 恥部 である。[3]
5. 病人の中に、礼拝をその時刻を過ぎて遅らせる者がいることベッド上で降りられない、汚れを除けない、タヤンムム（tayammum）のための土がない、助けてくれる者がいない、などを理由にして、彼らは理由がなくなったら後で礼拝すると言う。これは重大な誤りであり、礼拝を軽んじることである。義務は、可能な範囲で時刻内に礼拝することである。たとえタヤンムムなしで、汚れた衣服で、キブラ以外に向いていても、礼拝は有効である。至高なるアッラーは仰せられる：
   それゆえ、できる限りアッラーを畏れよ。[4]
6. イマームより先に動いてしまうことイマームに従うことは義務である。正しい従い方とは、彼のタクビールが完了するまで待ち、その後に従うことである。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
   イマームはただ従われるために任命されたのである。ゆえに彼がタクビールを言ったら、あなたがたもタクビールを言いなさい。彼が言うまでタクビールを言ってはならない。彼がルクー‘したらルクー‘しなさい。彼がルクー‘するまでルクー‘してはならない。[5]

❖ イマームに対する後続者の四つの状態：

1. 追従（mutābaʿah）：後続者が、イマームの動作の直後に自分の動作を行うこと。これは義務であり、正しい従い方である。
2. 同時（muqāranah）：後続者がイマームと同時に動くこと。これは嫌われる（makrūh）。
3. 遅延（taʾakhkhur）：後続者が遅らせ、イマームが次の柱（rukn）に入ってから動くこと。これは許されない。正しい追従を放棄することになるからである。
4. 先行（musābaqah）：後続者が、タクビール、ルクーʿ、スジュード、サラーム、その他のいずれの動作においてもイマームより先に行うこと。これは禁じられている。もし無知や失念によって行ったなら、戻ってイマームの後にそれを行わなければならない。

[1] ムスリム（429）
[2] アル＝ブハーリー（758）
[3] アッ＝ティルミズィー（2796）、アフマド（2493）
[4] ［アル＝タグハーブン章：16］
[5] アブー・ダーウード（603）
[6] アル＝ブハーリー（691）、ムスリム（427）

木曜日：スィーラ モジュール — マディーナにおける生活の実態

イスラーム以前、マディーナはヤスリブと呼ばれていた。アッラーとその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、それをアル＝マディーナと改名された。ある時期、そこには複数の集団が住んでいた。

1. 第一の集団：ムスリム
   彼らは二つの種類に分かれる。ムハージルーンとアンサールである。

・ムハージルーンとは、宗教のためにマッカから来てマディーナに定住した者たちである。その数は少なくなく、彼らは日ごとに到着し続けた。というのも、マディーナへの移住は、アッラーとその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を信じるすべての者にとって継続していたからである。当初、彼らには従事する仕事も、所有する財産もなかった。

・アンサールとは、マディーナの人々であり、アウス族とハズラジュ族に属していた。彼らは自分たちの土地・家・財産の中に留まっていた。イスラーム以前、彼らの間には長年の敵意と憎悪があったが、イスラームはそれを取り除き、アッラーの恩寵によって彼らを兄弟とした。

2. 第二の集団：まだ信仰していない多神教徒
   彼らはマディーナの元来の部族の出身であり、二つに分かれていた。

・ある者たちは祖先の宗教を捨てることをためらっていたが、ムスリムに対する敵意は持っていなかった。やがて彼らはイスラームに入り、誠実に宗教をアッラーに捧げるようになった。

・別の者たちは心の中にムスリムへの憎しみを抱きながら、表面上は友好と調和を示さざるを得なかった。これらが偽信者 であり、‘アブドゥッラー・イブン・ウバイイ・イブン・サルールに率いられていた。アウスとハズラジュは、イスラーム以前に彼を王に据えることに合意していたが、イスラームに入信した後は彼から離れた。イブン・ウバイイはバドル戦の後に表向きイスラームを表明したが、ムスリムに対して策謀する機会を一度も逃さなかった。

3. 第三の集団：ユダヤ人
   彼らは三つの部族から成っていた。バヌー・カイヌカー‘、バヌー・アン＝ナディール、バヌー・クライザである。バヌー・カイヌカー‘とバヌー・アン＝ナディールはハズラジュの同盟者であり、居住地はマディーナの内部にあった。バヌー・クライザはアウスの同盟者であり、居住地はマディーナの外縁にあった。

これらのユダヤ人は、ナツメヤシ、酒、穀物、衣類の売買など、さまざまな職業に熟達していた。また彼らは高利貸しであり、利子を貪り、アラブ人の財産を不当に奪ってい

た。さらに、陰謀・策謀・裏切りで知られ、アウスとハズラジュの間に戦争を煽っていた。イスラームが来たとき、彼らの中から‘アブドゥッラー・イブン・サラーム（アッラーの御満悦あれ）がイスラームに入ったが、多くは不信仰のままであり、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を憎しみの目で見て、盟約を破った。

土曜日：サハーバモジュール ― アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は高貴なるサハーバであり、ハーリド・イブン・ザイド・イブン・クライブ・イブン・サʿラバ・アン＝ナッジャーリー・アル＝アンサーリー・アル＝ハズラジーである。

❖ 生涯と徳：

アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー（アッラーの御満悦あれ）は、啓示の書記の一人であり、またハディースの伝承者の一人であった。彼は貧しさと困窮がありながらも、サハابةの中で最も寛大で、最も客をもてなす者の一人であり、また最も意志が固く強靭な者の一人であった。

彼は、ヒジュラの際に預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がマディーナに到着されたとき、滞在された有名な家の持ち主であった。預言者のラクダ、アル＝カスワー'が彼の家の前でひざまずいたとき、彼は預言者をそこに宿泊させた。アブー・アイユーブとその妻は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）へのもてなしと奉仕を最良の形で担った。[1]

当初、アブー・アイユーブとその家族は上階に住み、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は下階におられた。ある夜、アブー・アイユーブは目を覚まし、我々はアッラーの使徒の頭上を歩いていると言った。彼らは片側へ寄り、朝になると彼はこれを預言者に伝えた。すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、下階のほうが私には都合がよいと言われた。アブー・アイユーブは答えた。私は決して、あなたがおられる屋根の上にはいません。それで預言者は上階へ移り、アブー・アイユーブは下階へ移った。

アブー・アイユーブは預言者のために食事を用意していた。食事が運ばれてくると、彼は預言者が指を置かれた場所を尋ね、その場所から食べた。[2]

彼はʿアカバの誓約に立ち会い、バドル、ウフド、ハンダク、そしてその他すべての遠征において、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共に参加し、世界の主アッラーのために自分自身と財産を捧げた。預言者の逝去後も、ムスリムが行ったいかなる戦いも、どれほど遠く困難であっても、彼は一度たりとも欠かさなかった。

❖ 御逝去：

ムʿアーウィヤ（アッラーの御満悦あれ）のカリフ在位中、アブー・アイユーブはコンスタンティノープル攻略に参加した。彼は八十代の高齢であったが、

軽装であれ重装であれ、出征せよ。[3]
を朗誦し、私は自分が軽装であれ重装であれ、いずれにも当てはまるのを見いだすと言った。[4]
彼はそこで戦い続け、ヒジュラ暦 50 年に殉教し、その都市に埋葬された。

[1]スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー'第 2 巻 406 頁
[2] ムスリム（2053）
[3]［アッ＝タウバ章：41］
[4] イブン・サʿド（第 3 巻 485 頁）

知識テスト — 第 22 週

モジュール	問い	選択肢	正解
タフスィール	al-ʿalaq の意味は何か。	[a] 厚い凝血[b] 肉片[c] 取るに足らない一滴の液体	a
ハディース	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が一日に悔悟していた回数は：	[a] 五十回[b] 十回[c] 百回	c
アキーダ	定め（al-Qadar）への信仰に含まれるものはどれか。	[a] 知っている天使の名への信仰[b] 墓の懲罰と至福への信仰[c] 起こるすべてのことがアッラーの意志によるという信仰	c
フィクフ	礼拝中に視線を空へ上げることの規定は何か。	[a] 許される[b] 禁じられている[c] 嫌われる	b
スィーラ	イスラーム以前、預言者の都市（マディーナ）は何と呼ばれていたか。	[a] Ṭābah[b] Bakkah[c] Yathrib	c
サハーバ	アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー（アッラーの御満悦あれ）が有名なのは：	[a] クバー’で預言者のムアッジンであったこと[b] 自宅で預言者を宿泊させたこと[c] イスラーム以前にハズラジュの指導者だったこと	b

23 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール モジュール ―アル＝ʿアラク章（後半）

أَرَأَيْتَ إِنْ كَانَ عَلَى الْهُدَى (11) أَوْ أَمَرَ بِالتَّقْوَى (12) أَرَأَيْتَ إِنْ كَذَّبَ وَتَوَلَّى (13) أَلَمْ يَعْلَمْ بِأَنَّ اللَّهَ يَرَى (14) كَلَّا لَئِنْ لَمْ يَنْتَهِ لَنَسْفَعًا بِالنَّاصِيَةِ (15) نَاصِيَةٍ كَاذِبَةٍ خَاطِئَةٍ (16) فَلْيَدْعُ نَادِيَهُ (17) سَنَدْعُ الزَّبَانِيَةَ (18) كَلَّا لَا تُطِعْهُ وَاسْجُدْ وَاقْتَرِبْ (19)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。
礼拝するしもべを禁じる者を見たか。* 彼が導きの上にあるなら、あるいは敬虔を命じているならどう思うか。* 彼が否定し背き去るならどう思うか。* 彼はアッラーが見ておられることを知らないのか。* いや。もし彼がやめないなら、われらは必ず額の髪をつかんで引きずる。* 偽りを語り罪深い額の髪を。* それなら彼に自分の集会を呼ばせよ。* われらは地獄の番人を呼ぶ。* いや。彼に従うな。叩頭し、近づけ。

❖ スーラのテーマ：

啓示によって導かれるか、あるいは傲慢と無知によって迷うかという、人間の状態。

❖ 啓示の理由：

アブー・ジャフルは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がマスジド・アル＝ハラームで礼拝しておられるとき、礼拝を妨げようとして近づいた。彼は言った。彼が礼拝しているのを見たら、私は彼の首を踏みつけてやる。だが彼は恐れて引き返した。人々がどうしたのかと尋ねると、彼は言った。私と彼の間に火の溝がある。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。もし彼が私に近づいていたなら、天使たちが彼を手足ごとに引き裂いていただろう。[1]

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
أَرَأَيْتَ الَّذِي يَنْهَى عَبْدًا إِذَا صَلَّى	Ara’ayta alladhī yanhā ʿAbdan idhā ṣallā	アブー・ジャフル（ʿアムル・イブン・ヒシャーム）を指す。彼は預言者に対する最も激しい敵の一人であった。
لَئِن لَّمْ يَنتَهِ	La’in lam yantahi	もし彼が、アッラーの使徒への加害と礼拝妨害をやめないなら。
لَنَسْفَعًا بِالنَّاصِيَةِ	Lanasfaʿan bil-nāṣiyah	額の髪をつかんで捕らえ、地獄の火へ引きずり込む。
فَلْيَدْعُ نَادِيَهُ	Falyadʿu nādiyah	それなら彼に、自分の集会（仲間・一味）を呼ばせよ。
سَنَدْعُ الزَّبَانِيَةَ	Sanadʿu al-zabāniyah	地獄の番人たち。

❖ 全体的な意味：

これらの節は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に害を与え、反抗し、礼拝を妨げ

ようとした者に対する厳しい警告を含んでいる。その卑劣な振る舞いは、理性ある者にこう問わせる。導きの上にいて敬虔を命じている者が、反対され、傷つけられ、殴られ、脅されるべきなのか。

[1] アル＝ブハーリー（4958）、ムスリム（2797）

続いて、もし彼がアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）への加害と、礼拝中の妨害をやめないなら、額の髪をつかまれ、公然と地獄へ引きずられることが警告される。スーラの結びは、アッラーの使徒に対し、彼に注意を払わず、主への服従を続け、礼拝を続け、アッラーに近づくよう導く。

❖ このスーラから得られる益：

1. このスーラのように叩頭の節がある箇所を朗誦した際、朗誦の叩頭（sujūd al-tilāwah）を行うことが立法されていること。叩頭し、近づけ。
2. 傲慢と無知は、信仰と敬虔によって整えられない限り、人間の本性に深く根づいていること。

月曜日：ハディースモジュール — クルアーン朗誦を多く行うことの徳

‘アブドゥッラー・イブン・マス‘ウード（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
アッラーの啓典から一文字を朗誦する者には、そのための一つの善行がある。そして一つの善行は十倍に増やされる。私はアリフ・ラーム・ミームが一文字だとは言わない。むしろ、アリフは一文字、ラームは一文字、ミームは一文字である。[1]

❖ 解説：

高貴なるクルアーンの朗誦は、ムスリムが熱心に開くべき偉大な報奨の門の一つであり、怠ることなく毎日の持ち分をそれに割り当てるべきである。このハディースにおいて、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アッラーの啓典を朗誦する者には、一文字ごとに十の善行が与えられることを明らかにされた。私はアリフ・ラーム・ミームが一文字だとは言わないとの言葉は、これら三つの文字の全体が一文字として数えられるのではなく、それぞれが別々に数えられることを意味する。したがって朗誦者は三十の善行を得る。これは大いなる恩恵であり、 偉大な報奨である。

❖ このハディースから得られる益：

1. 高貴なるクルアーン朗誦の徳を明確にし、それを勧めていること。
2. クルアーンの各文字には十の善行の報奨があること。
3. 礼拝行為の報奨を、恩寵と 恩恵として増やされるアッラーの広く深い慈悲と寛大さ。
4. クルアーンを放棄することへの警告。

❖ クルアーン放棄の種類　イブン・アル＝カイイム（アッラーが彼に慈悲されますように）が挙げたもの：

1. それを信じることを放棄すること。
2. その朗誦と聴聞を放棄すること。
3. 熟慮、思索、そして意図された意味の理解を放棄すること。
4. それに従って行うことを放棄し、その合法と禁忌の境界で立ち止まらないこと。
5. その 規定を放棄し、宗教の根幹と枝葉においてそれへ立ち返らないこと。
6. 心と身体の病の治癒と癒しを、それによって求めることを放棄すること。

これらすべては、至高なるアッラーの御言葉の中に含まれる：
使徒は言った。主よ。まことにわたしの民は、このクルアーンを放棄されたものとして扱いました。[23]

[1] アッ＝ティルミズィー（2912）[2]［アル＝フルカーン章：30］
[3] イブン・アル＝カイイムアル＝ファワー’イド 82 頁

火曜日：アキーダ モジュール — 定め（al-Qadar）に関する諸問題

第一の問題：定め（al-Qadar）への信仰は、しもべの意志と選択を肯定することと矛盾しない。これはシャルʿīの証拠と現実の証拠の両方による。
・シャルʿīの証拠としては、至高なるアッラーがしもべに意志を認めておられること。かれは仰せられる：それゆえ、望む者はその主への道を取るがよい。[1]
・現実の証拠としては、すべての人が、自分の意志によって起こること歩く、食べる、売る、買う等と、自分の意志なしに起こること震え、転倒等を区別している点である。前者は自分の選択に帰し、後者はそうしない。 第二の問題：しもべの意志は、至高なるアッラーの意志と能力に従属し、それから切り離せない。宇宙全体はアッラーに属し、かれの主権の中で、かれの意志なしに起こるものは何もない。アッラーは仰せられる：
あなたがたのうち、正しくあろうと望む者のために。* だが、あなたがたは望まない。世界の主アッラーが望まれない限り。[2]

第三の問題：責任を負う者が、罪や違反を行う口実として定め（al-Qadar）を持ち出すことは許されない。その理由は次のとおりである：

1. これは多神教徒が用いたのと同じ議論である。至高なるアッラーは仰せられる：多神崇拝する者たちは言うであろう。もしアッラーが望まれたなら、我々も父祖も配神しなかったし、何ものも禁じはしなかった。彼ら以前の者たちも同様に否定し、ついにわが懲罰を味わった。[3]
2. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は行動を命じ、定めに依存することを明確に禁じられた。彼は言われた：
あなたがたの中で、楽園か火獄かの座が書き記されていない者は一人もいない。すると人々の中の一人が言った。アッラーの使徒よ。それなら私たちはそれにしてよいのですか。彼は言われた。いや。行え。誰しも、自分が創られたもののために容易にされるのだから。[4]
3. 人々は現世の事柄においては、得るまで懸命に努力する。そして定めを口実に努力を放棄する姿は見られないそれなのに、なぜ宗教の事柄では定めを口実にして怠るのか。
4. 誰かが自分の財産を奪ったり名誉を侵したりしても、これは定めだと言われたなら、その人はその弁明を受け入れない。自分の権利について他人から受け入れないものを、アッラーの権利を侵すことについて自分が口実にできるはずがない。

❖ 定め（al-Qadar）における誤った二つの派：

1. ジャバリーヤ：しもべは行為において強制されており、そこに意志も能力もないと主張する。

[1] ［アン＝ナバ’章：39］
[2] ［アッ＝タクウィール章：28–29］
[3] ［アル＝アン‘アーム章：148］
[4] アル＝ブハーリー（4663）、ムスリム（6675）

1. カダリーヤ：彼らは、しもべは意志と選択において独立しており、その行為にアッラーの意志は関与しないと主張する。

これら二つの派はいずれも、アッラーの定めと運命に関して、クルアーン、スンナ、そして正しき先人（al-salaf al-ṣāliḥ）の理解の道から逸脱し、迷い去った。

水曜日：フィクフ モジュール — 忘却の叩頭（Sujūd al-Sahw）

人は不注意と忘却に陥りやすく、またシャイターンは礼拝中に彼を惑わせ、その心を礼拝から逸らすことに熱心である。それゆえ、アッラーは礼拝者のためにもし忘れたなら礼拝の終わりに叩頭（sujūd）を行うことを立法された。これは、シャイターンを辱め、欠落を補い、至慈なる御方を喜ばせるためである。

❖ 忘却の叩頭 の原因：

忘却の叩頭が義務となる理由は三つである：過剰、不足、疑い。

• 過剰について：
これは、礼拝者が忘れて動作を付け加えてしまう場合である。たとえば、起立、ルクー、スジュードなどを余分に行う、あるいは四 ラカアの礼拝で五 ラカアを行ってしまう場合である。もし礼拝中にその追加に気づいたなら、直ちにそれをやめて戻らなければならない。そしてサラームの後に、追加のための 忘却の叩頭 を行う。

• 不足について：
欠落は二種類である柱の欠落と、義務の不足。

• 礼拝の柱を欠落した場合：
もし礼拝者が礼拝の柱を落としてしまったなら、同じ ラカアの中にまだいるならその柱へ戻り、その柱と、その後に続くものを行う。もし次の ラカアで思い出したなら、その柱を落とした ラカア は無効となり、次の ラカア がそれの代わりとなる。この場合、サラームの前に忘却の叩頭を行う。

• 義務が不足した場合：
たとえば最初のタシャッフゥド（tashahhud）を忘れる、ルクー‘やスジュードにおけるタスビーフ（tasbīḥ）を忘れる、Rabbi ighfir lī を言い忘れる、移行のタクビール（takbīrāt al-intiqāl）を忘れる等である。この場合、その義務は免除され、サラームの前に忘却の叩頭を行う。

疑いについて：
これは、行った ラカア の数に疑いが生じる場合、あるいは義務行為（wājib）や柱（rukn）を行ったかどうかに疑いが生じる場合などである。
この疑いには二つの場合がある：

第一の場合：
二つの可能性が同程度で、どちらにも優越がないときは、確実なもの（yaqīn）に基づいて進める。すなわち、少ない方の数を採用する。まるでそれを行っていないかのように扱い、その後、サラームの前に 忘却の叩頭を行う。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：

あなた方のうち誰かが礼拝において不確かになり、三 ラカア なのか四 ラカア なのか分からなくなったなら、疑いを捨て、確実なものに基づいて建てよ。その後、サラームを与える前に二回叩頭せよ。[1]

第二の場合：
二つの可能性のうち、一方がより正しいと強く思えるときは、より確からしい方に従って行い、サラームの後に忘却の叩頭を二回行う。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
正しいと思う方を目指し、それに従って完成させよ。それからサラームを与え、その後サラームを与えた後に二回叩頭せよ。[2]

[1] ムスリム（571）
[2] ムスリム（572）

❖ スジュード・アッ＝サフウの場所：

以上のことから、スンナに適い、より完全なやり方は次のとおりである：
• 不足の場合：サラームの前に忘却の叩頭を行う。
• 過剰の場合：サラームの後にそれを行う。
• より強い判断がない疑いの場合：サラームの前にそれを行う。
• より強い判断がある疑いの場合：サラームの後にそれを行う。
これが最も完全な方法である。だが、義務は、サラームの前であれ後であれ、忘却の叩頭を行うことで果たされる。

木曜日：スィーラモジュール — 彼の マディーナへの到着

マディーナ の人々はすでに、アッラーの使徒（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）が マッカ を出発し、自分たちのもとへ来ようとしていることを聞いていた。彼らは毎日、彼を待つために アル＝ハッラ へ出て行った。月曜日、ラビーウ・アル＝アウワル の十二日、彼らはいつものように出かけたが、日が長くなり太陽が高く昇ると、家々へ戻った。そのとき、アッラーの使徒（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）が到着した。最初に彼を見たのは一人のユダヤ人であり、彼は大声で叫び、到着の吉報を彼らに告げた。アンサール は喜びにあふれ、歓喜して駆け出した。アッラーの使徒（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）は最初、クバー において クルスーム・イブン・アル＝ヒドム の家に滞在した。アンサール は彼に挨拶しに来たが、その多くは彼を以前に見たことがなく、白髪が多いことから アブー・バクル を彼だと取り違えた。暑さが強まると、アブー・バクル は布でアッラーの使徒（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）に日陰を作った。そこで初めて人々は、彼が誰であるかを知った。アッラーの使徒（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）は数日間 クバー に滞在し、そこにそのモスクを建立した。その後、彼は マディーナ に入った。彼の雌ラクダは歩み続け、アンサール の家々の前を通り過ぎた。各々が彼に自分の家へ滞在してほしいと願ったが、やがてそれは彼のモスクの場所に到達して跪いた。そこは バヌー・アン＝ナッジャール の二人の孤児に属する土地であり、アブー・アイユーブ・アル＝アンサリー（アッラーの御満悦あれ）の家の前であった。彼はそこで降り、アブー・アイユーブ は急いでアッラーの使徒（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）の荷物を自分の家へ運び込み、他の者たちに先んじて彼をもてなした。アッラーの使徒（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）はその土地を買い取り、それはモスクとして建てられた。その隣に、彼は家族のための部屋を建てた。預言者のモスクの建設は、アッラーの使徒（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）が マディーナ で取り組んだ最初の段階であった。彼はそれを礼拝と崇拝の場とし、ムスリムが宗教を学ぶ中心とし、協議のための評議の場とし、結束のための集いの場とし、貧しい ムハージルーン の一部のための宿りとした。第二の段階は、ムハージルーン と アンサール の間に兄弟関係を確立することであったそこでは、イスラーム以前の時代の部族主義が消え、血統と肌の色の区別が消え去り、彼らの心は愛と利他心で満たされた。アンサール は預言者（彼の上にアッラーの サラー と豊かな サラーム がありますように）に言った。ナツメヤシの木を、私たちと私たちの兄弟たちの間で分配してください。彼は答えた。いや、あなたがたは労働の面倒を見なさい。私たちは実りを分け合おう。彼らは言った。私たちは聞き、そして従います。第三の段階は、ユダヤ人との条約および和平協定であり、彼はそれを、ムスリムの権利を保証し、同時にユダヤ人の権利も確保する、複数の条項を含む書面の盟約として記録した。

---

[1] アル＝ブハーリー（3906）によって伝承された。
[2] スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー’第 2 巻 406 頁。
[3] アル＝ブハーリー（2325）によって伝承された。

土曜日：サハーバ モジュール — アブ・ダール・アル・ギファーリーア

ブ・ダール・アル・ギファーリー（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼はアブー・ザッル・ジュンドゥブ・イブン・ジュナーダ・イブン・カイス・イブン・アムル・アル＝ギファーリー である。彼は ワッダーン の谷において誕生した。そこは ギファール 族が居住していた場所である。

❖ 生涯と徳：

アブ・ダール・アル＝ギファーリー（アッラーの御満悦あれ）は長身で、ひげが濃かった。彼はイスラームを受け入れた最初期の一人であり、年長で徳高い教友たちの中に数えられ、知識があり、勇敢で、寛大で、真理を率直に語り、アッラーのためにいかなる非難も恐れなかった

彼の顕著な態度の一つは、彼がイスラームを受け入れたその日のことである。彼は言った。我が魂がその御手の中にある御方にかけて、私はそれを彼らの中で公然と宣言する。
彼は出て行き、モスクに到達すると、声の限りに叫んだ。
私は証言する。礼拝に値する神はアッラーのほかになく、また ムハンマド はアッラーの使徒である、と。

すると人々は立ち上がり、彼を殴り、彼を倒れるまで打ちのめした。そのとき アル＝アッバース が来て彼をかばい、こう言った。
お前たちに災いあれ！ 彼が ギファール の者であり、お前たちの シャーム への交易路が彼らを通ることを知らないのか？！
こうして彼は彼を彼らから救った。その後アブー・ザッルは戻り、再び同じことを行った。彼らは彼を殴ったが、アル＝アッバースが再び彼をかばい、彼を彼らの手から救い出した。[1] イスラームを受け入れてから、アブー・ザッルは自分の民のもとへ戻り、彼らの間に留まってイスラームへ 呼びかけ続け、彼らの半数がそれを受け入れるまでそうした。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が マディーナ に到着したとき、残る半数がイスラームを受け入れた。[2] そのときアブー・ザッルは ギファール を離れ、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ移住し、彼の近くに留まり、彼と共に戦った。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を称賛し、こう言われた。
この白い大地は運ばず、また空は覆わなかったアブー・ザッル よりも言葉において真実な男を。[3]

アブー・バクル、ウマル、ウスマーン（アッラーが彼らに満足されますように）の時代、彼は法的見解を示す役割を担った。彼は禁欲と貧者への愛において際立った模範であった。彼が バイト・アル＝マール（公庫） から給与を受け取ると、召使いを呼び、年に足りる分を買うよう命じ、それ以外は貨幣に換えて貧しい者たちに分配した。[4]

❖ 彼の死：

アブー・ザッル（アッラーの御満悦あれ）は、西暦ではなくヒジュラ暦 31 年 に ラバザ において亡くなった。アブドゥッラー・イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）が彼のために葬送礼拝を行った。

---

[1] アル＝ブハーリー（3861）およびムスリム（2474）によって伝承された。
[2] スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー2/53。
[3] アッ＝ティルミズィー（3801）によって伝承された。
[4] スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー2/72。

知識テスト — 第 23 週

モジュール	問い	選択肢	正解
タフスィール	アッラーの御言葉 礼拝するしもべを妨げる者を見たかの意図される者は誰か。	[a] アブー・ラハブ [b]ウクバ・ブン・ムウタ [c]アブー・ジャフル	**c**
ハディース	クルアーンを放置する諸類型の一つは：	[a] ムスハフの装飾を放置すること[b] 壁に諸節を掛けることを放置すること[c] それによって治癒を求めることを放置すること	**c**
アキーダ	al-Qadr に関連する事柄の一つとして、しもべの意志は：	[a] アッラーの意志に依存する[b] アッラーの意志から独立している[c] 誰もそれに対する権限を持たない	**a**
フィクフ	忘れて四 ラカア の礼拝で五 ラカアを行った場合：	[a] サラーム の前に忘却の叩頭 を行う [b] サラーム の後に忘却の叩頭を行う [c] 叩頭は不要である	**b**
スィーラ	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が マディーナ に入られるのを最初に見たのは誰の民の者か。	[a] ユダヤ人[b]アウス族[c] ハズラジ族	**a**
サハーバ	アブーバクル＝アルスィッディーク のカリフ時代、アブー・ザッル が担当していたのは：	[a]サダカート（施しの徴収）[b] ファトワ（法的見解）[c] バイトルマール（公的財庫）	**b**

24 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ― アル＝ドゥハー章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالضُّحَى (1) وَاللَّيْلِ إِذَا سَجَى (2) مَا وَدَّعَكَ رَبُّكَ وَمَا قَلَى (3) وَلَلْآخِرَةُ خَيْرٌ لَكَ مِنَ الْأُولَى (4) وَلَسَوْفَ يُعْطِيكَ رَبُّكَ فَتَرْضَى (5) أَلَمْ يَجِدْكَ يَتِيمًا فَآوَى (6) وَوَجَدَكَ ضَالًّا فَهَدَى (7) وَوَجَدَكَ عَائِلًا فَأَغْنَى (8) فَأَمَّا الْيَتِيمَ فَلَا تَقْهَرْ (9) وَأَمَّا السَّائِلَ فَلَا تَنْهَرْ (10) وَأَمَّا بِنِعْمَةِ رَبِّكَ فَحَدِّثْ (11)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。
午前の光にかけて、* 静まり返る夜にかけて、* あなたの主はあなたを見捨てられず、憎まれもしなかった。* そして来世は、あなたにとって最初（現世）よりも良い。* あなたの主は必ずあなたに与え、あなたは満足する。* かれはあなたを孤児として見いだし、保護を与えられなかったか。* また、あなたが知らなかった（シャリーアの詳細を）状態で見いだし、導かれなかったか。* また、あなたが乏しい状態で見いだし、満ち足らせなかったか。* それゆえ、孤児については虐げてはならない。* 求める者については追い払ってはならない。* そして、あなたの主の恩恵についてはそれを語り告げよ。

❖ 啓示の理由：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は病にかかり、二、三夜にわたり夜の礼拝に立たなかった。すると一人の女が言った。ムハンマドよ、私はあなたの悪魔があなたを離れたと思う。彼は二、三夜あなたに近づいていない。それゆえ、アッラーはこのスーラを啓示された。[1]

❖ スーラのテーマ：

使命の初めと終わりにおける、アッラーによるその預言者（アッラーの祝福と平安あれ）への配慮。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
سَجَى	sajā	夜が暗闇で宇宙を覆い、静まり返った状態
ما وَدَّعَكَ	mā waddaʿaka	（主は）あなたを見捨てなかった
وَمَا قَلَى	wa mā qalā	（啓示が遅れても）あなたを憎まなかった
فَآوَى	fa-āwā	あなたを保護し、かくまい、世話をした
ضَالًّا	ḍāllan	啓示を知らず、クルアーンを知らなかった状態
عَائِلًا	ʿā’ilan	貧しく、乏しい状態
فَلَا تَقْهَرْ	falā taqhar	彼を抑圧するな、粗末に扱うな
تَنْهَرْ	tanhar	叱りつけるな、厳しく追い払うな

[1] アル＝ブハーリー（4983）およびムスリム（1797）によって伝承された。

❖ 全体的な意味：

アル＝ドゥハーはマッカ啓示のスーラである。本章は二つの誓いで始まり、活動と休息の時を指し示しつつ、アッラーがその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を見捨てられず、また好まれなくなったのでもないことを確証する。アッラーが来世において彼のために用意された名誉の位階は、この現世で彼に与えられたものよりも優れている。アッラーは彼に、彼が満足するほどの甚大な恩恵を授けられる。過去の恩恵が未来の恩恵のしるしであるがゆえに、アッラーは、彼を孤児として見いだして保護を与え、彼が知らなかった（シャリーア の詳細を）状態で見いだして導き、彼が乏しい状態で見いだして富ませたことを想起させられた。ついでアッラーは、これらの恩恵に報いるため、孤児を尊び、求める者を責め立てず、アッラーの恩恵を語ることを命じられた。

❖ このスーラから得られる益：

1. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、主のもとにおいて、他の誰も及ばない位を有する。
2. 孤児を尊び世話をすることの徳。
3. 弱き者に慈悲と温和さを示すことの義務。
4. 恩恵に感謝することは、しもべたちに対するアッラーの権利の一つである。
5. 浪費や傲慢を伴わずに恩恵を示し語ることは感謝と見なされる。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。まことにアッラーは、しもべの上にその恩恵の أثر が現れるのを好まれる。[1]

[1] アッ＝ティルミズィー（2819）によって伝承された。

❖ 月曜日：ハディースモジュール — ドゥアー（祈願）が受け入れられる理由の一部

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
三つの祈願は疑いなく受け入れられる。虐げられた者の祈願、旅人の祈願、そして親が自分の子に対して行う祈願である。[1]

❖ 解説：

この ハディースにおいて、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アッラーが決して退けられない祈願のいくつかの種類を明らかにしている。むしろそれらは、確実に受け入れられる。そこに含まれるのは、虐げられた者の祈願であるたとえその者が不信仰者であってもというのも、アッラーは、彼を不当に扱った者に対する彼の訴えを受け入れられるからである。さらに、旅の最中に至高なるアッラーに呼びかける旅人の祈願、そして親父であれ母であれの祈願である。すなわち、子のために祈願する場合であれ、子に対して祈願する場合であれ、である。

❖ この ハディース から得られる益：

1. 旅の間に祈願を増やすことへの勧め。旅は、祈願がより受け入れられやすい時である。
2. 不当な行いへの警告。虐げられた者の祈願は、たとえ不信仰者であっても受け入れられる。
3. 親不孝への警告。自分に対する親の祈願を避ける必要がある。なぜならそれは退けられないからである。

[1] Abū Dāwūd（1536）および al-Tirmidhī（3448）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 見えないものへの信仰

不可知の事柄はすべて、至高なるアッラーだけが知っておられる。過去・現在・未来のいずれに関するものであっても同様である。どれほど地位が高く、偉大で、強い被造物であっても、またどのような手段や技術を持っていようとも、不可知を知ることはできない。不可知の知識は、威厳にして崇高なる主だけに属する専有の属性である。至高なるアッラーは仰せられる：不可知と可視を知る御方、偉力ならびなき全能者、英知の御方である。[1]

われらの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）は被造物の最良であり、アッラーのもとで高い位と称賛される立場を授けられているにもかかわらず不可知を知ることはなく、またそれを主張もしない。至高なるアッラーは仰せられる：言え。わたしはあなたがたに、アッラーの宝庫を持つとも言わず、不可知を知るとも言わず、天使であるとも言わない。ただわたしは、わたしに啓示されるものに従うだけである。[2]

‘アイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った：

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が明日何が起こるかを告げると主張する者は、確かにアッラーに対して大きな虚偽を捏造したのである。至高なるアッラーは仰せられる：言え。天と地の中で、アッラーのほかに不可知を知る者はいない。[3]

しかしアッラーは、かれが知っておられる英知のために、不可知のある事柄を、かれが喜ばれる使徒たちの一部に知らせることがある。至高なるアッラーは仰せられる：（かれは）不可知を知る御方であり、その不可知を誰にも明かされない。ただし、かれが喜ばれる使徒には別である。そのとき、かれはその前後に護衛を置かれる。[5]

クルアーンとスンナにおいて私たちに届いた不可知の事柄は、必ず信じなければならない。不可知への信仰は、信仰教義の柱であり、宗教の基礎である。これなしに信仰は成立しない。ゆえに、それを肯定する者は、信仰と敬虔の人と呼ばれるに値する。至高なるアッラーは仰せられる：これは疑いなき啓典であり、敬虔な者たちへの導きである不可知を信じる者たち。[6]

❖ 不可知への信仰がもたらす大きな影響の中には次のものがある：

1. アッラーがあなたを見守っておられること、そして天使たちが近くにいることを常に意識することそれによって、かれへの恐れ、畏敬、そして宗教の上での堅固さが増す。
2. 来世と、その中に含まれる集結、清算、橋、天秤の困難に対して、目を覚まし備えること。
3. 被造物の知識の弱さと、創造主の知識の完全さを理解すること。至高なるアッラーは仰せられる：あなたがたに与えられた知識は、わずかに過ぎない。[7]
4. 手段を尽くしつつ、至高なるアッラーに頼り切ること。

[1]［アッ＝タグハーブン章：18］
[2]［アル＝アン'アーム章：50］
[3]［アン＝ナムル章：65］
[4] ムスリム（177）によって伝承された。
[5]［アル＝ジン章：26–27］
[6]［アル＝バカラ章：2–3］
[7]［アル＝イスラー'章：85］

水曜日：フィクフモジュール — 朗誦の叩頭と感謝の叩頭

❖ 朗誦の叩頭（Sujūd al-Tilāwah）：

朗誦の叩頭とは、特定の叩頭の節を朗誦したり、それを聴いたりしたときに、アッラーに近づくための行為として立法された叩頭である。これは、主への奉仕、主の偉大さの前でのへりくだり、そして主への服従を示すものである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
アーダムの子が叩頭の節を朗誦し叩頭すると、シャイターンは泣きながら退き、こう言う。ああ、災いだ。アーダムの子は叩頭を命じられ、叩頭した。彼には楽園がある。私は叩頭を命じられたが拒んだ。ゆえに私には火獄がある。[1] ʿアブドゥッラー・イブン・ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）は言った：預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、叩頭の節を含むスーラを朗誦されると叩頭され、私たちも共に叩頭した。すると、私たちのうちの一人は額を置く場所が見つからないほどであった。[2]

❖ 叩頭の節：
クルアーンにおける叩頭の節は二種類である：

1. ムスリムに叩頭を明確に命じ、主への服従に急がせる節。
2. 偉大な被造物の叩頭を言及し、信仰者がそれに倣って叩頭するよう促す節。

❖ 朗誦の叩頭の規定：

朗誦の叩頭は、朗誦者にも聴く者にも推奨（mustaḥabb）される。礼拝の中でも外でも同様である。朗誦者が叩頭しないなら、聴く者も叩頭しない。なぜならこの点で、聴く者は朗誦者に従うからである。なお、意図して聴いているのではなく、ただ耳に入っただけの者には、朗誦の叩頭は定められていない。これは、ʿウスマーン（アッラーの御満悦あれ）から伝えられることに基づく。彼は、ある朗誦者が叩頭の節を朗誦した場に通りかかったが叩頭せず、こう言った：
叩頭は、注意して聴く者のためだけである。[3]

❖ 朗誦の叩頭で唱える言葉：

・Subḥāna Rabbī al-Aʿlā（わが主、至高なる御方に讃美あれ）— 礼拝の叩頭と同様。
・Subḥānaka Allāhumma Rabbana wa bi-ḥamdik, Allāhumma ighfir lī（アッラーよ、あなたに讃美あれ。われらの主よ、あなたを讃えます。アッラーよ、私をお赦しください）[4]

---

[1] ムスリム（81）によって伝承された。[2] アル＝ブハーリー（1076）およびムスリム（575）によって伝承された。[3] ʿアブドゥッラッザーク（3/334）によって伝承された。[4] アル＝ブハーリー（794）およびムスリム（484）によって伝承された。

・Sajada wajhī lilladhī khalaqahu wa shaqqa samʿahu wa baṣarahu bi-ḥawlihi wa quwwatihi（わたしの顔は、それを創造された御方に叩頭した。かれはその御力と御能力によって、聴覚と視覚を開かれた。）[5]
・Allāhumma uktub lī bimā ʿindaka ajran, wa ḍaʿ ʿannī bimā ʿindaka wizran, wajʿalhā lī ʿindaka dhukhran, wa taqabbalhā minnī kamā taqabbaltahā min ʿabdika Dāwūd（アッラーよ、あなたのもとにある報奨をわたしのために記し、あなたのもとにある罪科をわたしから取り除き、あなたのもとでそれをわたしの宝とし、あなたのしもべダ―ウードから受け入れられたように、わたしからも受け入れてください。）[6]

❖ 朗誦の叩頭に関するいくつかの規定：

・朗誦の叩頭は、浄化の状態で行い、キブラの方向を向くことが推奨される。
・礼拝中は、下りるときと起き上がるときにタクビール（Allāhu akbar）を唱える。礼拝外では、下りるときだけタクビールを唱える。

❖ 感謝の叩頭（Sujūd al-Shukr）：

感謝の叩頭は、次の二つのいずれかが起こったときに行うことが推奨される：

1. 恩恵が新たに与えられたとき例えば、ある人の導き、イスラームへの入信、ムスリムの勝利、子の誕生などの吉報を受けた場合等。
2. 災厄が退けられたとき例えば、溺死、焼死、殺害、破滅、強盗などから救われた場合。

アブー・バクラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、喜ばしいことが起こったとき、またその吉報を受けたとき、祝福にして至高なるアッラーへの感謝として叩頭された。[7]

この叩頭の規定と行い方は、朗誦の叩頭と同じである。

---

[1] アブー・ダーウード（1414）およびアッ＝ティルミズィー（580）によって伝承された。
[2] アッ＝ティルミズィー（3424）によって伝承された。
[3] アブー・ダーウード（2774）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — バドルの戦い

❖ 日付：

バドルの戦いは、ヒジュラ後 2 年目のラマダーン月 17 日に起こった。これは、アッラーが真理と虚偽を判別し、イスラームとその民を高め、不信仰とその民を辱められた偉大な戦いであった。

❖ 理由：

この戦いのきっかけは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が、アブー・スフヤーンの率いるクライシュの隊商がシャームから帰還しているという知らせを受けたことである。彼には三十人が同行していた。その隊商は多大な財を積んだ大きな隊商であった。そこでアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、人々にそれを迎え撃つために出発するよう促し、アッラーがそれを彼らに授けてくださることを望まれた。彼はこのための大がかりな準備をせず、また誰にも出陣を強制しなかった。なぜなら、隊商ではなくマッカの軍勢と遭遇するとは考えていなかったからである。

❖ 経過：

彼は三百十数名と共に出発した。彼らが持っていた馬は二頭だけであり、ズバイル・イブン・アル＝‘アウワームの馬と、アル＝ミクダード・イブン・‘アムルの馬であった。ラクダは七十頭で、各ラクダに二人または三人が交代で乗った。彼は、‘アブドゥッラー・イブン・ウンム・マクトゥームをマディーナの代理に任命し、礼拝の導師も任せた。

一方、アブー・スフヤーンは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が出発し、自分に向かっていることを知ると、ある男を雇ってマッカへ遣わし、隊商を守るための部隊を派遣するようクライシュに呼びかけさせた。多神教徒たちは急いで動員し、彼らの首領で残る者は一人もいなかった。彼らは千人の戦士、百頭の馬、六百の鎧、そして数が分からないほど多くのラクダを備えた軍を整えた。

その時、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は戦いの前に教友たちへ諮問された。彼らは最善の返答を示し、その中にはサ‘ド・イブン・ム‘アーズが次のように言ったことが含まれる：
アッラーにかけて、アッラーの使徒よ。もしあなたが我らを海へ進ませるなら、我らはあなたと共にそこへ飛び込むでしょう。だから、アッラーの使徒よ、アッラーの祝福によって我らを率いて進んでください。[1]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らの言葉と堅固さを喜ばれ、こう言われた：
進め。そして吉報を受け取れ。アッラーは私に二つの集団のうち一方を約束された。アッラーにかけて、私は彼らが倒れる場所が見えているかのようだ。

そして彼は指さし始めた：
ここが誰それの倒れる場所であり、ここが誰それの倒れる場所である。明日、アッラーが望まれるなら。

‘アブドゥッラー・イブン・マス‘ウードは言った：
真理と共に彼を遣わされた御方にかけて、彼らのうち誰一人として、アッラーの使徒が示した場所の外で倒れた者はいなかった。[2]

[1] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（3/262）。
[2] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（3/262）。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は軍の編成を続け、ムス‘アブ・イブン・‘ウマイルを旗手に任命した。ムハージルーンの部隊には旗を‘アリー・イブン・アビー・ターリブに与え、アンサールの部隊には旗をサ‘ド・イブン・ム‘アーズに与えた。右翼の指揮をズバイル・イブン・アル＝‘アウワームに、左翼の指揮をアル＝ミクダード・イブン・‘アムルに任せ、総指揮は自ら保持された。

ムスリムたちは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のために小高い丘の上に簡易の宿営所を設け、彼を護衛する者たちを選んだ。そして戦いの前夜、彼らは静けさと安らぎのうちに夜を過ごし、うとうとする眠りに覆われた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はその夜を礼拝と祈願によって過ごされた。戦いが始まり、戦闘が激化すると、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は熱心に祈願し続け、外套が肩からずり落ちた。するとアブー・バクルがそれを整えながら言った：
アッラーの使徒よ。かれは必ず、あなたに約束されたことを成就してくださいます。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
アッラーよ、もしこの少数の一団が滅びるなら、地上であなたは礼拝されなくなるでしょう。[1]
これに関して、アッラーは次の御言葉を下された：
（想起せよ）あなたがたが自分の主に救援を求めたとき、かれはあなたがたに応えられた。われは一千の天使を、次々と続けてあなたがたに加勢させる。[2]

❖ 結果：

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）はしばしうとうとされた後、頭を上げて言われた：
喜べ、アブー・バクルよ。アッラーの援助があなたに来た。これはジブリールである。彼は自分の馬の手綱を持ち、戦士たちの隊列の間を導いている。[3]

アッラーは、ご自身からの軍勢によってその使徒を援助し、信仰者たちに勝利を与え、不信仰者たちの根を断ち切られた。多神教徒は七十人が殺されたその多くは、アブー・ジャフルやウマイヤ・イブン・ハラフのような指導者・首領たちであった。七十人は捕虜となり、残りは敗走した。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、勝利と名誉のうちにマディーナへ帰還された。

[1] ムスリム（1763）によって伝承された。
[2] ［アル＝アンファール章：9］。
[3] スィーラト・イブン・ヒシャーム（1/626）。

土曜日：サハーバモジュール — アブー・ムーサー・アル＝アシュ‘アリー（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は高貴なる教友‘アブドゥッラー・イブン・カイス・イブン・ハッファール、アブー・ムーサー・アル＝アシュ‘アリーであり、姓名とクンヤ（敬称）の両方でよく知られている。母は‘アク出身の タビーバ・ビント・ワフブで、イスラームを受け入れ、マディーナで逝去した。

❖ 生涯と徳：

彼は教友たち（アッラーが彼らに満足されますように）の中のイマームの一人であり、体格は細身で、勇敢で大胆であり、法学者で、法的見解（ファトワ）と裁決において正確であった。イスラームの黎明期にマッカへ来て入信し、二度のヒジュラの両方を行った。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼のために祈願され、こう言われた：
アッラーよ、‘アブドゥッラー・イブン・カイスの罪をお赦しください。そして復活の日に、彼を高貴な住まいへ入れてください。[1]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ム‘アーズ・イブン・ジャバルと共に彼をイエメンに任命し、それぞれに別々の地方の権限を与えた。[2]

‘アリー（アッラーの御満悦あれ）は、アブー・ムーサーの知識の水準について尋ねられ、こう答えた：
彼は完全に知識に浸されている。[3]

彼は、クルアーン朗誦の美声でも知られていた。声は甘く、謙虚さに満ちていた。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に言われた：
もし昨夜、私があなたの朗誦を聴いていたのをあなたが見ていたならまことにあなたは、ダ―ウード一族の笛の一つを授けられている。[4]

‘ウマル（アッラーの御満悦あれ）は、彼を見るたびにクルアーンを朗誦するよう求め、こう言った：
我らの主への渇望をかき立ててくれ、アブー・ムーサーよ。[5]

アブー・ムーサー（アッラーの御満悦あれ）は、イスラームのために新たな土地を開いた総督たちの一人であった。彼はシャームの征服に立ち会い、またアル＝アフワーズとイスファハーンの開拓に大きく貢献した。その後、アル＝バスラを統治し、次いでクーファに居住した。そこで人々は、彼のもとで法学を学んだ。さらに彼は、スッフィーン）の戦いの後、‘アリーとム‘アーウィヤ（アッラーの御満悦あれ）の双方が受け入れた二人の仲裁者のうちの一人でもあった。

晩年、彼は礼拝に大いに励んだ。休んで自分に優しくしてはどうかと言われると、彼は答えた：
馬が走らされ、競走の終わりに近づくと、内にある力をすべて出し切るそして私の残りの命は、それよりも少ないのだ。[6]

❖ 御逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 42 年にマッカで逝去した。別説として、アル＝クーファで逝去したとも言われている。

[1] アル＝ブハーリー（4323）およびムスリム（2498）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（4341）によって伝承された。
[3] スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー’（2/388）。
[4] アル＝ブハーリー（5048）およびムスリム（793）によって伝承された。
[5] スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー’（2/398）。
[6] シュʿアブ・アル＝イーマーン（13/202）。

知識テスト — 第 24 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	問：アッラーの御言葉ʿāʾilan の意味は何か。	[a] 迷っている [b] 貧しい [c] 孤児	b
ハディース	問：虐げられた者の、虐げた者に対する祈りは受け入れられる：	[a] 虐げられた者がムスリムの場合のみ[b] 虐げた者がムスリムの場合のみ[c] 虐げられた者が不信仰者であっても	c
アキーダ	問：al-ghayb（不可視）の定義はどれか。	[a] 感覚から欠け、隠されているもの[b] 未来に起こる出来事のみ[c] 過去に起こった出来事のみ	a
フィクフ	問：人が至高なるアッラーに叩頭するとき、シャイターン（はどの状態になるか。	[a] 泣く[b] 笑う[c] 嘲笑する	a
スィーラ	問：バドルの戦いは何年に起こったか。	[a] 2 AH[b] 3 AH[c] 4 AH	b
サハーバ	問：預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がアブー・ムーサー・アル＝アシュʿアリーに対して証言されたのは何か。	[a] 弓術の正確さ[b] 美しい声[c] 知性の完全さ	b

25 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アッ＝シャルハ章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَلَمْ نَشْرَحْ لَكَ صَدْرَكَ (1) وَوَضَعْنَا عَنْكَ وِزْرَكَ (2) الَّذِي أَنْقَضَ ظَهْرَكَ (3) وَرَفَعْنَا لَكَ ذِكْرَكَ (4) فَإِنَّ مَعَ الْعُسْرِ يُسْرًا (5) إِنَّ مَعَ الْعُسْرِ يُسْرًا (6) فَإِذَا فَرَغْتَ فَانْصَبْ (7) وَإِلَى رَبِّكَ فَارْغَبْ (8)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。
われらはあなたの胸を広げなかったか。* そしてあなたの重荷を取り除かなかったか。* それはあなたの背を重く圧していた。* そしてあなたの名声を高く掲げた。* まことに、困難と共に安易がある。* まことに、困難と共に安易がある。* それゆえ、あなたが（世務を）終えたなら努力せよ。* そしてあなたの主にこそ、切望して向かえ。

❖ この章のテーマ：

至高なるアッラーがその使徒に授けられた恩寵胸の開放、罪の赦し、そして名の高揚を明らかにすること。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
وَضَعْنَا	Waḍaʿnā	重荷を取り除き、赦した
وِزْرَكَ	Wizraka	あなたの罪
أَنْقَضَ	Anqaḍa	重くのしかかった
فَإِذَا فَرَغْتَ	Fa-idhā faraghta	現世の用事を終えたとき
فَانْصَبْ	Fanṣab	礼拝・努力に励め
فَارْغَبْ	Farghab	望みとへりくだりをもって主に向かえ

❖ 全体的な意味：

アッ＝シャルハはマッカ啓示のスーラであり、至高なるアッラーはその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対する三つの大きな恩寵を数え上げられる。

1. **胸を広げられたこと**：啓示と宗教の法を担い、民からの傷つける言葉や虚偽の非難に耐えられるようにされた。
2. **重荷を取り除かれたこと**：アッラーは仰せられた。それは、アッラーがあなたの過去と未来の罪を赦されるためである。[1]

3. **名を高く掲げられたこと**：信仰の証言、アザーン、イカーマ、その他の礼拝において、アッラーの御名と共にその名が結び付けられた。

本章はまた、大きな吉報で結ばれるどの困難にも必ず安易と救済が伴うということである。これは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の言葉とも一致する。
まことに、救済は苦難と共にあり、まことに、困難と共に安易がある。[2]

❖ このスーラから得られる益：

1. アッラーがその預言者に授けられた恩寵と、主のもとでの高い地位が示される。
2. 困難の後には安易が来るという、確実な吉報。
3. 信仰者は主にのみ切望して向かい、主の恩恵にのみ希望を置き、主にのみ依り頼むべきである。
4. 信仰者の人生は、軽薄・虚栄・怠惰ではあり得ない。

[1] ［アル＝ファトḥ章：2］。
[2] アッ＝ティルミズィー（2516）によって報告された。

月曜日：ハディースモジュール — ムスリムに関係のないことへ関わるのを避けること

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
人のイスラームの完成の一部は、彼が自分に関係のないことを捨てることである。[1]

❖ 解説：

このハディースは、ナフス（魂）を規律づけて磨き、悪徳や欠点、そして無益で利益のないものから守るための根本原則である。人のイスラームの完成、そして信仰の充実の一つは、自分に関係のないことを捨てることであるそれは、言葉・視線・聞くこと・時間の浪費・歩き回り・思考、さらには外面的・内面的なあらゆる事柄において同様である。

❖ このハディースから得られる益：

1. このハディースは、ムスリムの高い品性のための基礎原則であり、同輩の中での尊厳のしるしである。
2. 自分に関係のないことを捨てることは、時間を守り、宗教を保護する。
3. 時間を有益なことに使うよう促す。関係のないことを捨てることがイスラームの完成の一部なら、関係あることに取り組むのはなおさらである。
4. イスラームの水準は人々の間で異なり、ある行いによってその完成度は増す。

[1] アッ＝ティルミズィー（2318）によって報告された。

火曜日：アキーダ モジュール — シルクの概念と分類

❖ シルクの分類：

シルクは二つに分類される：

1. **大シルク（shirk akbar）** — 宗教（イスラーム）から外れる。
2. **小シルク（shirk aṣghar）** — 宗教（イスラーム）から外れない。

• **大シルク**とは、アッラーだけに固有の権利において、アッラー以外をアッラーと同等に置くことである。至高なるアッラーは、多神崇拝者の言葉について告げられた：
アッラーにかけて、われらは明らかな過ちの中にいた。万有の主とあなたがたを同等に置いたとき。[1]

これは、アッラーが赦されない種類のシルクである。至高なるアッラーは仰せられた：まことにアッラーは、何ものかを同位に配することをお赦しにならない。しかし、それより軽いことは、御望みの者のためにお赦しになる。アッラーに同位者を配した者は、確かに遠く迷い去った。[2]

その最も明白な例は、礼拝行為（ʿibādah）をアッラー以外に向けることである。たとえば、アッラー以外への祈願（duʿā'）、アッラー以外のための屠殺、アッラー以外への誓願（nadhr）、墓の住人へ近づくこと、あるいはジンや悪魔に対して、何らかの礼拝行為をもって近づくことなどである。

• **小シルク**とは、シャリーʿアがシルクと名づけているが、大シルクの段階に達しないすべてのものを指す。それは大シルクへ導く手段と道筋を含み、意図・言葉・行いにおけるものがある。たとえば、見せびらかし（riyā'）、自己陶酔、迷信などである。

❖ 大シルクと小シルクの違い：

テキスト（啓典とスンナ）の証拠は、大シルクと小シルクに違いがあることを示しており、重要な点は次のとおりである。

1. 大シルクは宗教から外れるが、小シルクは外れない。
2. 大シルクはその行為者を永遠に火獄に留めるが、小シルクは永遠の留まりを必然としない。
3. 大シルクはすべての善行を無効にするが、小シルクはすべてを無効にするのではなく、混入した特定の行為のみを無効にする。

4. 大シルクは、その行為者との完全な絶縁と、親族であっても忠誠を結ばないことを必然とする。一方、小シルクは、その人に存在するシルクの分だけ絶縁し、タウヒードの分だけ愛と忠誠を持つ。
5. 小シルクは信仰を減少させるが、大シルクは信仰を完全に無効化し、破壊する。

[1]［アッ＝シュ‘アラー’章：97–98］
[2]［アン＝ニサー’章：116］

水曜日：フィクフ モジュール — 集団礼拝（ジャマーʿア）

❖ その徳：

ムスリムは、五つの義務礼拝をモスクで会衆として行うことが、最も偉大な服従行為の一つであり、イスラームの大きな象徴の一つであることに一致している。その徳と莫大な報奨を示す根拠は多く、例として次がある。

• 至高なるアッラーは仰せられた：
アッラーが高く掲げることを許され、その中で御名が唱念される家々において、朝夕に彼を讃える者たちがいる。取引も売買も、アッラーの想起、礼拝の確立、ザカーの支払いから彼らをそらさない。彼らは、心と目が動転する日を恐れる。[1]

• また仰せられた：
アッラーのモスクを守り支えるのは、アッラーと終末の日を信じ、礼拝を確立し、ザカーを支払い、アッラー以外を恐れない者たちだけである。彼らこそ導きの上にあることが期待される。[2]

• そして預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
集団礼拝は、個人の礼拝より二十七段階優れている。[3]

• また言われた：
人が会衆で礼拝することは、家や市場での礼拝より二十五倍に増やされる。これは、ウドゥーを行いそれを完全にしてからモスクへ向かい、礼拝以外の目的で外出しないためである。彼が踏む一歩ごとに一段階が上げられ、一つの罪が消される。さらに、彼が礼拝を終えて礼拝の場所にいる間、天使たちは彼のために祈り続けるアッラーよ、彼にサラー を。アッラーよ、彼に慈悲を。[4]

❖ その知恵：

至高なるアッラーが集団礼拝を定められたのは、明白な利益と大きな利点のためであり、例として次がある。

• ムスリム同士の結びつきを強め、愛情を増し、敵意・疎遠・怨恨を取り除く。
• ムスリムの力・一致・連帯を明らかにし、敵を憤らせる。
• 兄弟たちの熱意を見て、善行へ向かう意欲が高まる。
• 近隣同士が互いの状況を知り、病人を見舞い、葬儀に参列し、困窮者を助け、無知な者に教えることができる。

---

[1] ［アン＝ヌール章：36–37］ [2] ［アッ＝タウバ章：18］ [3] アル＝ブハーリー（645）、ムスリム（650） [4] アル＝ブハーリー（647）、ムスリム（694）

❖ 規定：

モスクにおける五つの義務礼拝の集団礼拝は、男性に対して義務である。女性と少年は除外される。これを示す根拠には次がある。

• 至高なるアッラーの御言葉：
あなたが彼らの中にいて彼らを率いて礼拝する時、彼らの一部があなたと共に立て。[5]
恐怖の状況においてさえ放棄が許されていないのだから、安全な状況で放棄しないことはなおさらである。

• そしてアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉：
偽善者たちにとって最も重い礼拝は、イシャーと ファジュルである。もし彼らがその中にあるものを知っていたなら、たとえ這ってでもそれに来ただろう。私は、礼拝が立てられるよう命じ、それから一人の男に人々を率いさせ、その後、薪の束を持った者たちと共に、礼拝に出席しない者たちのもとへ行き、彼らの家々を火で焼き払おうとしたほどである。[6]

• また、モスクへ導く者がいない盲目の男に対する預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉：
アザーンを聞くか。
彼は言った：はい。
彼は言われた：それなら応答せよ。[7]

[5] ［アン＝ニサー章：102］
[6] アル＝ブハーリー（644）、ムスリム（651）
[7] ムスリム（653）

木曜日：スィーラモジュール — バヌー・カイヌカーの戦い

❖ 日付：

この戦いは、ヒジュラ後 2 年のシャウワール月の中旬、**土曜日**に起こった。これは、ムスリムがバドルの戦いで勝利してから **1 か月も経たない**時期である。

❖ 原因：

この戦いは、マディーナにいたユダヤ部族の一つ、**バヌー・カイヌカー**‘に対するものである。彼らは**金細工や武具製作を生業としていた。**
包囲の直接の理由は次の事件である：
ムスリムの女性が、ユダヤ人の金細工師の店を訪れた。市場にいたユダヤ人たちは彼女の顔を露わにさせようと企てたが、彼女は拒否した。するとユダヤ人の一人が、背後から彼女の衣の裾を結びつけ、彼女が立ち上がった時に身体が露わになるようにした。彼らはそれを見て笑った。そこにいたムスリムの男性が彼女を守って立ち上がり、その行為をしたユダヤ人を殺した。するとユダヤ人たちは激怒し、そのムスリムを殺害した。[1]

❖ 経過：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、彼らの**条約破棄**、心中の憎悪の増大、そしてムスリムへの公然たる敵対を知ると、軍を準備した。マディーナの留守は、アブー・ルバーバ・バシール・イブン・‘アブドゥル＝ムンディルに任せ、彼らに向かって進軍した。
彼は彼らを **2 週間包囲**した。彼らの人数はおよそ **700 人**であった。やがて彼らは屈し、**ズル＝カアダ月の 1 日**に、ムスリムの裁定に従う形で降伏した。

❖ 結果：

‘アブドゥッラー・イブン・ウバイイ・イブン・サルールが預言者のもとへ来て、彼らのために執り成し、赦免を強く求め続けた。彼らはハズラジュの同盟者であり、彼はハズラジュの首長だったからである。 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼らを見逃した。しかし恐怖が彼らの心に入り、多くがシャームとハイバルへ去っていった。[2]

[1] アル＝ビダーイヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（Al-Bidāyah wa-al-Nihāyah）5/319 [2] アル＝ビダーイヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（Al-Bidāyah wa-al-Nihāyah）5/320

土曜日：サハーバモジュール — アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 名前と出生：

彼は **アブー・フライラ**、本名は ʻアブドゥル＝ラフマーン・イブン・サフル・アッ＝ダウスィー*である。
彼は自分の名前とクンヤ（敬称）について次のように語った：
イスラーム以前、私の名は ʻアブドゥ・シャムスだった。そこでアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が私を ʻアブドゥル＝ラフマーンと名づけた。私がアブー・フライラというクンヤ（敬称）を得たのは、家族のために羊を放牧していて、小さな子猫と遊んでいたため、人々がそれにちなんで呼んだだけだ。[1]

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、色白で赤みがかった髭を持ち、穏やかで、人当たりがよく、寛容な人物であった。彼はヒジュラ後 7 年の初めにイスラームに入信した。これは フダイビーヤと ハイバルの出来事の間である。彼は自分の民の地である ダウスにおいて、アッ＝トゥファイル・イブン・ʻアムル（アッラーの御満悦あれ）の手によってイスラームに入信し、その後マディーナへ移住した。

彼（アッラーの御満悦あれ）はこう語った：
私が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ向かう途中、私は次の詩を口ずさんでいた：
夜よ、お前の長さと苦しさにもかかわらず……私たちは不信仰の住処から救われた。
道中で私の召使いが逃げた。私が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに着き、彼に忠誠の誓いを立て、彼と座っていると、その召使いが現れた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。アブー・フライラよ、これはお前の召使いだ。私は言った。彼はアッラーのために自由だ。そこで私は彼を解放した。[2]

彼（アッラーの御満悦あれ）は アフル・アッ＝スッファの貧しい人々の一人であり、常にモスクに居て、苦難と貧困に耐えていた。彼は言った：
私は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のミンバルと、ʻアイシャの部屋の間で倒れ込んでいる自分を見たことがある。通りすがりの者は私を狂人だと思って首に足を置いたが、私は狂ってなどいなかった。私を苦しめていたのは飢えだけだった！[3]

彼（アッラーの御満悦あれ）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のハディースを、同胞の中で最も多く記憶していた人物であり、また最も多くハディースを伝えた人物でもある。彼は、注意深く聴き、正確に記憶するイマームであり、法学者でもあった。アル＝ブハーリーは彼について次のように述べた：

学識ある者たちの中から約 800 人が彼から伝え、彼はその時代において最も記憶力の強いハディース伝承者であった。[4]

[1] シヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラーʾ（Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ）2/587
[2] アル＝ブハーリー（al-Bukhārī）2531
[3] アル＝ブハーリー（al-Bukhārī）7324
[4] アッ＝ザハビー（al-Dhahabī）タズキラト・アル＝フッファーズ（Tadhkirat al-Ḥuffāẓ）1/33

ムスリムたちは一致して彼を愛し尊敬し、その地位と功績を認めていた。彼はこう言った。
アッラーにかけて、信仰者で私のことを聞いて私を愛さない者はいない。
彼は問われた。
どうしてそれが分かるのか。
彼は言った。
私の母は多神教徒で、私は彼女をイスラームへ呼びかけていたが、彼女は拒んでいた。ある日、私は彼女を呼びかけしたところ、彼女がアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）について、私が嫌う言い方をした。私は泣きながらアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ行き、母のために祈願（ドゥアー）してくださるようお願いした。すると彼は言われた。
アッラーよ、アブー・フライラの母を導きたまえ。
私は急いで戻り、彼女に吉報を伝えようとした。到着すると、扉は閉まっていた。私は水の音を聞き、彼女は言った。そこにいて待ちなさい。
それから彼女は、急いで衣を身につけ、頭巾（khimār）も着けないまま出て来て、こう言った。
私は証言する礼拝に値する神はアッラーのほかに無く、ムハンマドはその僕であり使徒である。
私は悲しみで泣いたのと同じように、今度は喜びで泣きながら、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ戻り、これを報告した。私は言った。
アッラーに 祈願（ドゥアー）して、私と母を、信仰者の僕たちに愛される者にしてください。
すると彼は言われた。
アッラーよ、あなたのこの僕とその母を、あなたの信仰者の僕たちに愛される者とし、また信仰者たちを彼らに愛される者とし給え。[2]

❖ 死去：

彼はヒジュラ暦 59 年、78 歳でアル＝‘アキークにおいて逝去し、マディーナへ運ばれた。マディーナ総督であったアル＝ワリード・イブン・‘ウトバ・イブン・アビー・スフヤーンが、彼のために葬礼礼拝（ṣalāt al-janāzah）を主導した。

[1] Muslim（2491）により伝えられた。

知識テスト — 第 25 週

モジュール	問い	選択肢	正解
タフスィール	‘inṣab’ の意味は何か。	[a] 生計のために努力する[b] アッラーに依り頼む[c] 礼拝に励む	c
ハディース	ムスリムのイスラームの優秀さの一つは：	[a] 自分に関係することを捨てること[b] 自分に関係のないことを捨てること[c] 自分に関係することも関係のないことも捨てること	b
アキーダ	大シルクを犯す者は：	[a] 善行と悪行が秤にかけられる[b] アッラーは彼を赦されない[c] アッラーは赦されることも罰せられることもある	b
フィクフ	男性が五つの日々の礼拝をモスクで集団礼拝として行うことは：	[a] 義務である[b] 推奨である[c] 条件である	a
スィーラ	バヌー・カイヌカー‘の戦いは、どの戦いの後に起こったか。	[a] バドル [b] ウフド [c]ハンダク	a
サハーバ	アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）のイスラーム以前の名は：	[a] アブドゥル＝ウッザー[b] アブドゥル＝カアバ[c]アブド＝シャムス	c

26 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アッ＝シャムス章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالشَّمْسِ وَضُحَاهَا (1) وَالْقَمَرِ إِذَا تَلَاهَا (2) وَالنَّهَارِ إِذَا جَلَّاهَا (3) وَاللَّيْلِ إِذَا يَغْشَاهَا (4) وَالسَّمَاءِ وَمَا بَنَاهَا (5) وَالْأَرْضِ وَمَا طَحَاهَا (6) وَنَفْسٍ وَمَا سَوَّاهَا (7) فَأَلْهَمَهَا فُجُورَهَا وَتَقْوَاهَا (8) قَدْ أَفْلَحَ مَنْ زَكَّاهَا (9) وَقَدْ خَابَ مَنْ دَسَّاهَا (10) كَذَّبَتْ ثَمُودُ بِطَغْوَاهَا (11) إِذِ انْبَعَثَ أَشْقَاهَا (12) فَقَالَ لَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ نَاقَةَ اللَّهِ وَسُقْيَاهَا (13) فَكَذَّبُوهُ فَعَقَرُوهَا فَدَمْدَمَ عَلَيْهِمْ رَبُّهُمْ بِذَنْبِهِمْ فَسَوَّاهَا (14) وَلَا يَخَافُ عُقْبَاهَا (15)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。
太陽とその朝の輝きにかけて * それに従う月にかけて * それを明らかにする昼にかけて * それを覆う夜にかけて * 天とそれを築かれた御方にかけて * 地とそれを広げられた御方にかけて * 魂とそれを整えられた御方にかけて * そしてそれに、その邪悪さと敬虔さ（正しさ）を悟らせられた御方にかけて * それを清めた者は成功した * それを汚した者は失敗した * サムードは、その背反ゆえに（使徒を）否定した * 彼らのうち最も邪悪な者が立ち上がったとき * アッラーの使徒が彼らに言った。アッラーの雌ラクダに害を加えるな、またその飲み分を妨げるな。* しかし彼らは彼を否定し、彼女の脚を断ち切った * それゆえ主は彼らの罪ゆえに彼らを打ち砕き、平らげられた * そして、御方はその結果を恐れられない。

❖ スーラのテーマ：

クルアーンの中でも最も長い誓いを通して、服従によって魂を清めることの重要性、そして罪によってそれを腐敗させる者たちの破滅を強調する。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
تلاها	talāhā	昇る太陽に続いた（後を追った）。
جلاها	jalāhā	夜の闇を取り払い、明るくした。
يغشاها	yaghshāhā	その闇で地を覆う。
طحاها	ṭaḥāhā	それ（地）を広げた。
سوّاها	sawwāhā	その創造を完全に整えた。
فألهمها	fa-alhamahā	それ（善悪）を示し、明らかにした。
فجورها وتقواها	fujūrahā wa-taqwāhā	悪の道と正しさ（敬虔）の道。
زكّاها	zakkāhā	服従によって清め、成長させた。

アラビア語	音写	意味
خاب	khāba	失敗・損失。
دساها	das-sāhā	罪によって覆い隠し、低下させた。
بطغواها	bi-ṭaghwāhā	背反ゆえに、反抗の限度を越えたために。
ناقة الله وسقياها	nāqat Allāh wa-suqyāhā	アッラーの雌ラクダとその飲み分（それを害さず、権利を侵すな）。
فعقروها	faʿaqarūhā	彼らはそれを屠った（脚を断ち殺した）。
فدمدم	fadamdama	懲罰で彼らを包み込んだ。
فسواها	fasawwāhā	懲罰を全員に及ぼし、誰も生き残らなかった。
عقباهَا	ʿuqbāhā	それ（彼らに起こった出来事）の結末・帰結

❖ 全体的な意味：

本章はマッカ啓示の章の一つである。至高なるアッラーは、御自身の偉大な被造物にかけて誓いを立てることで、その完全な力と唯一性を示し、信仰と服従によって魂を清める者の成功と、不信仰と罪によって魂を腐敗させる者の失敗を確証される。
その後、本章はサムードの民の例と、彼らに降りかかった結末を挙げ、頑なに否定する者すべてへの戒めとする。彼らが使徒を否定し、雌ラクダを屠ったとき、アッラーは彼らをことごとく滅ぼされた。御方はその滅亡の結果を恐れられない。なぜなら、誰もアッラーの御行いを問いただすことはできず、彼らにはただ、当然の報いが与えられたに過ぎないからである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 魂を清め、意図・行為・品性における欠陥から浄化することの重要性。
2. アッラーは人間の魂を、善にも悪にも向かい得るものとして創造され、どちらの道も選び得るようにされた。
3. 罪は現世における懲罰の原因となる。
4. 罪において協力する者たちは、罪責を共有する。

月曜日：ハディースモジュール — 過度なおしゃべり・詮索（質問）・

財産の浪費を嫌うこと アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）による。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。まことにアッラーは、あなたがたのために三つのことを喜ばれ、三つのことを嫌われる。アッラーは、あなたがたが御方を礼拝し、何ものも同位に配さないことを喜ばれる。また、あなたがたが皆そろってアッラーの縄（絆）をしっかりと掴み、分裂しないことを喜ばれる。そして、ゴシップや無益な雑談、過度の質問、財産の浪費を嫌われる。[1]

❖ 解説：

このハディースは、アッラーが喜ばれることという属性を、御威厳と御偉大さにふさわしい形で確証し、何を喜ばれるのかを示している。同時に、アッラーが嫌われることも確証し、何を嫌われるのかを示している。
しもべに対する御方の寛大さの一つは、現世と来世の双方において益と幸福をもたらすことを命じられる点にある。すなわち、同位者なくアッラーのみを礼拝すること、宗教をアッラーのために純粋にすること、そしてアッラーの縄を皆でしっかり掴んで分裂せず、善行と敬虔の上で団結し協力することである。アッラーの縄とは、アッラーの宗教であり、アッラーとしもべを結びつける絆を意味する。
一方、アッラーがしもべのために嫌われるものとは、現世と来世で害となり不幸を招くものである。たとえばゴシップや無益な雑談は、嘘、虚偽の流布、敵意の助長につながり、有益なことの代わりに有害なことへ時間を浪費させる。さらに、アッラーは過度の質問も嫌われる。必要も必然性もないのに財産や世俗的なものを求めて尋ね続けること、または知識の質問において反抗・難癖や他人を困らせる意図で尋ねることなどである。
同様に、アッラーは財産の浪費も嫌われる。保全を怠って失ったり盗まれたりすること、または有害・無益なものに支出することがそれに当たる。

❖ このハディースから得られる益：

1. 御威厳にふさわしい形で、アッラーが喜ばれることという属性を確証すること。
2. アッラーはタウヒードを愛される。これはジンと人間が創造された目的である。
3. 小シルク・大シルクを問わず、シルク（多神崇拝）を避ける必要性。
4. 宗教にしっかり結びつき、その上で団結し、善行と敬虔において協力することの重要性。
5. 益のない言葉を口にしないよう舌を守る義務。
6. 財産を保全し、有益な道にのみ支出することの重要性。

[1] ムスリム（1715）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 小シルク（軽微な多神的行為）の例

小シルクには多くの形があり、クルアーンとスンナの中で説明されている。例として次が挙げられる：

1. 見せびらかし（riyāʾ） — 礼拝行為を、人々に見られて褒められることを目的として行うこと。これは意図と目的における シルク であり、タウヒードの完成と矛盾する。これを伴う行為は無効になる。riyāʾ は隠れやすく害が深いため、ウンマにとっての危険はアル＝マスィーハ、アル＝ダッジャール の危険よりも深刻である。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：私があなたがたのために最も恐れるものは“小シルク”である。人々が小シルクとは何ですかと問うと、彼は見せびらかし（riyāʾ）であると言われた。[1]
2. アッラー以外にかけて誓うこと — 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：アッラー以外にかけて誓う者は、不信または シルクを犯した。[2] また言われた：まことに アッラーは、あなたがたが父祖にかけて誓うことを禁じられた。[3]
3. アッラーとあなたがいなければのような言い方 — 例：アッラーとあなたがいなければアッラーが望み、あなたも望むなら私には アッラーとあなたしかいないこれは アッラーの恵みとあなたの恵みだなど。正しい言い方は、アッラーがいなければ、次にあなたアッラーが望み、その後あなたも望むならなどのように、しもべの意志を アッラーの御意志の下に置く表現である。これは、アラビア語では接続詞の “wa”（と）が同格・共同を示しやすく、“thumma”（そして）が順序・遅れ（従属）を示すためである。イブン・アッバース（アッラーが二人に満足されますように）は、だから、知りながら アッラーに 同輩者を設けるなという節について次のように述べた。同輩者とは シルクであり、暗い夜に黒い石の上を蟻が這うよりも隠れている。そしてそれは、ある人がアッラーにかけて、そしてあなたの命にかけて私の命にかけてと言うこと、またこの家に犬がいなければ昨夜盗人が来ていた家にアヒルがいなければ盗人が来ていたと言うこと、またアッラーが望み、あなたも望むならと言うこと、またアッラーと誰それがいなければと言うこと、などである。[5]
4. 害を避けるために指輪・糸・護符などを身につけること（邪視や ジンへの恐れ等） — これは小シルクである。なぜなら、立法上も定め（カダル）上も原因とされていないものを、原因として扱うからである。これは シャリーアと カダルに対する虚偽であり、欲望や恐れによって心がそれに結びついてしまう危険がある。
5. 本来は アッラーのために行うべき行為で、現世的利益を狙うこと — これは小シルクであり、伴う報いを失わせる。例：金銭目的で 巡礼（ハッジ）を行う、アザーンを行う、礼拝で人々を導く、または名声・評判のために宗教知識を学ぶ等。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：みじめだ、ディナールの奴隷。みじめだ、ディルハムの奴隷。みじめだ、上等な衣の奴隷。みじめだ、ビロードの奴隷。与えられれば満足し、与えられなければ不満となる。[6]

[1] Aḥmad（23680）および al-Ṭabarānī（4301）によって伝承された。
[2] al-Tirmidhī（1535）および Abū Dāwūd（3251）によって伝承された。
[3] al-Bukhārī（6647）および Muslim（1646）によって伝承された。
[4] ［Al-Baqarah: 22］

水曜日：フィクフモジュール — イマーマ（礼拝導師）と集団礼拝の諸規定

ムスリムが知り、守るべき イマーマ（礼拝を導くこと）と集団礼拝に関する規定は多い。その例は次のとおりである：

1. 徳・知性・温和・落ち着きを備えた者は、イマームの最前列（直後）に近く立つのが望ましい 預言者の言葉による：あなたがたのうち、成熟し理解ある者たちを私に最も近く立たせよ。次にその次、次にその次。[1]
   その知恵：イマームが朗誦で詰まったとき助けられること、また イマームに何か起これば代役をその中から選びやすいこと。
2. 義務礼拝の イカーマ が始まった後に、任意礼拝を新しく開始してはならない
   ムアッズィンが イカーマを始めたら、誰であれ任意礼拝を開始してはならない。預言者は言われた：礼拝が立てられたなら、義務礼拝以外の礼拝はない。[2]
   ただし、すでに任意礼拝を始めていた後に義務礼拝が始まった場合は、素早く終えるのがよく、途中で切り上げてもよい。
3. 列の後ろで一人だけ立つ男性の礼拝は無効
   預言者の言葉：列の後ろで一人で礼拝する者に礼拝はない。[3]
   使徒は、列の後ろで一人礼拝している男を見て、礼拝のやり直しを命じた。[4]
   ただし列が満員で、入れない場合は一人でも有効である（不可能な場合は義務が免除される）。
4. イマームが礼拝中に誤ったとき
   男性は Subhan Allah と言って気づかせ、女性は手を叩く。預言者は言われた：Subhan Allah は男性、手拍子は女性のためである。[5]
5. イマームが余分な ラカアに立ち上がったとき
   後ろの者は付いて行かず、Subhan Allah と言い、座って待つ。意図的に付いて行った者の礼拝は無効になる。
6. イマームが朗誦を間違えたとき
   最も近くで正しく暗記している者が訂正して助ける。複数人が同時に言って混乱させてはならない。
7. 遅れて来た者の スンナ
   イマームを見つけた時点の姿勢にそのまま合流する（立位・屈身・サジダ等、どの状態でも）。
8. 遅れて入り、イマームが屈身中（ルクー）の場合
   まず立ったまま開始の タクビールを言い、その後もう一度 タクビールを言って屈身する。開始の タクビールは必ず立位で言う必要がある。屈身の タクビールは スンナ。開始の タクビールだけでも両方を兼ねて足りる。

---

[1] ムスリム（432）。
[2] ムスリム（710）。
[3] アフマド（4/23）、イブン・マージャ（1003）。

[4] アフマド（4/228）、アブー・ダーウード（682）。
[5] ブハーリー（1203）、ムスリム（422）。

9. **イマームが二回目の サラームを終えたら**、マスブーク（遅れて合流した者）は立ち上がり、礼拝で逃した分を補完する。イマームが サラームを完了する前に立つのは誤りであり、許されない。
10. **遅れて来て、定められた イマームと共に礼拝できなかった者たち**は、同じモスク内で第二の会衆を成立させても有効である。これは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の一般的な言葉による：一人の男が別の男と共に行う礼拝は、彼が一人で行う礼拝よりも優れている。[1]
11. **遅れた者が一人だけの場合**、すでに礼拝を終えた者が任意礼拝の意図で彼と一緒に礼拝することが推奨される。これは、会衆が終わった後にモスクへ来た男について、預言者が言われた言葉による：この男に施しをして、彼と共に礼拝する者は誰か。そこで人々のうち一人が立ち、彼と共に礼拝した。[2]

[1] Abū Dāwūd（554）および al-Nasāī（2/104）によって伝承された。
[2] al-Tirmidhī（220）および Aḥmad（5/3）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — ウフドの戦い

❖ 日付：

ヒジュラ後 3 年シャウワール月 7 日に起こった。

❖ 原因：

クライシュは、バドルの戦いでの敗北と首領たちの戦死の後、激しい怒りに燃えた。彼らは諸部族の中での地位を回復し、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）とムスリムに復讐することを決意した。

❖ 出来事：

アブー・スフィヤーンはクライシュ族の動員を開始し、ムスリムへの戦争を扇動した。彼は約三千人を集め、馬二百頭、鎧七百領、ラクダ三千頭を備えた。彼らは逃げないように女たちも同行させた。軍はマディーナに向かって進軍し、ウフド山の近くに陣を張った。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がこれを知ると、教友たちに諮問した外へ出て迎え撃つべきか、それとも マディーナに留まるべきか。バドルに参加できなかった者たちの一部は外へ出ることを強く勧め、別の者たちは マディーナを要塞化して内部から戦うことを提案した。前者が意見を譲らなかったため、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は家に入り、鎧を身につける前の状態であったが、その後、鎧を着て出て来られた。すると彼らの決意は揺らぎ、もし マディーナに留まりたいならそうしてくださいと言った。すると彼は答えられた：預言者は、いったん鎧を身につけたなら、アッラーが自分と敵との間を裁かれるまで、それを脱ぐべきではない。[1]

彼は イブン・ウンム・マクトゥーム を マディーナの代理に任命し、戦士一千人、鎧百領、騎兵五十人とともに出発した。軍は三部隊に分けられた：ムハージルーン（指揮：ムスアブ・ブン・ウマイル）、アウス族（指揮：ウサイド・ブン・フダイル）、葛辞族（指揮：アル＝フッバーブ・ブン・ムンズィル）。

途中、偽信者の アブドゥッラー・ブン・ウバイ は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が自分の意見を採用しなかったと主張し、配下の約三百人を連れて離脱した。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は残った者たちと進軍を続け、ウフドの谷に宿営し、背を山に預ける形に布陣した。彼は弓兵五十人をアブドゥッラー・ブン・ジュバイルの指揮下に置き、次のように命じた：もし鳥が我々をさらっていくのが見えても、私が呼ぶまで持ち場を離れるな。もし我々が敵に勝利し、彼らを踏みつけているのが見えても、私が呼ぶまで持ち場を離れるな。[2]

---

[1] al-Bukhārī、muʿallaq（7369）によって伝承された。
[2] al-Bukhārī（3039）によって伝承された。

戦いが始まると、その日の序盤ではムスリムが勝勢だった。すると弓兵たちは言った。人々よ、戦利品だ！仲間たちは勝った。何を待っているのだ？
‘アブドゥッラー・ブン・ジュバイルは彼らに注意した。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）があなたがたに告げたことを忘れたのか？
しかし彼らは答えた。
アッラーにかけて、我々は人々のところへ行き、戦利品を取る。[1]
そして彼らは持ち場を離れた。すると多神教徒側の騎兵がその隙を見て、そこへ突入し、ムスリムに対して アッラーが定められた試練が起こった。

❖ 結果：

信仰者およそ七十名が殉教した。その中には ハムザ、アブドゥッラー＝ブン＝ジャハシュ、ムスアブ・ブン・ウマイル**が含まれる。多神教徒たちは預言者**（アッラーの祝福と平安あれ）**にまで迫り、ムスリム十名が彼を盾となって守り、彼らは殺された。**タルハ**は激しく戦って彼らを押し返し、**サアド・ブン・アビー・ワッカース**は非常に正確に矢を放った。これにより預言者**（アッラーの祝福と平安あれ）**は彼に言われた。**
射て。私の父母をあなたのために捧げよう。[2]

預言者の高貴なお顔は負傷し、石によって下の前歯が折れ、兜が頭上で砕けた。多神教徒は石を投げ続け、ついに彼は倒れ、兜の輪が二つ、顔に食い込んだ。アブー・ウバイダ がそれを取り除き[3]、マーリク・ブン・スィナーン が傷口の血を吸い取った。[4] 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は岩に登ろうとしたが登れず、タルハが彼の下に座り、彼が登れるようにした。[4] 礼拝の時刻になると、彼は座って礼拝した。[5]

ムスリムの間には、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が殺されたという噂が広がったが、彼が彼らのもとへ近づくまで続いた。兜の下の彼を最初に見分けたのは カアブ・ブン・マーリク で、彼は大声で叫んだ。
ムスリムの集まりよ、喜べ！これは アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）だ！預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼に黙るよう合図された。[6]

その後、ウバイ・ブン・ハッラーフ が馬上で進み出て、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を殺そうとした。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は槍を取り、彼の鎖骨付近を突いたため、彼は負傷して退き、マッカへ戻る途中で死んだ。[7]

[1] al-Bukhārī（3039）によって伝承された。
[2] al-Bukhārī（4057）および Muslim（2412）によって伝承された。
[3] Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ（2/587）によって伝承された。
[4] Tārīkh al-Islām（2/193）によって伝承された。
[5] Al-Bidāyah wa-al-Nihāyah（5/415）によって伝承された。
[6] Al-Bidāyah wa-al-Nihāyah（5/411）によって伝承された。
[7] al-Ḥākim（3263）によって伝承された。

土曜日：サハーバモジュール — ウスマーン・ブン・ザイド（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は高貴なる教友 ウスマーン・ブン・ザイド・ブン・ハーリサ・ブン・シャラーヒルであり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の解放奴隷で、かつ愛された者である。彼の クンヤ（敬称）は アブー・ムハンマド であった。彼はヒジュラ前 7 年にマッカで誕生した。

❖ 生涯と徳：

ウサーマ（アッラーの御満悦あれ）**は、イスラームに最も早く入った忠実な二人の高貴なムスリムの子であり、彼らは預言者**（アッラーの祝福と平安あれ）**に最も近く、最も忠誠を尽くした者たちであった。その二人とは、預言者の解放奴隷** ザイド・ビン・ハーリサ **と、乳母** ウンム＝アイマン **である。**

ウサーマ（アッラーの御満悦あれ）は幼少期から預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に育てられたという名誉を持ち、預言者は彼を深く愛された。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼と ハサン を抱き寄せて言われた：
おおアッラー、私はこの二人を愛している。ゆえに、あなたも彼らを愛し給え。[1]

若年でありながら、彼は勇気と知恵によって際立っていた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼が十八歳のとき、シャームへ進軍する軍の指揮官に任命された。その軍には、アブー・バクルとウマルを含む、ムハージルーンと アンサールの有力者たちがいた。ところが軍が出発する前に預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は逝去され、その後アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）が軍を出発させた。[2]

❖ 御逝去：

ウスマーン・ブン・ザイド（アッラーの御満悦あれ）は、ムアーウィヤ（アッラーの御満悦あれ）のカリフ期の末頃、ヒジュラ暦 54 年に逝去し、アル＝バキーに埋葬された。

[1] al-Bukhārī（3747）によって伝承された。
[2] al-Bukhārī（3730）によって伝承された。

知識テスト — 第 26 週

モジュール	問い	選択肢	正解
タフスィールモジュール	アッ＝シャムス章（Sūrat al-Shams）が強調するものは何か。	[a] jihād の徳とその報奨[b] 施しと支出の徳[c] 服従行為によって魂を清めることの重要性	c
ハディース モジュール	アッラー がしもべのために嫌われる財産の浪費とは何を意味するか。	[a] 有害または無益な事柄に費やすこと[b] 家族・親族以外に費やすこと[c] 両親・子ども以外に費やすこと	a
アキーダモジュール	アッラー 以外にかけて誓うことは何と見なされるか。	[a] 大シルク[b] 小シルク[c] 小さな罪の一つ	b
フィクフ モジュール	imam の後ろに立つことが推奨されるのは誰か。	[a] 若者[b] モスクの近隣住民[c] 成熟し理解ある者	c
スィーラモジュール	Uḥud の戦いでムスリムに降りかかった災厄の原因は何か。	[a] Ibn Salūl の離脱[b] 弓兵が使徒の命令に背いたこと[c] Abū Sufyān の策略	b
サハーバモジュール	Usāmah ibn Zayd（アッラーの御満悦あれ）は何として知られていたか。	[a] アッラー の使徒に愛された者[b] 天使たちの影[c] アッラー の使徒の護衛	a

27 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝ライル章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَاللَّيْلِ إِذَا يَغْشَى (1) وَالنَّهَارِ إِذَا تَجَلَّى (2) وَمَا خَلَقَ الذَّكَرَ وَالْأُنْثَى (3) إِنَّ سَعْيَكُمْ لَشَتَّى (4) فَأَمَّا مَنْ أَعْطَى وَاتَّقَى (5) وَصَدَّقَ بِالْحُسْنَى (6) فَسَنُيَسِّرُهُ لِلْيُسْرَى (7) وَأَمَّا مَنْ بَخِلَ وَاسْتَغْنَى (8) وَكَذَّبَ بِالْحُسْنَى (9) فَسَنُيَسِّرُهُ لِلْعُسْرَى (10) وَمَا يُغْنِي عَنْهُ مَالُهُ إِذَا تَرَدَّى (11) إِنَّ عَلَيْنَا لَلْهُدَى (12) وَإِنَّ لَنَا لَلْآخِرَةَ وَالْأُولَى (13) فَأَنْذَرْتُكُمْ نَارًا تَلَظَّى (14) لَا يَصْلَاهَا إِلَّا الْأَشْقَى (15) الَّذِي كَذَّبَ وَتَوَلَّى (16) وَسَيُجَنَّبُهَا الْأَتْقَى (17) الَّذِي يُؤْتِي مَالَهُ يَتَزَكَّى (18) وَمَا لِأَحَدٍ عِنْدَهُ مِنْ نِعْمَةٍ تُجْزَى (19) إِلَّا ابْتِغَاءَ وَجْهِ رَبِّهِ الْأَعْلَى (20) وَلَسَوْفَ يَرْضَى (21)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。
覆いかぶさる夜にかけて * 明らかになる昼にかけて * そして、男と女を創造された御方にかけて * まことに、あなたがたの努力はさまざまである。* 施しをし、アッラーを畏れ * 最も善き報いを信じる者については * われは彼を安易（容易）へと容易にする。* だが、出し惜しみし、自らを足りていると思い * 最も善き報いを否定する者については * われは彼を困難へと容易にする。* そして、彼が（滅びへ）落ちるとき、彼の財産は何の役にも立たない。* まことに、導きはわれらの務めである。* そして、後の世も最初の世（現世）も、われらに属する。* それゆえ、われは燃え盛る火をもってあなたがたに警告した。* そこに焼かれるのは、最も不幸な者だけである。* 彼は否定し、背を向けた者である。* しかし、最も敬虔な者はそこから遠ざけられる。* 彼は自らを清めるために財を施し * 返礼のために誰かの恩に報いるのではなく * ただ至高なる主の御顔を求める。* そして彼は必ず満足するであろう。

❖ スーラのテーマ：

アッラーへの信仰と、その道における支出に関して、人々の状態を明らかにし、各集団の結末を示すこと。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
يَغْشَى	yaghshā	その闇で覆う。
تَجَلَّى	tajallā	光によって明らかになる。
لَشَتَّى	lashattā	さまざま・異なる。
أَعْطَى	a‘ṭā	施しとして財を与えた。

アラビア語	音写	意味
بِالْحُسْنَى	bil-ḥusnā	行いに対する最善の報い（善き結末）。
لِلْيُسْرَى	lil-yusrā	あらゆる善と幸福へ向かう容易さ。
لِلْعُسْرَى	lil-ʿusrā	あらゆる困難と不幸へ向かう苦しさ。
وَمَا يُغْنِي	wa-mā yugh'nī	彼の益にはならない。
تَرَدَّى	taraddā	火へ落ちた（罰へ落ちた）。
إِنَّ عَلَيْنَا لَلْهُدَى	inna ʿalaynā lil-hudā	導きの道を明確にすることは、われらが引き受けた（恩恵と慈悲として）。
تَلَظَّى	talaẓẓā	燃え盛る。
لَا يَصْلَاهَا	lā yaṣlāhā	そこに入って熱を受けることはない。
وَسَيُجَنَّبُهَا	wa-sayujannabuhā	そこから遠ざけられる。
تُجْزَى	tujzā	返礼される（誰かの恩への返礼ではない）。

❖ 全体的な意味：

アル＝ライルはマッカ啓示のスーラであり、至高なるアッラーは三つの連続した誓いをもって、人々の行いが異なること導かれる者もいれば迷う者もいることを確証される。財を施し、主を畏れ、善き結末を信じる者は、アッラーによって容易（善と幸福）へと進みやすくされる。出し惜しみし、自分は足りていると思い、善き結末を否定する者は、困難（不幸）へと進みやすくされ、罰に落ちるとき財産は何の益にもならない。
至高なるアッラーは、導きの道を明確にすることを御自身の務めとして示され、来世と現世のいずれの統治も御方に属する。御方は、最も不幸な者のために用意された燃え盛る火について警告し、最も敬虔な者はそこから遠ざけられることを告げられる。

❖ このスーラから得られる益：

1. 報いは行いに見合う。現世で善を行う者は、来世で最善の報いを受ける。
2. 真理を望み、求め、努力する者を導くことは、アッラーの道である。
3. アッラーの道における支出は、財の増加・浄化、そして来世での大いなる報いの原因となる。
4. 正しい行いによって魂を清め、浄化するよう促すこと。

月曜日：ハディース モジュール — 現世と来世の善を アッラー に求めること

アブドッラー・ブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）による。彼は言った。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、次のように祈願しておられた：
アッラーよ、私はあなたに導き、敬虔、貞節そして自足を求めます。[1]

❖ 解説：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）**は、その** スンナ **の中で、善と祝福をもたらし、害悪と困難から守る多くの祈願を私たちに教えられた。この祈願もその一つであり、宗教面と現世面の両方の善を求める点で、最も包括的で有益な祈願の一つである。**

導きとは有益な知識を意味し、敬虔（taqwā）とは正しい行いを意味する。この二つによって宗教は正される。
貞節（ʿafāf）とは、人々の手元にあるものに心を結びつけないこと（他人のものを欲しがらないこと）であり、自足（ghinā）とは、アッラー に満ち足り、御方の授けに満足することである。この二つによって現世生活は正される。

導き（hudā）・敬虔（taqwā）・貞節（ʿafāf）・自足（ghinā）を授けられた者は、良き生活を得て、二種類の幸福（宗教の幸福と現世の幸福）を成し遂げ、望むものを得、恐れるものから救われる。

❖ このハディースから得られる益：

1. ムスリムは預言者の祈願を積極的に用いるべきである。語は簡潔で、意味は広く、大きな善を包含するからである。
2. 有益な知識を得て正しい行いを行うことは、アッラー がしもべに授けられる最も大きな恩恵の一つである。
3. 益・害・導きを有するのは アッラのみである。近い天使であっても、遣わされた預言者であっても、その他の誰であっても、それを共有しない。

[1] ムスリム（2721）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — shirk が無効であることの根拠と証明

多神教崇拝（shirk） の無効性、そしてその民が非難されることを示す決定的な根拠と明白な証明は多種多様であり、その中には次のものがある：

第一：
高き世界と低き世界（上界と下界）は創造以来、完全性・秩序・調和を保ち、精密に結びつき、すべての被造物の利益のために従属させられている。これは、それらを統御する御方が唯一であり、主が唯一であり、神格（礼拝を受けるに値する存在）が唯一であることの証明である礼拝されるのは御方のみであり、創造者も御方の他に存在しない。至高なる アッラーは仰せられた：
慈悲あまねき御方の創造に、あなたは何の不整合も見ない。 [1]
また仰せられた：
天と地を創造し、天からあなたがたのために雨を降らせ、それによってあなたがたが育てられないほどの美しい庭園を生じさせた御方が（最善ではないのか）。アッラーと共に神がいるのか。否。だが彼らは同等のものを立てる民である。大地を安定の場とし、その中に川を設け、堅固な山々を置き、二つの海の間に障壁を設けた御方が（最善ではないのか）。アッラーと共に神がいるのか。否。だが彼らの多くは知らない。 [2]

第二：
アッラー以外に礼拝されるものは、あらゆる面で弱く、無力で、見捨てられている。それは自分自身にも他者にも害益を与える力がなく、生死を司る力もなく、与えることも差し止めることもできず、真の神の属性を何一つ備えていない。ならば、どうしてそのようなものを礼拝できるのか。どうしてそれに希望し、恐れることができるのか。至高なる アッラーは仰せられた：
彼らは、何も創造しないのに（むしろ）創造されるものを、同位に配するのか。彼らは（礼拝者を）助けることもできず、自分自身を助けることもできない。あなたが彼らを導きへ呼んでも、彼らは従わない。あなたが呼ぼうと黙っていようと同じである。まことに、アッラーの他にあなたがたが呼ぶものは、あなたがたと同じ“しもべ”である。ならば彼らを呼び、真実なら答えさせてみよ。彼らに歩く足があるのか。打つ手があるのか。見る目があるのか。聞く耳があるのか。言え、あなたがたの“同位者たち”を呼べ。次に私に策を巡らし、猶予を与えるな。まことに私の守護者は、啓典を下された アッラー であり、御方は正しい者たちを守護される。あなたがたが御方の他に呼ぶものは、あなたがたを助けることもできず、自分自身を助けることもできない。あなたが彼らを導きへ呼んでも、彼らは聞かない。あなたは彼らがあなたを見ているかのように見えるが、彼らは見ていない。 [3]

第三：
多神教徒が礼拝する対象が、預言者・敬虔な者・天使のいずれであっても、彼ら自身がアッラーを必要とし、正しい行いに励み、主への近さを競い合っていることは確かである。彼らは アッラーの慈悲を望み、罰を恐れている。ならば、どうしてそのような者

を礼拝できるのか。至高なる アッラーは仰せられた：
彼らが呼ぶ者たち自身が、主への近づきの手段を求め、誰が最も近いかを競い、主の慈悲を望み、罰を恐れている。まことに、あなたの主の罰は常に恐れられるべきものである。 [4]

[1] ［アル＝ムルク章：3］
[2] ［アン＝ナムル章：60–61］
[3] ［アル＝アアラーフ章：191–198］
[4] ［アル＝イスラー章：57］

第四：
至高なる アッラーは、御方以外に礼拝されるものが祈願に応答できない理由を明確にされた。彼らは、天と地において微塵の重さほども所有せず、単独でも共同でも何の所有権もない。また、アッラーの支配において、彼らの中に アッラー を支える協力者・援助者は存在しない。さらに、執り成しは、アッラーが許可された者に対してのみ益となる。至高なる アッラーは仰せられた：
言え、アッラーのほかに、あなたがたが（神々だと）主張するものを呼べ。彼らは天においても地においても、原子の重さほども所有しない。そこにおいて彼らに何の共同もなく、また御方には彼らの中から支援者もいない。そして、執り成しは、御方が許可された者に対してのみ益となる。[5]

[5]［サバア章：22–23］

水曜日：フィクフ モジュール — 規定のスンナ礼拝

❖ 規定のスンナ礼拝の徳と数：

規定のスンナ礼拝の徳と、その数の詳細は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）**の次の言葉に示されている**：

ムスリムのしもべが、義務礼拝以外に、毎日アッラーのために自発的に十二ラカアを礼拝するならば、アッラーは彼のために楽園に家を建てられる。すなわち、ズフルの前に四、ズフルの後に二、マグリブの後に二、イシャーの後に二、そしてファジュルの礼拝の前に二である。[1]

これらの中で最も強調されるのは ファジュル のスンナである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
ファジュルの二 ラカアは、現世とその中のすべてよりも優れている。[2]

アーイシャ（アッラー が彼女に満足されますように）は言った：
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ファジュル の前の二 ラカアほど、任意礼拝（ナフル）を継続して守ったものはなかった。[3]
また、それらを軽く行い、その中でアル＝カーフィルーン章とアル＝イクラース章を朗誦することが定められている。[4]

ムスリムがこれらの規定のスンナ礼拝のいずれかを逃した場合、埋め合わせをすることが推奨される。なぜなら預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、寝過ごしてしまったとき、ファジュルとともに ファジュル前の二 ラカアを埋め合わせたからである。[5]

❖ 行うのに最も良い場所：

可能であれば、任意礼拝（ナーフィラ）はモスクよりも家で行うほうが良い。アッラー の使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
あなたがたの礼拝の一部を家で行い、家を墓にするな。[6]

ここには多くの益があり、その例は次のとおりである：
- 誠実（ikhlas）を保ち、人々から行為を隠せること。
- 礼拝アッラー謙虚・集中（khushuʿ）が増すこと。
- 家をアッラーの想起で満たし、家族に慈悲と祝福が下り、悪魔が遠ざかること。

---
[1] ムスリム（728）によって伝承された。
[2] ムスリム（725）によって伝承された。
[3] ブハーリー（1169）および ムスリム（724）によって伝承された。
[4] ムスリム（726）によって伝承された。
[5] イブン・マージャ（1155）および イブン・フザイマ（1117）によって伝承された。
[6] ブハーリー（432）および ムスリム（777）によって伝承された。

❖ 規定のスンナ礼拝（al-Sunan al-Rawatib）を立法した知恵：

義務礼拝の**前**に行う規定のスンナ礼拝は、現世の用事に心が奪われ、礼拝の روح（精神）である **謙虚・集中（khushuʿ）** の状態から遠くなった魂を整え、礼拝へ備えさせる。そのため、義務礼拝が長時間空いた後に来る **ファジュル** と **ズフル** において特に定められている。

一方、義務礼拝の**後**に行う規定のスンナ礼拝については、ハディース により、任意礼拝（ナフル）が義務礼拝の不足や欠けを補うことが確立している。アッラー の使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
まことに、復活の日に人々がその行いについて最初に清算されるのは礼拝である。われらの主（崇高にして至高なる御方）は御方が最もよく知っておられるにもかかわらず天使たちに言われる。わがしもべの礼拝を見よ。彼はそれを完遂したか、それとも欠けがあるか。もし完遂していれば完遂として記録される。だが、もし欠けがあれば、御方は言われる。わがしもべに任意礼拝があるか見よ。もし任意礼拝があれば、御方は言われる。わがしもべの義務礼拝を、彼の任意礼拝によって補え。[7]

[7] アブー・ダーウード（864）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — バヌー・アル＝ナーディルの戦い

❖ 日付：

バヌー・アン＝ナーディルの戦いは、ヒジュラ後 4 年の Rabīʿ al-Awwal に起こった。

❖ 原因：

この出来事は、高貴なる同伴者アムル・イブン・ウマイヤ・アッ＝ダムリー（アッラーの御満悦あれ）が、誤ってバヌー・キラーブの二人を敵方だと思い込み殺害してしまったことから始まった。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、その二人の血の償い（血償金）を、ムスリムと、条約を結ぶ者たちから集めることを望まれた。土曜日、使徒は同伴者たちと共にクバー・モスクへ向かい、そこで礼拝を行った後、バヌー・アン＝ナディールのもとへ行き、条約の取り決めに従って、二人分の血償金の負担に参加するよう求められた。彼らはそうしますと答えた。[1]

その後、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アブー・バクル、ウマル、アリー、そして一団の同伴者たちと共に、ユダヤ人の所有する壁の下に座っておられた。ユダヤ人たちは集まり、条約を破って使徒を裏切ることを決めた。彼らは言った。この臼石を持ち上げてムハンマドの上に落とし、殺す者は誰だ。アムル・イブン・ジハーシュ（ʿAmr ibn Jihāsh）が名乗り出た。するとアッラーは、彼らの企てを御使徒にお知らせになったため、使徒は直ちに立ち上がり、遅滞なくマディーナへ戻られた。後に、ある者が同伴者たちに町の庭園の中で使徒を見たと伝えた。彼らが後を追うと、使徒はバヌー・アン＝ナディールについてアッラーが知らせられたことを彼らに語られた。[2]

❖ 出来事：

使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、ムハンマド・イブン・マスラマバヌー・アン＝ナディールに遣わし、マディーナから出て行くよう命じ、家財をまとめるために十日間の猶予を与えた。ユダヤ人たちが従って出立の準備を進めていたところ、偽信者たちの頭目アブドゥッラー・イブン・ウバイイ・イブン・サルールが彼らを扇動し、自分には二千人の男がいる。彼らはお前たちと共に要塞へ入り、死ぬまで戦うと主張して、残留を促した。このことについて、至高なるアッラーは次の趣旨の啓示を下された。
偽信の者たちが、啓典の民の中の不信仰者である“兄弟”に向かって言うのを見なかったのか。もしお前たちが追放されるなら、必ず我々もお前たちと共に出て行く。お前たちに関して、我々は決して誰にも従わない。もしお前たちが戦われるなら、必ず我々はお前たちを助ける。しかしアッラーは、彼らが嘘つきであると証言される。[3]

バヌー・アン＝ナディールの首領フヤイイ・イブン・アフトブ（Ḥuyayy ibn Akhṭab）は留まることを望み、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に使者を送り、我々は家を出ない。好きにするがよいと伝えた。彼らはマディーナ南方の要塞と塔に立てこもり、防備を固めた。

[1] アル＝ビダーヤ・ワ＝アン＝ニハーヤ（5/534）
[2] アル＝ビダーヤ・ワ＝アン＝ニハーヤ（5/535）
[3] ［アル＝ハシュル章：11］

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が彼らの返答を受け取ると、彼らとの戦いを人々に呼びかけ、軍を整え、マディーナの代理としてイブン・ウンム・マクトゥームを任命した。彼は軍を率いて出陣し、旗は‘アリー・イブン・アビー・ターリブが担った。彼は彼らを六夜にわたって包囲し、彼らのナツメヤシの木を切り倒し、焼き払うよう命じた。これは、至高なるアッラーが仰せられたとおりである。あなたがたがナツメヤシの木を切り倒したこと、あるいはその幹の上に立たせておいたことは、いずれもアッラーの御許しによるものであり、それによって反抗的な不信者たちを辱められるためであった。[1]

❖ 結果：

バヌー・アン＝ナディールは、ムスリムたちの決意と、偽信者たちが彼らを見捨てたことを目の当たりにすると、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対し、命を助け、自分たちのラクダが運べる限りのもの（武器を除く）を持って立ち去ることを許してほしいと求めた。彼はこれを受け入れた。こうして、フヤイイ・イブン・アフタブおよびサッラーム・イブン・アビー・アル＝フカイクを含む彼らの指導者たちは、家族と財産を携えてハイバルへ去り、別の一団はシャームへ向かった。彼らのうち、イスラームを受け入れたのは、アブー・サアド・イブン・ワフブおよびヤーミン・イブン・‘ウマイル・イブン・カ‘ブの二名のみであった。[2]
この戦いの後、アッラーはアル＝ハシュル章を啓示された。‘アブドゥッラー・イブン・‘アッバース（アッラーが両者に御満悦あれ）は、これをスーラ・バニー・アン＝ナディールと呼んでいた。[3]

[1] ［アル＝ハシュル章：5］
[2] アル＝ビダーヤ・ワ＝アン＝ニハーヤ（5/538）
[3] アル＝ブハーリー（4882）、ムスリム（3031）

土曜日：サハーバモジュール — ウサイド・イブン・フダイル（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、アブー・ヤフヤー・ウサイド・イブン・アル＝フダイル・イブン・サマーク・イブン・‘アティーク・アル＝アンサールィー・アル＝アウスィー・アル＝アシュハリーである。彼の父は、アウス族とハズラジュ族との戦いにおいてアウスの騎士であり、要塞化された住居を所有し、ブアースの日において彼らの指導者であったが、その戦いで戦死した。

❖ 生涯と徳：

ウサイド（アッラーの御満悦あれ）は、書記、弓術、そして水泳に秀でていた。彼は父の地位、勇敢さ、そして寛大さを受け継いだ。イスラームを受け入れる以前、彼はマディーナの指導者の一人であり、高貴なアラブ人の中でも名高い弓兵の一人であった。彼がイスラームを受け入れ、全能にして称賛に値する御方の道へ導かれたとき、彼の名誉は増し、その地位は高まり、アッラーとその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の援助者の一人となった。
ウサイドは、第一回アカバの誓約の後、マディーナにおいてムス‘アブ・イブン・‘ウマイルの手によってイスラームを受け入れた。彼は第二回アカバの誓約に出席し、バヌー・‘アブド・アル＝アシュハルの代表であった。[1] 彼はウフドの戦いおよびその後の諸戦いに参加した。ウフドにおいて七か所の傷を負いながらも、多くの者が退いたときに、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のそばに堅く留まった。‘ウマルのカリフ時代には、ウサイドはバイト・アル＝マクディス（エルサレム）の征服を目撃した者の一人であった。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を称賛し、こう言われた。ウサイド・イブン・フダイルとは、なんと優れた人物であることか。[2]
‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った。バヌー・‘アブド・アル＝アシュハルのアンサールの中で、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の後において、徳において彼らを上回る者はいなかった三人がいる。サアド・イブン・ム‘アーズ、ウサイド・イブン・フダイル、そして‘アッバード・イブン・ビシュルである。[3]
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク（アッラーの御満悦あれ）は彼を尊重し、誰一人として彼を差し置くことはなかった。
彼の生涯の驚異の一つに、暗い夜に彼と‘アッバード・イブン・ビシュルがアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共にいた際に起こった奇跡がある。彼らが別れて立ち去ると、そのうちの一人の杖が光り輝き、その光によって歩いた。そして道を分かったとき、この者の杖もあの者の杖も共に光り輝いたのである。[4]
また別の出来事として、彼がアッラーの御言葉を甘美な声で朗誦していたため、天使たちが天蓋のように彼の上に降りてきたことがあった。[5]

❖ 御逝去：

ウサイド・イブン・フダイルは、ヒジュラ暦二十年のシャアバーン月に逝去した。‘ウマル・イブン・アル＝カッターブ（アッラーの御満悦あれ）は彼のために葬送礼拝を執り行い、アル＝バキーウに埋葬するまで彼を担いだ。

[1] Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ（1/341）
[2] アッ＝ティルミズィー（3797）
[3] アル＝ハーキム（3/229）
[4] アル＝ブハーリー、ムアッラク（3805）
[5] アル＝ブハーリー（5918）、ムスリム（796）

知識テスト — 第 27 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	taraddā の意味は何か。	[a] 財産を失った[b] 病に倒れた[c] 火獄に落ちた	c
ハディース	al-hudā（導き）とは何を意味するか。	[a] 誠実さ[b] 有益な知識[c] 正しい行い	b
アキーダ	シルクの無効性を証明し、その徒を非難する明白かつ決定的な証拠の一つは何か。	[a] 天使の多さ[b] 人類の多様性[c] 宇宙の秩序	c
フィクフ	定期的なスンナ礼拝（sunan al-rawātib）の中で最も強調されているものは何か。	[a] ジュムʿアのスンナ[b] ファジュルのスンナ[c] ズフルのスンナ	b
スィーラ	バヌー・アン＝ナディールの指導者は誰であったか。	[a] フヤイイ・イブン・アフタブ[b] ʿアブドゥッラー・イブン・ウバイイ[c] サラーム・イブン・アビー・アル＝フカイク	a
サハーバ	ウサイド・イブン・フダイル（アッラーの御満悦あれ）の奇跡の一つは何であったか。	[a] 鳥が彼に語りかけた[b] ジンが彼に挨拶した[c] 彼の杖が光った	c

28 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝バラド章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لَا أُقْسِمُ بِهَذَا الْبَلَدِ (1) وَأَنْتَ حِلٌّ بِهَذَا الْبَلَدِ (2) وَوَالِدٍ وَمَا وَلَدَ (3) لَقَدْ خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ فِي كَبَدٍ (4) أَيَحْسَبُ أَنْ لَنْ يَقْدِرَ عَلَيْهِ أَحَدٌ (5) يَقُولُ أَهْلَكْتُ مَالًا لُبَدًا (6) أَيَحْسَبُ أَنْ لَمْ يَرَهُ أَحَدٌ (7) أَلَمْ نَجْعَلْ لَهُ عَيْنَيْنِ (8) وَلِسَانًا وَشَفَتَيْنِ (9) وَهَدَيْنَاهُ النَّجْدَيْنِ (10) فَلَا اقْتَحَمَ الْعَقَبَةَ (11) وَمَا أَدْرَاكَ مَا الْعَقَبَةُ (12) فَكُّ رَقَبَةٍ (13) أَوْ إِطْعَامٌ فِي يَوْمٍ ذِي مَسْغَبَةٍ (14) يَتِيمًا ذَا مَقْرَبَةٍ (15) أَوْ مِسْكِينًا ذَا مَتْرَبَةٍ (16) ثُمَّ كَانَ مِنَ الَّذِينَ آمَنُوا وَتَوَاصَوْا بِالصَّبْرِ وَتَوَاصَوْا بِالْمَرْحَمَةِ (17) أُولَئِكَ أَصْحَابُ الْمَيْمَنَةِ (18) وَالَّذِينَ كَفَرُوا بِآيَاتِنَا هُمْ أَصْحَابُ الْمَشْأَمَةِ (19) عَلَيْهِمْ نَارٌ مُؤْصَدَةٌ (20)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。
われはこの都にかけて誓う。＊そして、あなたはこの都において（自由なる）居住者である。＊また、父と、その産んだものにかけて。＊まことに、われは人間を困難の中に創造した。＊彼は、自分に対して誰も力を持たないと考えるのか。＊彼は言う、わたしは多くの財を費やしたと。＊彼は、自分を誰も見ていないと考えるのか。＊われは彼に二つの目を与えなかったか。＊また一つの舌と二つの唇を。＊そして二つの道を示さなかったか。＊だが彼は険しい峠を越えようとはしなかった。＊その険しい峠とは何かを、あなたに理解させるものは何であろうか。＊それは奴隷を解放すること。＊あるいは、飢饉の日に食を与えること。＊近親の孤児に。＊あるいは困窮の中にある貧者に。＊そしてさらに、信仰し、忍耐を勧め合い、慈悲を勧め合う者たちの一人となること。＊それらの者こそ右の仲間である。＊しかし、われらの印を拒否した者たちそれらの者こそ左の仲間である。＊彼らの上には閉ざされた火がある。

❖ このスーラのテーマ：

人間の貧弱さと困難な状態、ならびにその救済への道を明らかにすること。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
لَا أُقْسِمُ	lā uq’simu	強調のための誓い。
حِلٌّ	ḥill	居住者、滞在者。
لُبَدًا	labadan	多くの、豊富な。
وَهَدَيْنَاهُ	wa-hadaynāhu	われは彼に示した。
النَّجْدَيْنِ	an-najdayn	二つの道、すなわち善と悪。
فَلَا اقْتَحَمَ	falā iq’taḥama	それにもかかわらず越えようとしなかった。

アラビア語	音写	意味
الْعَقَبَةَ	al-ʿaqabah	来世における困難な峠。
فَكُّ رَقَبَةٍ	fakku raqabah	奴隷を解放すること。
مَسْغَبَةٍ	masghabah	飢饉、激しい飢え。
ذَا مَقْرَبَةٍ	dhā maqrabah	近親関係にある者。
ذَا مَتْرَبَةٍ	dhā matrabah	極度に困窮した者。
الْمَيْمَنَةِ	al-maymanah	右側の者たち、すなわち楽園へ導かれる者。
الْمَشْأَمَةِ	al-mash’amah	左側の者たち、すなわち火獄へ導かれる者。
مُؤْصَدَةٌ	mu’ṣadah	閉ざされた、封じ込められた。

❖ 全体的な意味：

本章はマッカ啓示のスーラであり、至高なるアッラーは聖なる都マッカにかけて誓われ、人間が困難と労苦の中に創造されたことを示される。人は試練と責任を負う存在でありながら、自らが監視されず、誰も自分に対して力を持たないと錯覚することがある。

しかしアッラーは彼に視覚、言語、そして善悪の二つの道を示された。それにもかかわらず、多くの人は来世における救済へ至る険しい峠を越えようとはしない。この峠を越えるとは、自己の欲望に打ち勝ち、奴隷を解放し、飢饉の時に食を施し、近親の孤児や困窮者を助け、さらに信仰を堅持し、互いに忍耐と慈悲を勧め合うことである。

そのような者たちは右の仲間と呼ばれ、楽園に入れられる。一方、アッラーの印を拒否する者たちは左の仲間であり、彼らには閉ざされた火が待ち受けているのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 人間は試練と困難の中に創造された存在であることの自覚。
2. 善悪の道は明確に示されており、人は選択の責任を負うこと。
3. 真の救済は信仰と具体的な善行の結合にあること。
4. 忍耐と慈悲を互いに勧め合う共同体的精神の重要性。
5. 来世における最終的な帰結は、右の仲間と左の仲間に分かれるという厳粛な警告。

月曜日：ハディースモジュール — イーマーンの徳と、その上に死ぬ者の報い

アブドゥッラー・イブン・アムル（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った：
アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。

誰でも火獄から遠ざけられ、楽園に入ることを望むなら、アッラーと終末の日を信じる状態で死が彼に訪れるようにせよ。そして、自分が人からそのように扱われたいと思うように、人々を扱いなさい。[1]

❖ 解説：

楽園に入ること、そして火獄から救われることは、すべてのムスリムが目指す究極の目的であり、そのために大切なものを犠牲にしてでも求めるものである。

このハディースにおいて、預言者 ﷺ はこの崇高な目的を達成するための二つの大きな要因を示された。

1. **アッラーの権利を果たすこと**
   それはアッラーと終末の日を信じること、そして他の信仰の柱やイーマーンに含まれる行いを実践することである。
2. **人々の権利を果たすこと**
   善良な態度と良い交わりによって人々を扱い、自分がそのように扱われたいと望むように接することである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 楽園への入場と火獄からの救済は、アッラーと終末の日を信じるすべてのムスリムの目標である。
2. 信仰の柱を学び、それを守ることへの奨励。
3. 宗教において堅固であり続け、イーマーンの上に忍耐し、死が訪れるまでそれを維持することへの励まし。
4. クルアーンとスンナにしっかりと従うことは、試練からの安全、迷いからの保護、誤りからの導きを保証する。
5. 最も偉大な行いの一つは、人々に善を望み、自分が望む最善の方法で彼らを扱うことである。

[1] ムスリム（1844）によって伝承された。

❖ 火曜日：アキーダモジュール — 多神教崇拝（Shirk）の害悪とその帰結

シルク（多神教崇拝 或いはアッラーに同位者を配すること）には、重大な影響、深刻な悪、そして破滅的な害が存在する。その中には次のものがある。

1. シルクは最悪の罪であり、最大の大罪である。
   アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   あなたがたに、最も重大な大罪を告げ知らせようか。
   私たちは言った。はい、アッラーの使徒よ。
   彼は言われた。アッラーに同位者を配すること、そして両親への不従順である。[1]
2. シルクは、至高なる主に関する欠陥の帰属であり、被造物を主に似せることである。
   それはまた、アッラーが御自身から否定された欠点を帰することである。誰であれアッラーに対してシルクを犯す者は、アッラーが御自身を清浄とされた事柄を帰属させたことになる。これはアッラーに対する最大の敵対、反抗、ならびに挑戦である。
3. 大シルクは、それを犯したまま死ぬ者に対して、決して赦されない。
   至高なるアッラーは仰せられた。
   まことにアッラーは、御自身に同位者を配することを赦されない。しかし、それ以下のことについては、御望みの者に赦される。そしてアッラーに同位者を配する者は、まさしく甚大な罪を捏造したのである。[2]
4. 大シルクは、すべての行為を無効にする。
   至高なるアッラーは仰せられた。
   もし彼らが同位者を配したならば、彼らの行っていたすべてのことは無価値となったであろう。[3]
   また仰せられた。
   もしあなたが同位者を配するならば、あなたの行為は必ず無効となり、あなたは必ず損失者の一人となる。[4]
5. 大シルクは、その実行者が火獄に入れられ、楽園を禁じられることを必然とする。
   至高なるアッラーは仰せられた。
   まことに、アッラーに同位者を配する者には、アッラーは楽園を禁じられ、その住処は火である。不正者たちには、いかなる援助者も存在しない。[5]
   また、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   アッラーに何ものも同位者として配することなく死ぬ者は楽園に入る。そしてアッラーに何かを同位者として配して死ぬ者は火に入る。[6]
6. シルクは最大の不正であり、虚偽である。
   不正とは、本来属すべき場所以外に物事を置くことである。ゆえに、アッラー以外を礼拝する者は、礼拝を本来帰すべき御方から逸らし、属すべきでないものへ置いたことになる。これは最大の不正であり、最も忌むべき虚偽である。

至高なるアッラーは仰せられた。

まことに、同位者を配することは重大な不正である。[7]

また仰せられた。

そしてアッラーに同位者を配する者は、まさしく甚大な罪を捏造したのである。[2]

7. 至高なるアッラーとその使徒は、多神崇拝者からの無関係を宣言された。

至高なるアッラーは仰せられた。

そして大巡礼の日における、アッラーとその使徒から人々への布告である。すなわち、アッラーは多神崇拝者から無関係であり、またその使徒も同様である。[8]

---

[1] アル＝ブハーリー（6871）およびムスリム（88）によって伝承された。
[2] ［アン＝ニサー章：48］
[3] ［アル＝アンアーム章：88］
[4] ［アッ＝ズマル章：65］
[5] ［アル＝マーイダ章：72］
[6] ムスリム（93）によって伝承された。
[7] ［ルクマーン章：13］
[8] ［アッ＝タウバ章：3］

水曜日：フィクフ モジュール — ウィトルの礼拝

❖ その規定：

ウィトルは、強く確証されたスンナ（預言者によって継続され、強く勧められた実践）であり、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が人々に勧め、励まされた礼拝である。彼は言われた。まことに、アッラーは唯一なる御方であり、奇数を愛される。[1] また彼は言われた。クルアーンの民よ、ウィトルを行いなさい。まことにアッラーは唯一なる御方であり、奇数を愛される。[2]

❖ その時間：

ウィトルの時間は、夜の礼拝（イシャー）の後から夜明けまでである。彼は言われた。まことにアッラーは、あなたがたに一つの礼拝を加えられた。それは赤い駱駝よりもあなたがたにとって良いものである。それがウィトルであり、その時間は夜の礼拝と夜明けの間に置かれている。[3] 夜の終わりにウィトルを行うことは、夜の初めに行うよりも優れている。夜の後半に起きて礼拝できると確信している者は、遅らせる方が良い。しかし確信がない者は、眠る前に行うべきである。使徒は言われた。
夜の後半に起きられないことを恐れる者は、夜の初めにウィトルを行いなさい。夜の後半に起きることを望む者は、その時に行いなさい。まことに夜の後半の礼拝は立ち会われるものであり、それはより優れている。[4]

❖ その礼拝形式と回数：

ウィトルの最小は一回である。彼は言われた。ウィトルは夜の終わりに行う一回である。[5]最小の完成形は三回であり、二回ごとに区切る形が望ましい。また、続けて行い最後に一度だけ区切ることも許されている。ただし、日没後の礼拝と似ないようにすることが望ましい。第一回目にいと高き御方を読む章、第二回目に不信仰者たちを読む章、第三回目に純正を読む章を朗誦することが勧められている。[6] 最大は十一回であり、二回ずつ行い、最後に一回を加えて奇数とする。アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った。アッラーの使徒は、夜に十一回礼拝し、二回ごとに区切り、最後に一回を加えて奇数とされた。[7]

---

[1] アル＝ブハーリー（6410）およびムスリム（2677）によって伝承された。
[2] アブー・ダーウード（1416）によって伝承された。
[3] アブー・ダーウード（1418）およびアッ＝ティルミズィー（452）によって伝承された。
[4] ムスリム（755）によって伝承された。
[5] ムスリム（752）によって伝承された。
[6] アン＝ナサーイー（1736）によって伝承された。
[7] ムスリム（736）によって伝承された。

五回または七回でウィトルを行うことも許されている。基本的には二回ずつ区切って行う方が望ましいが、最後まで座らずに続けて行うことも認められている。ウンム・サラマ（アッラーの御満悦あれ）は言った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、七回または五回でウィトルを行われ、途中で区切りの挨拶や会話を挟むことはなかった。[1]
もし九回を続けて行う場合は、八回目の後に最初の座位を行い、その後立ち上がって九回目を行い、最後に区切りの挨拶をする。[2]
夜の間にウィトルを行い損ねた場合は、午前中の礼拝の時間帯に、偶数回で補うことが勧められている。たとえば、普段三回で行っている者は四回にし、五回で行っている者は六回にする。このように、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）も行われた。

[1] イブン・マージャ（1192）によって伝承された。
[2] イブン・ヒッバーン（2442）によって伝承された。
[3] ムスリム（746）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール ― アハザーブの戦い

❖ 日付：

アハザーブの戦いは、ヒジュラ後五年目のシャウワール月に起こった。

❖ 原因：

その原因は、マディーナからハイバルへ追放されていたバヌー・ナディールのユダヤ人たちが、指導者二十名をクライシュのもとへ送り、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）との戦いを扇動し、支援を約束したことであった。クライシュはこれに応じ、その後ガタファーン族のもとへ向かい参戦を呼びかけ、彼らも同意した。[1]

❖ 出来事：

クライシュはアブー・スフヤーン・イブン・ハルブの指揮のもと出陣し、ガタファーンはウヤイナ・イブン・ヒスンの指揮のもと出陣した。さらにバヌー・ムッラ、バヌー・アシュジャʻ、バヌー・アサドもこれに加わった。これらの連合軍は、約一万人の兵を率いてマディーナへ進軍した。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は敵の接近を知ると、約三千人のムスリムに準備を命じ、町と多神教徒の軍勢を隔てるために壕を掘るよう命じられた。これはサルマーン・アル＝ファーリスィー（アッラーの御満悦あれ）の提案によるものであった。

ムスリムたちは敵の到達より先に完成させるため懸命に働き、激しい困難、疲労、飢えに耐えた。彼らは土を肩に担ぎ、忍耐をもって作業を続け、詩句や言葉を唱えつつ、主の約束を確信していた。

壕は完成し、不信仰者たちは到着してマディーナを包囲し、一か月間にわたり包囲を続けた。[2]

その間、バヌー・ナディールの指導者フヤイイ・イブン・アフタブはバヌー・クライザのもとを訪れ、彼らの指導者カʻブ・イブン・アサドと会った。そして、アッラーの使徒との間にあった条約を破棄するよう圧力をかけ続けた。ついに彼は条約を破り、バヌー・クライザは連合軍と同盟を結び、アッラーの使徒に敵対した。

こうしてムスリムに対する試練はさらに激しさを増し、偽信者や心の弱い者たちの心は大きく揺さぶられた。至高なるアッラーは仰せられる。

彼らがあなたがたの上から、また下から攻め寄せ、目は恐怖により見開かれ、心は喉元まで達し、あなたがたはアッラーについて様々な思いを抱いたときのことを思い起こせ。[34]

[1] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（6/12）。
[2] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（6/14）。
[3] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（6/35）。
[4] アハザーブ章：10。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）とその教友たちについて言えば、確信が彼らの心を満たし、彼らの舌は祈願をいっそう多く唱えた。使徒の祈りの中には、次のようなものがあった。

啓典を下された御方よ、清算に迅速なる御方よ、連合軍を打ち破り給え。アッラーよ、彼らを打ち破り、彼らを揺り動かし給え。[1]

❖ 結果：

至高なるアッラーは、御自らの御力によって連合軍の中に事態を引き起こし、彼らを弱体化させ、その力を減じられた。ヌアイム・イブン・マスウード・イブン・アーミル・アル＝ガタファーニー（アッラーの御満悦あれ）はイスラームを受け入れ、密かに自分の民のもとからアッラーの使徒のもとへ赴いた。その後彼は戻り、知恵をもって計略を巡らし、多神教徒とユダヤ人の間に分裂を生じさせた。[2]

さらにアッラーは、風と天使たちの軍勢を遣わして勝利を完成させられた。それは彼らを激しく揺さぶり、彼らの心に恐怖と戦慄を投げ込んだ。彼らは安定を見いだせず、天幕も立たず、望みも果たされなかった。こうして彼らは屈辱のうちに敗走し、敗者として引き返した。

この戦いに関して、アッラーはアハザーブ章の冒頭において啓示を下されたのである。

[1] アル＝ブハーリー（4115）およびムスリム（1742）によって伝承された。
[2] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（6/59）。

土曜日：サハーバモジュール — ビラール・イブン・ラバーハ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、高貴なる教友ビラール・イブン・ラバーハである。彼のクンヤ（敬称）は、ハマーマである。彼は、ヒジュラの四十二年前にマッカにおいて誕生した。

❖ 生涯と徳：

ビラール（アッラーの御満悦あれ）は、背が高く、細身で、肌の色は黒く、顔の髭は薄かった。彼は奴隷の身分にあった時期に、早い段階でイスラームを受け入れた。それゆえ、イスラームへの先駆者の一人であり、真実に忠実で、忍耐強く、アッラーのために加えられる害に対して堅忍不抜であった。

ウマイヤ・イブン・ハラフは、激しい真昼の暑さの中で彼を連れ出し、大きな石を彼の胸の上に置き、こう言った。
アッラーにかけて、お前はこのまま死ぬか、あるいはムハンマドを否定し、アル＝ラートとアル＝ウッザーを崇拝するまで、この状態のままであろう。[1]
彼の主人たちは、彼をうつ伏せに寝かせ、押さえつけながら言った。
お前の宗教はアル＝ラートとアル＝ウッザーである。
しかし彼は答えた。
わが主はアッラーである。唯一なる御方、唯一なる御方。[2]
彼はまた、アブー・ジャハルや他の者たちからも、同様に多くの害を受けた。

‘アブドゥッラー・イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）は言った。
最初に公然とイスラームを宣言した者は七人であった。すなわち、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）、アブー・バクル、‘アンマール、その母スム ayya、スハイブ、ビラール、そしてアル＝ミクダードである。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）については、アッラーがその叔父アブー・ターリブによって彼を守られた。アブー・バクルについては、アッラーが彼の一族によって彼を守られた。その他の者たちについては、多神崇拝者たちが彼らを捕らえ、鉄の鎖帷子を着せ、太陽の下に立たせた。彼らの多くはやがて彼らの求めに応じたが、ビラールだけは例外であった。彼はアッラーのために自らを取るに足らぬ者とみなし、またその民においても取るに足らぬ者とみなされていた。彼らは彼を子どもたちに引き渡し、子どもたちは彼をマッカの山道で引きずり回したが、その間、彼は唯一なる御方、唯一なる御方と唱え続けていたのである。[3]

ビラール（アッラーの御満悦あれ）は、バドルの戦いおよびその他すべての遠征に参加した。彼は、イスラームにおける最初のムアッズィンとして特筆される存在であり、ア

ッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のムアッズィンであった。彼は預言者の生前、旅の時にも在住の時にも、そのためにアザーンを呼びかけた。

[1] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（3/57）。
[2] スィヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラーʾ（1/352）。
[3] イブン・マージャ（150）による伝承。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼の楽園における地位について証言された。あるとき、ファジュル（夜明け）の礼拝の際に、彼に向かって次のように言われた。

おお、ビラールよ。あなたがイスラームにおいて行った行為のうち、最も希望を抱いている行為について私に語りなさい。私は楽園において、あなたの足音を私の前方に聞いたのである。

彼は答えた。
私が最も望みを抱いている行為はこれです。昼であれ夜であれ、いかなる時であっても、私が身を清めた（浄化した）ならば、その浄化のもとで、私に定められた分だけ礼拝を必ず行うことです。[1]

❖ 御逝去：

ビラール・イブン・ラバーハ（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦二十年にダマスカスにおいて逝去し、同地の墓地に埋葬された。享年六十三歳であった。

[1] アル＝ブハーリー（1149）およびムスリム（2458）による伝承。

週次知識テスト — 第 28 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	al-najdayn（アン＝ナジュダイン）の意味は何か。	[a] 善と悪の二つの道[b] 夜と昼[c] 現世と来世	a
ハディース	楽園に入ること、そして火獄から救われる原因の一つは、何を果たすことであるか。	[a] アッラーの権利 [b] 被造物の権利[c] アッラーの権利と被造物の権利	c
アキーダ	最も悪しき罪、そして最大の大罪は何か。	[a] シルク（多神崇拝）[b] 姦通[c] 殺人	a
フィクフ	ウィトル礼拝の時間はいつか。	[a] マグリブ礼拝とファジュルの間[b] ʿイシャー礼拝とファジュルの間[c] ʿイシャー礼拝と日の出の間	b
スィーラ	アル＝アフザーブの戦いが起こったのは何年か。	[a] ヒジュラ暦 5 年 [b] ヒジュラ暦 4 年 [c] ヒジュラ暦 6 年	a
サハーバ	ビラール（アッラーの御満悦あれ）が特に際立っていた点は何か。	[a] イスラームにおける最初のムアッズィンであったこと[b] イスラームにおける最初の殉教者であったこと[c] イスラームにおいて最初に矢を放った者であったこと	a

29 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — スーラト・アル＝ファジュル（前半）

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْفَجْرِ (1) وَلَيَالٍ عَشْرٍ (2) وَالشَّفْعِ وَالْوَتْرِ (3) وَاللَّيْلِ إِذَا يَسْرِ (4) هَلْ فِي ذَلِكَ قَسَمٌ لِذِي حِجْرٍ (5) أَلَمْ تَرَ كَيْفَ فَعَلَ رَبُّكَ بِعَادٍ (6) إِرَمَ ذَاتِ الْعِمَادِ (7) الَّتِي لَمْ يُخْلَقْ مِثْلُهَا فِي الْبِلَادِ (8) وَثَمُودَ الَّذِينَ جَابُوا الصَّخْرَ بِالْوَادِ (9) وَفِرْعَوْنَ ذِي الْأَوْتَادِ (10) الَّذِينَ طَغَوْا فِي الْبِلَادِ (11) فَأَكْثَرُوا فِيهَا الْفَسَادَ (12) فَصَبَّ عَلَيْهِمْ رَبُّكَ سَوْطَ عَذَابٍ (13) إِنَّ رَبَّكَ لَبِالْمِرْصَادِ (14)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。黎明にかけて。また十夜にかけて。また偶数と奇数にかけて。また夜が過ぎ去るときにかけて。それらの中に、理性ある者にとって十分な誓いはないであろうか。あなたは、あなたの主がʿアードに対していかに処されたかを見なかったか。高き柱を有したイラムに。そのようなものは、この地において創造されたことがなかった。また谷間の岩を切り開いたサムードに。また杭の主であったフィルアウンに。これらは皆、諸国において暴虐を行い、その中で腐敗を増大させた。それゆえ、あなたの主は彼らの上に懲罰の鞭を注がれた。実に、あなたの主は見張っておられる御方である。[1]

❖ 節の主題：

暴虐の結末を明らかにすること。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
وَلَيَالٍ عَشْرٍ	wa-layālin ʿashr	ズル＝ヒッジャ月最初の十夜と、その間の善行への誓い
وَالشَّفْعِ وَالْوَتْرِ	wa-sh-shafʿi wa-l-watr	すべての偶数と奇数への誓い
وَاللَّيْلِ إِذَا يَسْرِ	wa-l-layli idhā yasr	夜がその闇とともに過ぎ去るとき
لِذِي حِجْرٍ	li-dhī ḥijr	理性を有する者
إِرَمَ	Iram	ʿアードの部族
ذَاتِ الْعِمَادِ	dhāt al-ʿimād	力と高大な柱建築を有すること
جَابُوا	jābū	切り開いた
بِالْوَادِ	bi-l-wādī	アラビア北西部のワーディー・アル＝クラー
ذِي الْأَوْتَادِ	dhī al-awtād	自らの支配を支えた軍勢を有する者
لَبِالْمِرْصَادِ	la-bi-l-mirṣād	罪人を見守り、猶予を与えた後に捕らえること

❖ 全体的な意味：

このスーラは、四つの偉大な誓いをもって始まる。それらは驚くべき現象を含み、健全な理性を有する者に対して、その創造主の力と、御方のみが礼拝されるべき権利を示すものである。

その後、節は過去の諸民族‘アード、サムード、そしてフィルアウンの結末を語り、彼らが使徒たちを拒絶した結果として何が彼らに降りかかったかを述べる。これはクライシュおよびすべての不信仰者に対する警告であり、否認の道を歩む者には同様の結末が待っていることを示している。

❖ このスーラから得られる益：

1. ズル＝ヒッジャ月最初の十日間は、年間の他の日々に勝る徳を有すること。
2. 深遠な英知と驚くべき秩序に満ちたこれらの創造の徴は、その創造者への信仰を確証する明白な証拠であること。
3. 健全な理性は、その持ち主をアッラーの認識と信仰へと導くこと。
4. 過去の諸民族から祝福が取り除かれ、懲罰に置き換えられた原因は、彼らの暴虐と不信仰であり、それはアッラーが彼らに授けられた祝福によって助長されたものであったこと。
5. 過去の諸民族の状態を想起することは、教訓と戒めとなること。

[1] ［スーラト・アル＝ファジュル：1–14］

月曜日：ハディース モジュール — 礼拝におけるフシュー（謙虚な心）への勧奨

アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。ある男がアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに来て言った。

私に助言をお与えください。そして簡潔にしてください。

彼は言われた。
あなたが礼拝のために立つとき、別れを告げる者の礼拝を捧げなさい。明日、弁解を要するような言葉を語るな。そして、人々の手の中にあるものに対する望みを断ちなさい。[1]

❖ 解説：

このハディースは、もしそれに従って行動するならば、人の諸事を整え、成功へと導く偉大な助言を含んでいる。

1. 礼拝の完成：
   その柱、義務、推奨行為を完全に果たし、その中でイフサーンの位階を実現すること。さらに、それを今生における最後の礼拝であるかのように、再び礼拝することはない者の礼拝として行うことである。このような礼拝は、あらゆる卑劣な性質を防ぎ、すべての高貴な徳を促す。なぜなら、それは心を照らし、信仰を増大させるからである。
2. 舌を守ること：
   後に弁解や謝罪を必要とするような言葉を避けることである。いったん言葉が口から発せられると、それは語った者を支配し、取り返しのつかない害をもたらすことがある。謝罪が必要となるのは、アッラーに対してである場合もあるそれは悔悟（tawbah）によってであり、罪を避けることは赦しを求めることよりも優れているまたは人々に対してである場合もある。人々の権利は、許しを請い、償いを行うことによってのみ回復される。
3. アッラーのみに依拠すること：
   現世的事柄においても宗教的事柄においても、人々が所有するものに望みを抱くことを断ち、ただアッラーのみに依り頼むことである。求めるのはただアッラーに対してのみであり、希望を置くのもただその御恩寵に対してのみである。人々の手の中にあるものに絶望することは、自らを守る盾となる。何かに対する望みを断つ者は、それから自立するのである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 礼拝の柱・義務・推奨行為を完全に満たす形で礼拝を確立することの重要性。
2. 礼拝におけるフシュー（謙虚な心）の重要性、そしてアッラーと対話しているという自覚を持つこと。
3. ムスリムは舌を守り、後に非難や謝罪を要する言葉を避けるべきである。
4. 糧（rizq）についてアッラーに依拠し、その御方にのみ頼り、その御恩寵から求め、人々から自立することの必要性。

[1] アフマド（23545）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — シルクの原因と手段

シルク（shirk）とりわけ大シルク（al-shirk al-akbar）は、きわめて重大で危険なものである。シャリーアは、それへと至るあらゆる手段を閉ざしており、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、それに通じるすべての原因について警告された。

禁じられた原因および手段の中には、次のものがある。

1. 正しき者に関して過度に走ること：
   これは、アッラーに対するシルクの最大の原因である。使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   （過度に走ることを警戒せよ。まことに、あなたがた以前の者たちを滅ぼしたのは、ただ過度であった。）[1]

正しき者たちに関するこのような誇張と過度のゆえに、地上において最初にシルクが現れたのである。それはヌーフ（アッラーの平安あれ）の民の時代であった。彼らが滅び去った後、シャイターンは彼らの民に対し、彼らがかつて集っていた場所に記念物を建て、その名を彼らの名にちなんで付けるように吹き込んだ。彼らはそれを実行したが、当初それらを礼拝することはなかった。しかし、その世代が滅び、知識が忘れ去られると、それらは礼拝の対象とされたのである。[2]

これはシャイターンの欺きの一つである。すなわち、まず正しき者やその墓を過度に崇敬することへと招き、次に人々の心に彼らへの執着を植え付け、彼らの近くでの祈願は応えられると主張させ、最後には墓中の者を呼び求め、彼を礼拝し、その墓を偶像とし、その周囲を巡回（ṭawāf）し、そこで犠牲を屠る段階へと移行させるのである。

2. 墓の上にモスクを建て、その中に像を設けること：
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、これについて厳しく警告された。ウンム・ハビーバおよびウンム・サラマ（両者にアッラーの御満悦あれ）が、アビシニアで見た、像を有する教会についてアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に言及したとき、彼は言われた。

彼らは、その中に正しき者が死ぬと、その墓の上にモスクを建て、その中に像を設けた。彼らは復活の日において、アッラーのもとで最も悪しき被造物である。[3]

また彼は言われた。
おおアッラーよ、私の墓を礼拝される偶像としないでください。預言者たちの墓を礼拝の場とした民に、アッラーの呪いあれ。[4]

さらに彼は言われた。
まことに、あなたがた以前の者たちは、預言者たちの墓を礼拝の場としていた。注意せよ。墓を礼拝の場としてはならない。私はあなたがたにそれを禁ずる。[5]

3. 墓の上に建造物を建て、漆喰を塗り、ドームを設けることなど：
これもまた、明白なシルクの原因の一つである。ジャービル（アッラーの御満悦あれ）は言った。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、墓に漆喰を塗ること、その上に座ること、そしてその上に建造することを禁じられた。[6]

[1] アフマド（1851）、アン＝ナサーイー（3057）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（4920）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（3873）、ムスリム（528）によって伝承された。
[4] アル＝ブハーリー（437）、ムスリム（530）によって伝承された。
[5] ムスリム（532）によって伝承された。
[6] ムスリム（970）によって伝承された。

水曜日：フィクフ モジュール — ドゥハー礼拝（午前の任意礼拝）

❖ 定義：

日の初め、太陽が上がってから正午に達する前までの間に行う礼拝である。

❖ 徳：

この礼拝を勧め、その徳を述べる伝承が複数ある。例として次がある。

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）は言った。私の親友（預言者）は私に三つのことを勧めた。毎月三日断食すること、ドゥハー礼拝を二回分行うこと、そして寝る前にウィトル礼拝を行うこと。[1] また預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。毎朝、あなたがたの各関節には施しが求められる。あらゆる称賛の言葉は施しであり、感謝の言葉は施しであり、アッラーの他に真の神はないという宣言は施しであり、アッラーは偉大であるという宣言は施しである。善を勧めることは施しであり、悪を止めることは施しである。そして、それらすべての代わりとして、ドゥハー礼拝の二回分で足りる。[2]

❖ 時間：

その時間は、日の出後しばらくして（目安として約 15 分後）から始まり、正午直前まで続く（目安として正午の礼拝への呼びかけの約 15 分前まで）。

最も優れた時間は終わり頃、暑さが強くなる時間帯である。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が言われたためである。（たびたび主に立ち返る者の）礼拝は、子ラクダが砂の熱さを感じる時である。[3]

意味：地面が熱くなり、暑さのために子ラクダが座り込むほどの時間である。

❖ 本文から得られる益：

1. ドゥハー礼拝は、預言者が勧めたスンナである。
2. 日の出後しばらくしてから正午直前まで、どの時間にも行える。
3. 午前の遅い時間、暑さが強い頃に行うのが最も徳が大きい。
4. 体の各関節に課される日々の施しを満たす手段となる。

---

[1] ブハーリー（1178）、ムスリム（721）。

[2] ムスリム（720）。

[3] ムスリム（748）。

木曜日：スィーラモジュール — バヌー・クライザの戦い

❖ 日付：

ヒジュラ後 5 年、ムスリムがアル＝アフザーブの戦いから帰還した後に起こった。

❖ 原因：

その原因は、バヌー・クライザが条約を破り、連合軍に加わったことである。ジブリール（平安がありますように）は、アル＝アフザーブの戦いから帰還した後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに来て言った。
あなたは武器を置いた。しかしアッラーに誓って言う、私たちはまだ武器を置いていない。彼らのもとへ向かいなさい。
使徒は言われた。どこへか。
彼は言った。ここへ。そしてバヌー・クライザの方を指し示した。[1]

❖ 出来事：

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、人々に呼びかける者を任命してこう告げさせた。 あなたがたの誰も、バヌー・クライザの地に到着するまで午後の礼拝を行ってはならない。[2]

そして彼はイブン・ウム・マクトゥームをマディーナの代理として任命し、三千人のムスリムと共にバヌー・クライザの地域へ向かった。旗はアリー・イブン・アビー・ターリブアッラーの御満悦あれ）が掲げていた。

彼らは彼らの土地を包囲した。すると、彼らの指導者カアブ・イブン・アサドは、自分の民に三つの選択肢を提示した。

イスラームを受け入れ、ムハンマドの宗教に加わること。

妻子を殺し、その後出て行き戦うこと。

土曜日に奇襲攻撃を行うこと（その日はムスリムが安全だと思っている日である）。

しかし彼らはこの三つすべてを拒否した。[3]

包囲は二十五夜続いた。するとアッラーは彼らの心に恐怖を投げ入れられたため、彼らは耐えることができず、最終的にアッラーの使徒の裁定に従うことに同意した。

❖ 結果：

彼らが裁定に従うことに同意したとき、アウス族は言った。

アッラーの使徒よ。あなたはバヌー・カイヌカーに対して、あなたが知っているように扱われました。彼らはハズラジュ族の同盟者でした。これらは我々の同盟者です。

すると使徒は言われた。あなたがたの中の一人が彼らについて裁くことに満足しないのか。彼らは言った。はい、満足します。そこでアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。それならばサアド・イブン・ムアーズに任せよう。彼らは言った。それで満足です。そして使徒は、アル＝アフザーブの戦いで負傷しマディーナにいたサアド・イブン・ムアーズを呼び寄せた。

[1] Al-Bukhārī (4117).
[2] Al-Bukhārī (4119).
[3] Al-Fuṣūl (173).

彼はロバに乗ってやって来た。そのとき人々は彼に言った。
あなたの同盟者たちに寛大に接してほしい。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らについての裁定をあなたに任せられたのだから。

サアドが預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに到着すると、人々は彼をロバから降ろし、言った。
サアドよ、この人々はあなたの裁定に従うことに同意した。

彼は言った。
私の裁定は彼らに対して拘束力を持つのか。

彼らは言った。
はい。そしてムスリムに対してもです。

彼は言った。
そしてここにいる方々に対してもか。
そう言って、敬意を込めてアッラーの使徒の方を指した。

使徒は言われた。
そうだ。私に対してもである。

するとサアドは言った。
それなら私は裁定する。彼らの戦える男たちは処刑され、女と子どもたちは捕虜とされるべきである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
あなたは王の裁定によって裁いた。[1]

その後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、成人に達しているすべての男子を処刑するよう命じられた。一方、まだ成人していない者たちは助命された。彼らはマディーナの市場に掘られた溝の中で処刑された。人数は六百から七百人の間であった。処刑された者の中には、バヌー・ナディールの指導者フヤイイ・イブン・アフトブも含まれていた。彼はアル＝アフザーブの戦いの際、バヌー・クライザの要塞に入り、彼らに条約を破るよう扇動していた人物である。

また、バヌー・クライザの財産はムスリムの間で分配された。歩兵には一人につき一つの取り分、騎兵には三つの取り分が与えられた。当時ムスリムの騎兵は三十六人であった。[2]

---

[1] Al-Bukhārī (4122), Muslim (1769).
[2] Al-Fuṣūl (175).

土曜日：サハーバモジュール — ジャアファル・イブン・アビー・ターリブ

❖ 名前と誕生：

彼はアブー・アブドゥッラー・ジャアファル・イブン・アビー・ターリブ・イブン・アブドゥル＝ムッタリブである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の従兄弟であり、またアリー（アッラーの御満悦あれ）の実の兄である。

彼はマッカでヒジュラの 34 年前に生まれた。これは弟アリーより 10 歳年上であることを意味する。

❖ 生涯と徳：

ジャアファル（アッラーの御満悦あれ）は、イスラームに早くから入信した人々の一人であった。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を称賛し、彼に言われた。

あなたは外見においても性格においても私に似ている。[1]

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）は言った。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の後に、ジャアファル・イブン・アビー・ターリブよりも優れて乗り物に乗り、サンダルを履き、大地を歩いた者はいなかった。[2]

彼（アッラーの御満悦あれ）は貧しい人々を愛し、彼らと共に座り、彼らに仕えていた。アブー・フライラは言った。

ジャアファルは貧しい人々にとって最も善い人であった。[3]

彼はアビシニアへ移住した。そして彼の優れた品性と力強い弁論によって、ナジャーシーと彼のもとにいた人々はイスラームを受け入れた。クライシュからの使節団がムスリム移住者の引き渡しを求めて来たとき、彼はアビシニアにおいてムスリムたちを弁護した。

彼はナジャーシーの前でマルヤム章の冒頭を朗読した。するとナジャーシーは涙を流し、その涙で彼のひげが濡れるほどであり、司教たちもまた自分たちの書物が濡れるほどに涙を流した。その後ナジャーシーは言った。

この言葉は、ムーサーがもたらしたものと同じ源から来ている。[4]

ジャアファルはヒジュラ後 7 年までアビシニアに留まり、その後マディーナへ戻った。その時、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はハイバルにおられた。

預言者は彼を見て喜び、彼の額の間に口づけをし、言われた。

私はどちらを喜べばよいのか分からない。ハイバルの勝利か、それともジャアファルの到着か。[5]

❖ 死：

彼はヒジュラ後 8 年、ジュマーダー・アル＝ウーラーの月、ムウタの戦いにおいて 40 歳で殉教した。アブドゥッラー・イブン・ウマル（アッラーの御満悦あれ）は言った。彼が殺されたその日に、私はジャアファルの遺体を見た。そして彼の体には 50 の傷があるのを数えた。そのどれ一つとして背中にはなかった。[6]

[1] Ibn Ḥibbān (7046).
[2] Al-Iṣābah (1/237).
[3] Al-Bukhārī (5432).
[4] Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ (1/216).
[5] Al-Bidāyah wa-al-Nihāyah (4/207).
[6] Al-Bukhārī (4260).

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼の死を深く悲しまれ、彼に楽園での特別な栄誉を告げ知らせた。

私はジャアファル・イブン・アビー・ターリブが、二つの翼を持って天使たちと共に楽園を飛んでいるのを見た。[1]

❖ 彼の生涯から得られる教訓：

1. イスラームの初期から揺るぎない信仰を保ち続けたこと。
2. 外国の統治者の前でもムスリムを守る勇気を示したこと。
3. 貧しい人々を愛し、彼らに仕えたこと。
4. アッラーの道において殉教し、自己犠牲の模範となったこと。

[1] Al-Tirmidhī (3763).

第 29 週 週間知識テスト

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	Dhī al-Awtād の意味は何か。	[a] 莫大な財の所有者[b] 建物や宮殿の所有者[c] 自らの支配を確立した軍勢の所有者	c
ハディース	人々の権利が免除されるのは、ただ何によってか。	[a] 許しを求めること[b] 多くの善行を行うこと[c] 彼らから赦しと許しを求めること	c
アキーダ	大シルクへと至る原因および手段の一つは何か。	[a] 墓の集中[b] 正しき者に関する誇張[c] 生活における浪費	b
フィクフ	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が Ṣalāt al-Ḍuḥā を勧めた人物は誰か。	[a] アブー・フライラ[b] イブン・マスʿウード[c] ジャービル・イブン・ʿアブドゥッラー	a
スィーラ	バヌー・クライザの戦いの原因は何であったか。	[a] 彼らがムスリムの少年を殺した[b] 市場でムスリム女性のアウラを暴いた[c] 彼らが盟約を破り、同盟軍に加わった	c
サハーバ	ジャファル（アッラーの御満悦あれ）の手によってイスラームを受け入れた者の中に含まれるのは誰か。	[a] アン＝ナジャーシー[b] アル＝ムカウキス[c] イブン・アル＝ジュランダー	c

30 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝ファジュル章（後半）

فَأَمَّا الْإِنْسَانُ إِذَا مَا ابْتَلَاهُ رَبُّهُ فَأَكْرَمَهُ وَنَعَّمَهُ فَيَقُولُ رَبِّي أَكْرَمَنِ (15) وَأَمَّا إِذَا مَا ابْتَلَاهُ فَقَدَرَ عَلَيْهِ رِزْقَهُ فَيَقُولُ رَبِّي أَهَانَنِ (16) كَلَّا بَلْ لَا تُكْرِمُونَ الْيَتِيمَ (17) وَلَا تَحَاضُّونَ عَلَى طَعَامِ الْمِسْكِينِ (18) وَتَأْكُلُونَ التُّرَاثَ أَكْلًا لَمًّا (19) وَتُحِبُّونَ الْمَالَ حُبًّا جَمًّا (20) كَلَّا إِذَا دُكَّتِ الْأَرْضُ دَكًّا دَكًّا (21) وَجَاءَ رَبُّكَ وَالْمَلَكُ صَفًّا صَفًّا (22) وَجِيءَ يَوْمَئِذٍ بِجَهَنَّمَ يَوْمَئِذٍ يَتَذَكَّرُ الْإِنْسَانُ وَأَنَّى لَهُ الذِّكْرَى (23) يَقُولُ يَا لَيْتَنِي قَدَّمْتُ لِحَيَاتِي (24) فَيَوْمَئِذٍ لَا يُعَذِّبُ عَذَابَهُ أَحَدٌ (25) وَلَا يُوثِقُ وَثَاقَهُ أَحَدٌ (26) يَا أَيَّتُهَا النَّفْسُ الْمُطْمَئِنَّةُ (27) ارْجِعِي إِلَى رَبِّكِ رَاضِيَةً مَرْضِيَّةً (28) فَادْخُلِي فِي عِبَادِي (29) وَادْخُلِي جَنَّتِي (30)

さて、人間は、その主が彼を試み、寛大に扱い、恩恵を授けられるとき、わが主は私を尊ばれたと言う。＊しかし、彼を試みて糧を制限されるとき、わが主は私を辱められたと言う。＊断じてそうではない。あなたがたは孤児を尊ばず、＊貧者に食を与えることを互いに勧め合わず、＊相続財産を貪欲に食い尽くし、＊莫大な愛着をもって富を愛している。＊断じてそうではない。大地が砕かれ、粉砕され、＊あなたの主が来臨され、天使たちが列に次ぐ列をなして立ち、＊その日、地獄がもたらされるときその日、人は思い起こすであろう。だが、その想起が彼に何の益をもたらそうか。＊彼は言うであろう。ああ、私の生のために、前もって（善行を）送り出しておけばよかった。＊その日、かれの懲罰のごとく懲罰する者はなく、＊かれの束縛のごとく束縛する者もない。＊〔そして義しき魂に言われる。〕おお、安らぎを得た魂よ、＊満ち足り、また（主に）喜ばれつつ、あなたの主へ帰れ。＊わが（義しき）しもべたちの中に入り、＊わが楽園に入れ。

❖ これらの節の主題：

試練における神的叡智の想起と、来世に対する警告。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
ابْتَلَاهُ	ibtalāhu	彼を試みた。
فَقَدَرَ	faqadara	制限した、抑えた。
وَلَا تَحَاضُّونَ	wa-lā taḥāḍḍūna	互いに勧め合わない。
التُّرَاث	al-turāth	相続財産。
لَمًّا	lammā	ことごとく、徹底的に。
جَمًّا	jammā	多量に、甚だしく。
دَكًّا	dakkā	砕かれ、平らにされること。
وَجَاءَ رَبُّكَ	wa-jā’a rabbuka	威厳にふさわしい来臨しもべたちの間を裁くための来臨。

アラビア語	音写	意味
صَفًّا صَفًّا	ṣaffan ṣaffan	幾重もの列をなして。
وَأَنَّى لَهُ الذِّكْرَى	wa-annā lahu al-ズィクルā	その想起は彼に益をもたらさないその時は既に過ぎ去っている。
وَلَا يُوثِقُ	wa-lā yūthiqu	束縛しない（ほどに厳しくはない）。
وَثَاقَهُ	wathāqahu	鎖や足枷による拘束。

❖全体的な意味：

これらの節は、安逸と困窮のいずれによっても、アッラーがそのしもべたちを試みられるという神の法則を確立する。糧の拡大は必ずしもアッラーの御満悦のしるしではなく、また制限が必ずしも御怒りのしるしでもない。むしろ、ある者は恩恵によって試され、ある者は欠乏によって試されるのである。

続いて、聴衆に対する叱責へと語りは移る。すなわち、孤児を顧みず、貧者への施しを互いに勧めず、相続財産を貪欲に食い尽くし、富を過度に愛する姿勢である。これらは、彼らが永遠なる来世よりも、はかない現世を優先していることを示している。

章はさらに、復活の日の恐るべき情景を描写する。その日、人は地獄を目の当たりにし、自らの怠慢を悔いるであろう。しかしその時、後悔は何の益ももたらさない。これに対し、信仰と善行の上に生きた安らぎを得た魂は、アッラーの尊きしもべたちの中に入り、楽園へと迎え入れられるのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 富の拡大は必ずしもアッラーからの名誉の証ではなく、また制限は必ずしも辱めの証ではない。
2. 信仰者は、授けられれば感謝を示し、試練に遭えば忍耐を示して、アッラーの定めを受け入れる。
3. 信仰者の特質の一つは、孤児を尊び、貧者や困窮者への施しを勧めることである。
4. 復活の日には、善行を怠った者にとって後悔は役に立たない。
   相続財産は、男女・老若を問わず、正当な相続人に引き渡されなければならない。

月曜日：ハディース モジュール — 困難のために死を望むことの禁止

アナス（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。あなたがたの誰も、自分に降りかかった害のために死を望んではならない。もしどうしても死を望まなければならないなら、こう言いなさい。アッラーよ、命が私にとって善である限り私を生かし、死が私にとって善であるときに私を死なせてください。。[1]

❖ 解説：

このハディースには、人に降りかかった害病気、貧困、恐怖、または激しい困難などのために死を望むことの禁止が含まれている。なぜなら、それには多くの害が伴うからである。その中には次のようなものがある：
• それはアッラーの定めに対する不満と忍耐の欠如を示すものである。信者は忍耐し、報奨を求めるよう命じられている。
• それは心を弱め、絶望へ導き、無気力と行動の停止を引き起こす。
• 死は、人が善行を行う機会を終わらせてしまうが、人はそれを切実に必要としている。
• 死後に何が来るかは誰にも分からない。それは墓の懲罰や試練のような、さらに悪いものであるかもしれない。
しもべに求められているのは、自分に降りかかった害に対して忍耐し、事柄を主に委ねることである。主こそが、その者にとって何が最も善であり、最も有益であるかを知っておられるからである。このため、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はハディースの最後でこう言われた。あなたがたの誰かがどうしても死を望まなければならないなら、こう言いなさい。アッラーよ、命が私にとって善である限り私を生かし、死が私にとって善であるときに私を死なせてください。。[1]

❖ このハディースから得られる益：

1. **貧困、病気、恐怖などの害のために死を望むことは禁じられている。**
2. 信者が激しい苦難に直面したときには、忍耐し、祈願によってアッラーに立ち返ることが勧められる。
3. ムスリムはアッラーに依拠し、すべての事柄を御方に委ねなければならない。御方こそがしもべにとって何が最善であるかを知っておられるからである。
4. 人生はアッラーからの贈り物であり、大きな成功の機会である。ムスリムはそれを信仰と善行で満たすことによって大切にすべきである。
5. スンナは、宗教における試練を恐れる場合に限り死を望むことを許している。たとえば預言者の祈願にあるように、もしあなたがしもべたちに試練を定められるなら、私を試されることなくあなたのもとへ召してください。[2]

[1] アル＝ブハーリー（6351）、ムスリム（2680）。
[2] アッ＝ティルミズィー（3235）。

火曜日：信条（アキーダ）モジュール – 不信仰：定義と種類

クフル（不信仰）：それはイーマーン（信仰）の反対である。イーマーンが言葉、行為、信念から成り立つように、クフルもまた言葉、行為、信念、疑い、または放棄によって起こり得る。不信仰は、アッラーまたはその宗教のいかなる部分も信じないことによって生じる。すなわち、否認、疑い、傲慢、欲望に従うことによる場合であり、またシャリーアがクフルと見なす行為や発言によっても生じる。
クルアーンの中には、不信仰に対する厳しい警告と処罰の脅しがある：
高きアッラーは仰せられる：本当に、アッラーは不信者たちを呪い、彼らのために燃え盛る火を用意された。そこに永遠に留まり、彼らは守護者も助け手も見いださない。＊その日、彼らの顔は火の中で裏返され、彼らは言う。ああ、もし私たちがアッラーに従い、使徒に従っていたならば。[1]

❖ 不信仰の二つの主要な区分：

大不信仰（Kufr Akbar） – これは人をイスラームから追放する。五つの種類がある：
1. 否認の不信仰 – 高きアッラーは仰せられる：アッラーについて嘘を捏造する者、または真理が彼のもとに来たときにそれを否認する者よりも不正な者がいるだろうか。地獄には不信者のための住まいがあるのではないか。[2]
2. 拒否と傲慢の不信仰 – 高きアッラーは仰せられる：また、われらが天使たちにアーダムにサジュダせよと言ったときのことを思い出せ。すると彼らはサジュダしたが、イブリースだけはしなかった。彼は拒否し、傲慢になり、不信者の一人となった。[3]
3. 疑いの不信仰 – 高きアッラーは仰せられる：そして彼は自分自身に不正を行いながら自分の園に入った。彼は言った。私はこれが決して滅びるとは思わない。また、時が到来するとも思わない。もし私が主のもとへ戻されたとしても、きっとこれよりも良い帰り先を見いだすだろう。彼の仲間は彼と話しながら言った。あなたを土から、次に一滴の精液から創造し、それから一人の人間として整えられた御方をあなたは不信仰するのか。しかし私にとっては、彼こそがアッラー、私の主であり、私は私の主に何者も配しない。[4]
4. 背き去る不信仰 – 高きアッラーは仰せられる：そして不信者たちは、彼らに警告されたことから背き去る。[5]
5. 偽信の不信仰 – 高きアッラーは仰せられる：それは彼らが信じ、その後で不信仰したためである。そこで彼らの心は封じられ、彼らは理解しない。[6]

---
[1] [アル＝アフ66–64：زاب]。
[2] [アル＝アンカブート：68]。
[3] [アル＝バカラ：34]。
[4] [アル＝カフ：35–38]。
[5] [アル＝アフカーフ：3]。
[6] [アル＝ムナーフィクーン：3]。

2. 小不信仰 – また実践的不信仰とも呼ばれ、シャリーアがクフルと呼んだが大不信仰の段階には達しないものである。例としては次のものがある：
・ 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：人々の中にある二つの行為は不信仰である。血統を罵ることと、死者のために嘆き叫ぶことである。[1]
・アッラー以外によって誓うこと：アッラー以外によって誓う者は、不信仰または多神崇拝を犯したのである。[2]
・ムスリムと戦うこと：ムスリムを侮辱することは不品行であり、彼と戦うことは不信仰である。[3]

[1] ムスリム（67）。
[2] アッ＝ティルミズィー（1535）、アブー・ダーウード（3251）。
[3] アル＝ブハーリー（48）、ムスリム（64）。

水曜日：フィクフ モジュール — 礼拝が禁じられている時間

❖ 礼拝禁止時間の説明：

シャリーアは、自発的礼拝（任意礼拝）が禁じられている時間を明確に定めている。

1. 第一の時間：暁（ファジュル）の到来から、太陽が昇り、槍一本ほどの高さに達するまで（およそ日の出後 15 分ほど）。
2. 第二の時間：太陽が天頂に達したとき、すなわちズフル（ズフル）の礼拝の前であり、およそ四分の一時間ほど、太陽が傾きズフルの時間が始まるまで。
3. 第三の時間：アスルの礼拝の後から、太陽が完全に沈むまで。

❖ 根拠：

• アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉：
太陽が昇るまでファジュルの後に礼拝はなく、太陽が沈むまでアスルの後に礼拝はない。[1]

• ウクバ・イブン・ʿアーミル（アッラーの御満悦あれ）のハディース：
三つの時間において、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、私たちが礼拝を行うこと、または死者を埋葬することを禁じられた。すなわち、太陽が昇りつつあり完全に昇るまでのとき、太陽が天頂にあるときから傾くまでのとき、そして太陽が沈もうとして傾き、完全に沈むまでのときである。[2]

❖ 禁止時間における礼拝の規定：

これらの時間において任意礼拝を行うことは許されない。ただし、明確な証拠によって例外とされた場合はこの限りではない。例えば次のような場合である。

1. 義務の礼拝を逃した場合、その礼拝およびそれに伴うスンナ礼拝を後から補うこと。これは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉による。
   礼拝の時間に眠ってしまった者、あるいはそれを忘れた者は、思い出したときにそれを礼拝せよ。[3]
2. 特定の理由に結びついた礼拝を行うこと。例えば、葬儀の礼拝（ジャナ—ザ礼拝）、モスクに入った際の礼拝（タヒーヤト・アル＝マスジド）、およびタワーフ（ṭawāf）の二ラクアの礼拝などである。

❖ これらの時間が禁止された知恵：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、不信仰者たちが太陽の昇るときと沈むときにそれを崇拝していたことを説明された。そのため、ムスリムがこれらの時間において彼らに似ることが禁じられたのである。彼は言われた。

太陽はシャイターンの二つの角の間から昇り、そのとき不信仰者たちはそれに向かってサジダ（叩頭）するのである。

[1] アル＝ブハーリー（586）、ムスリム（827）。
[2] ムスリム（831）。
[3] ムスリム（684）。

また彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
太陽はシャイターンの二つの角の間に沈み、そのとき不信仰者たちはそれに向かってサジダ（叩頭）する。[1]

また、太陽が天頂にあるときについて、彼は言われた。
そのとき、地獄は燃え上がらされる。[2]

[1] ムスリム（832）によって伝承された。
[2] ムスリム（832）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — バイアト・アッ＝リドワーン

❖ 日付：

それはヒジュラ後六年目のズル＝カアダ月に起こった。

❖ 原因：

その出来事は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が夢の中で、自身とその同伴者たちがマスジド・アル＝ハラームに入り、カアバの鍵を受け取り、タワーフ行い、ウムラを果たしているのを見たことから始まった。
彼はこの夢を同伴者たちに伝えたので、彼らは大いに喜び、それがその年に実現すると楽観した。アッラーは使徒に、彼が確かにウムラを行うことを知らせられたので、彼らは彼と共に出発する準備を整えた。[1]

❖ 出来事：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、武器を持たず、イフラーム（iḥrām）の状態で、およそ 1500 人の同伴者と共にマッカへ向けて出発した。
彼らがマッカに近づくと、クライシュ族はその到来を知り、同盟者たちを集めて、彼らがウムラを行うのを阻止するために出てきた。

ハーリド・イブン・アル＝ワリードは、まだイスラームに改宗する前であったが、クラー‘・アル＝ガミーム（Kura‘ al-Ghamīm）において 200 人の騎兵を率いて前進した。
そこで預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は進路を変更し、マッカの下方側からアル＝フダイビーヤへ向かう道を取った。[2]
その後、ハーリドはクライシュ族に警告するため先行した。

クライシュ族は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がマッカに入るのを阻止するため、使者たちを彼のもとへ送った。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、戦うために来たのではないことを彼らに保証した。
その後、彼は自らの平和的な意図を確認するため、‘ウスマーン・イブン・‘アッファーン（アッラーの御満悦あれ）を使者として派遣した。

‘ウスマーンはマッカに入り、そこで彼にタワーフを行う機会が与えられたが、彼はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がそれを行うまで自分は行わないと拒否した。
その後、クライシュ族は彼を拘束した。[3]

❖ 結果：

やがて、ʿウスマーン（アッラーの御満悦あれ）が殺されたという知らせが、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）とムスリムたちのもとに届いた。

そこで預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は同伴者たちに忠誠の誓いを求め、彼らは逃げないことを誓い、ある者たちは死ぬまで戦うことを誓った。

そのとき預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は自らの手を取り、こう言われた。
これはʿウスマーンのための誓約である。[4]

[1] タフスィール・アッ＝タバリー（22/257）。
[2] アル＝ブハーリー（2731）。
[3] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（4/167）。
[4] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（4/168）。

この誓約は一本の木の下で行われたため、バイʿアト・アッ＝リドワーンとして知られるようになった。

この出来事について、至高なるアッラーは次のように仰せになられた。

確かにアッラーは、信者たちがその木の下であなたに忠誠の誓いを立てたとき、彼らに御満足になられた。彼は彼らの心の中にあるものを知り、彼らに静穏を下され、そして近い勝利をもって彼らに報われた。[5]

また、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

その木の下で誓約を立てた者たちの中で、火獄（地獄）に入る者は一人もいない。[6]

[5] アル＝ファトフ章（Al-Fatḥ）18節。
[6] アブー・ダーウード（4653）。

土曜日：サハーバモジュール — ハムザ・イブン・ʿアブド・アル＝ムッタリブ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 彼の名前と誕生：

彼は高貴なる同伴者、ハムザ・イブン・ʿアブド・アル＝ムッタリブ・イブン・ハーシム・イブン・ʿアブド・マナーフであり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の父方の叔父であり、また授乳を通じた養育上の兄弟でもあった。
彼はアッラーの獅子、そしてその使徒の獅子と呼ばれ、二人の息子であるウマーラとヤアラにちなみ、アブー・ウマーラおよびアブー・ヤアラーのクンヤ（敬称）でも知られていた。

彼はヒジュラ前 54 年、マッカで誕生した。

❖ 彼の生涯と徳：

ハムザ（アッラーの御満悦あれ）は寛大で高潔な人物であり、体格は強壮で、やや赤みを帯びた肌をしていた。戦いにおいて怒りが高まると、その目は赤くなったと言われている。

彼はイスラーム以前から戦いに参加しており、アル＝フィジャールの戦いなどに加わっていた。彼はクライシュ族の若者の中でも最も勇敢で、最も堅固であり、敵に向かって進むことにおいて最も大胆な人物であった。

彼がイスラームを受け入れたのは、預言者への啓示が始まってから六年目の後半であった。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を擁護するためであった。
というのも、このウンマのファラオ（暴君）と呼ばれたアブー・ジャフルが、預言者に危害を加え、石で彼の頭を打ったからである。

この出来事を知ったハムザは、ためらうことなく出て行き、アブー・ジャフルに立ち向かい、こう言った。

私の甥を侮辱するのか。しかも私は彼の宗教に従っているのだぞ！

そして彼は弓で彼を打ち、深い傷を負わせた。[1]

当初、ハムザのイスラームは義憤と熱情によるものであったが、やがてアッラーは彼の胸をイスラームのために広げられた。そして彼によってムスリムたちは名誉と力を得るようになり、クライシュ族はそれまで加えていた迫害の一部を控えるようになった。

ハムザ（アッラーの御満悦あれ）は**バドルの戦い**に参加し、そこで非常に勇敢に戦った。
ある不信仰者の捕虜がこう尋ねた。

ダチョウの羽で印をつけている男は誰だ？

人々がそれはハムザだと答えると、彼は言った。

私たちにこの惨状をもたらしたのは、まさにあの男だ！[2]

彼はまた**ウフドの戦い**にも参加し、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の前で二本の剣を手に戦いながら、こう言っていた。

私はアッラーの獅子である。[3]

彼は多神教徒 31 人を討ち取った。しかしその最中、彼はつまずいて背中から倒れ、防具がずれて腹部が露わになった。
するとジュバイル・イブン・ムトイムの解放奴隷であったアビシニア人ワフシーが槍を投げ、それによって彼は殺された。
その後、偶像崇拝者たちは彼の遺体を損壊した。

[1] ジャリーヤト・アル＝アウリヤー（2/673）。
[2] ザード・アル＝マアード（3/166）。
[3] アル＝ハーキム（3/194）によって伝えられた。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼をご覧になったとき、深い悲しみに包まれ、強い嘆きの念を抱かれた。そして次のように言われた。

殉教者たちの長は、ハムザ・イブン・‘アブドゥル＝ムッタリブである。[1]

❖ 御逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ウフドの戦いの日に、五十九歳で殉教した。彼は甥の‘アブドゥッラー・イブン・ジャフシュと共に、同じ墓に埋葬された。

[1] アル＝ハーキム（4884）によって伝承された。

週刊知識テスト — 第 30 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	Qudira ʿalayhi rizquh）の意味は何か。	[a] それ（生活の糧）を制限された。[b] それを広げられた。[c] それを消費した。	a
ハディース	災難が彼の上に強く降りかかったとき、信仰者に勧められていることは何か。	[a] それに身を委ねて従うこと。[b] 忍耐し、祈願（ドゥアー'）と礼拝によってアッラーへ向かうこと。[c] 自分の国から他の国へ移ること。	b
アキーダ	大不信仰（kufr akbar）の種類の一つはどれか。	[a] 隠れたシルク。[b] 拒絶と傲慢。[c] 嘆き叫ぶこと。	b
フィクフ	任意礼拝（ナーフィラ）が禁止される時間の一つはどれか。	[a] ファジュル礼拝の後。[b] ズフル礼拝の後。[c] マグリブ礼拝の後。	a
スィーラ	バイʿアト・アル＝リドワーンの原因の一つはどれか。	[a] ローマ軍の到来。[b] 同盟軍の集結。[c] ʿウスマーンが殺害されたという噂。	c
サハーバ	ハムザ（アッラーの御満悦あれ）が殉教したのはどの戦いか。	[a] バドルの戦い。[b] ウフドの戦い。[c] 塹壕の戦い（アル＝ハンダク）。	b

31 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝ガーシヤ章(前半)

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ الْغَاشِيَةِ (1) وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ خَاشِعَةٌ (2) عَامِلَةٌ نَاصِبَةٌ (3) تَصْلَى نَارًا حَامِيَةً (4) تُسْقَى مِنْ عَيْنٍ آنِيَةٍ (5) لَيْسَ لَهُمْ طَعَامٌ إِلَّا مِنْ ضَرِيعٍ (6) لَا يُسْمِنُ وَلَا يُغْنِي مِنْ جُوعٍ (7) وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ نَاعِمَةٌ (8) لِسَعْيِهَا رَاضِيَةٌ (9) فِي جَنَّةٍ عَالِيَةٍ (10) لَا تَسْمَعُ فِيهَا لَاغِيَةً (11) فِيهَا عَيْنٌ جَارِيَةٌ (12) فِيهَا سُرُرٌ مَرْفُوعَةٌ (13) وَأَكْوَابٌ مَوْضُوعَةٌ (14) وَنَمَارِقُ مَصْفُوفَةٌ (15) وَزَرَابِيُّ مَبْثُوثَةٌ (16)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。

あなたに、圧倒する出来事（ガーシヤ）の知らせが届いたであろうか。その日、ある顔はうなだれ、卑しめられ、労苦に疲れ果てている。彼らは激しく燃え盛る火に入れられる。彼らは煮えたぎる泉から飲まされる。彼らには、毒々しい棘の植物のほかに食べ物はない。それは栄養を与えることもなく、飢えを満たすこともない。またその日、別の顔は喜びに満ち、その努力のゆえに満足している。高く掲げられた楽園の中で、そこでは無益な言葉を耳にすることはない。その中には流れる泉があり、その中には高く据えられた寝台があり、置かれた杯があり、並べられたクッションがあり、敷き広げられた絨毯がある。

❖ 節の主題：

来世（アーヒラ）と、そこに存在する報いと懲罰への想起。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
الغاشية	al-Ghāshiyah	その恐怖によって人々を覆い尽くす復活の日。
خاشعة	khāshiʿah	卑しめられ、打ちひしがれた状態。
عاملة ناصبة	ʿāmilah nāṣibah	火獄の中での苦役によって疲れ果てること。
تصلى نارًا	taṣlā nāran	火に入り、その熱に焼かれること。
حامية	ḥāmiyah	激しく燃え盛る。
آنية	āniyah	極度に熱い。
ضريع	ḍarīʿ	最も劣悪な種類の棘ある植物。
لسعيها	lisaʿyihā	この世でアッラーへの服従の行為として行った努力のゆえに。
لاغية	lāghiyah	無益で虚しい、または無価値な言葉。
فيها عين جارية	fīhā ʿaynun jāriyah	絶えず流れ続ける水の泉。
فيها سرر مرفوعة	fīhā sururun marfūʿah	高く据えられた寝台や栄誉の座。

アラビア語の用語	音写	意味
وأكواب موضوعة	wa-akwābun mawḍūʿah	飲み物のために準備され置かれた杯。
ونمارق	wa-namāriq	クッション。
وزرابي مبثوثة	wa-zarābī mabthūthah	敷き広げられた絨毯。

❖ 全体的な意味：

これらの節は、復活の日において不信仰者たちの顔がうなだれ、屈辱と恥辱に打たれていることを明らかにする。彼らは鎖と枷によって疲労し尽くし、激烈な火に焼かれ、極度に熱い泉から飲まされる。彼らの食べ物は、最も劣悪で忌まわしい棘の低木（ḍarīʿ）以外にはなく、それは栄養を与えることもなく、飢えを満たすこともない。

それに対して、その日、信仰者たちは至福と喜びと歓喜の中にあり、その徴が彼らの顔に現れる。彼らは自らの行為に対するアッラーの報いに満足する。彼らの言葉は清らかで有益であり、心に喜びをもたらすものであり、アッラーへの想起と、豊かな恩恵への感謝に満ちている。彼らの周囲には泉が湧き出ており、彼らは望むままにそれを導くことができる。彼らの集いは、杯、寝台、クッション、絨毯によって美しく整えられ、栄誉と美しさの中で配置され、彼らの目に喜びを与え、魂に安らぎをもたらす。

❖ このスーラから得られる益：

1. 不幸な者たちに待ち受ける懲罰の種類への想起：すなわち、屈辱、恥辱、疲れ果てる苦役、火による焼き苦しみ、熱湯を飲まされること、そしてḍarīʿを食べることである。
2. 楽園における信仰者たちの顔は輝き、喜び、至福、満足を映し出すこと。
3. 楽園の享楽は多様である食物、飲み物、樹木、宮殿、河川、そしてḥūr al-ʿīn しかし、そのすべての中で最も偉大なのは、アッラーを拝見すること、そしてその御満悦を得ることである。
4. 人間の魂にとって最も煩わしいものの一つである、無益で虚しい言葉は楽園には存在しない。なぜなら、アッラーが信仰者たちの聴覚をそれから清められたからである。

月曜日：ハディースモジュール — ズィクル（アッラーの想起）の徳

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は次のように言われた。

自らの主を想起する者と、主を想起しない者の例えは、生きている者と死んでいる者のようなものである。[1]

❖ 解説：

これは、ズィクル（アッラーの想起）の重要性と徳を強調する、極めて雄弁なハディースの一つである。このハディースは、ズィクルを身体に対する魂にたとえている。しもべがアッラーを多く想起するほど、その魂はより生き生きとし、善を善として、悪を悪として、真理を真理として、虚偽を虚偽として認識するようになる。

それに対して、アッラーの想起を怠る者は、まるで死者のような存在である。身体としては存在していても、心は生命を失っており、実質的な益や価値ある存在を持たない。崇高なるアッラーは次のように仰せられる。

死んでいた者をわれらが生かし、彼に光を与えて人々の中を歩ませる者は、闇の中にあってそこから決して抜け出すことのできない者のようであろうか。[2]

❖ このハディースから得られる益：

1. このハディースは、ズィクルが魂の生命であることを示している。ちょうど魂が身体の生命であるようにである。これだけでも、ズィクルを行う十分な励ましとなる。
2. 心は、長くアッラーを想起しない状態でいると、硬くなり、善行から遠ざかるようになる。
3. 心の死と硬化からの救いは、崇高なるアッラーを頻繁に想起することにある。

[1] アル＝ブハーリー（6407）。
[2] アル＝アンアーム章：122。

火曜日：アキーダモジュール — 偽信（ニファーク）の定義と種類

❖ 偽信の危険性：

崇高なるアッラーは、偽信者たちを多くの節において、あらゆる悪しき性質をもって描写されている。アッラーは仰せられる。

実に、偽信者たちは火獄の最も低い深みに置かれるであろう。[1]

また次のようにも仰せられる。

彼らはアッラーと信仰する者たちを欺こうとするが、実際には自分自身しか欺いていない。しかし彼らはそれに気づかない。彼らの心には病があり、アッラーはその病をさらに増される。そして彼らには、常に嘘をついていたことによる痛ましい懲罰がある。[2]

偽信の危険が非常に大きいことから、教友たち（アッラーが彼らに満足されますように）は、自分自身がそれに陥ることを恐れていた。イブン・アビー・ムライカは言った。

私は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の教友三十人に会ったが、彼らは皆、自分自身について偽信を恐れていた。[3]

❖ 偽信の種類：

偽信には二つの種類がある。すなわち、信条上の偽信と実践上の偽信である。

1. 信条上の偽信（教義的偽信）：

これは、外面的にはイスラームを示しながら、内面では不信仰を隠すことであり、大偽信（ニファーク・アクバル）である。その形態には次のようなものがある。

・使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を嘘つきであると信じること、あるいは彼がもたらしたものの一部を否定すること。
・使徒を憎むこと、あるいは彼がもたらしたものの一部を憎むこと。
・イスラームの勝利を嫌い、その弱体化を喜ぶこと。

2. 実践上の偽信：

これは小偽信であり、偽信として言及されている行為、すなわち偽信者の行為に属する行動を指す。ただし、それは信仰を心から追い出すものではない。この種類は人を宗教から追放するものではないが、それへと導く手段となり得る。

その形態の一つとして、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が次のように言われたことが挙げられる。

四つの性質があり、それが人の中に備わっているならば、その者は完全な偽信者である。もしそのうちの一つがあれば、それを捨てるまで偽信の性質を一つ持っていることになる。話すときに嘘をつき、契約すれば裏切り、約束すれば破り、争うときには度を越す。[4]

また別の形態として、モスクでの集団礼拝を放棄することが挙げられる。これは偽信者の特徴の一つである。

[1] ニサー章：145
[2] バカラ章：9–10
[3] アル＝ブハーリー（ムアッラカ、48）
[4] アル＝ブハーリー（34）、ムスリム（58）

❖ 大いなる偽信（ニファーク）と小さき偽信の相違：

諸テキストは、大いなる偽信と小さき偽信の間に相違があることを明確にしており、その中でも最も重要なものは次のとおりである。

1. **大いなる偽信**は人をイスラームから退出させるが、**小さき偽信**はそうではない。
2. **大いなる偽信**は信条（信仰）に関わるものであるのに対し、**小さき偽信**は信仰そのものには影響を与えない行為に関わる。
3. **大いなる偽信**は信仰者から生じることは決してないが、**小さき偽信**は信仰者において生じ得る。
4. **大いなる偽信**を犯す者は悔悟することがほとんどないのに対し、**小さき偽信**を犯す者は悔悟することがあり得る。

❖ 水曜日：フィクフ モジュール — ジュムア（金曜）礼拝

❖ その徳：

金曜日は、一週間の中で最も優れた日である。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
太陽が昇った日の中で最も優れた日は金曜日である。その日にアーダムは創造され、その日に彼は楽園へ入れられ、そしてその日にそこから出された。[1]

また彼は言われた。
アッラーは我々以前の者たちを金曜日から遠ざけられた。ユダヤ人には土曜日があり、キリスト教徒には日曜日があった。その後、アッラーは我々をもたらし、我々を金曜日へと導かれた。[2]

❖ その英知：

ジュムアは、ムスリムたちの最も偉大な集まりの一つであり、彼らの結束を示す顕著な現れである。アッラーはこの日のために一般的な集団礼拝を定め、信仰者たちにそれへ出席することを義務として命じられた。また、金曜日のフトバ（khuṭbah：説教）を定め、彼らに対するアッラーの偉大な恩恵を思い起こさせ、感謝を促すためのものとされた。そして、それを注意深く傾聴するよう命じられた。

❖ その法的規定：

ジュムアは男性に対する個人的義務（ファルド・アイン）である。崇高なるアッラーは仰せられる。
信仰する者たちよ。ジュムアの日の礼拝のために（アザーンが）呼びかけられたならば、アッラーの念想へと急ぎ向かい、売買を放棄せよ。それはあなたがたにとって最も良いことであるもしあなたがたが知るのであれば。[3]
これを怠ることに対しては厳しい警告がある。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
（人々はジュムアを怠ることをやめなければならない。さもなければ、アッラーは彼らの心を封じられ、その後、彼らは不注意な者たちの中に数えられるであろう。）[4]

❖ その諸規定：

ムスリムはジュムアに関する諸規定を学び、それに従わなければならない。

1. フトバを注意深く傾聴することが義務であり、イマームがフトバを行っている間に話すことは禁じられている。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   （イマームがフトバを行っている間に、あなたが仲間に静かにせよと言ったなら

ば、あなたは無益な言葉を発したことになる。）[5]
これは、無効で退けられる言葉を口にしたことを意味する。

2. フトバの最中に人々の首をまたいで前へ進むことは禁じられている。なぜなら、それは礼拝者たちに害を与え、説教を聞くことから彼らの注意をそらすからである。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、人々の首をまたいで進んでいた男に言われた。
（座りなさい。あなたは人々を困らせたのだから。）[6]

[1] ムスリム（1410）によって伝承された。
[2] ムスリム（865）によって伝承された。
[3] ［アル＝ジュムア章：9］
[4] ムスリム（865）によって伝承された。
[5] アル＝ブハーリー（934）、ムスリム（851）によって伝承された。
[6] アブー・ダーウード（1118）、アン＝ナサーイー（3/103）によって伝承された。

1. 二人の間に隙間がないにもかかわらず、その間に無理に入り込んで引き離すことは嫌悪される行為（マクルーフ）である。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   誰であれ金曜日に沐浴し、できる限り自らを清め、油や香水を用い、それから（モスクへ）行き、二人の間を引き離すことなく、定められた分の礼拝を行い、その後イマームが出て来たときに注意深く耳を傾けるならば、その者の罪はその金曜日から次の金曜日までの間、赦される。[1]
2. 人がイマームと共に**一ラカアを得たならば、ジュムアの礼拝を得たことになる。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。**
   誰であれジュムアの礼拝の一ラカアを得たならば、その礼拝を得たのである。[2]
   もし一ラカア未満しか得られなかった場合、その者はズフルの礼拝を行うべきである。
3. ジュムアの前には**定められたスンナ礼拝**は存在しない。しかし、人は望むだけの任意礼拝を行うことができる。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、次の言葉によってそれを勧められた。
   ……それから、彼に定められた分の礼拝を行う。[3]

ジュムアの後のスンナ礼拝については、**二ラカア**または**四ラカア**を行うことができる。これらのいずれも、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）から真正に伝えられている。[4]

[1] アル＝ブハーリー（910）。
[2] アン＝ナサーイー（1425）。
[3] アル＝ブハーリー（910）。
[4] アル＝ブハーリー（937）、ムスリム（881–882）。

木曜日：スィーラモジュール — アル＝フダイビーヤの和約

❖ その時期：

ヒジュラ後六年目、ズル＝カアダ月に起こった。

❖ その原因：

リドワーンの誓約の後、クライシュは急いでスハイル・イブン・アムル（Suhayl ibn ʿAmr）を派遣し、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と和平条約を締結させようとした。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を見たとき、楽観的にこう言われた。

あなたがたの事柄は容易にされた。[1]

❖ 出来事：

ムスリムとクライシュの間で和約が結ばれ、彼らはいくつかの条件に合意した。

• アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、その年はマッカに入らずに帰る。これは、アラブ人が彼は武力によってそこへ入ったと言うことのないようにするためであった。翌年、ムスリムたちはマッカに入り、**三日間**滞在することができる。ただし携帯する武器は旅人の武器（鞘に収められた剣）のみとする。またクライシュは、いかなる形でも彼らに危害を加えない。

• 両者の間の敵対行為は**十年間停止**され、その間、人々は安全である。

• 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と同盟を結びたい部族はそれを行うことができ、クライシュと同盟を結びたい部族もそれを行うことができる。いずれかの同盟者に対する攻撃は、その同盟相手への攻撃とみなされる。

• クライシュから預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ来た者は、彼らへ返還される。しかし、預言者の側からクライシュへ行った者は返還されない。[2]

その後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はアリーを呼び、協定を書き記すよう命じられた。

彼は次のように口述された。
慈悲あまねく慈悲深きアッラーの御名において。

するとスハイルは言った。
我々は慈悲あまねく慈悲深きアッラーの御名においてという言葉を知らない。あなたの御名において、アッラーよと書け。

そこでアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アリーにそのように書くよう命じられた。

続いて彼は次のように口述された。
これは、**アッラーの使徒ムハンマド**が合意したものである。

するとスハイルは言った。
もし我々があなたをアッラーの使徒だと知っていたなら、あなたに反対することはなかったであろう。アブドゥッラーの子ムハンマドと書け。

そこで預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はアリーにアッラーの使徒という語を消すよう命じられたが、アリーはそれを拒んだ。すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は**自らそれを消された**。[3]

[1] アル＝ブハーリー（2731）。
[2] アル＝フスール（p.185）。
[3] ムスリム（1784）。

その後、条約は正式に書き記された。フザーア族（Khuzaʿah）はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の同盟に入り、バヌー・バクルはクライシュの同盟に入った。

❖ その結果：

教友たちは、ウムラのためにマッカへ入ることができなかったことに深く悲しんだ。彼らは、この条約がムスリムに対して不公平であり、リドワーンの誓約（Bayʿat al-Riḍwān）があったにもかかわらず、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がクライシュの圧力を受け入れられたと感じたのである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が彼らにイフラーム（iḥrām）の状態を解き、供犠の動物を屠るよう命じられたとき、事態の厳しさのため、誰一人としてそれを行わなかった。

そこで彼はウンム・サラマのもとへ入り、そのことを伝えられた。すると彼女は言った。

アッラーの預言者よ、あなたは彼らがそれを行うことを望まれますか。外へ出て、あなたがご自分の供犠の動物を屠り、理髪師を呼んであなたの頭を剃るまで、誰にも言葉をかけないでください。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はそのとおりにされた。すると彼らはそれを見て立ち上がり、それぞれ供犠の動物を屠り始め、互いの頭を剃り合った。あまりの熱心さのため、互いに傷つけそうになるほどであった。[4]

やがて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の英知と、最終的な結果すなわち勝利と、人々が群れをなしてイスラームへ入ることに関する彼の知識が明らかになった。

彼らが帰路についたとき、アッラーは御使徒にアル＝ファトフ章を啓示され、彼らの悲しみを喜びへと変えられた。彼らは、すべての善がアッラーとその使徒への服従の中にあることを悟ったのである。 アッラーは、勝利・征服、そして彼らへの御満悦という吉報によって、彼らのすべての苦悩を取り除かれた。それほどまでに、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

今夜、私に一つの章が啓示された。それは、太陽が昇るすべてのものよりも私にとって愛しいものである。 実にわれらは、あなたに明白な勝利を与えた。[5]

[4] アル＝ブハーリー（2731）。
[5] アル＝ブハーリー（4177）。

土曜日：サハーバモジュール — ハーリド・イブン・アル＝ワリード（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、ハーリド・イブン・アル＝ワリード・イブン・アル＝ムギーラ・イブン・‘アブドゥッラー・イブン・‘ウマル・イブン・マフズームであり、クンヤ（敬称）（敬称）はアブー・スライマーンである。
彼の母はルバーバ・ビント・アル＝ハーリスであり、彼女は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の妻であるマイムーナ・ビント・アル＝ハーリスの姉妹であった。
彼はヒジュラの 30 年前にマッカで誕生した。

❖ 生涯と徳：

ハーリド（アッラーの御満悦あれ）は、イスラーム以前の時代においてクライシュの貴族の一人であり、指導力、軍事戦略、判断力、そして知恵において際立っていた。

彼はヒジュラ後 8 年のサファル月にイスラームを受け入れた。彼は‘アムル・イブン・アル＝‘アースおよび‘ウスマーン・イブン・タルハと共にイスラームに入信した。彼らがアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに来たとき、預言者は彼らを見て、同伴者たちに言われた。
(マッカはその最も優れた者たちをあなたがたのもとへ投げ出した。)[1]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼の勇敢さと武勇を称賛して言われた。
(ハーリド・イブン・アル＝ワリードは何と優れたアッラーのしもべであろうか。彼はアッラーの剣の一つである。)[2]

アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）は言った。
女性たちは、ハーリドのような人物を産むことができなかった。[3]

彼はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共にマッカ征服に参加し、またフナインの戦いとターイフの戦いにも立ち会い、さらにアル＝‘ウッザーの偶像破壊の出来事にも関わった。

また、ムウタの戦いにおいて三人の司令官が殉教した後、彼はムスリム軍の指揮を執り、その手によってアッラーはムスリムたちに勝利を授けられた。
彼（アッラーの御満悦あれ）は言った。
ムウタの日、私の手の中で九本の剣が折れ、最後にはイエメンの剣一本だけが残った。[4]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼をドゥーマのアル＝アキードルのもとへ派遣し、彼はその人物を捕虜として連れ戻した。

その後、アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）は彼をムサイリマおよび背教者たちとの戦いの指揮官に任命し、彼はそこで大きな勝利を収めた。さらにアブー・バクルは彼をすべての軍隊の総司令官とし、ペルシア人およびローマ人との戦争を彼に委ねた。

彼はイラクへ進軍し、その民に大きな損害を与え、ついには彼らに勝利した。その後、イラクの境界からシャーム地方の入り口まで砂漠を横断した。

彼はシャームにおける戦いに参加し、ダマスカスを包囲し、アブー・ʿウバイダと共にそれを征服した。

彼の身体には、戦いによって受けた傷の跡がない場所はほとんどなかったほどであった。[5]

❖ 死去：

ハーリド・イブン・アル＝ワリード（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 21 年にヒムスの町で亡くなった。享年は 60 歳であった。

[1] アル＝ラウド・アル＝ウヌフ（5/94）。
[2] アッ＝ティルミズィー（3846）。
[3] ターリーフ・アッ＝タバリー（3/358）。
[4] アル＝ブハーリー（4265）。
[5] シヤル・アʿラーム・アン＝ヌバラー（1/367）。

週間知識テスト — 第 31 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	namāriq の意味は何か。	[a] 家具 [b] クッション [c] ソファ	b
ハディース	死と心の硬直からの救いは、何によって得られるか。	[a] アッラーを頻繁に想起すること [b] 健康的な食事 [c] 早く寝ること	a
アキーダ	信仰上の偽善（教義的偽善）の形の一つは何か。	[a] 約束を破ること [b] 宗教の勝利を嫌うこと [c] 死者のために嘆き叫ぶこと	b
フィクフ	ジュムア（Jumuʿah）の礼拝は、誰に対して個人的義務であるか。	[a] すべてのムスリム [b] 男性と女性 [c] 男性	c
スィーラ	和解条約を書いた人物は誰か。	[a] アリー・イブン・アビー・ターリブ [b] スハイル・イブン・アムル [c] ブダイル・イブン・ワルカー’	a
サハーバ	ハーリド・イブン・アル＝ワリード（アッラーの御満悦あれ）がイスラームを受け入れた年はいつか。	[a] ヒジュラ 6 年 [b] ヒジュラ 7 年 [c] ヒジュラ 8 年	c

32 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — スーラト・アル＝ガーシヤ（後半）

أَفَلَا يَنْظُرُونَ إِلَى الْإِبِلِ كَيْفَ خُلِقَتْ (17) وَإِلَى السَّمَاءِ كَيْفَ رُفِعَتْ (18) وَإِلَى الْجِبَالِ كَيْفَ نُصِبَتْ (19) وَإِلَى الْأَرْضِ كَيْفَ سُطِحَتْ (20) فَذَكِّرْ إِنَّمَا أَنْتَ مُذَكِّرٌ (21) لَسْتَ عَلَيْهِمْ بِمُصَيْطِرٍ (22) إِلَّا مَنْ تَوَلَّى وَكَفَرَ (23) فَيُعَذِّبُهُ اللَّهُ الْعَذَابَ الْأَكْبَرَ (24) إِنَّ إِلَيْنَا إِيَابَهُمْ (25) ثُمَّ إِنَّ عَلَيْنَا حِسَابَهُمْ (26)

それでは彼らは、ラクダを見ないのか―どのように創造されたかを。また、天を―どのように高く掲げられたかを。また、山々を―どのように据え置かれたかを。また、大地を―どのように広げられたかを。それゆえ（ムハンマドよ）、人々に思い起こさせよ。あなたはただの戒めを与える者に過ぎない。あなたは彼らを支配する者ではない。ただし、背を向けて不信仰に陥る者は別である。そのときアッラーは彼を最大の懲罰で罰される。本当に、彼らの帰還は我々のもとにある。その後、確かに彼らの清算は我々に属する。

❖ 節の主題：

アッラーの力の証拠について熟考すること。

❖ 難しい語句の解説：

アラビア語	転写	意味
سُطِحَتْ	Suṭiḥat	広げられ、平らにされた。
فَذَكِّرْ	Fa-dhakkir	彼らに戒めを与え、アッラーの懲罰を警告すること。
بِمُصَيْطِرٍ	Bi-muṣayṭir	人々に信仰を強制する権限を持つ者。
إِيَابَهُمْ	Iyābahum	死後における彼らの帰還。

❖ 全体の意味：

これらの節において、至高なるアッラーは、御自身の唯一性を示す被造物について熟考するようすべての人々に促しておられる。

人々はラクダを見なければならない。すなわち、その驚くべき創造、そして人間のために従属させられ、生活に不可欠な多くの必要を満たすために仕えていることを。

また、人々は天を見なければならない。どのように高く掲げられているかを。そして高くそびえる威厳ある山々を見なければならない。それらは大地を安定させ、揺れ動くことを防ぎ、さらにその内部には多くの利益とさまざまな鉱物が含まれている。

また、人々は大地を見なければならない。どのように広く延ばされ、平らに整えられ、生き物たちがその上で生活し、耕作し、建築できるように最も容易な形にされているかを。

その後、アッラーは御使いに対し、人々に思い起こさせるよう命じられる。すなわち彼らを戒め、警告することである。彼の使命は人々をアッラーへと招き、アッラーを思い起こさせることであり、彼は彼らを支配するために遣わされたのではなく、彼らの行為の責任者でもない。彼が命じられたことを伝達した後は、彼に責任はない。

❖ スーラから得られる教訓：

1. 人々に対し、アッラーの唯一性を示す被造物について熟考することを促している。
2. ラクダはアッラーの最も偉大なしるしの一つであり、人間に従属させられ、乗ることや荷物を運ぶことに適し、その他多くの利益をもたらす。
3. 山々はアッラーのしるしの一つであり、大地を杭のように安定させている。
4. 大地が広げられ、ゆりかごや寝床のように整えられていることもアッラーのしるしの一つであり、その中や上には数えきれない恩恵としるしが置かれている。そして大地には、確信する者たちのためのしるしがある。[1]
5. アッラーへと呼びかける者の使命は、メッセージを伝えることであり、導きは祝福され崇高なるアッラーの御手の中にある。

[1] アッ＝ザーリヤート章：20

月曜日：ハディース モジュール — 親族関係を維持することの徳

アナス・イブン・マーリク（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
自らの糧（rizk）が増やされ、寿命が延ばされることを望む者は、親族関係（血縁のつながり）を維持せよ。[1]

❖ 解説：

このハディースは、親族関係を維持することを勧め、その行為がしもべの望む二つの事柄すなわち、糧の増加と寿命の延長をもたらすことを明らかにしている。これは実際に真実である。なぜなら、アッラーこそが諸原因とその結果を創造される御方だからである。

しもべが親族に対して善意と良き振る舞いをもって接し、彼らに安らぎと喜びをもたらすとき、アッラーは彼の寿命を延ばし、糧を広げ、また、この偉大な原因がなければ得ることのできない数々の祝福の門を彼のために開かれるのである。

親族関係の維持とは、彼らを訪問すること、彼らの状況を気にかけること、優しい言葉で語りかけること、善いことにおいて彼らを助けること、彼らの中の貧しい者には施しを与えること、また裕福な者には贈り物をすることなどによって行われる。しかも、それは彼らが先に関係を保つことや、自分に良く接することを待つことなく行われるべきものである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
親族関係を維持する者とは、単に相手の行為に応じて応答する者ではない。むしろ、親族が彼との関係を断ったときでさえ、なお彼らとの関係を保ち続ける者である。[2]

❖ このハディースから得られる益：

1. ムスリムが現世と来世においてその報奨を得るため、親族関係を維持することに努める義務。
2. 親族関係を維持することが、糧の増加と寿命の延長の原因であることの明確化。
3. 法的原因（シャリーアにおける原因）の肯定。すなわち、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、一つの原因親族関係の維持と、その結果寿命と糧の増加を示されたのである。

---
[1] アル＝ブハーリー（5986）、ムスリム（2557）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（5991）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 宗教における革新ビドア（Bidʿah）

❖ 宗教における革新の （規定）：

イスラームは、宗教に革新を持ち込むことを禁じている。それが付け加えであれ、削除であれ、改変であれ同様である。なぜなら、この宗教は万有の主の宗教であり、アッラーがそれを啓示し、完成させ、そして守られたからである。

礼拝行為に関する基本原則は、禁止と停止である。すなわち、アッラーは、御自身の書（クルアーン）において立法された方法、または御使い（アッラーの祝福と平安あれ）の舌を通して立法された方法によってのみ崇拝されるべきである。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
我々のこの事柄（宗教）において、それに属さないものを新たに持ち込む者は、それは退けられる。[1]

別の伝承では次のように述べられている。
我々の事柄に一致しない行為を行う者は、それは退けられる。[2]

一方、習慣や世俗的な事柄における新しいものの導入については、これは許されており、この禁止には含まれない。なぜなら、習慣に関する基本原則は許容と許可であるからである。例えば、人々が現代の機器や新しい生活手段を発明することなどがこれに当たる。

❖ 宗教における革新の種類：

1. **言葉と信条における革新**
   例として、ハワーリジュ派、カダリーヤ派、ムルジア派などの迷妄の諸派の信条がある。彼らの主張は、聖典の証拠に反するものである。
2. **新しい礼拝行為を導入する革新**
   シャリーアに存在しない礼拝を新たに始めること。例えば、新しい形式の礼拝や、立法されていない断食の種類を作り出すことである。
3. **立法された礼拝行為に付け加える革新**
   例えば、ズフル礼拝やアスル礼拝（に五回目のラカアを加えること、またはラマダーンにその前後の日を加えることである。
4. **立法された礼拝の方法を変更する革新**
   例えば、本来定められたズィクルをリズムを伴う集団詠唱で行うことや、スンナを超えた過度の厳格さに陥ることである。
5. **立法されていない特定の時を指定する革新**
   例えば、シャアバーン月の十五夜とその日を、特別に断食や夜の礼拝のための日として定めることなどである。断食や夜の礼拝自体は立法されているが、それを特定の時に限定するには証拠が必要である。

❖ 宗教において良い革新というものは存在するのか：

宗教におけるあらゆる革新は禁じられており、非難されるべきものである。宗教において良い革新というものは存在しない。なぜなら、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、すべての革新を迷いであると断定されたからである。

彼は言われた。
新しく作り出された事柄に注意せよ。新しく作り出された事柄はすべて革新であり、すべての革新は迷いである。[3]

[1] アル＝ブハーリー（2695）、ムスリム（1718）。
[2] アル＝ブハーリー（7350）、ムスリム（1718）。
[3] アブー・ダーウード（4607）、アッ＝ティルミズィー（2676）。

その禁止の程度は、革新の種類によって異なる。あるものは不信仰（クフル）や多神崇拝（シルク）に至るものがあり、またあるものはシルクへと導く手段であり、さらにあるものは罪深い不服従の行為である。

水曜日：フィクフ モジュール — ジュムアのスンナ

ジュムアの日には、ムスリムが守り、熱心に実践すべき推奨されたスンナと礼儀作法がある。その中には次のものが含まれる。

1. ジュムアの日のグスル（大浄）
この日にグスルを行うことはスンナであり、特に不快なにおいのある者は、それを怠らないよう心がけるべきである。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ジュムアの日のグスルは、すべての成人に義務である。[1]

2. 身体を清潔にし、香りをつけ、身体から取り除くべきものを取り除くこと
例えば、爪を切ることや、シャリーアで定められた不要な体毛を除去することである。
彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ジュムアの日にグスルを行い、できる限り身を清め、自分の油をつけ、または家にある香水をつけ、それから出かけて二人の間を無理に分けることなく座り、自分に定められた礼拝を行い、そしてイマームが語るときに静かに耳を傾ける者は、そのジュムアから次のジュムアまでの罪が赦される。[2]

3. 最も良い衣服を着ること
彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
仕事着とは別に、ジュムアのための衣服を二着持つことは、あなたがたにとって何の害にもならない。[3]

4. ジュムアへ早く行くこと
そして、イマームがフトバ（説教）のために出てくるまで、任意の礼拝、ズィクル、クルアーンの朗読に励むことである。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ジュムアの日に、ジャナーバ（大浄）の際のようにグスルを行い、最初の時間に行く者は、まるでラクダを犠牲として捧げたかのようである。二番目の時間に行く者は、牛を捧げたかのようである。三番目の時間に行く者は、角のある雄羊を捧げたかのようである。四番目の時間に行く者は、鶏を捧げたかのようである。五番目の時間に行く者は、卵を捧げたかのようである。イマームが出てくると、天使たちは来てズィクルを聞く。[4]

5. ジュムアの礼拝へ歩いて行くこと（乗り物を使うよりも）
彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ジュムアの日に身を洗い、グスルを行い、早く出て早く到着し、乗り物ではなく歩いて行き、イマームの近くに座り、よく聞き、無駄話をしない者には、その一歩ごとに一年の断食と夜の礼拝に相当する報奨が与えられる。[5]

6. マスジドに入ったとき二ラカアを礼拝すること
それを礼拝するまで座らないことである。これは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の一般的命令によるものである。[6]
ただし、イマームがフトバを行っている場合は、それを短く行う。

7. この日とその夜に、預言者への祝福を多く送ること
彼は言われた。
ジュムアの日には、私の上に多くの祝福を送れ。[7]

---
[1] アル＝ブハーリー（879）、ムスリム（846）。
[2] アル＝ブハーリー（883）。
[3] アブー・ダーウード（1078）。
[4] アル＝ブハーリー（881）、ムスリム（850）。
[5] アフマド（10073）、アブー・ダーウード（345）。
[6] アル＝ブハーリー（930）。
[7] アブー・ダーウード（1047）、アン＝ナサーイー（3/91）。

8. アル＝カフ章を朗誦すること – 彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。ジュムアの日にアル＝カフ章を朗誦する者には、二つのジュムアの間を照らす光が与えられる。[1]
9. ジュムアの日において多くのドゥアを行うこと、そして応答される時を求めることである。彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
実にジュムアの日には一つの時があり、ムスリムのしもべが礼拝の中でそれに一致し、アッラーに何かを願い求めるならば、アッラーは必ずそれを彼に与えられる。[2]

[1] アル＝ハーキム（2/368）。
[2] アル＝ブハーリー（935）、ムスリム（852）。

木曜日：スィーラモジュール — ハイバルの戦い

❖ 時期：

これはヒジュラ暦 7 年の初め、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がフダイビーヤの和約から帰還してから 20 日後に起こった。

❖ 原因：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ハイバルのユダヤ人たちが大きな腐敗を広め、ムスリムに対して扇動を行っていたため、彼らと戦う決意をされた。彼らこそがアハザーブの戦いを企て、さらにバヌー・クライザを裏切りと反逆へと扇動した者たちであった。

❖ 出来事：

ハイバルはマディーナの北方、シャームへ向かう街道上にある町で、約 153 キロメートルの距離に位置していた。そこには約一万人のユダヤ人戦士がおり、その要塞は最も堅固なものの一つであった。また彼らは要塞の中に、数か月間持ちこたえられるほどの食料と飲料を備蓄していた。しかし、それでもムスリムたちの決意は弱まらなかった。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はハイバルへ向かい出発し、フダイビーヤの和約およびリドワーンの誓いに参加した者たちのみが同行するよう命じられた。これは彼らの信仰の強さと堅固さゆえであった。

ムスリム軍は進軍し、ユダヤ人とガタファーン族の間に位置するアル＝ラジーア呼ばれる谷に宿営した。これはハイバルへ援軍が届くのを遮断するためであった。実際、ガタファーン族は預言者がハイバルへ向かっていることを聞くと、ユダヤ人を支援するために出発の準備をした。しかしムスリムたちは、彼らを攻撃するために向かっているという噂を広めたため、彼らは引き返した。こうしてアッラーはムスリムを彼らとの戦闘から守られた。その後、ムスリムたちはハイバルの包囲を開始した。[1]

❖ 結果：

ムスリムたちは一つまた一つと要塞を征服していき、ユダヤ人たちは要塞から要塞へと退却していった。やがてムスリムたちは非常に堅固な要塞に到達し、そこはあらゆる攻略の試みに抵抗した。数日間の戦いの後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

明日、私は旗を一人の男に授ける。アッラーは彼の手によって勝利をもたらされる。彼はアッラーとその使徒を愛し、アッラーとその使徒もまた彼を愛している。

ムスリムたちは、その人物が誰であるかを待ち望みながら夜を過ごした。翌日、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は‘**アリー・イブン・アビー・ターリブ**を呼ばれた。彼は当時、目の病を患っていた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼の目に唾を付けてドゥアーをされ、アッラーの使徒の祝福によって彼は治癒した。[2]

[1] *Al-Bidāyah wa-al-Nihāyah*（6/251）。
[2] アル＝ブハーリー（4210）。

その後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に旗を授けられ、アッラーは彼の手によって勝利を与えられた。ムスリムたちは勝利を収め、約二十名の教友（彼らすべてにアッラーの御満悦がありますように）が殉教した。一方、ユダヤ人たちは壊滅的な敗北を被った。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らをハイバルから追放することを意図された。しかし彼らは、自分たちの土地に留まりそれを耕作することを願い出て、その代わり毎年の収穫と産物の半分をムスリムに渡すことを申し出た。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はこれに同意された。[1]

[1] アル＝ブハーリー（2329）、ムスリム（1551）。

土曜日：サハーバモジュール ― スハイブ・アッ＝ルーミ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 名前と出生：

彼は スハイブ・イブン・スィナーン・イブン・マーリク・イブン・ʻアブド・ʻアムルであり、バヌー・アン＝ナムル、すなわち ラビーʻア・イブン・ニザールの部族の一つに属していた。彼は一定期間ローマ人（ルーム）の間で暮らしていたため、スハイブ・アッ＝ルーミー（ローマのスハイブ）として知られていた。彼の父または叔父は キスラの統治下で総督を務めていた。[1]

スハイブはヒジュラの 35 年前、ニーナワー近くのジャズィーラ地方（で生まれた。彼はそこで捕らえられ、その後マッカへ連れて来られ、ʻアブドゥッラー・イブン・ジュドʻアーンによって買われた。

❖ 生涯と徳：

スハイブ（アッラーの御満悦あれ）は赤みを帯びた肌を持つ人物で、背丈は高すぎず低すぎず、頭髪は豊かで、それをヘンナで染めていた。彼（アッラーの御満悦あれ）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が使命を受ける以前からその仲間であり、預言者が使命を授けられたとき、スハイブは最も早くイスラームを受け入れた者たちの一人であった。

ʻアブドゥッラー・イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）は言った。
公然とイスラームを表明した最初の者は七人であった：アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）、アブー・バクル、ʻアンマール、その母スミヤ、スハイブ、ビラール、そしてアル＝ミクダードである。アッラーの使徒については、アッラーが彼の叔父アブー・ターリブによって彼を守られた。アブー・バクルについては、アッラーが彼の民によって彼を守られた。その他の者たちについては、多神教徒が彼らを捕らえ、鉄の鎧を着せ、灼熱の太陽の下にさらした。[2]

スハイブ（アッラーの御満悦あれ）は、敬虔で寛大、アッラーを畏れる心を持ち、勇敢で高潔な人物であった。彼はアッラーの道のために自らと財産を捧げ、貧困を恐れることはなかった。彼は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が彼に言われた次の言葉によって広く知られるようになった。

アブー・ヤフヤーよ、実に利益ある取引であった！実に利益ある取引であった！実に利益ある取引であった！[3]

これは彼がマディーナへ移住しようとしたとき、マッカの人々に止められた際のことであった。彼は優れた弓使いであったため、矢筒を空にしながら彼らに次のように言った。自分は矢で彼らと戦うこともできるが、もし彼らが望むなら財産を渡す代わりに去らせてほしい、と。彼らは彼の財産を受け取り、彼を行かせた。

その後、彼は‘アリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）とともに移住し、マッカから移住した最後の者たちとなった。彼について、アッラーは次の御言葉を下された。

人々の中には、アッラーの御満悦を求めて自らを売る者がいる。アッラーはしもべたちに対して最も慈悲深い御方である。[4]

[1] *Siyar Aʿlām al-Nubalā'*（17/2）。
[2] アフマド（3823）、イブン・マージャ（150）。
[3] アル＝ハーキム（3/450）。
[4] アル＝バカラ章 207 節、タフスィール *al-Ṭabarī*（4/248）。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の逝去後、スハイブ（アッラーの御満悦あれ）はマディーナに居住した。そこでは、彼の地位と徳が認められていたため、教友たちによって敬意をもって遇された。
また、‘ウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）が刺されたとき、彼はシュウラーの人々が次のカリフを選出するまでの間、スハイブがムスリムたちの礼拝を導くよう命じた。[5]

❖ 御逝去：

スハイブ（アッラーの御満悦あれ）は、‘ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）の殉教後に起こった諸々の試練から身を退いた。彼はヒジュラ暦 38 年にマディーナで逝去し、アル＝バキー‘に埋葬された。

[1] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ (10/209)

知識テスト — 第 32 週

モジュール	問い	選択肢	正解
タフスィール	問：アッラーの御言葉にある muṣayṭir とは何を意味するか。	[a] 追随者。[b] 権威を持つ者。[c] 圧倒する者。	b
ハディース	親族関係を保つことによって得られる実りの一つは何か。	[a] 子どもが多くなること。[b] 病から癒やされること。[c] 糧（リズク）が増えること。	c
アキーダ	習慣や世俗的事柄におけるイノベーション（新しい事柄）は何か。	[a] 許されている。[b] 嫌われる。[c] 禁止されている。	a
フィクフ	ジュムアの昼夜において推奨されていることの一つは何か。	[a] 断食と夜の礼拝を特別に行うこと。[b] 預言者への多くの祝福（ṣalāh）を送ること。[c] 家族に惜しみなく施すこと。	b
スィーラ	ハイバルの戦いが起こった年はいつか。	[a] ヒジュラ暦 5 年。[b] ヒジュラ暦 6 年。[c] ヒジュラ暦 7 年。	c
サハーバ	スハイブ（アッラーの御満悦あれ）の系譜はどこに遡るか。	[a] ローマ人。[b] クライシュ。[c] バヌー・アン＝ナムル。	c

33 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝アアラー章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَبِّحِ اسْمَ رَبِّكَ الْأَعْلَى (1) الَّذِي خَلَقَ فَسَوَّى (2) وَالَّذِي قَدَّرَ فَهَدَى (3) وَالَّذِي أَخْرَجَ الْمَرْعَى (4) فَجَعَلَهُ غُثَاءً أَحْوَى (5) سَنُقْرِئُكَ فَلَا تَنْسَى (6) إِلَّا مَا شَاءَ اللَّهُ إِنَّهُ يَعْلَمُ الْجَهْرَ وَمَا يَخْفَى (7) وَنُيَسِّرُكَ لِلْيُسْرَى (8) فَذَكِّرْ إِنْ نَفَعَتِ الذِّكْرَى (9) سَيَذَّكَّرُ مَنْ يَخْشَى (10) وَيَتَجَنَّبُهَا الْأَشْقَى (11) الَّذِي يَصْلَى النَّارَ الْكُبْرَى (12) ثُمَّ لَا يَمُوتُ فِيهَا وَلَا يَحْيَى (13) قَدْ أَفْلَحَ مَنْ تَزَكَّى (14) وَذَكَرَ اسْمَ رَبِّهِ فَصَلَّى (15) بَلْ تُؤْثِرُونَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا (16) وَالْآخِرَةُ خَيْرٌ وَأَبْقَى (17) إِنَّ هَذَا لَفِي الصُّحُفِ الْأُولَى (18) صُحُفِ إِبْرَاهِيمَ وَمُوسَى (19)

慈悲あまねく、慈愛深きアッラーの御名において。あなたの主、至高なる御方の御名を称えよ。創造し、整え、定め、導き、牧草を生えさせ、それをやがて黒く枯れた茎とされる御方。われらはあなたに読誦させる。あなたは忘れない。ただし、アッラーが望まれる場合を除いて。まことにかれは、公にされるものも隠されるものも知っておられる。また、われらはあなたを最も容易な道へと導く。ゆえに、もし諭しが益するならば諭せ。畏れる者は諭しを受け入れる。しかし最も不幸な者はそれを避ける。その者は大火に入る。そこでは死ぬこともなく、生きることもない。まことに成功する者は、自らを清め、主の御名を念じ、礼拝する者である。しかしあなたがたはこの世の生活を好む。だが来世の方が、より良く、より永続する。まことにこれは、以前の啓典にも記されている。すなわち、イブラーヒームとムーサーの啓典である。

❖ スーラの主題

来世を人間の魂に思い起こさせ、魂をこの世の執着から離れさせる呼びかけ。

❖ 難語解説

アラビア語	転写	意味
سَبِّحِ اسْمَ رَبِّكَ	sabbiḥ isma rabbika	主の御名を舌によって称え、讃えること。
الْأَعْلَى	al-aʿlā	本質・地位・支配において至高なる御方。
فَسَوَّى	fasawwā	被造物を完全に整え、形作られた。
فَهَدَى	fahadā	それぞれの被造物を、それに適したものへ導かれた。
أَخْرَجَ الْمَرْعَى	akhraja al-marʿā	草木や牧草を生えさせられた。
غُثَاءً	ghuthāʾan	乾いて枯れた茎。
أَحْوَى	aḥwā	色を変えさせた。

アラビア語	転写	意味
إِلَّا مَا شَاءَ اللَّهُ	illā mā shā'a Allāh	アッラーが廃止されるか忘れさせることを望まれるものを除いて。
لِلْيُسْرَى	lil-yusrā	あなたのシャリーアと生活における容易で円滑な道へ。
يَصْلَى النَّار	yaṣlā al-nār	火に入り、その熱を受けること。
تُزَكَّى	tuzakkā	罪から魂を清め、服従によって飾ること。
إِنَّ هَذَا	inna hādhā	自らを清めた者は成功したという御言葉を指す。

❖ 全体の意味

アル＝アʻラーはマッカで啓示されたスーラであり、スーラ・サッビフとも呼ばれる。
この章は、崇高なるアッラーの偉大さと力を示す証拠を確立するために啓示された。かれは至高なる御方であり、創造者であり、万物の創始者であり、しもべとすべての被造物を導く御方であり、糧や人生の事柄を定める御方であり、隠されたものと現れたもののすべてを知る全知の御方である。

このスーラは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対して二つの吉報をもたらした。

1. アッラーが彼を忘却から守られたこと。すなわち、彼に啓示されたものを忘れることはない。
2. アッラーが彼を容易な道へ導かれたこと。彼は二つの事柄の間で選択を与えられるとき、常により容易な方を選ばれた。

その後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、使命を伝え、すべての人々に諭すよう命じられた。
アッラーの懲罰を恐れる信者はこの諭しを受け入れ、教訓を得る。一方、不幸な不信者は背を向け、ついには火獄に至る。そこでは苦しみから死ぬこともなく、安らかな生活を送ることもない。

スーラは最後に、真の成功とは、自らの魂を清め、主を念じ、礼拝を行い、はかないこの世の生活よりも永続する来世を選ぶ者のものであると確認して締めくくられる。

❖ スーラから得られる教訓:

1. 心を清め、魂を改革し、罪から浄化することへの励まし。
2. 礼拝、ズィクル（アッラーの想起）、施しによってアッラーに近づくことへの励まし。
3. 公の場でも私的な場でもアッラーを意識する義務。かれは公にされるものも隠されるものも知っておられる。

4. 不幸はアッラーの想起と服従から背を向けることに結びつき、その結末は燃え盛る火である。

月曜日：ハディース モジュール — 人は愛する者と共にある

アブー・ムーサー・アル＝アシュ‘アリー（アッラーの御満悦あれ）の伝承によると、彼は次のように語った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。人は、自分が愛する者と共にある。[1]

❖ 解説

このハディースは、来世において人はこの世で愛していた者たちと共に集められることを明らかにしている。
愛とは、愛する者が愛される者に強く結びついていること、性格において似通っていること、そして行動において彼に従っていることの証である。

したがって、ムスリムは心の中に、諸預言者（彼らの上に平安がありますように）と、その正しい追随者たちへの大きな愛を抱くべきである。アッラーの恩寵と慈恵によって、たとえその者の行いが彼らの行いに及ばなくても、アッラーは彼を彼らと共に集めてくださるのである。

このため、アナス（アッラーの御満悦あれ）は次のように言った。

イスラームを受け入れてから、私たちは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の次の言葉ほど喜んだことはなかった。
まことに、あなたがたは自分が愛する者たちと共にある。
私はアッラー、その使徒、アブー・バクル、そしてウマルを愛している。私は彼らのような行いをしていないが、彼らと共にあることを望んでいる。[2]

もし被造物同士の愛についてこれほどのことであるならば、アッラーを愛し、その愛と畏れをすべてのものの上に置く者のことは、なおさら重大である。そのような者はアッラーと共にあり、アッラーと共にある者にはアッラーが共にいてくださる。崇高なるアッラーは次のように仰せられる。

まことにアッラーは、かれを畏れる者たち、そして善行を行う者たちと共におられる。[3]

❖ ハディースから得られる教訓

1. アッラーのための愛の地位の高さ。これは世俗的理由や財産のためではなく、信仰を増やし良き模範を得るというこの世での益と、来世においてアッラーの慈悲のもとで愛する者たちと共に集められるという益をもたらす。
2. ムスリムは仲間や友人を慎重に選ぶべきである。なぜなら、たとえ自分の行いが彼らより少なくても、人は彼らと共にあるからである。

3. 不従順な者や邪悪な者を愛することへの警戒の義務。そのような愛は来世において彼らと共に集められる原因となり、やがて敵意や互いの呪いへと変わる。

[1] Ṣaḥīḥ al-Bukhārī (6170), Ṣaḥīḥ Muslim (2641)
[2] Ṣaḥīḥ Muslim (2639)
[3] クルアーン〔16:128〕

火曜日：アキーダモジュール — ビドア（革新）に対するサラフの立場

正しき先人たち（al-salaf al-ṣāliḥ）は、宗教における革新（ビドア）に立ち向かい、それを退け、そして最も強い形でそれを非難するという明確な立場を有していた。

その立場の一つとして、アッ＝ダーリミーによって伝えられた次の伝承がある。アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー（アッラーの御満悦あれ）は、‘アブドゥッラー・イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）の家の戸口に来て、彼が外に出てくるまで座って待っていた。彼は言った。おおアブー・‘アブド・アッ＝ラフマーン、私は今しがたモスクの中で、好ましくないと思う事柄を見ました。しかし、アッラーに讃美あれ、そこに見たのは善いことだけでした。彼は言った。それは何か。彼は答えた。もしあなたが生きておられれば、やがてそれを見るでしょう。私はモスクの中で、人々が礼拝を待ちながら円になって座っているのを見ました。それぞれの円の中には一人の男がいて、彼らの手には小石がありました。彼はアッラーフ・アクバルを百回唱えなさいと言い、彼らは百回アッラーフ・アクバルと言いました。次に彼はアル＝ハムドゥ・リッラを百回唱えなさいと言い、彼らは百回アル＝ハムドゥ・リッラーと言いました。さらに彼はスブハーン・アッラを百回唱えなさいと言い、彼らは百回スブハーン・アッラーと言いました。彼は言った。あなたは彼らに何と言ったのか。彼は答えた。あなたの意見を待って、私は何も言いませんでした。すると彼は言った。なぜ彼らに、自分たちの罪を数えるよう命じなかったのか。そして、彼らの善行が少しも失われないことを保証してやらなかったのか。その後、彼は立ち上がり、私たちも彼と共に行き、彼はその円の一つのところへ来た。彼は彼らの上に立ち、言った。私が見ているこの行為は何だ。あなたがたは自分たちの罪を数えよ。私はあなたがたの善行が少しも失われないことを保証する。災いあれ、ムハンマドのウンマよ。あなたがたは何と早く滅びに向かうのか。ここに預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の衣服があり、まだ擦り切れてもいない。また彼の器もまだ壊れてはいない。わが魂がその御手にある御方にかけて、あなたがたはムハンマドの導きよりも優れた導きの上にあるか、さもなくば迷いの扉を開いているのである。彼らは言った。アッラーにかけて、おおアブー・‘アブド・アッ＝ラフマーン、私たちはただ善を望んだだけです。彼は答えた。どれほど多くの者が善を望みながら、それを得ることができないことか。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、クルアーンを朗誦するが、それが喉を越えて下へ届かない人々が現れると私たちに告げられた。アッラーにかけて、私は知らない。しかし、おそらくその多くがあなたがたの中から出るであろう。その後、彼は彼らから立ち去った。‘アムル・イブン・サラマは言った。私たちは、その人々の多くがナフラワーンの日にハワーリジュと共に私たちと戦っているのを見た。[1]

また別の立場として、イマーム・マーリク・イブン・アナス（アッラーの慈悲あれ）から伝えられている次の言葉がある。ある男が彼のもとに来て言った。私はどこからイフラーム（iḥrām）に入るべきでしょうか。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がイフラームに入られたミーカートからである。男は言った。もしそれより遠い場所からイフラームに入るならどうでしょうか。マーリクは答えた。私はそれ

を正しいとは思わない。男は言った。善を増やすことのどこが問題なのですか。マーリクは言った。私はあなたにフィトナ起こることを恐れる。男は言った。善を増やすことに、どのようなフィトナがあるのですか。マーリクは答えた。至高なるアッラーは仰せられた。それゆえ、彼の命令に背く者たちは、試練が彼らに降りかかるか、あるいは痛ましい懲罰が彼らに降りかかることを警戒せよ。[2] そして、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に定められなかった徳を、自らのために定めること以上に大きなフィトナがあるだろうか。[3]

[1] アッ＝ダーリミーMuqaddimat al-Sunan（210 頁）。

[2] ［アン＝ヌール章：63］

[3] Al-Faqīh wa-al-Mutafaqqih（1/146）；al-Madkhal ilā al-Sunan al-Kubrā（236 頁）。

水曜日：フィクフ モジュール — ジャナーザ礼拝（葬送礼拝）

ムスリムが死の言及を耳にしたとき、彼は訓戒を受け取り、この現実について熟考しなければならない。それがこの世における自らの避けがたい終わりであることを思い起こすのである。彼は正しい行いによって来世のための備えを行い、罪からの悔悟を急ぎ、他者の権利や不満から自らを解放しなければならない。
これは人が自分自身に対して果たすべき義務である。亡くなった者に対する義務について言えば、アッラーはイスラームの兄弟関係の絆が死後も続くよう定められた。ゆえに、ムスリムが亡くなった兄弟に対して、高貴な行為と祝福された祈りによって別れを告げることを定められた。それは、アッラーに向かって彼に赦しと慈悲を与えてくださるよう求め、罪を赦し、彼のためのムスリムたちの執り成しを受け入れてくださるよう願う祈りである。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。亡くなった者のために礼拝するときは、彼のための祈願を誠実に行いなさい。[1]

❖ ジャナーザ礼拝の規定：

葬送礼拝は共同義務である。もし一部の者がそれを行えば、残りの者から罪は取り除かれる。アル＝ナジャーシーが亡くなった日に、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。まことに、あなたがたの兄弟が亡くなった。ゆえに立ち上がり、彼のために礼拝しなさい。[2]
葬送を急ぐことはスンナである洗浄、遺体を包むこと、礼拝を行うこと、それに付き従うこと、そして埋葬することである。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。葬送を急ぎなさい。もしそれが正しい者であったならば、あなたがたはそれを善へと差し出すのであり、もしそうでなければ、それはあなたがたの首から取り除かれる悪である。[3]

❖ ジャナーザ礼拝の徳：

葬送礼拝の徳について、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。葬送に参列し、その礼拝が行われるまで留まる者には一つのキラート（qīrāṭ）が与えられる。埋葬されるまで参列する者には二つのキラートが与えられる。人々は尋ねた。二つのキラートとは何ですか。彼は答えられた。二つの大きな山のようなものである。[4]

❖ ジャナーザ礼拝の柱：

礼拝が無効となるため欠かすことのできない基本要素は七つである。

1. 立つこと（それが可能な者にとって）。
2. 四回のタクビール。

3. 最初のタクビールの後にアル＝ファーティハを朗読すること。

[1] アブー・ダーウード（3199）。
[2] ムスリム（952）。
[3] アル＝ブハーリー（1351）、ムスリム（944）。
[4] アル＝ブハーリー（1325）、ムスリム（945）。

1. 第二のタクビールの後に預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に祝福を送ること。
2. 第三のタクビールの後に故人のために祈願すること。
3. サラーム。
4. 柱を順序どおりに行うこと。

❖ ジャナーザ礼拝における祈願：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）から伝えられているものによって祈願することはスンナである。例えば次のようなものである。
• アッラーよ、私たちの生きている者と亡くなった者、出席している者と不在の者、若い者と年長の者、男性と女性をお赦しください。アッラーよ、私たちの中で生かされる者をイスラームの上に生かし、私たちの中で死なされる者をイーマーンの上に死なせてください。[1]
• アッラーよ、彼をお赦しください。彼に慈悲を与えてください。彼を赦免してください。彼の迎え入れを尊いものとし、彼の入る場所を広げてください。彼を水と雪と雹で洗い清め、白い衣が汚れから清められるように彼の罪を清めてください。彼の住まいをより良い住まいに替え、彼の家族をより良い家族に替え、彼の配偶者をより良い配偶者に替えてください。彼を楽園に入れ、墓の懲罰と火獄の懲罰から守ってください。[2]
• もし故人が子どもであった場合、彼は次のように言った。アッラーよ、彼をその両親にとって先立つ者とし、彼らのための報奨と蓄えとしてください。[3]
また、その他の適切なドゥアー'によって祈願することも許されている。

❖ ジャナーザ礼拝の補完：

礼拝の一部を逃した者はイマームと共に加わり、イマームのサラームの後に逃した部分を同じ方法で完了する。礼拝全体を逃した者は、埋葬の前でも後でも墓のところでそれを行うことができる。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、マスジドを清掃していた女性の場合にそうされたからである。[4]

[1] アブー・ダーウード（3201）、アッ＝ティルミズィー（1024）。
[2] ムスリム（963）。
[3] 'アブドゥッラッザーク（6589）。
[4] アル＝ブハーリー（458）、ムスリム（956）。

木曜日：スィーラモジュール — ムウタの戦い

❖ 日付：

それはヒジュラ後八年、ジュマーダー・アル＝アーヒラ月に起こった。

❖ 原因：

ムウタの戦いは、アル＝ハーリス・イブン・‘ウマイル・アル＝アズディー（アッラーの御満悦あれ）が殺害されたことへの報復として起こった。彼は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がローマ皇帝ヘラクレイオスにイスラームへ招くために派遣した使者であった。しかしその途中で、ローマ側の総督であったシュラフビール・イブン・‘アムル・アル＝ガッサーニーに捕らえられ、殺害された。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がこの知らせを受けたとき、彼は憤り、ムスリムたちにジハードを呼びかけた。

❖ 出来事：

ムウタの戦いは、ムスリムがローマ軍と戦った戦いの中でも最も重要なものの一つと見なされている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は三千人の兵士からなる軍を準備し、三人の指揮官を順に任命した。すなわち、ザイド・イブン・ハーリサ、もし彼が戦死した場合はジャアファル・イブン・アビー・ターリブ、もし彼も戦死した場合は‘アブドゥッラー・イブン・ラワーハである（アッラーが彼らすべてに満足されますように）。[1] 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らを見送るために道の一部まで同行された。
彼らは進軍を続けたが、やがてローマ皇帝ヘラクレイオスが十万の兵を率いて彼らに向かって進軍しているという知らせを受けた。さらに、マーリク・イブン・ザーフィラの指揮の下にあるキリスト教徒アラブの軍勢十万がこれに加わっていた。ムスリムたちは互いに相談し、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に手紙を書いて、私たちに何をすべきか命じてもらうべきか、それとも援軍を送ってもらうべきかと言った。すると、‘アブドゥッラー・イブン・ラワーハ（アッラーの御満悦あれ）が彼らを励まして言った。人々よ。アッラーにかけて言うが、あなたがたが嫌うものこそ、あなたがたが求めて出て来たものであるすなわち殉教である。あなたがたは人数や力、多さによって人々と戦うのではない。むしろ、アッラーがあなたがたに栄誉を与えられたこの宗教によって彼らと戦うのである。ゆえに進みなさい。結果は二つのうちのいずれかである。すなわち勝利か殉教である。[2]
ムスリムたちは彼の言葉に同意し、進軍を続けてシャームの地にある村ムウタに到達した。そこで両軍は衝突し、戦いは激化した。ザイド・イブン・ハーリサ（アッラーの御満悦あれ）は旗を掲げながら戦い、殉教した。次にジャアファル・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）がそれを受け取り、馬から降りてその脚を切り、戦い続けた。やがて彼の右手が切り落とされたため、彼は左手で旗を持ったが、その左手もまた切り落とされた。それでも彼は旗を胸に抱えたまま戦い、ついに殉教した。その後

、‘アブドゥッラー・イブン・ラワーハ（アッラーの御満悦あれ）が旗を取り、彼もまた殉教するまで戦った。

[1] アル＝ブハーリー（4261）。
[2] アッ＝タバラーニー（15011）。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、戦場からの知らせが届く前に、彼らの殉教をマディーナの人々に伝えられ、その目からは涙が流れていた。[3] 三人の指揮官が倒れた後、ムスリムたちはハーリド・イブン・アル＝ワリードを指揮官に任命し、アッラーは彼の手によって勝利を与えられた。

❖ 結果：

ハーリド・イブン・アル＝ワリード（アッラーの御満悦あれ）が旗を受け取ったとき、彼はムスリム軍を救うための戦略的撤退の計画を立てた。夜の間に、彼は兵士たちの配置を入れ替えた右側の隊列を左側へ、前衛を後方へ移し、さらに騎兵に命じて疾走させ塵を巻き上げさせ、あたかも援軍が到着したかのような錯覚を作り出した。これによってローマ軍の間に恐れが生じた。その後、彼は軍に撤退を命じ、ムスリムたちは無事に帰還した。
敵軍がムスリムに比べて圧倒的に多かったにもかかわらず、殉教したムスリムはわずか十二人であり、一方で多くのローマ兵が殺された。ムウタの戦いは、その後のローマとの戦いに対する警告と前触れとなり、また多くの部族がイスラームに入る原因ともなった。たとえば、バヌー・スライム、アシュジャʿ、ガタファーン、そしてズビヤーンなどである。

[1] アル＝ブハーリー（4262）。

土曜日：サハーバモジュール — ジュライビーブ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と誕生：

彼はジュライビーブであり、高貴な教友の一人である。彼はこの名によってのみ知られており、正確な出生の時期は記録されていない。彼はアンサールの同盟部族であるバヌー・サアラバの出身であったと言われている。

❖ 生涯と徳：

ジュライビーブ（アッラーの御満悦あれ）は温厚で良い性格を持ち、勇敢で、死を恐れない人物であった。彼は貧しく、背が低く、容姿も整っていなかった。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に結婚を勧めた。するとジュライビーブは言った。それでは、人々は私を望ましくない者と見るでしょう。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。いや、アッラーの御前においてあなたは望ましくない者ではない。[1]その後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アンサールの一人の男性の娘との結婚を彼のために申し入れた。その男性と妻はためらいを見せたが、娘はそれを聞いて言った。あなたがたは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が決められたことを拒むのですか。そして彼女は次の御言葉を朗誦した。アッラーとその使徒が一つの事柄を決定したとき、信仰する男にも信仰する女にも、その事柄について選択の余地はない。[2] 彼女は言った。私はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が私のために選ばれることに満足し、従います。私を彼に嫁がせてください。彼は決して私を粗末には扱わないでしょう。それから預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女のために祈願し、言われた。アッラーよ、彼女に豊かな祝福を注ぎたまえ。そして彼女の生活を困難なものにしないでください。[3]

❖ 逝去：

ある戦いの中で、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）はジュライビーブがいないことに気づいた。彼は彼を捜すよう命じた。人々が彼を見つけたとき、彼は戦死しており、殉教する前に多神教徒七人を倒していた。そして彼らは彼の周りに倒れていた。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼のもとへ来て立ち、言われた。彼は七人を倒した。それから彼のために祈願し、言われた。彼は私の一部であり、私は彼の一部である。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を自らの腕で運ばれた。なぜなら彼にはそれ以外の棺台がなかったからである。そして彼を埋葬された。彼のために葬送礼拝は行われなかった。[4]

---

[1] アブー・ヤアラー（3343）。
[2] ［アル＝アフザーブ章：36］。
[3] アフマド（4/422）。
[4] ムスリム（2472）。

知識テスト — 第 33 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	アッラーの御言葉 aḥwā の意味は何か。	[a] 変化したもの[b] 固いもの[c] 新しいもの	a
ハディー	復活の日に、人は誰と共に集められるか。	[a] 自分の民[b] 家族[c] 愛していた者たち	c
アキーダ	質問者に対し、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の命令に背くことを戒め、別の場所からイフラーム（iḥrām）に入ることを禁じたのは誰か。	[a] ʿアブドゥッラー・イブン・マスʿウード[b] イマーム・マーリク[c] イマーム・アル＝アウザーイー	b
フィクフ	葬送礼拝の柱はいくつあるか。	[a] 4[b] 5[c] 6	a
スィーラ	ムータの戦いにおいて、ムスリムは誰と戦ったか。	[a] ペルシア人[b] ローマ人[c] クライシュ族	b
サハーバ	ジュライビーブ（アッラーの御満悦あれ）は殉教する前に、多神教徒を何人倒したか。	[a] 3 人[b] 5 人[c] 7 人	c

34 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アッ＝ターリク章(前半)

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالسَّمَاءِ وَالطَّارِقِ (1) وَمَا أَدْرَاكَ مَا الطَّارِقُ (2) النَّجْمُ الثَّاقِبُ (3) إِنْ كُلُّ نَفْسٍ لَمَّا عَلَيْهَا حَافِظٌ (4) فَلْيَنْظُرِ الْإِنْسَانُ مِمَّ خُلِقَ (5) خُلِقَ مِنْ مَاءٍ دَافِقٍ (6) يَخْرُجُ مِنْ بَيْنِ الصُّلْبِ وَالتَّرَائِبِ (7) إِنَّهُ عَلَى رَجْعِهِ لَقَادِرٌ (8) يَوْمَ تُبْلَى السَّرَائِرُ (9) فَمَا لَهُ مِنْ قُوَّةٍ وَلَا نَاصِرٍ (10)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。
天と夜に現れる星にかけて。* そして、夜に現れる星とは何かを、あなたに理解させるものは何か。* それは、貫くように輝く星である。* いかなる魂にも、その上には見守る者が置かれている。* それゆえ、人間は自分が何から創造されたのかを見よ。* 彼は、ほとばしる液体から創造された。* 背骨と肋骨の間から出てくるものからである。* まことに、アッラーは彼を再び戻される御力をお持ちである。* 秘密が試されるその日に。* そのとき彼には、いかなる力もなく、また助ける者もいない。

❖ スーラのテーマ：

人間の創造と復活において現れる、アッラーの力と、万物を包み込む御知識を明らかにすること。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
الطَّارِق	al-Ṭāriq	夜に現れる星。
وَمَا أَدْرَاكَ مَا الطَّارِقُ	wa mā adrāka mā al-Ṭāriq	この星の偉大さを、何があなたに理解させるのか。
الثَّاقِب	al-thāqib	強く輝く、光り輝く星。
إِنْ كُلُّ نَفْسٍ لَمَّا	in kullu nafsin lammā	すべての魂には必ず…がある。
حَافِظٌ	ḥāfiẓ	その行いを記録する天使。
دَافِقٍ	dāfiq	子宮へと勢いよく流れ出る液体。
الصُّلْب	al-ṣulb	背骨。
التَّرَائِب	al-tarā’ib	胸の骨。
رَجْعِهِ	raj‘ihi	死後に再び生き返らされること。
تُبْلَى السَّرَائِرُ	tublā al-sarā’ir	秘密や隠された思いが試され、明らかにされること。

❖ 全体的な意味：

アッ＝ターリク章はマッカ啓示のスーラであり、アッラーは壮大な誓いをもってこれを始められる。すなわち、御自身の驚くべき宇宙のしるしの一つである天と、その輝く星にかけて誓われたのである。アッラーが御創造物にかけて誓われることは、御威厳の証拠である。なぜなら、被造物の偉大さは創造主の偉大さを示すからである。

この誓いの内容は、アッラーの完全なる監視と包摂的な見守りである。すなわち、いかなる人間にも、その行いを記録し守るための天使が任命されているということである。こうして人は、審判の日にその行いに応じて報いを受けるのである。

その後、至高なるアッラーは、人間に御自身の復活させる力と清算の力を思い起こさせられる。人は自分の創造の起源と始まりを見つめ、熟考すべきである。困難な経路から流れ出る一滴の液体から彼を創り出された御方は、来世において彼を再び甦らせることが完全に可能なのである。

その日には、心の秘密と内なる意図が明らかにされ、隠されていたものが露わになる。正しい者の正しさは明らかとなり、悪しき者の邪悪さもまた明白となる。そのとき人間には、抵抗する力も、自分を守る力もなく、被造物の中に助けてくれる者も存在しない。彼に残されるのは、ただ服従し認めることのみである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 人間の創造の起源における弱さを思い起こさせ、それによって人が謙虚になり、傲慢になることを防ぐ。
2. 人間の創造の中には、熟考すべき明白なしるしと、感謝すべき大いなる恩恵がある。
3. すべての行いは、善であれ悪であれ、細部に至るまで記録され保存されているという想起。
4. 悪を隠したり虚偽を心に抱いたりすることへの警告。なぜなら、アッラーはしもべたちが隠すものも表すものもすべて御存知だからである。

月曜日：ハディースモジュール — 怒りへの警告

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。
ある男が来て言った。アッラーの使徒よ、私に助言をください。すると彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
怒ってはならない。
その男は何度も（同じ願いを）繰り返したが、彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
怒ってはならない。[1]

❖ 解説：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉怒ってはならないには、怒りから身を守るための二つの重要な指針が含まれている。

1. **怒りが生じる前に：**
   この命令には、怒りの原因が現れたときにそれを防ぐための手段を取ることが含まれる。例えば、怒りを抑えること、寛容と忍耐をもって魂を訓練すること、そして他人からの害を耐え忍ぶ心構えを整えることである。しもべがこの点で成功を与えられるならば、突然生じる怒りを寛容と忍耐によって退ける準備ができるであろう。
2. **怒りが生じた後に：**
   この命令には、怒りが命じる行為を実行することを控えることが含まれる。なぜなら、ある程度の怒りは自然に生じることがあり、それ自体を完全に防ぐことはできないからである。しかし人は、その結果を防ぐことができる。これは、預言者の助言を思い起こし、怒りに基づく言葉や行動から舌と身体を抑え、怒りがもたらす破壊的な結果を思い出すことによって達成される。

❖ このハディースから得られる益：

1. 学者や正しい人々に助言を求めることの重要性。
2. ある事柄を禁じることには、その原因をも禁じること、またそれを避ける助けとなる事柄への命令が含まれる。
3. 良い品性、忍耐、寛容をもって魂を訓練することの義務。これは真の知的・精神的強さの一部である。
4. 怒りの結果を抑える者は、実際には怒らなかった者と同じである。
5. アッラーとその使徒の命令の中には、ムスリムにとっての善と幸福の原因が存在するということ。

---

[1] アル＝ブハーリー（6116）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — ビドアの例

宗教における革新（ビド‘ア）は、次々と現れ続けてきた。しかしアッラーは常に、確かな知識に根ざした学者たちを起こし、明確な説明と解明によってそれらに立ち向かわせてこられた。これは、シャリーアに対するアッラーの守護であり、また御宗教（ディーン）を保存するための御加護である。

❖ **これらの革新のいくつかの例：**

1. **ラビーウ・アル＝アウワル月における預言者誕生日（アル＝マウリド・アン＝ナバウィー）の祝祭**
   ラビーウ・アル＝アウワル月に毎年、預言者の誕生日を祝う習慣が、一部のムスリムの間で広まっている。これは非難されるべき革新である。なぜなら、アッラーの書、スンナ、また敬虔なる先人（サラフ）の実践のいずれにも根拠が存在しないからである。むしろこれは、ヒジュラ暦四世紀以降にファーティマ朝によって導入されたものである。
   これに類するものとして、アル＝イスラー’とアル＝ミ‘ラージュの夜、あるいは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のヒジュラを祝うことが挙げられる。これらすべては証拠のない革新である。
   教友たちはこれらを行わず、また最良の世代に属する彼らの後の人々も行わなかった。もしそこに善があったならば、彼らこそ私たちよりもそれを行うに最もふさわしい人々であったであろう。なぜなら彼らは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）への愛と尊敬において、私たちよりも優れていたからである。
   彼らは善に対してより熱心であり、正しい行いを行うことにおいてより迅速であった。そして彼らは、預言者への真の愛と尊敬とは、彼に従い、その命令に従順であり、彼のスンナを外面と内面の双方において生き返らせ、彼がもって遣わされたものを広めることにあると、よく理解していたのである。
2. **場所、遺物、墓、人々（生者・死者を問わず）から祝福を求めること（tabarruk）**
   場所、遺物、墓、あるいは人々から祝福（tabarruk）を求めることは、偶像的信仰からムスリムの間に入り込んだ新しい革新の一つである。
   この行為の正当性は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の時代にも、また正統カリフたちの時代にも、決して確立されていない。
   実際、‘ウマル・イブン・アル＝カッターブ（アッラーの御満悦あれ）は、人々が祝福を求めて集まっているのを見て、フダイビーヤにおいて忠誠の誓いが行われた木を切り倒した。[1]
3. **特定の機会にアル＝ファーティハ章を読むこと**
   特定の場面でアル＝ファーティハ章を読む習慣には、これを特別に定める証拠がまったく存在せず、これは後代になって現れたものである。

4. **ラジャブ月を特別なウムラ（アル＝ラジャビーヤ）に指定すること**
   あるいは、この月を特別に礼拝、断食、また犠牲の屠殺のために指定することである。
5. **作られたズィクルを採用すること**
   言葉、形式、時間において、定められたズィクルに反する新しい祈念句を採用すること。
6. **シャʿバーン月十五夜の特別視**
   シャʿバーン月の十五日の夜を特別に夜間礼拝にあて、その日を断食に指定すること。

❖ **革新（ビドʿア）の害と影響：**

1. **革新は不信仰への入口であり、宗教を破壊する手段となる。なぜなら、それはシャリーアへの尊重を弱め、クルアーンとスンナへの固い従順を衰えさせるからである。**
2. 革新は重大な罪よりも悪い。なぜなら、それはアッラーの宗教に欠陥があるかのように示唆し、それに不完全さを帰することになるからである。

[1] イブン・アビー・シャイバ（2/73）およびイブン・サアドアッ＝Ṭabaqāt（2/100）によって伝承された。

3. **革新（ビドʿア）はスンナを廃れさせ、人々にそれを実践することを嫌わせる。**
   これはそれ自体が、迷いと心の堕落を招く十分な原因となる。
4. **革新は悪い最期（スーウ・アル＝ハーティマ）の原因の一つである。**
   なぜなら、罪を犯す者はそれが罪であることを知っているため、そこから悔い改める可能性がある。しかし革新を行う者は、自らのビドʿアを宗教的行為であり、アッラーに近づく手段であると信じている。その結果、彼はしばしば悔悟を奪われ、悪い最期に見舞われるのである。

水曜日：フィクフモジュール — 礼拝後のズィクル

ムスリムには、礼拝を終えた後、速やかに定められたズィクル（アッラーの想起）を唱えることが定められている。その中には次のものがある。

第一：
三度の赦しの祈り（イスティグファール）を行った後、次のように言う。

Allāhumma anta al-salām, wa minka al-salām, tabārakta yā dhā al-jalāli wa-l-ikrām.
アッラーよ、あなたこそ平安であり、平安はあなたから来るものです。威厳と栄誉の御方よ、あなたは祝福に満ちておられます。[1]

第二：
Lā ilāha illā Allāhu waḥdahu lā sharīka lahu, lahu al-mulku wa lahu al-ḥamdu, wa huwa ʿalā kulli shayʾin qadīr. Allāhumma lā māniʿa limā aʿṭayta, wa lā muʿṭiya limā manaʿta, wa lā yanfaʿu dhā al-jaddi minka al-jaddu.
アッラーのほかに真に崇拝されるべき神はない。唯一であり、かれに同位者はない。主権はかれに属し、称賛もかれに属する。かれはすべてのことに全能である。アッラーよ、あなたが与えられたものを妨げる者はなく、あなたが差し控えられたものを与える者もない。富や地位を持つ者の幸運も、あなたの御前では何の益ももたらさない。[2]

第三：
Lā ilāha illā Allāhu waḥdahu lā sharīka lahu, lahu al-mulku wa lahu al-ḥamdu, wa huwa ʿalā kulli shayʾin qadīr. Lā ḥawla wa lā quwwata illā billāh. Lā ilāha illā Allāh, wa lā naʿbudu illā iyyāh, lahu al-niʿmatu, wa lahu al-faḍlu, wa lahu al-thanāʾu al-ḥasan. Lā ilāha illā Allāh mukhliṣīna lahu al-dīna wa law kariha al-kāfirūn.
アッラーのほかに真に崇拝されるべき神はない。唯一であり、かれに同位者はない。主権はかれに属し、称賛もかれに属する。かれはすべてのことに全能である。アッラーによらずして力も能力もない。アッラーのほかに神はなく、われらはかれのみを礼拝する。恩恵はかれに属し、فضل（恩寵）もかれに属し、美しい称賛もかれに属する。アッラーのほかに神はない。われらは宗教を純粋にかれのために捧げる。たとえ不信仰者たちがそれを嫌おうとも。[3]

[1] ムスリム（591）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（844）およびムスリム（593）によって伝承された。
[3] ムスリム（594）によって伝承された。

第四：タスビーフ（Subḥān Allāh）、タフミード（al-ḥamdu lillāh）、タクビール（Allāhu akbar）の唱和

礼拝後にタスビーフ（Subḥān Allāh）、タフミード（al-ḥamdu lillāh）、タクビール（akbar）を唱えることが多くの伝承で推奨されている。報告されている四つの定型は次のとおりである：

• 第一の型：
Subḥān Allāh— 10 回、
al-ḥamdu lillāh— 10 回、
Allāhu akbar— 10 回。[1]

• 第二の型：
各句を 25 回ずつ唱え、さらに Lā ilāha illā Allāh)を 25 回加える。[2]

• 第三の型：
33 回、Subḥān Allāh33 回、al-ḥamdu lillāh34 回、Allāhu akbar。[3]

• 第四の型：
Subḥān Allāh33 回、al-ḥamdu lillāh33 回、Allāhu akbar33 回、そして一度 Lā ilāha illā Allāh waḥdahu lā sharīka lah, lahu al-mulku wa lahu al-ḥamd, wa huwa ʿalā kulli shayʾin qadīr これにより合計 100 回となる。[4]

また、三句を一度にまとめて一回とし、それを繰り返して合計 33 回にすることも許されている（例：Subḥān Allāh, wa al-ḥamdu lillāh, wa Allāhu akbar を 33 回）。[5]

第五：アーヤトゥル＝クルスィー（Āyat al-Kursī）の朗誦

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
義務の礼拝の後にアル＝クルスィーを唱える者は、死以外に彼を天国から妨げるものはない。[6]

（※意訳：アル＝クルスィーを各義務礼拝後に唱えることは、大いなる守護と報奨の約束と結び付けられている。）

第六：ムʿアーウィザート（アル＝イクフラース章、アル＝ファラク章、アル＝ナース章）の朗誦

すべての礼拝の後にムʻアウィザート（を唱えること、並びにファジュル（明拝）とマグリブ（夕拝）の後にはそれらを三度繰り返すことが伝えられている。ウクバ・ビン・アムル（アッラーの御満悦あれ）は言った：アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、私にすべての礼拝の後にムʻアウィザートを朗誦するよう命じた。[7]

[1] アル＝ブハーリー（6329）、ムスリム（595）。
[2] アル＝ティルミズィー（3413）、アル＝ナサーイー（1350）。
[3] ムスリム（596）。
[4] ムスリム（597）。
[5] アル＝ブハーリー（843）。
[6] アル＝ナサーイー（9848）。
[7] アブー・ダウード（1523）。

木曜日：スィーラモジュール — マッカ征服

❖ その時期：

マッカ征服は、ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月 20 日に起こった。

❖ その原因：

その原因は、クライシュ族がアル＝フダイビーヤ条約を破ったことである。彼らの同盟部族であるバヌー・バクルが、ムスリムの同盟部族であるフザーア（を攻撃したのである。彼らは多くの者を殺害し、クライシュは密かに武器を与え、またハラム（禁域）の中で行われたこの侵略行為を支援した。

アル＝フダイビーヤ条約からわずか一年九か月しか経っていなかったが、クライシュはこれを破った。その後、彼らはアブー・スフヤーン・イブン・ハルブを、条約の更新を求めるためにアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ派遣した。
彼はマディーナへ来て、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）にその願いを申し出たが、預言者は彼に何の返答も与えなかった。

そこで彼はアブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）のもとへ行き、アッラーの使徒に取り成してくれるよう頼んだが、アブー・バクルはこれを拒否した。
次に彼はʻウマル（アッラーの御満悦あれ）のもとへ行ったが、ʻウマルは彼を厳しく叱責し、次のように言った。
あなたは私にそのようなことを期待しているのか？ アッラーに誓って言うが、もし私に一本の棒しかなかったとしても、それであなたと戦うであろう！

その後、彼はʻアリー（アッラーの御満悦あれ）のもとへ行ったが、彼もまたこれを拒否した。さらに彼は、アッラーの使徒の娘ファーティマ（アッラーの御満悦あれ）に助けを求め、彼女の息子アル＝ハサンに人々の間で保護を与えるよう命じてほしいと頼んだ。
しかし彼女は言った。
私の息子はそのようなことを行うにはまだ幼すぎます。そして、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対して保護を与えることのできる者は誰もいません。[1]

こうしてアブー・スフヤーンは何の成果も得ることなくマッカへ戻った。

❖ その出来事：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ムスリムたちに出征の準備を命じたが、この事柄は秘密にされた。
そして彼は、至高なるアッラーに対して、この知らせをクライシュから隠してくださるよう祈願した。するとアッラーはその祈りに応えられた。[2]

[1] Ibn Kathīr, al-Bidāyah wa al-Nihāyah (4/280).
[2] Ibn Kathīr, al-Bidāyah wa al-Nihāyah (4/280).

軍勢はラマダーン月 10 日に出発し、その数は**一万人の戦士**であった。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼らを**五つの部隊**に分けられた。

- 第一の部隊は、預言者ご自身（アッラーの祝福と平安あれ）が指揮された。
- 残りの四つの部隊の指揮官は、次の者たちであった。
  アッ＝ズバイル・イブン・アル＝ʻアウワーム（al-Zubayr ibn al-ʻAwwām）、
  ハーリド・イブン・アル＝ワリード、
  アブー・ʻウバイダ・イブン・アル＝ジャッラーフ（Abū ʻUbaydah ibn al-Jarrāḥ）、
  そしてカイス・イブン・サアド・イブン・ʻウバーダである。

彼（アッラーの祝福と平安あれ）は、各指揮官に対して、**それぞれ異なる方向からマッカへ入ること**、そして**攻撃されない限り誰とも戦ってはならないこと**を命じられた。

❖ その結果：

ムスリムたちは戦闘を行うことなくマッカへ入城した。その後、彼らはカアバへ向かった。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がカʻバをご覧になると、**何度もタクビールを唱えられた。するとムスリムたちもそれに続いて唱え、ついにはマッカが震えるほどであった。**その後、彼は静まるよう合図された。

彼が最初に行われたことは、**カʻバの周囲を巡回するタワーフであった。彼はそれを行いながら、周囲に置かれていたすべての偶像を打ち倒し**、次のアッラーの御言葉を誦された。

言え。真理が到来し、虚偽は滅び去った。まことに虚偽は滅び去るものである。[1]

その後、彼（アッラーの祝福と平安あれ）は、**マッカ周辺の諸部族へ部隊を派遣し、彼らをイスラームへ招いた。**

[1] ［アル＝イスラー章：81］

土曜日：サハーバモジュール — ザイド・イブン・サービト（アッラーの御満悦あれ）

❖ その御名と誕生：

彼は高貴なる教友、ザイド・イブン・サービトであり、二人の教友の子である。彼の父はサービト・イブン・アッ＝サハーク・アル＝アンサーリであり、母はアン＝ナウワール・ビント・マーリク・アル＝アンサーリーヤであった。

彼は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がマディーナへヒジュラされる**十二年前にマディーナにおいて誕生した。**

❖ その生涯と徳：

ザイド・イブン・サービト（アッラーの御満悦あれ）は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がマディーナに到着されたとき、まだ若年であった。

彼は、**バドルの戦いの後に捕虜となったクライシュの者たちから筆記を学んだ者たちの一人**であった。彼はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）からハディースを伝承し、またクルアーンを彼に朗誦した。そしてその若さにもかかわらず、啓示の書記**一人となり、さらに**教友たちの中の法学者の一人となった。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼について次のように言われた。

私のウンマの中で、相続法について最も知識ある者はザイド・イブン・サービトである。[1]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の逝去後、ザイド（アッラーの御満悦あれ）は**マディーナの人々のムフティー**となり、またそこでの**主要なクルアーン朗誦者**として知られた。彼は**知恵と正しい判断力**で著名であった。

ムスリムたちがカリフを任命するためにバヌー・サーイダのサキーファに集まった日、ザイドは知恵をもって次のように言った。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）はムハージルーンの出身であり、指導者もまたムハージルーンからであるべきである。私たちは彼らの援助者であり、それはアッラーの使徒の援助者であったのと同じである。[2]

アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）は、ヤルムークの戦いの後、戦利品の分配を彼に任せた。また、クルアーンを一冊に編纂することを決定したとき、この任務を監督する者としてザイドを任命した。

ザイド（アッラーの御満悦あれ）は言った。

それゆえ私は、羊皮紙、肩甲骨、ナツメヤシの茎、そして人々の胸（記憶）からクルアーンを収集する作業を始めた。[3]

また、**ʿウスマーン・イブン・ʿアッファーン（アッラーの御満悦あれ）のカリフ時代には、クルアーンの編纂と統一においてザイドの意見が決定的な役割**を果たした。

さらにʿウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）**は、彼を**裁判官に任命し、自らがハッジに出ている間、**マディーナの統治を彼に委ねた。**

[1] Abū Yaʿlā（5763）、al-Bayhaqī（12549）によって伝承された。
[2] Aḥmad（21617）によって伝承された。
[3] al-Bukhārī（4986）によって伝承された。

❖ その逝去：

ザイド（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 45 年、ムアーウィヤ（Muʿāwiyah）（アッラーの御満悦あれ）のカリフ時代に、マディーナにおいて逝去した。彼はアル＝バキー‘（al-Baqīʿ）に埋葬された。

彼が逝去したその日、‘アブドゥッラー・イブン・‘アッバース（アッラーの御満悦あれ）は次のように言った。

今日、多くの知識が埋葬された。[1]

[1] Al-Dhahabī, *Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ*,（第 2 巻、440 頁）。

知識テスト — 第 34 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	至高なるアッラーはアル＝ターリクによって誓われたが、それは何を指すか。	[a] 夜に現れる星 [b] 夜明けの光 [c] 日没時の薄明	a
ハディース	ある男がアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に助言を求めたとき、彼は次のように命じられた。	[a] 視線を下げよ [b] 怒るな [c] 思考を守れ	b
アキーダ	ビドアの害と結果の一つは何か。	[a] それが糧を差し止められる原因となること [b] それが理性の健全さに影響を及ぼすこと [c] それが悪い最期の原因の一つとなること	c
フィクフ	それぞれの礼拝の後に唱えることが定められている節の一つはどれか。	[a]アーリ・イムラーン章の終わりの節 [b] アル＝バカラ章の終わりの節 [c] アーヤト・アル＝クルシー	c
スィーラ	マッカ征服が起こった年はどれか。	a) ヒジュラ暦 7 年 b) ヒジュラ暦 8 年 c) ヒジュラ暦 9 年	b
サハーバ	ザイド・イブン・サービト（アッラーの御満悦あれ）が卓越していた知識の分野はどれか。	a) 相続法 b) 系譜学 c) タフスィール	a

35 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アッ＝ターリク章（後半）

وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الرَّجْعِ (11) وَالْأَرْضِ ذَاتِ الصَّدْعِ (12) إِنَّهُ لَقَوْلٌ فَصْلٌ (13) وَمَا هُوَ بِالْهَزْلِ (14) إِنَّهُمْ يَكِيدُونَ كَيْدًا (15) وَأَكِيدُ كَيْدًا (16) فَمَهِّلِ الْكَافِرِينَ أَمْهِلْهُمْ رُوَيْدًا (17)

雨を繰り返し降らせる天にかけて。そして裂けて（草木を生じさせる）大地にかけて。まことにこれは決定的な言葉である。それは戯れではない。かれらは策を巡らしている。しかしわれもまた策を巡らす。それゆえ、不信仰者たちにはしばらく猶予を与えよ。しばしの間、彼らをそのままにしておけ。

❖ これらの節の主題：

高貴なるクルアーンの真実性とその真正性。

❖ 難しい語句の解説：

アラビア語	転写	意味
وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الرَّجْعِ	al-samāʾi dhāti al-rajʿ	繰り返し雨をもたらす天
وَالْأَرْضِ ذَاتِ الصَّدْعِ	al-arḍi dhāti al-ṣadʿ	植物を生じさせるために裂ける大地
إِنَّهُ لَقَوْلٌ فَصْلٌ	innahu la-qawl faṣl	真理と虚偽を分ける決定的な言葉
أَمْهِلْهُمْ رُوَيْدًا	amhilhum ruwaydan	彼らに少しの猶予を与えよ

❖ 全体的な意味：

これらの節において、アッラーは人々が日々目にしている偉大な創造物によって誓われている。すなわち、繰り返し雨をもたらす天であり、それによって不毛の大地は蘇り、人間や動物の糧が与えられる。また、草木や果実を生じさせるために裂ける大地であり、それによって人々には不足なく糧が与えられる。

この誓いは、ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）に啓示されたクルアーンの真実性を強調している。それは完全な真理の言葉であり、明瞭さと解明に満ち、真理と虚偽、誠実と虚偽、真剣さと戯れを区別する決定的な基準である。

しかし、不信仰者たちの性質は、策謀、欺き、そして否定によって応じることである。だがアッラーは、彼らの策略を御自身の御計画と報いによって打ち破られる。すなわち、かれは御宗教の勝利を確実なものとし、御書を守り、御使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に栄誉を与えられるのである。
とはいえ、アッラーの御慣行は、不信仰者たちに猶予を与えることである。彼らの懲罰は急がされることはないが、定められた時に必ず到来する。

❖ このスーラから得られる益：

1. 高貴なるクルアーンの真実性と、その証明の力強さの確認。
2. 不信仰者の策謀から信仰者を守るアッラーの御加護の確証。
3. 至高なるアッラーの御計画に対して、不信仰者の策略がいかに弱いものであるかの明示。

月曜日：ハディース モジュール — 傲慢の禁止

‘アブドゥッラー・イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

その心の中に原子一つ分ほどの傲慢がある者は、楽園に入ることはない。

すると、ある男が言った。
しかし、人は美しい衣服や美しい靴を好むものです。

彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

まことにアッラーは美しく、そして美を愛される。傲慢とは真理を退け、人々を見下すことである。[1]

❖ 解説：

このハディースは、傲慢が火獄へ導き、たとえそれが人の心の中に微細な量であったとしても、楽園への入場を妨げる原因となることを示している。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、傲慢には二つの種類があることを明らかにされた。

1. **真理に対する傲慢**
   それを拒み、それに対して高慢に振る舞い、受け入れることを拒否することである。アッラーは御使徒たちと共に送られた真理に服従することをしもべたちに義務づけられ、それを個人的な意見や欲望よりも上に置くことを命じられた。真理を拒否する者は傲慢な者であり、懲罰を警告されている。
2. **人々に対する傲慢**
   言葉や行為によって人々を軽蔑し、嘲笑し、見下すことである。これは自己への陶酔と、自分を他者より優れていると見る心から生じる。

❖ このハディースから得られる益：

1. 傲慢は、アッラーの懲罰を招く大罪の一つである。
2. 楽園は清浄であり、あらゆる傲慢な者には禁じられているため、心を傲慢から清めることの重要性。
3. クルアーンとスンナに見いだされる真理を拒否することへの警戒の義務。これは傲慢に属する。

4. ムスリムに対して謙虚であること、彼らに対して翼を低くすること、そして彼らに対する傲慢の禁止。
5. 衣服や外見を整えること自体は、浪費や他者への軽蔑を伴わない限り、傲慢とは見なされない。

[1] ムスリム（91）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 墓参りりの分類

❖ **墓参りは二つの種類に分けられる：**

1. **シャリーアで定められた墓参り**
2. **ビドアな（新奇な）墓参り**

1. シャリーアで定められた墓参り：
これは、正当で許された目的のために墓を訪れることであり、例えば次のようなものである。

- 故人に挨拶し、彼らのためにドゥアー（祈願）を行うこと。
- 故人に対して葬送礼拝を行うこと。
- 死と来世を思い起こすこと。

これらの訪問は、**スンナによってその正当性が証明されているため、立法され、推奨されている。** その例として次のものがある。

- 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

私は以前、あなたがたが墓を訪れることを禁じていた。しかし今は訪れなさい。
アッ＝ティルミズィーはこれに次の言葉を付け加えている。
それはまことに来世を思い起こさせるからである。[1]

- また、サヒーハインにおいて伝えられているところによれば、モスクを清掃していた一人の黒人女性が亡くなった。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女について尋ねられ、人々は彼女が既に亡くなったことを伝えた。すると彼は言われた。

なぜ私に知らせなかったのか。彼女の墓を私に示しなさい。

そして彼はその墓のところで彼女のために葬送礼拝を行われた。[2]

2. ビドアな（新奇な）墓参り：
これは、許されていない目的のために墓を訪れることであり、例えば次のようなものが含まれる。

- 自分の必要を満たしてもらうために死者を訪れること。
  これは大シルク（大多神崇拝）であり、偶像崇拝と同様である。
- 死者を媒介としてアッラーに祈願すること。例えば、
  アッラーよ、あなたの預言者によってあなたに求めます
  誰それのシャイフの権利によって求めます

などと言うことである。これは宗教的革新（ビドア）であり、**シルクへと導く手段**である。

- 墓のところでアッラーに祈願することが、他の場所よりも応答されやすいと信じること。
  これもまた**禁じられた革新**であり、学者たちの**一致した見解によって否定されている。**

このため、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は強く警告して、次のように言われた。

アッラーよ、私の墓を礼拝される偶像としないでください。[3]

[1] ムスリム（1977）、アッ＝ティルミズィー（1054）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（460）、ムスリム（956）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（437）、ムスリム（530）によって伝承された。

水曜日：フィクフ モジュール — ザカート（浄財）

❖ ザカートの重要性：

ザカートはイスラームの義務の一つであり、礼拝の次に重要な柱である。至高なるアッラーは、ザカートを礼拝と共に **82 箇所**で言及されており、その重要性と礼拝との強い結びつきを示している。

❖ 義務の根拠：

至高なるアッラーは仰せられた。
礼拝を定め、ザカートを施せ。[1]

またアッラーは次のようにも仰せられた。
彼らの富の中から、彼らを清め増やすための施しを取り、彼らに祝福を祈れ。[2]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
イスラームは五つのことの上に築かれている：アッラー以外に神はなく、ムハンマドがアッラーの使徒であることの証言、礼拝の確立、ザカートの施行、ラマダーンでの断食、そしてハウスへの巡礼（ハッジ）。[3]

❖ ザカートを怠る者への厳しい警告：

至高なるアッラーは仰せられた。
金銀を蓄え、アッラーの道で使わない者には、苦しい刑罰を知らせよ。その日はそれが地獄の火で熱せられ、その額、脇腹、背中に焼印が押されるであろう。これがお前たちが自分のために蓄えたものである。さあ、蓄えたものを味わえ。[4]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ザカートを支払わない者の財宝は、地獄の火で熱せられ、彼の脇腹や額に刻印として押される。アッラーがその僕たちの間で裁きを下す、五万年に及ぶ日まで。そこで彼は自身の道を見て、楽園へ行くか、火獄へ行くかが決まるであろう。[5]

❖ 誰にザカートが義務付けられるか：

ザカートは、富の閾値（nisāb）を有するすべてのムスリムに義務である。男女、成人・子供、正常・精神障害の有無に関わらず課される。子供や精神障害者の場合は、保護者が代わってザカートを支払う義務がある。なぜなら、彼らに代わって権利を行使するためである。

‘ウマル（アッラーの御満悦あれ）は言われた。
孤児の財産で取引を行いなさい。さもなければザカートに消費されてしまうであろう。[6]

[1]［アル＝バカラ章：43］
[2]［アル＝タウバ章：103］
[3]アル＝ブハーリー（8）、ムスリム（16）によって伝承
[4]［アル＝タウバ章：34–35］
[5]ムスリム（1648）によって伝承
[6]‘アブド・アル＝ラッザーク（6773）によって伝承

❖ ザカー（浄財）の背後にある叡智：

ザカー（浄財）は、高貴な目的と崇高な目標のために定められたものであり、その中には次のようなものが含まれる。

• 財産という恩恵に対して、至高なるアッラーに感謝すること。
• 財産を清め、それを増大させ、その中に祝福（バラカ）をもたらすこと。
• 所有者を吝嗇（けち）や貪欲から清め、寛大さとアッラーの御ために費やすことへと訓練すること。
• 所有者を罪や過ちから清めること。
• 貧者を慰め、困窮者や恵まれない人々の必要を満たすこと。
• 共同体の中に愛情と慈悲を広め、富裕な者が貧しい者の心を引き寄せ、嫉妬や憎しみを取り除くこと。
• 真の信仰を実現すること。ゆえにそれはサダカ（施し）とも呼ばれる。なぜなら、人が自ら愛するものをアッラーの愛を求めて差し出すとき、そのイーマーン（信仰）の真実性が証明されるからである。

木曜日：スィーラモジュール ―フナインの戦い

❖ 日付：

ヒジュラ後 8 年、シャウワールの月。

❖ 原因：

マッカが征服されると、その周辺の諸部族は大きな恐れに包まれた。そこで、マーリク・イブン・‘アウフ・アル＝ナスリーは、ムスリムと戦うためにハワージン族を集結させた。

ハワージンと共に、いくつかの部族もこれに加わった。たとえば、サキーフ族、バヌー・ナスル・イブン・ムアーウィヤ、バヌー・ジュシュム、バヌー・サアド・イブン・バクル）、そしてバヌー・ヒラール・イブン・‘アーミルの一部である。

彼らは誰一人として逃げ出さないようにするため、自分たちの女性や家畜までも連れてきたのであった。[1]

❖ 出来事：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が彼らの動きを知らされると、情報を収集するために‘アブドゥッラー・イブン・アビー・ハドラド・アル＝アスラミを派遣された。

その後、彼らと対峙するための準備を整えた。彼はサフワーン・イブン・ウマイヤ百着の鎧を借り、さらにいくらかの資金も借り受けた。そして、マッカ征服に共に参加した一万人の兵士と共に出発した。これに加えて、その日にイスラームに入信した二千人も同行した。

また、彼はマッカの総督として‘アッターブ・イブン・ウサイドを任命したが、彼は当時わずか二十歳であった。[2]

道中、彼らは多神崇拝者たちが崇敬していた木のそばを通り過ぎた。その木はザート・アンワートと呼ばれていた。すると、新たにイスラームに入ったアラブ人の一部が言った。

彼らにザート・アンワートがあるように、私たちにもザート・アンワートを作ってください。

すると彼は言われた。

我が魂がその御手の中にある御方にかけて、あなたがたは、まさにムーサーの民が言ったのと同じことを言ったのだ。
彼らに神々があるように、私たちにも神を作ってください。[3]

まことに、あなたがたは無知な民である！
実にこれは、あなたがた以前の者たちの道であり、あなたがたは必ず前の者たちの道をたどるのである。[4]

その後、彼は大軍と共に進軍を続けた。しかし、その軍勢の大きさゆえに、ある者たちは慢心して言った。

今日、我々は人数の多さゆえに決して敗れることはないだろう！

そして彼らがフナインティハーマの谷の一つに到着したとき、ハワージン族は夜明けに待ち伏せを準備しており、突然攻撃を仕掛けた。

するとムスリムたちは混乱の中で退却した。[5]

これは、至高なるアッラーの次の御言葉に言及されていることである。

そしてフナインの日、あなたがたの多くの数があなたがたを誇らせたが、それはあなたがたに何の益ももたらさず、大地は広大であるにもかかわらず、あなたがたには狭く感じられ、その後あなたがたは背を向けて逃げ去った。[6]

[1] Al-Fuṣūl, (p. 204).
[2] Al-Fuṣūl, (p. 204).
[3] ［アル＝アʿラーフ章：138］
[4] アッ＝ティルミズィー（2180）によって伝承された。
[5] Al-Fuṣūl, (p. 205).
[6] ［アッ＝タウバ章：25］

❖ 結果：

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、数名の教友たちと共にその場に踏みとどまられた。すなわち、アブー・バクル、ʿウマル、ʿアリー、アル＝ʿアッバース、そして彼の二人の息子アル＝ファドルとクサム、さらにアブー・スフヤーンとその息子ジャʿファルなどである。

彼（アッラーの祝福と平安あれ）は、自らのラバに乗って敵の方へと進み、そのラバを前へと駆り立てていた。一方、アル＝ʿアッバースはその手綱を握り、彼を制止しようとしていた。

そのとき預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は叫ばれた。

私は預言者である。これは偽りではない。
私はʿアブドゥル＝ムッタリブの子である！[1]

その後、彼は声の大きかったアル＝ʿアッバースに命じて呼びかけさせた。

おお、アンサールの人々よ！
おお、アル＝バカラの人々よ！

彼らがこれを聞くと、子を求めて走るラクダのように急いで戻ってきた。戦闘は激しさを増し、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。 今こそ戦いは激しくなった！

そして彼は小石を一握り取り、それを投げながら言われた。

カアバの主にかけて、彼らは敗北した！

その日、ʿアリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の前で最も激しく戦った。[2]

やがてアッラーはハワージン族の心に恐怖を投げ入れ、彼らは逃走した。ムスリムたちは彼らを追撃し、およそ四十人を討ち、多くの捕虜を得た。殉教したムスリムはわずか四人であった。[3]

---

[1] アル＝ブハーリー（2930）によって伝承された。
[2] アブー・ヤʿラー（3606）、アッ＝タバラーニー（2758）によって伝承された。
[3] Al-Fuṣūl, (p. 207).

土曜日：サハーバモジュール ― ハッバーブ・イブン・アル＝アラット（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、ハッバーブ・イブン・アル＝アラット・イブン・ジャンダル・アッ＝タミーミーである。

彼はナジュドにおいて、ヒジュラの 36 年前に誕生した。幼少のころ捕虜となり、その後、剣や武器を作る技術を学び、それを完全に習得した。やがてその技術によって、マッカにおいてよく知られる存在となった。

❖ 彼の生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、初期にイスラームを受け入れた者の一人であり、六番目にイスラームへ入信した人物であった。

彼は、至高なるアッラーの御ために迫害と拷問を受けた者たちの中の一人でもあった。[1]

彼は若年であったにもかかわらず、誠実で信頼でき、聡明で賢明な人物であった。

彼の生涯の著名な出来事の一つとして、彼がサイード・イブン・ザイドとファーティマ・ビント・アル＝ハッターブのもとへ行き、クルアーンを教えていたことが挙げられる。

そのとき、まだ多神崇拝者であった‘ウマル・イブン・アル＝ハッターブが、彼らがイスラームを受け入れたことを聞き、怒りながら彼らのもとへ向かった。そして激しく戸を叩き、家の中へ入った。

そのときハッバーブの手には、彼が彼らに教えていたター・ハー章が書かれた巻物があった。

‘ウマルはその書物を要求したが、彼らは彼がグスルを行うまでは渡すことを拒んだ。

すると彼の心は和らぎ、彼は沐浴を行い、その後それを読んだ。

ハッバーブは、‘ウマルの朗読を聞くと彼に言った。

喜びなさい！アッラーにかけて、私はあなたのためにアッラーがその使徒の祈願に応えてくださったのだと望んでいる。私は昨日、彼が次のように言われるのを聞いたのだ。

おおアッラーよ、二人のʻウマルのうち、あなたにとってより愛しい者によってイスラームを強めてください。すなわち、アブー・ジャフルか、ʻウマル・イブン・アル＝ハッターブによって。[2]

その後の人生において、ハッバーブ（アッラーの御満悦あれ）は、かつて貧しい生活をしていたにもかかわらず、裕福になった。

しかし彼は、その財産を貧しい者や困窮者のために惜しみなく費やした。彼は自宅の扉を閉ざすことも鍵をかけることもなく、人々が自由に入り、望むものを取ることができるようにしていた。

❖ 彼の逝去：

ハッバーブ（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 37 年にクーファにおいて逝去した。享年は 73 歳であった。

彼の葬礼の礼拝は、ʻアリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）によって執り行われた。

---

[1] Ḥilyat al-Awliyāʾ, (p. 471).
[2] アッ＝ティルミズィー（3681）によって伝承された。

知識テスト — 第 35 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	アッ＝ターリク章から得られる教訓の一つは何か。	[a] アッラーが信仰者を守護されること。[b] 夜の礼拝の徳。[c] ムスリムからの害を忍耐することの徳。	a
ハディース	次のうち、傲慢（高慢）と見なされないものはどれか。	[a] 若者を見下すこと。[b] 良い衣服で身を飾ること。[c] 真理を拒むこと。	b
アキーダ	ある人々は、墓の前でアッラーに祈願すれば祈りが応えられると信じている。これは何か。	[a] 大きな不信仰。[b] 非難されるべきビドア（革新）。[c] 許されていること。	b
フィクフ	ザカーの重要性の大きさを示すものとして、アッラーがそれを礼拝と共に言及された箇所はクルアーン中でいくつあるか。	[a] 55 箇所。[b] 79 箇所。[c] 82 箇所。	c
スィーラ	フナインの戦いにおける多神崇拝者側の指導者は誰であったか。	[a] カʿブ・イブン・マーリク。[b] マーリク・イブン・ʿアウフ。[c] ʿアウフ・イブン・アル＝ハーリス。	b
サハーバ	ハッバーブ（アッラーの御満悦あれ）は何を作ることで有名であったか。	[a] 剣。[b] 衣服。[c] 扉。	a

36 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝ブルージュ章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الْبُرُوجِ (1) وَالْيَوْمِ الْمَوْعُودِ (2) وَشَاهِدٍ وَمَشْهُودٍ (3) قُتِلَ أَصْحَابُ الْأُخْدُودِ (4) النَّارِ ذَاتِ الْوَقُودِ (5) إِذْ هُمْ عَلَيْهَا قُعُودٌ (6) وَهُمْ عَلَى مَا يَفْعَلُونَ بِالْمُؤْمِنِينَ شُهُودٌ (7) وَمَا نَقَمُوا مِنْهُمْ إِلَّا أَنْ يُؤْمِنُوا بِاللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَمِيدِ (8) الَّذِي لَهُ مُلْكُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَاللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ (9) إِنَّ الَّذِينَ فَتَنُوا الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ ثُمَّ لَمْ يَتُوبُوا فَلَهُمْ عَذَابُ جَهَنَّمَ وَلَهُمْ عَذَابُ الْحَرِيقِ (10) إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ جَنَّاتٌ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ ذَلِكَ الْفَوْزُ الْكَبِيرُ (11) إِنَّ بَطْشَ رَبِّكَ لَشَدِيدٌ (12) إِنَّهُ هُوَ يُبْدِئُ وَيُعِيدُ (13) وَهُوَ الْغَفُورُ الْوَدُودُ (14) ذُو الْعَرْشِ الْمَجِيدُ (15) فَعَّالٌ لِمَا يُرِيدُ (16) هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ الْجُنُودِ (17) فِرْعَوْنَ وَثَمُودَ (18) بَلِ الَّذِينَ كَفَرُوا فِي تَكْذِيبٍ (19) وَاللَّهُ مِنْ وَرَائِهِمْ مُحِيطٌ (20) بَلْ هُوَ قُرْآنٌ مَجِيدٌ (21) فِي لَوْحٍ مَحْفُوظٍ (22)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。大いなる星座を備えた天にかけて。約束された日（審判の日）にかけて。証言する者と、証言されるものにかけて。溝の仲間たちは滅ぼされた。燃え盛る燃料に満ちた火の溝。彼らがその周囲に座り、信者たちに対して自分たちが行っていたことを見守っていたとき。彼らが彼らを憎んだのは、ただ彼らが力強く讃美されるべきアッラーを信じたからに過ぎない。天と地の統治はアッラーに属する。アッラーはすべてのことの証人であられる。まことに、信仰する男女を迫害し、その後悔い改めなかった者たちには、地獄の懲罰があり、燃え盛る火の懲罰がある。まことに、信仰して善行を行った者たちには、川が下を流れる楽園がある。それこそ偉大なる勝利である。まことに、あなたの主の捕縛は厳しい。まことに、創造を始め、そしてそれを繰り返すのは彼である。彼は寛容にして慈愛に満ちた御方である。栄光ある玉座の主。御望みのことを行われる御方。軍勢の物語があなたに届いたであろうか。フィルアウン（**Pharaoh**）とサムード（**Thamūd**）の。しかし、不信仰の者たちはなお否定の中にある。アッラーは彼らを後方から包囲しておられる。いや、それは栄光あるクルアーンであり、守護された板（ラウフ・マフフーズ）に記されている。

❖ スーラのテーマ：

至高なるアッラーの偉大な力と万物を包み込む御知識の確認、またその味方を助け、その敵を罰する御方であることの明確化。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
ذَاتِ الْبُرُوج	Dhāt al-Burūj	太陽と月が通過する星座・天体の軌道。
الْيَوْمِ الْمَوْعُود	al-Yawm al-Mawʿūd	復活の日（審判の日）。
شَاهِدٍ وَمَشْهُود	Shāhid wa Mashhūd	すべての証人と、証言されるものへの誓い。
قُتِلَ	Qutila	呪われ、滅ぼされ、罰された。
أَصْحَابُ الْأُخْدُود	Aṣḥāb al-Ukhdūd	信者たちを焼くための溝を掘った者たち。
النَّارِ ذَاتِ الْوَقُود	an-Nār Dhāt al-Wuqūd	多くの燃料によって燃え盛る火。
شُهُود	Shuhūd	立ち会い、目撃している者。
فَتَنُوا	Fatanu	火によって焼き、迫害した。
الْحَرِيق	al-Ḥarīq	燃え盛る炎。
بَطْشَ	Baṭsh	捕縛、報復、厳しい懲罰。
يُبْدِئُ	Yubdiʾ	創造を最初に始めること。
يُعِيدُ	Yuʿīd	死後に再び生命を与えること。
الْوَدُود	al-Wadūd	慈愛に満ちた御方。信者を愛し、また彼らに愛される御方。
الْمَجِيد	al-Majīd	栄光に満ちた偉大なる御方。

❖ 全体的な意味：

アル＝ブルージュ章はマッカで啓示されたスーラであり、星座を備えた天、約束された復活の日、そしてすべての証人と証言されるものへの偉大な誓いから始まる。アッラーは、信者たちを拷問し迫害した不信仰者たちに対して厳しい懲罰を警告される。

溝の仲間たちは火の穴を掘り、そこに信仰する男女を投げ込んだ。彼らがそうした理由は、ただ彼らが力強く讃美されるべきアッラーを信じていたからである。至高なるアッラーは彼らに対する報復を宣言し、信者たちには川が下を流れる楽園を約束された。

また、アッラーの力、創造を始め再び蘇らせる能力、御赦し、信者たちへの愛、栄光ある玉座の威厳、そして御望みのことを実行する絶対的な力が示される。さらにフィルアウンとサムードの言及は、過去の暴君たちの滅びを思い起こさせるためのものである。

このスーラは最後に、クルアーンの偉大さと、それが守護された板に保存されていることを確認することで締めくくられる。

❖ このスーラから得られる益：

1. 太陽と月がそれぞれの軌道を正確に巡ることは、アッラーの力を熟考するよう人間に呼びかける宇宙的奇跡である。
2. 太陽と月から得られる大きな恩恵への想起：月や季節の計算、寿命の管理、農業、そして生活手段の調整。
3. 救済の原因の一つは、身体の安全よりも信仰の安全を優先することである。
4. 誠実な悔悟（タウバ）は罪を消し去り、それ以前の過ちを拭い去る。

月曜日：ハディース モジュール — 充足と満足を勧めること

‘アブドゥッラー・イブン・‘アムル（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
イスラームを受け入れ、生活において十分なものを与えられ、そしてアッラーが彼に与えられたものに満足する者は、まことに成功したのである。[1]

❖ 解説：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、次の三つの特質を併せ持つ者に対して成功の吉報を与えられた。すなわち、イスラーム、充足、そして満足である。成功とは、望まれるすべての善を得て、恐れられるすべての害から守られることを意味する。

これらの特質は、宗教と現世の双方の善を兼ね備えている。もし僕（しもべ）が、アッラーが唯一の宗教として受け入れられ、これによって救いが得られるイスラームへと導かれるならば、次に彼は他人に求める必要がないほどの十分な糧を授けられる。そして最後に、アッラーは彼が所有するものに満足する心を授けることによって、その恩寵を完成されるのである。

このようにして、彼の魂はそれ以上のものを貪り求めることがなくなる。かくして、そのような者こそが、この世と来世の双方において真の幸福を得た者なのである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 真の成功と幸福は、宗教の完成、生活の充足、そしてアッラーが授けられたものに満足することにある。
2. 称賛される糧とは、礼拝を行う力を与えるものであり、かつ必要な範囲にとどまるものである。
3. 満足は偉大な徳であり、成功をもたらす原因の一つである。

[1] ムスリム（1054）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール —シャファーア（取り成し）

- シャファーア（取り成し）とは、他者のために仲介し、益をもたらす、あるいは害を退けるために執り成すことである。
- 取り成しを求めることは、過去においても今日においても、偶像崇拝者たちが抱く最も一般的な疑念の一つである。彼らはアッラー以外の存在に祈願し、それらを礼拝しながら、ただアッラーのもとでの取り成しを求めているに過ぎないのだと主張するのである。彼らはこう言うのである。
  預言者たち、正しき者たち、そして天使たちは、アッラーの御前において高い地位と偉大な位階を有している。ゆえに、私たちは彼らに呼びかけ、アッラーのもとで私たちのために取り成してもらうのである。
- 至高なるアッラーは、この虚偽の主張について次のように言及された。
  彼らはアッラーのほかに、彼らに害も益も与えないものを礼拝し、これらはアッラーのもとでの私たちの取り成し手であると言う。言え、あなたがたは、天にも地にもおいて、アッラーが知らないことをアッラーに告げるのか。崇高であられ、高大であられる御方であり、彼らが同位に配するものからはるかに超越しておられる。[1]
- ❖ この誤った疑念の反駁は、次の二つの観点からなされる：
- 至高なるアッラーは、取り成しがただ御自身にのみ属することを明らかにされた。アッラーは御望みのときにそれを許され、御望みのときにそれを拒まれるのであり、それはただアッラーからのみ求められるべきものである。至高なるアッラーは仰せられた。
  言え。取り成しはすべてアッラーに属する。天と地の主権は御方に属する。その後、あなたがたは御方のもとへ帰されるのである。[2]
- 創造主は被造物のようではない。裕福にして偉大であり、全知であり、近くにおられるアッラーを、王や支配者にたとえることは許されない。彼ら（王や支配者）は、自らの支配を完成させるために大臣や補佐を必要とし、民について知らせる者を必要とし、また仲介者や取り成し手を通さなければ近づくことができないからである。
  しかし、アッラーにとっては何一つ隠されておらず、御方はすべてのものから完全に自足しておられる。また御方は、母がその子に対して抱く慈しみよりも、さらに大いなる慈悲を御しもべたちに対して示されるのである。
- ❖ したがって、クルアーンとスンナにおける取り成しは二種類に分けられる：
- 肯定されるシャファーア（取り成し）：
  これは、ただアッラーにのみ求められる取り成しであり、アッラーが取り成す者と取り成される者に対してそれを許されることで成立するものである。それは被造物のいずれにも求められるものではなく、ただアッラーのみに属する。
- この肯定される取り成しには、二つの条件がある：
- • 第一の条件： 取り成す者が取り成すことについて、アッラーの許可があることである。至高なるアッラーは仰せられた。

御方の御許しなしに、誰が御前で取り成すことができようか。[3]

[1] ［ユーヌス章：18］
[2] ［アッ＝ズマル章：44］
[3] ［アル＝バカラ章：255］

• 第二の条件：
執り成す者（とりなしを行う者）と、執り成される者の双方に対するアッラーの御満悦である。至高なるアッラーは仰せられた。
彼らは、御方が満足される者のためにしか執り成さない。[1]

また、至高なる御方は仰せられた。
その日には、最も慈悲深き御方が許し、その言葉を受け入れられた者以外の執り成しは、何の益ももたらさない。[2]

2. 否定される**シャファーア（取り成し）**：
これは、多神崇拝者たちがアッラー以外のものに求める執り成しのことである。至高なるアッラーは仰せられた。
それゆえ、執り成す者たちの執り成しは、彼らに何の益ももたらさない。[3]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、人々が天使や預言者、あるいは正しき者たちに対して執り成しを求めることを立法として定められなかった。また、彼以前の預言者たちも同様である。さらに、教友（サハーバ）の誰一人として、またタービイーンの誰一人として、さらには四大イマームを含むイスラームのいかなる学者も、これを勧めたことはない。

[1] ［アル＝アンビヤー章：28］
[2] ［ター・ハー章：109］
[3] ［アル＝ムッダッスィル章：48］

水曜日：フィクフ モジュール — 紙幣に対するザカー

かつて人々は、金や銀を用いて取引を行い、それらによって物品を購入し、その価値を評価していた。しかし現代においては、この慣行はほとんど見られなくなり、人々はそれらに代えて、リヤール、ディルハム、ディーナール、ドルなどの紙幣を用いるようになった。こうして紙幣は、現代の人々の慣習と合意によって、それ自体が有効な通貨として認められるようになったのである。

❖ 紙幣に対するザカーの規定：

紙幣は、一定の基準額（*nisāb*）に達し、かつそれに一年（ヒジュラ暦）が経過した場合、ザカーが義務となる。至高なるアッラーは仰せられた。

彼らの財産から施しを取りなさい。それによって彼らを清め、成長させなさい。そして彼らのために祈りなさい。まことに、あなたの祈りは彼らにとって安らぎである。アッラーはすべてを聞き、すべてを知っておられる。[1]

❖ 紙幣のニサーブ（基準額）：

ニサーブとは、ザカーが義務となる最小限の基準額のことである。それ未満の財産にはザカーは課されない。

紙幣のニサーブは、金または銀のニサーブに基づいて算定される。銀のニサーブは **595 グラム** であることが知られている。したがって、太陰暦の一年の終わりにおいて、これを現地通貨の価値に換算して計算する必要がある。

例えば、現在の銀 1 グラムの価格が **3 サウジ・リヤール** である場合、ニサーブ（595g）に 1 グラムの価格（3）を掛ける。
すると、**1,785 リヤール** となる。

これがニサーブ、すなわちザカーが義務となる最小金額である。

❖ 紙幣のザカーとして支払うべき額：

紙幣に課されるザカーの割合は、金や銀と同じである。すなわち 十分の一の四分の一（2.5%）である。

これを計算する最も簡単な方法は、総財産を **40 で割る** ことである。

例：
もしある人が **40,000 リヤール** を所有している場合、これを 40 で割ると **1,000 リヤール** となる。

この金額が、貧者およびザカーを受け取る資格のある人々に支払うべきザカーである。

[1] ［アッ＝タウバ章：103］

❖ 貯蓄された月給に対するザカー：

毎月給与を受け取り、その一部を貯蓄している被雇用者の場合、ザカーを支払う方法には二つの方法がある。

1. ヒジュラ暦の一年（*ḥawl*）の終わりにおいて、所有している全額に対してザカーを支払う方法である。
この場合、一年が経過した財産に対してザカーを支払うことになると同時に、まだ一年が経過していない財産についても前倒しでザカーを支払うことになる。しかし、ザカーは前もって支払うことも許されているため、これは認められている。

2. 毎月の貯蓄額ごとに、それぞれを貯め始めた時点から一年を数え、その一年が経過した後に個別にザカーを計算して支払う方法である。

第一の方法は、より容易で、より簡単であり、また実際的である。

木曜日：スィーラモジュール — ターイフの戦い

❖ 日付：

それはヒジュラ後第八年のシャウワール月に起こった。

❖ 原因：ハワーズィンの指導者であったマーリク・イブン・ʿアウフ・アン＝ナスリーが逃走し、ターイフの要塞においてサキーフ族と合流したこと。

❖ 出来事：

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、フナインからターイフへ向かって出発し、彼らを二十夜にわたって包囲した。彼は投石機を用いて彼らを攻撃し、彼らの目に見える財産の多くを破壊し、彼らの葡萄園を切り倒した後、撤退した。 彼がアル＝ジʿラーナに到着すると、ハワーズィンからの代表団がムスリムとして彼のもとにやって来た。彼は彼らに六千人にのぼる捕虜を返還した。その中には、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の乳兄妹であるアル＝シャイマー’・ビント・アル＝ハーリス・イブン・ʿアブド・アル＝ʿウッザーが含まれていた。彼は彼女を敬い、慰め、彼女が自分の民のもとへ帰るまで厚遇した。 彼は、イスラームを受け入れた彼の民の上に、マーリク・イブン・ʿアウフ・アン＝ナスリーを総督として任命した。彼自身がイスラームを受け入れ、そのイスラームは立派なものであったからである。彼はまた、よく知られた詩の中でアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を称賛した。[1]

❖ 結果：

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、フナインの莫大な戦利品の分配を開始した。この機会に、彼はそれらを心を和解させるべき者たちに分配することを選び、最近イスラームを受け入れたクライシュの首長たち、すなわちアブー・スフヤーン、ʿウヤイナ、アル＝アクラʿ、そしてスハイル・イブン・ʿアムルのような者たちの心を得ようとした。彼は各人に百頭、または五十頭のラクダを与え、その日、サフワーン・イブン・ウマイヤには三百頭のラクダを与えた。 彼はアンサールには何も与えなかった。なぜなら、アッラーが彼らの心に飾られた信仰に依拠していたからである。これによって彼らの中にいくらかの感情が生じ、サアド・イブン・ʿウバーダ（アッラーの御満悦あれ）が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ行き、人々の心の中にあるものを彼に伝えた。

[1] （Al-Fuṣūl）（209 頁）。

そこで、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はアンサールだけを集め、彼らに向かって語りかけて言われた。
アンサールの集団よ！ 私はあなたがたを迷っている状態で見いだし、アッラーは私を通してあなたがたを導かれたのではなかったか。あなたがたは分裂していたが、アッラーは私を通してあなたがたを一つにされたのではなかったか。あなたがたは貧しかったが、アッラーは私を通してあなたがたを富ませられたのではなかったか。彼が何かを言うたびに、彼らは答えた。アッラーとその使徒こそ、より恵み深く、より豊かな御方です。
それから彼は言われた。人々が羊やラクダを持って帰り、あなたがたがアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を連れて自分たちの家へ帰ることに満足しないのか。ムハンマドの魂をその御手に握られる御方にかけて、もしヒジュラがなかったならば、私はアンサールの一人であったであろう。もし人々が一つの谷を取り、アンサールが別の谷を取るならば、私はアンサールの谷を取るであろう。アンサールは私の内衣であり、人々は外套である。おおアッラーよ、アンサールに慈悲を与え給え。そしてアンサールの子らに、そしてアンサールの孫たちに。
これを聞いてアンサールは涙を流し、髭が涙で濡れるほどであった。そして彼らは言った。私たちは、アッラーの使徒を私たちの取り分と分け前として満足します。[1]

その後、彼はアル＝ジ‘ラーナから‘ウムラを行い、マッカへ入った。‘ウムラを終えると、彼はマディーナへ向けて出発した。彼はその年、人々を率いてハッジを行うために‘アッターブ・イブン・アスィード（アッラーの御満悦あれ）を任命し、彼を人々を率いてハッジを行う最初のムスリムの総督とした。[2]

[1] アル＝ブハーリー（4330）、アフマド（11730）によって伝承された。
[2]（Al-Fuṣūl）（209 頁）。

土曜日：サハーバモジュール ― フバイブ・イブン・‘アディー（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼はフバイブ・イブン・‘アディー・イブン・マーリク・アル＝アウスィー・アル＝アンサーリーである。
彼は預言者の使命以前にマディーナで誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は熟練した戦士であり、その力強さと勇敢さでよく知られていた。彼はウフドの戦いに参加し、アッラーの道のために十字架刑に処された最初の人物であった。
これは、彼（アッラーの御満悦あれ）がアル＝ラジー‘遠征に参加したときに起こった。この遠征は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、‘アダル族とアル＝カーラ族がクルアーンとイスラームの諸規定を教える者を送ってほしいと求めた後、彼らのもとへ人々を派遣したものであった。しかし彼らは彼らを裏切り、隊の大半を殺害し、フバイブは捕虜として捕えられた。
その後、彼はマッカの多神崇拝者たちに売られた。そこでは、アブー・サルワ‘ア・‘ウクバ・イブン・アル＝ハーリスが彼を引き取り、バドルで殺された自分の父の復讐として彼を処刑しようとした。彼はアル＝タン‘イームへ連れて行かれ、そこでフバイブは言った。私に二ラカ‘の礼拝を行わせてくれ。彼らはそれを許したので、彼は礼拝した。それから彼は言った。アッラーにかけて、もしあなたがたが私が死を恐れていると思わないなら、私はこれをもっと長くしたであろう。それから彼は次の詩を朗誦した。

ムスリムとして殺されるとき、
私にはどの側からアッラーのもとへ死が来ようとも構わない。
それはすべて至高なるアッラーのためであり、
もし御望みなら、引き裂かれ切り離された四肢にも祝福を与え給うであろう。[1]

❖ 殉教：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ後四年にマッカで十字架刑に処され殉教した。‘アムル・イブン・ウマイヤが夜のうちに密かに彼の遺体を運び去り、埋葬した。

[1] アル＝ブハーリー（7402）によって伝承された。

第 36 週 知識テスト

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	al-Burūj の意味は何か。	[a] 広大な空間[b] 太陽と月が通過する宿（軌道）[c] 濃い雲	b
ハディース	称賛される糧の種類は何か。	[a] 礼拝のための力となり、必要な範囲に限られるもの[b] 苦労して得られるもの[c] 養う者の死後に家族に十分残されるもの	a
アキーダ	クルアーンとスンナにおいて、執り成しはどのように分けられるか。	[a] 一般的執り成しと特定の執り成し[b] 現世での執り成しと来世での執り成し[c] 確認される執り成しと否定される執り成し	c
フィクフ	紙幣におけるザカーの義務率は何か。	[a] 2.5%[b] 10%[c] 20%	a
スィーラ	ターイフの戦いは何年に起こったか。	[a] ヒジュラ暦 7 年[b] ヒジュラ暦 8 年[c] ヒジュラ暦 9 年	b
サハーバ	フバイブ（アッラーの御満悦あれ）の徳の一つは何か。	[a] マディーナへ最初に移住した人物であった[b] イスラームにおける最初の遠征隊の指導者であった[c] アッラーの道のために最初に十字架刑に処された人物であった	c

37 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝インシカーク章（前半）

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا السَّمَاءُ انْشَقَّتْ (1) وَأَذِنَتْ لِرَبِّهَا وَحُقَّتْ (2) وَإِذَا الْأَرْضُ مُدَّتْ (3) وَأَلْقَتْ مَا فِيهَا وَتَخَلَّتْ (4) وَأَذِنَتْ لِرَبِّهَا وَحُقَّتْ (5) يَا أَيُّهَا الْإِنْسَانُ إِنَّكَ كَادِحٌ إِلَى رَبِّكَ كَدْحًا فَمُلَاقِيهِ (6) فَأَمَّا مَنْ أُوتِيَ كِتَابَهُ بِيَمِينِهِ (7) فَسَوْفَ يُحَاسَبُ حِسَابًا يَسِيرًا (8) وَيَنْقَلِبُ إِلَى أَهْلِهِ مَسْرُورًا (9) وَأَمَّا مَنْ أُوتِيَ كِتَابَهُ وَرَاءَ ظَهْرِهِ (10) فَسَوْفَ يَدْعُو ثُبُورًا (11) وَيَصْلَى سَعِيرًا (12) إِنَّهُ كَانَ فِي أَهْلِهِ مَسْرُورًا (13) إِنَّهُ ظَنَّ أَنْ لَنْ يَحُورَ (14) بَلَى إِنَّ رَبَّهُ كَانَ بِهِ بَصِيرًا (15)

慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。天が裂け開かれるとき。そしてその主に耳を傾け、従うのは当然である。また大地が広げられ、その内にあるものをすべて投げ出して空となり、そしてその主に耳を傾け、従うのは当然である。人間よ、まことにあなたは大きな労苦をもって主へと向かって努力しており、やがて主に会うのである。それゆえ、右手にその記録を与えられる者は、やさしい清算を受け、喜びながら家族のもとへ帰るであろう。しかし背後からその記録を与えられる者は、滅びを呼び求め、烈しい炎の中に入れられる。まことに彼はかつて、家族の中で歓楽にふけっていた。まことに彼は、決して（主のもとへ）帰ることはないと思っていたのである。だがそうではない。まことに彼の主は、常に彼を見ておられたのである。

❖ スーラの主題：

人間の弱さ、人生の状況が変化すること、そして最終的にアッラーへ立ち返ることの不可避性を思い起こさせることである。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の語句	音写	意味
انشقت	inshaqqat	裂けること、割れること、破裂して開くこと。
وأذنت لربها	wa-adhinat li-rabbihā	その主の命令に従い、耳を傾けること。
وَحُقَّتْ	wa-ḥuqqat	そしてそれが従うのは当然であり、当然の義務である。
مُدَّت	muddat	広げられ、引き伸ばされ、山々が砕かれて平らにされること。
وألقت	wa-alqat	その内にあるものを投げ出すこと。
كادح إلى ربك	kādiḥ ilā rabbik	アッラーへ向かって努力し、善または悪の行為を行うこと。

アラビア語の語句	音写	意味
كتابه	kitābahu	その者の行為の記録。
وينقلب	wayanqalibu	帰ること。
يدعو ثبورًا	yadʿū thubūrā	自らの滅びを呼び求めること。
لن يحور	lan yaḥūr	清算のためにアッラーへ帰ることはないと信じていたこと。

❖ 全体的な意味：

これらの節において、アッラーは復活の日の出来事を描写されている。すなわち、天は裂け開かれ、大地は広げられ、その山々は砕かれて平らになり、その内部にあるすべてのもの死者や財宝などを投げ出す。そしてすべての人々が清算のために立たされる場を備えるため、大地は広がるのである。天と地はいずれもアッラーの命令に服従しており、それが主に耳を傾け従うことは当然である。なぜなら、それらはすべて主の完全な支配のもとにあるからである。

その後、語りかけは人類へと向けられる。すべての人間は努力しながら死へと向かっており、最終的には自らの行為の結果とともにアッラーに会うことになる。右手にその記録を与えられる者は、容易な清算を受ける。それは厳しい追及ではなく、自らの行為が示されるだけである。そして彼は喜びながら家族のもとへ帰る。しかし背後からその記録を与えられる者は、絶望の中で滅びを呼び求め、業火に投げ込まれる。なぜなら彼はかつて、家族の中で享楽にふけり、復活して主のもとへ帰ることなど決してないと思っていたからである。だが実際には、彼の主は常に彼を見守っておられたのである。

❖ このスーラから得られる教訓：

1. 天と地は、完全に主の命令に服従している。
2. すべての人間は努力しているが、その努力は善へ向かうこともあれば悪へ向かうこともある。
3. 信仰者と敬虔な者は、清算の日において容易な清算を受ける。それは争いなく行為が示されることである。
4. 清算において厳しく追及される者は破滅する。なぜなら彼には弁明も証拠もないからである。
5. 審判の日における救いのしるしは、右手に記録を受け取ることであり、不幸のしるしは左手（あるいは背後）から受け取ることである。
6. 現世の不注意や欲望への耽溺は、復活と清算への確信が欠けていることから生じる。

月曜日：ハディース モジュール — 人々に慈悲を示すことへの奨励

ジャリール・イブン・'アブドゥッラー（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
人々に慈悲を示さない者に対して、アッラーは慈悲を示されない。[1]

❖ 解説：

このハディースは、人々に慈悲を示さない者はアッラーの慈悲を奪われることを明確に示している。そしてその反対に、人々に慈悲を示す者にはアッラーの慈悲が与えられることが示唆されている。被造物に対する慈悲は、しもべがアッラーの慈悲を得るための最も偉大な手段の一つであり、これを欠くことは、その慈悲を妨げる最大の障害の一つである。

しもべはアッラーの慈悲を最も必要としている。なぜなら、この現世においても来世においても、アッラーの慈悲によらずしていかなる善も得ることはできないからである。ゆえに、アッラーの慈悲をより多く望むとき、彼はその原因を求めるべきである。その中には、人々に慈悲を示し、彼らに善を行うことが含まれる。

至高なるアッラーは仰せられた。まことに、アッラーの慈悲は善を行う者たちの近くにある。[2] これらの者とは、アッラーへの礼拝において卓越し、またそのしもべたちに対して善を尽くす人々である。

人が示す慈悲には二つの種類がある。

1. **生得的な慈悲**：アッラーがある人々の心の中に自然に置かれた慈悲。
2. **後天的な慈悲**：しもべが自己との努力（魂への奮闘）と、アッラーからの報奨を思い起こすことによって身につける慈悲。

❖ このハディースから得られる益：

1. 慈悲は、イスラームが強く勧め、信仰者の中に育む高貴な品性である。
2. 人々の間で互いに慈悲を示し合うことは、彼らに対するアッラーの慈悲を招く原因となる。
3. 至高なるアッラーに慈悲という属性があることの確証。
4. 報いは行為と同種であるという原則。

---

[1] アル＝ブハーリー（6013）およびムスリム（2319）によって伝承された。
[2] ［アル＝アアラーフ章：56］

火曜日：アキーダモジュール — タワッスル（アッラーへ近づくための手段）

タワッスル（al-Tawassul）とは、あるものへ近づき、そこへ至る手段を求めることである。
ワスィーラ（al-Wasīlah）とは、近接を意味する。至高なるアッラーは仰せられた。

かれに近づくための手段を求めよ。[1]

すなわち、至高なる御方に対して、服従と、御方が喜ばれる行為を追い求めることによって近づくことである。

それゆえ信仰者には、アッラーとその御満悦に近づくあらゆるもの、そして祈願が受け入れられる原因となるものを追い求めて努力することが義務である。しかし、その手段は正当であり、シャリーアによって定められたものでなければならない。もしそうでなければ、それは禁じられたものであり、アッラーの御満悦ではなく、むしろ御怒りへと導くものとなる。

❖ タワッスルの分類：

このことから、タワッスルには二つの種類があることが明らかになる。

1. **正当な（許された）タワッスル**
2. **禁じられたタワッスル**

それぞれには、さまざまな形態と例が存在する。

❖ 許されたタワッスルの形：

1. **アッラーの御名と御属性によるタワッスル**
   すなわち、それらによってアッラーを呼び求めることである。アッラーが命じられたとおりである。最も美しい御名はアッラーに属する。ゆえにそれらによってかれを呼び求めよ。そしてその御名について逸脱する者たちを放置せよ。彼らは自分たちが行っていたことの報いを受けるであろう。[2]
2. **信仰と正しい行為によるタワッスル**
   アッラーが信仰者について仰せられたとおりである。われらの主よ、われらは信仰へ呼びかける呼び手があなたがたの主を信じよと呼びかけるのを聞き、われらは信じました。われらの主よ、われらの罪を赦し、われらの過ちを取り除き、正しき者たちと共に死なせてください。[3] また、洞窟に閉じ込められた三人の男の有名なハディースにも見られるように、彼らは自らの善行を挙げてアッラーに祈願し、その結果、アッラーは彼らを救われたのである。[4]

3. **タウヒードによるタワッスル**

すなわち、ユーヌス（アッラーの平安あれ）が祈願したようにである。

あなたのほかに神はありません。あなたは崇高です。まことに私は不正を行った者の一人でした。[5]

[1]［アル＝マーイダ章：35］
[2]［アル＝アアラーフ章：180］
[3]［アール＝イムラーン章：193］
[4]アル＝ブハーリー（2272）、ムスリム（2743）によって伝承された。
[5]［アル＝アンビヤー章：87］

4. 罪の告白によるタワッスル：
   ムーサー（アッラーの平安あれ）が祈願したようにである。
   わが主よ、まことに私は自らに対して不正を行いました。どうか私をお赦しください。[1]
5. アッラーの御前において自らの弱さ・必要・貧しさを表明することによるタワッスル：
   アイユーブ（アッラーの平安あれ）が祈願したようにである。
   まことに災厄が私に触れました。そしてあなたは慈悲を示す者の中で最も慈悲深い御方です。[2]
6. 生きている正しき者の祈願を求めることによるタワッスル：
   すなわち、干ばつが起こったとき、教友たちが預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に対して彼らのために祈願するよう求めていたようにである。預言者の逝去後には、彼らはその叔父であるアル＝ʿアッバース（アッラーの御満悦あれ）に祈願を求めていた。[3]

[1] ［アル＝カサス章：16］
[2] ［アル＝アンビヤー章：83］
[3] アル＝ブハーリー（1010）によって伝承された。

水曜日：フィクフ モジュール — ザカ＝の受給資格者

ザカーの受給資格者とは、それを受け取る権利を有する人々のことである。これらの範疇に属さない者にザカーを与えることは許されない。至高なるアッラーは、次の御言葉においてそれらを八つの集団に限定された。

まことにザカーは、貧しい者、困窮する者、それを集める任務に当たる者、心を和解させるべき者たち、奴隷の解放のため、負債を負う者、アッラーの道のため、そして旅路にある者のためにある。これはアッラーによって定められた義務である。アッラーは全知にして英知あられる。[1]

このため、義務のザカーをモスクの建設や井戸の掘削など、他の慈善的な事業に用いることは許されない。

❖ ザカー受給資格者の八つの分類：

1. 貧者（**Fuqarāʾ**）
   食物、飲料、衣服、住居などをほとんど持たない者、または生活に必要なものを満たすに足りない者。
2. 困窮する者（**Masākīn**）
   必要の半分以上は満たしているが、なお十分ではない者。例えば千を所有しているが二千を必要とする者のような場合である。貧しい者と困窮する者には、一年分の生活を満たすに足るザカーを与えることができる。
3. ザカーの徴収に従事する者（**ʿĀmilūn ʿAlayhā**）
   イマーム（統治者）によって任命され、ザカーの徴収、記録、分配を行う者たちである。彼らには、その職務への報酬としてザカーから与えられる。ただし、親族や友人からザカーの配分を任された者はこれに含まれない。その者は単なる代理人に過ぎない。
4. 心を和解させるべき者（**Muʾallafah Qulūbuhum**）
   不信仰者である場合にはイスラームへ心を傾けさせるため、またムスリムである場合には信仰の弱さを強めるため、あるいはその害を防ぐために、イマームがザカーを与える者たち。
5. 奴隷の解放（**Fī al-Riqāb**）
   ザカーの資金によってムスリムの奴隷を買い取り解放すること、また敵に捕らえられたムスリムの捕虜を身代金によって解放することを含む。
6. 負債を負う者（**Ghārimūn**）
   許された事柄のために負債を負った者であり、その借金を返済するのに必要な分をザカーから与えられる。また、争っている人々の間を和解させるために負債を負った者も含まれる。この場合、その者が本来は裕福であってもザカーを受けることができる。

7. アッラーの道のため（**Fī Sabīl Allāh**）
   国庫からの給与を受けていない、アッラーの道のために戦う志願者を指す。彼らはザカーから援助を受けることができる。
8. 旅路にある者（**Ibn al-Sabīl**）
   旅の途中で財産から断たれ、資金を失った、または尽きたために援助を必要とする旅人である。その者が故郷へ戻るのに十分な分をザカーから与えることができる。

[1] ［アッ＝タウバ章：60］

❖ 親族にザカーを与えることに関する規定：

生活に困窮している親族であって、シャリーア上その扶養が義務付けられていない者にザカーを与えることは推奨される。とりわけ、最も近い親族から始めるべきである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
貧しい者に対するあなたの施しは一つの施しであり、親族に対するそれは二つである。すなわち、施しであり、かつ親族関係を保つことである。[1]
しかし、扶養が義務である親族にザカーを与えることは許されない。例えば、父母、祖父母、子ども、孫などである。また、自分の妻にザカーを与えることも許されない。

[1] アブー・ダーウード（2839）、アッ＝ティルミズィー（658）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — タブークの戦い

❖ 時期：

それはヒジュラ暦九年ラジャブ月に起こった。

❖ 原因：

至高なるアッラーが次の御言葉を啓示されたときである。

アッラーも終末の日も信じず、アッラーとその使徒が禁じられたものを禁じと認めず、また真実の宗教を受け入れない啓典の民と戦え。彼らが屈して自ら進んでジズヤを支払うまで。[1]

これを受けて、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、マディーナの人々と周辺の遊牧民にジハードへの出陣を呼びかけ、ローマ軍に向けて進軍する意図を彼らに告げられた。

❖ 出来事：

通常、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は軍事遠征の目的地を隠しておられた。しかしこの遠征においては、敵の強大さと人数の多さ、距離の遠さ、旅の困難さ、そしてそれが激しい暑さと干ばつの時期と重なっていたため、その目的を明らかにされた。このため、この軍は困難の軍（Jaysh al-ʿUsrah）と呼ばれた。

ムスリムたちは出陣の準備を整えた。ʿウスマーン・イブン・ʿアッファーン（アッラーの御満悦あれ）はこの軍のために多大な財を費やした。そのとき預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

今日以降、ʿウスマーンが何を行おうとも、彼に害は及ばないであろう。[2]

およそ三万人が出陣した。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、マディーナの代理としてムハンマド・イブン・マスラマを任命された。偽信仰者の首領であったʿアブドゥッラー・イブン・ウバイイは、不信と頑迷さのゆえに出陣せず、約八十人の偽信仰者とともに留まった。また、いく人かの罪を犯したムスリムたちも残った。例えばムラーラ・イブン・アル＝ラビーʿ、カʿブ・イブン・マーリク、ヒラール・イブン・ウマイヤなどである。しかしアッラーは、預言者が帰還された後五十夜を経て、彼らの悔い改めを受け入れられた。

また、乗り物や資金を持たず、それでも出陣を心から望んでいた者たちは免除された。彼らは泣く者たち（al-Bakkāʾūn）と呼ばれた。至高なるアッラーは彼らについて次のように仰せられた。

また、あなたのもとに来て、あなたが彼らを連れて行くよう求めたとき、あなたがたを乗せるものを見つけられないとあなたが言うと、彼らは戻って行った。彼らの目は、費やすものを見いだせない悲しみのために涙であふれていた。[3]

---

[1] ［アッ＝タウバ章：29］
[2] アッ＝ティルミズィー（3701）によって伝承された。
[3] ［アッ＝タウバ章：92］；アル＝フスール（210）。

彼（アッラーの祝福と平安あれ）は道中、アル＝ヒジュル（サムードの住居跡）を通過された。そして教友たちに対し、彼らの住居に入るときは泣きながらでなければ入ってはならないと命じ、また彼らの井戸の水を飲んではならないと命じられた。ただし、かつて雌ラクダが水を飲んだ井戸だけは例外とされた。また、他の井戸の水でこねた生地はすべてラクダに与えるよう命じられた。[1]

タブークに到着すると、そこにはわずかな水が滴る小さな泉しかなかった。しかし彼の祝福された存在によって、その水は増えた。[2]
また、彼の祈願によって食物も増やされ、軍のすべての者が食べ、さらに各自の容器を満たすほどになった。[3]
彼らが激しい渇きに襲われたとき、彼は祈願され、雲が現れて雨を降らせた。こうして彼らは十分に水を飲んだが、その雨は軍の外には広がらなかった。[4]

❖ 結果：

タブークにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、アイラの統治者である**ユーハンナ・イブン・ルウバ**と和平条約を結ばれた。また、**ハーリド・イブン・アル＝ワリード**をドゥーマト・アル＝ジャンダルの**アキードル**のもとへ派遣し、彼は捕えられて預言者のもとへ連れて来られ、条約を結んだ後に解放された。この遠征において、ムスリムたちはローマ軍との直接の戦闘には至らなかった。

その後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はマディーナへ帰還された。そしてマスジド・アッ＝ディラール（害悪のモスク）の破壊を命じられた。彼の帰還はヒジュラ暦九年ラマダーン月であった。この遠征の期間中に、**スーラ・アッ＝タウバ**の大部分が啓示された。[5]

[1] アル＝ブハーリー（433）、ムスリム（2980、2981）によって伝承された。
[2] ムスリム（706）によって伝承された。
[3] ムスリム（27）によって伝承された。
[4] イブン・ヒッバーン（1383）によって伝承された。
[5] アル＝フスール（212）。

土曜日：サハーバモジュール — ザイド・イブン・ハーリサ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と誕生：

彼は**ザイド・イブン・ハーリサ・イブン・シュラヒール・イブン・ʿアブドゥル＝ʿウッザー・イブン・イムリʾ・アル＝カイス**であり、クンヤ（敬称）は**アブー・ウサーマ**である。彼はアッラーの使徒に愛された者（ḥibb Rasūl Allāh）という称号で知られていた。

彼はヒジュラの四十三年前に、彼の民である**バヌー・カルブ**の地において誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は解放奴隷たちの長であり、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の最愛の者であり、また彼の愛された者である**ウサーマ**の父であった。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ザイドよ、あなたは私の解放奴隷であり、私から出て私へと属する者であり、人々の中で最も私に愛されている者である。[1]

彼は幼い頃から預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の保護のもとで育ち、そのため**ザイド・イブン・ムハンマド**と呼ばれていた[2]。やがてアッラーが次の御言葉を啓示された。

彼らをその父の名で呼べ。それがアッラーの御前でより公正である。[3]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が使徒として遣わされたとき、ザイドは最初期にイスラームを受け入れた者の一人であり、解放奴隷の中では最初にイスラームを受け入れた者であった。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼を自身の従妹である**ザイナブ・ビント・ジャフシュ**と結婚させた。その後、ザイドが彼女と離婚したのち、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼女と結婚された。この出来事に際して、アッラーは次の御言葉を啓示された。

それゆえザイドが彼女との関係を終えたとき、われは彼女をあなたに娶らせた。[5]

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の教友の中で、**クルアーンの中で名前が明示されているのはザイドのみ**である。

彼（アッラーの御満悦あれ）は、**バドルの戦い、ウフドの戦い、塹壕の戦い（アル＝ハンダク）、フダイビーヤの誓約、そしてハイバル**に参加した。

彼は七つの遠征の指揮官に任命され、また預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が**アル＝ムライスィー**‘**遠征**に出発された際には、マディーナの統治を彼に任せられた。

[1] アフマド（21777）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（4782）、ムスリム（2425）によって伝承された。
[3] ［アル＝アフザーブ章：5］
[4] アル＝ブハーリー（7420）、ムスリム（1428）によって伝承された。
[5] ［アル＝アフザーブ章：37］

彼（アッラーの御満悦あれ）は**ムウタの戦い**における最初の総司令官であり、その戦いで旗を掲げて奮闘し、ついにはその戦場で殉教者（シャヒード）として倒れた。[6]

❖ 死去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は**ヒジュラ後 8 年**、**ムウタの戦い**において殉教し、**55 歳**であった。

[1] アル＝ブハーリー（4261）によって伝承された。

知識テスト — 第 37 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アッラーの御言葉 **lan yaḥūr** の意味は何か。	[a] 罪から悔い改めないこと。[b] 清算のためにアッラーのもとへ戻されないと思うこと。[c] 罪人たちと共に復活させられないこと。	**b**
ハディース	しもべに見られる慈悲には二種類ある。それは何か。	[a] 生得的なものと後天的なもの。[b] 限定されたものと広がるもの。[c] 真実のものと偽りのもの。	**a**
アキーダ	アッラーの御言葉 wa-btaghū ilayhi al-wasīlah における **al-wasīlah** とは何を意味するか。	[a] 神の満足。[b]（アッラーへの）近さ。[c] 献身。	**b**
フィクフ	ザカーを**アッラーの道のために**費やすとは何を意味するか。	[a] アッラーの道で戦う者たち。[b] あらゆる善行や慈善。[c] イスラームや信仰の強化が望まれる人。	**a**
スィーラ	タブークの戦いにおけるムスリム軍は何と呼ばれたか。	[a] 勝利の軍。[b] 忍耐の軍。[c] 困難の軍。	**c**
サハーバ	ザイド・イブン・ハーリサ（アッラーの御満悦あれ）の徳の一つは何か。	[a] ローマ領へ最初に遠征した者。[b] 最初にクルアーンを暗記した者。[c] 解放奴隷の中で最初にイスラームを受け入れた者。	**c**

38 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィール・モジュール ― アル＝インシカーク章（後半）

فَلَا أُقْسِمُ بِالشَّفَقِ (1 (6وَاللَّيْلِ وَمَا وَسَقَ (17) وَالْقَمَرِ إِذَا اتَّسَقَ (18) لَتَرْكَبُنَّ طَبَقًا عَنْ طَبَقٍ (19) فَمَا لَهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ (20) وَإِذَا قُرِئَ عَلَيْهِمُ الْقُرْآنُ لَا يَسْجُدُونَ (21) بَلِ الَّذِينَ كَفَرُوا يُكَذِّبُونَ (22) وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا يُوعُونَ (23) فَبَشِّرْهُمْ بِعَذَابٍ أَلِيمٍ (24) إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍ (25)

慈悲あまねく、慈愛深きアッラーの御名においてわれは誓う、黄昏の輝きにかけて、そして夜と、それが包み込むものにかけて、そして満ちて完全となる月にかけて、あなたがたは必ず段階から段階へと移っていくであろう。それなのに彼らはどうして信じないのか。またクルアーンが彼らに読誦されるとき、彼らはサジュダ（平伏）しないのか。いや、不信仰の者たちはそれを否定する。そしてアッラーは彼らが胸の内に隠しているものを最もよくご存知である。それゆえ彼らに痛ましい懲罰の吉報を告げよ。ただし、信仰し善行を行う者たちは別である。彼らには絶え間ない報奨がある。

❖ スーラの主題：

人間の弱さ、彼に起こる様々な変化、そして最終的に**主のもとへ帰ること**への戒め。

❖ 難しい語句の説明：

アラビア語	転写	意味
بالشفق	al-shafaq	日没時の地平線の赤み
وَسَقَ	wasaqa	集める、包み込む
اتَّسَقَ	ittasaqa	月が完全に満ちること
طَبَقًا عَنْ طَبَقٍ	ṭabaqan ʿan ṭabaq	段階から段階へ、状態が次々に変わること
يُوعُونَ	yūʿūn	彼らが胸の中に隠している否定や頑固さ
غَيْرُ مَمْنُونٍ	ghayru mamnūn	途切れない、減らされることのない

❖ 全体の意味：

崇高なるアッラーは、**日没の黄昏の光、夜とそれが包むもの、そして満ちて完全となる月**にかけて誓われる。 それは、人間が必ず**多くの段階と状態を通過する**ということである。すなわち、精液の一滴から血の塊へ、肉の塊へ、魂が吹き込まれる段階、そして死、最後には復活と集合へと至る。

しかし、これほど明白な徴と避けられない段階があるにもかかわらず、不信仰者の心は信仰へと柔らぐことがなく、クルアーンが読誦されても謙虚にならない。
そのような者たちには**痛ましい懲罰**が約束されている。一方で、**アッラーを信じ善行を行う者たち**には、**途切れることのない永遠の報奨**が与えられる。

❖ このスーラからの教訓：

1. 人間の状態の変化（困難から安易へ、正しさから堕落へ）は、**アッラーの偉大な力と復活させる能力の証拠**である。
2. **黄昏の光、夜の暗闇、満ちた月**は、熟考すべき偉大なアッラーの徴である。
3. クルアーンは敬意と畏敬をもって受け止められるべきである。アッラーは言われた：
   そしてクルアーンが彼らに読誦されるとき、彼らはサジュダしない。

月曜日：ハディース モジュール — 知識と施しにおける羨望

‘アブドゥッラー・イブン・マス‘ウード（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
羨望は、ただ二つの場合においてのみ認められる。すなわち、アッラーが財産を授け、その者がそれを正しく費やす人、そしてアッラーが英知を授け、その者がそれによって裁き、かつそれを人々に教える人である。[1]

❖ 解説：

イスラームの諸テキストは、羨望には二つの種類があることを明らかにしている。

1. **禁じられた羨望（ḥasad）**：
   これはいかなる場合においても非難されるものであり、アッラーが他者に授けた恩恵それが宗教的なものであれ世俗的なものであれが、その人から取り去られることを望むことである。この種の羨望は、火が薪を焼き尽くすように善行を消し去る。
2. **許される羨望（al-ghibṭah）**：
   これは、他者に与えられたアッラーの恩恵が取り去られることを望むのではなく、自分も同様の恩恵、あるいはそれ以上、あるいはそれに近い恩恵を得たいと望むことである。これをギブタ（ghibṭah：善き羨望）と呼ぶ。その最も完全な形は、宗教的恩恵において現れる。

このハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、**ギブタを抱くに最も値する二種類の人**を言及された。

• **第一の人**：
正当な方法によって得た財産を持ち、それを善行、施し、義務として定められた権利の履行、そして推奨される善行のために費やすよう導かれた者である。これは真の信仰の偉大な証である。

• **第二の人**：
アッラーから授けられた知識と英知を持ち、それを人々に教え、また人々の間でそれによって裁くよう導かれた者である。

このように、これら二つの恩恵は、ギブタによって望むに最も値するものである。なぜなら、それらがもたらす善は極めて大きく、他のいかなるものもそれに匹敵しないからである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 羨望には二種類があることの明確化非難される羨望（ḥasad）と、称賛される羨望（ghibṭah）である。
2. 財産の所有者がその正当な権利を果たすとき、富と財産には徳があること。
3. 善の道において費やし、施すことは、望むに値する最も偉大な恩恵の一つであること。
4. 人々を導く有益な知識を教えることは、アッラーが授けられる最も偉大な恩恵の一つであること。
5. 世俗の快楽や欲望を望むことは称賛されるものではないこと。
6. すべての恩恵について、その授与者であるアッラーに感謝することが義務であり、それらをアッラーへの服従において用いることによって感謝が示されること。

[1] アル＝ブハーリー（73）およびムスリム（816）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — タワッスル (2)

私たちは先に、タワッスル（アッラーに近づくための手段を求めること）には二つの種類があることを述べた。
• 許されるタワッスル（前述）。
• 禁じられたタワッスル（以下において説明する）。

禁じられたタワッスルとは、シャリーアにおいてその許可を示す証拠が存在しない、革新された形のタワッスルである。これはいくつかの形を取り、その中には次のものが含まれる。

1. 死者にドゥアー（祈願）を求めることによるタワッスル。
これは許されない。なぜなら死者は、生者に対して利益をもたらすことができないからである祈願によっても、その他いかなる方法によってもである。これを許す証拠はシャリーアには存在せず、むしろそれを禁じる証拠が示されている。

例えば、ʿウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）と彼と共にいた教友たちが干ばつに見舞われたとき、彼らはアル＝ʿアッバース（アッラーの御満悦あれ）の祈願を通して雨を求めた。彼は生きていたのである。彼らは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の死後、その御方を通して求めることはしなかった。たとえそれが可能であったとしてもである。

ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）は言った。
おおアッラーよ、私たちはかつて、私たちの預言者を通してあなたに近づく手段を求めており、あなたは私たちに雨をお与えになりました。今や私たちは、私たちの預言者の叔父を通してあなたに近づく手段を求めます。どうか私たちに雨をお与えください。[1]

もし死者に祈願を求めることが許されていたならば、彼らは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の死後、その御方を通して求めることを放棄し、地位においてそれより下にある者を選ぶことはなかったであろう。

2. 死者にシャファーア（取り成し）を求めることによるタワッスル。
これはまさに偶像崇拝者たちの行為である。至高なるアッラーは仰せられた。

彼らは、アッラーのほかに、彼らを害することも益することもできないものを礼拝し、こう言う。これらはアッラーの御前で私たちの取り次ぎ手である。言え。あなたがたは、天にも地にもアッラーの知らない何かをアッラーに知らせようとするのか。かれは、彼らが同位に配するものを超えて、崇高にして至高である。[2]

3. 被造物を通してアッラーにタワッスルすること彼らの人格、地位、あるいは身分によって。
例えば次のように言うことである。

おおアッラーよ、私はあなたの預言者によってあなたに近づく手段を求めます。
あるいは
あなたの預言者の地位によって。
または
あなたの預言者、あるいはその他の正しき者たちの権利によって。

これらはすべて、禁じられた行為であり、忌むべき革新（ビドア）である。その理由は次の通りである。

• アッラーは、いかなる被造物の人格も、祈願が受け入れられる原因として定めておられない。また、それをしもべたちのための法として定めてもいない。礼拝行為は、正確で明確な証拠によってのみ確立されるのである。

[1] アル＝ブハーリー（1010）によって伝承された。
[2] ［ユーヌス章：18］

- アッラーは、いかなる者の権利によっても義務づけられる御方ではない。むしろ、かれこそがそのしもべたちに恩恵を授け、寛大にも彼らに権利を与えられる御方である。至高なる御方は仰せられた。
  信仰する者たちを助けることは、われらに定められている。[1]
  したがって、従順なる者たちに報奨、近接、そして祈願の応答が与えられるとき、それは恩恵と慈しみによる授与であって、被造物同士が互いに負うような、交換としての当然の権利ではない。

- アッラーが寛大にもそのしもべに与えられるこの権利は、その者に固有のものであり、その利益は彼自身にのみ帰する。もし他の者がそれをタワッスルの手段として用いるならば、その者は自分に属さないものによって求めていることになり、それは彼にとって何の利益ももたらさないのである。

[1] ［アル＝ルーム章：47］

水曜日：フィクフ モジュール — 債務のザカ

債務に関するザカーには、いくつかの問題が関係している。
問題一：債務者（**al-madīn**）にザカーは義務づけられるのか。
債務を負っている者（債務者）であっても、実際に自分が所有している財産については、ザカーを支払う義務がある。
しかし、もし太陰暦一年（**ḥawl**）が満了する前に自分の債務を返済し、その結果、手元に何も残らなかった場合には、彼にはザカーは義務づけられない。
ʿウスマーン・イブン・ʿアッファーン（アッラーの御満悦あれ）は、債務を負っている者たちに対し、ザカーが義務となる前にその債務を清算するよう命じていた。[1]
問題二：債権者（**ad-dāʾin**）にはザカーが義務づけられるのか。
他人があなたに負っている債務は、次の二種類に分けられる。

1. 回収可能な債務
   これは、支払い能力を持つ健全な債務者が負っている場合である。この場合、それを毎年ザカーの計算に含めなければならない。なぜなら、それはあたかも自分の手元にある財産と同様だからである。
2. 回収不可能な債務
   これは、支払い能力のない債務者、債務を否認する者、あるいは返済を常に遅らせ続ける者が負っている場合である。このような債務にはザカーは義務づけられない。

問題三：人が誰かに対する債務を免除し、それをザカーとして数えることはできるのか。
その裁定：
これは許されない。なぜなら、それは自分の財産を守る手段となってしまうからである。すなわち、回収できない債務の免除を口実として、本来義務であるザカーの支払いを回避することになるからである。
しかし、もし貧しい者に対して本来のザカーの分配が与えられ、その後、その者がその金額を用いてザカーを与えた者に対する自分の債務を返済するのであれば、これは許される。

[1] マーリク（1/253）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — 使節団の年

使節団の年とは、ヒジュラ後第九年を指す。この年は、アラビア半島の各地から多数の使節団がマディーナに到来し、イスラームを宣言し忠誠の誓約（バイʿア）を行ったことから、この名で呼ばれるようになった。マッカ征服、そしてフナインおよびタブークの戦いの後、諸部族は集団となってアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ来るようになった。

これらの使節団は七十を超え、その中には次の者たちが含まれる。
- バヌー・タミームの使節団
- バヌー・ʿアーミルの使節団
- バヌー・サアド・イブン・バクルの使節団
- ʿアブドゥル＝カイスの使節団
- バヌー・ハニーファの使節団
- Ṭayyʾ の使節団
- バヌー・ズバイドの使節団
- キンダの使節団
- ヒムヤルの王たちの使節団
- バヌー・アル＝ハーリス・イブン・カʿブの使節団
- ハムダーンの使節団
- ʿアディー・イブン・ハーティムの使節団
- フルワ・イブン・ムサイク・アル＝ムラーディーの使節団
- スラド・イブン・ʿアブドゥッラー・アル＝アズディーの使節団
- フルワ・イブン・ʿアムル・アル＝ジュザーミーの使節団

彼らは皆イスラームに服し、群れをなしてアッラーの宗教へと入信した。至高なるアッラーは仰せられた。

アッラーの援助と勝利が到来し、あなたが人々が群れをなしてアッラーの宗教に入るのを見るとき、あなたの主を讃えて賛美し、その御赦しを求めよ。まことに、かれは常に悔悟を受け入れられる御方である。[1]

この年、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、アブー・バクル・アッ＝Ṣiddīq（アッラーの御満悦あれ）をハッジの指導者として任命された。アブー・バクルがムスリムたちと共に出発し、マディーナを離れた後、アッラーはスーラト・アッ＝タウバの冒頭の節を啓示された。

これは、あなたがたが条約を結んでいた多神教徒に対する、アッラーとその使徒からの破棄の宣言である。それゆえ、（不信仰者よ）四か月の間、地上を自由に歩き回れ……[2]

さらにアッラーは次の御言葉を啓示された。

そしてこれは、大ハッジの日における、人々へのアッラーとその使徒からの告知である。すなわち、アッラーは不信仰者たちとは無関係であり、その使徒もまた同様である。[3]

[1] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（7/232）。
[2] ［アッ＝ナスル章：1–3］
[3] ［アッ＝タウバ章：3］

その後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、‘アリー（アッラーの御満悦あれ）を派遣し、アブー・バクルの後を追わせて、ハッジの際にアル＝バラーア（タウバ章）を人々の前で公に朗誦させた。
彼は次のように宣言した。
今年以降、多神教徒はハッジを行ってはならない。また、何人も裸のままでカアバを周回（タワーフ）してはならない。
さらに彼は、すべての条約の破棄を宣言した。ただし、期限が明確に定められている条約については例外とされ、その期限が満了するまで有効とされた。[1]

[1] アル＝ブハーリー（4655）およびムスリム（1347）によって伝承された。

土曜日：サハーバモジュール — ʿアブドゥッラー・イブン・マスʿード（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、ʿアブドゥッラー・イブン・マスʿード・イブン・ガーフィル・イブン・ハビーブ・イブン・シャムス・アル＝フダリーであり、アブー・ʿアブド・アル＝ラフマーンとして知られている。彼は、預言者の使命の開始よりおよそ二十年前にマッカにおいて誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、体つきが小柄で、肉付きは薄く、脚は細かった。しかし彼は人々の中でも最も身なりが整っており、香りのよい者の一人であり、またジャーヒリーヤ（無明時代）の頃から誠実さで知られていた。

彼は最も早くイスラームを受け入れた者たちの一人であり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がアル＝アルカムの家に入る以前に信仰を受け入れていた。[1] 彼自身こう言っている。
私は六人のうちの六番目であり、そのとき地上には私たち以外にムスリムはいなかった。[2]

彼は強い信仰と確固たる確信によって知られていた。彼は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の後に続き、カアバの前で初めて声を上げてクルアーンを朗誦した人物であった。[3] 彼はアビシニア（ハバシャ）へ二度ヒジュラし、その後マディーナへ移住し、バドルの戦いおよび預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共にすべての戦いに参加した。

ʿアブドゥッラー・イブン・マスʿード（アッラーの御満悦あれ）は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の秘密を預かる者であり、その同伴者であり、旅の際には預言者のシワーク、履物、そして寝具を携える役を務めた。彼は預言者に履物を履かせ、杖を持ってその前を歩き、預言者が座ると履物を脱がせて腕に抱え、杖を手渡した。[4]

彼は導き、振る舞い、そして品行において、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に最も似ている者であった。フダイファ（アッラーの御満悦あれ）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に最も近い導きと振る舞いを持つ人物について尋ねられたとき、こう答えた。
家を出てから戻るまでの間において、導き、振る舞い、そして品行において、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に最も似ている者は、イブン・ウンム・ʿアブドである。[5]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、多くの場面で彼を称賛された。あるとき預言者は、彼に木に登って何かを取ってくるよう命じた。風によって彼の細い脚が見えると、ある人々はそれを見て笑った。するとアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
わが魂がその御手の中にある御方にかけて、これらの脚は復活の日の秤においてウフド山よりも重いのである。[6]

[1] イブン・サアド（1/107）。
[2] イブン・ヒッバーン（7062）。
[3] イブン・ヒシャーム（1/314）。
[4] イブン・サアド（3/1/108）。
[5] Sahih al-Bukhari（3762）。
[6] アフマド（1/114）。

別の機会に、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はこう言われた。
クルアーンを、啓示されたままの新鮮な形で朗誦することを望む者は、イブン・ウンム・‘アブドの朗誦に従って朗誦するがよい。[1]

イブン・マス‘ード（アッラーの御満悦あれ）自身はこう言った。
かれのほかに神は存在しない御方にかけて言うが、アッラーの書のいかなる章も、それがどこで啓示されたかを私が知らないまま啓示されたものはない。また、アッラーの書のいかなる節も、それが誰について啓示されたかを私が知らないまま啓示されたものはない。もし私よりもアッラーの書についてよく知る者がいることを知り、しかもラクダがそこへ到達できるのであれば、私は必ずその者のもとへ旅するであろう。[2]

教友たちは彼の卓越性と広大な知識を認めていた。‘ウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）は、彼をクーファの人々のもとへ教師かつ法学者として派遣し、こう言った。
私は、自分よりもあなた方に‘アブドゥッラーを優先して送ったのである。[3]

また、アブー・ムーサー・アル＝アシュ‘アリー（アッラーの御満悦あれ）は言った。
この学者があなた方の中にいるかぎり、私に何も尋ねる必要はない。[4]

❖ 御逝去：

彼はクーファからマディーナへ戻り、その地に留まり、ヒジュラ暦 32 年に六十歳を過ぎた頃に逝去した。彼はアル＝バキー‘墓地に埋葬された。

[1] アフマド（35）、イブン・ヒッバーン（7066）。
[2] Sahih al-Bukhari（5002）；Sahih Muslim（2463）。
[3] アル＝ハーキム（3/388）。
[4] Sahih al-Bukhari（6736）。

知識テスト — 第 38 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	アル＝シャファク（al-Shafaq）とは何を意味するか。	[a] 日没時の地平線の赤み[b] 日の出時の地平線の赤み[c] 月食の際の地平線の赤み	a
ハディース	称賛される嫉妬は何と呼ばれるか。	[a] アル＝ギブタ（al-Ghibṭah：善を競い合う羨望）[b] アル＝ギル（al-ʿGhill：怨恨）[c] アル＝ヒクド（al-Ḥiqd：悪意）	a
アキーダ	次のうち、禁じられたタワッスル（tawassul）の例はどれか。	[a] 正しい行いによるタワッスル[b] 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の地位によるタワッスル[c] 両親の祈願によるタワッスル	b
フィクフ	ザカー（zakāh）は、貸した金が次のどの者に対する債務である場合、貸し手に義務となるか。	[a] 支払い能力のない貧者[b] 富裕であるが支払いを引き延ばす者[c] 支払い能力を有する者	c
スィーラ	使節団の年は、ヒジュラの何年目であったか。	[a] ヒジュラ 8 年[b] ヒジュラ 9 年[c] ヒジュラ 10 年	b
サハーバ	ʿアブドゥッラー・イブン・マスʿード（アッラーの御満悦あれ）の徳の一つは何か。	[a] ムハージルーンの中で最初にマディーナへ移住した者であった[b] シャームにおけるムスリム最初の裁判官であった[c] アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の後、カアバにおいて初めてクルアーンを声に出して朗誦した者であった	c

39 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ―アル＝ムタッフィフィーン章（前半）

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَيْلٌ لِلْمُطَفِّفِينَ (1) الَّذِينَ إِذَا اكْتَالُوا عَلَى النَّاسِ يَسْتَوْفُونَ (2) وَإِذَا كَالُوهُمْ أَوْ وَزَنُوهُمْ يُخْسِرُونَ (3) أَلَا يَظُنُّ أُولَئِكَ أَنَّهُمْ مَبْعُوثُونَ (4) لِيَوْمٍ عَظِيمٍ (5) يَوْمَ يَقُومُ النَّاسُ لِرَبِّ الْعَالَمِينَ (6) كَلَّا إِنَّ كِتَابَ الْفُجَّارِ لَفِي سِجِّينٍ (7) وَمَا أَدْرَاكَ مَا سِجِّينٌ (8) كِتَابٌ مَرْقُومٌ (9) وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِلْمُكَذِّبِينَ (10) الَّذِينَ يُكَذِّبُونَ بِيَوْمِ الدِّينِ (11) وَمَا يُكَذِّبُ بِهِ إِلَّا كُلُّ مُعْتَدٍ أَثِيمٍ (12) إِذَا تُتْلَى عَلَيْهِ آيَاتُنَا قَالَ أَسَاطِيرُ الْأَوَّلِينَ (13) كَلَّا بَلْ رَانَ عَلَى قُلُوبِهِمْ مَا كَانُوا يَكْسِبُونَ (14) كَلَّا إِنَّهُمْ عَنْ رَبِّهِمْ يَوْمَئِذٍ لَمَحْجُوبُونَ (15) ثُمَّ إِنَّهُمْ لَصَالُو الْجَحِيمِ (16) ثُمَّ يُقَالُ هَذَا الَّذِي كُنْتُمْ بِهِ تُكَذِّبُونَ (17) كَلَّا إِنَّ كِتَابَ الْأَبْرَارِ لَفِي عِلِّيِّينَ (18) وَمَا أَدْرَاكَ مَا عِلِّيُّونَ (19) كِتَابٌ مَرْقُومٌ (20) يَشْهَدُهُ الْمُقَرَّبُونَ (21)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。量りや秤においてごまかす者たちに災いあれ。人々から量り取るときには満量を取るが、彼らが人々に量り与えるとき、あるいは秤で与えるときには減らしてしまう者たち。彼らは、自分たちが蘇らされるとは思わないのか。偉大なる日のために。その日、人類は万有の主の前に立つのである。いや、まことに、不義なる者たちの記録はスィッジーンの中にある。スィッジーンが何であるかを、あなたに何が知らせようか。それは記された記録である。その日、否定する者たちに災いあれ。報いの日を否定する者たちに。それを否定するのは、すべての罪深い越境者のみである。われらの諸節が彼に朗誦されると、彼は言う。これは昔の者たちの物語にすぎない。いや、むしろ彼らが行ってきたことのために、彼らの心には錆が覆いかぶさっている。いや、その日、彼らは自らの主から遮られるであろう。その後、まことに彼らは地獄の炎に入るであろう。それから言われるであろう。これこそ、あなたがたが否定していたものである。いや、まことに、正しき者たちの記録はʿイッリイーンの中にある。ʿイッリイーンが何であるかを、あなたに何が知らせようか。それは記された記録である。それを、アッラーに近づけられた者たちが目撃する。

❖ スーラのテーマ：

復活の日を否定する者たち、そして不正を行う者たちへの警告であり、それを信じる信仰者たちへの吉報である。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
لِلْمُطَفِّفِينَ	al-Muṭaffifīn	量りや秤においてごまかす者たち。
يُخْسِرُونَ	yukh’sirūn	量や重さを減らして損失を与える。
يَظُنُّ	yaẓunnu	知る、確信する。
كِتَابَ الْفُجَّار	kitāb al-fujjār	不義なる者たちの記録、あるいは彼らの定められた結末。
سِجِّين	Sijjīn	牢獄、拘束、狭く閉ざされた場所。
مَرْقُوم	marqūm	書き記され、封じられたもの。刺繍のように消えないもの。
مُعْتَدٍ	muʿtadin	越境する者、限度を超える者。
أَثِيم	athīm	常に罪を犯す者。
أَسَاطِير	asāṭīr	作り話、神話、虚偽の物語。
رَانَ	rān	覆われる、閉ざされる、錆びつく。
المَحْجُوبُون	al-maḥjūbūn	遮られた者、覆い隠され、アッラーを見ることを奪われた者。
لَفِي عِلِّيِّينَ	la-fī ʿIlliyyīn	最も高く崇高な場所にあること。

❖ 全体的な意味：

アル＝ムタッフィフィーンはマッカ啓示のスーラであり、量りや秤においてごまかしを行う者たちに対し、破滅と厳しい懲罰を警告している。また彼らに、復活の日に蘇らされ、責任を問われることを想起させる。その日は、人類が万有の主の御前に立ち、小さな行いも大きな行いもすべて精算される偉大で恐ろしい日である。

その日、不義なる者たちの行き着く先は、拘束と窒息するような閉塞であり、彼らは主を見ることから遮られる。それは、この世において罪と傲慢のために彼らの心が覆われていたのと同様である。彼らはアッラーの諸節を拒み、それを昔の者たちの作り話にすぎないと言った。そのため、彼らの破滅は確定したのである。

一方、正しき者たちの記録は最も高い場所にあり、安全で崇高な地位に定められている。それは変えられることのない定めであり、アッラーに最も近づけられた天使たちがそれを証するのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 量りや秤における不正の禁止。多く取ることによっても、少なく与えることによっても、たとえわずかであっても許されない。
2. 貪欲は商人にとって最も非難される性質の一つであり、アッラーを畏れる者以外はそこから安全ではない。
3. 復活の日の恐怖を思い起こすことは、罪を抑止する最大の要因の一つである。
4. 懲罰は行為に応じる。すなわち、不信仰者たちがこの世でアッラーのしるしから自らを遮ったように、来世において彼らは主を見ることから遮られる。
5. 罪は極めて危険であり、心を覆い（ラーン）、それを封じ、硬くしてしまう。

月曜日：ハディース モジュール — 詮索と相互の憎悪の禁止

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
疑念に気をつけよ。まことに疑念は言葉の中でも最も虚偽に満ちたものである。互いに詮索してはならない。互いの秘密を探ってはならない。互いに憎み合ってはならない。アッラーのしもべとして兄弟であれ。 また、人は自分の兄弟が求婚している女性に対して、その兄弟が結婚するか、あるいは求婚を取り下げるまで、求婚してはならない。[1]

❖ 解説：

シャリーアは、ムスリム同士の和解を確立し、彼らの間の兄弟愛と結束を強めることを命じている。また、分裂や憎悪、敵意へと導くあらゆる事柄を禁じている。
このハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、分裂と敵意を引き起こすいくつかの原因を禁じ、それについて警告された。

彼は、ムスリムに対して悪い疑念を抱くこと、また確認されていない情報を広めることに対して警告された。そして、疑念における虚偽は言葉における虚偽よりも大きいことを明らかにされた。
また、人々の欠点や過ちを探し出そうとする詮索（スパイ行為）**を禁じられ、さらに自分に隠されている事柄を探ろうとする**詮索的な探求（prying）も禁じられた。

さらに、私たちがアッラーのために互いに愛し合う兄弟となることを命じられた。
また、一人のムスリムがすでにある女性に求婚している場合、その求婚者が取り下げたことが明らかになるまで、他の者がその女性に求婚することを禁じられた。これは、彼らの間に憎しみや不和が生じないようにするためである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 悪い疑念を抱くことへの警告。そこにおける虚偽は真実よりも大きい。
2. ムスリムを詮索することの禁止。なぜなら、それは彼らの欠点や私的な事柄を暴露することになるからである。
3. 他人の隠された事柄を探ろうとすることの禁止。なぜなら、それは命じられていないことを自らに課すことになるからである。
4. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の命令に従うことへの奨励。すなわち、アッラーのために互いに愛し合う兄弟となることである。
5. 自分の兄弟の求婚の上に求婚することの禁止。すなわち、その者が求婚を取り下げたことが明らかになるまで、それを行ってはならない。

[1] al-Bukhārī (6064).

火曜日：アキーダモジュール —イスティアーナ（助けを求めること）とイスティガーサ（救済を求めること）

• イスティアーナ（助けを求めること）：目的を達成するために援助を求めること。
• イスティガーサ（救済を求めること）：困難からの救助や苦難の除去を求めること。

❖ 創造主に対して助けと救済を求めること（崇高なる御方に対して）：

アッラーはそのしもべたちに、イスタイーナ（イスティアーナ）とイスティガーサ（イスティガーサ）において御方へと立ち返ることを命じられた。なぜなら、それらは礼拝におけるアッラーの唯一性を認めることの一部だからである。

アッラーのみが真に礼拝されるべき御方であると認める者は、助けもまたただアッラーのみに求めなければならない。なぜなら、礼拝される御方はその属性において完全であり、しもべたちを助ける力を完全に備えておられるからである。

至高なるアッラーは仰せられた。
私たちはあなたのみを礼拝し、あなたのみに助けを求める。[1]

また、信仰者であるしもべたちを称賛して次のように仰せられた。
あなたがたがあなたがたの主に助けを求めたとき、彼はそれに応えられた。まことに私は、次々に続く千の天使によってあなたがたを援助しよう。[2]

またハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
助けを求めるときは、アッラーに助けを求めよ。[3]

また、何かが彼を苦しめたとき、彼は次のように言われた。
おお永遠に生きる御方（al-Ḥayy）、万物を維持される御方（al-Qayyūm）よ、あなたの御慈悲によって私は救済を求めます。[4]

❖ 被造物に対して助けと救済を求めること

これは二種類に分けられる。

1. 現在している生きている被造物に対して、その者が可能な事柄について助けを求めること。
これは許されている。

至高なるアッラーは仰せられた。
善と敬虔において互いに助け合え。[5]

また、ムーサー（アッラーの平安あれ）の物語について仰せられた。
彼の民の一人が、彼の敵に対して彼に助けを求めた。[6]

またズル＝カルナインについて仰せられた。
彼は言った。私の主が私に与えられたものはそれよりも優れている。だから、あなたがたは力をもって私を助けよ。そうすれば私はあなたがたと彼らの間に障壁を築こう。[7]

2. 死者や不在の者に対して助けを求めること、あるいはアッラー以外には不可能な事柄について助けを求めること。

例えば、病気の治癒や困難の除去を、死者や被造物に求めることなどである。これは大シルク（重大な多神崇拝）である。

至高なるアッラーは仰せられた。
もしアッラーがあなたに害を触れさせるなら、それを取り除く者は御方のほかにない。もしあなたに善を与えられるなら、まことに御方はすべてのことに全能であられる。[8]

[1] ［アル＝ファーティハ章：5］
[2] ［アル＝アンファール章：9］
[3] アッ＝ティルミズィー（2516）、アフマド（2763）によって伝承された。
[4] アッ＝ティルミズィー（3524）によって伝承された。
[5] ［アル＝マーイダ章：2］
[6] ［アル＝カサス章：15］
[7] ［アル＝カフ章：95］
[8] ［アル＝アンアーム章：17］

また、至高なるアッラーは仰せられた。
復活の日まで彼に応えることのできない者を、アッラーのほかに呼び求める者よりも、いっそう迷っている者があろうか。しかも彼らは、その祈願について気づくことさえないのである。[1]

[1] ［アル＝アハカーフ章：5］

水曜日：フィクフ モジュール — 株式および不動産のザカー

❖ 株式に対するザカー：

人々が株式を購入する目的はさまざまであり、主に次の二つの種類に分けられる。

1. 取引者（al-Muḍārib）：
株式市場やその指標を追いながら、株式を継続的に売買する者である。
この種類の者には、**毎年ザカーを支払う義務**がある。なぜなら、その規定は**商業財（貿易品）の規定と同じ**だからである。

一年が経過した時点で、彼は自分の株式ポートフォリオの価値を評価し、十分の一の四分の一（2.5%）を支払わなければならない。

2. 投資者：
長期投資の意図で株式を取得し、配当金や利益の分配から利益を得ることを目的とする者である。

この場合、もし会社自身が**ザカーを支払っていることを明確に公表している**場合、あるいは国家制度によって企業がザカーを支払うことが義務付けられている場合（サウジアラビア王国における制度のように）、**株主個人に対してザカーは課されない。**

❖ 不動産に対するザカー：

不動産とは、人が所有する土地、またはその上に建てられた建物を指す。例えば、住宅、アパート、タワー型建物、休養施設などである。

不動産に対するザカーの規定は、**所有者の意図によって異なり**、次の四つの場合がある。

1. 個人的使用のため：
もしそれを**個人的に使用する目的**（例えば住宅を建てて住むなど）で所有している場合、その価値がいかに高くても**ザカーは課されない**。
なぜなら、それは個人の所有物（私的財産）となるからである。

同様に、**資産を保存する目的で購入された不動産**であって、取引や利益を得る意図がない場合も、ザカーは課されない。

2. 取引目的：
もしそれを**売買による利益や価格上昇を目的とする商業目的**で所有している場合、**毎年その市場価値に基づいてザカーを支払う義務**がある。

これは購入価格より価値が上昇した場合でも、減少した場合でも同様である。
また、人々の需要が高まり価格が上昇するのを待ちながら**遠隔地の土地を購入する場合**もこれに含まれる。

このような不動産は**商業と資産の増加を目的としているためザカーが義務**となる。
支払う額は十分の一の四分の一（2.5%）である。

3. 賃貸収入のため：
もしそれを**賃貸して収入を得る目的**で所有している場合（例えばアパート建物、倉庫、家具付きアパート、ホテルなど）、**不動産そのものにはザカーは課されない。**

しかし、**賃貸収入が貯蓄され、その上に一年が経過した場合**には、その収入に対してザカーが課される。

4. 農業のため：
もしそれを**農業や栽培の目的**で所有している場合、**土地そのものにはザカーは課されない。**

ザカーが課されるのは、**そこから収穫される農作物や生産物**に対してのみである。

木曜日：スィーラモジュール — 別れの巡礼（ハッジャ・トゥル＝ワダー）

ヒジュラ暦十年、ズル＝カアダ月二十五日（土曜日）、我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）は、その偉大なる巡礼である別れの巡礼へと出発された。彼と共にいた人々は、アッラーのみがその数を知るほど多く、十万人を優に超えていた。また、彼の九人の妻たちも、それぞれの輿に乗って同行していた。
彼は、礼拝を行い、髪を整え、油を塗ったのち、正午にマディーナを出発した。そして旅を続け、アスル礼拝の後にズル＝フライファの停留地に到着し、そこで宿営して一夜を過ごした。

翌日、彼（アッラーの祝福と平安あれ）は、イフラーム（iḥrām）に入る準備として正午に沐浴した。'アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は彼に香油を塗り、それから彼はイザールとリダー'を身にまとい、雌ラクダ アル＝カスワー乗った。そしてハッジとウムラの双方を同時に意図してイフラームに入り、こうして彼（アッラーの祝福と平安あれ）はカーリン（qārin）であった。

彼はズル＝フライファから供犠の動物を伴い、タルビヤを唱えながら進んだ。そのときジブリールが彼のもとに来て、タルビヤを声高に唱えるよう仲間たちに命じるよう彼に告げた。なぜなら、それはハッジの儀礼の一つであるからである。[1]

八日間の旅の後、彼はズル＝ヒッジャ月四日（日曜日）の夜にマッカへ到着した。彼はズー・トゥワーに宿営し（今日ではハイイ・ジャルワルとして知られている）、そこで一夜を過ごした。夜明けにファジュルの礼拝を行い、その後マッカへ入るために沐浴した。
彼は昼の間にサニーヤト・カダー'（Thanīyat Kadā'）の上方の峠（現在ではアル＝ハジューンと呼ばれる）からマッカに入った。そして午前中にバーブ・バニー・シャイバ（現在の第 22 門）からアル＝マスジド・アル＝ハラームへ入った。
彼はカアバの周囲を到着のタワーフとして巡り、その後アッ＝サファとアル＝マルワの間を往復した。

彼は日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、そして木曜日の夜までマッカに滞在した。
ズル＝ヒッジャ月八日（タルウィヤの日）の木曜日午前、人々と共にミナーへ向かい、ハッジの残りの儀礼を開始した。

ズル＝ヒッジャ月九日（金曜日）の夜をミナーで過ごした後、朝にアラファへ向かった。そこではナミラに彼のための天幕が設けられていた。彼は正午までそこに留まった。
太陽が天頂を過ぎたとき、彼の雌ラクダアル＝カスワー'が連れてこられ、彼はそれに乗ってウラナ谷へ進み、そこでイスラームの基礎を確立する偉大な説教を行った。約四万人の教友たち（アッラーが彼らすべてに満足されますように）がそれを目撃した。

その後、彼はズフルとアスルの礼拝を併せて行い、アラファへ進み、岩の近くの東側に立ち、キブラに向かって日没まで祈願を捧げた。
日没後、彼はムズダリファへ向かい、そこでマグリブとイシャー'の礼拝を併せて行い、ファジュルまで休んだ。
彼は最も早い時刻にファジュルの礼拝を行い、その後アル＝マシュアル・アル＝ハラームの近くへ行き、キブラに向かってアッラーを想起し、讃美し、祈願を捧げた。夜が完全に明けるまでそれを続けた。
日の出の前にミナーへ向かい、そこでジャムラト・アル＝アカバへの投石を行った。

[1] アブー・ダーウード（1814）によって伝承された。

その後、彼（アッラーの祝福と平安あれ）は、再び偉大な説教を行い、人々に訓戒し助言を与えた。続いて彼は百頭のラクダを供犠として屠り、頭髪を剃った。そしてその髪を教友たちの間に分け与えた。彼はその半分をアブー・タルハに与え、残りの半分を人々の間に分配した。‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は、彼が頭を剃った後に香油を塗った。

その後、彼はマッカへ向かい、イファーダのタワーフ（ṭawāf al-ifāḍah）を行った。多くの人々が彼を取り囲み、質問をし、また彼の行いに倣おうとしていたため、彼は乗り物に乗ったままこれを行ったのである。マッカでズフル（ズフル）の礼拝を行った後、彼はミナーへ戻り、タシュリークの日々（Ayyām al-Tashrīq）の夜をそこで過ごした。そして毎日、正午の後にジャマラートへの投石を行った。

タシュリークの最初の日、彼は再び深い説教を行い、人々に警告と想起を与え、自らが確かに使命を伝え、託された信託を果たしたことの証人となるよう彼らに求めた。

ズル＝ヒッジャ月十三日にジャマラートへの投石を終えると、彼はマッカへ向かった。そしてアル＝アブタフに宿営し、そこでズフル、アスル、マグリブ、イシャーの礼拝を行い、休息した。夜が更けてから彼は出発し、十四日の夜に聖なる館（カアバ）へ到着し、そこで別れのタワーフ（ṭawāf al-wadā‘）を行った。

その後、人々と共にファジュルの礼拝を行い、その中でアッ＝トゥール章を朗誦した。そしてムスリムたちと共にマディーナへと帰還した。

このようにして彼の巡礼は完成し、アッラーは彼のために宗教を完成された。審判の日に至るまで、アッラーの祝福と豊かな平安が絶えず彼の上にありますように。

土曜日：サハーバモジュール — サアド・イブン・ʿウバーダアッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と誕生：

彼は高貴なる教友、**サアド・イブン・ʿウバーダ・イブン・ドゥライム・イブン・ハーリサ・アル＝ハズラジー・アル＝アンサールィー・アッ＝サーイディー**である。彼はアブー・サービトというクンヤ（敬称）によって知られていた。彼は預言者性の到来以前に、マディーナにおいて誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、イスラーム以前においてバヌー・サーʿイダの長であり、またハズラジュ族の指導者であった。無明時代（ジャーヒリーヤ）において、彼は書記、弓術、そして水泳に秀でていることで知られていた。これら三つを修めた者は完全な者と呼ばれていた。[1]

彼（アッラーの御満悦あれ）は勇敢であり、寛大で、謙虚で、公正であり、慈悲深く、母に対して孝行であり、また妻たちに対して強い保護心を持っていた。そして多くの財産を有していたにもかかわらず、現世の事柄に対して禁欲的であった。

彼は七十人のアンサールと共にアカバの誓約に立ち会い、そこで選ばれた十二人の長の一人であった。バドルの戦いの際、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がムスリムたちに相談されたとき、彼は勇敢な立場を示した。サアドは立ち上がり、こう言った。わが魂が御手の中にある御方にかけて、もしあなたが我々に海へ飛び込むよう命じるなら、我々はそこへ飛び込みましょう。また、もしあなたが我々に馬を駆ってバルク・アル＝イマードへ向かうよう命じるなら、我々は必ずそうするでしょう。[2]

彼はまた、**ウフドの戦い、塹壕の戦、フナインの戦い**、そしてマッカ征服にも参加した。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の逝去後、彼はカリフ候補として挙げられた者の一人でもあった。[3]

❖ 逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦十四年に、シャーム地方の**地にある**ハウラーンにおいて逝去した。

---

[1] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（Al-Bidāyah wa al-Nihāyah）第 9 巻 607 頁。
[2] ムスリム（1779）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（3667）によって伝承された。

知識テスト — 第 39 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	アル＝ムタッフィフィーン（al-Muṭaffifīn）とは何を意味するか。	[a] 計量や秤において不正を行う者たち [b] 貸し借りを妨げる者たち [c] ムスリムを嘲笑する者たち	a
ハディース	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が禁じられたタハッスス（taḥassus）とは何を意味するか。	[a] 短気であること [b] 隠された情報や他人の秘密を探ろうとすること [c] 悪意や嫉妬	b
アキーダ	病気の治癒や苦難の除去を求めて死者に助けを求めることは何に当たるか。	[a] 忌避される行為（好ましくない行為） [b] 小シルク [c] 大シルク	c
フィクフ	株式市場を通じて株を売買する者については：	[a] ザカーが義務である [b] ザカーは義務ではない [c] 義務ではないが推奨される	a
スィーラ	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が別れの巡礼へ出発されたのは、ヒジュラ後何年目か。	[a] ヒジュラ後 9 年 [b] ヒジュラ後 10 年 [c] ヒジュラ後 11 年	b
サハーバ	イスラーム以前、サアド・イブン・ʿウバーダ（アッラーの御満悦あれ）は誰の長であったか。	[a] サキーフ族の長 [b] アウス族の長 [c] ハズラジュ族の長	c

40 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝ムタッフィフィーン章（後半）

إِنَّ الْأَبْرَارَ لَفِي نَعِيمٍ (22) عَلَى الْأَرَائِكِ يَنْظُرُونَ (23) تَعْرِفُ فِي وُجُوهِهِمْ نَضْرَةَ النَّعِيمِ (24) يُسْقَوْنَ مِنْ رَحِيقٍ مَخْتُومٍ (25) خِتَامُهُ مِسْكٌ وَفِي ذَلِكَ فَلْيَتَنَافَسِ الْمُتَنَافِسُونَ (26) وَمِزَاجُهُ مِنْ تَسْنِيمٍ (27) عَيْنًا يَشْرَبُ بِهَا الْمُقَرَّبُونَ (28) إِنَّ الَّذِينَ أَجْرَمُوا كَانُوا مِنَ الَّذِينَ آمَنُوا يَضْحَكُونَ (29) وَإِذَا مَرُّوا بِهِمْ يَتَغَامَزُونَ (30) وَإِذَا انْقَلَبُوا إِلَى أَهْلِهِمُ انْقَلَبُوا فَكِهِينَ (31) وَإِذَا رَأَوْهُمْ قَالُوا إِنَّ هَؤُلَاءِ لَضَالُّونَ (32) وَمَا أُرْسِلُوا عَلَيْهِمْ حَافِظِينَ (33) فَالْيَوْمَ الَّذِينَ آمَنُوا مِنَ الْكُفَّارِ يَضْحَكُونَ (34) عَلَى الْأَرَائِكِ يَنْظُرُونَ (35) هَلْ ثُوِّبَ الْكُفَّارُ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ (36)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。

まことに、義しき者たちは至福の中にある。飾られた寝台の上で眺めている。* あなたは彼らの顔に至福の輝きを見て取るであろう。* 彼らは封印された純粋な飲み物を与えられる。その封印は麝香である。それゆえ、このために競い合う者は競い合うがよい。* その混合はタスニームからである。それはアッラーに最も近い者たちが飲む泉である。* まことに、罪を犯していた者たちは、信仰する者たちを嘲笑していた。* そして彼らが彼らのそばを通るとき、互いに目配せしていた。* また自分たちの民のもとへ戻るとき、彼らは戯れて戻った。* そして彼らを見ると、まことに、これらの者は迷っていると言った。* しかし彼らは、彼らの監視者として遣わされたわけではなかった。* それゆえ今日、信仰する者たちは不信仰者たちを笑うのである。飾られた寝台の上で眺めながら。* 不信仰者たちは、かつて行っていたことに対して報いられたであろうか。

❖ スーラの主題：

審判の日を否定する不正な者たちへの警告、そしてそれを信じる信仰者たちへの吉報。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
الأَرَائِكِ	al-arāʾik	帳や布で飾られた華麗な寝台
نَضْرَةَ	naḍrah	輝き、光彩
رحيق	raḥīq	純粋な酒（清らかな飲み物）
خِتَامُهُ مِسْكٌ	khitāmuhu misk	その終わりは麝香の香りであること

アラビア語の用語	音写	意味
مِزَاجُهُ	mizājuhu	その混合物
تسنيم	tasnīm	楽園の最も高い場所にある泉
يَشْرَبُ بِهَا	yashrabu bihā	それを飲んで味わうこと
يَتَغَامَزُونَ	yataghāmazūn	嘲笑して互いに目配せすること
انقلبوا	inqalabū	戻った
فَكِهِينَ	fakihīn	戯れ、嘲笑を楽しんでいる様子
حافِظِينَ	ḥāfiẓīn	行いを監視し記録する者たち
ثُوبَ	thūb	報いを受けること、報復されること

❖ 全体の意味：

高くあられるアッラーは、御自身の正しいしもべたちが、心・魂・身体のすべてにおいて永遠の至福の中にあることを説明される。彼らの座は高く掲げられた寝台の上にあり、美しい装飾で飾られている。彼らはアッラーが自分たちのために用意された喜びを眺め、また高貴なる主のお顔を拝する。彼らを見る者は誰でも、その顔に至福の輝きと光彩を見るであろう。彼らの飲み物は最も純粋なものであり、清らかな酒で、タスニームの泉で混ぜられ、麝香の香りで封じられている。このような至福を得るためには、善行において競い合い、努力することが求められる。

一方で、罪人たちの運命はそれとは著しく対照的である。彼らはこの世において信者たちを嘲笑し、からかい、笑いものにしていた。信者たちが通り過ぎると互いに目配せをし、自分たちの家族のもとへ高慢と喜びに満ちて帰っていった。彼らは清算や懲罰を気にも留めなかった。彼らは悪行と根拠のない安心を合わせ持ち、自分たちが正しい導きの上にあると主張しながら、信者たちを迷いの上にあると非難した。これはアッラーに対する大胆な捏造である。そもそも彼らは、信者たちを監視してその行いを追跡し非難するための見張りとして遣わされたわけではない。したがって来世における彼らへの報いは、その行いと同種のものである。信者たちは、彼らが厳しい懲罰の中にあるのを見るとき彼らを笑うであろう。その一方で、信者たちは完全な安全と安らぎを享受する。

❖ この章から得られる教訓：

1. 真の競争と努力は、ただ楽園の最高の位を得るためにのみ向けられるべきである。
2. 楽園の民にとって最大の至福は、祝福され崇高なる主を拝することである。
3. 宗教の人々を嘲笑することは、不信仰者の特徴の一つである。

月曜日：ハディース モジュール — 植樹と耕作の奨励

ジャービル（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ムスリムで、木を植える者、あるいは作物を蒔く者があり、人間や鳥、あるいは動物がそこから食べるならば、それはその者にとって施し（サダカ）として記録される。[1]

❖ 解説：

このハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、植樹と耕作の徳に注意を向けておられる。ムスリムが木を植え、あるいは作物を蒔き、その利益がいかなる生き物に及んだとしてもそれが人間であれ、鳥であれ、動物であれ、また大地に生きるいかなる獣や昆虫であれそのすべては、その者にとって施しとして記録されるのである。
預言者が特にムスリムと言及されたのは、施しの報奨を現世と来世の双方において受けるのがムスリムであるからである。これに対し、不信仰者は、その行為に対して報奨を受けることはない。

❖ このハディースから得られる益：

1. 報奨を得る手段は多様であり、数多く存在する。その一つが植樹である。
2. 農業の徳、そしてムスリムが植えるものは、それを誰が食べても、その者に報奨が与えられるということ。
3. 人々に利益をもたらすものによって大地を耕し、発展させることへの奨励。
4. 被造物に利益が及ぶよう努めることの徳。
5. 動物に対する優しさと慈悲の徳。

[1] アル＝ブハーリー（2320）およびムスリム（1553）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール —タバッルク （祝福を求めること）

❖ シャリーアにおいて確立された原則の一つは、礼拝行為が受け入れられるためには二つの根本的条件が満たされなければならないということである。

1. 至高なるアッラーへの誠実（イフラース）。
2. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に従うこと。

至高にして祝福あれアッラーは仰せられた。
それゆえ、主との会見を望む者は、正しい行いを行い、主の礼拝において何ものも同位に配してはならない。[1]

❖ さらに別の原則がある。それは、礼拝行為の原則は禁止であり、その正当性が真正な証拠によって立証されるまでは許されないということである。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
われらのこの事柄（宗教）に、それに属さないものを持ち込む者があれば、それは拒絶される。[2]

これら二つの原則が確立され、明確になったとき、次のように言われる。

多くの人々が誤りに陥った問題の一つが、タバッルク（tabarruk：祝福を求めること）の問題である。すなわち、人々、物、場所、あるいは時間から祝福を求めることである。このことは、アッラーが何ら権威を下されなかったさまざまなビドア（革新）や新しく作り出された行為を生み出す結果となった。

タバッルク：祝福（バラカ）を求めることを意味する。
バラカ：善の豊かさ、その増大、そして持続を意味する。

もしムスリムが、自らの財産、寿命、時間、そして子どもたちに祝福を求めることを望むならば、タバッルクは立法されたものによってのみ求められるべきであることを確かめなければならない。

❖ タバッルクの種類：

1. 正当なタバッルク（許されるもの）：

これは次の二つの条件を満たすものである。

- その事柄に祝福があることを示す証拠が存在すること。
- タバッルクが、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）によって定められた方法で行われること。

この二つの条件のいずれかが欠けるならば、そのタバッルクは禁じられたものとなる。

これら二つの種類のそれぞれについては、別々の授業において、その例と形態を挙げながら詳しく説明されるであろう。

[1] ［アル＝カフ章：110］
[2] アル＝ブハーリー（2695）およびムスリム（1718）によって伝承された。

水曜日：フィクフ モジュール — ザカーに関する一般的な誤り

ザカーを支払う際には、注意し避けるべき違反や一般的な誤りがいくつか存在する。その中には次のようなものがある。

1. ザカーを期限後まで遅らせること。
これは重大な罪である。ザカーの支払いを妨げる正当な理由がある場合を除き、それを遅らせることは許されない。ザカーが義務となった時点で、それは受給資格者の権利となるため、彼らからそれを差し控えたり遅延させたりすることは禁じられている。至高なるアッラーは仰せられた。
また、彼らの財産の中には、求める者と貧しい者のための定められた権利がある。[1]

2. ザカーを前もって支払うことは許されないと考えること。
正しい見解によれば、ニサーブ（基準額）をすでに所有している場合には、期限前にザカーを前払いすることは許される。とりわけ、貧者やムスリムたちの利益がそれを必要とする場合にはなおさらである。数か月前、あるいは一年または二年前に前払いすることが許されるが、二年を超えることは許されない。なぜなら、伝承において確認されている最長期間が二年であるからである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、アル＝‘アッバースに対し、二年分のザカーを前払いすることを許可された。[2]

3. ザカーの期限に関わらず、それをラマダーン月に結びつけること。
ある人々は、ラマダーンを自分のザカーの月とすることを好む。もしザカーの期限がラマダーンの後に到来する場合には、それまで前払いすることは許される。しかし、もしその期限がラマダーンより前に到来する場合には、ラマダーンまで遅らせることは許されない。これはすでに述べた通りである。

4. 不注意やえこひいきによって、誰にでもザカーを与えること。
これは有効ではない。ザカーは、アッラーが定められた場所に置かれるまで受け入れられず、その義務も果たされたことにはならない。至高なるアッラー御自身が施しの受給者の区分を定めて仰せられた。
まことに、施しはただ、貧者、困窮者、それを集める任務に当たる者たち、心を結びつけられるべき者たち、奴隷の解放のため、負債を負う者たち、アッラーの道のため、そして旅路にある者のためである。これはアッラーからの義務である。アッラーは全知にして英知ある御方である。[3]

したがって、その正当な受給者を選ぶ際には細心の注意を払わなければならない。しかし、ある人が誠実に受給資格者を見極めようと努力し、その後、その受給者が実際には資格を有していなかったことが判明した場合には、施した者にとってそのザカーは有効であり、罪は不当にそれを受け取った者に帰する。

5. 未成年者の財産に対するザカーを怠ること。
ザカーは、未成年者、精神に障害のある者、また自ら財産を管理できない者の財産にも

義務である。彼らの後見人は、彼らに代わってそれを支払う義務がある。‘ウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）は言った。
孤児の財産を用いて商いを行え。さもなくば、ザカーがそれを減らしてしまうであろう。[4]
また、‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は、自らが保護していた孤児たちを監督し、彼らの財産からザカーを支払っていた。[5]

[1] ［アル＝マアーリジュ章：24–25］
[2] アブー・ダーウード（1624）およびアッ＝ティルミズィー（678）によって伝承された。
[3] ［アッ＝タウバ章：60］
[4] ‘アブドゥッラッザーク（6773）によって伝承された。
[5] マーリク（1/251）によって伝承された。

6. ザカーの年を西暦（グレゴリオ暦）によって計算すること。
ザカーはヒジュラ暦の太陰暦によって計算することが義務である。なぜなら、これこそがイスラームにおいて定められた時間の基準だからである。至高なるアッラーは仰せられた。
彼らは新月についてあなたに尋ねる。言え。それは人々のため、またハッジのための時のしるしである。[1]
7. ザカーを嫌々ながら支払うこと。
ムスリムは、満ち足りた心をもって喜んでザカーを支払い、その義務を信じ、主に近づくことを求めてそれを行うべきである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
三つのことを行う者は、信仰の甘美さを味わった者である。すなわち、アッラー以外に真に礼拝されるべきものはないと知りつつ、ただアッラーのみを礼拝すること、毎年自らの財産から喜んでザカーを支払うこと、そして自分の魂が好むものの中から施すことである。[2]

[1] ［アル＝バカラ章：189］
[2] アブー・ダーウード（1582）およびアル＝バイハキー（4/95）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御逝去

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が別れのハッジ（Ḥajj）から帰還された後、ズル＝ヒッジャ月、ムハッラム月、そしてサファル月の残りの期間をマディーナで過ごされた。その後、ラビーウ・アル＝アウワル月の初日である木曜日に、彼の病が始まった。そのとき彼はマイムーナ（アッラーの御満悦あれ）の家におられた。

彼の痛みはその高貴なる頭にありながらも、彼は妻たちの家の間を行き来し続けていた。しかし、それが次第に困難となったため、‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）の家で看護されることを望み、彼女たちに許しを求めた。彼女たちはそれを許可した。そして彼の病は十二日間続いた。

彼の逝去の四日前にあたる木曜日の夜、病は激しくなり、身体には熱があり、何度も気を失われた。ビラール（アッラーの御満悦あれ）は礼拝の時刻を知らせに来ると、彼は言われた。
アブー・バクルに人々の礼拝を導かせなさい。

すると言われた。
アッラーの使徒よ、アブー・バクルは心の柔らかな人であり、あなたの場所に立てば、人々は彼の声を聞き取れないでしょう。

しかし彼はその命令を繰り返された。こうしてアブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）は、その日々の間、人々の礼拝を導いた。[1]

ヒジュラ後十一年、ラビーウ・アル＝アウワル月十二日の月曜日の朝、死の苦悶が彼に訪れ、その最期の兆しが明らかになった。‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は彼の傍らにおり、彼は彼女にもたれかかっていた。彼は指を上げ、視線を天へ向けていた。すると彼女は彼がこう言われるのを聞いた。

おおアッラーよ、私を赦し、私に慈悲を与え、そして最も高き仲間（al-Rafīq al-Aʿlā）へと私を加えたまえ。

彼はこれを三度繰り返された。[2]
その後、彼の主は彼を召され、最も高き仲間のもとへと迎え入れられた。それは‘アーイシャの家において、彼女の膝の上でのことであった。彼は六十三歳であった。

彼の逝去という災難は極めて大きく、その試練は厳しく、事態は重大であった。ムスリムたちは深く動揺したが、やがてアブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）が立ち上がり、次の有名な言葉で人々に語りかけた。

ムハンマドを礼拝していた者は知るがよい。ムハンマドはすでに逝去した。しかしアッラーを礼拝していた者は知るがよい。アッラーは永遠に生きておられ、決して死ぬことはない。

そして彼は次の御言葉を朗誦した。
ムハンマドはただ一人の使徒にすぎない。彼以前にも多くの使徒たちが過ぎ去った。もし彼が死ぬか、あるいは殺されたならば、あなたがたは踵を返すのか。誰であれ踵を返したとしても、決してアッラーに害を与えることはない。アッラーは感謝する者たちに報われる。[3]

人々はまるでこの節をそれまで聞いたことがなかったかのようであり、すべての者がそれを朗誦し始めた。[4]

その後、ムスリムたちはバヌー・サー‘イダのサキーファに向かい、そこで集まって協議し、アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）をムスリムたちのカリフとして任命することに同意した。彼らはそこで彼に忠誠の誓約（バイ‘ア）を行い、その後、人々はミンバルにおいて一般の誓約を彼に捧げた。

[1] アル＝ブハーリー（713）およびムスリム（418）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（5674）およびムスリム（2444）によって伝承された。
[3] ［アーリ・イムラーン章：144］
[4] アル＝ブハーリー（1242）によって伝承された。

教友たちはその後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の御遺体の準備を始めた。彼は衣服を着たまま洗浄され[1]、その洗浄は、彼の叔父アル＝‘アッバース、その息子クサム、‘アリー・イブン・アビー・ターリブ、ウサーマ・イブン・ザイド、そしてシュクラーン（彼らすべてにアッラーの御満悦あれ）によって行われた[2]。
彼は、白いイエメン製の綿布三枚で包まれ、その中にはシャツやターバンは含まれていなかった[3]。教友たちは、彼の偉大な地位ゆえに、個別に彼のための葬礼の礼拝を行った。まず男たちが、その後に女たちが、そして子どもたちが行ったのである。
彼は火曜日に埋葬され、彼が逝去されたまさにその場所、すなわち‘アーイシャ（彼女にアッラーの御満悦あれ）の部屋に葬られた[4]。
アッラーの祝福と豊かな平安が、彼の上に、また彼の家族と教友たちの上にありますように。そして、アッラーが彼に対し、彼の共同体のための預言者として与えられる最良の報奨、また彼の呼びかけと使命のための使徒として与えられる最良の報奨をもって、私たちに代わって報いてくださいますように。

[1] アブー・ダーウード（3141）によって伝承された。
[2] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（8/120、8/132）。
[3] アル＝ブハーリー（1273）およびムスリム（941）によって伝承された。
[4] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（8/132）。

土曜日：サハーバモジュール ― サアド・イブン・ムʿアーズ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、サアド・イブン・ムʿアーズ・イブン・アン＝ヌʿマーン・イブン・イムリʾ・アル＝カイス・イブン・ザイド・イブン・ʿアブド・アル＝アシュハルであり、アブー・ʿアムルの通称で知られている。彼は、預言者職の開始の九年前にマディーナにおいて誕生した。

❖ 生涯と徳：

サアド（アッラーの御満悦あれ）は、背が高く、肌は色白で、顔立ちも髭も美しい人物であり、アル＝アウス族の長であった。彼はその民の中で非常に高い地位を有していた。
彼がイスラームを受け入れると、自らの部族の中にそれを広める決意を固めた。彼は人々の前に立ち、次のように言った。
おお、バヌー・ʿアブド・アル＝アシュハルよ。あなたがたは、私があなたがたの中でどのような立場にあるかを知っているか。
彼らは答えた。
あなたは我らの長であり、我らの中で最も徳高く、最も判断において信頼される者です。
すると彼は言った。
あなたがたがアッラーとその使徒を信じるまで、あなたがたの男女は私にとって禁じられる。
すると、バヌー・ʿアブド・アル＝アシュハルの住居の中で、イスラームを受け入れない者は一人の男も女も残らなかった。[1]

サアド（アッラーの御満悦あれ）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に多くの戦いに参加した。その中でも特に著名なのが、バドルの戦いとアル＝ハンダクの戦いである。

彼の最も著名な立場の一つは、アル＝ハンダクの戦いにおいてムスリムとの盟約を破り、クライシュと同盟したバヌー・クライザに対する裁定であった。アッラーはムスリムに彼らに対する勝利を授けられたため、彼らは和平を求め、ジャーヒリーヤの時代に彼らの同盟者であったサアド・イブン・ムʿアーズの裁定に満足した。

そこで預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はサアドを呼び寄せた。彼は戦いで受けた傷のため、ロバに乗せられて運ばれて来た。道中、人々は彼に言った。
あなたの同盟者たちに善くしてやりなさい。アッラーの使徒は、彼らに対する裁定者としてあなたを任命されたのだから。

彼が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の前に到着し、座らせられると、彼は次のように宣言した。

彼らに対する私の裁定は、戦うことのできる者は殺され、女と子供は捕虜とされることである。

すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
あなたは王の裁定によって裁いた。[2]

❖ 御逝去：

バヌー・クライザに関する裁定の後、サアド（アッラーの御満悦あれ）は次のように祈願した。
おおアッラーよ。あなたが私たちと彼らとの戦いを終わらせられたことを私は信じています。もしクライシュとの戦いがまだ残っているならば、あなたの御道のために彼らと戦うことができるよう、私を生かしておいてください。しかし、もし戦いを終わらせられたのであれば、この傷を裂けさせ、そこから私の死を与えてください。

すると彼の傷口は裂け、彼はヒジュラ後五年に逝去した。アッラーの御満悦あれ。[3]

[1] Siyar A'lām al-Nubalā'（1/280）。
[2] アル＝ブハーリー（4121）およびムスリム（1768）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（4122）およびムスリム（1769）によって伝承された。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼の遺体の洗浄（グスル）に立ち会われ、次のように言われた。
これは、玉座（アル＝‘アルシュ）が揺れ動き、天の門々が彼のために開かれ、これまで一度も地上に降りたことのなかった七万の天使たちが、その葬儀に立ち会った正しき僕である。[4]

[4] アン＝ナサーイー（2055）によって伝承された。

知識テスト — 第 40 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アル＝アラーイク（al-Arāʾik）とは何を意味するか。	[a] 絹の衣服[b] クッション[c] 布や覆いで飾られた長椅子	c
ハディース	人が植えた作物から動物が食べた場合：	[a] その利益と報酬は失われる[b] 利益はあるが報酬はない[c] それは彼にとって施しとして数えられる	c
アキーダ	崇拝行為に関する基本原則は何か。	[a] 禁止[b] 許可[c] 忌避	a
フィクフ	ザカーは何に基づいて計算されなければならないか。	[a] 太陽暦[b] 太陰暦[c] いずれも許される	b
スィーラ	預言者の病は、誰の家におられるときに始まったか。	[a] ハフサ（アッラーの御満悦あれ）[b] ウンム・サラマ（アッラーの御満悦あれ）[c] マイムーナ（アッラーの御満悦あれ）	c
サハーバ	サアド・イブン・ムʿアーズ（アッラーの御満悦あれ）の最も有名な立場の一つは何か。	[a] バヌー・クライザに対する裁定[b] ウフドの戦いにおける預言者の擁護[c] アル＝アフザーブの日における勇敢さ	a

41 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝インフィタール章

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا السَّمَاءُ انْفَطَرَتْ (1) وَإِذَا الْكَوَاكِبُ انْتَثَرَتْ (2) وَإِذَا الْبِحَارُ فُجِّرَتْ (3) وَإِذَا الْقُبُورُ بُعْثِرَتْ (4) عَلِمَتْ نَفْسٌ مَا قَدَّمَتْ وَأَخَّرَتْ (5) يَا أَيُّهَا الْإِنْسَانُ مَا غَرَّكَ بِرَبِّكَ الْكَرِيمِ (6) الَّذِي خَلَقَكَ فَسَوَّاكَ فَعَدَلَكَ (7) فِي أَيِّ صُورَةٍ مَا شَاءَ رَكَّبَكَ (8) كَلَّا بَلْ تُكَذِّبُونَ بِالدِّينِ (9) وَإِنَّ عَلَيْكُمْ لَحَافِظِينَ (10) كِرَامًا كَاتِبِينَ (11) يَعْلَمُونَ مَا تَفْعَلُونَ (12) إِنَّ الْأَبْرَارَ لَفِي نَعِيمٍ (13) وَإِنَّ الْفُجَّارَ لَفِي جَحِيمٍ (14) يَصْلَوْنَهَا يَوْمَ الدِّينِ (15) وَمَا هُمْ عَنْهَا بِغَائِبِينَ (16) وَمَا أَدْرَاكَ مَا يَوْمُ الدِّينِ (17) ثُمَّ مَا أَدْرَاكَ مَا يَوْمُ الدِّينِ (18) يَوْمَ لَا تَمْلِكُ نَفْسٌ لِنَفْسٍ شَيْئًا وَالْأَمْرُ يَوْمَئِذٍ لِلَّهِ (19)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。
天が裂けるとき、* 星々が散り落ちるとき、* 海が溢れ出るとき、* 墓が掘り返されるとき、* そのとき、魂は自らが先に送り出したものと後に残したものを知るであろう。* 人よ、あなたの寛大なる主について、あなたを欺いたものは何であったのか。* その御方は、あなたを創造し、形を整え、均衡を与えられた。* 望まれたどのような形にも、あなたを組み立てられた。* いや、あなたがたは報いを否定している。* だが確かに、あなたがたの上には見守る者たちがいる。* 高貴で記録する者たちであり、* 彼らはあなたがたの行うことをすべて知っている。* まことに、正しき者たちは至福の中にあり、* また、邪悪な者たちは業火の中にある。* 彼らは報いの日にそこへ入り、燃やされる。* そして、そこから離れることは決してない。* そして、報いの日が何であるかを、あなたに理解させるものは何か。* さらに、報いの日が何であるかを、あなたに理解させるものは何か。* その日は、いかなる魂も他の魂のために何の力も持たない日であり、その日の命令はすべてアッラーに属する。

❖ スーラのテーマ：

人類に対し、欺きに陥り復活の日を怠ることへの警告。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
انْفَطَرَتْ	infaṭarat	裂けて分かれること
انْتَثَرَتْ	intatharat	散らばって落ちること
فَجَرَتْ	fujjirat	噴き出して溢れ出ること
بُعْثِرَتْ	buʿthirat	その中にある者の復活によって掘り返されること
مَا غَرَّكَ بِرَبِّكَ	mā gharraka birabbik	何があなたを欺き、主への不従順へと誘ったのか
فَسَوَّاكَ	fasawwāk	身体と四肢を整え、完全な姿にした
فَعَدَلَكَ	faʿadalak	均衡の取れた姿に整えた
بِالدِّينِ	biddīn	報いと審判
لَحَافِظِينَ	laḥāfiẓīn	あなたの行為を記録するために任命された天使たち
بِغَائِبِينَ	bighāʾibīn	彼らは決して火から離れることもなく、そこで死ぬこともない

❖ 全体的な意味：

アル＝インフィタールはマッカで啓示された章であり、復活の日とその恐怖の光景を描写している。すなわち、天が裂け、星が散り、海が溢れ出し、墓が掘り返されることである。その日、人々は墓から立ち上がりアッラーの御前に立たされ、すべての魂は自らが行った善と悪の行いと対面する。その後、人類に対する厳しい叱責が続く。すなわち、あなたを最も完全な姿で創造し、健全で均衡の取れた形を与えられた主への不従順へと、いったい何があなたを欺いたのか、ということである。しかしそれにもかかわらず、人々は審判を否定し続ける。だがアッラーは、彼らの上に高貴な天使たちを置き、彼らのすべての行いと言葉を記録させている。そしてこれらの記録は審判の日に提示されるのである。正しき者たちは楽園において永遠の至福を享受し、邪悪な者たちは燃え盛る地獄へ投げ込まれ、そこから決して逃れることはない。その日、いかなる魂も他の魂に利益をもたらす力を持たず、すべての事柄はただアッラーの命令の下にある。

❖ このスーラから得られる益：

1. アッラーが人間を最も優れ、最も完全な姿で創造されたことによる人類への栄誉。
2. 復活と報いを忘れることへの警告。なぜなら、それは不信仰と腐敗の根源であるからである。

3. アッラーの寛大さや懲罰の遅れによって欺かれることは、大きな危険であるという想起。
4. すべての行いが記録され、審判の日に各しもべへ提示されるという想起。

月曜日：ハディース モジュール — 善き品性の徳

アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼女は言った。私はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が次のように言われるのを聞いた。
まことに、信者はその善き品性によって、昼に断食し夜に立って礼拝する者の位に到達する。[1]

❖ 解説：

善き品性を身に飾ることは、アッラーの御満悦と御近接を得るための、最も偉大な礼拝行為の一つである。それはしもべを、来世において預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の最も近くに座る者たちの中に入れ、夜を任意礼拝に費やし、昼を任意の断食に費やす者の位へと引き上げる。これは、人々に対して善き品性をもって接する者すなわち、彼らを害することを控え、優しい言葉を語り、穏やかさと慈しみをもって接し、明るい顔で挨拶し、寛大に施し、気質の違いにもかかわらず彼らの害に忍耐する者が、実際には魂の多くの傾向と絶えず闘っているからである。これは、絶えず断食し礼拝する者が経験するものと似た労苦と困難を伴う。ゆえに、彼らは位と報酬において同等となるのである。

❖ このハディースから得られる益：

1. ムスリムは高貴で優れた礼儀を身に飾らなければならない。そうすることで、アッラーは人々の間における愛と受容、来世における預言者（アッラーの祝福と平安あれ）への近さ、そして断食し礼拝する者の位の達成を彼に授けられる。
2. 粗暴な言葉、しかめ面、乱暴な振る舞いのような悪い品性は、この世において人々の憎しみをもたらし、来世において預言者（アッラーの祝福と平安あれ）から遠ざけられる結果となる。

---

[1] アブー・ダーウード（4798）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 禁じられたタバッルク（祝福を求めること）の形態

禁じられたタバッルクとは、それを許可する根拠が存在しないにもかかわらず、祝福（バラカ）を求めるあらゆる行為を指す。これには多くの例があり、その中には次のようなものが含まれる。

1. 人そのものによるタバッルク
すなわち、人の身体に触れたり、それによって自分の身体を拭ったりして祝福を求めることである。これは、それを許可する法的根拠が存在しないため、許されない。シャリーアが許可したのは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を通じて祝福を求めることのみであり、それも彼の存命中に限られていた。

真正な伝承によれば、教友たちは彼の髪、唾液、ウドゥー'（小浄）の水、汗、器具、衣服から祝福を求めていた。なぜなら、アッラーがそれらの中にバラカ（祝福）を置かれたからである。
しかし、この種のタバッルクは彼（アッラーの祝福と平安あれ）の逝去とともに終わった。そして長い年月の経過の後、これらのいずれかが現存していることを確証することは、もはや不可能となっている。

また、他の正しき人々については、その人物自身やその遺物を通じて祝福を求めることは許されない。その理由は次のとおりである。

1. それを許可する証拠が存在せず、したがって原則の法的判断は禁止のままである。
2. 教友たち（アッラーが彼らに満足されますように）は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）以外の誰に対しても、このようなタバッルクを行わなかった。
3. シルク（多神崇拝）へ至る手段を遮断するためである。なぜなら、正しき者たちの遺物によって祝福を求めることは、彼らに対する過度の崇拝へと導く恐れがあるからである。

シャイフ・'アブドゥル＝'アズィーズ・イブン・バーズ（アッラーが彼に慈悲を与えられますように）は次のように述べている。
正しき者たちの遺物によって祝福を求めることは許されない。それは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に限ってのみ許される。なぜなら、アッラーは彼の身体と、彼に触れたものの中にバラカを置かれたからである。[1]

しかし、正しき人々に同行することによって祝福を求めることは許される。なぜなら、それによって多くの祝福が得られるからである。例えば、彼らの知識から利益を得ること、彼らの祈願（ドゥアー'）にあずかること、彼らの教訓から学ぶこと、そして彼らと共にズィクル（アッラーの想起）の集いに参加する徳を得ることなどである。

2. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が歩いたり、通り過ぎたり、座ったりした場所によるタバッルク
例えば、ヒラー山やサウル山に登ること、あるいはウフド山やそれに類する場所を訪れることなどを、祝福を求める目的で行うことである。

しかし、これらの場所において祝福を求めたり、祈りを行ったり、あるいはその目的で訪問することを正当化する証拠は存在しない。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の時代にも、また正統カリフたちの時代にも確認されていない。

むしろ、‘ウマル・イブン・アル＝カッターブ（アッラーの御満悦あれ）は、人々が祝福を求めるようになったのを見て、フダイビーヤで誓約が行われた木を切り倒したのである。[2]

[1] マジュムー‘・アル＝ファターワー（7/45）
[2] イブン・アビー・シャイバ（2/73）およびイブン・サアドアッ＝タバカート（2/100）によって伝承された。

1. 預言者の墓によるタバッルク

すなわち、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の墓によって祝福を求めることであり、例えばその墓を目的として特別に旅をすること、あるいはそこで禁じられた行為を行うことなどが含まれる。たとえば、彼に祈願（ドゥアー）を向けること、彼に祈りや執り成しを求めること、墓の壁を拭ったり口づけしたりすること、礼拝の際に意図的にその墓の方を向くこと、またその場所でクルアーンの朗誦やズィクル（アッラーの想起）などの礼拝行為を行うことである。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

アッラーよ、私の墓を崇拝される偶像としてしまわれませんように。[1]

また彼は言われた。

旅を目的として出かけてよいのは、三つのモスク以外にはない。すなわち、聖なるモスク（アル＝マスジド・アル＝ハラーム）、この私のモスク、そしてアル＝マスジド・アル＝アクサーである。[2]

[1] アル＝ブハーリー（437）およびムスリム（530）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（1189）およびムスリム（1397）によって伝承された。

水曜日：フィクフモジュール — 推奨されるサダカ（任意の施し）

❖ 施しの徳：

イスラームの美しさの一つは、義務であるザカーに加えて、推奨される施し（任意の施し）を定めていることである。これはあらゆる時において行うことができ、また与えることが容易なものであれば、いかなるものであっても有効である。この施しの偉大な徳と報酬については、多くの証拠が伝えられている。

• 至高なるアッラーは仰せられた。
しかし、それを施しとして免除するならば、それはあなたがたにとってより良い。もしあなたがたが知っているならば。[1]

• また至高なる御方は仰せられた。
誰がアッラーに対して良き貸付をする者であろうか。そうすれば、アッラーはそれを彼のために何倍にも増やされるであろう。アッラーは与えを制限し、また広げられる。そしてあなたがたはかれのもとへ帰されるのである。[2]

• 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
施しは、水が火を消すように罪を消し去る。[3]

• また彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
誰であれ、正当な収入から施しをする者がいればたとえそれが一粒のナツメヤシであってもアッラーはそれを御自身の右手で受け取られ、それを養い育てられる。ちょうどあなたがたが自分の子馬を育てるように。それはやがて山のように、あるいはそれ以上の大きさとなるのである。[4]

❖ 望ましい施しの形：

1. 密かに行う施しは、公に行う施しよりも優れている。
なぜなら、至高なるアッラーは仰せられたからである。
しかし、それを隠して貧しい者に与えるならば、それはあなたがたにとってより良い。[5]

それは見せびらかし（riya）からより遠ざかるからである。ただし、それを公にすることによってより大きな利益が得られ、また見せびらかしの恐れがない場合は例外である。

2. 健康なときの施しは、病気のときの施しよりも優れている。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、最も大きな報酬を持つ施しは何かと尋ねられたとき、彼は言われた。
それは、あなたが健康であり、財を惜しみつつも長生きを望み、貧困を恐れているときに与える施しである。[6]

3．徳の高い時や場所における施しは、より優れている。
伝えられているところによれば、
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、人々の中で最も善において寛大であり、とりわけラマダーンの月において最も寛大であった。[7]

4．必要が強い時の施しは、より優れている。
至高なるアッラーは仰せられた。
あるいは激しい飢えの日に食べ物を与えること。近しい孤児、あるいは極度の困窮にある貧者に。[8]

[1]［アル＝バカラ章：280］
[2]［アル＝バカラ章：245］
[3]アッ＝ティルミズィー（2616）によって伝承された。
[4]アル＝ブハーリー（1410）およびムスリム（1014）によって伝承された。
[5]［アル＝バカラ章：271］
[6]アル＝ブハーリー（1419）およびムスリム（1032）によって伝承された。
[7]アル＝ブハーリー（3220）およびムスリム（2308）によって伝承された。
[8]［アル＝バラド章：14–16］

5．親族や隣人への施しは、遠い人々への施しよりも優れている。
至高なるアッラーは、親族に与えることを命じて仰せられた。
そして、近親者にその権利を与えよ。[9]
また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
貧しい者に対するあなたの施しは一つの施しである。しかし、それが親族に対するものであれば、それは二つとなる。すなわち施しと、親族関係を保つことである。[10]

[9]［アル＝イスラー章：26］
[10] アブー・ダーウード（2839）およびアッ＝ティルミズィー（658）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — 預言者性のしるし（アッラーの祝福と平安あれ）

彼の預言者性を証明する数々の証拠について語るならば、それだけで無数の頁と多くの書物を満たすほどである。これは、すべての預言者に対するアッラーの慣わしによるものである。すなわち、アッラーは彼らを**奇跡（ムウジザ）によって支えられるのである。アッラーは、いかなる預言者をも、彼の使命を証明し、彼に反対する者たちに対する挑戦となり、彼の真実性を示すしるしを与えずして遣わされることはなかった。我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の預言者性の証拠について、学者たちがまとめたものは千を超える**と言われている。

その中で**最も偉大なものは高貴なるクルアーン**である。虚偽はその前からも後ろからも近づくことができない。それは、**英知に満ち、讃美されるべき御方からの啓示**である。これは最も偉大な奇跡であり、最も広大なしるしであり、最も明白な証拠である。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
いかなる預言者も、人々が彼を信じるためのしるしを与えられずに遣わされたことはない。私に与えられたものは、アッラーが私に啓示された啓示である。ゆえに私は、復活の日において最も多くの信徒を持つことを望んでいる。[1]

クルアーンの奇跡性は**二つの側面**において現れている。すなわち、**その意味**と**その表現**である。

❖ **その意味において：**
そこには完全な調和、英知、慈悲、利益、良き結末、最高の目的の達成、そしてあらゆる腐敗の排除が含まれている。
それはすべての善と徳を包含し、あらゆる悪と罪を禁じている。すなわち、アッラーの唯一性を命じてシルク（多神崇拝）を禁じ、真実を命じて虚偽を禁じ、公正を命じて不正を禁じ、信頼を守ることを命じて裏切りを禁じ、約束を守ることを命じて背信を禁じ、両親への善行を命じて不孝を禁じ、親族関係を保つことを命じてそれを断つことを禁じ、また隣人への善い関係を命じてその反対を禁じている。

❖ **その言葉において：**
それは雄弁さと明瞭な言語表現の頂点を示している。人がアラビア語の知識を深めれば深めるほど、クルアーンに対する畏敬は増していく。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、このクルアーンによって当時のすべての雄弁家たちに挑戦された。彼らは彼に対して強い敵意を抱き、彼を否定することを切望していたにもかかわらず、このクルアーンに似たものを生み出すことはできなかった。そして彼は、**彼らが決してそれを成し得ない**ことを告げられたのである。

至高なるアッラーは仰せられた。
あるいは彼らは彼がそれを作り上げたと言うのか。いや、彼らは信じていないのである。ならば彼らに、もし真実であるならば、それと同様の言葉をもたらさせよ。[2]

さらにアッラーは、人間とジンのすべてに挑戦して仰せられた。
言え。もし人間とジンがこのクルアーンのようなものを作り出すために集まったとしても、たとえ互いに助け合ったとしても、そのようなものを作り出すことはできない。[3]

さらに、彼らに**それに似た十章**をもって来るよう挑戦された。
あるいは彼らは彼がそれを作り上げたと言うのか。言え。それならば、それに似た十章を作り上げて持って来なさい。そしてアッラー以外であなたがたが呼び出せる者を呼び出すがよい。もしあなたがたが真実であるならば。[4]

---

[1] アル＝ブハーリー（7274）およびムスリム（152）によって伝承された。
[2] ［アッ＝トゥール章：33–34］
[3] ［アル＝イスラー章：88］
[4] ［フード章：13］

彼らがそれに失敗したとき、アッラーはただ一つの章によって彼らに挑戦された。

あるいは彼らは彼がそれを作り上げたと言うのか。言え。それならば、それに似た一つのスーラをもたらしなさい。そして、もしあなたがたが真実であるならば、アッラー以外に呼び求めることのできる者を呼びなさい。[1]

これらすべての挑戦は、最初に**マッカ**においてなされた。その後、**マディーナ**において、アッラーはこの挑戦を改めて示され、将来における否定を表す語ラン（lan）を加えられた。これは、彼らが**いかなる時代においても決してそれを成し得ない**ことを明確に示すものである。

アッラーは仰せられた。

もしあなたがたが、われらがわれらのしもべに下したものについて疑いを抱いているならば、それと同様の一つのスーラをもたらしなさい。そして、もしあなたがたが真実であるならば、アッラー以外のあなたがたの証人を呼びなさい。
しかし、もしそれを成し得ないならばそしてあなたがたは決して成し得ないであろう人間と石を燃料とする火を恐れよ。それは不信仰者のために用意されている。[2]

このような挑戦は、自らがもたらしたものが**万有の主の御言葉であり、被造物のいかなる言葉とも異なる**という確信を持つ者だけが行うことのできるものである。[3]

---

[1] ［ユーヌス章：38］
[2] ［アル＝バカラ章：23–24］
[3] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（8/540）

土曜日：サハーバモジュール — サルマーン・アル＝ファーリスィー（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は**サルマーン・アル＝ファーリスィー**であり、また**アブー・'アブドゥッラー**としても知られている。彼の出自はペルシアであり、イスラーム以前の名はルーズバフ・イブン・ブダフシャーンであった。

❖ 生涯と徳：

彼はサルマーン・アル＝ハイル（善のサルマーン）として知られ、ペルシア人の中で最初にイスラームを受け入れた者の一人であり、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の解放奴隷であった。彼は預言者に随行し、彼に仕え、また彼から多くの伝承を語り伝えた。

彼（アッラーの御満悦あれ）は背が高く、体格が強く、知性に優れ、意志が堅固で、判断力に富み、神の法に関する豊かな知識を有していた。彼は禁欲的な生活を送り、現世の享楽を退け、礼拝に身を捧げていた。彼が公的財庫（バイトゥル・マール）からの給与それは五千であったを受け取るときは、常にそれをすべて施しとして与えた。彼は自らの手で働き[1]、次のように言っていた。
私は一本のディルハムでナツメヤシの葉を買い、それを編んで三ディルハムで売る。そして一ディルハムを材料のために戻し、一ディルハムを家族のために使い、もう一ディルハムを施しとして与えるのである。[2]

彼（アッラーの御満悦あれ）は、真理を求めるその特異な物語によっても広く知られている。彼は自らの民の宗教であった拝火教（ゾロアスター教）を離れ、真の宗教を求めて多くの地を旅した。彼は啓典の民の学者たちを訪ね歩き、旅の苦難と裏切りに耐えながら探求を続けた。やがてその中の一人が、アラブの地に現れる預言者について彼に語った。

そこでサルマーンは、**カルブ族**の一団に、アラブの地へ連れて行くよう依頼し、その代価として自らの牛や羊を与えた。彼らは同意したが、後に彼を裏切り、**ワーディー・アル＝クラー**のユダヤ人に売り渡した。さらにその後、**バヌー・クライザ族**の別のユダヤ人が彼を買い取り、彼を自らの地である**マディーナ**へ連れて行った。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が**マディーナ**へヒジュラされたとき、サルマーンは彼のことを聞き、急いで彼のもとへ向かい、彼を信じた[3]。彼は奴隷の身であったため、**バドルの戦い**や**ウフドの戦い**には参加できなかったが、後に自由の契約（ムカータバ）を結び、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がその達成を助けられた。

彼が預言者とともに参加した最初の戦いは、ハンダクの戦い（塹壕の戦い）であった。この戦いにおいて、塹壕を掘るという彼の卓越した提案は大いに功績を示した。その後、彼は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に残りの戦いにも参加した。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、あるときサルマーンの上に手を置き、彼の信仰と力を称賛して次のように言われた。
もし信仰がプレアデス星団にあったとしても、これらの人々の中の者たちが必ずそれに到達するであろう。[4]

[1] *Usd al-Ghābah*（2/420）。
[2] アッ＝Ṭabarānī（6110）によって伝承された。
[3] アフマド（23737）によって伝承された。
[4] アル＝ブハーリー（4897）およびムスリム（2546）によって伝承された。

サルマーン（アッラーの御満悦あれ）が病に倒れたとき、サアド・イブン・マーリクはクーファから彼を見舞うために旅をした。彼が到着すると、サルマーンは臨終の床にあり、涙を流していた。サアドは言った。
なぜ泣いているのですか、我が兄弟よ。あなたはアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）との同伴を覚えていないのですか。あなたが行ってきた善き行いを覚えていないのですか。

サルマーンは答えた。
アッラーに誓って言うが、私はこの現世を愛しているから泣いているのでもなく、アッラーに会うことを嫌って泣いているのでもない。

サアドは言った。
それでは、なぜ八十年を生きた後に泣いているのですか。

彼は言った。
私の愛する御方が私に一つの約束を残されたからである。彼は言われた。
あなたがたのうちの一人がこの現世から持つべき備えは、旅人（騎乗者）の備えのようなものであるべきだ。
そして私は、私たちがそれを超えてしまったのではないかと恐れているのだ。[5]

❖ 逝去：:

彼（アッラーの御満悦あれ）は、‘ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）のカリフ在任中、アル＝マダーインにおいて、およそ八十歳で逝去した。

[1] アフマド（5/438）によって伝承された。

知識テスト — 第 41 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	infaṭarat（インファタラト）の意味は何か。	[a] 裂け開いた[b] 落ちた[c] ひっくり返された	a
ハディース	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、信者が良い品性によってどの階位に到達すると説明されたか。	[a] 殉教者[b] 昼に断食し夜に礼拝する者[c] 真実なる者（アル＝Ṣiddī クーン）	b
アキーダ	次のうち、禁じられたタバッルク（祝福を求める行為）の例はどれか。	[a] 教友たちが預言者の髪から祝福を求めること[b] クルアーンの朗読によって祝福を求めること[c] 人に触れて祝福を求めること	c
フィクフ	喜捨（慈善）の徳の一つは、それが次のどれであるか。	[a] 罪と競い合う[b] 罪を弱める[c] 罪を消し去る	c
スィーラ	学者たちが我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）のためにまとめた預言の証拠は、どれを超えているか。	[a] 五十の証拠[b] 百の証拠[c] 千の証拠	c
サハーバ	サルマーン・アル＝ファーリスィー（アッラーの御満悦あれ）が最初に参加した戦いはどれか。	[a] ウフド[b] ハンダク（塹壕の戦い）[c] タブーク	b

42 週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アッ＝タクウィール章(前半)

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا الشَّمْسُ كُوِّرَتْ (1) وَإِذَا النُّجُومُ انْكَدَرَتْ (2) وَإِذَا الْجِبَالُ سُيِّرَتْ (3) وَإِذَا الْعِشَارُ عُطِّلَتْ (4) وَإِذَا الْوُحُوشُ حُشِرَتْ (5) وَإِذَا الْبِحَارُ سُجِّرَتْ (6) وَإِذَا النُّفُوسُ زُوِّجَتْ (7) وَإِذَا الْمَوْءُودَةُ سُئِلَتْ (8) بِأَيِّ ذَنْبٍ قُتِلَتْ (9) وَإِذَا الصُّحُفُ نُشِرَتْ (10) وَإِذَا السَّمَاءُ كُشِطَتْ (11) وَإِذَا الْجَحِيمُ سُعِّرَتْ (12) وَإِذَا الْجَنَّةُ أُزْلِفَتْ (13) عَلِمَتْ نَفْسٌ مَا أَحْضَرَتْ (14)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。太陽が巻き上げられるとき。星々が落ち、その輝きを失うとき。山々が動かされるとき。十か月の妊娠した雌ラクダが顧みられなくなるとき。野獣たちが集められるとき。海が燃え上がるとき。魂がそれぞれ組み合わされるとき。生き埋めにされた女児が問われるとき。いかなる罪のために殺されたのかと。行為の書が広げられるとき。天が剥ぎ取られるとき。地獄が燃え立たせられるとき。楽園が近づけられるとき。そのとき、すべての魂は自らが差し出したものを知るであろう。

❖ このスーラの徳：

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。復活の日を、まるで自分の目で見ているかのように望む者は、太陽が巻き上げられるとき、そして 天が裂かれるとき を朗誦しなさい。[1]

❖ スーラのテーマ：

復活の日と、その際に宇宙に起こる激しい変動を魂に思い起こさせること。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
كُوِّرَتْ	kuwwirat	巻き上げられ、その光が失われること
انْكَدَرَتْ	inkadarat	落下し、散り散りになり、その光を失うこと
الْعِشَارُ	al-ʿishār	妊娠した雌ラクダ
عُطِّلَتْ	ʿuṭṭilat	顧みられず、放置されること
حُشِرَتْ	ḥushirat	集められ、互いに報いを受けるために集結させられること
سُجِّرَتْ	sujjirat	燃え上がらせられ、激しい炎となること
زُوِّجَتْ	zuwwijat	同類のもの同士で組み合わされること
الْمَوْءُودَةُ	al-mawʾūdah	生き埋めにされた女児
الصُّحُفُ	al-ṣuḥuf	しもべたちの行為の記録の書

アラビア語	音写	意味
نُشِرَتْ	nushirat	開かれ、広げられること
كُشِطَتْ	kushitat	取り除かれ、剥ぎ取られること
سُعِّرَتْ	su‘‘irat	燃え立たされること
أُزْلِفَتْ	uzlifat	近づけられること
أَحْضَرَتْ	aḥḍarat	善であれ悪であれ、差し出されたもの

[1] アッ＝ティルミズィー（3333）およびアフマド（4806）によって伝承された。

❖ 全体的な意味:

アッ＝タクウィール章はマッカ啓示のスーラである。本章は復活の日の情景を鮮明に描き出し、宇宙がその安定を失い崩壊する様子を示している。そこでは天、地、山々、海、そして野獣たちに何が起こるのかが語られる。
その後、人類は区別され、集められる。すなわち、各人は自らに似た者たちと共に集められるのである。正しい者は正しい者たちと共に、不正な者は不正な者たちと共に集められる。そのとき、すべての魂は自らが行った善悪を知ることになる。

❖ このスーラから得られる益：

1. 復活の日とその恐ろしさを思い起こさせること。理性ある人々が教訓を得て、正しい行いによって備えるためである。
2. アッラーが天使たちを通して、しもべたちのすべての行為を記録しておられることへの想起。すべての人は自らの記録を提示される。
3. 地獄はその民のために準備され燃え立たされ、楽園はその民のために準備され近づけられる。
4. 現世において心が結びつくものは、来世での集まりの原因となる。アッラーは仰せられた。魂が組み合わされるとき。また預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。人は自分が愛する者と共にある。[1]

[1] アル＝ブハーリー（6168）およびムスリム（2640）によって伝承された。

月曜日：ハディース モジュール — 喜捨を勧め、善き言葉を語ることの奨励

‘アディー・イブン・ハーティム（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
あなたがたの中で、自らの主が彼に語りかけられない者は一人もいない。そのとき、彼と主との間には通訳者も仲介者もいない。彼は右を見るが、自分が差し出した行い以外には何も見ない。左を見ても、自分が差し出した行い以外には何も見ない。そして前を見ると、彼の前には火獄があるだけである。ゆえに、たとえ半分のナツメヤシの施しであっても、火獄から身を守りなさい。もしそれすら見いだせないならば、善き言葉によってである。一致して伝承された。[1]

❖ 解説：

このハディースは、極めて偉大な内容を含むものであり、人の理性が完全に把握することも、舌が十分に表現することもできない創造主の偉大さについて言及している。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、すべての被造物が、通訳者も仲介者もなく、直接アッラーによって語りかけられ、自らのすべての行為について問われることを知らせている。

そのとき、しもべには助け手も支持者もなく、財産も子どももない。彼は最初に創造されたときと同じように、ただ一人で来るのである。彼の行為は彼の周囲を取り囲み、右にも左にも現れ、善であれ悪であれ、その報いを求める。そして彼の前には火獄がある。彼は必ずそれに近づくことになるが、そこから救われる道は、アッラーの慈悲、そしてそれに続く、自らが準備した正しい行い以外にはない。

このため、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、たとえ半分のナツメヤシを施すというごく小さな行いであっても、火獄から身を守る手段となることをもって、ウンマに勧められた。もしそれさえも見いだせないならば、善き言葉によってである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 死後の復活の確証。人類は万有の主の前に立ち、自らの行為について裁かれる。
2. 復活の日において、アッラーがしもべたちに語りかけ、問いただされることの確証。
3. 火獄から救われる最も偉大な手段の一つは、人々に善を示すことである。たとえ半分のナツメヤシや善き言葉のような小さなものであってもである。
4. 施しは、たとえ少量であっても火獄から救う原因となる。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。たとえ半分のナツメヤシの施しであっても、火獄から身を守りなさい。
5. 善き言葉とは、人々の心を喜ばせ、胸を開かせるあらゆる言葉を含む。

6. 善き言葉の中には、人々に助言すること、彼らが知らない事柄を教えること、そして宗教的・現世的利益へ導くことが含まれる。

[1] アル＝ブハーリー（6539）およびムスリム（1016）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 許容されるタバッルクの方法

許容されるタバッルクとは、クルアーンとスンナにおいて確立され、命じられている祝福の求め方である。それには多様な形とさまざまな手段が存在し、アッラーの御許しによってそれを実践する者に効果をもたらす。そしてそれは、宗教、糧（リズク）、健康、時間、そして子孫において、その人に益をもたらすものである。

❖ 許容されるタバッルクの例：

第一：アッラーのズィクル（ズィクル）によって祝福を求めること。

例えば、言葉や行為の始めにアッラーの御名を唱えること、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に祝福を送ること、そして昼夜のズィクルである。これらは、最も偉大な祝福の源の一つである。

これらを通して、人は罪の赦しを得、楽園への入園を授かり、困難からの救済を得、糧と子孫の増加を得、さらに病や疾患からの癒やしを得る。

第二：クルアーンとスンナにおいて祝福されたと確証されている場所から、正しい方法で祝福を求めること。

これには次のものが含まれる。アル＝マスジド・アル＝ハラームアル＝マスジド・アン＝ナバウィー、アル＝マスジド・アル＝アクサー、そしてその後に続くすべてのモスクである。

それらから祝福を得る方法は、その中で礼拝を行うこと、ズィクルの集まりに参加すること、クルアーンを朗誦し学ぶこと、そして宗教知識を求めることである。石や土をこすりつけたり、窓や扉に口づけしたりすることによって得られるものではない。

カアバから祝福を求めることは、その周囲をタワーフ（すること、礼拝や祈願においてそれに向かうことによって行われるのであって、衣服をそれにこすりつけたり、そのいかなる部分にしがみついたりすることによってではない。実際、スンナにおいて確証されているように、触れることが許されているのは二つのイエメンの角のみである。[1]

イブン・アル＝カイイム（アッラーの慈悲あれ）は言った。

地上において、口づけしたり触れたりすることが立法として定められ、それによって罪や重荷が消し去られる場所は、黒石とイエメンの角以外には存在しない。[2]

シャイフ・ʿアブドゥル＝ʿアズィーズ・イブン・バーズ（アッラーの慈悲あれ）は言った。

マカーム・イブラーヒームやカアバの壁、あるいはその覆い（キスワ）にこすりつけることは、すべて許されない。これはシャリーアに根拠を持たず、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）もそれを行われなかった。[3]

第三：アッラーが特別な徳と祝福を与えられた、祝福された時において祝福を求めること。

これには次のものが含まれる。ラマダーンライラト・アル＝カドル、夜の最後の三分の一の時間、そしてズル＝ヒッジャの最初の十日間である。

これらの時に善行と礼拝に励む者は、計り知れない善と祝福を得る。

第四：テキスト（クルアーンとスンナ）において祝福され有益であると確証されている飲食物から祝福を求めること。

その中には次のものが含まれる。オリーブ油、蜂蜜、ザムザムの水（Zamzam）、そしてマディーナのアジュワ椰子の実（ʿAjwah）である。

---

[1] アル＝ブハーリー（1606）およびムスリム（1268）によって伝承された。
[2] ザード・アル＝マアード（1/48）。
[3] マジュムーʿ・アル＝ファターワー（17/221）。

水曜日：フィクフ モジュール — 施し（サダカ）の作法

施し（サダカ）には守るべき作法があり、ムスリムはそれらに特に注意を払うべきである。その主なものは次のとおりである。

1. **施しがアッラーのために純粋であること。**
   見せびらかし（リヤー'）や称賛を求める意図から離れ、アッラーのみのために行われることである。そうしてこそ、その偉大な報奨が得られる。至高なるアッラーは仰せられた。
   アッラーの御満悦を求め、自らの魂を強めるためにその財を費やす者のたとえは、高地の園のようである。激しい雨がそれに降れば、その実りは倍となる。たとえ激しい雨が降らなくとも、霧雨でも十分である。アッラーは、あなたがたの行うことをすべて御覧になっている。[1]
2. **善と敬虔の道において頻繁に施しを行うこと。**
   それは財産の増加と祝福の原因となる。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   毎朝、二人の天使が降りてくる。その一人は言う。アッラーよ、施す者にさらに与え給え。もう一人は言う。アッラーよ、与えることを控える者に滅びをもたらし給え。[2]
3. **障害が生じる前に施しを急ぐこと。**
   至高なるアッラーは仰せられた。
   あなたがたに授けたものの中から施しなさい。あなたがたのうちの誰かに死が訪れ、そのとき彼が言う前に。主よ、もし少しの間だけ私を猶予してくだされば、私は施しを行い、正しい者の一人となるでしょうに。[3]
4. **施しが合法で清らかな収入からであること。**
   アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   まことにアッラーは清浄であり、清浄なものしか受け入れられない。[4]
5. **自らが愛する良き財産から施すこと。**
   至高なるアッラーは仰せられた。
   あなたがたが愛するものの中から施さないかぎり、あなたがたは真の善（義）に到達することはない。あなたがたが施すいかなるものも、アッラーはそれをよく御存じである。[5]
6. **傲慢、自惚れ、または自らの施しを大きなものと見なすことを避けること。**
   至高なるアッラーは仰せられた。
   あなたの施しを無に帰してはならない。[6]
7. **施しを無効にするものを避けること。**
   それには、自分の施しを恩着せがましく思い出させたり、相手を傷つけたりすることが含まれる。至高なるアッラーは仰せられた。
   信仰する者よ。あなたがたの施しを、恩着せがましく思い出させることや害を与えることによって無に帰してはならない。人々に見せるためにその財を費やし、アッラーと最後の日を信じない者のようになってはならない。[7]

8. **施しを密かに行うこと。**
シャリーア上の正当な利益がある場合を除いて、それを公にしないことである。至高なるアッラーは仰せられた。
もしあなたがたが施しを公にするなら、それも良い。しかし、それを隠して貧しい者に与えるなら、それはあなたがたにとってより良い。そしてそれによって、あなたがたの罪の一部は償われる。アッラーは、あなたがたの行うことをよく御存じである。[8]

[1] ［アル＝バカラ章：265］
[2] アル＝ブハーリー（1442）、ムスリム（1010）
[3] ［アル＝ムナーフィクーン章：10］
[4] ムスリム（1015）
[5] ［アール・イムラーン章：92］
[6] ［アル＝ムダッスィル章：6］
[7] ［アル＝バカラ章：264］
[8] ［アル＝バカラ章：271］

そしてハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
七つの者が、アッラー以外に影のない日に、アッラーの御影の下に入れられる……。
そして彼はその中の一人として、次の者を挙げられた。
施しを行い、それを密かに行う者で、右手が施したことを左手が知らないほどである者。[1]

[1] アル＝ブハーリー（660）、ムスリム（1031）

木曜日：スィーラモジュール — 彼の預言者性の証拠（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 彼の生い立ちと生涯（アッラーの祝福と平安あれ）：

彼の預言者性の証拠の一つは、彼の清らかな生い立ちと高貴な生涯である。彼は、自らの血統、生活、出入り、そして行動のすべてをよく知る人々の間で育った。人々は彼を常に、真実性と信頼性、正義と成熟、高貴な人格、公正、慎み深さ、親族関係の維持、その他の多くの美徳によって認めていた。これらの徳がすべて一人の人物に集まった者は、彼以外にはいなかった。

彼について非難すべきことは何一つ知られていなかった。彼の言葉においても、行為においても、人格においても同様である。彼が一度でも嘘をついたこと、あるいは不正を行ったこと、または卑しい振る舞いをしたことは知られていない。

その後、預言者としての使命は、彼の完全さの上にさらに完全さを加えるものとなった。彼は高貴な品位の頂点に達し、それは理性ある人々がこれまで見たことのないほどのものであった。また、アッラーへの礼拝、御前での謙遜、御方への呼びかけ（ダアワ）、反対する者たちから受ける害への忍耐、それを耐え忍ぶこと、現世への執着を断ちその装飾から離れること、そしてその困難に耐えることにおいて、最高の状態に達したのである。

彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

私はアッラーのために恐れさせられた。誰も恐れさせられていないときにである。私はアッラーのために害を受けた。誰も害を受けていないときにである。三十日と三十夜が、私とビラールの上に過ぎたが、肝臓を持ついかなる生き物が食べ得る食物も、ビラールが腋の下に隠すことのできたもの以外にはなかった。[1]

理性そのものが理解することである。すなわち、人々に対して一度も嘘をつかなかった者が、四十歳になってから万有の主に対して嘘をつくなどということが、どうしてあり得ようか。

イブン・タイミーヤ（アッラーの慈悲あれ）は言った。

アッラーの使徒の生涯、彼の人格、彼の言葉、そして彼の行為は、彼のしるし、すなわち彼の預言者性の証拠の一部である。彼のシャリーアは彼のしるしであり、彼のウンマもまた彼のしるしである。彼のウンマの知識は彼のしるしであり、彼らの宗教もまた彼のしるしである。さらに、彼の正しき追随者たちに現れる特別な出来事も、彼のしるしの一つである。これらすべては、彼の生涯を熟考することによって明らかとなる。すなわち、彼が生まれたときから使命を授かるまで、そして使命を授かってから逝去するまでの生涯、また彼の血統、土地、出自、背景を熟考することによってである。

彼は地上で最も高貴な血統に属していた。すなわち、アッラーが預言者性と啓典をその子孫の中に置かれた、イブラーヒームの清らかな子孫である。イブラーヒームの後、彼の子孫以外から預言者が遣わされることはなかった。アッラーは彼に二人の息子を授けられた。イスマーイールとイスハークである。両者はトーラーに言及されており、そこではイスマーイールの子孫から現れる出来事の吉報が語られていた。しかし、イスマーイールの子孫の中で、以前の啓典が予告したことを成就した者は、彼以外にはいなかった。

イブラーヒームはイスマーイールの子孫のために祈願し、彼らの中から一人の使徒が遣わされることを求めた。その使徒こそ、クライシュ族から出たムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）であった。クライシュはイブラーヒームの子孫の中でも最も選ばれた者たちであり、彼はその中のバヌー・ハーシム家に属していた。バヌー・ハーシムはクライシュの中でも最も選ばれた家系である。

彼はマッカの出身であった。マッカは諸都市の母と呼ばれ、イブラーヒームが建てた聖なる館（カアバ）の地であり、人々をその巡礼へと招いた地である。

---

[1] アッ＝ティルミズィー（2472）

それ（聖なる館）は、イブラーヒームの時代以来、訪れ続けられてきた。そしてそれは、預言者たちの啓典の中において、最も優れた言葉によって描写されてきたのである。[1]

[1] アル＝ジャワーブ・アッ＝サヒーフ・リマン・バッダラ・ディーン・アル＝マスィーフ（5/437）

土曜日：サハーバモジュール — サラマ・イブン・アル＝アクワ‘（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、サラマ・イブン・‘アムル・イブン・スィナーン・アル＝アスラミーであり、アブー・ムスリムの名で知られていた。
彼はヒジュラの数年前に誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、寛大で正しく、徳高く、勇敢であり、走ることにおいて非常に速く、また弓術にも優れていた。彼はイスラームのために身を捧げ、リドワーンの誓約（バイ‘アト・アル＝リドワーン）に立ち会った。

彼の名は、ズー・カラド遠征の際に広く知られるようになった。そこでは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の雌ラクダが奪われたのである。彼は単身で敵を追跡し、石や矢を投げつけて彼らを疲弊させながら追い続けた。その間、彼は次のように叫んでいた。私はアル＝アクワ‘の子である。今日は敗北の日である！ こうして彼は彼らからラクダを取り戻したのである。[1]

また、**ハイバルの戦い**において彼は脚に傷を負った。そのため預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ行くと、預言者はその傷に三度息を吹きかけられた。それ以降、彼は亡くなるまでその傷に苦しむことはなかった。[2]

さらに、**ムウタの戦い**においても彼は並外れた勇敢さを示した。その日、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。我らの騎兵の中で最も優れた者はアブー・カターダであり、歩兵の中で最も優れた者はサラマ・イブン・アル＝アクワ‘である。 この戦いにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に**歩兵の取り分と騎兵の取り分の両方**を与えられた。[3]

❖ 御逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 74 年にマディーナにおいて、80 歳で逝去した。

---

[1] アル＝ブハーリー（3041）
[2] アル＝ブハーリー（4206）
[3] イブン・ヒッバーン（7175）

知識テスト — 第 42 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィールモジュール	al-ʿishār の意味は何か。	[a] ラバ[b] 妊娠した雌ラクダ[c] 馬	**b**
ハディース	施しをするものを見つけられない者は、何を施すべきか。	[a] 家族の食べ物[b] 借金をして施す[c] 親切な言葉	**c**
アキーダ	啓典において有益であると証明されている飲食物によって祝福を求めることは何と呼ばれるか。	[a] 許容されるタバッルク（tabarruk）[b] 禁じられたタバッルク[c] 忌避されるタバッルク	**a**
フィクフ	施しを無効にするものは何か。	[a] その量が少ないこと[b] 人々がそれを知ること[c] 施しをしたことを思い出させること	**c**
スィーラ	ムハンマド・イブン・ʿアブドゥッラー（アッラーの祝福と平安あれ）の預言者性の証拠の一つは何か。	[a] 彼の共同体の寿命が短いこと[b] 彼の高貴な教友たち[c] 彼の清らかな生い立ちと正しい生涯	**c**
サハーバ	サラマ・イブン・アル＝アクワʿ（アッラーの御満悦あれ）の名が広く知られるようになった出来事は何か。	[a] ズー・カラド遠征[b] ズー・カールの戦い[c] アッ＝ザッラーカの戦い	**a**

43週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — スーラト・アッ＝タクウィール（第 2 部）

فَلَا أُقْسِمُ بِالْخُنَّسِ (15) الْجَوَارِ الْكُنَّسِ (16) وَاللَّيْلِ إِذَا عَسْعَسَ (17) وَالصُّبْحِ إِذَا تَنَفَّسَ (18) إِنَّهُ لَقَوْلُ رَسُولٍ كَرِيمٍ (19) ذِي قُوَّةٍ عِنْدَ ذِي الْعَرْشِ مَكِينٍ (20) مُطَاعٍ ثَمَّ أَمِينٍ (21) وَمَا صَاحِبُكُمْ بِمَجْنُونٍ (22) وَلَقَدْ رَآهُ بِالْأُفُقِ الْمُبِينِ (23) وَمَا هُوَ عَلَى الْغَيْبِ بِضَنِينٍ (24) وَمَا هُوَ بِقَوْلِ شَيْطَانٍ رَجِيمٍ (25) فَأَيْنَ تَذْهَبُونَ (26) إِنْ هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِلْعَالَمِينَ (27) لِمَنْ شَاءَ مِنْكُمْ أَنْ يَسْتَقِيمَ (28) وَمَا تَشَاءُونَ إِلَّا أَنْ يَشَاءَ اللَّهُ رَبُّ الْعَالَمِينَ (29)

それゆえ、わたしは退き隠れる星々にかけて誓う。それらは走り、その軌道を進み、そして隠れる。また、闇をもって迫り来る夜にかけて。そして、息づくように明け始める暁にかけて。まことにそれは、高貴なる使者の言葉である。力を授けられ、玉座の主の御許で高い地位を与えられ、そこ（天において）従われ、信頼されている者である。そして、あなたがたの仲間は狂ってはいない。まことに彼は、明らかな地平において彼（ジブリール）を見た。そして彼は、不可視の事柄について隠し立てする者ではない。またそれは、追放された悪魔の言葉でもない。それなのに、あなたがたはどこへ向かおうとしているのか。それはただ、諸世界への戒めにほかならない。あなたがたの中で、まっすぐであろうと望む者のためのものである。しかし、あなたがたは、諸世界の主であるアッラーが望まれない限り、望むことはできない。

❖ これらの節の主題：

高貴なるクルアーンの偉大さ。

❖ 難解語の解説：

アラビア語	転写	意味
فَلَا أُقْسِمُ	Fa-lā uqsimu	誓う。ここでの（lā）は強調のため。
بالخنس	bil-khunnas	昼の間、その光が隠れる星々。
الجوار	al-jawārī	軌道を走る星々。
الْكُنَّسِ	al-kunnas	星座の中を移動する星々。
عَسْعَسَ	ʿasʿasa	夜が闇を伴って近づき、また退くこと。
تَنَفَّسَ	tanaffasa	暁の光が現れ広がること。
رسول كريم	rasūl karīm	高貴なる使者（ジブリール〔ガブリエル〕、彼に平安あれ）。
مَكِين	makīn	アッラーの御許で高い地位を持つ者。
وَلَقَدْ رَآهُ	wa laqad raʾāhu	我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）が、ジブリールを本来の姿で見たこと。
ثَمَّ	thamma	そこ、すなわち天において。

アラビア語	転写	意味
وَمَا صَاحِبُكُمْ	wa mā ṣāḥibukum	あなたがたの仲間（ムハンマド）を指す。
بِضَنِينٍ	ḍanīn	啓示を伝えることにおいて出し惜しみしない者。
رَجِيمٍ	rajīm	呪われ、アッラーの慈悲から追放された者。
فَأَيْنَ تَذْهَبُونَ	fa-ayna tadhhabūn	あなたがたの心はどこへ向かっているのか。

❖ 全体的意味：

これらの節において、全能のアッラーは、星々が姿を隠し運行すること、闇に包まれる夜、そして光を放って現れる暁にかけて誓われる。それは、クルアーンがアッラーの真実の書であり、啓示であることを示すためである。それは、力強さ、信頼性、そしてアッラーの御許で高い地位を持つジブリールによってもたらされ、我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）へと伝えられた。

預言者は、多神教徒たちが彼の理性や誠実さについて主張した虚偽の非難から完全に潔白である。むしろ彼は、人類の中で最も賢明であり、最も信頼できる者である。彼は啓示を伝えることにおいて何も隠さず、またその対価を求めることもなかった。

そしてこのクルアーンは、堕落と迷いを本質とする悪魔や占い師の言葉に似たものではない。むしろそれは、諸世界すべてに対する導き、光、真理、そして善である。

❖ このスーラから得られる教訓：

1. クルアーンの偉大さそれは最良の書であり、最良の天使によって、最良の使徒に、最良の時代に下された。
2. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、その理性や誠実さに関する多神教徒たちの非難から無実である。
3. ジブリール（彼に平安あれ）の徳、その強さ、そして他の天使たちに対する高い地位。
4. 人間には意志と選択があるが、それはすべて全能のアッラーの御意志の下にある。

月曜日：ハディース モジュール — 浪費や高慢を伴わない財の使用

‘**アムル・イブン・シュアイブ**が、彼の父から、彼の祖父から伝えたところによると、彼は次のように言った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

食べなさい。施しをしなさい。そして衣服を身に着けなさい。ただし、浪費することなく、また高慢になることなく。[1]

❖ 解説：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、財を守り、それをアッラーが許された善く合法な事柄に用いることを勧められた。例えば、飲食、衣服、そして善行の道における支出である。特に、困窮者や親族への施しのように、その報いが長く続くものが含まれる。

全能のアッラーは、財産を人々の生活の手段とされた。これによって、個人の生活や社会全体の諸事が維持される。しかし、そこに浪費や高慢が入り込むと、その利益は減少し、やがて失われてしまう。

崇高なるアッラーは言われる。

食べ、飲め。しかし浪費してはならない。まことに、かれは浪費する者を愛されない。[2]

また言われる。

彼らは支出するとき、浪費もせず、また吝嗇でもなく、その中間を保つ。[3]

さらに言われる。

地上を高慢に歩いてはならない。まことにアッラーは、すべてのうぬぼれた誇り高い者を愛されない。[4]

これは、財産を扱ううえでの公正な均衡である。浪費は身体に害をもたらし、病気や不調を招く。また生活を破壊し、貧困や困窮を早める。高慢は心を損ない、人々の憎しみを招く。そして来世においては罪と懲罰を招く原因となる。

❖ このハディースから得られる教訓：

1. **このハディースは、高慢、傲慢、浪費、無駄遣いを禁じている。**
2. 許された事柄を認めるイスラームの広さと容易さを示している。

3. 魂を鍛え、その欲望を制御することを勧めている。

[1] アフマド（181）、アブー・ダーウード（2559）
[2] アル＝アアラーフ章 31 節
[3] アル＝フルカーン章 67 節
[4] ルクマーン章 18 節

火曜日：アキーダモジュール — アッラー以外による誓い

誓い（宣誓）とは、誓約された言明であり、また、崇敬される存在の名を挙げてある事柄を強調し確証することである。崇敬と崇拝に値する偉大さは、ただ至高なるアッラーのみに属する。
学者たちは全会一致で、誓いはアッラー、あるいはアッラーの御名と御属性によってのみ行われるべきであり、アッラー以外による誓いはシルク（shirk）であると述べている。

イブン・ʿウマル（アッラーが彼ら二人に満足されますように）から伝えられている。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

アッラー以外によって誓う者は、不信仰（kufr）あるいはシルクを犯したのである。[1]

また彼は言われた。

まことにアッラーは、あなたがたが自分の父祖によって誓うことを禁じられた。[2]

これは通常、小シルク（minor shirk）と見なされる。ただし、誓いの対象となる者を、アッラーと同等に崇敬し畏れるほどにまで高めた場合、それは大シルク（major shirk）となる。
このようなことは墓を崇拝する者たちに見られる。彼らは墓の住人を、アッラー以上に恐れ、崇敬しているのである。

ムスリムは、アッラーによる誓いを慎み守り、頻繁に誓いを立てるべきではない。アッラーは仰せられた。

そして、あなたがたの誓いを守れ。[3]

また仰せられた。

そして、卑しい常習的な誓い人に従ってはならない。[4]

誓いを頻繁に行うことは、アッラーとその御名・御属性への崇敬が弱いことを示しており、これは完全なタウヒード（tawḥīd）と矛盾する。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

三種類の者に対して、アッラーは語りかけず、彼らを清めず、彼らには痛ましい懲罰がある。…その中の一人は、商売においてアッラーを利用する者である。すなわち、誓いによってのみ買い、誓いによってのみ売る者である。[5]

また、アッラーによって偽りの誓いをすることは禁じられている。これは沈める誓い（al-yamīn al-ghamūs）と呼ばれる。なぜなら、それを行う者を罪へと沈め、さらに火獄へと沈めるからである。これは重大な罪（大罪）の一つである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が大罪とは何かと尋ねられたとき、彼は言われた。

アッラーに並べて配することである。

人々は言った。その次は何ですか。

彼は言われた。

両親への不孝である。

人々は言った。その次は何ですか。

彼は言われた。

偽りの誓い（al-yamīn al-ghamūs）である。[6]

またアッラーはこれを偽信者（ムナーフィク）の性質の一つとして述べられた。

彼らは、自分たちが知っていながら偽りの誓いをする。[7]

---

[1] アッ＝ティルミズィー（1535）およびアブー・ダーウード（3251）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（6647）およびムスリム（1646）によって伝承された。
[3] ［アル＝マーイダ章：89］
[4] ［アル＝カラム章：10］
[5] アッ＝Ṭabarānī（6111）によって伝承された。
[6] アル＝ブハーリー（6920）によって伝承された。
[7] ［アル＝ムジャーダラ章：14］

❖ 要点のまとめ：

1. アッラー以外による誓いの禁止 — 例えば、信義（信頼）、誠実さ、カアバ（Kaʿbah）、あるいは預言者によって誓うことなどであり、これはシルク（shirk）である。
2. 故意に嘘をつきながらアッラーによって誓うことの禁止 — これは偽りの誓い（al-yamīn al-ghamūs）と呼ばれる。
3. 必要もなく頻繁にアッラーによって誓うことの忌避 — たとえそれが真実であっても好ましくない。
4. 必要な場合において、真実をもってアッラーによって誓うことの許可。

水曜日：フィクフ モジュール — 断食（al-Ṣiyām）

至高なるアッラーのしもべたちに対する英知と慈悲の一つは、彼らに宗教と現世の両面において益と矯正をもたらす礼拝行為を義務として課されたことである。さらにアッラーは、義務の礼拝に類似した任意の善行（ナーフィラ）をも定められた。これは報奨を増大させるためであり、また義務の礼拝において生じた不足を補うためである。
このようにして、礼拝（ṣalāh）、ザカー（zakāh）、断食（ṣiyām）の義務は、復活の日においてそれらの任意の行為によって完成され、完全なものとされる。

❖ 断食の徳：

断食の徳とその偉大な報奨については、多くの真正な伝承が伝えられている。その中には次のものがある。

• 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の言葉：
楽園には八つの門がある。その中にアル＝ライヤーン（al-Rayyan）と呼ばれる門があり、そこには断食する者たち以外は入ることができない。[1]

• また彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：
アッラー（力強く荘厳なる御方）は言われた。アーダムの子の行為はすべて彼自身のためである。ただし断食は例外である。それはわたしのためのものであり、わたし自身がその報いを与える。断食する者の口の匂いは、アッラーにとって麝香の香りよりも好ましい。[2]

❖ 断食が定められた英知：

至高なるアッラーは、理性が完全には把握しきれないほどの深い英知のもとに断食を定められた。その中には次のものがある。

1. 断食はタクワー（taqwā：アッラーへの畏敬と自覚）を得るための偉大な手段である。タクワーは宗教における最も高い段階の一つであり、信者はそれによってこの世と来世の幸福を得る。アッラーは仰せられた。
   信仰する者よ。断食はあなたがた以前の者たちに定められたように、あなたがたにも定められた。それは、あなたがたがタクワーを得るためである。[3]
2. 断食は、信者が高貴な品性を訓練し、魂を清め、現世の欲望や罪から離れさせる**偉大な教育の場**である。そして彼は、ただアッラーの御顔（御満悦）を求めるのである。
3. 断食は消化器官に休息を与える。常に食物を取り入れ、消化し、排出する働きから解放されることにより、その機能は再び力と活力を回復し、体内に蓄積された老廃物や未消化物が排出される。

4. 断食は、人の**慈悲と共感**を増大させる。飢えを感じることによって、人は貧しく困窮した兄弟たちを助け、彼らに慈しみを示そうとするのである。
5. 限られた時間、飲食を控えることによって、信者は一年の残りの時間にそれが許されているという恩恵を思い起こし、主への感謝をより深める。
6. 断食は**シャイターンの通り道を狭める**。彼はアーダムの子の体内を血液のように流れるが、断食は彼を弱め、罪や不従順から遠ざける助けとなる。
7. 断食はジハード・アン＝ナフス（jihād al-nafs：自己との闘い）の一形態である。それは自我の衝動を抑え、その欲望の激しさを弱め、情欲や気まぐれの誘いに抵抗し、シャイターンのささやきと戦う助けとなる。

[1] アル＝ブハーリー（3257）およびムスリム（1152）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（1894）およびムスリム（1151）によって伝承された。
[3] ［アル＝バカラ章：183］

木曜日：スィーラモジュール — 預言者性のしるし（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 彼の祈願（ドゥアー）が受け入れられたこと

彼の祈願が受け入れられることは、彼の預言者性のしるしの一つであり、また彼の真実性を示す証拠の一つである。なぜなら、それは彼が主のもとで高い地位を有していること、そして彼が主から伝えているものの真実性を示す明白な証拠だからである。
このような出来事は数多く真正な伝承によって伝えられており、枚挙にいとまがない。その中には次のようなものがある。

1. ヒジュラ（移住）の際に起こった出来事：

アブー・バクル（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。

スラーカ・イブン・マーリクが私たちを追跡してきた。私は言った。私たちは追いつかれてしまいました、アッラーの使徒よ！
すると彼は言われた。

悲しむな。まことにアッラーは私たちと共におられる。

その後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に対して祈願され、すると彼の馬は腹のところまで地面に沈んだ。
彼は言った。あなたが私に対して祈願したことが分かりました。どうか私のためにアッラーに祈願してください。私は、あなた方を追う者がいれば必ず引き返させると誓います。

すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼のために祈願されたので、彼は解放された。
それ以降、彼は誰かに出会うたびに彼らを引き止めて言った。この道は安全ではない。別の道へ行きなさい。[1]

2. 彼の祈願によって導かれたアブー・フライラの母：

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）は言った。

私は母をイスラームへと招いていたが、彼女はまだ多神崇拝者であった。ある日、私は彼女を招いたが、彼女はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）について、私が嫌う言葉を言った。
そこで私は泣きながらアッラーの使徒のもとへ行き、こう言った。

アッラーの使徒よ。私は母をイスラームへと招いていますが、今日彼女はあなたについて私が嫌う言葉を言いました。どうかアブー・フライラの母のためにアッラーに導きを祈願してください。

すると彼は言われた。

アッラーよ、アブー・フライラの母を導き給え。

私はアッラーの預言者の祈願を喜びながら帰った。
家の扉に着くと、母の足音が聞こえた。彼女は言った。そこにいなさい、アブー・フライラ。

それから彼女は身を清め、急いで衣服を身に着け、ヒマール（頭巾）も付けないまま扉を開けて言った。

アブー・フライラよ。私は、アッラーのほかに神はなく、ムハンマドがアッラーの使徒であることを証言します。

私は喜びの涙を流しながら再びアッラーの使徒のもとへ戻り、言った。

アッラーの使徒よ、喜んでください。アッラーはあなたの祈願を受け入れ、アブー・フライラの母を導かれました。

すると彼はアッラーを讃美し、称えられた。[2]

3. ジャービルのラクダにおける祝福：

ジャービル（アッラーの御満悦あれ）は言った。

私は、ほとんど歩くこともできないほど弱ってしまったラクダに乗って、遠征の際にアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共に出発した。

---

[1] アル＝ブハーリー（3615）およびムスリム（2009）によって伝承された。
[2] ムスリム（2491）によって伝承された。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は私に言われた。
あなたのラクダはどうしたのか。
私は答えた。それは疲れ果ててしまいました。
すると彼は後ろに下がり、そのラクダを軽く打ち、そしてそれのために祈願された。するとその後、そのラクダは他のラクダたちよりも先に進むようになった。
彼は言われた。
今、あなたのラクダはどうであるか。
私は答えた。とても良い状態です。あなたの祝福がそれに及びました。[1]

1. 雨を求める彼の祈願：
人々が干ばつに見舞われたとき、彼が金曜日の説教（クフトバ）を行っている最中に彼のもとへ来て言った。
アッラーの使徒よ、雨は止み、木々は枯れ、家畜は滅びつつあります。どうか私たちのために、アッラーに雨をお与えくださるよう祈願してください。

すると彼は祈願された。おおアッラーよ、我らに雨をお与えください。
これを二度繰り返された。

アッラーにかけて言うが、そのとき空には一片の雲もなかった。しかし間もなく雲が現れ、次の金曜日まで雨が降り続いた。

そして次の金曜日、彼が再び説教を行っていたとき、人々は叫んで言った。
アッラーの使徒よ、家々は崩れ、道は断たれました。どうかアッラーに、私たちから雨を止めてくださるよう祈願してください。

すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は微笑み、こう祈願された。おおアッラーよ、我らの周囲に降らせ給え、我らの上には降らせ給うな。

すると雲はマディーナの上から退き、周囲には雨が降ったが、マディーナには一滴の雨も降らなかった。 イマーム・アブー・アル＝‘アッバース・アル＝クルトゥビーは言った。
これらは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の祈願のうち、直ちに応えられたもののほんの一部に過ぎない。それらは数え切れないほど多い。これらを総合すると、アッラーがムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）を、彼の祈願に応え、その願いを豊かに叶えることによって顕著に尊ばれたことが、確実に明らかとなる。そしてこれらすべては、彼の高貴な地位と、彼の使命の真実性を証明しているのである。[2]

---
[1] アル＝ブハーリー（2967）およびムスリム（715）によって伝承された。
[2] アル＝クルトゥビーアル＝ムフヒム（第 6 巻 68 頁）。

土曜日：Ṣaḥābah（教友）モジュール — ʿウバーダ・イブン・アッ＝サーミト（アッラーの御満悦あれ）

❖ 彼の名と誕生：

彼は、**ʿウバーダ・イブン・アッ＝サーミト・イブン・カイス・アル＝ハズラジー・アル＝アンサールィー**である。
彼はヒジュラの **38 年前**に、**マディーナ**において誕生した。

❖ 彼の生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、アンサールの貴族の一人であり、背が高く、体格が良く、容姿端麗で、雄弁であり、優れた弁論家であった。また、真理を公然と語る人物であり、アッラーの道において批判者の非難を恐れることがなかった。

彼は第一および第二のアカバの誓約（Bayʿat al-ʿAqabah）に立ち会い、その中の指導者の一人であった。[1]
また、**バドルの戦い、ウフドの戦い**、そしてその他すべての遠征において、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に参加した。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼をサダカ（ṣadaqah：喜捨）の管理者として任命されたが、彼は慎重さからその任務を辞退し、その役目から解かれた。[2]

彼（アッラーの御満悦あれ）は、**クルアーンを心に記憶していた者たち**の一人でもあった。
ムハンマド・イブン・カʿブ・アル＝クラズィーは言った。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の時代に、アンサールの五人の男によってクルアーンは集められていた。すなわち、**ムアーズ、ʿウバーダ、ウバイイ、アブー・アイユーブ、そしてアブー・アッ＝ダルダー**'である。[3]

あるとき、**ヤズィード・イブン・アビー・スフヤーン**は、ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）へ書簡を送り、次のように伝えた。

シャームの人々の数は増え、町々は人々で満ちています。彼らにはクルアーンとフィクフ（フィクフ：イスラーム法学）を教える者が必要です。どうか彼らを教えることのできる人々を私に送ってください。

そこでʿウマルは、**ムアーズ・イブン・ジャバル、ʿウバーダ・イブン・アッ＝サーミト、そしてアブー・アッ＝ダルダー**'を彼のもとへ派遣した。[4]
このようにして、ʿウバーダ（アッラーの御満悦あれ）は**教師、法学者、そして裁判官**として派遣された。彼はバイト・アル＝マクディス（エルサレム）に定住し、**パレスチナ最初の裁判官**となった。

彼はまた、**ラーディキーヤ（al-Lādhiqiyyah）**、**ジャブラ（Jablah）**、および**キプロス**の征服にも参加し、さらに**アレクサンドリア征服**において指揮官の一人であった。
また彼は、‘**アムル・イブン・アル＝‘アース**によって**アル＝ムカウキス**のもとへ派遣された代表団の指導者でもあり、その堂々とした姿と強さにより、アル＝ムカウキスは震え上がったと伝えられている。

❖ 彼の逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 **34 年**に**アル＝ラムラ**において、**72 歳**で逝去した。
そして**バイト・アル＝マクディス**に埋葬された。

---

[1] アル＝ブハーリー（7056）、ムスリム（1706）、アフマド（22774）によって伝承された。
[2] イブン・ヒッバーン（3270）によって伝承された。
[3] シヤル・ア‘ラーム・アン＝ヌバラー’（第 2 巻 6 頁）。
[4] シヤル・ア‘ラーム・アン＝ヌバラー’（第 2 巻 6 頁）。

知識テスト — 第 43 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィールモジュール	アル＝フンナス（al-Khunnas）の意味は何か。	[a] 昼の間にその光を隠す星々[b] 太陽の位置[c] 農耕と栽培の季節	a
ハディース モジュール	このハディースにおけるアル＝マヒーラ（al-makhīlah）とは何を意味するか。	[a] 浪費[b] 炉（かまど）[c] 傲慢	c
アキーダモジュール	嘘をつきながらアッラーにかけて誓うことは何と呼ばれるか。	[a] 虚偽の主張[b] 中傷[c] アル＝ヤミーン・アル＝ガムース（al-Yamīn al-Ghamūs）	c
フィクフ モジュール	アッラーが断食を定められた大きな知恵の一つは何か。	[a] 消化器官を休ませるため[b] 夜の礼拝に立つため身体を訓練するため[c] クルアーンの朗誦を助けるため	a
スィーラモジュール	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）によってラクダが祝福された教友は誰か。	[a] アナス・イブン・マーリク[b] ジャービル・イブン・‘アブドゥッラー[c] アブー・タルハ	b
サハーバモジュール	‘ウバーダ・イブン・アッ＝サーミト（アッラーの御満悦あれ）が最初の裁判官となったのはどこか。	[a] マディーナ[b] エジプト[c] パレスチナ	c

44週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：Tafsīr（タフスィール）モジュール — スーラト・ʿアバサ（Sūrat ʿAbasa）〔第 1 回〕

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

عَبَسَ وَتَوَلَّى (1) أَنْ جَاءَهُ الْأَعْمَى (2) وَمَا يُدْرِيكَ لَعَلَّهُ يَزَّكَّى (3) أَوْ يَذَّكَّرُ فَتَنْفَعَهُ الذِّكْرَى (4) أَمَّا مَنِ اسْتَغْنَى (5) فَأَنْتَ لَهُ تَصَدَّى (6) وَمَا عَلَيْكَ أَلَّا يَزَّكَّى (7) وَأَمَّا مَنْ جَاءَكَ يَسْعَى (8) وَهُوَ يَخْشَى (9) فَأَنْتَ عَنْهُ تَلَهَّى (10) كَلَّا إِنَّهَا تَذْكِرَةٌ (11) فَمَنْ شَاءَ ذَكَرَهُ (12) فِي صُحُفٍ مُكَرَّمَةٍ (13) مَرْفُوعَةٍ مُطَهَّرَةٍ (14) بِأَيْدِي سَفَرَةٍ (15) كِرَامٍ بَرَرَةٍ (16) قُتِلَ الْإِنْسَانُ مَا أَكْفَرَهُ (17) مِنْ أَيِّ شَيْءٍ خَلَقَهُ (18) مِنْ نُطْفَةٍ خَلَقَهُ فَقَدَّرَهُ (19) ثُمَّ السَّبِيلَ يَسَّرَهُ (20) ثُمَّ أَمَاتَهُ فَأَقْبَرَهُ (21) ثُمَّ إِذَا شَاءَ أَنْشَرَهُ (22) كَلَّا لَمَّا يَقْضِ مَا أَمَرَهُ (23)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。 彼は顔をしかめ、背を向けた。盲人が彼のもとに来たためである。だが、彼が清められるかもしれないことを、あなたはどうして知ろうか。あるいは、諭しを受け、その諭しが彼に益するかもしれない。一方、自ら満ち足りていると思っている者に対して、あなたは注意を向ける。しかし、彼が清められないとしても、あなたには責任はない。そして、あなたのもとへ努力して来た者、しかもアッラーを畏れている者については、あなたは彼から気をそらした。断じてそうではない。まことにこれは一つの訓戒である。ゆえに、望む者は誰でもそれを心に留めるがよい。それは尊い書巻の中に記され、高められ、清められている。それは書記たちの手によって運ばれ、高貴で、忠実な者たちである。人間は滅ぼされよ何と不信仰であることか。彼は何から創られたのか。一滴の精液から、彼は創られ、形づくられた。それから彼の道は容易にされた。それから彼は死なされ、墓に入れられる。それから、アッラーが望むとき、彼は復活させられる。断じてそうではない。人間は、主が命じられたことをまだ成し遂げてはいないのである。

❖ スーラのテーマ：

自らを自足していると考える傲慢な不信仰者たちへの戒め、そして復活の証拠の提示。

❖ 難しい語句の解説：

アラビア語	音写	意味
عَبَس	ʿAbasa	顔をしかめた。
وَتَوَلَّى	Wa-tawallā	背を向けた。
يَزَّكَّى	Yazzakkā	罪から清められること。
تَصَدَّى	Taṣaddā	その者に注意を向ける。
تَلَهَّى	Talahhā	気を取られてしまう。
كَلَّا	Kallā	断じてそうではない。それは正しくない。
سَفَرَة	Safarah	啓示を運び、アッラーと被造物の間でそれを伝える天使たち。

アラビア語	音写	意味
بَرَرَة	Bararah	敬虔で従順な者たち。アッラーに背かない者。
قُتِلَ الْإِنسَانُ	Qutila al-insān	不信仰者は呪われ、滅ぼされよ。
مَا أَكْفَرَهُ	Mā akfarahu	何と大きな不信仰であることか。
نُطْفَة	Nuṭfah	小さく取るに足らない液体、すなわち精液。
فَقَدَّرَهُ	Faqaddarahu	段階を経て形づくられた。
السَّبِيلَ يَسَّرَهُ	As-sabīla yassarahu	善悪の道を彼に明らかにされた。
كَلَّا لَمَّا يَقْضِ مَا أَمَرَهُ	Kallā lammā yaqḍi mā amarah	人間はアッラーが命じたことをまだ果たしていない。

❖ 全体的な意味：

このスーラは、至高なるアッラーが御使い（アッラーの祝福と平安あれ）に対して、穏やかな叱責を与える場面から始まる。それは、彼が盲目の教友でありムハージルの一人である‘アブドゥッラー・イブン・ウンム・マクトゥームから顔を背けたときのことであった。彼は誠実に導きと諭しを求めてやって来たのである。

そのとき預言者はクライシュの指導者たちをイスラームへ招いていたためである。しかしアッラーは彼を正され、**クルアーンはすべての人への訓戒であり、その受け取りにおいて誰かが他者より優先されるべきではない**ことを明らかにされた。

続いてこれらの節は、傲慢な不信仰者たちへの警告を強める。すなわち、彼らは卑しい始まりわずかな一滴の液体から創造され、段階を経て成長し、死後には墓が与えられることを思い起こさせられる。それは彼らの身体が地上に放置されて腐敗することのないためである。

その後、人々は清算のために復活させられる。それにもかかわらず、人間は依然としてアッラーが命じられたことを十分に果たしてはいないのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が啓示を伝える際の誠実さ。彼は自らへの叱責を含む節でさえ隠すことなく伝えた。
2. 知識と導きを求める者を重視する義務。
3. クルアーンが教友を盲人と表現したことは、弱者や障がいを持つ人々への配慮を促すものである。
4. 人間は一生涯アッラーを礼拝したとしても、その権利を完全に果たすことはできない。
5. 貧しく弱い者であっても、より敬虔でイスラームを堅く守るならば、より高貴となり得る。

6. アッラーは人類に尊厳ある埋葬を与えられた。これは、死体が地上に残る動物とは異なる、人間への慈しみである。

月曜日：ハディース モジュール — ムスリムが他のムスリムに対して有する権利

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ムスリムが他のムスリムに対して有する権利は六つである。
あなたが彼に会ったときにはサラームをもって挨拶すること。
彼があなたを招いたときにはそれに応じること。
彼があなたに助言を求めたときには助言すること。
彼がくしゃみをしてアッラーを讃美したならば、アッラーがあなたに慈悲を与え給いますようにと言うこと。
彼が病にかかったならば見舞うこと。
そして彼が亡くなったならば、その葬送に付き従うことである。[1]

❖ 解説：

イスラームは、愛情、親愛、そして兄弟愛の宗教である。それはこれらの価値を奨励し、それらを実現するための手段を定めている。その最も重要なものの一つが、ムスリム同士の間における社会的な権利と義務を果たすことである。その主なものは次のとおりである。

1. あなたが彼に会ったときにはサラームをもって挨拶すること

サラームは、イスラームにおける最も美しい礼儀の一つである。出会った双方が互いに対して安全、慈悲、祝福を祈願するものである。それは愛情を生み、その愛情は信仰へと導き、信仰は楽園へと導く。

2. 彼があなたを招いたときにはそれに応じること

すなわち、彼が食事や飲み物に招いたときには、それを受け入れることで彼を敬い、愛情を強めることである。ただし、遠方への長い旅などの困難がある場合、あるいはその集まりに明らかな罪が含まれている場合はその限りではない。

3. 彼があなたに助言を求めたときには助言すること

誠実な助言を与えることはイスラームにおいて定められており、誰かがそれを求めた場合には義務となる。それは行為、取引、あるいは結婚に関する判断などに関わることがある。あなたは自分自身のために望むことを彼のためにも望み、誠実に助言しなければならない。

4. 彼がくしゃみをしてアッラーを讃美したならば、アッラーがあなたに慈悲を与え給いますようにと言うこと

くしゃみは身体から有害な蒸気を取り除く恵みである。くしゃみをした者はアッラーを讃美し、それを聞いた者はアッラーがあなたに慈悲を与え給いますようにと応答する。その後、くしゃみをした者はアッラーがあなたを導き、あなたの事柄を正してくださいますようにと言う。

もし誰かがくしゃみをしてもアッラーを讃美しなければ、彼はアッラーを讃美する祝福と、兄弟からの祈願（ドゥアー）という両方を失うことになる。

5. 彼が病にかかったならば見舞うこと

病人を見舞うことはムスリムの権利の一つであり、特に親族や親しい友人に対しては重要である。それは病人に慰めを与え、苦しみを和らげ、見舞う者には大きな報奨をもたらす。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

病人を見舞う者は、帰るまで楽園の収穫の中にいる。[2]

また彼は言われた。

朝に病気の兄弟を見舞うムスリムには、夕方まで七万の天使が祝福を祈願し、夕方に見舞うならば朝までそれを続ける。[3]

見舞いに訪れる者は、彼のために祈願（ドゥアー）を行い、励ましを与え、滞在を長引かせすぎないようにすべきである。

[1] ムスリム（2162）によって伝承された。
[2] ムスリム（2568）によって伝承された。
[3] アッ＝ティルミズィー（969）によって伝承された。

6. 彼が亡くなったならば、その葬送に付き従うこと
これは、アッラーの権利、故人の権利、そしてその家族の権利を果たすことを含んでいる。葬儀に参列することには、非常に大きな報奨がある。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

葬儀の礼拝を行う者には一つのキラート（qīrāṭ）の報奨があり、埋葬まで付き従う者には二つのキラートの報奨がある。そして一つのキラートはウフド山ほどの大きさである。[1]

[1] アル＝ブハーリー（47）およびムスリム（946）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 宗教を嘲笑することの حكم（法的規定）

宗教を嘲笑すること：これはイスラームからの背教（リッダ）であり、信仰からの完全な離脱である。至高なるアッラーは仰せられた。
もしあなたが彼らに尋ねるならば、彼らは必ずこう言うであろう。私たちはただ雑談し、戯れていただけです。言え。あなたがたは、アッラーとその御言葉とその使徒を嘲笑していたのか。言い訳をするな。あなたがたは信仰の後に不信仰に陥ったのである。[1]

また、至高なる御方は多神崇拝者について次のように仰せられた。
彼らはあなた（ムハンマド）を見るとき、ただ嘲笑の対象とするのみである。これが、アッラーが使徒として遣わした者なのか。と言って。[2]

アッ＝サアディー（アッラーが彼に慈悲を与えられますように）は言った。
実に、アッラーとその使徒を嘲笑することは、宗教から人を排除する不信仰である。なぜなら宗教の基礎は、アッラー、その宗教、そしてその使徒たちを尊敬し崇敬することの上に築かれているからである。これらのいずれかを嘲笑することは、この基礎に反し、それを最も強い形で否定するものである。[3]

このことは、アッラー、その使徒、あるいはその御言葉を嘲笑することが不信仰であることを示している。それが明白な形であれ、暗示的な形であれ同様である。

- 明白な嘲笑：
  これは公然とした侮辱であり、タブーク遠征の際にある者たちが言った言葉のようなものである。
  我々は、我々のこの朗誦者たちのような者を見たことがない。最も腹を満たすことに貪欲で、最も舌において虚偽が多く、戦いにおいて最も臆病である。
  彼らは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と、その朗誦者たちの中にいた教友たちを指していた。‘アウフ・イブン・マーリクは彼に言った。
  あなたは嘘をついた。むしろあなたは偽信者である。私は必ずアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に知らせるであろう。
  ‘アウフはそれを知らせるために向かったが、彼が到着する前にすでにクルアーンの啓示が下っていた。その男は、ラクダに乗っておられたアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに来て言った。
  アッラーの使徒よ、私たちはただ雑談し、旅の退屈を紛らわせていただけでした。
  しかしアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
  あなたがたは、アッラーとその御言葉とその使徒を嘲笑していたのか。
  そして彼は彼の方を向くこともなく、それ以上何も付け加えられなかった。[4]

この範疇には、ある人々が言う次のような言葉も含まれる。
イスラームはこの時代には適していない。それは中世のためのものに過ぎない。

あるいは、
それは後進性であり退歩である。
または、
それは残酷で野蛮である。
このような発言は、宗教とその信奉者を侮辱し、正しい信条を嘲笑する以外の何ものでもない。

- 暗示的な嘲笑：
  これは限りない海のように広範である。その例としては、アッラーの書やその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のスンナが朗読されているときに、目配せをしたり、舌を出したり、唇をゆがめたり、手振りをすることなどがある。
  また、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のスンナに従う者を嘲笑し、その外見や言葉、あるいは助言をからかうことも含まれる。これらすべては、嘲笑者の行為に属するものである。

[1] ［アッ＝タウバ章：65–66］
[2] ［アル＝フルカーン章：41］
[3] アッ＝サアディータイスィール・アル＝カリーム・アル＝ラフマーン 342 頁。
[4] アッ＝タバリータフスィール(14/333)。

水曜日：フィクフ モジュール — 断食が推奨される日々

シャリーアは、断食によって捉えるべき徳ある日々を示し、それを行う者に報奨と功徳が約束されている。その中には次のようなものがある。

1. シャウワール（Shawwāl）の六日間の断食
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ラマダーンを断食し、その後にシャウワールの六日を続けて断食する者は、一生涯断食したかのようである。[1]

2. ʻアラファの日（ʻArafah）の断食
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ʻアラファの日の断食について、私はそれによってアッラーが前年と翌年の罪を贖われることを望む。[2]

3. ʻアーシューラー（ʻĀshūrāʾ）の日の断食
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はそれについて言われた。
それによって、アッラーが前年の罪を贖われることを望む。[3]

また、その前日あるいは翌日も共に断食することが推奨される。彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
もし私が来年まで生きているならば、私は必ず第九日も断食するであろう。[4]

また彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
その前日、またはその翌日も断食し、ユダヤ人と異なるようにせよ。[5]

4. 毎週の月曜日と木曜日の断食
ʻアーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った。
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、月曜日と木曜日の断食を熱心に守られていた。[6]

また彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
行いは月曜日と木曜日に（アッラーの御前に）提示される。私は、自分の行いが提示されるとき、私が断食していることを好む。[7]

5. 毎月三日間の断食
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
毎月三日断食せよ。善行は十倍に増やされるからである。それは一生涯断食するのと同じである。[8]

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）は言った。
私の愛する御方は、私に三つのことを勧められた。毎月三日の断食、ドゥハー（ḍuḥā）の二ラカアの礼拝、そして眠る前にウィトル（witr）を礼拝することである。[9]

これらの日の中で最も優れたものは、白い日々（ayyām al-bīḍ）である。すなわち月の十三日、十四日、十五日である。なぜなら彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われたからである。

[1] ムスリム（1162）によって伝承された。
[2] ムスリム（1162）によって伝承された。
[3] ムスリム（1162）によって伝承された。
[4] ムスリム（1133）によって伝承された。
[5] アフマド（1/241）によって伝承された。
[6] アフマド（5/201）およびアッ＝ティルミズィー（745）によって伝承された。
[7] アッ＝ティルミズィー（751）およびアン＝ナサーイー（1/322）によって伝承された。
[8] アル＝ブハーリー（1981）によって伝承された。
[9] アル＝ブハーリー（1178）およびムスリム（721）によって伝承された。

あなたがたのうち、月のうちのいずれかの日を断食する者は、白い日々の三日を断食させよ。[1]

一日断食し、翌日は断食をやめること（預言者ダーウード〔アッラーの平安あれ〕の断食）
彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
最も優れた断食はダーウード（アッラーの平安あれ）の断食である。彼は一日断食し、翌日は断食をやめていた。[2]

ʿアブドゥッラー・イブン・ʿアムルは伝えている。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に言われた。
一日断食し、翌日は断食をやめなさい。これがダーウードの断食であり、最も均衡の取れた断食である。
彼は言った。
しかし、私はそれ以上に行うことができます。
すると彼は言われた。
それより優れたものはない。[3]

7. アッラーの月ムハッラム（**al-Muḥarram**）における断食
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ラマダーンの後で最も優れた断食は、アッラーの月ムハッラムである。[4]

8. ズル＝ヒッジャ（**Dhū al-Ḥijjah**）の最初の九日間の断食
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
これらの十日間ほど、善行がアッラーに最も愛される日々はない。[5]

9. シャアバーン（**Shaʿbān**）の月の断食
ʿアーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った。
私は彼（アッラーの祝福と平安あれ）が、シャアバーンほど多く断食された月を見たことがない。[6]

[1] アン＝ナサーイー（4/222）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（1976）によって伝承された。
[3] ムスリム（1962）によって伝承された。
[4] ムスリム（1163）によって伝承された。
[5] アル＝ブハーリー（969）によって伝承された。
[6] アル＝ブハーリー（1833）およびムスリム（1956）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — 預言者の預言性のしるし（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 月の分裂

彼の預言性のしるしの中には、至高なるアッラーが彼の手を通して顕された数々の驚異的な奇跡がある。その中でも最も有名で偉大なものの一つが、**月の分裂**である。

至高なるアッラーは仰せられた。
その時は近づき、月は裂けた。だが彼らは一つのしるしを見ると背き、これは絶えず続く魔術だと言う。彼らは否定し、自らの欲望に従った。しかしすべての事柄には定められた時がある。彼らにはすでに多くの知らせが到来しており、その中には抑止となるものがある。完全なる英知であるが、警告は役に立たない。[1]

この奇跡はクルアーンの中で明確に言及されているだけでなく、多くの教友たち（アッラーが彼らに満足されますように）によってタワートゥル（tawātur：多数伝承）の形で伝えられている。これを伝えた者の中には、‘アブドゥッラー・イブン・マスウード、アナス、イブン・‘アッバース、イブン・‘ウマル、フダイファ、‘アリー、ジュバイル・イブン・ムトイムなどがいる（アッラーが彼らすべてに満足されますように）。

彼らからタービウーン（後継者たち）が伝え、さらにその後の世代が伝え続け、ついにはこの報告は私たちのもとにまで到達した。こうして、この奇跡の確実性は、健全な理性を有する者にとって何ら疑いの余地のない確実な知識として確立されたのである。

アナス（アッラーの御満悦あれ）は言った。
マッカの人々は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に、しるしを示すよう求めた。そこで彼は、彼らに月の分裂を示された。[2]

‘アブドゥッラー・イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）は言った。
私たちがアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共にいたとき、月は二つに裂けた。一つの部分は山の上にあり、もう一つの部分はその下にあった。するとアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は私たちに言われた。
証言せよ。[3]

イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）は、この分裂がどのように起こったかをさらに明確にし、その現実性を確証して言った。
一つの部分は山の上にあり、もう一つの部分はその下にあった。
この言葉は、この出来事に疑いの余地がないことを示している。

別の伝承では、その後に起こった出来事について次のように述べている。
クライシュの不信仰者たちはそれを見たとき、こう言った。
これはイブン・アビー・カブシャの魔術だ。旅人たちを見てみよう。もし彼らもお前た

ちが見たものを見たと言うなら、彼は真実を語っている。しかしもし彼らがそれを見ていないなら、それは彼があなたがたにかけた魔術である。なぜならムハンマドがすべての人々に魔術をかけることはできないからだ。

そこで彼らは、あらゆる方向から来た旅人たちに尋ねた。すると彼らは言った。
私たちもそれを見た。[4]

[1] ［アル＝カマル章：1–5］
[2] アル＝ブハーリー（4867）およびムスリム（2802）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（4864）およびムスリム（2800）によって伝承された。
[4] アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ（8/562）。

土曜日：サハーバモジュール — アル＝ʿアッバース・イブン・ʿアブドゥルムッタリブ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 名前と誕生

彼は **アル＝ʿアッバース・イブン・ʿアブドゥルムッタリブ・アル＝ハーシミー・アル＝クライシュィー** と呼ばれ、**アブー・アル＝ファズル** としても知られていた。
マッカで生まれ、象の年の 3 年前である。

❖ 生涯と美徳 ：

アル＝ʿアッバース（アッラーの御満悦あれ）は非常に背が高く、堂々たる風貌と整った容貌、力強い声を持っていた。彼は偉大な忍耐、尊高な地位、高潔なリーダーシップで知られていた。
イスラム以前の時代、彼はクライシュ族の長老であり、高貴な人物として尊敬されていた。極めて寛大で、親族に対して義務を果たし、鋭い知性と機知を備えており、その能力によって預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を多くの害から守ることができた。

彼の重要な役割の一つは、巡礼者への水の供給と聖なるモスクの管理であった。また、彼は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の最も近しい親族の一人であり、アブー・ターリブの後に預言者を支援した。アル＝ʿアッカバの第二の盟約にも参加し、アンサールが預言者を保護し支援することを確認したが、その当時はまだ自分の民の宗教に従っていた。[1]

彼はフナインの戦いで他の者が撤退する中、揺るぎなく立ち続け、預言者のラバの手綱を握り続け、アッラーが勝利を授けられるまで耐えた。[2] その日、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、アル＝ʿアッバースの力強い声を知り、彼に命じて叫ばせた：
おお、アンサールの集まりよ！ おお、アル＝バカラの仲間たちよ！
すると人々は集まり、戦線に戻った。[3]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼のイスラム入信後に彼を称え、言った：
実に、人の父方の叔父は父に等しい。[4]
また彼のために特別に祈りを捧げ、言った：
アッラーよ、アル＝ʿアッバースとその子孫を、罪を残さない明白かつ隠れた許しで赦してください。アッラーよ、彼の子孫をお守りください。[5]

教友たちも彼を非常に尊敬していた。干ばつに苦しむとき、人々は雨を求めて彼に祈りを依頼した。ʿウマル・イブン・アル＝カッターブ（アッラーの御満悦あれ）も彼を通して祈り、言った：
アッラーよ、私たちはかつて預言者を通してあなたの助けを求め、雨を授けられました。今、私たちは預言者の叔父を通してあなたの助けを求めます。どうか雨を授けてくだ

さい。
そして実際に雨が降った。[6]

[1] Al-Bidāyah wa al-Nihāyah (10/234).
[2] Al-Bukhārī (4029) and Muslim (1756).
[3] Al-Bukhārī (4027) and Muslim (1754).
[4] Al-Tirmidhī (3733).
[5] Al-Bukhārī (3728) and Muslim (1752).
[6] Al-Bukhārī (1011) and Muslim (963).

❖ 死去:

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ウスマーンのカリフ時代、ヒジュラ暦 32 年ラジャブ月の金曜日、14 日にマディーナで亡くなった。享年は 88 歳で、亡くなる際に 70 人の奴隷を解放した。[1]

彼の洗礼（死後の清めの儀式）は、‘アリー・イブン・アビー・ターリブとその息子たち、‘アブドゥッラー、クサム、‘ウバイドゥッラーによって行われた。アル＝‘アッバースはアル＝バキーに埋葬された。

[1] イブン・サアド（4/30）報告。

知識テスト — 第 44 週

モジュール	問い	選択肢	正解
タフスィールモジュール	'al-safarah'とは何を意味するか。	[a] 天使たち[b] 正義の者たち[c] 戦士たち	a
ハディース モジュール	ムスリムが兄弟に対して持つ権利はいくつと述べられているか。	[a] 五つ[b] 六つ[c] 七つ	b
アキーダモジュール	宗教を嘲笑することの法的判断は何か。	[a] 実践上の偽善[b] 小規模な不信[c] イスラームからの離反	c
フィクフ モジュール	ラマダーンの後で最も優れた断食は何か。	[a] ラビー‘・アル＝アウワル月[b] ズル＝カアダ月[c] アッラーの月、ムッハッラム月	c
スィーラモジュール	クライシュ族が月の分裂について証言するよう求めたのは誰か。	[a] 旅人たち[b] ベドウィン[c] ローマ人たち	a
サハーバモジュール	アッラーの御満悦あれであるアル＝‘アッバース・イブン・‘アブドゥル＝ムッタリブの最も重要な業績の一つは何か。	[a] ザムザム井戸の掘削[b] 給水（アル＝シカーヤ）[c] ムアタハ戦での旗持ち	b

45週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール ― ʿアバサ章（第 2 部）

فَلْيَنْظُرِ الْإِنْسَانُ إِلَى طَعَامِهِ (24) أَنَّا صَبَبْنَا الْمَاءَ صَبًّا (25) ثُمَّ شَقَقْنَا الْأَرْضَ شَقًّا (26) فَأَنْبَتْنَا فِيهَا حَبًّا (27) وَعِنَبًا وَقَضْبًا (28) وَزَيْتُونًا وَنَخْلًا (29) وَحَدَائِقَ غُلْبًا (30) وَفَاكِهَةً وَأَبًّا (31) مَتَاعًا لَكُمْ وَلِأَنْعَامِكُمْ (32) فَإِذَا جَاءَتِ الصَّاخَّةُ (33) يَوْمَ يَفِرُّ الْمَرْءُ مِنْ أَخِيهِ (34) وَأُمِّهِ وَأَبِيهِ (35) وَصَاحِبَتِهِ وَبَنِيهِ (36) لِكُلِّ امْرِئٍ مِنْهُمْ يَوْمَئِذٍ شَأْنٌ يُغْنِيهِ (37) وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ مُسْفِرَةٌ (38) ضَاحِكَةٌ مُسْتَبْشِرَةٌ (39) وَوُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ عَلَيْهَا غَبَرَةٌ (40) تَرْهَقُهَا قَتَرَةٌ (41) أُولَئِكَ هُمُ الْكَفَرَةُ الْفَجَرَةُ (42)

それゆえ人間は自らの食物を見よ。われは豊かに水を降らせ、それから大地を裂け目に裂いた。すると、そこから穀物を生えさせ、ぶどう、青草、オリーブ、ナツメヤシ、茂った樹木の庭園、果実、そして草を生えさせた。あなたがたとあなたがたの家畜のための糧である。だが、耳をつんざく大音響が来るときその日、人は自分の兄弟から逃げ、自分の母からも父からも、自分の妻からも子供からも逃げる。その日、すべての人には他の者に気を向けていられないほどの事柄がある。その日、ある顔は輝き、笑い、喜びに満ちている。また、ある顔はその日、塵に覆われ、暗闇に包まれる。彼らこそは不信仰者であり、邪悪な者たちである。

❖ スーラの主題：

主を必要としないと思い上がる高慢な不信仰者たちへの警告であり、復活の明白な証拠を提示すること。

❖ 難しい語句の解説：

アラビア語	音写	意味
وَقَضْبًا	Waqaḍban	家畜のための飼料。
غُلْبًا	Ghulban	太い幹をもつ大きな樹木。
وَأَبًّا	Wa Aban	動物のための牧草。
الصَّاخَّةُ	Al-Ṣākhkhah	耳をつんざく復活の日の大音響。
يُغْنِيهِ	Yughnihi	それに没頭させる。
مُسْفِرَةٌ	Musfirah	輝いている、光り輝く。
مُسْتَبْشِرَةٌ	Mustabshirrah	喜びに満ちた、嬉しい。
غَبَرَةٌ	Ghabarah	塵と陰鬱。
تَرْهَقُهَا	Tarhaquhā	それを覆い尽くす。

アラビア語	音写	意味
فَتَرَةٌ	Fatarah	屈辱と暗闇。
الْكَفَرَةُ	Al-Kafarah	心で拒絶する不信仰者たち。
الْفَجَرَةُ	Al-Fajarah	行為による罪人たち。

❖ 全体的な意味：

これらの節は、人類に対してアッラーの数えきれない恩恵、とりわけ食物と飲み物の供給を思い起こさせる。天から水を降らせ、大地を裂き、穀物、ぶどう、オリーブ、ナツメヤシ、そしてさまざまな植物を生えさせ、人間とその家畜が恩恵を受けるようにされたのはアッラーである。
しかし、この現世のすべての糧は、審判の日に耳をつんざく大音響が起こるとき消え去る。その日の恐怖は、人が最も近しい親族からさえ逃げ出すほどであり、各人は自分自身の運命にのみ心を奪われる。その日、人々は二つに分けられる。すなわち、喜びと笑いに輝く顔楽園の民。そして、塵と陰鬱に覆われた顔不信仰の罪人たちである。

❖ このスーラから得られる教訓：

1. 人々の好みや必要に適した多様な食物を与えられたことによる、創造物に対するアッラーの恩恵。
2. 地上のすべての動物と生き物は、アッラーによって用意された糧を与えられている。
3. 復活の日の激しい恐怖への警告と、それに備えるよう呼びかけること。
4. その日にはすべての血縁や関係が断たれ、各人は自分自身のことにのみ関心を持つ。
5. 審判の日には、信仰者と不幸な者の区別がその顔に明らかに現れる。

月曜日：ハディース モジュール — 宗教は誠実な忠告である

タミーム・アッ＝ダーリー（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
宗教はナスィーハ（誠実な忠告）である。宗教はナスィーハである。宗教はナスィーハである。
人々は言った。それは誰に対してですか、アッラーの使徒よ。彼は言われた。アッラーに対して、その御書に対して、その使徒に対して、ムスリムの指導者たちに対して、そして彼ら一般の人々に対してである。[1]

❖ 解説：

この高貴なハディースは、正しい宗教が誠実な忠告と献身の基礎の上に築かれていることを示している。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、宗教のすべてが内面と外面の両方においてナスィーハに含まれることを強調するため、この言葉を三度繰り返された。その後、彼はそれを五つの権利として説明した。

1. アッラーへのナスィーハ — その主権と唯一性を認め、何ものも配されない完全な御方であることを確信し、内面と外面の両方で礼拝し、絶えず悔悟して御許に立ち返り、すべての過ちについて赦しを求めることである。
2. アッラーの御書へのナスィーハ — その言葉と意味を学び、それを暗記し、熟考し、それに従って行動するよう努めることである。
3. 使徒（アッラーの祝福と平安あれ）へのナスィーハ — 彼を信じ、彼を愛し、自分自身や財産や子どもよりも彼を優先し、彼の言葉を他の誰よりも優先し、彼に従い、宗教の根本と諸分野の両方において彼の導きに固く従うことである。
4. ムスリムの指導者たちへのナスィーハ — 彼らの権威を認め、彼らの言葉を聞き従い、彼らの権利を果たし、他者にもそれを勧め、彼ら自身と人々に利益となる事柄について誠実に助言することである。これは、一般的な権威であれ特定の権威であれ、すべての指導者に当てはまる。
5. 一般のムスリムへのナスィーハ — 自分のために望むものを彼らのためにも望み、自分が嫌うものを彼らのためにも嫌い、彼らを真理へ導き、彼らが避けることができるよう害から警告することである。

❖ このハディースから得られる益：

1. **ナスィーハについての預言者の説明は、簡潔で包括的な言葉の一例であり、宗教のすべてを含み、そこから外れるものを何一つ残していない。**
2. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、その重要性と地位の高さを強調するため、宗教はナスィーハであるという言葉を三度繰り返された。

3. これら五つの権利を果たすことは、アッラーの宗教とその立法を完全に実践することにほかならない。

[1] ムスリム（55）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — 不可視の知識を主張すること

不可視（ガイブ）の意味：人々の知覚から隠されているもの。現在のことであれ、未来のことであれ、過去のことであれ、それを指す。
高貴なるアッラーこそが不可視の知識を有する唯一の御方であり、それを知る者は御方のほかにいない。アッラーは仰せられた。言え、天と地において不可視を知る者は、アッラーのほかにいない。[1]
したがって、占い、予言、占星術、手相占い、コーヒーカップ占い、星占い、星座、あるいはその他いかなる方法によってであれ、不可視の知識を主張する者は、嘘つきであり、アッラーを否定する不信仰者である。
占いは、悪魔に近づくことによってのみ行われる。悪魔は天から盗み聞いた断片的な言葉を持ち帰るからである。高貴なるアッラーは仰せられた。われが知らせようか、悪魔たちが誰のもとに降りるのかを。彼らはすべての罪深い嘘つきのもとに降りる。彼らは聞いたことを伝えるが、その多くは嘘つきである。[2]
悪魔は天使たちの言葉の一語を奪い取り、それを魔術師や占い師の舌に投げかける。すると彼はそれに百の嘘を付け加える。そこで人々は言う。彼はあの日にあのことが起こると言ったではないか、そして実際に起こったではないか。こうして人々は、天から聞かれたその一語のために彼を信じてしまうのである。[3]
ある者は地上で起こったことやこれから起こることを知っていると主張し、ある者は失われた物の場所を知らせると言い、またある者は地上の出来事を天体の状態と結びつけて、この星の下で結婚する者にはこのようなことが起こる、この星の下で旅する者にはこのようなことが起こる、この星の下で生まれた者にはこのようなことが起こると言う。これらすべては、主権（rubūbiyyah）においても神性（ulūhiyyah）においても大いなるシルク（多神崇拝）である。
それが主権におけるシルクであるのは、アッラーの知識において御方と分け前を持つと主張するからであり、神性におけるシルクであるのは、礼拝行為によって悪魔に近づこうとするからである。
また、このような主張を信じる者も同様である。彼の判定はイスラームから追放する不信仰である。なぜなら、彼はアッラーの固有の属性の一つにおいて、アッラーに並ぶ者を設けたからである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
占い師のもとへ行き、その言うことを信じる者は、ムハンマドに啓示されたものを否定したのである。[4]

---

[1] ［アン＝ナムル章：65］
[2] ［アッ＝シュアラー章：221–223］
[3] アル＝ブハーリー（4800）によって伝承された。
[4] アブー・ダーウード（3904）およびアン＝ナサーイー（9017）によって伝承された。

水曜日：フィクフ モジュール — 断食を無効にするもの

至高なるアッラーは、断食する者のために節度ある断食を定められた。それは彼を害し弱らせるものでもなく、また軽視され放棄されるものでもない。これらすべては、その背後にある本来の知恵を達成するためである。

アッラーは、断食を無効にするものの基本を次の御言葉の中で述べられた。それゆえ今や彼女たちと交わり、アッラーがあなたがたのために定められたものを求めよ。そして、夜明けの白い糸が夜の黒い糸からあなたがたにはっきりするまで食べ、飲め。その後、夜になるまで断食を全うせよ。[1] この節は主要な無効化要因を集約している。すなわち、飲食と性交である。その他のものについては、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がそのスンナにおいて説明された。

したがって、断食を無効にするものは全部で七つである。

1. 性交：これは無効化要因の中でも最も重大であり、最も大きな罪である。贖罪が必要となるのは、これのみである。
2. 自慰：その証拠は、断食する者についてのハディース・クドスィーにおけるアッラーの御言葉である。彼はわたしのために食物と飲み物と欲望を離れる。[2]
3. 飲食：これには、鼻を通して胃に何かを入れることも含まれる。それは飲食と同じである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。鼻に水を吸い込むときは十分に行え。ただし断食しているときは別である。[3]
4. 飲食と同等のもの：これには二つが含まれる。
   o 輸血：血液は飲食の最終的な栄養であるためである。
   o 栄養注射：食物と飲み物の代わりとなる注射であり、飲食の代替となるためである。
   しかし、ペニシリン、インスリン、ワクチンのような治療目的の注射で、食物や飲み物の代わりとならないものは、断食を害さない。
5. 瀉血（ヒジャーマ）：預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉による。瀉血を行う者と瀉血を受ける者は断食を破った。[4] これには献血も含まれる。瀉血と同様に身体に影響するからである。鼻血については、自発的に起こるものではないため、断食を無効にしない。
6. 意図的な嘔吐：預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。嘔吐に打ち勝たれた者には、埋め合わせは必要ない。しかし故意に嘔吐した者は、それを埋め合わせなければならない。[5]

7. 月経および産後出血：
預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が言われた御言葉による。
彼女が月経のとき、礼拝を行わず、また断食もしないのではないか。[6]

[1] アル＝ブハーリー（304）によって伝承された。[1]［アル＝バカラ章：187］
[2] アル＝ブハーリー（1894）およびムスリム（1151）によって伝承された。
[3] アッ＝ティルミズィー（788）によって伝承された。
[4] アブー・ダーウード（2367）によって伝承された。
[5] アッ＝ティルミズィー（720）によって伝承された。

木曜日：スィーラ（Sīrah）モジュール — 預言者性の徴（しるし）（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 彼の祈願によってマディーナに祝福が降ったこと：

‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼女は言った。
私たちがマディーナに到着したとき、そこは病が広がる土地であった（すなわち疫病が多かった）。アブー・バクル、ビラール、そして‘アーミル・イブン・フハイラは病にかかった。
アブー・バクルが熱に襲われるたびに、彼は次のように言った。
すべての人は家族のもとで朝を迎えるが、
死は履物の紐よりも近くにある。
また、ビラールが熱から回復すると、マッカを恋い慕って次のように言った。
もし知ることができるならば、私は一夜でも過ごせるだろうか、
イドフキルとジャリールに囲まれた谷で。
そしていつの日か、マジャンナの水を飲むことができるだろうか。
また、シャーマとトゥファイルの山々が私の前に現れることはあるのだろうか。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、仲間たちの苦しみを見て、こう祈願された。
アッラーよ、あなたがマッカを私たちに愛しいものとされたように、マディーナをも私たちに愛しいものとしてください。いや、それ以上に愛しいものとしてください。そしてそれを健康な土地とし、そのサー‘（sā‘）とムッド（mudd）に祝福を授け、その熱病をアル＝ジュフファへ移してください。[1]
彼の言葉それを健康にしてくださいとは、病からそれを清め、その空気と水を健全で清らかなものとすることである。
アル＝ズルカーニーは言った。
かくして至高なるアッラーは彼の祈願に応え、その空気、土壌、住まい、そしてそこにある生活を清められた。[2]
また、アン＝ナワウィーは言った。
このハディースには、ムハンマドの預言者性の徴の一つが含まれている。実際に、その日以来アル＝ジュフファは人々によって避けられるようになり、その水を飲む者は熱病にかかると言われている。[3]

---

[1] アル＝ブハーリー（1790）およびアフマド（24405）によって伝承された。
[2] アル＝ズルカーニーシャルフ・アル＝ズルカーニー第 5 巻 50 頁。
[3] アン＝ナワウィーシャルフ・サヒーフ・ムスリム第 9 巻 150 頁。

土曜日：サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール ― ʿアブドゥッラー・イブン・ʿアッバース（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、ʿアブドゥッラー・イブン・アル＝ʿアッバース・イブン・ʿアブドゥル＝ムッタリブ・イブン・ハーシム・イブン・ʿアブド・マナーフであり、クンヤ（敬称）はアブー・アル＝ʿアッバースとして知られている。彼は、バヌー・ハーシムが包囲されていた時期に、シʿブ（谷）において、ヒジュラの三年前に誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は背が高く、肌は白くやや黄色味を帯び、容貌は端正であり、知性に鋭く、非常に聡明で、記憶力に優れ、広大な知識を有していた。

彼はこのウンマの学者（ʿĀlim al-Ummah）およびクルアーンの解釈者（Tarjumān al-Qurʾān）という称号で知られていた。これは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の祈願の祝福によるものであった。

それは、彼が母方の叔母マイムーナ（アッラーの御満悦あれ）の家で一夜を過ごしたときのことである。彼は夜の間、預言者のウドゥー’（小浄）のための水を用意した。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が誰がそれを用意したのかと尋ねられると、彼女はそれがイブン・ʿアッバースであると伝えた。すると預言者は次のように祈願された。

アッラーよ、彼に宗教への理解を授け、そして彼に解釈を教え給え。[1]

彼は若い頃にクルアーンを暗記し、知識の探求に専心し、その人々と共に過ごし続けた結果、豊かな知識を得るに至った。

彼（アッラーの御満悦あれ）は言った。
私はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の存命中に、決定的な章々をまとめた。そして彼が逝去されたとき、私は十歳であった。[2]

また彼は言った。
ある人からハディースが伝えられると、私はその人のもとへ行った。ちょうど彼が昼の休息をとっている時であった。私は彼の家の戸口に自分の外套を敷き、風が私の上に砂を運んできてもそのまま待った。彼が外に出て私を見ると、こう言った。アッラーの使徒の従兄よ、なぜ私を呼びにやらなかったのですか。そうすれば私があなたのところへ行ったのに。私は答えた。私の方こそ、あなたのもとへ来て尋ねるにふさわしいのです。[3]

このようにして、彼（アッラーの御満悦あれ）は、その時代においてタフスィール（クルアーン解釈）における第一人者となり、イスラーム法学においてもその時代の最も卓越した法学者となった。

‘ウマルおよび‘ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）でさえ、バドルの戦いに参加した者たちと共に彼を招き、相談に加えた。そして彼は彼らの時代において法的判断（ファトワー）を示し、人々に教えた。

彼（アッラーの御満悦あれ）は言った。
‘ウマルは、私をバドルの古参者たちと共に会議に入らせていた。しかし彼らの中にはこれを快く思わない者もおり、なぜこの少年を我々の中に入れるのか。我々にも同じような子供がいるではないかと言った。すると‘ウマルは言った。彼は、あなたがたも知っている通りの者だ。

ある日、‘ウマルは私を彼らと共に呼び、こう尋ねた。
至高なるアッラーの御言葉
アッラーの助けと勝利が訪れるとき[4]
について、あなたがたはどのように解釈するか。

彼らの中のある者は言った。
勝利と征服が与えられたとき、アッラーを讃美し、御赦しを求めるよう命じられているのだ。

---

[1] アル＝ブハーリー（143）およびムスリム（2645）によって伝承された。
[2] アッ＝タバラーニー（10577）によって伝承された。
[3] アッ＝タバラーニー（20592）によって伝承された。
[4] ［アン＝ナスル章：1］

‘ウマルは言った。あなたも同じことを言うのか、イブン・‘アッバースよ。

私は言った。いいえ。

彼は言った。では、あなたはどう言うのか。

私は言った。それはアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の定められた時（寿命）であり、アッラーがそれを彼に知らせられたのです。

すると‘ウマルは言った。
私も、それについてはあなたの言ったこと以外には何も知らない。[1]

アブー・ワーイルは言った。
イブン・‘アッバースは、ハッジの季節において責任を任されていたとき、私たちに説教を行った。彼はスーラト・アン＝ヌール（Sūrat al-Nūr）から朗誦を始め、それを解釈した。私は心の中で繰り返し言った。私はこれほどの言葉を、これまで誰からも見たことも聞いたこともない。もしペルシア人、ローマ人、そしてトルコ人がこれを聞いたなら、彼らはイスラームを受け入れただろう。[2]

また彼（アッラーの御満悦あれ）は、多くの礼拝を行う者としても知られていた。

アブー・マリーカは言った。
私はイブン・‘アッバースと共にマッカからマディーナまで旅をした。彼は義務の礼拝の際には二ラクアを行い、そして途中で休むときには夜の半分を立って礼拝した。彼はクルアーンを一文字一文字朗誦しながら、すすり泣きと深いため息とともに激しく涙を流していた。[3]

また、ターウースは言った。
アッラーに誓って言うが、私はイブン・‘アッバースほどアッラーの聖なる限界（禁令）を敬う者を見たことがない。[4]

❖ 御逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 68 年、ターイフにおいて七十一歳で逝去した。葬儀の礼拝はムハンマド・イブン・アル＝ハナフィーヤが導いた。

---

[1] アル＝ブハーリー（4970）によって伝承された。
[2] アブー・ヌアイムヒルヤト・アル＝アウリヤー第 1 巻 324 頁。
[3] アッ＝ザハビースィヤル・ア‘ラーム・アン＝ヌバラー第 3 巻 352 頁。
[4] アブー・ヌアイムヒルヤト・アル＝アウリヤー第 1 巻 329 頁。

知識テスト — 第 45 週

モジュール	問題	選択肢	正解
タフスィール	アル＝カドブ（al-Qaḍb）の意味は何か。	[a] 夏の果実 [b] 地獄の民の食べ物 [c] 家畜の飼料	a
ハディース（ハディース）	クルアーンの言葉とその意味を学び、それを暗記し、熟考し、そしてそれに基づいて行動するよう努めることこれらすべては、誰に対する誠実な助言（ナスィーハ）に含まれるか。	[a] 至高なるアッラー [b] その御書（クルアーン） [c] 一般のムスリム	b
アキーダ（アキーダ）	地上の出来事を星占いの状態と結びつけることの حكم（法的判断）は何か。	[a] 大シルク（重大な多神崇拝） [b] 小シルク [c] 許されており問題はない	a
フィクフ（フィクフ）	次のうち、断食を無効にするものに**含まれない**ものはどれか。	[a] ヒジャーマ（Ḥijāmah：瀉血） [b] ワクチン注射 [c] 故意の嘔吐	b
スィーラ（Sīrah）	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、マディーナの熱病をどこへ移すよう祈願されたか。	[a] イエメン [b] ダマスカス [c] アル＝ジュフファ	c
サハーバ（Ṣaḥābah）	ʻアブドゥッラー・イブン・ʻアッバース（アッラーの御満悦あれ）の称号はどれか。	[a] クルアーンの解釈者 [b] 二つの証言を持つ者 [c] このウンマの信託者	a

46週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アン＝ナーズィアート章（Sūrat al-Nāziʿāt）〔第 1 部〕

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالنَّازِعَاتِ غَرْقًا (1) وَالنَّاشِطَاتِ نَشْطًا (2) وَالسَّابِحَاتِ سَبْحًا (3) فَالسَّابِقَاتِ سَبْقًا (4) فَالْمُدَبِّرَاتِ أَمْرًا (5) يَوْمَ تَرْجُفُ الرَّاجِفَةُ (6) تَتْبَعُهَا الرَّادِفَةُ (7) قُلُوبٌ يَوْمَئِذٍ وَاجِفَةٌ (8) أَبْصَارُهَا خَاشِعَةٌ (9) يَقُولُونَ أَإِنَّا لَمَرْدُودُونَ فِي الْحَافِرَةِ (10) أَإِذَا كُنَّا عِظَامًا نَخِرَةً (11) قَالُوا تِلْكَ إِذًا كَرَّةٌ خَاسِرَةٌ (12) فَإِنَّمَا هِيَ زَجْرَةٌ وَاحِدَةٌ (13) فَإِذَا هُمْ بِالسَّاهِرَةِ (14) هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ مُوسَى (15) إِذْ نَادَاهُ رَبُّهُ بِالْوَادِ الْمُقَدَّسِ طُوًى (16) اذْهَبْ إِلَى فِرْعَوْنَ إِنَّهُ طَغَى (17) فَقُلْ هَلْ لَكَ إِلَى أَنْ تَزَكَّى (18) وَأَهْدِيَكَ إِلَى رَبِّكَ فَتَخْشَى (19) فَأَرَاهُ الْآيَةَ الْكُبْرَى (20) فَكَذَّبَ وَعَصَى (21) ثُمَّ أَدْبَرَ يَسْعَى (22) فَحَشَرَ فَنَادَى (23) فَقَالَ أَنَا رَبُّكُمُ الْأَعْلَى (24) فَأَخَذَهُ اللَّهُ نَكَالَ الْآخِرَةِ وَالْأُولَى (25) إِنَّ فِي ذَلِكَ لَعِبْرَةً لِمَنْ يَخْشَى (26)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。激しく（魂を）引き抜く者たちにかけて。やさしく（魂を）取り去る者たちにかけて。（天を）滑るように進む者たちにかけて。互いに先を争って進む者たちにかけて。そして諸事を取り計らう者たちにかけて。その日、最初の震動が（万物を）激しく揺るがす。続いて第二の震動がそれに続く。その日、心は震えおののき、その目は伏し目がちになる。彼らは言う。本当に私たちは以前の状態に戻されるのか。たとえ私たちが朽ちた骨となったとしても。彼らは言う。それでは、それは損失の帰還ではないか。しかし、それはただ一度の叫びにすぎない。すると突然、彼らは地上に現れる。ムーサーの物語があなたに届いたであろうか。彼の主が聖なる谷トゥワーにおいて彼を呼ばれたとき。フィルアウンのもとへ行け。まことに彼は越権した。そして彼に言え。あなたは自らを清めようとはしないのか。そして私はあなたをあなたの主へと導こう。そうすればあなたは（主を）畏れるであろう。それで彼は彼に最大の徴を示した。しかしフィルアウンはそれを否定し、従わなかった。その後、彼は背を向けて努力し、人々を集めて叫び、私はあなたがたの最も高い主である。と言った。そこでアッラーは彼を最後と最初の罪のための懲罰によって捕らえられた。まことにその中には、（アッラーを）畏れる者への教訓がある。

❖ スーラのテーマ：

アッラー、その天使たち、そして来世への想起。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
وَالنَّازِعَاتِ غَرْقًا	al-Nāziʿāt gharqā	不信者の魂を激しく引き抜く天使たちへの誓い
وَالنَّاشِطَاتِ	al-Nāshiṭāt	信者の魂をやさしく取り去る天使たちへの誓い
وَالسَّابِحَاتِ	al-Sābiḥāt	天において昇降しながら進む天使たちへの誓い
فَالسَّابِقَاتِ	al-Sābiqāt	預言者たちへの啓示をもって悪魔たちに先んじる天使たち
فَالْمُدَبِّرَاتِ أَمْرًا	al-Mudabbirāt amrā	アッラーの命令を実行する天使たち
تَرْجُفُ الرَّاجِفَةُ	tarjufu al-rājifah	ラッパの最初の吹鳴によって地が震動すること
تَتْبَعُهَا الرَّادِفَةُ	tatbaʿuhā al-rādifah	それに続く復活のための第二の吹鳴
وَاجِفَةٌ	wājifah	恐怖に震える状態
خَاشِعَةٌ	khāshiʿah	目撃する恐怖のために伏し、低くなる状態
الحافِرَة	al-ḥāfirah	現世において彼らがあった元の状態
نَخِرَة	nakhirah	朽ちて腐った状態
كَرَّة	karrāh	再び戻ること、復活
زَجرَة	zajrah	一声の叫び、吹鳴
بِالسَّاهِرَةِ	bi’l-sāhirah	地上の表面において生き返ること
الآية الكبرى	al-āyah al-kubrā	最大の奇跡（杖と輝く手）
نَكال	nakāl	懲罰

❖ 全体的な意味：

アン＝ナーズィアート章（Al-Nāziʿāt）はマッカ啓示のスーラであり、その主題は信仰の三つの基礎に関わっている。すなわち、アッラーへの信仰、天使たちへの信仰、そして最後の日への信仰である。

この章は、高貴な天使たちへの誓いから始まる。彼らはアッラーの命令に完全に従う存在であり、死の際に魂を引き抜き、神の定めを実行し、その命令を迅速に果たす者たちである。ここでは魂の運命が描かれている。すなわち、不信者の魂は激しく取り去られ、信者の魂はやさしく取り去られるのである。

その後、この章は復活の日への想起へと移り、その恐ろしい出来事と、正しい者たちの結末と罪人たちの運命の違いを示す。

続いてムーサー（アッラーの平安あれ）の物語が言及される。これは預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）への慰めとして示されたものである。フィルアウンはクライシュの不信者たちよりもさらに暴虐で強力であったが、それでもアッラーは彼を滅ぼされ、彼はその懲罰から逃れることはできなかった。

❖ このスーラから得られる益：

1. 復活の日の恐怖を思い起こすことは、アッラーへの畏れを生み、善行へと人を促す。

2. アッラーへ招く者の偉大さと、その使命の高貴さ。
3. 真理へ招く者に対して語りかける際には、柔和さが必要であり、ダアワ（daʿwah）において忍耐が重要である。

月曜日：ハディース（ハディース）モジュール — タスビーḥ（Tasbīḥ）とタḥミード（Taḥmīd）の徳

アブー・マーリク・アル＝アシュアリー（アッラーが彼にご満悦あられますように）より伝えられる。彼は言った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：

清浄は信仰の半分である。
アル＝ハムドゥ・リッラー（al-ḥamdu lillāh）は秤を満たす。
スブḥアーナッラー（Subḥānallāh）とアル＝ハムドゥ・リッラーは、共に（あるいは）天と地の間を満たす。
礼拝は光であり、施しは証拠であり、忍耐は輝きであり、クルアーンはあなたのための証拠ともなり、あなたに不利な証拠ともなる。
すべての人は朝になると出て行き、自らの魂を売る。それによって自らを解放する者もいれば、破滅させる者もいる。[1]

❖ 解説：

祝福され崇高なる我らの主アッラーは、最も寛大で偉大なる御方である。
かれはその僕たちのために容易な行為を定め、それに対して計り知れない報奨を結びつけられた。このハディースはそのいくつかを明らかにしている。

• 清浄は信仰の半分である
ここでいう清浄とはウドゥー（wuḍūʾ：小浄）を指す。これは信仰の半分、すなわち礼拝の半分であると説明される。なぜなら礼拝は清浄なしには成立しないからである。これは、アッラーとその使徒が命じた通りにウドゥーを行うことの重要性を示している。

• アル＝ハムドゥ・リッラーは秤を満たす
ḥamd（称賛）とは、愛と崇敬を伴ってアッラーを完全性と威厳の属性によって称えることである。アッラーは称賛を愛され、それに対して大きな報奨を与えられる。この短い言葉は善行の秤を満たすほど重いのである。

• スブḥアーナッラーとアル＝ハムドゥ・リッラー
タスビーḥ（tasbīḥ）とは、アッラーをあらゆる欠点から清めて称えることである。これがḥamdと結びつくと、その報奨は天と地の間を満たすほどの無数の善行となる。なぜなら、それは肯定と否定の両面からアッラーの完全性を確証するからである。

• 礼拝は光である
礼拝はこの世と来世の両方において僕に光をもたらす。
それは罪と悪から人を遠ざける心の光であり、顔の光であり、墓の中の光であり、復活の日の光であり、審判の日の光である。

• 施しは証拠である
施しは信仰の真実性と偽善からの遠さを示す明確な証拠である。人の魂は本来財産を愛するものであるが、それを誠実に施すとき、それは真のイーマーン（信仰）の明白な証拠となる。

• 忍耐は輝きである
忍耐には三つの種類がある。

アッラーへの服従における忍耐

罪を避けるための忍耐

苦難の定めに対する忍耐

忍耐で自らを飾ることは輝きである。この世ではそれが心を照らし、最善の道と行いへ導く。そして来世では墓の中、復活の時、そして全能にして寛容なる主に会うときの光となる。

• クルアーンはあなたのための証拠、あるいはあなたに不利な証拠
クルアーンを信じ、その命令に従い、その禁止を避ける者にとって、クルアーンは審判の日に彼のための証拠となる。しかしそれに背き従わない者にとっては、彼に不利な証拠となる。

• すべての人は朝に出て行く
つまり人々は一日の始まりに大地へ散って行く。ある者は利益を求め、ある者は破滅へ向かう。すべての人は自らの魂を売るのである。ある者はそれをアッラーに売り、火獄から解放する。ある者はそれをシャイターンに売り、火獄によって滅ぼされるのである。

[1] ムスリムによる伝承（223）。

❖ このハディースから得られる益：

1. アッラーが命じ、その使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が説明された通りに、**ウドゥー（wuḍūʾ：小浄）を完全に行うことの重要性**。
2. **タスビーḥ（tasbīḥ）やタḥミード（taḥmīd）といった言葉によってアッラーを想起することの偉大な徳**、そして**礼拝（ṣalāh）と施し（ṣadaqah）の優れた価値**。

火曜日：アキー ダ（アキーダ）モジュール — シフル（Siḥr：魔術）

シフル（魔術）とは、呪文、まじない、護符、薬、燻蒸などから成るものであり、人の心と身体に影響を与える。それは病気、死、そして夫婦の間の離別を引き起こすことがある — ただしそれはアッラーの御許しによってのみである。

魔術は不信仰（クフル）であり、悪魔たちの行為の一つである。それはイスラームの信条（アキーダ）に反するものであり、なぜならそれはシルク（多神崇拝）の行為によってのみ成立するからである。至高なるアッラーは言われた：

しかし悪魔たちは不信仰に陥った。彼らは人々に魔術を教えたのである。[1]

また至高なるアッラーは、これを好み求める者には来世において何の分け前もないことを明らかにされた。至高なるアッラーは言われた：

そして彼らは確かに知っていた。それを買う者には来世において何の分け前もないことを。[2]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、これを七つの破滅的な罪（al-mūbiqāt）の一つとして挙げ、シルクと並べて言及された。彼は言われた：

七つの破滅的な罪を避けよ。
人々は言った。アッラーの使徒よ、それらは何ですか。
彼は言われた。
アッラーに同位者を設けること、そしてシフル（魔術）……。[3]

イマーム・アル＝サアディー（アッラーの慈悲あれ）は言った：

魔術は二つの側面からシルクに入る。
第一に、悪魔たちを用い、それに依存するという側面である。魔術師は彼らが望むことによって彼らに近づき、その奉仕と要求の達成を求めることさえある。
第二に、不可視の知識（ガイブ）を主張し、アッラーの知識においてかれと共有するかのように振る舞う側面である。またそれへ至る道を追い求めることである。これはシルクとクフルの枝の一つである。[4]

同様に、治療であれその他であれ魔術師のもとへ行く者の規定もまた、宗教から人を追い出すクフルである。

アブー・フライラ（アッラーが彼にご満悦あられますように）から伝えられるところによると、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：

占い師、魔術師、または予言者のもとへ行き、その言うことを信じる者は、ムハンマドに啓示されたものを確かに否定したのである。[5]

したがって、ムスリムは自らの信仰（アキーダ）を腐敗させ、あるいは損なうものから守る義務がある。
禁じられた治療法を用いてはならず、また治療を求めて魔術師や詐欺師のもとへ行ってはならない。なぜならそれは人の心と信仰を腐敗させるからである。そしてそれこそが真の病であり、タウヒード（tawḥīd）とイーマーン（īmān）によって治療されるべきものなのである。

誰であれアッラーに依り頼む者には、かれが十分であられる。

[1] クルアーン 2 章 102 節（アル＝バカラ）
[2] クルアーン 2 章 102 節（アル＝バカラ）
[3] 伝承：アル＝ブハーリー（2766）、ムスリム（89）
[4] アル＝カウル・アッ＝シャディード 97 頁
[5] 伝承：アル＝タバラーニー（10005）

水曜日：フィクフ（フィクフ）モジュール — ハッジ（Ḥajj）とウムラ

❖ ハッジとウムラの徳：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：

アッラーのためにハッジを行い、卑猥な言葉や罪を犯さなかった者は、母が彼を産んだ日のように（罪から清められて）帰る。[1]

また預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた：

一つのウムラから次のウムラまでの間の罪は、それによって償われる。そして受け入れられたハッジの報いは楽園以外にない。[2]

❖ ハッジとウムラの規定：

ハッジとウムラは、**能力のある者に対して生涯に一度義務**である。これを示す証拠には次のものがある。

• 至高なるアッラーは言われた：

人々に対して、アッラーのためにその館（カアバ）への巡礼を行う義務がある。それに至る道を見出すことができる者に対してである。しかし不信仰に陥る者がいても、まことにアッラーは万有に対して何の必要もない御方である。[3]

• また至高なるアッラーは言われた：

そしてアッラーのためにハッジとウムラを全うせよ。[4]

• また預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、アーイシャ（アッラーが彼女にご満悦あられますように）が女性にもジハードはありますかと尋ねたとき、次のように言われた：

はい。彼女たちには戦闘のないジハードがある。それは**ハッジとウムラ**である。[5]

• また、自分の父がハッジやウムラを行うことができないと述べた人物に対して、彼は言われた：

あなたの父に代わってハッジを行い、またウムラを行いなさい。[6]

❖ ハッジとウムラが定められた智慧：

アッラーは多くの偉大な理由と深い智慧のためにハッジとウムラを定められた。その中には次のものがある。

1. ṭawāf（カアバの周回）や saʿy（サファーとマルワの往復）など、すべての儀礼を行うことによって、至高なるアッラーに対する**謙遜としもべとしての服従を示すこと**。
2. 健康と財産という、人類に与えられた**最も大きな恩恵の一つに対してアッラーへ感謝を示すこと**。

[1] 伝承：アル＝ブハーリー（1521）、ムスリム（1350）
[2] 伝承：アル＝ブハーリー（1773）、ムスリム（1349）
[3] クルアーン 3 章 97 節（アール・イムラーン）
[4] クルアーン 2 章 196 節（アル＝バカラ）
[5] 伝承：アフマド（6/165）、イブン・マージャ（2901）
[6] 伝承：アブー・ダーウード（1810）、アン＝ナサーイー（5/111）

3. **信仰（イーマーン）、忍耐、そして自己と欲望に対する奮闘（ジハード・アン＝ナフス）において、魂を最高の段階へと鍛えること。**
4. **ムスリムの統一の最も偉大な徴の一つを示すこと。**
   彼らは一つの平原に集まり、同じ衣を身にまとい、同じ儀礼を行う。これは心の一致へと導く偉大な目的である。

木曜日：スィーラ（Sīrah）モジュール — 彼の預言者性の証明（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ アッラーの御許しによる、わずかな食物の増加：

アナス（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。アブー・タルハはウンム・スライムに言った。
私は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の声を聞いたが、飢えのために弱っているようであった。何か食べ物はあるか。彼女は言った。
はい。すると彼女は大麦のパンをいくつか取り出し、自分のスカーフを取り、その一部でパンを包み、私の手に持たせた。アナスは言った。
それから彼女は私をアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ送った。私は行ってみると、彼はモスクにおいて人々と共におられた。彼は言われた。
アブー・タルハがあなたを送ったのか。私は言った。はい。彼は言われた。
食べ物と共にか。私は言った。
はい。そこでアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼と共にいた人々に言われた。立ちなさい。人々は立ち上がり出発した。私は彼らより先に進み、アブー・タルハのもとへ行ってそのことを知らせた。アブー・タルハは言った。
ウンム・スライムよ、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が人々と共に来られたが、私たちには彼らに食べさせるものがない！彼女は言った。アッラーとその使徒が最もよく御存じです。

やがてアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
ウンム・スライムよ、あなたの持っているものをここへ持って来なさい。

彼女はパンを持って来た。するとアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、それを切るよう命じられた。

ウンム・スライムは少量の脂肪の入った小さな皮袋を絞り、それを調味として加えた。その後、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アッラーが御望みになるままにその食物の上で祈願された。それから言われた。十人を入れなさい。十人が入り、満腹になるまで食べてから出て行った。次に彼は言われた。さらに十人を入れなさい。彼らは入り、満腹になるまで食べてから出て行った。再び彼は言われた。さらに十人を入れなさい。

このようにして人々は順に入り続け、ついに七十人すべてが食べて満腹になった。[1]また、アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。アッラーのほかに崇拝されるべき神がない御方にかけて、私は飢えのために自分の腹を地面に押しつけ、また飢えのために腹に石を縛りつけていた。ある日、私は人々が通る道に座っていた。

そこへアブー・バクルが通りかかったので、私はアッラーの書（クルアーン）のある一節について彼に尋ねた。実のところ、彼が私に食べ物を与えてくれることを期待して尋ねたのである。次にウマルが通りかかったので、私は同じようにアッラーの書の一節について彼に尋ねた。それも、彼が私に食べ物を与えてくれることを期待してのことであった。その後、アブー・アル＝カーシム（アッラーの祝福と平安あれ）が通りかかった。彼は私を見ると微笑まれた。私の顔と心の内にあるものを知っておられたからである。彼は言われた。アバー・フッルよ。私は答えた。お仕えいたします、アッラーの使徒よ。彼は言われた。ついて来なさい。彼は歩き出し、私は彼に従った。やがて彼は家に入り、そこに一杯の乳があるのを見つけられた。彼は言われた。アバー・フッルよ私は答えた。お仕えいたします、アッラーの使徒よ。は言われた。スッファの人々のところへ行き、彼らを私のもとへ呼んで来なさい。スッファの人々とは、イスラームの客人であり、家族も財産もなく、頼る者もいない人々であった。私はこれを聞いて心を痛めた。そして思った。この乳は、スッファの人々にとってどれほどの役に立つだろうか。むしろ私こそ、これを飲んで力を回復するのにふさわしいのではないか。しかし、アッラーとその使徒への服従から逃れる道はなかった。そこで私は行って彼らを呼んだ。彼らは来て、入る許可を求め、許可されて家の中に座った。するとアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。アバー・フッルよ。私は答えた。お仕えいたします、アッラーの使徒よ。彼は言われたこれを取り、彼らに飲ませなさい。

[1] アル＝ブハーリー（3578）およびムスリム（2040）によって伝承された。

それで私は杯を取り、一人の男に渡した。彼は満腹になるまで飲み、それを私に返した。
それから私は別の者に渡し、彼も満足するまで飲んでから私に返した。
私はこのようにして続け、ついにはそこにいたすべての人々が飲み、満腹になった。
その後、私はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ行った。すると彼は杯を取り、それを手に置き、私を見て微笑まれた。
彼は言われた。アバー・フッルよ。私は答えた。お仕えいたします、アッラーの使徒よ。彼は言われた。残っているのは、あなたと私だけである。私は言った。
あなたのお言葉は真実です、アッラーの使徒よ。彼は言われた。座って飲みなさい。そこで私は座って飲んだ。すると彼は繰り返し言われた。飲みなさい。
ついに私は言った。あなたを真理と共に遣わされた御方にかけて、これ以上入る余地はありません。彼は言われた。それでは、それを私に渡しなさい。
そこで私は杯を彼に渡した。彼はアッラーを讃美し、その御名を唱え、それから飲まれた。

[1] アル＝ブハーリー（6452）によって伝承された。

土曜日：サハーバモジュール ― ʿアブドゥッラー・イブン・ʿウマル（アッラーが彼ら二人に満足されますように）

❖ 御名と御誕生：

彼は、ʿアブドゥッラー・イブン・ʿウマル・イブン・アル＝カッターブであり、彼のクンヤ（敬称）はアブー・ʿアブドゥッル＝ラフマーンであった。
彼はヒジュラの十年前、マッカにおいて誕生した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は高貴であり、優れた人格の持ち主であった。彼は幼少の頃、父であるʿウマル・イブン・アル＝カッターブと共にイスラームを受け入れ、十歳のときに彼と共にマディーナへ移住した。

彼の最初の戦いは**アル＝ハンダクの戦い**であった。というのも、彼は十四歳のとき、ウフドの日に預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の前に連れて来られたが、預言者は彼の参加を許されなかった。その後、十五歳のときアル＝ハンダクの日に再び連れて来られ、そのときは参加を許されたのである。[1]

その後、彼はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の生存中、また**正統カリフ**の時代においても、戦いや遠征を一度も欠かすことはなかった。

彼は**マッカ征服、ムウタの戦い、ヤルムーク、ヤマーマ、カーディスィーヤ、ジャルーラー**の戦いに参加し、さらにエジプトおよび北アフリカの地の征服にも加わった。

彼（アッラーの御満悦あれ）は、**教友たちの中でも最も知識に富む者の一人であり、またハディースを最も多く伝えた者の一人**であった。彼はマディーナにおいて、**およそ六十年にわたりムフティーとして人々に法判断を与え続けた。**彼は現世の事柄に対して禁欲的であり、敬虔で、夜の礼拝に勤勉であり、クルアーンによって深く心を動かされる人物であった。彼の解放奴隷ナーfiʿは言った。イブン・ʿウマルは、アル＝バカラ章の最後にある次の二節を朗誦するたびに、必ず涙を流した。あなたがたの魂の内にあるものを表そうと隠そうと、アッラーはそれについてあなたがたを清算される。[2] そして彼は言った。まことに、これは重大なことである。[3]

また彼は次の御言葉を朗誦するとき、信仰した者たちの心が、アッラーの想起に対してへりくだる時がまだ来ていないのか。[4] 涙に圧倒されるほど泣いたのであった。[5]

彼にはウドゥー’（小浄）のための水盤があり、夜になるとアッラーが彼に可能とされる限り礼拝を行った。その後、鳥がまどろむような短い眠りを取り、再び起きてウドゥー’を行い、礼拝をした。このようなことを夜の間に**四回から五回繰り返した**のである。[6]

[1] アル＝ブハーリー（4097）によって伝承された。
[2] ［アル＝バカラ章：284］
[3] ヒルヤト・アル＝アウリヤー’（1061）。
[4] ［アル＝ハディード章：16］
[5] ヒルヤト・アル＝アウリヤー’（1/305）。
[6] シヤル・アʻラーム・アン＝ヌバラー’（3/215）。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼を称賛し、その夢の解釈において彼を正しき者であると述べられた。

‘アブドゥッラーは、自分が夢の中で錦織の絹の一片を手にしており、それを楽園の望む場所へ向けると、そのままそこへ運ばれて行くのを見た。

ハフサはこのことを預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に伝えた。すると彼は言われた。
まことに、あなたの兄弟は正しき人である。[1]

彼（アッラーの御満悦あれ）は寛大であり、施しに財を費やし、貧しい者に対して慈悲深かった。

彼は言った。
次の御言葉が私の心に浮かんだ。

あなたがたは、自分の愛するものを費やすまでは、決して善（敬虔）に到達することはない。[2]

そこで私は、アッラーが私に授けられたものについて思い巡らした。そして、自分にとって最も愛しいものは女奴隷ルマイサであることに気づいた。そこで私は言った。
彼女はアッラーの御ために解放された。[3]

またあるとき、ムアーウィヤ（アッラーの御満悦あれ）は彼に十万ディルハムを送った。しかし一年も経たないうちに、彼はそれをすべて費やしてしまい、何一つ残していなかった。[4]

❖ 御逝去：

彼はヒジュラ暦 73 年、87 歳で逝去した。
そしてマッカにおいて、**ファッフ**と呼ばれる谷に埋葬された。

---

[1] アル＝ブハーリー（7015）およびムスリム（2478）によって伝承された。
[2] ［アーリ・‘イムラーン章：92］
[3] ヒルヤト・アル＝アウリヤー’（103）。
[4] ヒルヤト・アル＝アウリヤー’（103）。

知識テスト — 第 46 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アッラーの御言葉 **ナキラ（nakhirah）** の意味は何か。	[a] 腐敗したもの[b] 朽ちたもの[c] 激しいもの	**b**
ハディース（ハディース）	預言者の言葉**浄化はイーマーンの半分である**におけるイーマーンの意味は何か。	[a] タクワー[b] 礼拝[c] 正しい信条	**b**
アキーダ（アキーダ）	占い師のもとへ行き、その言うことを信じる者の حكم（法的判定）は何か。	[a] 大きなクフル[b] 小さなシルク[c] 小さなクフル	**a**
フィクフ（フィクフ）	女性に立法されているジハードは何か。	[a] 断食と礼拝[b] クルアーンの多くの朗誦[c] ハッジとウムラ	**c**
スィーラ（Sīrah）	アブー・フライラに対し、乳を飲むために呼ぶよう命じられた人々は誰であったか。	[a] アフル・アッ＝スッファ[b] バドルの人々[c] ハンダクの人々	**a**
サハーバ（Ṣaḥābah）	イブン・‘ウマル（アッラーの御満悦あれ）が最初に参加した戦いはどれか。	[a] ウフド[b] ハンダク[c] マッカ征服	**b**

47週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール – スーラト・アン＝ナーザーアート（パート 2）

أَأَنْتُمْ أَشَدُّ خَلْقًا أَمِ السَّمَاءُ بَنَاهَا (27) رَفَعَ سَمْكَهَا فَسَوَّاهَا (28) وَأَغْطَشَ لَيْلَهَا وَأَخْرَجَ ضُحَاهَا (29) وَالْأَرْضَ بَعْدَ ذَلِكَ دَحَاهَا (30) أَخْرَجَ مِنْهَا مَاءَهَا وَمَرْعَاهَا (31) وَالْجِبَالَ أَرْسَاهَا (32) مَتَاعًا لَكُمْ وَلِأَنْعَامِكُمْ (33) فَإِذَا جَاءَتِ الطَّامَّةُ الْكُبْرَى (34) يَوْمَ يَتَذَكَّرُ الْإِنْسَانُ مَا سَعَى (35) وَبُرِّزَتِ الْجَحِيمُ لِمَنْ يَرَى (36) فَأَمَّا مَنْ طَغَى (37) وَآثَرَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا (38) فَإِنَّ الْجَحِيمَ هِيَ الْمَأْوَى (39) وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِ وَنَهَى النَّفْسَ عَنِ الْهَوَى (40) فَإِنَّ الْجَنَّةَ هِيَ الْمَأْوَى (41) يَسْأَلُونَكَ عَنِ السَّاعَةِ أَيَّانَ مُرْسَاهَا (42) فِيمَ أَنْتَ مِنْ ذِكْرَاهَا (43) إِلَى رَبِّكَ مُنْتَهَاهَا (44) إِنَّمَا أَنْتَ مُنْذِرُ مَنْ يَخْشَاهَا (45) كَأَنَّهُمْ يَوْمَ يَرَوْنَهَا لَمْ يَلْبَثُوا إِلَّا عَشِيَّةً أَوْ ضُحَاهَا (46)

あなたがたの創造の方がより困難なのか、それとも天なのか。彼はそれを築かれた。*その高さを高く掲げ、整えられた。*その夜を暗くし、その昼の光を出現させられた。*その後、彼は地を広げられた。*そこからその水と牧草を出させ、*山々をしっかりと据えられた。*あなたがたとあなたがたの家畜のための糧として。*だが、圧倒的な大災厄が到来するとき、*その日、人は自分が努力してきたことを思い出す。*そして地獄の火は、見る者すべてに明らかに示される。*それゆえ、越境し、*現世の生活を好んだ者については、*まことに地獄こそがその住まいとなる。*しかし、その主の前に立つことを恐れ、魂を欲望から抑えた者については、*まことに楽園こそがその住まいとなる。*彼らはあなたに時（最後の時）について尋ねる。それはいつ到来するのか。*あなたにそれを述べる何の関わりがあるのか。*その最終的な知識は、あなたの主のもとに属する。*あなたはただ、それを恐れる者への警告者にすぎない。*彼らがそれを見る日には、まるで現世に留まったのは、ただ一日の午後、あるいは朝のひとときほどであったかのように感じるであろう。

❖ 諸節の主題：

アッラーと来世についての想起。

❖ 難しい語句の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
رَفَعَ سَمْكَهَا	rafaʿa samkahā	その天蓋（屋根）を高く掲げられた。
وَأَغْطَشَ لَيْلَهَا	wa-aghtaša laylahā	太陽が沈むことによって、その夜を暗くされた。
وَأَخْرَجَ ضُحَاهَا	wa-akhraja ḍuḥāhā	太陽の昇ることによって、その昼の光を出現させられた。

アラビア語の用語	音写	意味
دَحَاهَا	daḥāhā	地を広げ、その中に諸々の恩恵を置かれた。
وَمَرْعَاهَا	wa-marʿāhā	牧草地、すなわち植物から食されるもの。
أَرْسَاهَا	arsāhā	山々を杭のように地に据えられた。
الطَّامَّة	al-ṭāmmah	大災厄、すなわち第二のラッパの吹奏（復活）。
بَرَزَتْ	barazat	明らかに現れ、はっきり示される。
الْمَأْوَى	al-maʾwā	最終の住処、帰着地。
مَقَامَ رَبِّهِ	maqām rabbihī	審判のために主の前に立つこと。
أَيَّانَ مُرْسَاهَا	ayyān mursāhā	それはいつ定められた時に到来するのか。
فِيمَ أَنتَ مِن ذِكْرَاهَا	fīma anta min ズィクルāhā	あなたにはそれについて語る知識はない。
عَشِيَّةً	ʿashiyyah	正午から日没までの時間。
ضُحَاهَا	ḍuḥāhā	日の出から正午までの時間。

❖ 全体的な意味：

崇高なるアッラーは、復活を否定する者たちに対して明確な証拠をもって反駁される。それは、広大で巨大な構造を持ち、高く掲げられ、夜の暗闇と昼の光を包含する天の創造、そして広く広がり、堅固に据えられた山々と蓄えられた糧を備える大地の創造である。

やがて圧倒的な大災厄すなわち復活の日が到来するとき、人は自分の行った善悪の行為を思い出し、その日には自らの努力が成功か損失かを決定することを悟る。

越境し、現世の生活を好んだ者には地獄が住まいとなる。一方、自らの主の前に立つことを恐れ、欲望から魂を抑えた者には楽園が住まいとなる。

最後の時について嘲笑的に尋ねる不信仰者たちに対して、アッラーはその知識がただ御自身のみに属することを告げられる。そして使徒の務めは、それを恐れる者たちに警告することに限られる。

彼らがその日を目にするとき、現世に留まった期間は、まるで一日の午後か朝のひとときほどであったかのように感じるのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 天地の創造は、アッラーの偉大さと、死後の復活を可能にする御力の証拠である。
2. 最後の時の知識は不可視の事柄に属し、崇高なるアッラーのみがそれを知っておられる。
3. アッラーへの畏れと、欲望から魂を抑えることは、楽園に入る最も重要な理由の一つである。

月曜日：ハディース モジュール — 僕を守護するアズカール（Adhkār）の一つ

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。ある男が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに来て言った。
アッラーの使徒よ、昨夜、私はサソリに刺されて苦しみました。
彼は言われた。
もしあなたが夕方に次のように言っていたならば、あなたに害は及ばなかったであろう。
私は、アッラーの完全なる御言葉によって、彼が創造されたものの悪からの避難を求めます。[1]

❖ 解説：

ムスリムを害や悪から守る原因には、二つの種類がある。

1. **物質的原因**
   病気のときに薬を服用すること、寒いときに厚い衣服を着ることなど。
2. **シャルイー（宗教的）原因**
   朝夕のアズカールを守ること、ファジュル礼拝とイシャー礼拝を共同礼拝で行うことなど。

このハディースにおいて、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ムスリムがアッラーの御許しによって害や悪から守られるための**シャルイーな手段の一つ**を明らかにされた。

それは次の言葉を唱えることである。

Aʿūdhu bikalimāti Allāhi al-tāmmāti min sharri mā khalaq
（私は、アッラーの完全なる御言葉によって、彼が創造されたものの悪からの避難を求めます。）

その意味は、**いかなる欠陥や不完全さからも清められたアッラーの完全なる御言葉によって、被造物のあらゆる悪から保護を求める**ということである。

これを唱える者は、アッラーの御許しによって、サソリの刺し傷やその他の害から守られる。

したがって、ムスリムにとって、この祈願を**毎朝毎夕覚え、継続して唱えること**は重要である。

朝のアズカールの時間は**ファジュル礼拝の後から日の出まで**であり、夕方のアズカールは**アスル礼拝の後から日没まで**である。

もしその時間に忘れた場合は、思い出したときに唱えるべきである。

❖ このハディースから得られる益：

1. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が主に対して強く依り頼み、常に主を想起していたこと。
2. 預言者が、自らのウンマにとって有益なものを教えることに熱心であったこと。
3. ムスリムは、**宗教的手段と物質的手段の両方**を取り、それに従って行動することが求められる。
4. 朝夕のアズカールの重要性。それはアッラーの御許しによって、ムスリムを悪や悪魔から守る。

[1] ムスリム（2709）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — ルクヤー（Ruqyā）

ルクヤー（**Ruqyā**）：〔複数形：**ruqā**〕病人の癒やしのために朗誦を行うこと。

それは二つの種類に分けられる。

❖ 第一の種類：許容されるルクヤー
それはシルク（多神崇拝）を含まないものである。すなわち、クルアーンを病人の上で朗誦すること、あるいはアッラーの御名と御属性によって避難を求めること、または許容された祈願（ドゥアー）を用いることである。

これは許されている。なぜなら、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はルクヤーを行い、またそれを命じられたからである。

ʿアウフ・イブン・マーリク（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。

私たちはジャーヒリーヤの時代にルクヤーを行っていました。そこで私たちは言いました。
アッラーの使徒よ、それについてあなたはどのようにお考えですか。

すると彼は言われた。
あなたがたのルクヤーを私に示しなさい。そこにシルクが含まれていない限り、ルクヤーには害はない。[1]

イブン・ハジャルは言った。
学者たちは、次の三つの条件が満たされるとき、ルクヤーが許されることに一致している。

1. それがアッラーの御言葉、あるいはその御名と御属性によるものであること。
2. それがアラビア語であり、その意味が理解されていること。
3. ルクヤーそのものに力があると信じるのではなく、ただアッラーの定めによってのみ効果があると信じること。[2]

その方法：
病人の上で朗誦し、軽く息を吹きかけることができる。また、水に向かって朗誦してそれを患者に飲ませること、あるいは土の上で朗誦して痛みのある場所に置くこともできる。

ʿアイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、床に就くとき、両手に息を吹きかけながら

言え、かれはアッラー、唯一なる御方。
およびムアッウィザタイン（最後の二章）を共に朗誦し、それからその両手で顔と体の触れることのできる部分を拭っておられた。

そして彼が病気になったときには、私にそれを彼のために行うよう命じられた。[3]

また、サービト・イブン・カイスのハディースには次のようにある。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はバサーンの土を取り、それを杯の中に入れ、息を吹きかけ、それを彼の上に注がれた。[4]

[1] ムスリム（2200）によって伝承された。
[2] ファトフ・アル＝バーリー（10/195）。
[3] アル＝ブハーリー（5748）によって伝承された。
[4] アブー・ダーウード（3885）によって伝承された。

❖ 第二の種類：禁じられたルクヤ（Ruqyā）

これは、シルク（shirk：アッラーに同位者を配すること）を含むルクヤであり、アッラー以外のものに助けを求めたり、他の存在を呼び求めたりするものである。例えば、ジン、天使、預言者、正しき人々、あるいはその他の存在の名によって行われるルクヤなどがそれに含まれる。

これは重大なシルクであり、何の益ももたらさない。これは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が次のように言われた言葉において言及されたものである。

まことに、ルクヤ、護符（タマーイム）、そして愛の呪術（ティワラ）はシルクである。[1]

また、イブン・マスʿウード（アッラーの御満悦あれ）から、次のように伝えられている。

まことにアッラーは、あなたがたに禁じられたものの中に、あなたがたの治癒を置かれてはいない。[2]

[1] アフマド（3615）およびアブー・ダーウード（3883）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリーがムアッラク形式で伝承した（5614）。

水曜日：フィクフ モジュール — ハッジとウムラのマワーキート（Mawāqīt：定められた境界）

アル＝マワーキート・アル＝マカーニッヤ（al-Mawāqīt al-Makāniyyah：空間的境界）とは、ハッジ（Ḥajj）またはウムラを行う巡礼者が、イフラーム（iḥrām）に入らないまま越えてはならない境界である。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、イブン・'アッバース（アッラーの御満悦あれ）のハディースにおいて、これらを次のように説明された。

アッラーの使徒は、マディーナの人々のためのミーカートをズル＝フライファ（Dhū al-Ḥulayfah）と定め、シャームの人々のためにアル＝ジュフファ（al-Juḥfah）を、ナジュドの人々のためにカルン・アル＝マナーズィル（Qarn al-Manāzil）を、そしてイエメンの人々のためにヤラムラム（Yalamlam）を定められた。これらは彼らのためであり、また彼らの民でなくても、それらの場所を通過しハッジまたはウムラを意図する者のためでもある。これらの境界の内側に住む者は、彼の出発する場所がミーカートとなる。マッカの人々もまた、マッカから（イフラームに入る）。[1]

❖ その制定の英知：
アッラーの聖なる家（アル＝バイト・アル＝ハラーム）は非常に高い尊厳を有するものである。ゆえにアッラーはそれのために聖域（ハラム）を設けられ、その聖域のために保護された境界すなわちマワーキートを定められた。これらは、聖なる家を崇敬するために、イフラームに入ることなしには誰も越えてはならない境界である。

❖ マワーキートの詳細：

• ズル＝フライファ（Dhū al-Ḥulayfah）のミーカート：
マディーナの人々のためのものである。現在では都市の範囲内に含まれており、マスジド・アル＝ミーカート（Masjid al-Mīqāt）として知られている。

• アル＝ジュフファ（al-Juḥfah）のミーカート：
シャーム、エジプト、マグリブの人々のためのものである。今日では、人々はそこ、あるいはそれより手前で近接するラービグ（Rabigh）からイフラームに入る。マッカから約 200km の距離にある。

• カルン・アル＝マナーズィル（Qarn al-Manāzil）のミーカート：
ナジュドの人々のためのものである。現在ではアッ＝サイル（al-Sayl）として知られている。そこにはマッカへ向かう二つの道があり、一つはアッ＝サイルを通る道、もう一つはジャバル・カラ（Jabal Karā）を通る道である。マッカから約 70km の距離にある。

• ヤラムラム（Yalamlam）のミーカート：
イエメンの人々のためのものであり、マッカから約 70km の距離にある。

• ザート・ʿイルク（Dhāt ʿIrq）のミーカート：
イラクおよび東方の人々のためのものであり、マッカから約 70km の距離にある。

これらのマワーキートは、それぞれの地域の人々がイフラームに入る場所であり、またハッジまたはウムラを意図してそこを通過する者すべてに適用される。これらをイフラームに入らずに通過した者は、可能であれば戻ってそこからイフラームに入らなければならない。もしそれができない場合には、フィドヤ（fidyah）すなわち羊を一頭マッカで屠り、ハラムの貧者に分配することを捧げなければならない。

また、道が直接ミーカートを通らない者は、最も近いミーカートと並行する地点に達したときにイフラームに入らなければならない。ʿウマル（アッラーの御満悦あれ）は言った。

あなたがたの道において、それと並行する場所を見つけよ。[2]

同様に、飛行機で旅行する者も、空中でミーカートと並行する地点に達したときにイフラームに入らなければならない。そのため、搭乗前に沐浴（グスル）を行い、イフラームの衣を着て準備しておくべきである。そうすればミーカートに達したとき、すぐにイフラームに入ることができる。ジェッダに着陸してからイフラームに入るまで遅らせることは許されない。なぜなら、ジェッダはその住民にとってのみミーカートであり、他の者にとってはミーカートではないからである。

.[1] アル＝ブハーリー（1524）およびムスリム（1181）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（1531）によって伝承された。

• ハラム（マッカ）の住民について：
彼らはハッジ（Ḥajj）のためには自宅からイフラーム（iḥrām）に入り、ウムラのためにはハラムの外からイフラームに入る。例えば、アッ＝タンイーム（al-Tanʿīm）やアル＝ジʿラーナ（al-Jiʿrānah）などからである。
• マッカとマワーキートの間に住む人々（アフル・アル＝ヒルル Ahl al-Ḥill）について：
彼らのハッジおよびウムラのミーカート（miqāt）は、彼らの居住地からである。

木曜日：スィーラモジュール — 預言者性の証拠（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ アッラーによる敵からの保護：

彼の預言者性の証拠の一つは、至高なるアッラーが、彼が使徒として遣わされた時から、至高の仲間（アル＝ラフィーク・アル＝アʻラー）に加えられる時まで、彼を守護されたことである。アッラーは、多神崇拝者たちの策謀から彼を守り、嘲笑する者たちの嘲りを退け、彼の宗教を審判の日に至るまで保全された。

至高なるアッラーは仰せられた。
それゆえ、あなたが命じられたことを公然と宣べ伝え、多神崇拝者たちから背を向けよ。
まことに、われは嘲笑する者たちに対して、あなたにとって十分である。
彼らはアッラーとともに他の神を立てるが、やがて彼らは知ることになる。[1]

また仰せられた。まことに、あなたを憎む者こそが断絶される者である。[2]

また仰せられた。それゆえ、アッラーは彼らに対してあなたに十分である。かれは全聴にして全知である。[3]

また仰せられた。アッラーは人々からあなたを守護される。[4] もし彼が真にアッラーの使徒でなかったならば、アッラーは彼を確証し、援助し、その使命を顕現させることはなかったであろう。至高なるアッラーは仰せられた。

もし彼がわれらについて何らかの言葉を捏造したならば、
われは必ず彼の右手を捕え、
その後、彼の大動脈を断ち切ったであろう。
そして、あなたがたのうち誰一人として、われから彼を守ることはできなかったであろう。[5]

• この守護の実例の一つとして、アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられていることがある。アブー・ジャフルは言った。
ムハンマドは、あなたがたの中で顔を地面につけて礼拝しているのか。
人々は言った。はい。

彼は言った。
ラートとウッザーに誓って、もし彼がそうしているところを見たなら、私は彼の首を踏みつけてやる。

その後、彼は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が礼拝しているところへ向かった。すると突然、人々は彼が後ずさりし、両手で身を守るようにしているのを見

た。人々は言った。どうしたのだ。彼は言った。
まことに、私と彼との間には、火の溝と恐怖、そして翼がある。すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
もし彼が私に近づいていたならば、天使たちは彼を手足ごとに引き裂いていただろう。[6] • また、ジャービル・イブン・ʿアブドゥッラー（アッラーが彼ら二人に満足されますように）からの伝承がある。彼は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共に、ナジュド方面への遠征に出た。

預言者が帰還されたとき、彼は一本の木の下で休み、その枝に剣を掛けられた。人々は木陰を求めてそれぞれ散った。彼らが眠っている間に、多神崇拝者の一人がやって来て、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の剣を取り、それを鞘から抜いた。彼は言った。
お前は私を恐れるか。預言者は言われた。
いや。彼は言った。では、誰がお前を私から守るのか。預言者は言われた。アッラーである。

するとその男は剣を鞘に戻し、預言者は彼を罰しなかった。[7]

そして至高なるアッラーは次の御言葉を啓示された。アッラーは人々からあなたを守護される。[8]

[1] ［アル＝ヒジュル章：94–96］
[2] ［アル＝カウサル章：3］
[3] ［アル＝バカラ章：137］
[4] ［アル＝マーイダ章：67］
[5] ［アル＝ハーッカ章：44–47］
[6] ムスリム（2797）によって伝承された。
[7] アル＝ブハーリー（2910）およびムスリム（843）によって伝承された。
[8] ［アル＝マーイダ章：67］—Ṣaḥīḥ Asbāb al-Nuzūl（99 頁）参照。

• また、サラマ・イブン・アル＝アクワʿ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。
私たちは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共に、フナイン（Ḥunayn）の遠征に出た。彼らが預言者を圧倒したとき、彼はラバから降り、一握りの土を取って彼らの顔に投げつけて言われた。
顔が醜くなれ。
アッラーに誓って言うが、その一握りの土からアッラーが彼らの目に塵を満たされなかった者は一人もいなかった。こうして彼らは逃げ去り、アッラーは彼らを打ち破られた。[1]
• また、キスラー（Kisrā）が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の書簡を引き裂いたとき、預言者は彼らに対して、その王国が引き裂かれるよう祈願された。するとアッラーは、ペルシアの王国を完全に分断された。
一方、ヘラクレイオス（Heraclius）とアル＝ムカウキス（al-Muqawqis）は、預言者の書簡を尊重したため、彼らの王国は存続したのである。[2]

[1] ムスリム（1777）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（64）によって伝承された。アル＝ジャワーブ・アッ＝サヒーフ（6/273）。

土曜日：サハーバモジュール ― サフワーン・イブン・アル＝ムアッタル（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、サフワーン・イブン・アル＝ムアッタル・アッ＝スラミーであり、クンヤ（敬称）はアブー・‘アムルである。

❖ 生涯と徳：

サフワーン（アッラーの御満悦あれ）は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の正しき教友の一人であった。彼は詩人であり、高貴で勇敢な人物であった。

彼はアル＝ハンダクの戦いに参加し、その後はいかなる遠征にも欠けることがなかった。

彼は、アル＝イフク（中傷事件）の出来事と、それに関するアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の証言によって広く知られるようになった。預言者は彼について次のように言われた。
私は彼について善以外の何も知らない。[1]

これはヒジュラ後五年、アル＝ムライスィー‘遠征の際の出来事であった。このときサフワーン（アッラーの御満悦あれ）は軍の後方を進み、隊の後に残された物を集めていた。彼は通りかかった際に一人の姿を見かけ、近づいてみると、それは信徒たちの母である‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）であった。彼女は首飾りが切れてしまったために隊から遅れていたのである。

彼は言った。
まことに、私たちはアッラーのものであり、まことに彼のもとへ帰る者である。
そしてそれ以上は何も言わなかった。彼は自らのラクダを跪かせ、彼女をその上に乗せ、ラクダを導いて人々の隊に追いつくまで進んだ。その後、アル＝イフクの人々がこの出来事について語り、虚偽を広めたのである。

その後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は立ち上がり、アッラーを讃美してからこう言われた。
おおムスリムたちの集団よ、私の家族に関して私を傷つける者たちに対して、誰が私を弁護してくれるのか。私は私の家族について善以外の何も知らない。また彼らは、私の教友の一人を非難しているが、私は彼についても悪を何一つ知らない。しかも彼は、私が旅をするたびに常に私と共にいた者である。

その後、アッラーは彼女の潔白を明らかにする諸節を啓示された。[2]

❖ 御逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 60 年、ムアーウィヤ（アッラーの御満悦あれ）のカリフ在任の末期に、ユーフラテス川の西にあるスマイサートにおいて逝去した。

[1] アル＝ブハーリー（2637）およびムスリム（2770）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（4141）およびムスリム（2770）によって伝承された。

知識テスト — 第 47 週

モジュール	質問	選択肢	正解
Tafsīr	アッラーの御言葉 **daḥāhā** の意味は何か。	[a] それを巻き上げ折り畳んだこと[b] それを広げ、その中に諸々の恩恵を置いたこと[c] それを切り分けたこと	b
ハディース	夕方のアズカール（adhkār）の時間はいつから始まるか。	[a] ʿAṣr 礼拝の後から日没まで[b] ʿIshāʾ 礼拝の後から日の出まで[c] Ḍuḥā 礼拝の後から ʿAṣr のアザーンまで	a
アキーダ	許されるルクヤー（ruqyā）はどれか。	[a] クルアーンのみによるもの[b] 教友たちから伝えられたもの[c] シルク（多神崇拝）を含まないもの	c
フィクフ	ハラーム（マッカ）の居住者がハッジのためにイフラーム（iḥrām）に入る場所はどこか。	[a] 自分の家から[b] アッ＝タンイーム[c] アル＝ジウラーナ	a
Sīrah	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の手紙を引き裂いた者は誰か。	[a] ヘラクレイオス[b] キスラー[c] アル＝ムカウキス	b
Ṣaḥābah	サフワーン（アッラーの御満悦あれ）の生涯における最も有名な出来事の一つは何か。	[a] アル＝イフクの事件[b] 偶像の破壊[c] アビシニアへの移住	a

48週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — ナバア章 （Sūrat al-Nabaʾ）（第 1 部）

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

عَمَّ يَتَسَاءَلُونَ (1) عَنِ النَّبَإِ الْعَظِيمِ (2) الَّذِي هُمْ فِيهِ مُخْتَلِفُونَ (3) كَلَّا سَيَعْلَمُونَ (4) ثُمَّ كَلَّا سَيَعْلَمُونَ (5) أَلَمْ نَجْعَلِ الْأَرْضَ مِهَادًا (6) وَالْجِبَالَ أَوْتَادًا (7) وَخَلَقْنَاكُمْ أَزْوَاجًا (8) وَجَعَلْنَا نَوْمَكُمْ سُبَاتًا (9) وَجَعَلْنَا اللَّيْلَ لِبَاسًا (10) وَجَعَلْنَا النَّهَارَ مَعَاشًا (11) وَبَنَيْنَا فَوْقَكُمْ سَبْعًا شِدَادًا (12) وَجَعَلْنَا سِرَاجًا وَهَّاجًا (13) وَأَنْزَلْنَا مِنَ الْمُعْصِرَاتِ مَاءً ثَجَّاجًا (14) لِنُخْرِجَ بِهِ حَبًّا وَنَبَاتًا (15) وَجَنَّاتٍ أَلْفَافًا (16)

慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの御名において。
彼らは何について互いに問い合っているのか。* 偉大な知らせについて。* それについて彼らは意見を異にしている。* いや、彼らはいずれ知るであろう。* さらに、いや、彼らはいずれ知るであろう。* われらは大地を安らぎの場としなかったであろうか。* また山々を杭とし、* われらはあなたがたを対として創造し、* あなたがたの眠りを休息とし、* 夜を衣とし、* 昼を生計のための時とし、* あなたがたの上に七つの強固な（天）を築き、* そこに燃え輝く灯を設け、* また雨雲から豊かに降り注ぐ水を降らせ、* それによって穀物と草木を生じさせ、* そして生い茂る園を（生じさせた）。

❖ スーラの主題：

復活に対するアッラーの御力の証拠を提示し、それを否定する者たちへの警告。

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語の用語	音写	意味
عم	ʿam	何について／何に関して。
النبأ العظيم	al-naba’ al-ʿaẓīm	偉大な知らせ；復活の知らせを含むクルアーン。
مهادًا	mihādā	広げられ、安らぎの場のように整えられたもの。
أوتادًا	awtādā	杭；大地を安定させるもの（山々）。
أزواجًا	azwājā	種類；男性と女性。
سباتًا	subātā	身体の休息、活動の停止。
لباسًا	libāsā	覆うもの、その闇によって包み隠すもの。
معاشًا	maʿāshā	生計を求める時。
سراجًا وهّاجًا	sirājā wahhājā	強く輝く灯。
المعصرات	al-muʿṣirāt	雨雲。
ثجاجًا	tijājā	豊かに降り注ぐこと。

アラビア語の用語	音写	意味
جنّات ألفافًا	jannāt alfāfā	木々が絡み合う密生した園。

❖ 全体的な意味：

このスーラは、事柄の重大さを強調するための大きな問いかけによって始まる。すなわち、不信仰者たちは何について互いに論争し、問い合っているのか。それは偉大な知らせ、すなわち復活の知らせを含むクルアーンについてである。彼らはそれについて争い、ある時はそれを魔術と呼び、ある時は詩と呼び、またある時は作り話であると述べた。しかし真実は、彼らがまもなく自らの否認の現実を知るということである。

その後、アッラーはこの偉大な知らせの真実性を示す明確な証拠を列挙される。すなわち、人間のためのゆりかごのように広げられた大地、それを安定させる杭として据えられた山々、伴侶・愛情・慈悲・子孫のために対として創造された人間、休息のための覆いとしての夜、安らぎと回復のための眠り、上に築かれた強固な天、輝く太陽、豊かに降り注ぐ雨、それによって生じる穀物、植物、そして密生した園である。これらの偉大な恩恵を授けた御方を、どうして否定し、その御言葉を退けることができようか。

❖ このスーラから得られる益：

1. 偉大な知らせの真実性の確証と、そのしるしと証拠。
2. アッラーの創造の完全さと精妙さは、復活させる御力の証拠である。
3. 人類の生計と存続のために、彼らを取り巻くものを創造し、従わせられたことにおけるアッラーの大いなる恩恵。

月曜日：ハディース モジュール — アッラーの慈悲の広大さとその懲罰の厳しさ

アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）の伝えるところによれば、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。もし信仰者がアッラーのもとにある懲罰を知るならば、誰一人としてその楽園を望むことはないであろう。もし不信仰者がアッラーのもとにある慈悲を知るならば、誰一人としてその楽園に絶望することはないであろう。[1]

❖ 解説：

ムスリムは、アッラーへ向かう歩みにおいて、アッラーの懲罰への畏れとその慈悲への希望の両方を併せ持たなければならない。この均衡がなければ、人は極端へと陥る可能性がある。すなわち、アッラーの慈悲に絶望して自らに過度の重荷を課すか、あるいはアッラーの赦しに頼るあまり安心しきって罪に対して不注意になるかのいずれかである。
至高なるアッラーは仰せられた。わがしもべたちに告げよ。まことに、われこそは赦し深く慈悲深き御方である。* そして、わが懲罰こそは痛ましい懲罰である。[2]
信仰者の心の中に畏れと希望の両方が存在するとき、アッラーは彼に彼が望むものを授け、彼が恐れるものから彼を守られる。

❖ このハディースから得られる益：

1. 真のアッラーへの畏れは、しもべが禁じられた行為を犯すことを防ぐ。ゆえに彼は礼拝を怠らず、裏切らず、盗まず、それはアッラーを畏れるためである。
2. 真の希望は常に行為を伴う。すなわち、アッラーの恩恵と報いを望んで善行を行い、またアッラーの赦しと慈悲を望んで罪から悔い改めることである。
3. 真の畏れの実りの一つは、しもべが自らの行為に頼らず、それによって欺かれることがないことである。
4. 真の希望の実りの一つは、しもべがいかなる善行も軽視しないことである。小さな行為であっても、アッラーの慈悲をもたらすかもしれないからである。
5. 悔い改めや正しい行為を伴わない慈悲への希望は、シャイターンからの欺きと迷妄である。

[1] ムスリム（2755）によって伝承された。
[2] ［アル＝ヒジュル章：49–50］

火曜日：アキーダモジュール — 護符（al-Tamāʾim）

護符（tamāʾim、単数形 tamīmah）とは、病人、子ども、あるいは動物に掛けられる物であり、害を退けたり取り除いたりするためのお守りとして用いられるものである。それらは腕輪、首飾り、紐、その他の付着物の形を取ることがある。

❖ **護符には二種類がある：**

1. クルアーンから作られた護符：
   この種類の規定について、学者たちは見解を異にした。
   o 第一の見解：許容される。これはʿアブドゥッラー・イブン・ʿアムル（アッラーの御満悦あれ）の見解である。
   o 第二の見解：禁止される。これはイブン・マスʿウード、イブン・ʿアッバース、フダイファ、ʿウクバ・イブン・ʿアーミル、そしてイブン・ハキーム（アッラーが彼らに満足されますように）の見解であり、またイブン・マスʿウードの仲間を含むター ビイーンの一団もこれを支持した。

第二の見解が正しい。その理由は三つある：
o 次に挙げられるハディースにおける一般的な禁止であり、いかなる例外も示されていないこと。
o 手段を遮断するためである。なぜなら、それを許せば他の許されない護符をも許す道を開くことになるからである。
o このような形でクルアーンを掛けることは、それを軽んじる結果につながる。例えば用を足す際にそれを身につけたままにするなど、類似の状況が生じるからである。

2. クルアーン以外から作られた護符：
   例えば、珠、紐、革、布などである。これは全会一致で禁止されており、シルクに当たる。なぜなら、それは心を至高なるアッラー以外のものに結び付けることになるからである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。護符を身につける者は、確かにシルクを犯した。[1]
また彼は言われた。何かに依り頼む者は、それに委ねられる。[2]
すなわち、アッラーはその人を、彼が依り頼んだもの被造物、護符、あるいは墓などに任せてしまわれるという意味である。その結果、彼は弱さと失敗に委ねられる。それらのものは彼に益をもたらすことも、害から守ることもできない。こうして彼の信条は腐敗し、彼とその主との結びつきは断たれる。
しかし、アッラーにしがみつき、アッラーに避難を求め、事柄をアッラーに委ねる者に対しては、アッラーが彼にとって十分であり、彼を守り、遠いものを近づけ、困難なものを容易にされる。

[1] アフマド（17422）によって伝承された。
[2] アッ＝ティルミズィー（2027）によって伝承された。

水曜日：フィクフ（フィクフ）モジュール — ḥajj（ハッジ）および ʿumrah（ウムラ）のためのイフラーム（Iḥrām）

❖ イフラーム（Iḥrām）のスンナ（推奨行為）：

ハッジまたはウムラを意図する者には、イフラームに入る前に、いくつかの望ましい行為を行って自らを整えることが勧められている。これは、この礼拝行為を最も完全な状態で始めるためである。これらの推奨行為の中には、次のものが含まれる。

1. **グスル（ghusl：全身浄）を行うこと。**
   なぜなら、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、イフラームに入る際にグスルを行われたからである。[1]
2. **身を清めること。**
   すなわち、口髭を整えること、腋毛や陰毛を剃ることなど、取り除くことが定められているものを必要に応じて除去することである。もし必要がなければ、それらを取り除くべきではない。これらは必要に応じて行うものであり、イフラーム特有の行為ではないからである。
3. **身体に香料をつけること。**
   ʿアイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った。
   私は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がイフラームに入る前、またイフラームを解いた後にカアバをタワーフ（周回）される前に、香料をつけて差し上げていた。[2]
4. **男性は清潔な白いイザール（izār）とリダーʾ（ridāʾ）を選ぶこと。**
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
   あなたがたの衣服の中で最良のものは白である。ゆえにそれを着なさい。そしてあなたがたの死者をそれで包みなさい。[3]
5. **礼拝（ṣalāh）の後にイフラームに入ること。**
   預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がそうされたからである。[4]
6. **イフラームに入った時から、タルビヤ（talbiyah）を頻繁に唱えること。**
   次のように言う。

ラッバイク・アッラーフンマ・ラッバイク。ラッバイカ・ラー・シャリーカ・ラカ・ラッバイク。インナ・アル＝ハムダ・ワ・アン＝ニʿマタ・ラカ・ワ・アル＝ムルク。ラー・シャリーカ・ラク。

（ここにおります、アッラーよ、ここにおります。ここにおります、あなたに並ぶものはありません。ここにおります。まことに、すべての称賛と恩恵、そして主権はあなたのものです。あなたに並ぶものはありません。）[5]

❖ イフラームに入る方法：

最初の行為はイフラームそのものであり、これは 儀礼的献身の状態に入る意図（ニーヤ） を意味する。

それがイフラームと呼ばれるのは、ムスリムがそれによって、以前は合法であったいくつかの事柄を自らに禁じるからである。例えば、婚姻、香料の使用、爪を切ること、頭髪を剃ることなどである。

礼拝行為の状態に入ることを意図する際には、心の中で意図を立て、さらに舌でそれを言い表して次のように言う。

ラッバイカ・アッラーフンマ・ハッジャン
（ここにおります、アッラーよ、ハッジのために。）

または、

ラッバイカ・アッラーフンマ・ウムラ
（ここにおります、アッラーよ、ウムラのために。）

---

[1] アッ＝ティルミズィー（830）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（1539）およびムスリム（1189）によって伝承された。
[3] アブー・ダーウード（3878）およびアッ＝ティルミズィー（994）によって伝承された。
[4] アル＝ブハーリー（2337）によって伝承された。
[5] アル＝ブハーリー（1549）およびムスリム（1184）によって伝承された。

もし病気やその他の事情など、何かが彼を妨げることを恐れる場合には、イフラームに入った後に条件（シュルト）を付けることが定められている。次のように言うのである。

アッラーフンマ・マハッリー ハイス・ハバスタニー
（アッラーよ、もしあなたが私を妨げられるならば、私のイフラームの終了は、その妨げられた場所においてとしてください。）[1]

[1] アル＝ブハーリー（5089）およびムスリム（1207）によって伝承された。

木曜日：スィーラ（Sīrah）モジュール — 彼の預言者性のしるし（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 病める者を癒されたこと：

• その一例として、ʻアリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）の目を、アッラーの御許しによって癒された出来事がある。ハイバル（Khaybar）の戦いの日、サフル・イブン・サアド（アッラーの御満悦あれ）は次のように伝えている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

明日、私はこの旗を、アッラーがその手によって勝利を与えられる一人の男に必ず授けるであろう。彼はアッラーとその使徒を愛し、またアッラーとその使徒も彼を愛しておられる。

その夜、人々はそれが自分に与えられるのではないかと考えながら夜を過ごした。

翌朝、彼らは皆、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ行き、それぞれ自分に与えられることを望んでいた。

彼は言われた。ʻアリー・イブン・アビー・ターリブはどこにいるのか。

人々は言った。
彼は目を患っております。

そこで彼を呼びにやり、彼は連れて来られた。

するとアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼の目に唾をつけ、彼のために祈願された。すると彼は、まるで何の痛みもなかったかのように癒された。

それから預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼に旗を授け、次のように言われた。

落ち着いて進み、彼らの居住地に到達するまで行きなさい。それから彼らをイスラームへ招き、アッラーの権利として彼らに義務づけられている事柄を知らせなさい。アッラーにかけて言うが、もしアッラーがあなたを通して一人の人を導かれるならば、それはあなたにとって赤い駱駝よりも優れているのである。[1]

• またこの中には、サラマ・イブン・アル＝アクワʻ（アッラーの御満悦あれ）の脚を癒された出来事も含まれる。ヤズィード・イブン・アビー・ʻウバイドは言った。

私はサラマの脚に打撃の跡を見た。そこで私は彼に言った。
アバー・ムスリムよ、この傷は何ですか。

彼は言った。
これはハイバルの日に私を打った一撃である。人々はサラマが打たれたと言った。そこで私は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ連れて行かれた。すると彼はそれに三度息を吹きかけられた。それ以来、今日に至るまで私はそれによって苦しむことはなかった。[2]

• またこの中には、‘アブドゥッラー・イブン・‘アティーク（アッラーの御満悦あれ）の脚を癒された出来事もある。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アンサールの男たちの一団を送り、‘アブドゥッラー・イブン・‘アティークを彼らの指導者に任命して、ユダヤ人アブー・ラーフィ‘を討つよう命じられた。彼はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に害を加え、彼に対して敵を援助していた人物であり、ヒジャーズ地方の要塞に住んでいた。

‘アブドゥッラーは言った。

私たちが彼のもとに近づいたとき、太陽は沈み、人々は家畜と共に戻って来ていた。私は仲間たちに言った。
ここに留まっていてくれ。私は先に進み、門番を欺いてみよう。おそらく中に入ることができるだろう。

私は進み、ついにアブー・ラーフィ‘のところへ到達することができた。私は彼を見分け、彼を殺した。

その後、私は扉を一つ一つ開けながら進み、やがて階段のところへ来た。そこで足を踏み外して落ち、脚を折ってしまった。

私はそれをターバンで縛り、門のそばに座った。そして言った。
今夜は、私が彼を殺したことを確かめるまで、ここを離れない。

やがて鶏が鳴くと、告知する者が城壁の上に立って言った。
ヒジャーズの民の商人、アブー・ラーフィ‘の死を告げる！

そこで私は仲間たちのところへ戻り、言った。
逃げよう。アッラーがアブー・ラーフィ‘を滅ぼされたのだ。

[1] アル＝ブハーリー（4210）およびムスリム（2406）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（4206）によって伝承された。

私はその後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ行き、そのことを報告した。すると彼は言われた。

あなたの脚を伸ばしなさい。

私は脚を伸ばした。すると彼はそれを撫でられた。すると、まるでそれまで全く何の痛みも受けたことがなかったかのように回復したのである。[1]

[1] アル＝ブハーリー（4039）によって伝承された。

土曜日：サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール ― ʿアンマール・イブン・ヤースィル（アッラーの御満悦あれ）

❖ 彼の名と誕生：

彼は、ʿアンマール・イブン・ヤースィル・イブン・ʿアーミル・イブン・マーリク・イブン・キナーナであり、彼のクンヤ（敬称）（通称）はアブー・アル＝ヤクザーンであった。

彼はヒジュラの 56 年前にマディーナで生まれ、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）とほぼ同年代として成長した。[1]

❖ 彼の生涯と徳：

ʿアンマール（アッラーの御満悦あれ）は、背が高く、肩幅が広く、巻き毛であった。彼は読み書きを知っており、口数が少なく、多くの場合沈黙していた。[2]

彼は早期にイスラームを受け入れ、マッカにおいて迫害された者たちの一人であった。彼と彼の父、そして母は、アッラーのために激しい拷問を受けた。するとアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は彼らに言われた。

忍耐せよ、ヤースィルの家族よ。まことに、あなたがたに約束されている場所は楽園である。[3]

ʿアブドゥッラー・イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）は言った。公然とイスラームを宣言した最初の七人は、次の者たちであった。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）、アブー・バクル、ʿアンマール、彼の母スーマイヤ、スハイブ、ビラール、そしてアル＝ミクダードである。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）については、彼の叔父アブー・ターリブを通してアッラーが彼を守られた。アブー・バクルについては、彼の部族によってアッラーが彼を守られた。

しかし残りの者たちは、多神教徒たちに捕らえられ、鉄の鎧を着せられ、太陽の下にさらされたのである。[4]

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、いくつかのハディースにおいて彼を称賛し、その信仰を高く評価された。その一つとして、次の御言葉がある。まことに、ʿアンマールはその骨の奥深くに至るまで信仰に満たされている。[5]

また、ある時、彼が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ入る許可を求めたとき、預言者は言われた。

善良で清らかな者よ、ようこそ。[6] 彼は**アビシニア（エチオピア）へ移住し、その後マディーナ**へも移住した。

彼は**バドルの戦い**に参加した。そして、信仰を持つ両親を持つ者でバドルに参加した者は、彼以外にいなかった。

また彼は**ウフド**、そしてアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共にすべての戦いに参加した。

ヤマーマの戦いの日、戦闘が激しくなったとき、彼は大いなる勇気を示した。彼は岩の上に登り、その耳の一部が切り落とされていたにもかかわらず、こう叫んだ。

ムスリムたちよ！あなたがたは楽園から逃げようというのか？！
私はʿアンマール・イブン・ヤースィルである。私のもとへ来なさい！

そして彼は大いなる勇敢さをもって戦ったのである。[7]

---

[1] アル＝ハーキム（3/385）によって伝承された。
[2] Ḥilyat al-Awliyāʾ（1/145）。
[3] アッ＝タバラーニー（1508）およびアル＝ハーキム（5666）によって伝承された。
[4] アフマド（3823）およびイブン・マージャ（150）によって伝承された。
[5] アル＝ハーキム（5680）によって伝承された。
[6] アル＝ブハーリーアル＝アダブ・アル＝ムフラド（1031）によって伝承された。
[7] Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ（1/422）。

❖ 彼の逝去：

彼はヒジュラ暦37年に、91歳で殉教した。‘アリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）は、彼を胸に抱えて運び、ムスリムたちと共に彼のために葬送礼拝（ジャナ―ザ）を行い、その後、彼をその衣服のまま埋葬した。

知識テスト — 第 48 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アル＝ムウスィラート（al-Muʿṣirāt）とは何を意味するか。	[a] 雨をもたらす雲。[b] そびえ立つ山々。[c] 力強い船。	a
ハディース（ハディース）	真の希望（ラジャー’）から生じるものの一つは何か。	[a] しもべが自分の行いに頼って欺かれないこと、また善い行いを軽んじないこと。[b] しもべがどのような善行も軽視しないこと。[c] しもべが極端になり、いくつかの許された行為を放棄してしまわないこと。	a
アキーダ（アキーダ）	病人や子ども、あるいは動物に、害を退けたり取り除いたりするために掛けられる護符とは、何の定義か。	[a] ルクヤ（Ruqyah）。[b] ティワーラ（al-Tiwālah）。[c] タマーイム（al-Tamāʾim：護符）。	c
フィクフ（フィクフ）	イフラーム（iḥrām）の推奨行為の一つは何か。	[a] 意図（ニーヤ）。[b] 入浴（グスル）。[c] ミーカート（mīqāt）からイフラームに入ること。	b
スィーラ（Sīrah）	ユダヤ人アブー・ラーフィʿを討ったのは誰か。	[a] サラマ・イブン・アル＝アクワʿ。[b] ʿアブドゥッラー・イブン・ʿアティーク。[c] サアド・イブン・ムアーズ。	b
サハーバ（Ṣaḥābah）	ʿアンマール（アッラーの御満悦あれ）の徳の一つとして、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が述べられた言葉はどれか。	[a] まことに彼は正しい人物である。[b] まことに聖霊はあなたを助けている。[c] 善良で清らかな者よ、ようこそ。	c

49週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アン＝ナバア章（Sūrat al-Nabaʾ）（第 2 部）

إِنَّ يَوْمَ الْفَصْلِ كَانَ مِيقَاتًا (17) يَوْمَ يُنْفَخُ فِي الصُّورِ فَتَأْتُونَ أَفْوَاجًا (18) وَفُتِحَتِ السَّمَاءُ فَكَانَتْ أَبْوَابًا (19) وَسُيِّرَتِ الْجِبَالُ فَكَانَتْ سَرَابًا (20) إِنَّ جَهَنَّمَ كَانَتْ مِرْصَادًا (21) لِلطَّاغِينَ مَآبًا (22) لَابِثِينَ فِيهَا أَحْقَابًا (23) لَا يَذُوقُونَ فِيهَا بَرْدًا وَلَا شَرَابًا (24) إِلَّا حَمِيمًا وَغَسَّاقًا (25) جَزَاءً وِفَاقًا (26) إِنَّهُمْ كَانُوا لَا يَرْجُونَ حِسَابًا (27) وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا كِذَّابًا (28) وَكُلَّ شَيْءٍ أَحْصَيْنَاهُ كِتَابًا (29) فَذُوقُوا فَلَنْ نَزِيدَكُمْ إِلَّا عَذَابًا (30)

まことに、決定の日は定められた時である。ラッパ（角笛）が吹かれる日、あなたがたは群れをなして来るであろう。また天は開かれ、多くの門となる。そして山々は動かされ、蜃気楼のようになる。まことに地獄は待ち伏せている。それは越境する者たちの住まいであり、彼らはそこに長い時代の間とどまる。そこでは、いかなる涼しさも飲み物も味わうことはない。ただし、沸き立つ湯と膿を除いて。—それは相応しい報いである。まことに彼らは清算を期待していなかった。また、われらの印を完全な否定をもって否定した。しかし、われらはすべてを記録に数え上げている。それゆえ味わえ。われらはあなたがたに苦痛以外の何も増し加えることはない。

❖ 難しい語句の解説：

アラビア語	音写	意味
ميقاتا	Mīqātan	被造物の間で裁きが行われる、定められた時。
الصور	al-Ṣūr	イスラーフィールが吹くラッパ（角笛）。
أبوابًا	Abwāban	天が多くの門となり、天使が降りてくること。
وسيرت	Wusṣīrat	しっかりと据えられていた山が引き抜かれ、吹き飛ばされること。
مرصادًا	Mirṣādan	人々を待ち伏せし、見張っていること。
أحقابًا	Aḥqāban	終わることのない長い時代。
بردًا	Bardan	地獄の熱から身体を冷やすものすべて。
حميما	Ḥamīman	極度に熱せられた沸騰の水。
غساقًا	Ghasāqan	地獄の民から流れ出る膿。
وفاقًا	Wifāqan	彼らの行いに正確に対応した正当な報い。
لا يرجون	Lā yarjūn	彼らは恐れず、期待もしないこと。
أحصيناه	Aḥṣaynāhu	われらがそれを数え上げ、行為の記録に保存したこと。

❖ 全体的な意味：

至高なるアッラーは、すべての被造物のために定められた復活の日の偉大さを思い起こさせられる。その日には巨大な変動が起こる。山々は動かされて散った塵のようになり

、天は裂けて多くの門となる。そしてアッラーは誤りなき完全な正義によって被造物の間を裁かれる。

地獄は燃え立たされ、越境する者たちの住まいとして準備されている。彼らはそこに数え切れないほどの長い時代とどまり続ける。その中では身体を冷やすいかなる安らぎもなく、渇きを癒す飲み物もない。ただし、顔を焼き内臓を切り裂く沸騰の水と、地獄の民の膿だけである。それは臭いにおいても味においても耐え難いものである。

この恐るべき罰は、彼らの行いに正確に対応した正当な報いである。アッラーは彼らを不当に扱われたのではない。彼ら自身が自らを不正に扱ったのである。彼らは清算の日を信じず、来世のための備えもしなかった。また、アッラーのしるしを露骨な拒絶によって否定した。

アッラーは彼らのすべての行いを正確な記録の中に数え上げられている。そして彼らの報いは、決して減少することなく、ただ強さと激しさにおいて増し加えられる苦痛なのである。

❖ このスーラから得られる益：

1. 審判の日とその恐るべき出来事についての想起。
2. 来世の恐怖を思い出すことは、不注意を癒し、善行への動機となる。
3. 不正と暴虐に対する警告と、その罰の明確化。
4. 人間は無意味に創造されたのではなく、大いなる知恵によって創造され、偉大な日に清算される。
5. 天使たちは、しもべたちのすべての行い（小さなものも大きなものも、善も悪も）を記録している。
6. 不信仰者のためにアッラーが準備された罰の説明。
7. 地獄における不信仰者の苦痛は、絶えず強さと激しさにおいて増大する。

月曜日：ハディース（ハディース）モジュール — 至高なるアッラーに対して良い期待を抱くことの命令

ジャービル・イブン・'アブドゥッラー（アッラーが彼ら二人に満足されますように）から伝えられている。彼は言った：
私は、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が、そのご逝去の三日前にこう言われるのを聞いた：

あなたがたの誰一人として、アッラー（威光高大なる御方）に対して最善の期待を抱いている状態以外で死んではならない。[1]

❖ 解説：

信仰者は常に主に対して良い期待（ḥusn al-ẓann）を抱くべきであり、とりわけ困難、災難、試練、病気、そして死が近づく時にはなおさらである。そうした時には、アッラーの寛大さと慈悲深さを思い起こし、その御慈悲と赦しを望むべきである。

それは、良い結末と祝福された言葉によって困難を乗り越える助けとなる。しもべがアッラーに対して良い期待を抱き、御許にあるものへの希望を高く持つほど、アッラーはその希望を失望させることなく、その行いを無駄にされることもない。

一方で、アッラーに対して悪い期待を抱くことは、アッラーについての無知のしるしであり、罪への耽溺や自らに不要な苦難を課すことへと導く。

❖ このハディースから得られる益：

1. 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が、その臨終の病の中においてさえ、共同体（ウンマ）を導こうとされた強い配慮と深い慈悲。
2. 絶望や希望喪失への警告、そしてアッラーに対する良い期待と希望を持つことへの励まし。
3. ムスリムは、アッラーへの良い期待を善行の動機とすべきであり、行動を放棄したり罪に耽ったりする理由としてはならない。そうしたものは単なる幻想に過ぎない。
4. 良い期待の一つとして、しもべが祈願（ドゥアー）する時、アッラーがそれを受け入れてくださると信じること、罪を犯して悔悟する時、アッラーが赦してくださると信じること、善行を行う時、それが受け入れられると信じることである。
5. 悪い期待の一つとして、しもべが服従行為を行いながらアッラーはそれを受け入れないだろうと思うこと、また罪を犯して悔悟した後にアッラーは赦してくださらないだろうと思うことである。

---

[1] ムスリム（2877）による伝承。

火曜日：アキーダ（アキーダ）モジュール — ムスリム統治者への服従

アフル・アル＝スンナ・ワ・アル＝ジャマーア（Ahl al-Sunnah wa-al-Jamāʿah）の信条の基本原則の一つ、また彼らの宗教の基礎の一つは、ムスリムの統治者に対して聞き従い、服従する義務である。
アッラーの明確なる御書、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の真正なスンナ、そして初期の世代およびその後の世代のムスリム学者たちの合意（イジュマーʿ）はすべて、ムスリム統治者に服従する義務と、彼に対して反乱を起こすことの禁止を示している。

この義務は、彼らがそれによってアッラーを崇拝する宗教的義務であり、彼らがそれによってアッラーに服従する信条であり、また報奨を望む礼拝行為の一つでもある。

至高なるアッラーこそが人類を創造された御方である。
彼は人間の本性、彼らの必要、そして彼らの諸事情を正すものを最もよく知っておられる。すべての善は、アッラーの命令に従い、その立法に従うことにある。

至高なるアッラーは仰せられた。

信仰する者たちよ、アッラーに従いなさい。また使徒に従い、そしてあなたがたの中の権威を持つ者たちにも従いなさい。もし何事かについて意見が分かれたならば、それをアッラーと使徒に委ねなさい。もしあなたがたがアッラーと終末の日を信じているならば。それが最も善く、また最もよい帰結である。[1]

ʿウバーダ・イブン・アル＝サーミト（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。
彼は言った。

私たちはアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に対して忠誠を誓った。すなわち、困難のときにも容易なときにも、好むときにも好まぬときにも聞き従うこと、また他者が自分たちより優先された場合であっても従うこと、そしてその権威を持つ者と争わないことを誓った。ただし、あなたがたがアッラーからの明白な証拠を伴う明白な不信仰を見る場合を除いてである。[2]

このウンマを最も思いやった預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、人がどんなに小さな事柄であってもムスリム共同体から離れることのないよう勧め、その結果として生じる悪を強く警告された。

彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

誰であれ、自分の統治者から気に入らないものを見る者は、それに対して忍耐しなさい。まことに、共同体からわずか一握りでも離れて死ぬ者は、無明時代（ジャーヒリーヤ）の死に方で死ぬのである。[3]

また彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

誰であれ服従から手を引く者は、復活の日にアッラーと会うとき、自分のための証拠を何も持たない。そして、首に忠誠の誓約（バイ‘ア）を持たずに死ぬ者は、ジャーヒリーヤの死に方で死ぬのである。[4]

---

[1] ［アン＝ニサー章：59］
[2] アル＝ブハーリー（7055）およびムスリム（1709）によって伝承された。
[3] アル＝ブハーリー（7054）およびムスリム（1849）によって伝承された。
[4] ムスリム（1851）によって伝承された。

理性そのものも、このことを最も明白に証明している。すなわち、あらゆる共同体には服従される統治者が存在することが、知恵と利益にかなっているということである。彼は人々の諸事を管理し、彼らの利益を守り、財産と名誉を保護し、礼拝や諸々の崇拝行為を容易にし、彼らがウムラおよびハッジを行うことを可能にし、隊列を一つにまとめ、言葉を強固にし、その地位と尊厳を高め、そして敵を退けるのである。

水曜日：フィクフ（フィクフ）モジュール — イフラーム（iḥrām）の禁止事項

イフラームの禁止事項とは、巡礼者がイフラームの状態に入った後に禁じられる事柄のことである。これらは全部で八つある。

1. 髪を剃ること
頭髪であれ体毛であれ剃ること。至高なるアッラーは仰せられた。

そして、供犠の動物がその屠殺の場所に到達するまで、あなたがたの頭を剃ってはならない。[1]

しかし、髪を洗うことは許されている。実際、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、イフラームの状態のときに頭を洗われた。[2]

2. 爪を切ること
手や足の爪を切ることである。もし爪が割れて、それを取り除いた場合には罪はない。

3. 男性が頭を覆うこと
頭に直接触れるもので覆うことである。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、ターバンやフード付き外衣を着用することを禁じられた。[3]

しかし、テントや木、あるいは傘の下で日陰を求めることは許されている。実際、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のためにテントが張られ、彼はイフラームの状態でそこに滞在された。[4]

4. 男性が縫製された衣服を着ること
すなわち、体に合わせて仕立てられた衣服（シャツ、ズボン、上着など）を着ることである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は次のように尋ねられた。
イフラームの巡礼者は何を着ることができますか。

彼は答えられた。
シャツ、ターバン、フード付き外衣、ズボン、サフランまたはワルス（黄色の染料）で染められた衣服、そして革靴下（フッフ）を着てはならない。[5]

女性については、身体を覆うために必要な衣服を着ることが許されている。ただし二つを除く。すなわちニカーブ（顔覆い）と手袋である。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
イフラームの女性はニカーブも手袋も着けてはならない。[6]

しかし、男性が通り過ぎるときには、ベールで顔を覆わなければならない。

‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）は言った。
私たちがイフラームの状態でアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共にいるとき、騎乗者たちが私たちのそばを通り過ぎることがあった。彼らが近づくと、私たちの一人はジルバーブを顔の上に下ろした。そして彼らが通り過ぎると、再び顔を出した。[7]

5．香水をつけること
身体または衣服に香水をつけることである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、香水をつけていたイフラームの巡礼者に対して、それを洗い流すよう命じられた。[8]

また、イフラームの状態で乗っていた動物に踏まれて亡くなった男性について、彼は言われた。
彼に香水をつけてはならない。[9]

---

[1] ［アル＝バカラ章：196］
[2] アル＝ブハーリー（1840）およびムスリム（1205）によって伝承。
[3] アル＝ブハーリー（1838）およびムスリム（1177）によって伝承。
[4] ムスリム（1184）によって伝承。
[5] アル＝ブハーリー（1838）およびムスリム（1177）によって伝承。
[6] アル＝ブハーリー（1838）によって伝承。
[7] アブー・ダーウード（1833）によって伝承。
[8] ムスリム（1180）によって伝承。
[9] ムスリム（1206）によって伝承。

6. 陸上の動物を狩ること
至高なるアッラーは仰せられた。
信仰する者たちよ、イフラームの状態にある間は獲物を殺してはならない。[1]
また仰せられた。
あなたがたがイフラームの状態にある間は、陸上の獲物はあなたがたに禁じられている。[2]
したがって、イフラームの巡礼者は陸上の動物を狩ってはならず、また狩りを助けることも、彼自身が狩ったもの、あるいは彼のために狩られたものを食べることも許されない。
しかし、海の獲物は許されている。アッラーは仰せられた。
海の獲物とその食物は、あなたがたに合法とされた。[3]
同様に、鶏や羊のような家畜動物は許されている。
7. 婚姻契約を結ぶこと
ムフリム（イフラームの状態にある者）は、自ら結婚することも、他者の婚姻を取り持つことも、また求婚することもできない。
‘ウスマーン（アッラーの御満悦あれ）は言った。
ムフリムは結婚してはならず、結婚を取り持ってもならず、また求婚してもならない。[4]
8. 性交およびその前段階となる行為
欲望を伴う接触や接吻なども含まれる。
至高なるアッラーは仰せられた。
その中でハッジを自らに義務づけた者は、性交（ラファス）をしてはならない。[5]

[1] ［アル＝マーイダ章：95］
[2] ［アル＝マーイダ章：95］
[3] ［アル＝マーイダ章：96］
[4] ムスリム（1409）によって伝承。
[5] ［アル＝バカラ章：197］

木曜日：スィーラ（Sīrah）モジュール — 彼の預言性の証明（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 彼が語った未来の不可視の事柄：

彼の預言性の証明の一つは、彼が将来の不可視の事柄について知らせ、それが彼の告げた通りに、少しの違いもなく実際に起こったことである。

至高なるアッラーは、読み書きのできない預言者であり、古代の学問や過去の人々の記録を知らなかった御使いに、過去に起こったこと、そして将来起こることの知らせを、完全な真実と現実として啓示された。

至高なるアッラーは仰せられた。

それはわれらがあなたに啓示する不可視の知らせの一つである。それ以前には、あなたもあなたの民もそれを知らなかった。だから忍耐せよ。まことに最良の結末は敬虔な者たちのものである。[1]

クルアーンの中には、アッラー御自身、天使たち、御玉座、そして上と下の被造物、天と地、またその間にあるものについての真実の報告が数多く含まれている。これらは重大な事柄であり、決定的な証拠によって裏付けられている。

またそこには、諸民族とその預言者たちの物語、そしてアッラーがどのように信者を救い、不信者を滅ぼされたかが語られている。それは人間が生み出すことのできない言葉の様式で語られている。

時には物語は簡潔でありながら明確で雄弁であり、また時には最も美しく心を動かす形で詳述されている。その描写は非常に生き生きとしており、聞く者はまるでその出来事を自分の目の前で見ているかのように感じるほどである。

至高なるアッラーは仰せられた。

われらが（ムーサーを）呼びかけたとき、あなたはその山の傍らにいたわけではない。しかしそれはあなたの主からの慈悲として（あなたが遣わされたのである）。[2]

また仰せられた。

それはわれらがあなたに啓示する不可視の知らせの一つである。マルヤムの世話を誰が引き受けるかを決めるために彼らがくじの筆を投げたとき、あなたは彼らと共にいたわけではない。また彼らが争っていたときも、あなたはそこにいたわけではない。[3]

また仰せられた。

それはわれらがあなたに啓示する不可視の知らせの一つである。彼らが計略を巡らし共謀していたとき、あなたは彼らと共にいたわけではない。[4]

❖ 彼が告げた不可視の知らせのうち、実際にその通りに実現したものの例：

• マッカにおいて預言者の使命の初期に啓示されたスーラト・アル＝ムッザンミルの御言葉：

彼は、あなたがたの中に病む者がいること、またアッラーの恩恵を求めて地上を旅する者がいること、そしてアッラーの道のために戦う者がいることを知っておられる。[5]

アッラーの道で戦うこと（ジハード）は、後になってヒジュラの後、マディーナで初めて立法されたものであった。

• また同じくマッカ期に啓示されたスーラト・アル＝カマルの御言葉：

それとも彼らはわれらは互いに助け合う集団であると言うのか。その集団はやがて敗北し、背を向けて逃げ去るであろう。[6]

これは**バドルの戦いの日**に実現した。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が避難所から出て来られたとき、この節を朗誦されたのである。

---

[1] ［フード章：49］
[2] ［アル＝カサス章：46］
[3] ［アーリ・イムラーン章：44］
[4] ［ユースフ章：102］
[5] ［アル＝ムッザンミル章：20］
[6] ［アル＝カマル章：44–45］

• スーラト・アル＝ファトフにおける御言葉：
まことにアッラーは、その使徒の夢を真実として実現された。あなたがたは、もしアッラーが望まれるなら、安全な状態でアル＝マスジド・アル＝ハラームに入るであろう。あなたがたは頭を剃り、または髪を短くし、何ものも恐れることはない。[7]
この約束はヒジュラ暦6年、**フダイビーヤ**の時に啓示され、ヒジュラ暦7年のウムラト・アル＝カダー（償いのウムラ）において実現した。
• スーラト・アル＝ルームにおける御言葉：
ローマ人は最も近い地で敗北した。しかし彼らは、その敗北の後、数年のうちに勝利するであろう。[8]
ペルシア人がローマ人を打ち破ったとき、多神教徒たちは喜び、信者たちは悲しんだ。なぜならキリスト教徒は拝火教徒よりも彼らに近い存在であったからである。そこでアッラーは、ローマ人がまもなくペルシア人に勝利することを御使いに知らせられた。そして、その通りに実現したのである。
• スーラト・アル＝ヌールにおける御言葉：
アッラーは、あなたがたのうち信仰し善行を行う者たちに約束された。かれらを必ず地上における継承者とされるであろう。[9]
実際にアッラーはその宗教に力を与え、それを諸国に広められた。それは正統カリフ（アル＝フラファー・アル＝ラーシドゥーン）の時代に明確に実現したのである。

[7] ［アル＝ファトフ章：27］
[8] ［アル＝ルーム章：1–3］
[9] ［アル＝ヌール章：55］

土曜日：サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール — ʿイムラーン・イブン・フサイン（アッラーの御満悦あれ）

❖ 彼の名前と誕生：

彼は **ʿイムラーン・イブン・フサイン・イブン・ʿウバイド** であり、**フザーア族**の出身である。
彼、彼の父、そして **アブー・フライラ**（アッラーが彼らすべてに満足されますように）は、**ヒジュラ後 7 年**に同じ年にイスラームを受け入れた。

❖ 彼の生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、徳高く学識あるサハーバの一人であり、真実を語り、敬虔で信心深く、アッラーとその使徒（アッラーの祝福と平安あれ）への服従に深く献身していた。

また彼は、**祈りが受け入れられる者**の一人であり、アッラーへの畏れのためにしばしば涙を流していた。

彼（アッラーの御満悦あれ）は、衣服や外見の美しさでも知られていた。

アブー・ラジャーは言った。
あるときʿイムラーンは、これまで見たことのないほど立派なハッズ（絹混紡の衣服）の外套を着て私たちのところに現れた。

するとアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

まことに、アッラーがしもべに恩恵を授けられるとき、彼はその恩恵の跡がそのしもべの上に見られることを好まれる。[1]

ʿウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）は、彼を**バスラ**へ派遣し、人々に宗教を教えさせた。

バスラの人々は彼を深く愛し、熱心に彼から知識を求めた。

アル＝ハサン・アル＝バスリーと**イブン・スィーリーン**は言った。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のサハーバで、バスラに来た者の中で、ʿイムラーン・イブン・フサインより徳高い者はいなかった。[2]

彼（アッラーの御満悦あれ）は、死の前に **30 年間病を患った**が、その間、見事な忍耐をもって耐え忍んだ。

その期間、アッラーは彼にいくつかの奇跡を授けられた。その一つとして、**天使たちが彼の家の側から彼にサラームを送っていた**ことが挙げられる。[3]

❖ 彼の死：

アッラーは彼の魂を、**ヒジュラ暦 53 年、バスラ**において病床にあるときに召された。

[1] アフマド（4/438）
[2] *Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ*（4/126）
[3] ムスリム（1226）

知識テスト — 第 49 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	アル＝ガッサーク（al-ʿghasāq）の意味は何か。	[a] 地獄の住人の膿。[b] 煮えたぎる熱湯。[c] とげのある木。	a
ハディース（ハディース）	ムスリムは、アッラーに対する良い期待によって何へと導かれるべきか。	[a] 善行。[b] 安楽と休息。[c] 任意の行為を減らすこと。	a
アキーダ（アキーダ）	私たちは、容易なときにも困難なときにも、好むときにも好まぬときにも聞き従い、またその権威を持つ者と争わないことを誓ったと言ったのは誰か。	[a] アブー・フライラ。[b] ʿウバーダ・イブン・アル＝サーミト。[c] ムアーズ・イブン・ジャバル。	b
フィクフ（フィクフ）	イフラーム（iḥrām）の禁止事項はいくつあるか。	[a] 4 つ。[b] 7 つ。[c] 8 つ。	c
スィーラ（Sīrah）	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が予告し、その通りに起こった不可視の出来事の一つはどれか。	[a] ハムザ・イブン・ʿアブドゥル＝ムッタリブの殉教。[b] バドルにおける多神教徒の敗北。[c] サルマーン・アル＝ファーリスィーの改宗。	b
サハーバ（Ṣaḥābah）	ʿウマル・イブン・アル＝ハッターブ（アッラーの御満悦あれ）は、ʿイムラーン・イブン・フサインをどこの人々の教師として派遣したか。	[a] バスラ。[b] ダマスカス。[c] エジプト。	a

50週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — スーラト・アン＝ナバア（第 3 部）

إِنَّ لِلْمُتَّقِينَ مَفَازًا (31) حَدَائِقَ وَأَعْنَابًا (32) وَكَوَاعِبَ أَتْرَابًا (33) وَكَأْسًا دِهَاقًا (34) لَا يَسْمَعُونَ فِيهَا لَغْوًا وَلَا كِذَّابًا (35) جَزَاءً مِنْ رَبِّكَ عَطَاءً حِسَابًا (36) رَبِّ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا الرَّحْمَنِ لَا يَمْلِكُونَ مِنْهُ خِطَابًا (37) يَوْمَ يَقُومُ الرُّوحُ وَالْمَلَائِكَةُ صَفًّا لَا يَتَكَلَّمُونَ إِلَّا مَنْ أَذِنَ لَهُ الرَّحْمَنُ وَقَالَ صَوَابًا (38) ذَلِكَ الْيَوْمُ الْحَقُّ فَمَنْ شَاءَ اتَّخَذَ إِلَى رَبِّهِ مَآبًا (39) إِنَّا أَنْذَرْنَاكُمْ عَذَابًا قَرِيبًا يَوْمَ يَنْظُرُ الْمَرْءُ مَا قَدَّمَتْ يَدَاهُ وَيَقُولُ الْكَافِرُ يَا لَيْتَنِي كُنْتُ تُرَابًا (40)

まことに、敬虔な者たちには成功がある。（そこには）園とぶどう畑があり、そして同じ年頃の豊かな胸をもつ乙女たち、また満ちあふれる杯がある。そこでは無益な言葉も偽りも聞くことはない。それはあなたの主からの報奨であり、十分に与えられる賜物である。（かれは）天と地、そしてその間にあるすべての主、慈悲あまねき御方である。彼らはかれに対して語る権限を持たない。その日、御霊と天使たちは列をなして立つ。慈悲あまねき御方が許された者以外は語ることができず、また語る者は正しいことだけを語る。それが真実の日である。だから望む者は主のもとへ帰る道を取るがよい。まことにわれらは、近い懲罰についてあなたがたに警告した。その日、人は自らの手が差し出したものを見るであろう。そして不信者は言う。ああ、私は土であったならよかったのに。

❖ 難語解説:

アラビア語	転写	意味
مَفَازًا	Mafāzan	勝利、成功（楽園に入ること）
كَوَاعِبَ	Kawāʿib	胸のふくらんだ若い乙女たち
أترابا	Atrabā	同じ年頃の者たち
دِهَاقًا	Dihāqan	縁まで満たされた（酒の杯）
لَغْوًا	Laghwā	無益・空虚な言葉
حِسَابًا	Ḥisāban	豊かで十分な報酬
الرُّوح	al-Rūḥ	ジブリール（ガブリエル、彼に平安あれ）
مَتَابًا	Matāban	善行による帰還（主への回帰）

❖ 全体の意味:

犯罪者たちの運命を述べた後、アッラーは続いて敬虔な者たちに用意された恩恵を描写される。彼らには成功と救いがあり、広大で豊かな楽園の園において様々な果実と流れる川の恵みを享受する。

彼らには美しい妻たちが与えられ、年齢・若さ・美しさにおいて互いに釣り合っている。また、純粋で心地よい酒に満ちた杯から飲み、そこでは無益な言葉も偽りも聞くことはない。

この偉大な報酬は、アッラーの恵みから与えられる贈り物であり、彼らの行いが楽園の代価として定められた結果である。

さらにアッラーは、その日すべての被造物が沈黙して立ち、天使たちさえもかれの許しなく語ることができないという様子を示し、その主権と偉大さを強調される。語られるのは真実のみである。

それは真実の日であり、虚偽の入り込む余地はない。人はそれぞれ自分の行いの結果を見る。敬虔な者たちは喜び、不信者たちは深い後悔に襲われ、その激しい悲しみと絶望のために自分が土であったならよかったと願うのである。

❖ このスーラからの教訓：

1. 敬虔な者たちのためにアッラーが準備された報酬への吉報は、人々に努力と忍耐を促す。
2. タクワー（アッラーへの畏れと意識）は楽園に入る鍵である。
3. 無益な言葉や虚偽から耳を守ることは、楽園の祝福の一つである。
4. この現世は行動と努力の場である。
5. すべての被造物はアッラーのしもべであり、かれの御定めと命令の前に弱く従う存在である。
6. 無関心と遊戯の中で人生を浪費した者には、激しい後悔が訪れる。

月曜日：ハディース（ハディース）モジュール — 災難は罪の償いとなる

‘アーイシャ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼女は言った。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

いかなるムスリムも、棘が刺さること、あるいはそれ以上のものに苦しめられることがあっても、それによって彼のために一つの位階が記され、またそれによって彼の罪が一つ消されるのである。[1]

❖ 解説：

アッラーが信仰するしもべを愛されることの現れの一つは、彼を災難によって試されることである。
それは病気であったり、心配、不安、悲しみ、あるいは苦悩である。

ムスリムに降りかかるどのような災難も、もし彼が忍耐し報奨を求めるならば、彼にとって善となる。これは、そのような状況における忍耐が次のような利益をもたらすからである。

- 信者は忍耐を通してアッラーを崇拝し、自分の必要と依存をアッラーに示す。
- 試練によって彼の罪や過ちが償われる。
- 彼の位階が高められ、自分の行いだけでは到達できなかった地位へ引き上げられる。

❖ このハディースからの教訓：

1. 信仰するしもべに対するアッラーの恩恵と慈悲。たとえ最も小さな苦痛であっても、それによって罪が赦される。
2. ムスリムは災難に直面したとき、忍耐と受容をもって向き合い、至高なるアッラーからの報奨を求めるべきである。
3. 災難に対して不満や憤りを示すことは罪であり、非難を招き、報奨を失わせ、また神の定めに対する異議となる。

[1] アル＝ブハーリー（5646）およびムスリム（2572）によって伝承された。

火曜日：アキーダモジュール — アフル・アル＝バイト（Ahl al-Bayt）の徳と彼らに対して義務づけられていること

❖ アフル・アル＝バイトとは誰か？

アフル・アル＝バイトとは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の家族であり、彼らにはサダカ（ṣadaqah：施し）が禁じられている者たちである。これには、‘アリーの家系、ジャ‘ファルの家系、‘アキールの家系、アル＝‘アッバースの家系、ならびにアル＝ハーリス・イブン・‘アブドゥル＝ムッタリブの子孫が含まれる。また、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の妻たちおよび娘たちも含まれる。

❖ アフル・アル＝バイトの徳：

• 至高なるアッラーは仰せられた。
まことにアッラーは、預言者の家の人々よ、あなたがたから不浄を取り除き、あなたがたを完全に清めようと望まれるだけである。[1]

• 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
まことにアッラーはイスマーイールの子孫の中からキナーナを選ばれ、キナーナの中からクライシュを選ばれ、クライシュの中からバヌー・ハーシムを選ばれ、そしてバヌー・ハーシムの中から私を選ばれたのである。[2]

• また彼（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
私はあなたがたにアッラーの御名によって思い起こさせる。私の家族についてである。
私はあなたがたにアッラーの御名によって思い起こさせる。私の家族についてである。
私はあなたがたにアッラーの御名によって思い起こさせる。私の家族についてである。[3]

❖ 彼らの権利と、彼らに対して義務づけられていること：

アフル・スンナ・ワル＝ジャマー‘ア（Ahl al-Sunnah wa’l-Jamā‘ah）は、アフル・アル＝バイトの権利を、過度でも怠慢でもない、敵意も誇張も伴わない、均衡の取れた正しい道において認める。

それゆえ、アフル・スンナは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の家族を愛し、彼らに対して忠誠を示し、彼らを敬い、彼らに関する預言者の遺言を守る。なぜなら、彼らを愛することは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を愛することの一部だからである。

しかしこれは、彼らがスンナに従い、宗教において正しくある場合に限られる。もしスンナに反し、信仰から逸脱する者があれば、たとえ彼がアフル・アル＝バイトの一員であったとしても、その者に忠誠は示されない。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安

あれ）は言われた。
その行いによって遅れを取る者は、その血統によって前へ進められることはない。[4]

また、アフル・スンナは、アフル・アル＝バイトに敵意を抱き、彼らを中傷するナーシビー（Nāṣibī）たちの道から離れる。同様に、アフル・アル＝バイトについて誇張し、彼らに無謬性を主張したり、彼らを通して取り次ぎを求めたり、さらには彼らを礼拝の対象とするような極端派の道からも離れる。

実際、アフル・アル＝バイト自身も、自分たちに対する誇張を退け、自分たちについて極端に走った者たちから距離を置いたのである。

[1] ［アル＝アハザーブ章：33］
[2] ムスリム（2267）によって伝承された。
[3] ムスリム（2408）によって伝承された。
[4] ムスリム（2699）によって伝承された。

実に、信徒の長アリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）は、彼について過度に誇張した極端派の者たちを焼き処刑した。イブン・‘アッバースは、彼らを処刑すること自体には同意したが、焼き処刑することについては彼と見解を異にした。
また、アリー（アッラーの御満悦あれ）は、極端派の首領であった‘アブドゥッラー・イブン・サバ’を処刑しようとしたが、彼は逃亡した。[1]

[1] アル＝ブハーリー（2854）によって伝承された。イブン・‘アサーキルタリーフ・ディマシュク（29/7）。

水曜日：フィクフ モジュール — イフラーム（Iḥrām）違反に対する贖罪（フィドヤ Fidya）

巡礼者がイフラームの状態において、禁止事項のいずれかを**知りつつ、故意に、かつ覚えている状態で**犯した場合、その者には贖罪（フィドヤ fidya）が義務づけられる。

違反に対するフィドヤは、次の四つの種類に分けられる。

1. 狩猟動物を殺した場合の贖罪：
次の三つの選択肢の中から一つを選ぶことができる。

• 自分が殺したものに相当する家畜を屠ること。
• あるいは、その相当価値によって食料を購入し、貧者に施すこと。
• あるいは、貧者一人分の食料に相当する日数だけ断食すること。

至高なるアッラーは仰せられた。

信仰する者よ、あなたがたがイフラームの状態にあるとき、獲物を殺してはならない。あなたがたの中で故意にそれを殺した者には、自分が殺したものに相当する家畜を贖いとして差し出さなければならない。それは、あなたがたの中の公正な二人によって判定され、カアバへ捧げられる供物として運ばれる。または、貧者に食物を施す贖罪、あるいはそれに相当する断食である。[1]

2. 性交を行った場合の贖罪：
これはハッジ（Ḥajj）とウムラのいずれも無効にする。したがって、それらをやり直さなければならず、さらに贖罪が義務づけられる。

• ハッジの最中に性交を行った場合：雌ラクダを屠る。
• ウムラの最中に性交を行った場合：羊を屠る。

3. 婚姻契約を結ぶこと：
イフラームの状態で婚姻契約を結んだ場合、その契約は無効であり、改めて結び直さなければならない。この場合、フィドヤは必要とされない。

4. 残りの禁止事項（合計六つ）に対する贖罪：
これには次のものが含まれる。

・髪を剃ること
・爪を切ること
・縫製された衣服を着ること
・香料を用いること

・頭を覆うこと
・欲望を伴う身体的接触

これらの贖罪は、次の三つの選択肢のいずれかによって行われる。

1. 三日間の断食。
2. 六人の貧者に食物を施すこと。
3. 羊を一頭屠ること。

これは、シラミが彼の頭を苦しめたとき、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）がカʿブ・イブン・ʿウジュラに言われた次の言葉に基づく。

三日間断食するか、六人の貧者に食物を施すか、あるいは羊を一頭屠りなさい。[2]

[1] ［アル＝マーイダ章：95］
[2] アル＝ブハーリー（1815）およびムスリム（1201）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — 預言者性のしるし（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ ナツメヤシの幹のうめき：

サヒーフ・アル＝ブハーリー[1]において確証されているように、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、金曜の説教（クフトバ khuṭbah）を行う際、ナツメヤシの木の幹に寄りかかって立っておられた。

ある日、アンサールの一人の女性が預言者（アッラーの祝福と平安あれ）のもとに来て言った。
あなたが説教をなさるときに立つための説教壇（ミンバル minbar）をお作りしましょうか。

彼は言われた。
望むならばそうしなさい。

そこで彼女は、大工であった自分の息子に命じて木製の説教壇を作らせた。それはモスクに設置され、それまで用いられていたナツメヤシの幹は脇に置かれた。

金曜日になると、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は説教を始めるために説教壇へ上られた。すると、その木の幹が**ラクダの鳴き声のように大きくうめき、泣くのが聞こえた**のである。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は説教壇から降り、その幹のもとへ近づき、手をその上に置かれた。すると、それは静まったのであった。

アル＝ハサン・アル＝バスリーは、この出来事を語るたびにこう言った。
何と驚くべきことか。一本の木の幹がアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のために泣いたというのに、あなたがたは彼のために泣かないのか。[2]

❖ ラクダの訴え：

‘アブドゥッラー・イブン・ジャ‘ファル（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。

アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、アンサールの一人の所有する果樹園に入られた。そこには一頭のラクダがいた。

そのラクダは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）を見ると、うめき声をあげ、その目から涙があふれ出た。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はそれに近づき、そのこぶと耳の後ろを撫でられた。すると、それは落ち着いた。

その後、彼は言われた。
このラクダの持ち主は誰か。これは誰のものか。

すると、アンサールの一人の若者が前に出て言った。
それは私のものです。アッラーの使徒よ。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
あなたは、アッラーがあなたに委ねられたこの動物について、アッラーを畏れないのか。実にこのラクダは、あなたが自分を飢えさせ、過度に働かせていると私に訴えたのだ。[3]

ディフライヒ（dhifrayh）とは、ラクダの耳の後ろの部分を指す言葉であり、トゥズ'イブフ（tudh'ibuhu）とは疲れ果てさせることを意味する。

[1] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3585）。
[2] ファダーイル・アル＝マディーナ（1/37）。
[3] アブー・ダーウード（2549）およびアフマド（1745）によって伝承された。

土曜日：サハーバモジュール — ʿアムル・イブン・アル＝ジャムーフ（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と御誕生：

彼は、ʿアムル・イブン・アル＝ジャムーフ・イブン・ザイド・イブン・ハラーム・アル＝ハズラジー・アル＝アンサリー・アッ＝スラミーである。
彼はマディーナにおいて誕生し、アル＝アブヤド・アル＝ジャʿドというあだ名で呼ばれていた。

彼には四人の息子がいた。すなわち、ムʿアーズ、ムʿアウィズ、ハッラード、そしてʿアブドゥル＝ラフマーンであり、彼らは皆、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に戦いに参加した。

❖ 生涯と徳：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、バヌー・サラマ族の指導者たちの中でも主要な人物の一人であり、高貴な人格、寛大さ、洗練された礼儀、そして指導者や名士にふさわしい品性で広く知られていた。彼の民はその徳を認め、彼にふさわしい名誉ある地位を与えていた。

彼の脚には重い障害があり、ひどい跛行があった。しかし、それは彼の決意を弱めることはなく、むしろ彼の意志と勇気をさらに強めるものであった。

ウフドの日にジハードへの呼びかけがなされたとき、彼は出征することを強く望んだ。しかし息子たちは彼を止めようとして言った。

父よ、アッラーはあなたをジハードから免除されています。私たちがあなたの代わりに十分に果たします。至高なるアッラーはこう仰せられています。
盲人にも責めはなく、足の不自由な者にも責めはなく、病人にも責めはない。[1]

そこでʿアムル・イブン・アル＝ジャムーフは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ行き、こう言った。

私の息子たちは、私があなたと共に出征することを止めようとしています。アッラーにかけて言いますが、私はこの跛行の脚で楽園を歩くことを望んでいるのです。

すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。

あなたについて言えば、アッラーは確かにあなたを免除しておられる。あなたにジハードの義務はない。

そして彼は息子たちに向かって言われた。

彼を止めないとしても、何の問題があるだろうか。もしかすると、アッラーは彼に殉教をお与えになるかもしれない。[2]

そこで彼は武装し、出征し、戦い続け、ついに殉教したのである。

❖ 御逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 3 年、ウフドの戦いにおいて殉教した。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼のもとを通りかかり、こう言われた。

アッラーにかけて言うが、私はあたかもあなたが楽園の中でその脚をまっすぐにして歩いているのを見ているかのようである。[3]

[1]［アル＝ファトフ章：17］
[2] スィーラ・イブン・ヒシャーム（2/90）、アル＝バイハキーダラーイル・アン＝ヌブッワ（3/246）。
[3] アル＝バイハキーアッ＝スナン・アル＝クブラー（9/42）。

知識テスト — 第 50 週

モジュール	質問	選択肢	正解
Tafsīr	Aṭrāban とは何を意味するか。	[a] 背が高い。[b] 同じ年齢である。[c] 年若い。	b
ハディース	しもべから報酬を奪い、神の定めに異議を唱える原因となるものは何か。	[a] 苦痛。[b] 救済を求める祈願。[c] 不満と忍耐の欠如。	c
アキーダ	ナーシバ（Nāṣibah）とは誰のことか。	[a] アフル・アル＝バイトを中傷する者たち。[b] アフル・アル＝バイトを愛する者たち。[c] アフル・アル＝バイトについて誇張する者たち。	a
フィクフ	ウムラ中の性交に対する贖罪は何か。	[a] 雌ラクダ。[b] 羊。[c] 六人の貧者に食物を施すこと。	b
Sīrah	ラクダは預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に、主人が自分をどうしていると訴えたか。	[a] 自分を打つこと。[b] 自分を飢えさせていること。[c] 自分を屠ろうとしていること。	b
Ṣaḥābah	‘アムル・イブン・アル＝ジャムーフ（アッラーの御満悦あれ）が試練として与えられていた障害は何か。	[a] 失明。[b] 聴覚障害。[c] 重い跛行。	c

51週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アーヤト・アル＝クルスィー（Āyat al-Kursī）

اللَّهُ لَا إِلَـهَ إِلَّا هُوَ الْـحَيُّ الْـقَيُّومُ لَا تَـأْخُذُهُ سِنَةٌ وَلَا نَـوْمٌ لَـهُ مَـا فِـي الـسَّمَـاوَاتِ وَمَـا فِـي الْأَرْضِ مَنْ ذَا الَّـذِي يَـشْفَعُ عِنْـدَهُ إِلَّا بِـإِذْنِـهِ يَـعْلَمُ مَـا بَـيْنَ أَيْـدِيـهِمْ وَمَـا خَـلْفَـهُمْ وَلَا يُـحِيطُونَ بِـشَيْءٍ مِنْ عِلْمِهِ إِلَّا بِمَـا شَاءَ وَسِعَ كُـرْسِيُّـهُ الـسَّمَـاوَاتِ وَالْأَرْضَ وَلَا يَـئُـودُهُ حِفْـظُهُمَـا وَهُوَ الْـعَـلِـيُّ الْـعَظِيمُ (255)

アッラーかれのほかに真に崇拝されるべき神はない。永遠に生き続けられる御方（**al-Ḥayy**）、万物を支配し維持される御方（**al-Qayyūm**）。まどろみも眠りもかれを襲うことはない。天にあるものも地にあるものも、すべてかれのものである。かれの御許で、かれの御許しなしに執り成すことのできる者があろうか。かれは彼らの前にあるものも後にあるものも知っておられる。彼らは、かれが望まれるもののほか、かれの知識の何一つをも把握することはできない。かれのクルスィー（**Kursī**）は天と地を包み、その保持はかれにとって負担とはならない。かれは至高にして偉大なる御方である。

❖ この節の徳：

アーヤト・アル＝クルスィーの徳については、多くのハディースが伝えられている。それらは、この節を朗誦すること、そして朝夕、就寝前、また義務の礼拝の後など、日常生活の中で習慣として読むことを勧めている。
その中には次のものがある。

• ウバイイ・イブン・カʿブ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
アブー・アル＝ムンジルよ、あなたが持っているアッラーの書の中で、最も偉大な節がどれか知っているか。
彼は言った。私は答えた。アッラーかれのほかに真に崇拝されるべき神はなく、永遠に生き続けられる御方、万物を支配し維持される御方。
すると彼は私の胸を軽く打って言われた。
あなたの知識に祝福あれ、アブー・アル＝ムンジルよ。[1]

• また、アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）からの伝承として、**Ṣaḥīḥ al-Bukhārī** には、これを就寝前に朗誦する者はアッラーの守護の下に置かれ、朝になるまで悪魔が近づくことができないと示されている。[2]

❖ 難しい言葉の解説：

アラビア語	音写	意味
الْقَيُّومُ	al-Qayyūm	創造物のすべての事柄を維持し、統べ治める御方
سِنَةٌ	Sinah	まどろみ、うたた寝
كُرْسِيُّهُ	Kursī	至高なる御方の御足の場所
يَؤُودُهُ	Yaʾūduhu	重荷となること、疲れさせること

❖ 全体的な意味：

アーヤト・アル＝クルスィーは、クルアーンの中で**最も偉大で最も高貴な節**である。それは、アッラーの**主権（Rubūbiyyah）**、**唯一性（Tawḥīd）**、**御名と御属性**、そして**威厳と偉大さ**に関する包括的な意味を含んでいるためである。

[1] ムスリム（810）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（2311、ムアッラク伝承）。

アッラーは、この節において、**真に崇拝されるに値する御方はただ御一人である**ことを告げておられる。かれは完全な生命を有する御方であり、その生命は**非存在によって先行されることもなく、死によって終わることもない**。また、すべての創造物を支え維持される絶対的な御方である。

その完全性のゆえに、かれは**まどろみも眠りも取られない**。
天にあるもの、地にあるものはすべてかれのものであり、**創造、所有、糧の供給、そして統治**においてもすべてかれに属する。かれ以外のすべての存在は、創造されたものであり、所有されたものであり、管理されているものであって、**自らは微塵ほどの重ささえ所有することも支配することもできない**。

また、かれの御許においては、**かれの御許しなしに執り成す者は誰一人として存在しない**。
かれの知識は完全であり、創造物に関する**過去・現在・未来のすべて**を包み込んでいる。一方、しもべたちは、**かれが望まれた範囲を除いて**、その知識の何一つをも把握することはできない。

かれの**クルスィー（Kursī）は、天と地を覆い包んでいるそれらがいかに広大であっても、その保持はかれにとって何の負担ともならない。**
かれは至高なる御方であり、その創造物の上にあって高く昇られ、また御属性において崇高であり、**支配・威厳・主権において偉大なる御方**である。

❖ この節から得られる益：

1. アーヤト・アル＝クルスィーには、**明示的・暗示的なものを含めて十八のアッラーの御名**が含まれている。
2. この節は、**アッラーの知識の広大さ、完全なる力、創造物に対する包括的な配慮**を示し、また**天と地を保持することがかれにとって少しの疲労ももたらさない**ことを明らかにしている。

月曜日：ハディース モジュール — 視線を下げる義務

ジャリール・イブン・'アブドゥッラー（アッラーの御満悦あれ）から伝えられている。彼は言った。
私は、突然の視線についてアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）に尋ねた。すると彼は言われた。
視線をそらしなさい。[1]

❖ 解説：

この現世において、しもべは多くの試練にさらされている。その中には、疑念の試練と欲望の試練がある。欲望の試練の中でも最も大きなものの一つが、男性が女性に対して抱く誘惑、また女性が男性に対して抱く誘惑である。

この誘惑へと陥る入口は、**視線を自由にさまよわせること**である。
そのため、至高なるアッラーは、信仰する男性と信仰する女性に対して**視線を下げること**を命じられた。そしてそれを、心を清め浄化する手段とされた。アッラーは仰せられた。

信仰する男たちに言え。彼らに視線を下げさせ、彼らの貞操を守らせよ。それは彼らにとってより清らかである。まことにアッラーは、彼らの行うことを熟知しておられる。そして信仰する女たちにも言え。彼女たちに視線を下げさせ、彼女たちの貞操を守らせよ。[2]

時として、視線は**意図せずに向けられてしまう**ことがある。これがハディースにおいて**突然の視線（不意の一瞥）**と呼ばれているものである。この場合、人は**それを続けることなく、直ちに視線をそらさなければならない。**

❖ このハディースから得られる益：

1. **不明な事柄については、学者のもとへ立ち返り、彼らに尋ねることの重要性。**
2. 視線を自由にさまよわせることの禁止は、サハーバたちの間でよく知られていた。だからこそ、ジャリールは**意図せずに起こる場合**について質問したのである。
3. 視線が**密かに覗き見る行為や詮索**を伴う場合、その罪はさらに重くなる。
4. 視線を下げることは、高貴な礼拝行為であり、シャリーアへの服従であるため、そこには報いがある。
5. 視線を下げることは、**魂の清浄さ、良き品性、そして信頼性**のしるしである。
6. 禁じられたものを**意図せずに見てしまった場合**には罪はないが、ただちに視線をそらし、それを続けてはならない。

7. 視線を下げる命令には、**テレビ、携帯端末、新聞、その他の媒体に映し出される禁じられた画像**から視線を下げることも含まれる。
8. このハディースは、手段を封じる原則（sadd al-dharāʾiʿ）を示している。すなわち、姦淫に至ることを防ぐための予防措置として、**視線や密室での二人きりの状態**などが禁じられているのである。

[1] ムスリム（2159）によって伝承された。
[2] ［アン＝ヌール章：30–31］。

火曜日：アキーダモジュール — サハーバ（預言者の同伴者）の徳と、彼らについて信じるべきこと

❖ サハーバに関するアフル・アッ＝スンナ・ワ・アル＝ジャマーʿアの信条:

サハーバ（Companion）**とは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に信仰をもって会い、その信仰の上で亡くなった者**を指す。

サハーバに関する**アフル・アッ＝スンナ・ワ・アル＝ジャマーʿア（Ahl al-Sunnah wa-al-Jamāʿah）の信条は、彼らがこのウンマの中で最も優れた者たちであり、またすべての世代の中で最も優れた世代である**というものである。これは、彼らが他の者たちに先立ってイスラームを受け入れたこと、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に付き従うという特別な栄誉を得たこと、彼と共にジハードに励んだこと、彼からシャリーアを受け取り、それを後の世代へ伝えたことによる。

それゆえ、アフル・アッ＝スンナは**サハーバを愛し、彼らを敬い、宗教のテキストを理解する際には彼らの言葉と理解に立ち返る**のである。彼らは人々の中で最も優れた者たちであり、預言者性の純粋な泉に最も近く、また**アッラーとその使徒の意図を最もよく理解していた者たち**である。

❖ サハーバの徳：

至高なるアッラーは、尊き御書の中でサハーバを称賛して仰せられた。

ムハンマドはアッラーの使徒である。そして彼と共にある者たちは、不信仰者に対しては厳しく、互いの間では慈悲深い。あなたは彼らが礼拝においてお辞儀し、伏しているのを見るであろう。彼らはアッラーからの恩恵と御満悦を求めている。彼らのしるしは、額にある跪拝の跡として現れている。これが彼らのトーラーにおける描写である。また福音書における彼らの描写は、一粒の種のようなもので、それが芽を出し、それを強め、やがて太くなり、その茎の上にしっかりと立ち、種を蒔く者たちを喜ばせるそれによって不信仰者たちを怒らせるためである。アッラーは彼らの中で信仰し善行を行う者たちに、赦しと偉大な報奨を約束された。[1]

また、次のようにも仰せられた。

ムハージルーンとアンサールの中で、最初にイスラームを受け入れた者たち、そして善をもって彼らに従った者たちアッラーは彼らに満足され、彼らもまたアッラーに満足している。かれは彼らのために、川が下を流れる楽園を用意された。彼らはその中に永遠に住む。それこそが偉大な成功である。[2]

これらの節には、**サハーバに対する多くの称賛の特質**が含まれている。すなわち、彼らは互いに慈悲深く、不信仰者に対しては厳格であり、礼拝において多くのルクー‘（お辞儀）とスジュード（跪拝）を行う者たちであり、意図と心の純粋さを備えている。また、彼らは**信仰と服従のしるしによって知られる者たち**である。

さらに、アッラーは彼らを**御使徒の同伴者として選ばれた**。それは、彼らによって御敵を怒らせるためである。特にムハージルーン（移住者）とアンサール（援助者）を、より高い徳と栄誉によって顕彰され、善において先行した者として描写され、彼らに対する御満悦を宣言し、**永遠の楽園**を約束されたのである。

[1] ［アル＝ファトフ章：29］
[2] ［アッ＝タウバ章：100］

スンナにおいて、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が教友たちを称賛し、彼らを他のすべての人々よりも優先されたこと、そしてアッラーが彼らの善行に対して他の者には与えられない報いを与えられることは、真正に確立されている。彼は言われた。最も優れた人々は、私の世代である……[1]
また彼は言われた。私の教友たちを罵ってはならない。わが魂がその御手にある御方にかけて、もしあなたがたの一人がウフド山に等しい黄金を費やしたとしても、それは彼らが費やした一ムッドにも及ばず、その半分にも及ばない。[2]
また彼がウンマが七十三の分派に分裂することに言及し、そのすべてが火獄に入るが一つだけが例外であると述べられたとき、彼らが救われる集団について彼に尋ねると、彼は言われた。それは、今日の私と私の教友たちが従っているものの上にある者たちである。[3]
これらは彼らの一般的な徳の一部である。また、イスラームにおける先行、ジハード、ヒジュラに応じて、特定の者たちには特有の徳もある例えば、正統四代カリフの徳、次に楽園を約束された十人の残りの者たち、次にバドルの人々、そしてリドワーンの誓約の人々である。

[1] アル＝ブハーリー（6429）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（3673）およびムスリム（2540）によって伝承された。
[3] アッ＝ティルミズィー（2641）によって伝承された。
[2] Narrated by al-Bukhārī (3673) and Muslim (2540).
[3] Narrated by al-Tirmidhī (2641).

水曜日：フィクフ モジュール — ハッジとウムラの行為

ハッジとウムラの行為は、柱、義務、推奨行為に分けられる。

• 柱（arkān）：すべてを満たさなければならず、それなしでは儀礼は無効となる。
• 義務（wājibāt）：そのいずれかを放棄した場合、犠牲の供物によって補われる。

❖ ウムラの柱（3）：

1. イフラームに入ること。
2. タワーフ（周回）。
3. サʿイ（サファーとマルワの間）。

❖ **ウムラの義務**（2）：

1. 定められたミーカートからイフラームに入ること。
2. 頭髪を剃る、または短くすること。

❖ **ハッジの柱**（4）：

1. イフラーム — 儀礼に入る意図。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。実に行為は意図によるものであり、各人には意図したものだけがある。[1]
2. ズル＝ヒッジャ月 9 日におけるアラファでの立位。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。ハッジはアラファである。[2]
3. ズル＝ヒッジャ月 10 日におけるタワーフ・アル＝イファーダ。アッラーは仰せられた。そして彼らに古の館の周りをタワーフさせよ。[3]
4. サファーとマルワの間のサʿイ。預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。サʿイを行いなさい。実にアッラーはあなたがたにサʿイを定められた。[4]

❖ **ハッジの義務**：

1. ミーカートからイフラームに入ること。
2. 日没までアラファに留まること。
3. 10 日の夜にムズダリファで夜を過ごすこと。

[1] アル＝ブハーリー（1）およびムスリム（1907）によって伝承された。
[2] アブー・ダーウード（1949）によって伝承された。
[3] ［アル＝ハッジ章：29］
[4] アフマド（27407）によって伝承された。

1. タシュリークの日々の間、ミナーで夜を過ごすこと。
2. ジャマラートへの投石：イードの日のジャムラト・アル＝ʿアカバ、およびタシュリークの日々の三つのジャマラート。

3. 頭髪を剃る、または短くすること；女性は指先ほどの長さを切る。
4. タワーフ・アル＝ワダー‘（別れの周回）。
いずれかの義務を放棄した者は、犠牲の供物羊一頭、またはラクダもしくは牛の七分の一によって補わなければならない。それはマッカで屠られ、ハラムの貧者たちに分配される。イブン・‘アッバース（アッラーの御満悦あれ）は言った。その儀礼の一部を忘れた者、またはそれを放棄した者は、犠牲を捧げさせよ。[1]

❖ 推奨行為（スンナおよびムスタハッバート）：

これらは、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に従うことによって、巡礼者の報酬を完成させるものである。これには次が含まれる：
• ズル＝ヒッジャ月 8 日にミナーで夜を過ごすこと。
• タワーフ・アル＝クドゥーム（到着の周回）。
• 伝えられているズィクルと祈願を唱えること。
• イフラームの開始からジャムラト・アル＝‘アカバへの投石まで（ハッジにおいて）、またウムラにおいてはタワーフまで、タルビヤを唱えること。

[1] マーリク（1258）によって伝承された。

木曜日：スィーラモジュール — 彼の預言性のしるし（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 樹木の服従：

ジャービル（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った：
私たちはアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共に旅をしていたが、やがて広い谷に到着した。アッラーの使徒は用を足すために行かれ、私は水の入った容器を持って彼の後に従った。彼は周囲を見回されたが、身を隠すものを見つけられなかった。すると谷の端に二本の木を見つけられた。彼はそのうちの一本に向かい、その枝の一つを取り、アッラーの御許しによって、私のもとへ来いと言われた。するとそれは、手綱で導かれるラクダのように彼と共に動いた。やがてもう一本の木のもとへ来ると、その枝の一つを取り、アッラーの御許しによって、私のもとへ来いと言われた。すると同様にそれも彼と共に動いた。そして彼が二本の間の中間に立つと、それらを合わせ、アッラーの御許しによって、私の上において結び合わされよと言われた。するとそれらは結び合わされた。私は座って独り言を言っていたが、ふと見るとアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）が戻って来られ、二本の木はそれぞれ分かれて、それぞれの根の上に立っていた。[1]

❖ 石の挨拶：

ジャービル・イブン・サムラ（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った：
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。実に私は、私が（預言者として）遣わされる以前に、私に挨拶していたマッカの一つの石を知っている。今もそれを知っている。[2]
アン＝ナワウィーは言った：至高なるアッラーが仰せられたように、いかなるものも、その称賛をもって彼を讃えないものはない。しかし、あなたがたは彼らの讃美を理解しない[3]。枯れた幹がうめき、小石が讃美し、ムーサー（アッラーの平安あれ）の衣を持って石が逃げたのと同様に、すべてのものはその状態に応じて実際にアッラーを讃美しているが、私たちはそれを理解しないのである。[4]

---

[1] ムスリム（3012）によって伝承された。
[2] ムスリム（2277）によって伝承された。
[3] ［アル＝イスラー章：44］
[4] シャルフ・サヒーフ・ムスリム、アン＝ナワウィー（9/140）。

土曜日：サハーバモジュール — ʿアムル・イブン・アル＝ʿアース（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と誕生：

彼は、ʿアムル・イブン・アル＝ʿアース・イブン・ワーイル・イブン・ハーシム・アッ＝サフミーである。
彼はヒジュラの 47 年前、マッカにおいて誕生した。

❖ His Life and Virtues:

彼（アッラーの御満悦あれ）は、目が黒く、顔は明るく、濃いひげを持ち、肩幅が広く、手足が大きかった。彼は髪を染めていた。
彼はジャーヒリーヤ時代において、クライシュの騎士であり勇士の一人であり、知性、雄弁、勇気、堅固さ、戦闘における技量において、その時代の卓越した人物の一人として数えられていた。また彼は優れた表現の詩人でもあり、多くの詩が彼から伝えられている。[1]
彼はヒジュラ後第 8 年の初めに、ハーリド・イブン・アル＝ワリードおよびʿウスマーン・イブン・Ṭルハと共に、ムスリムとしてアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）のもとへ移住した。預言者は彼らの到来とイスラームを喜ばれた。[2]彼がイスラームを受け入れて以降、彼の心は預言者への愛と敬意で満たされた。彼（アッラーの御満悦あれ）は言った。アッラーにかけて、私はアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の前では最も慎み深い者であった。彼をじっと見つめることも、望むように語りかけることも決してなかった。彼がアッラーのもとへ帰られるまで、それは彼への遠慮ゆえであった。[3] 預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を称賛し、その信仰を証言してこう言われた。アル＝ʿアースの二人の息子は信者である：ʿアムルとヒシャームである。[4] 預言者はヒジュラ後第 8 年ジュマーダー・アル＝アーヒラにおいて、アブー・バクルとʿウマルを含む部隊が参加したザート・アッ＝サラーシル遠征の指揮官に彼を任命した。彼（アッラーの御満悦あれ）は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は私を呼び、衣服と武器を整えて私のもとへ来なさいと言われた。私は彼のもとへ行くと、彼はウドゥー'を行っておられた。彼は私に目を向けてから下げ、こう言われた。私はあなたを一つの軍の指揮官に任じようとしている。アッラーがあなたを守り、戦利品を授けてくださるように。そして私はあなたに良い財産を望む。私は言った。アッラーの使徒よ、私は財産のためにイスラームを受け入れたのではなく、イスラームを望み、アッラーの使徒と共にあるために受け入れたのです。すると彼は言われた。ʿアムルよ、正しい者にとって良き財産は何と優れていることか。[5]

---

[1] Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ（3/55）。
[2] Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ（3/55）。
[3] ムスリム（121）によって伝承された。
[4] アン＝ナサーイーアル＝スナン・アル＝クブラー（8300）によって伝承された。
[5] アル＝ブハーリー（3662）およびムスリム（2384）によって伝承された。また、アル＝ブハーリーアル＝アダブ・アル＝ムフラド（299）も参照。

ラマダーン（Ramaḍān）において、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼を一隊とともに派遣し、偶像スワー‘（Suwā‘）を破壊させた。
また、ズル＝ヒッジャ（Dhū al-Ḥijjah）には、彼をオマーン（‘Umān）の二人の王のもとへ書簡とともに派遣し、イスラームへ招いた。彼らがイスラームを受け入れた後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は彼を同地のザカー（zakāh）の徴収者に任命し、彼は預言者の逝去に至るまでの二年間、そこに留まった。

アブー・バクル（彼にアッラーの御満悦あれ）のカリフ期において、‘アムルは背教戦争（リッダ戦争）の指揮官の一人となり、六千の兵を率いてパレスチナ征服の指導者を務め、ヤルムークの戦いにおいては右翼を指揮した。

‘ウマル・イブン・アル＝カッターブのカリフ期には、ダマスカスおよびバイト・アル＝マクディスの征服に参加し、アジュナーダインの戦いにおいてハーリド・イブン・アル＝ワリードと合流した。また、アブー・‘ウバイダによってアレッポおよびアンティオキアの降伏交渉のために派遣された。

アブー・‘ウバイダがアムワースの疫病により逝去した際、彼は‘アムルをパレスチナ、ヨルダン、ならびにシャームの残余の地の総督に任命した。

ヒジュラ暦 20 年、‘アムルは‘ウマルに対しエジプト征服を提案した。彼はその征服を指揮し、同地の最初のムスリム総督となった。また、フスタート（Fusṭāṭ）を建設し、最初のマスジドを建立したが、それは後に彼の名をもって知られるようになった。

‘ウスマーンのカリフ期においては、ヒジュラ暦 21 年にアレクサンドリアを、さらに同 24 年にはトリポリを征服した。

❖ 御逝去：

彼（アッラーの御満悦あれ）は、ヒジュラ暦 43 年、‘イード・アル＝フィトルの夜にエジプトにおいて、88 歳で逝去した。

知識テスト — 第 51 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	yaʾūdhu（ヤウーズ）の意味は何か：	[a] それを担い、困難を感じること。[b] 彼に害を与えること。[c] 彼に忘れさせること。	a
ハディース（ハディース）	欲望の試練に陥る入口は何か：	[a] 過度の飲食。[b] 過度の睡眠。[c] 節度のない視線。	c
アキーダ（アキーダ）	このウンマにおいて最も優れた者たち、そして最良の世代は誰か：	[a] ムジャーヒドゥーン（戦う者たち）。[b] 教友たち（Ṣaḥābah）。[c] 学者たち。	b
フィクフ（フィクフ）	ハッジ（Ḥajj）の義務に含まれるものは何か：	[a] ミーカート（mīqāt）からイフラーム（iḥrām）に入ること。[b] 8 日にミナー（Minā）で夜を過ごすこと。[c] 到着の周回（Ṭawāf al-qudūm）。	a
スィーラ（Sīrah）	我らの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の預言性の徴の一つは何か：	[a] 山々が彼に語りかけたこと。[b] 風が彼のために従えられたこと。[c] 石が彼に挨拶したこと。	c
サハーバ（Ṣaḥābah）	ʿアムル・イブン・アル＝ʿアース（アッラーの御満悦あれ）が征服した地の一つはどれか：	[a] ローマ人。[b] エジプト。[c] コンスタンティノープル。	b

52週目

オーディオにアクセス：
アル＝マワーリド・アル＝イルミーヤの毎日モジュールチャンネル

YouTube **Telegram** **SoundCloud**

日曜日：タフスィールモジュール — アル＝バカラ章の結びの諸節

آمَنَ الرَّسُولُ بِمَا أُنْزِلَ إِلَيْهِ مِنْ رَبِّهِ وَالْمُؤْمِنُونَ كُلٌّ آمَنَ بِاللَّهِ وَمَلَائِكَتِهِ وَكُتُبِهِ وَرُسُلِهِ لَا نُفَرِّقُ بَيْنَ أَحَدٍ مِنْ رُسُلِهِ وَقَالُوا سَمِعْنَا وَأَطَعْنَا غُفْرَانَكَ رَبَّنَا وَإِلَيْكَ الْمَصِيرُ (285) لَا يُكَلِّفُ اللَّهُ نَفْسًا إِلَّا وُسْعَهَا لَهَا مَا كَسَبَتْ وَعَلَيْهَا مَا اكْتَسَبَتْ رَبَّنَا لَا تُؤَاخِذْنَا إِنْ نَسِينَا أَوْ أَخْطَأْنَا رَبَّنَا وَلَا تَحْمِلْ عَلَيْنَا إِصْرًا كَمَا حَمَلْتَهُ عَلَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِنَا رَبَّنَا وَلَا تُحَمِّلْنَا مَا لَا طَاقَةَ لَنَا بِهِ وَاعْفُ عَنَّا وَاغْفِرْ لَنَا وَارْحَمْنَا أَنْتَ مَوْلَانَا فَانْصُرْنَا عَلَى الْقَوْمِ الْكَافِرِينَ (286)

使徒は、彼の主から下されたものを信じ、また信仰者たちも同様である。彼らは皆、アッラー、その天使たち、その啓典、その使徒たちを信じ、われらはそのいかなる使徒の間にも区別を設けませんと言う。また彼らは言う、われらは聞き、従います。われらの主よ、あなたの御赦しを（求めます）。そしてあなたのもとへこそ帰り行くのです。* アッラーは、いかなる魂にも、その能力を超えて負担を課されることはない。それは自らが得た善に応じて報われ、自らが為した悪を負うのである。われらの主よ、もしわれらが忘れ、あるいは誤ったとしても、われらを咎めないでください。われらの主よ、われら以前の者たちに課されたような重荷を、われらに課さないでください。われらの主よ、われらに耐えることのできないものを負わせないでください。そしてわれらを赦し、われらをお許しになり、われらに慈悲をお与えください。あなたはわれらの守護者であられます。ゆえに、不信仰の民に対してわれらに勝利をお与えください。

❖ 啓示の理由：

アッラーが次の御言葉を啓示されたとき、あなたがたの内にあるものを表に出そうと隠そうと、アッラーはそれについてあなたがたを清算される…[1]、これは教友たちにとって非常に重く感じられた。彼らは言った。アッラーの使徒よ、私たちは礼拝、断食、ジハード、施しといった、耐えられる行為を命じられてきました。しかし、この節はあなたに啓示されましたが、私たちにはそれに耐えることができません。
そこで、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。あなたがたは、かつて啓典の民が言ったように聞いたが従わないと言おうとするのか。そうではなく、われらは聞き、従います。われらの主よ、あなたの御赦しを（求めます）。そしてあなたのもとへこそ帰り行くのですと言いなさい。
彼らはそれを言い、唱えたとき、その言葉に舌をもって従順となった。その後、アッラーは次の御言葉を啓示された。使徒は、彼の主から下されたものを信じ、また信仰者たちも同様である…そして彼らがそれを実践したとき、アッラーはさらに啓示された。アッラーは、いかなる魂にも、その能力を超えて負担を課されることはない…われらの主よ、もしわれらが忘れ、あるいは誤ったとしても、われらを咎めないでくださいそしてアッラーは仰せられた。われはそれを成し遂げた。[2]

❖ 諸節の徳：

イブン・'アッバース（アッラーが彼ら二人に満足されますように）から伝えられる。彼は言った。ジブリールが預言者（アッラーの祝福と平安あれ）と共に座っていたとき、彼の上方からきしむ音が聞こえた。彼は頭を上げて言った。これは今日開かれた天の門であり、これまで一度も開かれたことのないものである。そこから一人の天使が降りてきて言った。あなたに与えられた二つの光について喜びなさい。あなた以前のいかなる預言者にも与えられなかったものである。それは啓典の開端（アル＝ファーティハ）とアル＝バカラ章の結びの諸節である。あなたはそれらの一文字を読むごとに、それに対するものを必ず与えられるであろう。[3] また、アブー・マスウード・アル＝バドリー（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。アル＝バカラ章の最後の二節を夜に唱える者には、それで十分である。[4]

❖ 全体的な意味：

これらの諸節は、使徒（アッラーの祝福と平安あれ）および信仰者たちが、アッラー、その天使たち、その啓典、その使徒たちを信じる信仰を宣言するとともに、彼らの服従、従順、そして赦しを求める嘆願を示している。アッラーへの信仰とは、アッラーが御自身について知らせられたすべてのこと、ならびにその使徒たちが伝えた威厳と完全性の属性を信じることである。天使への信仰とは、その名称、属性、ならびに役割を信じることである。また、使徒および啓典への信仰とは、彼らが伝えた不可視の事柄、命令、そして禁止のすべてを信じることである。信仰者たちは、使徒たちの間にいかなる区別も設けず、彼らがアッラーのみへの礼拝へと招いたという点における一致を認める。彼らは言う。われらは聞き、従います。われらの主よ、あなたの御赦しを（求めます）。そしてあなたのもとへこそ帰り行くのです。さらにアッラーは、その宗教が困難ではなく容易であることを明らかにされる。いかなる魂にも、その能力を超える負担は課されない。各人は、自らが為した善または悪に応じて報いを受けるのである。その後、信仰者たちの嘆願が述べられる。すなわち、赦し、寛恕、慈悲、そして不信仰の民に対する勝利を求める祈りである。

❖ 諸節から得られる益：

1. 信仰の柱とその基礎の確立。
2. 信仰は服従と従順へと導くものであり、それゆえ諸節は信仰から始まり、われらは聞き、従いますによって締めくくられている。
3. アッラーのしもべに対する慈悲：彼らにその能力を超える負担を課されない。
4. 人間の弱さ、忘却、過誤の認識それゆえに、赦しと寛恕を求める嘆願の必要性。

---

[1] ［アル＝バカラ章：284］
[2] ムスリム（125）によって伝承された。
[3] ムスリム（806）によって伝承された。
[4] アル＝ブハーリー（4008）およびムスリム（807）によって伝承された。

月曜日：ハディース（ハディース）モジュール — 有益な嘆願のいくつかの言及

イブン・ʿウマル（アッラーが彼ら二人に満足されますように）から伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、朝を迎えるときにも夕べを迎えるときにも、次の言葉を決して怠ることはなかった。
アッラーよ、私は現世と来世における安寧をあなたに求めます。アッラーよ、私は私の宗教、現世の事柄、家族、そして財産における赦しと安寧をあなたに求めます。アッラーよ、私の欠点を覆い隠し、私の恐れから私を安全にしてください。アッラーよ、私の前方から、後方から、右から、左から、そして上方から私をお守りください。そして私は、下から飲み込まれることから、あなたの偉大さにより庇護を求めます。[1]

❖ 解説：

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、その主に対する嘆願を多く行い、御前においてへりくだっておられた。本ハディースにおいて、彼には朝（夜明け）と夕（夕暮れ）のいずれにおいても決して怠らなかった嘆願があったことが示されている。その中には次が含まれる。

・アッラーよ、私は安寧をあなたに求めます：すなわち、安全と災厄からの救済を求めること。
・アッラーよ、私は赦しをあなたに求めます：すなわち、宗教および現世の事柄、家族（妻、子、親族）、そして財産（生計や商いを含む）における赦免と免責を求めること。
・アッラーよ、私の欠点を覆い隠してください：すなわち、恥辱や露見から守ってくださいということ。
・そして私の恐れから私を安全にしてください：すなわち、恐怖や不安をもたらすすべてのものから私を鎮め、守ってくださいということ。恐れが複数形であるのは、それが多様であることを示す。
・アッラーよ、私の前方から、後方から、右から、左から、そして上方から私をお守りください：すなわち、あらゆる方向からの害からの保護を求めること。
・そして私は、下から飲み込まれることから、あなたの偉大さにより庇護を求めます：すなわち、大地によって滅ぼされることからの保護を求めること。

❖ このハディースから得られる益：

1. 朝夕のズィクル（adhkār）の重要性それはムスリムを悪や悪魔から守る。
2. アッラーへの依拠と、すべての事柄を御方に委ねることの義務。
3. 自らの欠点を覆い隠し、恥辱から守られることをアッラーに求める必要性。
4. アッラーの御名を唱え、御方に嘆願することは、恐れ、悲しみ、不安の治療である。

[1] アブー・ダーウード（5074）によって伝承された。

火曜日：ʿアキーダ（アキーダ）モジュール — 教友たちの間に起こった相違に関するアフル・アッ＝スンナ・ワ・アル＝ジャマーʿアの信条

アフル・アッ＝スンナ・ワ・アル＝ジャマーʿアは、教友たちの一部の間に生じた相違について、均衡の取れた立場を保持する。その立場は、以下の諸点に要約される。

1. 教友たちの間で起こった出来事について語ることを控え、それらの問題に深入りすることを避ける。なぜなら、このような事柄において沈黙することこそが安全の道であるからである。これは、至高なるアッラーの御言葉に基づく。
   彼らの後に来た者たちは言う。われらの主よ、われらと、信仰においてわれらに先立った兄弟たちをお赦しください。そして、信仰する者たちに対するいかなる憎悪も、われらの心に置かないでください。われらの主よ、まことにあなたは情け深く、慈悲深い御方であられます。[1]
2. それらの出来事について伝えられている報告を慎重に吟味する。というのも、それらの多くは教友たちの敵によって彼らの名誉を傷つけるために捏造されたものであり、また他のものは改変され、誇張され、あるいは本来の形から歪められているからである。
3. 真に確証されている報告それはわずかであるがについては、彼らが弁明されるべき存在であることを認める。すなわち、彼らはイジュティハード（ijtihād）を行った者たちであり、正しかった場合には二つの報奨を得、誤った場合であっても一つの報奨を得るのである。これは、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の次の言葉に基づく。
   裁定者がイジュティハードを行い、それが正しかったならば二つの報奨があり、もし努力して誤ったとしても一つの報奨がある。[2]
4. 教友たちが人間であり、無謬ではないことを認める。ゆえに、彼らの一部から過誤が生じることはあり得る。しかし、その過誤は多くの贖罪によって消し去られる。すなわち、悔悟、ジハードにおける努力、そして徳と善行における先行性によってである。至高なるアッラーは仰せられた。
   まことに、善行は悪行を消し去る。[3]

したがって、彼らの過誤を口実として彼らを貶めたり攻撃したりすることは許されない。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
私の教友たちを罵ってはならない。わが魂が御手の中にある御方にかけて、もしあなたがたの一人がウフド山ほどの黄金を施したとしても、彼らの施した一ムッド（手のひら一杯）にも、またその半分にも及ばないであろう。[4]

---

[1] ［アル＝ハシュル章：10］
[2] アル＝ブハーリー（7352）およびムスリム（1716）によって伝承された。
[3] ［フード章：114］
[4] アル＝ブハーリー（3673）およびムスリム（2540）によって伝承された。

水曜日：フィクフ（フィクフ）モジュール — Ṭawāf（周回）および Saʿy（サイ）の諸規定

❖ Ṭawāf の条件：

1. 小不浄および大不浄からの清浄を保ち、物理的不浄がないこと。
2. ʿアウラ（ʿawrah：羞部）を覆うこと。これを覆わずに ṭawāf を行った場合、その ṭawāf は無効となる。
3. 黒石（アル＝ハジャル・アル＝アスワド）から ṭawāf を開始し、そこにおいて終えること。
4. ṭawāf の間、カアバ（Kaʿbah）を常に左側に保つこと。
5. カアバの外側で ṭawāf を行うこと。カアバの内部、またはアル＝ヒジュル（al-Ḥijr）の内部で行った場合、それは無効である。なぜならアル＝ヒジュルはカアバの一部であるからである。
6. 七周を完全に行うこと。これより少ない場合は無効である。
7. ṭawāf の各周回の間に連続性と順序を保つこと。ただし、礼拝などのための短い中断は差し支えない。
8. 可能であれば、Ṭawāf 中は歩行すること。

❖ Ṭawāf のスンナ（推奨行為）：

1. 各周回の開始時に、可能であれば黒石に触れ、それに口づけすること。できない場合は手で触れてその手に口づけし、それも不可能な場合はそれに向かって指し示し、タクビール（takbīr）を唱える。
2. Ṭawāf の開始時に次のように言うこと：
アッラーの御名において、アッラーは最も偉大である。アッラーよ、あなたへの信仰、あなたの啓典への信念、あなたの契約の履行、そしてあなたの預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）のスンナに従うことをもって（これを行います）。[1]
3. イエメンの角（ルクン・ヤマーニー）と黒石の間において、次の御言葉を唱えること：
われらの主よ、現世において善を与え、来世においても善を与え、そして火の懲罰からわれらを守り給え。[2]
4. イ ḍティバーʿ（iḍṭibāʿ：右肩を露出すること）を行うこと。これは衣の中央部分を右腕の下に通し、その両端を左肩の上にかけることである。これは Ṭawāf al-Qudūm および ʿUmrah の ṭawāf に限られ、Ṭawāf al-Ifāḍah や Ṭawāf al-Wadāʿ には適用されない。
5. ラマル（raml：小刻みで速歩すること）を Ṭawāf al-Qudūm および ʿUmrah の最初の三周で行うこと。これは男性にのみスンナであり、女性には適用されない。また、他者に害を及ぼしてはならない。

6. イエメンの角に手で触れること。ただし口づけはしない。触れることができない場合は、指し示すことはしない。
7. Ṭawāf の後、可能であればマカーム・イブラーヒーム（Maqām Ibrāhīm）の後方で二 ركعة（rakʿah）を礼拝すること。できない場合は、モスク内の他の場所でもよい。
8. 二 ركعة の後、可能であれば再び黒石のもとへ戻り、それに触れること。

---

[1] アッ＝Ṭバラーニー（1/157）およびアル＝バイハキー（5/79）によって伝承された。
[2] アブー・ダーウード（1892）によって伝承された。

❖ Saʿy（サイ）の条件：

1. Ṭawāf の後に Saʿy を行うこと。
2. 順序を守り、アル＝サファー（al-Ṣafā）から開始し、アル＝マルワ（al-Marwah）で終えること。
3. 七往復を完全に行うこと。
4. アル＝サファーとアル＝マルワの間の全距離を完全に移動すること。これを短縮した場合は無効となる。
5. 各往復の間に連続性を保つこと。ただし、短い中断は許される。
6. 可能であれば、Saʿy の間は歩行すること。

❖ Saʿy のスンナ（推奨行為）：

1. 定められた門からアル＝サファーへ出ること。
2. Ṭawāf の直後に Saʿy を行うこと。
3. 小不浄および大不浄から清浄な状態であること。
4. アル＝サファーおよびアル＝マルワに到達した際、それらの上に上ること。
5. アル＝サファーおよびアル＝マルワの上でキブラに向かい、ドゥアー（duʿā）、タクビール（takbīr）、タハリール（tahlīl）を行い、伝承されている祈願を唱えること。
6. 二つの緑色の標識の間を速歩すること（ラマル）。これは男性のみに対するスンナであり、女性には適用されない。女性には慎みが求められるためである。

これらすべての根拠は、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御言葉にある。
あなたがたは、私から儀礼を学び取りなさい。[1]

[1] ムスリム（2/943）によって伝承された。

木曜日：スィーラ（Sīrah）モジュール — 預言性の徴（アッラーの祝福と平安あれ）

❖ 食物が彼に語りかけたこと：

ʿアムルから、アブー・サラマを通して伝えられる。彼は言った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は贈り物は受け取られたが、施し（サダカ）からは召し上がることはなかった。ある時、一人のユダヤ人の女性が、毒を仕込んだ焼いた羊を彼に贈った。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）はそれを食し、人々もまたそれを食べた。すると彼は言われた。手を引きなさい。それは私に、自分が毒されていると知らせた。
その後、ビシュル・イブン・アル＝バラー’・イブン・マʿルール・アル＝アンサールィーが、その毒によって亡くなった。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）はその女性を呼び寄せ、何があなたにこの行為をさせたのかと問われた。

彼女は言った。もしあなたが預言者であれば、私のしたことはあなたに害を与えないでしょうし、もしあなたが王であれば、人々をあなたから解放しようと思ったのです。そこでアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は、彼女の処刑を命じられた。
その後、彼の最期の病の際、彼は言われた。
私は今なお、ハイバルで口にした一口の痛みを感じている。[1]

❖ 彼の指から水が湧き出たこと：

ジャービル（アッラーの御満悦あれ）から伝えられる。彼は言った。フダイビーヤの日、人々は喉の渇きに苦しんでいた。アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）の前には、小さな水袋（ラクワ）があった。彼はそれでウドゥー’を行われた後、人々は彼のもとに集まった。
アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。どうしたのか。彼らは言った。アッラーの使徒よ、私たちにはウドゥー’を行うための水も、飲むための水も、あなたの前にあるもの以外にはありません。

すると預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は、その水袋の中に手を入れられた。すると、彼の指の間から泉のように水が湧き出し始めた。ジャービルは言った。私たちはそれを飲み、またそれでウドゥー’を行った。私はジャービルに言った。その日、あなたがたは何人でしたか。彼は言った。たとえ十万人であったとしても、それで十分であったであろう。私たちは千五百人であった。[2]

（ラクワ）とは、水を飲むための小さな皮製の容器を指す。

[1] アブー・ダーウード（4512）によって伝承された。
[2] アル＝ブハーリー（4152）およびムスリム（1856）によって伝承された。

土曜日：サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール — ムスʿアブ・イブン・ʿウマイル（アッラーの御満悦あれ）

❖ 御名と誕生：

彼はムス‘アブ・イブン・‘ウマイル・イブン・ハーシム・イブン・‘アブド・マナーフ・アル＝クライシー・アル＝バドリーであり、クンヤ（敬称）はアブー・‘アブドゥッラーであった。

彼はヒジュラ前 42 年にマッカにおいて誕生し、同地で育てられた。

❖ 生涯と徳：

ムス‘アブ（アッラーの御満悦あれ）は裕福な両親のもとで育ち、贅沢と豊かさの中で生活していた。若年期には王子のように暮らし、甘やかされ、最も高価で美しい衣服をまとい、最高の香りで香られていた。マッカにおいて、若さ、美貌、富、優雅さの点で彼に匹敵する者はいなかった。

彼は預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の دعوت（招き）を知ったとき、現世の快楽は彼が真理を受け入れることを妨げなかった。彼は現世の享楽によって来世の幸福を求めることを阻まれることなく、すぐにアル＝アルカムの家において密かにイスラームに入信した。

彼の民が彼のイスラームを知ると、彼を拘束し、拷問した。サアド・イブン・マーリク（アッラーの御満悦あれ）は言った。私はかつて彼を見たが、その皮膚は蛇が脱皮するように剥がれ落ちていた。彼は歩くことすらできないほどの苦難の中にあり、私たちは弓を用いて彼を担ぎ、肩に乗せて運んだ。[1]

彼は他の教友たち（アッラーが彼らに満足されますように）と共にアビシニアへ移住するまで拘束され続けた。その後、第一回アカバの誓約の後、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）が彼を十二人の代表者とともに派遣し、マディーナの人々にクルアーンとイスラームの教えを教えさせたため、彼はマディーナへ移住した。こうして彼はイスラームにおける最初の使節（大使）となった。

その後、第二回アカバの誓約のためにマッカへ戻り、彼を通してサアド・イブン・ム‘アーズおよびウサイド・イブン・フダイルがイスラームに入信した。

ムス‘アブ（アッラーの御満悦あれ）はウフドの戦いに参加し、そこで大いなる勇気を示した。彼はムスリムの旗を担い、ウバイイ・イブン・ハラフの攻撃からアッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）を守り、自らを犠牲にした。戦いの最中、イブン・カミー‘ア・アル＝ライスィーが彼を打ち、その右手を切り落としたが、ムス‘アブは左手で旗を持ち続けた。さらに左手も切り落とされると、残った腕で旗を胸に抱え続け、ついに胸を打たれて殉教した（アッラーの御満悦あれ）。

預言者（アッラーの祝福と平安あれ）はウフドの後、彼の遺体のもとを通り、立って彼のために祈り、次の御言葉を朗誦された。

信仰者の中には、アッラーとの契約に真実であった者たちがいる。その中には誓いを果

たして殉教した者もいれば、なお待っている者もいる。しかし彼らは少しも変わることはなかった。[2]

ムスʻアブは財産をほとんど残さず、一枚の布しか遺さなかった。それで彼を包もうとすると、頭を覆えば足が露出し、足を覆えば頭が露出した。そこで預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は言われた。
彼の頭を覆い、その足にはイズヒル（草の一種）を置きなさい。[3]

ハッバーブ（アッラーの御満悦あれ）は言った。私たちはアッラーの御満悦のみを求めて、アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）と共に移住した。われらの報奨はアッラーのもとにある。我らの中には、この現世においてその報いを味わうことなく亡くなった者たちがいる。その中にムスʻアブ・イブン・ʻウマイルがいる。[4]

❖ 御逝去：

彼はヒジュラ後三年、ウフドの戦いにおいて、四十歳で殉教した。

---

[1]シヤル・アʻラーム・アン＝ヌバラー’（1/148）。
[2]［アル＝アハ۪ザ章：23］；ターリーフ・アル＝イスラーム 2/207。
[3]アル＝ブハーリー（4047）によって伝承された。
[4]アル＝ブハーリー（1286）およびムスリム（940）によって伝承された。

知識テスト — 第 52 週

モジュール	質問	選択肢	正解
タフスィール	あなたがたの内にあるものを表に出そうと隠そうと、アッラーはそれについてあなたがたを清算される…の節が啓示されたとき、預言者（アッラーの祝福と平安あれ）は教友たちに何と言うよう命じたか：	[a] われらはアッラーのみを信じる。[b] われらは聞き、従います。[c] われらはアッラーに依り頼む。	b
ハディース（ハディース）	アッラーの使徒（アッラーの祝福と平安あれ）がアッラーよ、私は現世と来世における安寧をあなたに求めます。アッラーよ、私は私の宗教、現世の事柄における赦しと安寧をあなたに求めます…という言葉を常に保っていたのはいつか：	[a] 朝と夕。[b] 各礼拝の後。[c] 旅に出るとき。	a
アキーダ（アキーダ）	教友たちの間に生じた相違についてのアフル・アッ＝スンナの方法論は何か：	[a] 感情に左右されず客観的に研究する。[b] 彼らの間で起こったことについて語るのを控える。[c] 問題を公に提示して認識を高める。	b
フィクフ（フィクフ）	Sa‘y のスンナの一つは何か：	[a] 七往復であること。[b] 往復の間の連続性。[c] Ṭawāf の直後に行うこと。	c
スィーラ（Sīrah）	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の指の間から湧き出た水を飲み、ウドゥー’を行った教友たちの人数は何人であったか：	[a] 九百人。[b] 千五百人。[c] 三千人。	b
サハーバ（Ṣaḥābah）	ムス‘アブ・イブン・‘ウマイル（アッラーの御満悦あれ）を殉教させたのは誰か：	[a] イブン・カミー‘ア・アル＝ライスィー。[b] ワフシー・イブン・ハルブ。[c] ‘イクリマ・イブン・アビー・ジャハル。	a

知識ある典拠一覧：

(1) Taysīr al-Karīm al-Mannān fī タフスィール Kalām al-Raḥmān — Shaykh ʿAbd al-Raḥmān ibn Nāṣir al-Saʿdī.
(2) Aysar al-Tafāsīr li-Kalām al-ʿAlī al-Kabīr — Shaykh Abū Bakr al-Jazāʾirī.
(3) Al-Mukhtaṣar fī al-タフスィール— タフスィール Center for Qur’ānic Studies.
(4) Bahjat Qulūb al-Abrār wa-Qurrat ʿUyūn al-Akhyār — Shaykh ʿAbd al-Raḥmān ibn Nāṣir al-Saʿdī.
(5) Website: al-Durar al-Saniyyah — Shaykh ʿAlawī al-Saqqāf.
(6) Website: Mawsūʿat al-Aḥādīth al-Nabawiyyah.
(7) Sharḥ al-アキーダ al-Wāsiṭiyyah — Shaykh Muḥammad ibn Ṣāliḥ al-ʿUthaymīn.
(8) Nūr al-Tawḥīd wa-Ẓulumāt al-Shirk fī Ḍawʾ al-Kitāb wa-l-Sunnah — Shaykh Dr. Saʿīd ibn ʿAlī ibn Wahf al-Qaḥṭānī.
(9) Kitāb al-Tawḥīd — Shaykh Dr. Ṣāliḥ ibn Fawzān al-Fawzān.
(10) Al-Mulakhkhaṣ al-フィクフ ī — Shaykh Dr. Ṣāliḥ ibn Fawzān al-Fawzān.
(11) Al-フィクフ al-Muyassar — Prof. Dr. ʿAbd Allāh ibn Muḥammad al-Ṭayyār, Prof. Dr. ʿAbd Allāh ibn Muḥammad al-Muṭlaq, Dr. Muḥammad ibn Ibrāhīm al-Mūsā.
(12) Mawsūʿat al-フィクフ al-Islāmī — Shaykh Muḥammad ibn Ibrāhīm ibn ʿAbd Allāh al-Tuwayjirī.
(13) Al-フィクフ al-Muyassar fī Ḍawʾ al-Kitāb wa-l-Sunnah — King Fahd Complex for the Printing of the Noble Qur’ān.
(14) Al-スィーラ al-Nabawiyyah — Abū Muḥammad ʿAbd al-Malik ibn Hishām al-Ḥimyarī.
(15) Al-Fuṣūl fī Sīrat al-Rasūl — Abū al-Fidāʾ Ismāʿīl ibn ʿUmar ibn Kathīr al-Dimashqī.
(16) Al-Durūs al-Yawmiyyah fī Sīrat Khayr al-Bariyyah — Aḥmad al-ʿUmrān.
(17) Al-Iṣābah fī Tamyīz al-サハーバ— al-Ḥāfiẓ Aḥmad ibn ʿAlī ibn Ḥajar al-ʿAsqalānī.
(18) Siyar Aʿlām al-Nubalāʾ — Shams al-Dīn Muḥammad ibn Aḥmad ibn ʿUthmān al-Dhahabī.
(19) Al-Bidāyah wa-l-Nihāyah — Abū al-Fidāʾ Ismāʿīl ibn ʿUmar ibn Kathīr al-Dimashqī.
(20) Ṣifat al-Ṣafwah — Abū al-Faraj ʿAbd al-Raḥmān ibn ʿAlī ibn al-Jawzī.
(21) Tarājim Sayyidāt Bayt al-Nubuwwah — Dr. ʿĀʾishah ʿAbd al-Raḥmān.

日刊モジュールの内容 — 第 1 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ファーティハ章（Sūrat al-Fātiḥah）	6
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	イスラームの柱の徳	8
火曜日	ʻアキーダ（アキーダ）モジュール	人間の信仰における逸脱の発生	9
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	Ṭahārah（浄化）	11
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の御名と御誕生	12
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	アブー・バクル・アッ＝スィッディーク（アッラーの御満悦あれ）	13

日刊モジュールの内容 — 第 2 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝イクラース章（Sūrat al-Ikhlāṣ）	17
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	信仰の義務と堅忍の徳	19
火曜日	ʻアキーダ（アキーダ）モジュール	近視的な人生観	20
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	水の規定	22
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	彼の授乳と養育（アッラーの祝福と平安あれ）	24
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ʻウマル・イブン・アル＝カッターブ（アッラーの御満悦あれ）	25

日刊モジュールの内容 — 第 3 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号

日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ファラク章（Sūrat al-Falaq）	29
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	舌と手を守る義務	31
火曜日	ʻアキーダ（アキーダ）モジュール	イスラームの特質	32
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	用便の作法	34
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	彼の青年期	36
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ʻウスマーン・イブン・ʻアッファーン（アッラーの御満悦あれ）	37

日刊モジュールの内容 — 第 4 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アン＝ナース章（Sūrat al-Nās）	41
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	偽信の特徴の一つ	42
火曜日	ʻアキーダ（アキーダ）モジュール	ʻアキーダ学の地位	44
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	用便時の禁止事項と嫌われる行為	45
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	彼の結婚	47
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ʻアリー・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）	48

日刊モジュールの内容 — 第 5 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝カーフィルーン章（Sūrat al-Kāfirūn）	52
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	アッラーへのタクワーを守ることの奨励	54
火曜日	ʻアキーダ（アキーダ）モジュール	正しいʻアキーダの果実	55

水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	フィトラのスンナ（自然な身だしなみ）	56
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	黒石の出来事	58
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	‘アブドゥッラフマーン・イブン・‘アウフ（アッラーの御満悦あれ）	59

日刊モジュールの内容 — 第 6 週

曜日	**モジュール**	**主題**	**ページ番号**
日曜日	タフスィールモジュール	アン＝ナスル章（Sūrat al-Naṣr）	63
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	正しい導きへ دعوت することの徳と誤導への دعوت の危険性	65
火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラー以外に崇拝に値するものはない）という証言	66
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	スィワーク（歯木）	67
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	洞窟での彼の崇拝	69
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	Ṭalḥah・イブン・‘ウバイドゥッラー（アッラーの御満悦あれ）	70

日刊モジュールの内容 — 第 7 週

曜日	**モジュール**	**主題**	**ページ番号**
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝マサド章（Sūrat al-Masad）	74
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	宗教の理解を得ることの徳	76
火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	ラー・イラーハ・イッラッラーの証言の条件	77
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	ウドゥー’（小浄）	79
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	啓示の始まり	81
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	アッ＝ズバイル・イブン・アル＝‘アッワーム（アッラーの御満悦あれ）	82

日刊モジュールの内容 — 第 8 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	クライシュ章（Sūrat Quraysh）	85
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	有益な預言者の助言	86
火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	ムハンマドはアッラーの使徒であるという証言（アッラーの祝福と平安あれ）	87
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	ウドゥー’の義務行為	88
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	秘密の دعوت	90
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	サアド・イブン・アビー・ワッカース（アッラーの御満悦あれ）	91

日刊モジュールの内容 — 第 9 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝マーウーン章（Sūrat al-Māʿūn）	95
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	ムスリムに害を与えることへの警告	97
火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	使徒を愛することの義務（アッラーの祝福と平安あれ）	98
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	ウドゥー’のスンナ	99
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	公の دعوت	101
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	サʿイード・イブン・ザイド（アッラーの御満悦あれ）	102

日刊モジュールの内容 — 第 10 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝カウサル章（Sūrat al-Kawthar）	106
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	強い信仰者の徳	108

火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	使徒に従うことの義務（アッラーの祝福と平安あれ）	109
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	ウドゥー’における一般的な誤り	111
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	クライシュによるムスリムへの迫害	112
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	アブー・‘ウバイダ・イブン・アル＝ジャッラーフ（アッラーの御満悦あれ）	114

日刊モジュールの内容 — 第 11 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝アスル章（Sūrat al-‘Aṣr）	118
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	五つの礼拝の徳と罪の償い	119
火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）に対する誇張と過度の称賛の禁止	120
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	ウドゥー’の無効事項	121
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	第一次アビシニア移住	123
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ハディージャ・ビント・フワイリド（アッラーの御満悦あれ）	124

日刊モジュールの内容 — 第 12 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝フマザ章（Sūrat al-Humazah）	128
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	死後も利益が続く行い	130
火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	宗教知識の源泉	131
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	靴下の上からの拭い	133
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	ハムザと‘ウマルのイスラーム受容（アッラーが彼らに満足されますように）	135

土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	サウダ・ビント・ザムʿア（アッラーの御満悦あれ）	137

日刊モジュールの内容 — 第 13 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝フィール章（Sūrat al-Fīl）	140
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	許しと謙虚さを勧めること	142
火曜日	ʿアキーダ（アキーダ）モジュール	イスラーム信条の基礎	143
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	グスル（大浄）	145
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	バヌー・ハーシムおよびバヌー・アル＝ムッタリブに対するクライシュのボイコット	147
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ʿアイシャ（アッラーの御満悦あれ）	148

日刊モジュールの内容 — 第 14 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝カーリア章（Sūrat al-Qāriʿah）	152
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	不正（抑圧）への警告	154
火曜日	ʿアキーダ（アキーダ）モジュール	六信の第一：アッラーへの信仰	155
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	グスルの方法と添え木の上からの拭い	156
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	第二次アビシニア移住	157
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ハフサ（アッラーの御満悦あれ）	158

日刊モジュールの内容 — 第 15 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝タカースル章（Sūrat al-Takāthur）	161
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	アッラーの恩恵への感謝	163
火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	アッラーの主権（ルブービーヤ）への信仰	164
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	タヤンムム	166
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	悲しみの年	168
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ザイナブ・ビント・フザイマ（アッラーの御満悦あれ）	169

日刊モジュールの内容 — 第 16 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝ザルザラ章（Sūrat al-Zalzalah）	172
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	アッラーがしもべからご覧になるもの	174
火曜日	‘アキーダ（アキーダ）モジュール	アッラーのウルーヒーヤ（神性）への信仰	175
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	五行の礼拝	177
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	預言者のターイフへの旅	178
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ウンム・サラマ（アッラーの御満悦あれ）	179

日刊モジュールの内容 — 第 17 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝アーディヤート章（Sūrat al-‘Ādiyāt）	183
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	両親を喜ばせる義務とその不興への警告	185

火曜日	ʻアキーダ（アキーダ）モジュール	アッラーの御名と属性への信仰	186
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	礼拝の時間	188
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	イスラーとミʻラージュ	190
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ザイナブ・ビント・ジャフシュ（アッラーの御満悦あれ）	191

日刊モジュールの内容 — 第 18 週

曜日	モジュール	主題	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝カドル章（Sūrat al-Qadr）	194
月曜日	ハディース（ハディース）モジュール	心が和解する特性	195
火曜日	ʻアキーダ（アキーダ）モジュール	天使への信仰	196
水曜日	フィクフ（フィクフ）モジュール	礼拝へ向かう際の作法	197
木曜日	スィーラ（Sīrah）モジュール	第一回アカバの誓約	199
土曜日	サハーバ（Ṣaḥābah）モジュール	ジュワイリヤ・ビント・アル＝ハーリス（アッラーの御満悦あれ）	201

第十九週

日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アル＝バイイナ（Sūrat al-Bayyina）（第 1 部）	204
月曜日	ハディース モジュール	月曜日と木曜日の断食の徳	206
火曜日	アキーダモジュール	啓典（神の書）への信仰	207
水曜日	フィクフ モジュール	礼拝（ṣalāh）の柱（arkān）	209
木曜日	スィーラモジュール	第二次アカバの誓約（al-ʿAqabah）	211
土曜日	サハーバモジュール	マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス（アッラーの御満悦あれ）	212

第二十週

日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アル＝バイイナ（Sūrat al-Bayyina）（第 2 部）	215
月曜日	ハディース モジュール	ウィトル（Witr）の徳	217
火曜日	アキーダモジュール	使徒たちへの信仰	218
水曜日	フィクフ モジュール	礼拝（ṣalāh）の義務行為（wājibāt）とスンナ（sunan）	220
木曜日	スィーラモジュール	預言者のヒジュラ（移住）の準備	222
土曜日	サハーバモジュール	サフィーヤ・ビント・フヤイイ（アッラーの御満悦あれ）	224

第二十一週

日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アッ＝ティーン（Sūrat al-Tīn）	228
月曜日	ハディース モジュール	ボイコットと敵意を抱くことへの警告	230
火曜日	アキーダモジュール	終末の日への信仰	231
水曜日	フィクフ モジュール	礼拝（ṣalāh）において忌避される行為（makrūhāt）	233
木曜日	スィーラモジュール	ヒジュラ（移住）	234

土曜日	サハーバモジュール	ウンム・ハビーバ（アッラーの御満悦あれ）	236

第二十二週

日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アル＝‘アラク（Sūrat al-‘Alaq）（第 1 部）	240
月曜日	ハディース モジュール	アッラーへの悔悟（タウバ tawbah）の義務	242
火曜日	アキーダモジュール	定命（al-Qadar）への信仰	243
水曜日	フィクフ モジュール	礼拝（ṣalāh）における一般的な誤り	245
木曜日	スィーラモジュール	マディーナにおける生活の性質	247
土曜日	サハーバモジュール	アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー（アッラーの御満悦あれ）	248

第二十三週

日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アル＝‘アラク（Sūrat al-‘Alaq）（第 2 部）	251
月曜日	ハディース モジュール	クルアーンを頻繁に朗誦することの徳	253
火曜日	アキーダモジュール	al-Qadar に関する諸問題	254
水曜日	フィクフ モジュール	スジュード・アッ＝サフウ（Sujūd al-Sahw：忘却による叩頭）	256
木曜日	スィーラモジュール	彼のマディーナ到着	258
土曜日	サハーバモジュール	アブー・ザッル・アル＝ギファーリー（アッラーの御満悦あれ）	259

第二十四週

日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アッ＝Ḍ フハー（Sūrat al-Ḍuḥā）	263
月曜日	ハディース モジュール	ドゥアー’（du‘ā’）が受け入れられる原因の一部	265
火曜日	アキーダモジュール	幽玄（al-ghayb）への信仰	266
水曜日	フィクフ モジュール	朗誦の叩頭および感謝の叩頭	267
木曜日	スィーラモジュール	大バドルの戦い（Badr al-Kubrā）	269

土曜日	サハーバモジュール	アブー・ムーサー・アル＝アシュʿアリー（アッラーの御満悦あれ）	271

第二十五週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝シャルフ章（Sūrat al-Sharḥ）	275
月曜日	ハディース モジュール	ムスリムに関係のない事柄への関与を避けること	277
火曜日	アキーダモジュール	シルクの概念とその分類	278
水曜日	フィクフ モジュール	集団礼拝	279
木曜日	スィーラモジュール	バヌー・カイヌカーʿの戦い	281
土曜日	サハーバモジュール	アブー・フライラ（アッラーの御満悦あれ）	282

第二十六週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝シャムス章（Sūrat al-Shams）	286
月曜日	ハディース モジュール	過度な発言、過剰な質問、そして財産の浪費が忌み嫌われること	288
火曜日	アキーダモジュール	小シルクの実例	289
水曜日	フィクフ モジュール	イマーマ（Imāmah）と集団礼拝に関する諸規定	290
木曜日	スィーラモジュール	ウフドの戦い	292
土曜日	サハーバモジュール	ウサーマ・イブン・ザイド（アッラーの御満悦あれ）	294

第二十七週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝ライル章（Sūrat al-Layl）	297
月曜日	ハディース モジュール	現世と来世の善をアッラーに願い求めること	299

火曜日	アキーダモジュール	シルクの無効性を示す根拠と証拠	300
水曜日	フィクフ モジュール	スナン・アル＝ラワーティブ	302
木曜日	スィーラモジュール	バヌー・アン＝ナディールの戦い	304
土曜日	サハーバモジュール	ウサイド・イブン・フダイル（アッラーの御満悦あれ）	306

第二十八週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝バラド章（Sūrat al-Balad）	310
月曜日	ハディース モジュール	イーマーン（Īmān）の徳と、その上に死ぬことに対する報奨	312
火曜日	アキーダモジュール	シルクの害悪とその影響	313
水曜日	フィクフ モジュール	ウィトルの礼拝（Ṣalāt al-Witr）	314
木曜日	スィーラモジュール	アル＝アフザーブの戦い	316
土曜日	サハーバモジュール	ビラール・イブン・ラバーハ（アッラーの御満悦あれ）	318

第二十九週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ファジュル章（第一部）	322
月曜日	ハディース モジュール	礼拝においてフシュー（Khushūʿ）を持つことへの奨励	324
火曜日	アキーダモジュール	シルクの原因と手段	325

水曜日	フィクフ モジュール	ドゥハーの礼拝（Ṣalāt al-Ḍuḥā）	326
木曜日	スィーラモジュール	バヌー・クライザの戦い	327
土曜日	サハーバモジュール	ジャʿファル・イブン・アビー・ターリブ（アッラーの御満悦あれ）	329

第三十週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ファジュル章（第二部）	333
月曜日	ハディース モジュール	困難のために死を願うことの禁止	335
火曜日	アキーダモジュール	クフル（不信仰）：その定義と種類	336
水曜日	フィクフ モジュール	禁止された時間帯（礼拝について）	338
木曜日	スィーラモジュール	バイʿアト・アル＝リドワーン	340
土曜日	サハーバモジュール	Ḥamzah・イブン・ʿアブドゥル＝ムッタリブ（アッラーの御満悦あれ）	342

第三十一週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ガーシヤ章（第一部）	346
月曜日	ハディース モジュール	アッラーを想起することの徳	348
火曜日	アキーダモジュール	ニファーク（偽信）：その定義と種類	349
水曜日	フィクフ モジュール	ジュムアの礼拝	351
木曜日	スィーラモジュール	アル＝フダイビーヤの和約	353
土曜日	サハーバモジュール	ハーリド・イブン・アル＝ワリード（アッラーの御満悦あれ）	355

第三十二週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ガーシヤ章（第二部）	359
月曜日	ハディース モジュール	親族関係を保つことの徳	361
火曜日	アキーダモジュール	宗教における革新（Bidʿah）	362
水曜日	フィクフ モジュール	ジュムアのスナン	364
木曜日	スィーラモジュール	ハイバルの戦い	366
土曜日	サハーバモジュール	スハイブ・アッ＝ルーミー（アッラーの御満悦あれ）	368

第三十三週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝アアラー章（アル＝アアラー章）	372
月曜日	ハディース モジュール	人は愛する者と共にある	374
火曜日	アキーダモジュール	革新に関するサラフの立場	375
水曜日	フィクフ モジュール	葬送の礼拝（Ṣalāt al-Janāzah）	376
木曜日	スィーラモジュール	ムウタの戦い	378
土曜日	サハーバモジュール	ジュライビーブ（アッラーの御満悦あれ）	380

第三十四週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝ターリク章（第一部）	383
月曜日	ハディース モジュール	怒りに対する警告	385
火曜日	アキーダモジュール	革新（Bidʿah）の実例	386
水曜日	フィクフ モジュール	礼拝後のアズカール	388
木曜日	スィーラモジュール	マッカ征服	390
土曜日	サハーバモジュール	ザイド・イブン・サービト（アッラーの御満悦あれ）	392

第三十五週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝ターリク章（第二部）	396
月曜日	ハディース モジュール	傲慢さの禁止	397
火曜日	アキーダモジュール	墓参りの分類	398
水曜日	フィクフ モジュール	ザカー	399
木曜日	スィーラモジュール	フナインの戦い	401
土曜日	サハーバモジュール	ハッバーブ・イブン・アル＝アラット（アッラーの御満悦あれ）	403

第三十六週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ブルージュ章	406
月曜日	ハディース モジュール	足ることと満足を勧めること	408
火曜日	アキーダモジュール	執り成し（al-Shafāʿah）	409
水曜日	フィクフ モジュール	紙幣に対するザカー	411
木曜日	スィーラモジュール	アッ＝ターイフの戦い	413

土曜日	サハーバモジュール	フバイブ・イブン・‘アディー（アッラーの御満悦あれ）	415

第三十七週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝インシカーク章（第一部）	418
月曜日	ハディース モジュール	人々に慈悲を示すことへの奨励	420
火曜日	アキーダモジュール	アッ＝タワッスル（アッラーへの手段を求めること）	421
水曜日	フィクフ モジュール	ザカーの受給対象者	423
木曜日	スィーラモジュール	タブークの戦い	425
土曜日	サハーバモジュール	ザイド・イブン・ハーリサ（アッラーの御満悦あれ）	427

第三十八週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝インシカーク章（第二部）	431
月曜日	ハディース モジュール	知識と施しにおける羨望	432
火曜日	アキーダモジュール	アッ＝タワッスル（第二部）	433
水曜日	フィクフ モジュール	負債に対するザカー	435
木曜日	スィーラモジュール	使節の年	436
土曜日	サハーバモジュール	ʻアブドゥッラー・イブン・マスウード（アッラーの御満悦あれ）	438

第三十九週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ムタッフィフィーン章（第一部）	442
月曜日	ハディース モジュール	詮索と相互の憎悪の禁止	444
火曜日	アキーダモジュール	助力の要請（イスティアーナ）と救援の要請（イスティガーサ）	445
水曜日	フィクフ モジュール	株式および不動産に対するザカー	447
木曜日	スィーラモジュール	別れの巡礼（Ḥajjat al-Wadāʻ）	448

土曜日	サハーバモジュール	サアド・イブン・ウバーダ（アッラーの御満悦あれ）	450

第四十週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝ムタッフィフィーン章（第二部）	453
月曜日	ハディース モジュール	植樹と耕作への奨励	455
火曜日	アキーダモジュール	祝福を求めること（Tabarruk）	456
水曜日	フィクフ モジュール	ザカーにおける一般的な誤り	457
木曜日	スィーラモジュール	預言者（アッラーの祝福と平安あれ）の逝去	459
土曜日	サハーバモジュール	サアド・イブン・ムアーズ（アッラーの御満悦あれ）	461

第四十一週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アル＝インフィタール章	465
月曜日	ハディース モジュール	善き品性の徳	467
火曜日	アキーダモジュール	禁止されたタバッルクの形態	468
水曜日	フィクフ モジュール	推奨される施し	470
木曜日	スィーラモジュール	彼の預言性のしるし：クルアーン	472
土曜日	サハーバモジュール	サルマーン・アル＝ファーリスィー（アッラーの御満悦あれ）	474

第四十二週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝タクウィール章（第一部）	478
月曜日	ハディース モジュール	施しを行い善い言葉を語ることへの奨励	480
火曜日	アキーダモジュール	許容される祝福の求め方	481
水曜日	フィクフ モジュール	施しの作法	482
木曜日	スィーラモジュール	彼の預言性の証拠：その養育と生涯	484
土曜日	サハーバモジュール	サラマ・イブン・アル＝アクワ‘（アッラーの御満悦あれ）	486

第四十三週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	アッ＝タクウィール章（第二部）	489
月曜日	ハディース モジュール	浪費や傲慢を伴わずに財産を用いること	491
火曜日	アキーダモジュール	アッラー以外にかけて誓うこと	492
水曜日	フィクフ モジュール	断食（al-Ṣiyām）	494
木曜日	スィーラモジュール	彼の預言性のしるし：応えられた祈願	496
土曜日	サハーバモジュール	‘ウバーダ・イブン・アッ＝サーミト（アッラーの御満悦あれ）	498

第四十四週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	‘アバサ章（第一部）	501
月曜日	ハディース モジュール	ムスリムが他のムスリムに対して有する権利	503
火曜日	アキーダモジュール	宗教を嘲ることの حكم	505
水曜日	フィクフ モジュール	断食が推奨される日々	506
木曜日	スィーラモジュール	彼の預言性のしるし：月の分裂	508
土曜日	サハーバモジュール	アル＝‘アッバース・イブン・‘アブドゥル＝ムッタリブ（アッラーの御満悦あれ）	509

第四十五週

曜日	モジュール	テーマ	頁番号
日曜日	タフスィールモジュール	‘アバサ章（第二部）	513
月曜日	ハディース モジュール	宗教は真摯な助言である	515
火曜日	アキーダモジュール	不可視の事柄の知識を主張すること	516
水曜日	フィクフ モジュール	断食を無効にするもの	517

木曜日	スィーラモジュール	彼の預言性のしるし：彼のドゥアーによるマディーナの祝福	519
土曜日	サハーバモジュール	‘アブドゥッラー・イブン・‘アッバース（アッラーの御満悦あれ）	520

第 46 週

日	モジュール	テーマ	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アン＝ナーズィアート（第 1 部）	524
月曜日	ハディース モジュール	タスビーḥ（tasbīḥ）とタフミード（taḥmīd）の徳	526
火曜日	アキーダモジュール	シフル（siḥr：魔術）	528
水曜日	フィクフ モジュール	ハッジ（Ḥajj）とウムラ	529
木曜日	スィーラモジュール	預言者性の徴：食物の増加	531
土曜日	サハーバモジュール	ʻアブドゥッラー・イブン・ʻウマル（アッラーの御満悦あれ）	533

第 47 週

日	モジュール	テーマ	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アン＝ナーズィアート（第 2 部）	537
月曜日	ハディース モジュール	しもべを守るアズカー（adhkār）の一部	539
火曜日	アキーダモジュール	ルクヤ（ruqyā）	540
水曜日	フィクフ モジュール	ハッジおよびウムラのためのミーカート（mawāqīt）	542
木曜日	スィーラモジュール	預言者性の徴：敵からのアッラーの保護	544
土曜日	サハーバモジュール	サフワーン・イブン・アル＝ムアッタル（アッラーの御満悦あれ）	546

第 48 週

日	モジュール	テーマ	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アン＝ナバ’（第 1 部）	549
月曜日	ハディース モジュール	アッラーの慈悲の広大さとその懲罰の厳しさ	551
火曜日	アキーダモジュール	護符（アル＝タマーイム al-tamāʾim）	552

水曜日	フィクフ モジュール	ハッジおよびウムラのためのイフラーム（iḥrām）	553
木曜日	スィーラモジュール	預言者性の徴：病者の治癒	555
土曜日	サハーバモジュール	‘アンマール・イブン・ヤースィル（アッラーの御満悦あれ）	557

第 49 週

日	モジュール	テーマ	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アン＝ナバ’（第 2 部）	561
月曜日	ハディース モジュール	アッラーについて善き思いを抱くことの命令	563
火曜日	アキーダモジュール	ムスリムの統治者への服従	564
水曜日	フィクフ モジュール	イフラーム（iḥrām）中の禁止事項	566
木曜日	スィーラモジュール	預言者性の徴：樹木の服従と石の挨拶	568
土曜日	サハーバモジュール	‘イムラーン・イブン・フサイン（アッラーの御満悦あれ）	570

第 50 週

日	モジュール	テーマ	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アン＝ナバ’（第 3 部）	573
月曜日	ハディース モジュール	災難が罪の償いとなること	575
火曜日	アキーダモジュール	アフル・アル＝バイトの徳と彼らに対して義務であること	576
水曜日	フィクフ モジュール	イフラーム違反に対する贖罪（フィドヤ fidya）	578
木曜日	スィーラモジュール	預言者性の徴：ナツメヤシの幹の呻きとラクダの訴え	579
土曜日	サハーバモジュール	‘アムル・イブン・アル＝ジャムーフ（アッラーの御満悦あれ）	580

第 51 週

日	モジュール	テーマ	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	アーヤト・アル＝クルスィー	583
月曜日	ハディース モジュール	視線を下げることの義務	585
火曜日	アキーダモジュール	教友たちの徳と彼らについて信ずべきこと	586

水曜日	フィクフ モジュール	ハッジおよびウムラの諸行為	588
木曜日	スィーラモジュール	預言者性の徴：樹木の服従と石が彼に挨拶したこと	590
土曜日	サハーバモジュール	ʻアムル・イブン・アル＝ʻアース（アッラーの御満悦あれ）	591

第 52 週

日	モジュール	テーマ	ページ番号
日曜日	タフスィールモジュール	スーラト・アル＝バカラの結びの諸節	595
月曜日	ハディース モジュール	有益ないくつかのドゥアー’の言及	597
火曜日	アキーダモジュール	教友たちの間の相違に関するアフル・アル＝スンナの信条	598
水曜日	フィクフ モジュール	Ṭawāf および Saʻy の諸規定	599
木曜日	スィーラモジュール	預言者性の証拠：食物が語ったことと指から水が湧き出たこと	601
土曜日	サハーバモジュール	ムスʻアブ・イブン・ʻウマイル（アッラーの御満悦あれ）	602